

授業科目名 **日本語表現** サブタイトル (音声言語と文章の表現) 授業番号 NA101

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

私たちは日常生活で言葉を介した様々なメディアに触れている。この授業では小グループでの活動を中心に、様々なメディアを分析・表現することで私的・公的な日本語表現の力を高めることを目的とする。

【到達目標】

音声言語表現及び文章表現についての基礎的な知識を獲得し、自分の考えを様々な形態に応じて表現できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：日本語表現の全体像
- 第2回：音声言語によるコミュニケーション—独話—
- 第3回：音声言語によるコミュニケーション—対話1—
- 第4回：音声言語によるコミュニケーション—対話2—
- 第5回：詩的表現1—俳句創作—
- 第6回：詩的表現2—俳句鑑賞—
- 第7回：小テスト1回目／詩的表現3—絵本—
- 第8回：視覚表現1—写真—
- 第9回：視覚表現2—写真鑑賞—
- 第10回：視覚表現3—CM分析—
- 第11回：視覚表現4—分析発表—
- 第12回：レポート1—論証—
- 第13回：レポート2—根拠づくり—
- 第14回：レポート3—レポート作成—
- 第15回：小テスト2回目

【授業計画 備考2】

補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	45%	授業内容の理解度を各回のミニ・レポートによって評価する。
	小テスト	55%	基礎的な知識の定着度を各回の小テストによって評価する。
	定期試験		
	その他		
自由記載	小テストの日程と範囲についてはそれぞれのテスト2週間前に告知する。 レポートはグループ活動の成果を中心に記述するため、グループ活動での積極性がない場合減点する。		

【受講の心得】

配付資料をファイルしておくこと。

学生相互の意見交流・評価活動を取り入れるため、積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。
 2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。
 3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。
 4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	大学生のためのレポート・論文術		小笠原喜康	講談社	本体740 円（税別）	9784062880213
	自由記載					

授業科目名	心理学		サブタイトル	(心と行動の科学)		授業番号	NA102
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科				単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。							
【到達目標】 クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：心理学とは 第2回：予知体験の不思議 第3回：記憶の不思議 第4回：影響されるころ 第5回：揺れうごくころ 第6回：検査で「自分」がわかるのか 第7回：占い・新宗教がもつ現代的意味 第8回：中間のまとめ 第9回：子どもから見た現実と想像の世界 第10回：「もしかして……」と揺れ動く心の発達 第11回：不思議現象に立ち向かう子どもたち 第12回：脳とところの不思議な世界 第13回：科学的に検証するとはどういうことか 第14回：心理学を学ぶ人のために 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	自由記載	なし					
参考書	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN

不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学 入門	菊地 聡・谷口高 士・宮元博章（編 著）	北大路書 房	1900円	978-4- 7628- 2032-8
不思議現象 子どもの心と教育	菊地 聡・木下孝司 （編著）	北大路書 房	1900円	978-4- 7628- 2089-2
自由記載				

授業科目名	倫理学		サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)	授業番号	NA103
担当教員名	小谷 彰吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 激変する時代、しかも、答えのない時代を偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、『四書五経』をはじめとした先哲の思想を知る事で一つの参考としたり、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を高めていこうとする視点を身につけたい。したがって、本科目は中国学園大学のディプロマポリシーに見られる人格陶冶に直接関わる科目であり、「自己を客観的にとらえる目」を育てることによって、教育理念に迫る。こうした多くの教養を身につけることが、「知識力・情操力・意志力」を深いものにし、哲学的な思考へとつながる「全人育成」の基盤となる。						
【到達目標】 東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。						
第1回：「倫理学」とは何か(1)～授業ガイダンスと概要～ 第2回：「倫理学」とは何か(2)～哲学的思考と倫理実践へ～ 第3回：倫理の思想～徳の教育論(1)～義と宇宙観・宗教観の歴史～ 第4回：倫理の思想～徳の教育論(2)～現代社会と正義～ 第5回：日本の倫理の源流～神道・仏教・儒教と日本の精神文化～ 第6回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(1)『論語』の歴史と仁義礼智信 第7回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(2)『論語』と『武士道』 第8回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(3)その他の古典から 第9回：現代社会の倫理(1)～『品性論』から～ 第10回：現代社会の倫理(2)～『character education』から～ 第11回：現代社会の倫理(3)～『七つの習慣』をもとに～ 第12回：学校教育と倫理学(1)～いじめ問題と倫理～ 第13回：学校教育と倫理学(2)～教科化された道徳と倫理～ 第14回：これからの時代をよりよく生きていくということ～倫理と人生(1)高齢化社会と医療倫理～ 第15回：これからの時代をよりよく生きていくということ～倫理と人生(2)働き方改革と企業倫理～						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	ディスカッション等授業における意欲・態度、また、予告した文献の事前読書等			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	講義内での学習の確認とそれをもとにした自らの考えを論ずる小論文形式			
その他						

	自由記載	現代生活学部人間栄養学科ディプロマポリシー〈思考・問題解決能力〉に見られる全人的な観点からの対象者を理解する力、〈態度〉に見られる職業人としての倫理を身につけ、人権・人格を尊重し行動すること。また、豊かな人間性と社会性を持ち合わせ、信頼される管理栄養士として社会に貢献する志と自己研鑽する意識を持つことに直接かかわるものが、授業への参加態度に他ならない。したがって、授業への取り組みの姿勢態度に評価の50%を充てる。			
<p>【受講の心得】 常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。</p>					
<p>【授業外学修】 授業内で紹介する著書については、可能な限りすべて読み、批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。 授業外で深めた基礎的教養によって、授業中でのディスカッションの質が向上する。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	テキストは使用しない。				
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	講義内で随時、紹介する。				
	自由記載				

授業科目名	歴史学		サブタイトル	(身の回りのテーマ史15選)	授業番号	NA204
担当教員名	野村 泰介					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>歴史学とは、過去に書かれた文献や公文書、手紙や日記といった史料から歴史的事実を解明したり、複数の記録を繋いで新たな「歴史」を解釈する学問である。</p> <p>この講義では、高等学校までに学んできた通史（古い時代から新しい時代へ網羅的に記された歴史）ではなく、1回ごとにテーマを持たせ、掘り下げていき、さまざまな史料から当時の時代背景を考察する。</p>						
【到達目標】						
<p>1. 歴史学とはどのようなものであるか理解し、歴史的方法での問題解決方法を身につける。</p> <p>2. 身の回りのあらゆる事象に歴史的背景があることを一次史料、二次史料を通して理解する。</p> <p>3. 授業で採りあげたテーマについて、根拠をもって自分なりの意見をもつ。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・解決力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：歴史のモノサシ 絶対年表と相対年表「懐かしさマイナス40年の法則」</p> <p>第2回：お金の歴史 和同開珎から仮想通貨まで</p> <p>第3回：戦後物価変動史 昔、ラーメン50円だったのは安いのか？</p> <p>第4回：太平洋戦争概論 なぜ日本はアメリカと戦争したのか</p> <p>第5回：女子学生の制服史 女学生スタイルブック</p> <p>第6回：モボ・モガの時代 昭和ヒトケタは本当に暗い時代だったの？</p> <p>第7回：ダブルプリズナーの記憶 戦争捕虜・ハンセン病</p> <p>第8回：古写真アーカイブズ なんでもない写真でも10年寝かせれば立派な史料！</p> <p>第9回：偉人の終活 意外と知らないエンディングノート</p> <p>第10回：華麗なる一族 藤原摂関家の系譜</p> <p>第11回：生き残るコトバ、死ぬコトバ 流行語からスタンダードになるには</p> <p>第12回：レトロとは何か 一周回っておしゃれになること</p> <p>第13回：「世代」を背負って 団塊、バブル、ロスジェネ、ゆとり・・・</p> <p>第14回：明治の世代論 80年周期説から2020年を占う</p> <p>第15回：恋愛の歴史学 日本人は恋愛が苦手？</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な受講態度、討議への参加、予習復習の状況によって評価する。			
	レポート	15%	主体的に歴史解釈ができるかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	70%	事実に基づき論理的に歴史的事項を説明できるかを評価する。			
	その他					
自由記載	毎時間、授業時間内に小レポートを書いて提出してもらう。 期末におこなう論述を中心とした筆記試験を行う。（持込み可）					

【受講の心得】

「歴史学」は高校までの歴史科目(日本史, 世界史)と違い, 単なる暗記科目ではありません。歴史学とは, 問題をたて, 事実を根拠として論理的に説明できる結論を出すことです。みなさんは講義での説明を鵜呑みにせず, 多くのテーマと事例を提示するので自分の頭で考え自分なりの歴史的解釈を出してください。

【授業外学修】

シラバス通りに授業を進めるので, テーマにあったキーワードについて週当たり4時間以上予習・復習すること。

使用テキスト	自由記載	ほぼ毎回レジュメを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **社会学**

サブタイトル (配偶者の選択と家族編成の社会的規則)

授業番号 NA105

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。

【到達目標】

現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化
- 第2回：家族社会学における「家族」の定義
- 第3回：家族を対象とした社会学的アプローチの方法
- 第4回：家族の種類と分類
- 第5回：青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察
- 第6回：青年期の異性交際の実態
- 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か
- 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム
- 第9回：配偶者選択のプロセス
- 第10回：結婚の社会的意味
- 第11回：結婚の社会的機能
- 第12回：離婚の社会的意味と機能
- 第13回：家族の新しい形
- 第14回：子どもの養育
- 第15回：老親の介護

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	
	レポート	70%	最終レポート
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	毎回のコメントペーパー
	自由記載		

【受講の心得】

自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。
しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。

【授業外学修】

1. テキストを事前に読んでくること。
文章を読むだけでなく、掲載されている図表の意味するところを考える。
具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。
2. 最終レポートの課題を探しながら受講すること。
テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。

両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組みむこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新しい家族社会学	森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4

自由記載

参考書

自由記載

講義の進行にあわせて適宜紹介する。

【その他】

特になし。

授業科目名 **日本国憲法**

サブタイトル (立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ)

授業番号 NA206

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

憲法の歴史、立憲主義に基づく憲法の内容と特徴、日本国憲法の誕生、個人の尊重と法の支配、人権、統治機構について講義する。

【到達目標】

日本国憲法は立憲主義に基づく憲法であり、個人の尊重を最も基本的な価値観としており、人権保障を何よりも重視している。また、人権保障を実現するために、法の支配を統治機構の基本原則とし、権力分立、民主主義、平和主義を採用していることを理解することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士科の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：立憲的意味の憲法とはどういうものか。
- 第2回：憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第3回：日本国憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第4回：日本国憲法の基本原理1、個人の尊重とはどういうものか。
- 第5回：日本国憲法の基本原理2、法の支配とはどういうものか。
- 第6回：日本国憲法では平和主義をどう定めているか。
- 第7回：人権の意味と特徴とは何か。
- 第8回：表現の自由とは何か。
- 第9回：信教の自由とは何か。
- 第10回：人身の自由、刑事手続における権利とは何か。
- 第11回：生存権とは何か。
- 第12回：プライバシーの権利とは何か。
- 第13回：権力分立の原理とは何か。
- 第14回：地方自治とは何か。
- 第15回：憲法改正について考えよう。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	伊藤真の日本一やさしい「憲法」の授業	伊藤真	KADOKAWA	1400円+ 税	978-4- 04- 601993-6
	自由記 載				
参考書	自由記 載	授業において随時紹介する。			

授業科目名	ボランティア基礎論	サブタイトル	地域社会とボランティア活動	授業番号	NA107
担当教員名	中田 周作 槇尾 真佐枝 柏原 寛 坂田 季穂 河野 勇人 多田 賢代 日野 正輝				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>本学では地域社会との連携あるいはキャリア教育の一環として各種ボランティア活動に対して積極的に取り組んでいるが、近年、各地に起こる大震災を契機にボランティア活動とは何かが改めて問われている。本講義ではボランティアの意義、歴史、精神と思想について十分な基礎知識を学ぶとともに、社会とボランティア活動との関係について考えてみる。また、各分野で活躍されている実践者の方からボランティア活動の現状と課題、その可能性についても学ぶ。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>1)ボランティアの意義や各分野の実情を知ること、地域社会で起きている問題を解決するために何が求められているかについて考えるための基礎的知識を習得する。</p> <p>2)ボランティアについて学ぶことにより、自分自身を見つめ直すと同時に相手の気持ちを思いやる大切さを身につけ、ボランティア活動を実践する。</p> <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

第1回：ボランティア活動の計画と実際(1)	※（担当担当：中田周作（現代生活学部） 担当：河野勇人（現代生活学部） 担当：日野正輝（国際教養学部） 担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第2回：日ようび子ども大学の紹介	※（担当担当：柏原 寛（子ども学部））
第3回：地域のお祭りにおけるボランティア活動	※（担当講義：岸本晃一（温羅化粧部会 部会長） 司会：日野正輝（国際教養学部））
第4回：子どもの自然体験活動	※（担当講義：中田周作（現代生活学部））
第5回：手話とボランティア	※（担当講義：坂田季穂（子ども学部））
第6回：しょうがい児・者とボランティア	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部））
第7回：学習支援とボランティア	※（担当担当：柏原 寛（子ども学部））
第8回：ボランティア活動の計画と実際(2)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第9回：ボランティア活動の計画と実際(3)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第10回：地域文庫活動とボランティア	※（担当講義：坂田季穂（子ども学部））
第11回：食育ボランティア	※（担当講義：多田賢代（現代生活学部））
第12回：こどもパートナーと遊びのタネ展	※（担当担当：中田周作（現代生活学部））
第13回：ボランティア活動の計画と実際(4)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第14回：ボランティア活動の計画と実際(5)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第15回：ボランティア活動の成果の発表	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	100%	各回のレポート
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載 毎回のレポートの提出先は、所属学科で異なるので、各自で確認すること。		

【受講の心得】
身近なボランティア活動に積極的に参加し、実践体験を通して学ぼう。

【授業外学修】

ニュースや新聞を通し，社会的事象に関心を持ち，情報収集すること。

また，身近なボランティア活動に積極的に参加すること。

両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ボランティアのすすめ	岡本栄一	ミネルヴァ書房		
	基礎から学ぶボランティアの理論と実際	巡清一・早瀬昇	中央法規社		
	自由記載				

授業科目名	科学の基礎		サブタイトル	高校までの生物・化学の総復習	授業番号	NB101
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<p>【授業の概要】 栄養士および管理栄養士は栄養士法によって定められた国家資格であり、その職務および職能についても栄養士法で定められている。4年間の学生生活を順調に送るためには、初年次からのカリキュラムに遅れることなく、内容を十分に理解し、自分の知識として身につけることにある。特に、高校までに学習した生物および化学の理解が重要となるが、必ずしも得意とする学生ばかりではないと推察される。そこで、本科目では、人間栄養学科の専門的なカリキュラムを十分に理解するために必要な高校までの生物および化学の基本的な知識および考え方について、演習を通して理解することで、自信を持って4年間のカリキュラムを学習できるようにする。</p>						
<p>【到達目標】 ・ 栄養に関する勉強の基礎が身につく。 ・ 論理的な考え方が身に付く。 ・ 一般教養（理系）の力がつく なお、本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：食品と栄養（テキスト p.6～p.10） 第2回：からだのしくみ；呼吸器・循環器・消化器（テキスト p.11～p.17） 第3回：からだのしくみ；泌尿器・チャレンジ問題（テキスト p.18～p.20） 第4回：からだのしくみ；応用問題（血液・感覚器）（配布資料） 第5回：からだのしくみ；応用問題（遺伝子・DNA）（配布資料） 第6回：食生活と健康，食生活と生活習慣病（テキスト p.21～p.27） 第7回：化学；元素・原子（テキスト p.30～p.41） 第8回：化学；イオン・周期律（テキスト p.42～p.52） 第9回：化学；原子間の結合（テキスト p.53～p.66） 第10回：化学；質量（テキスト p.72～p.78） 第11回：化学；濃度（テキスト p.79～p.84） 第12回：化学；濃度計算（配布資料） 第13回：化学；酸と塩基（テキスト p.89～p.100） 第14回：化学；酸と塩基（配布資料） 第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な学習態度			
	レポート					
	小テスト	20%	各科目の理解度			
	定期試験	50%	最終的な理解度			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確実なものとする。

【授業外学修】

間違えた箇所を中心に、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル	小野廣紀, 日比野久美子, 吉澤みな子	化学同人	1944	475981941X
	自由記載	必要に応じて補足資料を配布する。			
参考書	自由記載	高校で使用した生物および化学の教科書を適宜参考にする。			

授業科目名	基礎化学		サブタイトル	(化学の基礎と有機化学)		授業番号	NB102	
担当教員名	河塚 寛							
対象学部・学科				単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
化学の中で、特に食物・栄養系の学科に必要な分野を抜粋して、解説する。化学の基礎知識を確実に理解し、記憶する。特に有機化学の基本的な知識を習得する。								
【到達目標】								
管理栄養士を目指す学生が、専門科目を理解するために必要な化学の基礎知識を習得する。化学の予備知識なしに学習を始めても、基本的な知識が身につく。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：物質の構成要素（原子，分子，イオン）								
第2回：原子の構造								
第3回：原子内の電子配置								
第4回：原子間結合（イオン結合，共有結合）								
第5回：分子間結合（水素結合，ファンデルワールス力）								
第6回：原子量・分子量・式量，物質質量（モル）								
第7回：溶解のしくみ，溶液の濃度（質量パーセント濃度，モル濃度）								
第8回：酸と塩基，中和								
第9回：水素イオン濃度とpH								
第10回：酸化と還元								
第11回：有機化合物（構造式，官能基）								
第12回：脂肪族炭化水素								
第13回：アルコールとエーテル								
第14回：アルデヒドとケトン								
第15回：カルボン酸とエステル								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度							
	レポート							
	小テスト		10%	各回の基礎的知識の定着度を評価する。				
	定期試験		90%	2回に分けて試験を行い，化学の基礎的知識の定着度および理解度を評価する。				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
高校で化学を履修していない学生や化学に自信のない学生は履修する。								
【授業外学修】								
毎回の講義で強調した箇所を必ず復習する。講義の内容を理解し，記憶するために，4時間以上復習する。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	基礎からのやさしい化学			田島 眞	建帛社	2300円		

	自由記載				
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価
		食を中心とした化学	水島幸一	東京教学社	
		これからはじめる化学	安藤達彦	三共出版	
		新版 大学生の化学	大野淳吉	三共出版	
	自由記載				

授業科目名	基礎生物学		サブタイトル	(生物学はじめの一步)		授業番号	NB103
担当教員名	真鍋 芳江						
対象学部・学科			単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】 ヒトを中心に細胞から個体に至る生体の階層性を学び、「生物とは何か」について理解を深める。							
【到達目標】 生体の基本的な仕組みを理解することで、生化学、生理学、栄養学、解剖学等の専門分野を学習する上で欠くことのできない基礎的な知識を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回 生き物としてのヒト 第2～4回 ヒトの体の構造 第5・6回 生命を維持するしくみ 第7～9回 体を構成する器官 第10～12回 生命を維持するしくみ 第13・14回 代謝のしくみ 第15回 恒常性を維持するしくみ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	積極的に質問する等、意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート						
	小テスト		10%	授業の理解度を評価する。			
	定期試験		80%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】 興味と疑問点をもって積極的に取り組むこと。継続的に復習をし、「生物学は面白い!」と思えるよう自ら学習の工夫をすること。							
【授業外学修】 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、ノート整理を行い、小テストの見直しを行う。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	生物学－ヒトと環境の生命科学－		川崎祥二・古庄律 編著	建帛社	2700	978-4-7679-4634-4	
	改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録		鈴木孝仁 監修	数研出版	920	978-4-410-28165-5	
	改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録		数研出版編集部 編	数研出版	870	978-4-410-27385-8	

	自由記載	「生物学－ヒトと環境の生命科学」川崎祥二・古庄 律 編著, 建帛社 視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修, 数研出版
参考書	自由記載	「わかる生物学 知っておきたいヒトのからだの基礎知識」, 小野廣紀・内藤通孝 著, 化学同人「ヒューマン バイオロジー」, 坂井健雄・岡田隆夫 著, 医学書院

授業科目名	化学		サブタイトル	(有機化学と食品・栄養)		授業番号	NB104	
担当教員名	河塚 寛							
対象学部・学科				単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
化学の中で、食物・栄養系の学科で必要な分野を抜粋して、解説する。特に食物・栄養分野に関連する有機化合物の構造、性質について理解し、記憶する。								
【到達目標】								
管理栄養士を目指す学生が、専門科目を理解するために必要な化学の基礎知識を習得する。化学の予備知識なしに学習を始めても、基本的な知識が身につく。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：水と水和 第2回：溶液の性質（蒸気圧降下，浸透圧） 第3回：炭水化物（化学構造と性質） 第4回：炭水化物（単糖類） 第5回：炭水化物（少糖類） 第6回：炭水化物（多糖類） 第7回：脂質（脂質の分類，脂肪酸） 第8回：脂質（油脂の化学的性質） 第9回：脂質（脂質の劣化・酸敗） 第10回：脂質（乳化とエマルション） 第11回：アミノ酸とタンパク質（アミノ酸の構造と分類） 第12回：アミノ酸とタンパク質（タンパク質の構造） 第13回：アミノ酸とタンパク質（タンパク質の性質） 第14回：アミノ酸とタンパク質（タンパク質の変性） 第15回：核酸								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度							
	レポート							
	小テスト		10%	各回の基礎的知識の定着度を評価する。				
	定期試験		90%	2回に分けて試験を行い，化学の基礎的知識の定着度および理解度を評価する。				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
高校で化学を履修していない学生や化学に自信のない学生は履修すること。								
【授業外学修】								
毎回の講義で強調した箇所を必ず復習する。講義の内容を理解し，記憶するために，4時間以上復習する。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	基礎からのやさしい化学			田島 眞	建帛社	2300円		

	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	食を中心とした化学	水島幸一	東京教学社		
	これからはじめる化学	安藤達彦	三共出版		
	新版 大学生の化学	大野淳吉	三共出版		
	自由記載				

授業科目名	生物学	サブタイトル	(ヒトの成り立ちと生命科学)	授業番号	NB105
担当教員名	小林 英紀				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 <p>私たちが毎日摂取する栄養には、3つの異なる役割がある。その3つとは、体を作るために必要な材料であり、エネルギーの元であり、体が円滑に動くための潤滑油である。体をつくる材料は、化学物質として蛋白質、脂質、糖などである。また、エネルギー源となる化学物質は糖と脂質が、主である。潤滑油となる化学物質は、ビタミンや、ミネラルである。蛋白質、脂質、糖、ビタミンはどのような化学構造（分子構造や元素）をもつ物質であり、ヒトの体の中で、どのように体を作る材料や、エネルギー源になるのか、について基礎理解することが、この講義の主な目的とする。</p>					
【到達目標】 <p>基礎生物学では、体の仕組みの中で器官と呼ばれるものの役割やお互いの関係を知ることを目的とするのに対し、この生物学では、体を構成するもっとも小さい生命単位である細胞がどのようにつくられるのか、栄養は細胞の中でどのように役立つのか、分子のレベルで理解することを目的とする。このため、蛋白質や糖、脂質核酸を有機化学の言葉で理解するので、有機化学の基礎も学ぶ。基礎生物学とあわせてヒトの生きる仕組みが理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：生命とはなにか ヒトの体の構成は、大きな単位として、器官組織があり、最も小さい単位は細胞である。</p> <p>第2回：細胞とはなにか 細胞の形や働きについて。また、細胞を構成する細胞内小器官の役割について。</p> <p>第3回：細胞内小器官の役割1</p> <p>第4回：細胞内小器官の役割2</p> <p>第5回：代謝の仕組み1</p> <p>第6回：代謝の仕組み2</p> <p>第7回：酵素とは1</p> <p>第8回：酵素とは2</p> <p>第9回：体をつくる糖質の化学的特徴と細胞内での存在部位は？</p> <p>第10回：糖質はヒトの活動のエネルギー源となる。 エネルギーとはなにか？ATPとはなにか？</p> <p>第11回：デンプンを口に取り入れてからATPができるまでの仕組み。</p> <p>第12回：呼吸をして酸素を取り入れるのは何のためか？</p> <p>第13回：ミトコンドリアの働きについて。</p> <p>第14回：遺伝の仕組み、(DNA複製, 転写)</p> <p>第15回：たんぱく質合成の仕組み、(翻訳)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な授業態度と予復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	20%	理解度の確認のため、毎回の授業時に行う。		
	定期試験	50%	授業（15回）終了時に行い、授業全体の理解度を評価する。		
その他					

自由記載 授業への取り組み姿勢，小（確認）テストと定期試験の成績を基準に評価。

【受講の心得】

この講義は選択科目であるが，栄養学，生化学などの専門必須科目の基礎となるもので，しっかり学習しておくことが大切。化学と生物学の両方を理解するための，基礎となる。

【授業外学修】

教科書，参考書を参考にして講義した内容について復習し，週あたり4時間以上の学修をとおして，講義内容をよく理解しておくこと（授業内容の理解度を確認するために，毎回授業時に確認テストをおこなう）。

使用テキスト	自由記載	『「生物学」ヒトの環境と生命科学』，川崎祥二 他，建帛社 視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 数研出版編集部 編，数研出版
参考書	自由記載	Essential細胞生物学 中村佳子，松原謙一訳，南江堂

【その他】

高校で生物や化学をよく学んでいない学生は，必須な科目です。

授業科目名 **生活と情報処理**

サブタイトル (IT機器利用の基礎)

授業番号 NC101

担当教員名 石原 信也

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

情報のもつさまざまな側面のうち、これを文化と言う角度から説明し、情報と人間生活のかかわりを明らかにする。

情報とは、情報処理とはから始め、私たちの生活に密着したシステムについて仕組みや機能を講義する。

【到達目標】

生活に密着したシステムについて仕組みや機能を理解し、説明できるようになることを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ICTの現状と先端技術の紹介と解説

第2回：情報処理の歴史

第3回：ハードウェア（入出力機器、及びその補助装置）

第4回：ハードウェア（演算制御、記憶装置、及びその補助装置）

第5回：ソフトウェア（数値や文字に関するコンピュータの内部表現）

第6回：ソフトウェア（画像や音響・動画などに関するデータ形式）

第7回：ソフトウェア（プログラム）

第8回：フリーウェアからアプリケーション内課金の話

第9回：知的財産権と盗作、剽窃

第10回：個人情報と電子マネー

第11回：セキュリティマネジメントと信頼性

第12回：クラウドサービスとセンサー技術

第13回：ホームエレクトロニクス・カーエレクトロニクス

第14回：統計とビッグデータ・人工知能

第15回：耐久性の話

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

新聞・TV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持って接してほしい。

【授業外学修】

1.予習として、参考書やWebから授業内容にかかわる部分を調査し、疑問点を明らかにする。

2.復習として、課題のレポートを書く

3.発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 テキストは使用せず、適宜資料を配布する。

参考書

自由記載

新聞・TV等の報道は重要な参考情報である。

授業科目名 **情報処理演習I** サブタイトル 授業番号 NC102

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となった情報技術に関する実用的な能力の獲得を目指す。本講義では、社会生活の中で最も利用するであろう代表的なアプリケーションであるワードプロセッサツールであるMicrosoft Wordの利用方法を修得する。

【到達目標】

ワードプロセッサツールである「Microsoft Word 2016」による基本的な情報処理のスキルを身に付け、Word固有の機能を使用した数式や図表を含む文章作成や小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：Wordについて
- 第2回：基本的な文章を作成（1）
- 第3回：基本的な文章を作成（2）ビジネス文章の書き方
- 第4回：基本的なレポートを作成
- 第5回：図や表を挿入，文章の印刷
- 第6回：グラフィック機能を使って表現力のアップ（1）
- 第7回：グラフィック機能を使って表現力のアップ（2）
- 第8回：段組みを使ってレイアウトを整える
- 第9回：表を使ってデータを見やすくする
- 第10回：ExcelデータをWordで利用する
- 第11回：フォームを使って入力効率をあげる
- 第12回：宛名を差し込んで印刷
- 第13回：長文レポートの編集と文書の校閲
- 第14回：Wordの特殊機能・オフィスソフトの特殊機能
- 第15回：総合問題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	50%	習熟達成度を評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

演習科目のため、遅刻・欠席は厳禁である。また、課題を提出すること。レポート課題についても全て提出すること。

やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学習しておくこと。

【授業外学修】

- 1.授業時間内に十分理解できなかった演習については、各自で再度行い理解すること。
 - 2.授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学習として取り組むこと。
 - 3.発展学習として総合スキルアップ問題などの課題を演習中に学習した技術を使って作成する。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかるWord2016演習問題集		FOM出版	1,000円 (税別)	

自由記載 *ただし、開講時に改訂版等が出版された場合には、変更となる場合もある。

参考書

自由記載

授業科目名	情報処理演習Ⅱ		サブタイトル	(表計算)		授業番号	NC103
担当教員名	赤木 竜也						
対象学部・学科				単位数	1単位		
開講年次	1年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
【授業の概要】 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、情報リテラシーの中でも特に学生が苦手である表計算ソフトの基本的かつ応用的な操作方法について学修する。							
【到達目標】 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：表計算ソフトの基礎知識(表の作成から印刷・保存) 第3回：表計算ソフトの基礎知識(グラフの作成) 第4回：ワークシートの活用(1)(表の編集機能および書式設定) 第5回：ワークシートの活用(2)(罫線と表のスタイル) 第6回：ワークシートの活用(3)(絶対参照と相対参照、属性および表示形式) 第7回：ワークシートの活用(4)(基本的な関数) 第8回：ワークシートの活用(5)(基本的な関数および条件付き書式) 第9回：グラフ(1)(基本的なグラフ) 第10回：グラフ(2)(基本的なグラフ) 第11回：グラフ(3)(応用的なグラフ) 第12回：データベース 第13回：Excelの応用(1)(応用的な関数) 第14回：Excelの応用(2)(データベース関数) 第15回：総合演習・まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		70%	習熟達成度を評価する			
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する			
自由記載							
【受講の心得】 コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。							
【授業外学修】 授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として90分以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN

30時間でマスターExcel2016 (Windows10対応)

実教出版編修部

実教出版 1, 026円

978-4-407-34021-1

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	基礎統計演習		サブタイトル		授業番号	NC204
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>統計的な考え方、統計手法は、さまざまな領域で必要となる。栄養の領域においても、統計分析を活用できる知識やスキルは求められている。</p> <p>本授業では、調査、実験、観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について解説する。</p> <p>また実際のデータを活用して、パソコン（Excel/SPSS）を用いたデータの統計処理も行う。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>1) 量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。</p> <p>2) 基礎統計量、統計的検定・推定、多変量解析の考え方を理解する。</p> <p>3) パソコンを用いて結果を算出し、その結果をみて考察を行う。</p> <p>以上を到達目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：データ解析における4つの尺度</p> <p>第2回：基本統計量（平均値、中央値、最頻値）</p> <p>第3回：度数分布表とヒストグラム</p> <p>第4回：さまざまな分布</p> <p>第5回：2つの変数の関係（単相関）</p> <p>第6回：統計的仮説検定の考え方</p> <p>第7回：度数の検定</p> <p>第8回：平均値の検定</p> <p>第9回：標本抽出</p> <p>第10回：重回帰分析の考え方</p> <p>第11回：重回帰分析の実践</p> <p>第12回：主成分分析の考え方</p> <p>第13回：因子分析の考え方</p> <p>第14回：主成分分析、因子分析の実践</p> <p>第15回：その他、多変量データの分析手法と多変量統計的グラフ手法</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%	レポート課題を課す。			
	小テスト					
	定期試験	50%	習熟達成度を評価する。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

まずは、データを解析して、何らかの結論を導くという、実証的な方法論に興味を持っていただきたい。
 そして、実際に手法を適用して、結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている。
 数学的な知識は必須ではないが、数値や数式を用いることがあるため、数学に興味を持ってもらいたい。

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。
 - 3) 発展として、自ら課題を見つけて、分析の適用を行い、考察を行う。
- 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	マンガでわかるやさしい統計学	小林克彦	池田書店	1400	978-4-262-15560-9
	自由記載	板書を中心とするが、必要に応じてプリントを配布する。			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析	安藤明之	日本評論社	2,500円 +税	
	EXCELビジネス統計分析	末吉正成, 末吉美喜	翔泳社	2380	978-4-7981-48898-4
	自由記載	統計学図鑑 栗原伸一・丸山敦史 オーム社			

授業科目名 **英語I**

サブタイトル (基礎英語)

授業番号 ND101

担当教員名 池田 純子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

基礎的な英語の構造を説明し、その知識を元に日常生活において実践的な英語力（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の定着を図る。

【到達目標】

基礎英語の知識、及び日常生活での総合的な英語コミュニケーション力を身につけることができる。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：挨拶表現・日常生活
- 第2回：過去の出来事・時間表現
- 第3回：物を形容する・話のきっかけを作る
- 第4回：英語の基本構造・いろいろな文・食べ物
- 第5回：疑問文・好きなことと嫌いなこと・料理
- 第6回：自己紹介・買い物での会話
- 第7回：リーディング基礎
- 第8回：将来のこと・人を誘う
- 第9回：今までの経験・レストランでの会話
- 第10回：言いたいことを英語で表現する
- 第11回：発表の準備
- 第12回：リスニング基礎
- 第13回：許可を求める・頼み事をする
- 第14回：発表
- 第15回：英語で絵本・音楽を楽しむ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，ペア・グループワークへの参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	15%	課題やレポートは評価とコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。
	定期試験	40%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
	その他	15%	発表原稿5%，スピーチ10%で評価する。詳しい内容や評価の方法は事前に指示する。

自由記載 課題は授業開始前までに提出すること。

【受講の心得】

- ・予習と復習は、講義内容が定着するように丁寧に行うこと。
- ・授業は参加型で行う。積極的に発言し、疑問点がある場合はその日のうちに質問し解決するよう心掛けること。
- ・英和辞典（又は電子辞書）を毎回授業に持参すること。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

【授業外学修】

1. 講義の内容をより深く理解するために、予習を必ず行うこと。（具体的な予習内容は講義中に毎回指示する）
2. 課題をこなすだけでなく、習った内容の復習をしっかりとし、一時的な理解に終わるのではなく知識として定着するよう努力すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名 **英語II**

サブタイトル (英文読解)

授業番号 ND102

担当教員名 藤代 昇丈 松浦 加寿子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

本演習では、英語を通して新しい知識を学ぶと同時に既習の語彙や文法などを再認識しながら、食育と栄養について書かれた英文を読む。

【到達目標】

大学生のための国際教養に関する英文読解力を向上させることによって、英語の基礎学力を身に付けることを目標とする。また、題材に対して興味・関心や問題意識を持つことにより、幅広い視野で物事を把握し考える基礎的能力を身に付けることも同時に目指す。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Unit 1 The ABCMVs of Eating

第2回：Unit 2 Determining Whether Your Diet is Adequate

第3回：Unit 3 Keeping Caloric Intake in Check

第4回：Unit 4 Spicing up Your Life with Variety

第5回：Unit 5 What's a Body Made of?

第6回：Unit 6 Knowing Your Nutrients

第7回：Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats

第8回：Unit 8 Aiding in Body Function: Vitamins and Minerals

第9回：Unit 9 Water: The Most Important Nutrient

第10回：Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No

第11回：Unit 11 Digestion: One Step at a Time

第12回：Unit 12 Eating Disorders

第13回：Unit 13 Food Allergies

第14回：Unit 14 Controlling Food Contamination

第15回：Unit 15 The Father of All Vitamins: Casimir Funk / 科目授業全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめられているかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記載	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
2. 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。
3. 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	やさしい栄養英語	田中芳文(編著), 中 里菜穂子・松浦加寿 子(著)	講談社	1,800円 +税	

自由記載

参考書

自由記載

英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

授業科目名	英語Ⅲ		サブタイトル (食の英語)	授業番号	ND203
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 映画を用いてリスニング力を養うとともに、その中で扱われた「食」をテーマにした英文を読みながら、既習の文法事項を確認し、食に関する英語の語彙、表現について説明する。					
【到達目標】 読解を通して、異文化理解を深めるとともに、食に関する語彙、表現を学び、総合的な英語運用能力を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
<p>第1回：Chapter 1 Kramer vs. Kramer 1 文法：時制</p> <p>第2回：Chapter 1 Kramer vs. Kramer 2 Recipe for French Toast</p> <p>第3回：Chapter 2 The Devil Wears Prada 1 文法：比較</p> <p>第4回：Chapter 2 The Devil Wears Prada 2 Major League Baseball Teams and their Home Cities</p> <p>第5回：Chapter 3 Super Size Me 1 文法：動名詞</p> <p>第6回：Chapter 3 Super Size Me 2 Count the Calories!</p> <p>第7回：Chapter 4 Kamome Shokudo 1 文法：分詞</p> <p>第8回：Chapter 4 Kamome Shokudo 2 北欧の国々</p> <p>第9回：Chapter 5 The Road Home 1 文法：代名詞</p> <p>第10回：Chapter 5 The Road Home 2 Chinese Cuisine in English</p> <p>第11回：Chapter 6 Notting Hill 1 文法：仮定法</p> <p>第12回：Chapter 6 Notting Hill 2 Recipe for Chocolate Brownies</p> <p>第13回：Chapter 7 No Reservations 1 文法：接続詞</p> <p>第14回：Chapter 7 No Reservations 2 ハーブの効用</p> <p>第15回：Chapter 8 Dear Frankie まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。		

レポート	15%	課題について、練習問題の訳と英作文ができていること。課題は、コメントを記入して返却する。
小テスト	15%	既習事項について語彙や表現、文法項目などの理解度を評価する。
定期試験	50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

- ・ 予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。
- ・ 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

【授業外学修】

1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また、練習問題も解いておくこと。
 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	映画で味わう食文化	Fiona Wall Minami, Maho Matsui, Fujiko Motoyama	朝日出版 社	1,700円 +税	978-4- 255- 15559-3
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	韓国語		サブタイトル	韓国語の基礎を学ぶ	授業番号	ND204
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<p>【授業の概要】</p> <p>韓流ブーム以降、韓国の冬季オリンピック、文化交流などを通じて韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は文法が類似している。特に、言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の言葉や文法を習得することができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 ・簡単な韓国語が書けることができる。 <p>なお、この科目はディプロマポリシーの学士力のうち、〈知識、理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：韓国語とは 第2回：文字と発音・母音 第3回：文字と発音・子音 第4回：激音と農音、パッチム 第5回：助詞、動詞 第6回：基本文型過去形の作り方 第7回：感嘆文、疑問文 第8回：基本文型指示代名詞、助数詞 第9回：用語の丁寧形、尊敬形 第10回：会話練習、表現 第11回：挨拶、訪問の言葉 第12回：韓国の大学 第13回：韓国の食生活と食べ物 第14回：韓国の文化と音楽 第15回：韓国の若者と社会生活</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に行っていたかを評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。			
	定期試験	40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- ・ 韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。
- ・ 韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・ 予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・ 復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。
- ・ 韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	1600円	978-4-8163-5558-5

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	フランス語		サブタイトル	(フランスに行こう)	授業番号	ND205
担当教員名	盛政 文子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
フランス語のわずかなセンテンスを使って、日常会話に触れる授業である。又、シャンソンを聴きながら、フランス語の持つリズムと雰囲気を楽しみ、効果的に学習する。更に、魅力あふれる映像を通して、フランス文化の理解を広げる。						
【到達目標】						
日常生活で使用する会話を身に付けること。フランスのファッションや料理、世界遺産に興味を持つことで見識を広げること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：挨拶の表現 りで』		映像：シテ島		シャンソン：『月明かりで』		
第2回：パリに行こう！ ンの橋の上で』		映像：セーヌ川左岸		シャンソン：『アヴィニヨンの橋の上で』		
第3回：フランスの学生生活		映像：ナポレオンの墓				
第4回：自己紹介をする リゼ』		映像：シャンゼリゼ大通り		シャンソン：『オーシャンゼリゼ』		
第5回：カフェでお茶を		映像：マカロン				
第6回：フランス人の生活観		映像：パリでの生活（1）				
第7回：ショッピングを楽しむ さん』		映像：パリでの生活（2）		シャンソン：『パリのお嬢さん』		
第8回：家族について話す		映像：ルーヴル美術館				
第9回：レストランでディナーを		映像：モンマルトル				
第10回：フランス人の祝日 夜』		映像：パリのクリスマス（1）		シャンソン：『きよしこの夜』		
第11回：週末の予定について		映像：パリのクリスマス（2）				
第12回：パリ郊外への旅		映像：ロワール河古城巡り				
第13回：フランスの世界遺産		映像：ノルマンディー地方				
第14回：モン・サン・ミシエルの成り立ち		映像：モン・サン・ミシエル（1）				
第15回：モン・サン・ミシエルを訪れる		映像：モン・サン・ミシエル（2）				
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの 姿勢／態度	30%	積極的な受講態度、ワークシートを評価する。			
	レポート	20%	授業で観たビデオの感想を評価する。			
	小テスト	0%				
	定期試験	50%	〈レポート試験〉(30%)興味を持ったフランスの文化について、日本語で600字程度のレポートを書く。〈口頭試問〉(20%)簡単なフランス語で自己紹介をする。筆記試験はない。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

フランスに行くために必要な知識と会話表現を身につけてもらいたい。そのために日頃から身近に使われているフランス語・フランスに関するニュース・旅番組にも興味を持ち、フランスに行きたいと思ってほしい。

【授業外学修】

- 1.授業時使用したワークシートを、ノートに貼ること。
 - 2.授業時観た映像についての200字程度の感想を日本語で書き、次回に提出すること。
- 以上の内容を週当たり2時間以上学修すること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト トライ！ フランス語	藤田知子 他著	駿河台出版社	税別1800円	978-4-411-00825-1

自由記載 毎授業にワークシートを配布。

参考書

自由記載

【その他】

授業時使用したワークシートを貼るB5のノートを用意する。

授業科目名 **体育講義**

サブタイトル (日常生活と健康)

授業番号 NE101

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化等が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。

【到達目標】

人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「体力」について考える
- 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える
- 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える
- 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える
- 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える
- 第6回：「睡眠」とスポーツ
- 第7回：身体形成と機能の発達
- 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ
- 第9回：
- 第10回：
- 第11回：
- 第12回：
- 第13回：
- 第14回：
- 第15回：

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	60%	理解度を評価する
	その他 自由記載		

【受講の心得】

・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。

【授業外学修】

- ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。
- ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)
参考書	自由記載	

授業科目名 **体育実技**

サブタイトル (スポーツに親しもう)

授業番号 NE102

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実技

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開）
- 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開）
- 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）
- 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開）
- 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開）
- 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）
- 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第15回：卓球III（ゲームの展開）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している
	レポート		
	小テスト	40%	各競技ごとに技能テストを実施する
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。

全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。

・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)
参考書	自由記載	

授業科目名 **ファーストイヤーセミナー** サブタイトル (大学生活に慣れよう!) 授業番号 NF101

担当教員名 河野 勇人 森脇 晃義 多田 賢代 小林 英紀 波多江 崇 川野 光興 赤木 收二
真鍋 芳江 岡崎 恵子 辻本 美由喜 小野 尚美 北島 葉子 古川 愛子 木野山 真紀
大宮 めぐみ 山崎 真未 森 香子

対象学部・学科 単位数 1単位
開講年次 1年 開講期 前期
必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

ファーストイヤーセミナーでは、大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用方法など、大学生活を充実したものとしていくための基礎づくりを行う。自らの属している大学の理念から、学びの姿勢、図書館の活用、将来への展望も含めて、アクティブ・ラーニングを行う。

【到達目標】

- ・大学生としての学問の手法を修得する。
- ・社会常識を修得する。
- ・行動規範等を修得する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション、理解度調査の自己点検	※ (担当 (河野・波多江・木野山・安原・森))
第2回：図書館オリエンテーション	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第3回：確認テスト(1)	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第4回：人権講座	※ (担当 (外部講師・波多江・木野山・安原・森))
第5回：交通安全講座	※ (担当 (外部講師・波多江・木野山・安原・森))
第6回：基礎演習(1)：知へのステップ	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第7回：基礎演習(2)：計算力、読解力と表現力	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第8回：金融講座(1)	※ (担当 (外部講師・波多江・木野山・安原・森))
第9回：基礎演習(3)：計算力、読解力と表現力	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第10回：金融講座(2)	※ (担当 (外部講師・波多江・木野山・安原・森))
第11回：基礎演習(4)：計算力、読解力と表現力	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第12回：基礎演習(5)：計算力、読解力と表現力	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第13回：基礎演習(6)：計算力、読解力と表現力	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第14回：基礎演習(7)：計算力、読解力と表現力	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))
第15回：確認テスト(2)	※ (担当 (波多江・木野山・安原・森))

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	積極的に授業へ参加すること。
	レポート	20%	与えられた課題に関する内容を具体的に述べていること。
	小テスト	40%	授業の理解度を評価する。
	定期試験		
	その他	20%	提出物、求められた提出物を提出していること。
	自由記載		

【受講の心得】

大学生としての基本的姿勢に関する授業であるから、積極的な姿勢を求める。
授業後には当日学習したことを見直し、日々の授業に役立てる工夫を各自で行うこと。

【授業外学修】

授業内容をノート等に整理すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	「知へのステップ」学習技術研究会, くろしお出版

授業科目名	人間の科学		サブタイトル		授業番号	NJ301
担当教員名	森脇 晃義 赤木 収二					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>キャリア教育の一環として、「自己の価値判断の基準」すなわち、価値観を確立するための学習であり、これにより次のような事柄・習慣を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会へ貢献できる人間とはどのような知識・教養・技術・感性などを備えていなければならないかを述べることができる。 2. 色々な思考方法、宗教、哲学などの特徴を理解し、自己に適した考え方の基準を確立することができ、他人へ説明することができる。 3. 生物学的な「生」と形而上学的な「生」の定義と、それに対する自分の意見・見解を築くことができ、自己の意見が主張できる。 4. 国際的な広い視野からボランティア活動へ積極的に取り組むための気構えができる。 						
<p>【到達目標】</p> <p>深い洞察力を持った豊かな人間性を養う習慣を身につける。豊かな人格の成熟にむけて精進することができる。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
講義、懇談、演習など、講師との交流を通して学習する。あくまでも自主的な取り組みが必要であり、自分で考え、自分の意見・見解を確認し、表現する能力を養うこと。各回の授業項目と講師は変更することがある。						
<p>第1回：授業の概要・目的の解説，価値観について ※（担当森脇晃義）</p> <p>第2回：自己実現のための精神的なバックボーン ※（担当森脇晃義）</p> <p>第3回：脳の機能と心理について ※（担当森脇晃義）</p> <p>第4回：ものの考え方の多様性と教養としての科学 ※（担当赤木収二）</p> <p>第5回：社会・職場が求めている人間像 ※（担当未定）</p> <p>第6回：社会へ参加するための準備・資格 ※（担当未定）</p> <p>第7回：私の価値判断基準は（学生の意見・主張） ※（担当森脇晃義 赤木収二）</p> <p>第8回：宗教を正しく理解する ※（担当未定）</p> <p>第9回：宗教とボランティア活動 ※（担当黒住宗道（黒住教 教主））</p> <p>第10回：国際貢献（寄生中の感染を通じて） ※（担当村主節雄（穴吹医療大学校））</p> <p>第11回：栄養学の果たす役割について ※（担当森脇晃義，赤木収二）</p> <p>第12回：障害者支援の実際 ※（担当荻原義文（重度障害者多数雇用事務所））</p> <p>第13回：人権について考えよう1（バズセッション） ※（担当森脇晃義，赤木収二）</p> <p>第14回：人権について考えよう2（バズセッション） ※（担当森脇晃義，赤木収二）</p> <p>第15回：まとめの討論 よりよい将来を目指して ※（担当森脇晃義 赤木収二）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	100%	各授業時間の課題、感想、意見を時間内にまとめ、提出したレポートで評価する			
	小テスト					
	定期試験					

その他

自由記載 各授業時間の課題、感想、意見を時間内にまとめ、提出したレポートで評価する(100%)。

【受講の心得】

各講師の人生観に基づく講演なので、全身で、心を開いて、積極的に聴くこと。

【授業外学修】

毎週最低4時間は講義内容について文献等と共に復習すること

使用テキスト

自由記載

特になし。

参考書

自由記載

内容に応じてプリントを配布する。

【その他】

選択科目であるが、豊かな人間性や新たな価値観について思索できるので、受講を薦める。

【備考】

キャリア教育の一環として、「自己の価値判断の基準」砂鷺、価値観を確立するための学習です。人が創造的に生きるためには、知情意にわたる「自己の価値判断の基準」が必要です。その基準は各自が生涯にわたって築きあげるものですが学生時代は、いろいろな人たちの考え方、生き方、人生のあり方を知り、学ぶことで、自己に適した基準を順次作り上げていくときです。そして、他者の基準、社会の基準を知り、他者を受容し、思考、行動を寛容する能力を養います。これにより深い洞察力を持った豊かな人間性を養う習慣を身につけ、より豊かな人格の形成に向けて精進できるようになります。

授業科目名 **人と環境**

サブタイトル

授業番号 NJ202

担当教員名 川野 光興

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

地球環境、資源・エネルギー問題、大気・水環境汚染、廃棄物問題、化学物質汚染など、現代の環境問題は私たち現代の人類がその原因を作り、私たち自身に降りかかっている問題である。本編ではこれらの環境問題を、最新の知見、データをもとに科学的にとらえ、その現状を説明し、改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。

【到達目標】

- ・現代環境問題生起の基本的なメカニズムについて修得し理解している。
- ・食と栄養の専門家として関わりの大きい環境問題について基礎的知識の習得している。
- ・環境問題に関する時事ニュースについて関心を持ち、考えることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げる学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：序論1（環境認識の拡大と有限性）

第2回：序論2（身近の環境問題；放射能汚染，ダイオキシン，環境ホルモン）

第3回：太陽系と地球に関する基礎1（太陽，地球，大気，海）

第4回：太陽系と地球に関する基礎2（川，土壌，森林，生体系）

第5回：地球に起こっている異変1（典型7公害，4大公害，地球温暖化）

第6回：地球に起こっている異変2（酸性雨，オゾン層破壊，水質汚染）

第7回：地球に起こっている異変3（水資源問題，森林破壊，大気汚染）

第8回：地球に起こっている異変4（生物多様性，シックハウス症候群）

第9回：地球に起こっている異変5（食糧問題，ヒートアイランド現象，土壌汚染）

第10回：循環型社会へ向けて1（暮らしと環境問題，企業と環境問題）

第11回：循環型社会へ向けて2（国と環境問題及び法規制）

第12回：循環型社会へ向けて3（環境問題と国際的取り組み）

第13回：環境問題解決のための新技術1（脱化石エネルギー，バイオプラスチック）

第14回：環境問題解決のための新技術2（リサイクル，水素エネルギーと燃料電池他）

第15回：環境問題解決のためにできることは（まとめ）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，予習，復讐の状態によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	80%	
	その他 自由記載		

【受講の心得】

1. 配布するプリントは必ず持参のこと。
2. 日頃より環境問題に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。
3. 授業態度は、礼儀正しい態度で臨むこと。

【授業外学修】

1. 予習として、配布したプリントを読み、疑問点を明らかにしておく。
2. 復習として、勉強したことをプリントを見ながら再度学修しておく。
3. 授業で紹介した図書を読んでおく。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	地球環境学 第2版	山崎友紀	講談社	2, 800円	978-4-06-155240-1
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	地球環境学がよくわかる本	浦野紘平, 浦野真弥	オーム社	1, 600円	978-4-274-22090-6
	トコトンやさしい環境汚染の本	大岩敏男 他	日刊工業新聞社	1, 400円	978-4526073007
	自由記載				

授業科目名 **公衆衛生学I**

サブタイトル

授業番号 NJ203

担当教員名 波多江 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

公衆衛生学は、人びとを疾病から守り、健康の保持・増進をはかることを目的としており、管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は、母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と、地域保健、精神保健、環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで、広い範囲にわたっている。そのうちで、公衆衛生学Iでは、疫学、保健統計、社会保障の分野を中心に学習する。

【到達目標】

・社会あるいは家庭において、人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計、疫学、社会保障の知識を身につける。

・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集、分析、情報管理の方法を学び活用できる。

・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での十分な実力を身につける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：公衆衛生と健康の概念（テキスト p.2～p.9）

第2回：疫学、疫学研究のデザイン（テキスト p.10～p.11, p.19～p.25）

第3回：EBMの実践（テキスト p.32～p.33）

第4回：疫学の効果指標（テキスト p.15～p.18）

第5回：検査の指標とスクリーニング（テキスト p.26～p.29）

第6回：疾病・死亡の指標、保健統計（テキスト p.12～14, p.38～p.39）

第7回：保健統計；人口静態統計（テキスト p.40～p.43）

第8回：保健統計；人口動態統計（テキスト p.44～p.53）

第9回：保健統計；死因統計（テキスト p.54～p.61）

第10回：保健統計；疾病統計（テキスト p.62～p.65）

第11回：社会保障と医療経済；社会保障制度（テキスト p.152～p.159）

第12回：社会保障と医療経済；医療保障制度（テキスト p.160～p.167）

第13回：社会保障と医療経済；国民医療費（テキスト p.168～p.171）

第14回：地域保健（テキスト p.172～p.177）

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度
	定期試験	70%	最終的な理解度
	その他 自由記載		

【受講の心得】

事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確実なものとする。

【授業外学修】

(1)予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。

(2)復習として、授業で作成したノートを整理する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		公衆衛生がみえる2018-2019	医療情報科学研究所	メディックメディア	3888
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	図説 国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	1650	4875117779
	自由記載				

授業科目名 **公衆衛生学II**

サブタイトル

授業番号 NJ204

担当教員名 波多江 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

公衆衛生学の学習内容は、母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と、地域保健、精神保健、環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで、広い範囲に亘っている。そのうちで、公衆衛生学IIでは、環境と健康、産業保健、学校保健の分野を中心に学習する。

【到達目標】

・社会あるいは家庭において、人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる環境保健、産業保健、学校保健、高齢者保健、地域保健の知識を身につける。

・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での十分な実力を身につける。

なお、本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキスト p.178～p.183）

第2回：成人保健と健康増進；健康日本21（テキスト p.184～p.191）

第3回：成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策（テキスト p.192～p.197）

第4回：母子保健，母子保健法（テキスト p.198～p.207）

第5回：出産・育児に関わる制度，母体保護法（テキスト p.208～p.213）

第6回：高齢者保健，老人福祉法，高齢者医療確保法（テキスト p.228～p.233）

第7回：介護保険法（テキスト p.234～p.239）

第8回：介護保険法（テキスト p.240～p.247）

第9回：在宅医療（テキスト p.248～p.251）

第10回：食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキスト p.308～p.313）

第11回：食品保健；食中毒（テキスト p.314～p.325）

第12回：学校保健（テキスト p.334～p.343）

第13回：産業保健；産業保健総論，労働基準法，労働安全衛生法（テキスト p.344～p.356）

第14回：産業保健；健康管理（テキスト p.357～p.363）

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度
	レポート		
	小テスト	20%	各章の主要なポイントの理解度
	定期試験	70%	最終的な理解度
	その他 自由記載		

【受講の心得】

事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確実なものとする。

【授業外学修】

(1)予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。

(2)復習として、授業で作成したノートを整理する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		公衆衛生がみえる2018-2019		医療情報科学研究所	メディックメディア	3888
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		図説 国民衛生の動向 2018/2019		厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	1650
	自由記載					

授業科目名	公衆衛生学実習		サブタイトル		授業番号	NJ205
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
【授業の概要】						
講義（公衆衛生学I・II）で学んだ健康の保持・増進を主体とした保健活動に関する知識を、実習によってより確かなものとして活用できるようにする。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・保健統計に用いる主な健康指標について理解し活用できる。 ・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集、分析、情報管理の方法を学び活用できる。 ・健康情報を収集するための調査法とそのデータの解析について理解し活用できる。 なお、本科目はディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：健康日本21（第1次）の目標と最終評価の理解 第2回：健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出と発表 第3回：健康日本21（第2次）目標と中間報告の理解 第4回：健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表 第5回：健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告の理解（岡山市と日本全体の比較） 第6回：健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表（岡山市と日本全体の比較） 第7回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画 第8回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画と中間発表 第9回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画の発表と質疑応答 第10回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画修正案の発表 第11回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画 第12回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画と中間発表 第13回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画の発表と質疑応答 第14回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画修正案の発表 第15回：危険予知トレーニング（KYT）の実践						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	発表・討議への参加状況			
	レポート	10%	各回の内容・ポイントの的確は文章表現力			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解度			
	定期試験	50%	最終的な理解度			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
事前に、講義（公衆衛生学I・II）の内容のうち、該当部分を復習しておく。事後に復習し、習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。						
【授業外学修】						
発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

	公衆衛生がみえる2018-2019	医療情報科学研究 所	メディッ クメディ ア	3888	4896326873
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	図説 国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働 統計協会	1650	4875117779
	自由記載				

授業科目名	健康管理概論		サブタイトル		授業番号	NJ106
担当教員名	阿部 ゆり子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】 健康の概念を理解し、健康の維持、増進のための理論を学ぶ。すなわち疫学や疾病、健康に関連した行動にかかわる統計資料、さらに保健・医療・福祉制度および関係法規の概要について学ぶ。						
【到達目標】 健康の概念を把握し、健康の維持・増進や疾病予防に役立つ基本的な考え方および行政等による取り組みやそれらに関わる関連法規について理解できるようになることを目的とする。 なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：健康の概念とその歴史の変遷 (教科書該当箇所 p.1～p13) 第2回：疫学の基礎と方法 (教科書該当箇所 p.15～p32) 第3回：人口統計 (教科書該当箇所 p.45～p52) 第4回：保健統計指標 (教科書該当箇所 p.53～p73) 第5回：健康づくり施策 健康増進法 (教科書該当箇所 p.75～p102) 第6回：健康日本21(第2次)の意義と評価 (教科書該当箇所 p.75～p102) 第7回：生活習慣病の予防と健康管理 その1 (教科書該当箇所 p.117～p124) 第8回：生活習慣病の予防と健康管理 その2 (教科書該当箇所 p.125～p142) 第9回：地域の保健予防システム (教科書該当箇所 p.143～p159) 第10回：社会保障制度 (医療制度と福祉制度)(教科書該当箇所 p.161～p167) 第11回：高齢者・成人の健康管理 (教科書該当箇所 p.169～p180) 第12回：母子の健康管理 (教科書該当箇所 p.181～p190) 第13回：学校の健康管理 (教科書該当箇所 p.191～p200) 第14回：職場の健康管理 (教科書該当箇所 p.201～p213) 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%				
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	80%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 本授業は、社会の変化等の中で求められる人々の健康維持・増進にかかわる問題点や対策などについて学習するものである。したがって、健康・医療・福祉・介護関連などの情報にメディア等を通じ、日頃から接するよう努力する態度が肝要である。						
【授業外学修】 授業毎に授業計画で示した教科書該当箇所を通読しておくこと。 週当たり4時間以上の学修を要する。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

基礎から学ぶ健康管理概論改訂第4版

柳川洋, 尾島俊之編 南江堂

2,400円 978-4-
+税 524-
25475-0

自由記載

参考書

自由記載

「国民衛生の動向 2017/2018」厚生労働統計協会 (2017年8月刊行)

授業科目名	福祉論		サブタイトル		授業番号	NJ107
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 社会福祉の歴史をふまえながら、現代社会における福祉の制度について説明する。						
【到達目標】 社会福祉の動向を学ぶなかで、利用者本位の支援について理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：私たちの暮らしと社会福祉 第2回：栄養士が社会福祉を学ぶ意義 第3回：社会福祉のあゆみ 第4回：社会福祉の法律 第5回：社会福祉の行財政 第6回：社会福祉の実施体制 第7回：社会福祉における直接的支援 第8回：社会福祉における間接的支援 第9回：社会福祉の担い手 第10回：公的扶助 第11回：児童福祉 第12回：高齢者福祉 第13回：介護保険 第14回：障害者福祉 第15回：社会福祉の課題						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。			
	その他	50%	社会福祉記事ワークブックで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。			
自由記載						
【受講の心得】 授業内容の理解を深めるため、授業が始まるまでにワークの内容を読んでおくこと。						
【授業外学修】 授業開始前までに、テキスト、ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

21世紀の介護保険政策集

松井圭三

大学教育
出版

1 8 0 0

978-4-
88730-
839-8

nie介護の基本演習

松井圭三 今井慶宗

大学教育
出版

2000

未定

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて紹介する。

授業科目名	子どもと高齢者の福祉		サブタイトル		授業番号	NJ308
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>今日の社会福祉の大きな課題は、なんと言っても少子高齢化である。悲しいことに政府は、1980年代まで具体的な政策を展開しなかった。1990年代になり、少子高齢化が著しく進むため、急きょ福祉政策が実施されることになる。たとえば、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、エンジェルプラン、介護保険、ゴールドプラン21、新エンジェルプラン等次々と政策を打ち出し、この少子高齢化に対応しようとしている。これらの政策は、解決に向けての第一歩と言える。このような社会状況において、この授業では少子高齢化の要因や現状を具体的に学んでいく。そして、この問題の解決策についてもみなさんと検討していきたい。また、各論において具体的な介護問題や児童問題、具体的には高齢者の所得保障、医療保障、就労保障、生きがい対策、児童虐待、いじめ、少年事件等の今日の福祉事例についても言及し、みなさんと考察していきたい。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の実践能力を高めます。 ・学びの基礎となる知識や学習方法を修得します。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：少子高齢化社会と高齢者の福祉ニーズ 第2回：高齢者と高齢者福祉への視点 第3回：高齢者保健福祉を支える法的なしくみ(1) 第4回：高齢者保健福祉を支える法的なしくみ(2) 第5回：高齢者保健福祉に従事する人々 第6回：高齢者の所得・医療保障 第7回：高齢者の住環境 第8回：高齢者の社会参加と生きがい活動 第9回：現代社会と児童福祉 第10回：児童の権利と児童福祉 第11回：児童の法制と機構 第12回：高齢者の事例研究 第13回：児童の事例研究 第14回：障害者の事例研究 第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他		レポートの提出期限を順守する。			
自由記載	受講態度、課題提出、定期試験により総合的に評価する。					

【受講の心得】

本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。

- ・ 予習と授業中の積極的発言を求めます。
- ・ 自分で考えることをベースに授業に参加してください。
- ・ 管理栄養士の国家試験対策を講じます。

【授業外学修】

- ・ 予習として、授業に関係した教科書を精読し、内容を理解する。
- ・ 復習として、授業のレポートを書く。
- ・ 授業で紹介された参考文献を精読する。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本授業では、時間外学習時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学習が必要となる。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト NIE社会福祉記事ワークブック	松井圭三 今井慶宗	大学教育出版	2000円	978-4-86429-365-5

自由記載

参考書

自由記載

随時紹介します。

授業科目名	介護・看護演習		サブタイトル		授業番号	NJ409
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 障害者や高齢者に対する日常生活の援助について、演習形式で体験的に学習する。						
【到達目標】 障害者の立場を疑似体験したりグループワークで考えて、対象理解を深めることができる。 障害者や高齢者など生活面で支援を必要とする人へ安全で快適な介護ができる。 これは、ディプロマポリシーの態度の〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：ブラインドウォークを体験し、視覚障害者への介助について学ぶ 第2回：車椅子による移送について学ぶ 第3回：車椅子による移送を体験した気づきをグループワークする 第4回：担架による移送について学ぶ 第5回：体位変換について学ぶ 第6回：バリアフリーについて考える 第7回：ストーマを造設した人の生活について学ぶ 第8回：食事の介護・口腔ケアについて学ぶ 第9回：部分清拭・足浴について学ぶ 第10回：手浴とハンドマッサージについて学ぶ 第11回：入浴・排泄に関する介護機器について学ぶ 第12回：おむつ交換について学ぶ 第13回：衣類の着脱について学ぶ 第14回：コミュニケーション技法について学ぶ 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業に集中して取り組むことができる。			
	レポート	40%	授業内の気づきの記述が具体的に述べられている。 レポートに対してはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 動きやすい服装身だしなみで出席すること 学生同士で介護者と利用者の役割を演習するなかで、特に介護される気持ちを大切にすること						
【授業外学修】 毎回の授業終了時に出す課題について、3時間以上復習して各自の考えをまとめておくこと						
使用テキスト	自由記載	なし				
参考書	自由記載					

授業科目名 **解剖生理学I**

サブタイトル

授業番号 NK201

担当教員名 森脇 晃義

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

ヒトの身体の構造と機能を理解するために、人体を構成する臓器の構造と機能について器官系統別に解説する。具体的には、人体を構成する細胞、組織、器官系の構造と機能を学習理解する。

【到達目標】

解剖生理学を独立した科目と考えず、他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：序論 人の体の構成原理とダイナミクスについて講義する。

第2回：細胞と組織 人体を構成する細胞と組織について講義する。

第3回：消化器系1 消化器系の構造と機能について理解する。口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能について講義する。

第4回：消化器系2 消化器系の構造と機能について理解する。肝臓、膵臓、胆のうの構造と機能について講義する。

第5回：消化器系3 消化管で生じる酵素反応と栄養素の吸収について講義する。

第6回：呼吸器系1 呼吸器系の構造と機能について講義する。

第7回：呼吸器系2 呼吸のしくみ、肺機能、血液による酸素運搬、呼吸の神経支配について講義する。

第8回：第7回までの総合的理解を検討し、解説する。

第9回：循環系1 循環系の構造について理解する。心臓と血管の構造について講義する。

第10回：循環系2 循環系の機能について理解する。心臓の働き、血圧調節について講義する。

第11回：血液と体液1 体液の区分、血液の組成について講義する。

第12回：血液と体液2 酸塩基平衡、浸透圧調節、水分バランスについて講義する。

第13回：泌尿器系と腎機能1 泌尿器系と腎の構造について講義する。

第14回：泌尿器系と腎機能2 尿生成のしくみについて講義する。

第15回：第9回から第14回までの総合的理解を検討し、解説する。

【授業計画 備考2】

生物学、基礎栄養学で学んだ内容の復習を十分行っておくこと。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	最終的な理解度を評価する
	その他		
	自由記載		人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。

【受講の心得】

高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。

予習、復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。

【授業外学修】

毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	解剖生理学	河田光博・三木健寿	講談社サイエンティフィック		
	自由記載	『解剖生理学』, 河田光博・三木健寿, 講談社サイエンティフィック			
参考書	自由記載	『標準生理学』, 『現代の生理学』, 『医科生理学展望』			

【その他】

図書館には解剖生理学に関する蔵書が取りそろえてあるので、復習に活用すること。

授業科目名 **解剖生理学II**

サブタイトル

授業番号 NK202

担当教員名 森脇 晃義

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

ヒトの身体の構造と機能を理解するために、人体を構成する臓器の構造と機能について器官系統別に解説する。具体的には、人体を構成する細胞、組織、器官系の構造と機能を学習理解する。

【到達目標】

解剖生理学を独立した科目と考えず、他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。

解剖生理学I・IIを通じて臨床検査データを評価判定する能力を養い、個人の身体状況や栄養状態に対応する栄養教育に応用できる能力を育成する。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：生殖と発生 ヒトの生殖器官の構造と発生のしくみについて講義する

第2回：エネルギー代謝と体温調節1 エネルギー代謝について摂取と消費について講義する。

第3回：エネルギー代謝と体温調節2 体温調節とエネルギー消費について講義する。

第4回：内分泌系1 内分泌機構についてホメオスタシスの維持と関連して講義する。

第5回：内分泌系2 内分泌系の構造について講義する。

第6回：内分泌系3 内分泌腺とホルモンの機能について講義する。

第7回：内分泌系4 ホルモン調節のしくみと分泌異常の病態疾患について講義する。

第8回：第7回までの総合的理解を検討し、解説する

第9回：免疫系1 生体の防御機構について関与する器官と機能について講義する。

第10回：免疫系2 体液性免疫と細胞性免疫、疾患と免疫について講義する。

第11回：神経系1 神経細胞の構造と機能について講義する。

第12回：神経系2 神経系の構造と機能について講義する。中枢神経、末梢神経の機能について講義する。

第13回：感覚器 刺激の受容と処理について講義する。

第14回：運動器系 骨、関節、筋、筋収縮について講義する。

第15回：第9回から第14回までの総合的理解を検討し、解説する

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	最終的な理解度を評価する
	その他		
	自由記載		人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。

【受講の心得】

高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。

予習、復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。

【授業外学修】

毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	解剖生理学	河田光博・三木健寿	講談社サイエンティフィック		
	自由記載	『解剖生理学』, 河田光博・三木健寿, 講談社サイエンティフィック			
参考書	自由記載	『標準生理学』, 『現代の生理学』, 『医科生理学展望』			
<p>【備考】</p> <p>解剖生理学を独立した科目と考えず, 他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持 (ホメオスタシス) の仕組みを理解することを到達目標とする。</p> <p>解剖生理学Iなどの学習内容について, 復習をかねて質問するので準備をしておくこと。Active Learningの一環として実施する。</p>					

授業科目名	解剖生理学実験		サブタイトル		授業番号	NK303
担当教員名	森脇 晃義					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	実験		
【授業の概要】						
ヒトの構造や機能について理解を深め、解剖生理学I, IIの講義で学修したことについて実際に体験する。この実験課題を通じてヒトの構造と機能について理解を深める。特に、骨格、循環、血液、呼吸、腎機能、エネルギー代謝、肉眼的組織について観察や実際の体験を通じて、人の正常機能についての洞察を深める。疾病理解の働きかけとなる。						
【到達目標】						
観察や測定を通じて、ヒトの正常機能について総合的に理解する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 骨の観察：上肢、下肢、体幹、頭部 第3・4回 循環機能に関する実験：心音の聴取と心電図、コロトコフ音の聴取、負荷をかけた場合の血圧 第5・6回 腎機能に関する実験：クリアランスの測定、水分負荷と尿の濃縮 第7・8回 肺気量分画の測定、フローボリューム曲線の描画 第9・10回 最大酸素摂取量の測定：踏み台昇降、エルゴメータ使用 第11・12回 人体を構成する組織の観察 第13・14回 肉眼的病理標本の観察：川崎医科大学現代医学博物館見学 第15回 全体のまとめ						
【授業計画 備考2】						
全て出席し、積極的に取り組むことを求める。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	60%	テーマごとのレポートを評価する			
	小テスト					
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
実験ノートを用意し、実験経過、結果をしっかりと記録すること。レポートは必ず提出すること。レポート提出がない場合は欠席と見なす。						
【授業外学修】						
解剖生理学I, II の復習を十分行なっておくこと。週当たり1時間以上学習すること						
使用テキスト	自由記載	プリントを配布する。				
参考書	自由記載	「解剖生理学実験」川村一男 編、建帛社「解剖生理学実習」森田規之、河田光博、松田賢一 編、講談社				
【その他】						
体調などにより、課題を遂行できない場合は申し出ること。合理的な配慮を施します						

授業科目名	細胞生理化学実験		サブタイトル		授業番号	NK104
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	実験			
【授業の概要】 人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。						
【到達目標】 器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。 本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 組織観察－消化器系，呼吸器系 第3・4回 組織観察－循環器系，内分泌系 第5・6回 動物の体制－手羽先の解剖 第7・8回 核酸の抽出 第9・10回 浸透圧実験－原形質分離の観察 第11・12回 たんぱく質の定性反応－凝固沈殿反応 第13・14回 糖質の定性反応－糖質共通の反応 第15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な実験に関わる態度によって評価する。			
	レポート	70%	理解度をレポートで評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。						
【授業外学修】 時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。						
使用テキスト	自由記載	人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する				
参考書	自由記載	「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」鈴木孝仁 監修 数研出版「改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」数研出版編集部 編 数研出版「栄養生理・生化学実験」近藤義和ほか 編 朝倉書店「生化学実験」林淳三 編 建帛社				

授業科目名 **生化学I**

サブタイトル

授業番号 NK105

担当教員名 小林 英紀

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

生体のつくりとはたらきを分子のレベルで理解しようとする学問である。この講義では、まず、生体を構成している細胞の構造とはたらきを学び、ついで、生体（および細胞）の構成している成分やその成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸、ビタミン、無機質、水などについてそれぞれの性質、生体内での役割について学習する。さらに、タンパク質の高次構造と機能の関係、生体内化学反応の触媒である酵素のはたらき等について学ぶ。

【到達目標】

ヒトを構成する細胞の構造と機能について理解する。また、細胞を構成する糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンなどの、高分子成分の構造とその生化学的な性質について理解する。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学力のうち、〈知識、理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1～2回 生体の構成と細胞の構造；細胞分画法，細胞成分の構造と機能等

第3～4回 生体成分の生化学；糖質の構造と性質，生体内での役割

第5～6回 生体成分の生化学；脂質の構造と性質，生体内での役割

第7～8回 生体成分の生化学；タンパク質の構造と性質，生体内での役割

第9～10回 生体成分の生化学；核酸の構造と性質，生体内での役割

第11～12回 生体成分の生化学；ビタミン，無機質の構造と性質，生体内での役割

第13～14回 酵素の生化学；生体内触媒である酵素の性質；補酵素，酵素反応速度，酵素の分類，酵素の補助因子

第15回 まとめ；消化と吸収，生体高分子の構造と機能，生体エネルギー

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な授業態度と予復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	理解度の確認のため、毎回の授業時に行う。
	定期試験	50%	授業（15回）の終了時に行い、授業全体の理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

生化学は、「生命の仕組み」を化学的に理解する学問です。食べた食材が消化・吸収された後に体内でどのような化学変化が起こり、身体の組織や細胞をつくり、活動のエネルギーを作り出すか「一連の化学反応」として「生命」を理解します。

中学校の理科教科書、高等学校の理科総合などの教科書あるいは参考書を見直したり、またインターネットや色々な出版物にある「ヒトの身体の構造と機能」などについて、関心を持ち、「なぜ？どうして？」と問いながら学習をします。最初は単語や言葉が難しいですが、「用語」を確実に理解し、色々な科目の基礎となりますから、予習・復習をして一歩、一歩、理解を深めてゆきます。

【授業外学修】

毎回、授業終了時に授業内容に確認するために小テストを行う。当日の授業内容について週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『生化学』， 藺田勝 著， 羊土社
参考書	自由記載	Essential細胞生物学 第3版 中村佳子， 松原謙一訳， 南江堂

【その他】

生命の営みのしくみを担う化学反応を理解しよう。

授業科目名 **生化学II**

サブタイトル

授業番号 NK206

担当教員名 小林 英紀

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

生化学Iで学んだことを基礎にして、生体の構造と機能の相関を分子レベルで理解するために、糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機質等の生体内代謝や生体内エネルギー代謝について学習する。さらに、シグナル情報伝達、ホルモン、血液の生化学、その他主要臓器の生化学についても学習する。

【到達目標】

三大栄養素の糖質、脂質、タンパク質の生体内代謝と生化学的諸性質を理解する。遺伝現象に関する分子レベルでの作用機序を理解する。生化学の基礎理解をとおして栄養学、栄養管理、栄養療法、栄養教育などに生かすことができるようにする。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回 物質およびエネルギーの代謝の概要；

第2～3回 糖質の代謝：糖質の生体内分布、血糖、糖質代謝（グリコーゲン経路、解糖経路、糖新生、五炭糖リン酸経路、ウロン酸経路等）等について学習する。

第4～5回 クエン酸（TCA）回路と電子伝達リン酸化系：糖質、脂質、タンパク質等の代謝の要であるクエン酸回路について学ぶと共に、生体におけるエネルギー代謝について学習する。

第6～7回 脂質の代謝：血液中のリポタンパク質の動態、脂肪酸の分解と合成、トリアシルグリセロールおよびリン脂質の代謝、コレステロールの代謝、胆汁酸の代謝等を学習する。

第8～9回 タンパク質の代謝：体タンパク質の動態、動的平衡、窒素平衡、アミノ酸の出納（動態）、代謝、代謝異常等について学ぶ。

第10回 核酸の代謝：ヌクレオチドの生合成、DNAおよびRNAの合成（複製と転写）と分解、ヌクレオチドの分解と高尿酸血症等について学ぶ。

第11～12回 遺伝情報の発現調節：遺伝情報の流れ、RNAとタンパク質合成、遺伝情報発現の調節、遺伝子と病気、遺伝子工学等について学ぶ。

第13回 シグナル情報伝達等について学ぶ。

第14回 内分泌系（ホルモン）、恒常性、病気の生化学について学ぶ。

第15回 まとめ

【授業計画 備考2】

授業で学んだ重要項目について、毎授業終了時に確認テストを行う。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な授業態度と予復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	理解度の確認のため、毎回の授業時に行う。
	定期試験	50%	授業（15回）の終了時に行い、授業全体の理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

管理栄養士養成課程で学習すべき生化学の内容の積み残しがないように、予習、復習、とくによく復習をし、疑問点は参考書等で毎回調べておくこと。質問歓迎。

【授業外学修】

授業は、生化学Iですすでに学習した内容は理解しているものとして進めます。毎週、授業内容について4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『生化学』, 菌田勝 著, 羊土社
参考書	自由記載	Essential細胞生物学 第3版 中村佳子, 松原謙一訳, 南江堂

【その他】

人体のはたらきのしくみと栄養素について理解しよう。

授業科目名	生化学実験		サブタイトル		授業番号	NK207
担当教員名	小林 英紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	実験		
【授業の概要】 タンパク質の定量・ゲルろ過クロマトグラフィーの実験をとおして、タンパク質の性質を理解する。生体触媒である酵素の基礎実験をとおして、酵素の生化学的特性を知る。これら一連の生化学実験をつうじて、生体高分子の諸性質と動態を分析するための知識と実験手技の基本を習得する。						
【到達目標】 生化学の基礎実験をとおして生化学の講義で学んだことを十分に理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 タンパク質の定量 — ローリー法 第3・4回 ゲルろ過クロマトグラフィーI — カラム充填と試料調製 第5・6回 ゲルろ過クロマトグラフィーII — 溶出・分離・精製 第7・8回 酵素に関する基礎実験 — 試薬調製と検量線 第9・10回 酵素に関する基礎実験 — 最適温度 第11・12回 酵素に関する基礎実験 — 最適pH 第13・14回 酵素に関する基礎実験 — 反応速度とKm値 第15回 要点・重点の整理						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な授業態度、実験への積極的な参加・取組みによって評価する。			
	レポート	30%	毎回の実験の目的、方法、結果、考察を正確に記述できるかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	実験ノートの提出と課題レポートのまとめ方によって評価する。			
自由記載	レポートを毎回提出すること。実験ノートとまとめ課題は最後の授業時間に指示する。					
【受講の心得】 実験ノートを用意し、実験方法・経過をしっかりと書きとめていき、それに基づいてレポートを作成する。						
【授業外学修】 時間外学修をとおして、実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。						
使用テキスト	自由記載	プリント（各実験の目的と方法等）を配布する。				
参考書	自由記載	「生化学」 藺田勝 著 羊土社				

授業科目名	医学概論		サブタイトル	各種疾患に対する基本的知識	授業番号	NK208
担当教員名	阿部 ゆり子					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<p>【授業の概要】 平均寿命が世界でもトップクラスのわが国においては、基礎疾患をもちながら社会参加をする期間が長い傾向にあり、各人に応じた栄養管理・指導を行うためには、疾患に対する基礎知識が不可欠である。 医学概論では、特に栄養管理を行うにあたって知識が必要とされる頻度の高い疾患について、基本的な病因・病態・症状・治療等に関する学習を行う。</p>						
<p>【到達目標】 (1)栄養管理・指導のために必要な、各種疾患に対する知識を習得する。 (2)医学的専門用語を習得することで、卒業後にチーム医療に加わる資質を醸成する。 (3)医学的専門用語を習得することで、専門書を独力で読みこなす力を養う。 (4)なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p>						
<p>【授業計画 備考】 原則として、各疾患分野については、1回90分の講義時間で行う。したがって1回の講義内容のボリュームは大変多くならざるを得ないことを自覚して、予習・復習を行い、授業だけでなく教科書を読み、毎回確実に自分の知識とするよう心がけること。</p>						
<p>第1回：消化器疾患について 第2回：消化器疾患について 第3回：循環器疾患について 第4回：血液疾患について 第5回：呼吸器疾患について 第6回：免疫・アレルギー系疾患について 第7回：診断のための検査について 第8回：腎・尿路系疾患について 第9回：腎・尿路系疾患について 第10回：栄養・代謝疾患について 第11回：栄養・代謝疾患について 第12回：肝・胆・膵疾患について 第13回：内分泌疾患について 第14回：運動器系疾患について 第15回：皮膚系疾患について、神経・精神系疾患について</p>						
<p>【授業計画 備考2】 授業の復習目的で、途中複数回のレポート提出を課す。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への出席状況と参加態度			
	レポート	20%	資料や教科書を読みこなして記載しているかどうか等			
	小テスト					
	定期試験	60%	授業内容の理解ができているかどうか			
	その他					

自由記載

【受講の心得】

(1)将来栄養士として健康管理や医療現場で対人業務に携わる者であることの自覚を持って取り組むこと。(2)医学専門用語が多く使われるので、授業内容が難解な印象を与えるのはやむをえないが、折に触れ、専門用語になじむよう心がけ、自分の語彙を豊富にしていくこと。(3)解剖学、生理学、生化学、病理学などの学習と併せて、健康や疾病に関心を持ち、他の講義と関連付けて疾病を理解しようとする心構えが必要。(4)平素から健康・医療関連の報道番組や書物・新聞記事など積極的に接して、情報を吸収すること。

【授業外学修】

(1)授業の予習：毎回の講義で、次回講義内容は通知するので、教科書を通読してから授業に望むこと。
(2)授業の復習：小レポート提出を数回課す。講義で配布した資料はファイルして必ず整理・保存しておくこと。レポート提出に必要。

以上（１）（２）の内容について、週4時間以上の授業外学習を行うこと

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	臨床医学 疾患の成り立ち	田中明, 宮坂京子, 藤岡由夫	羊土社	2, 800円	978-4-7581-2

自由記載

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	解剖生理学 人体の構造と機能	川田光博 三木健寿	講談社 イエンテ フィク	2, 600円	978-4-06-155343-9

自由記載 解剖・生理学の授業で使用している教科書。人体の解剖・生理学で学んだ知識を、各自確認しながら医学概論の講義を受講すること。

【その他】

- ・人体内部のイメージを持つため、必要に応じて「驚異の小宇宙 人体」～NHKエンタープライズ～ の視聴を行う。
- ・毎回、阿部作成資料を配布・使用する。

授業科目名 **病理学**

サブタイトル

授業番号 NK309

担当教員名 赤木 收二

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

傷病者の療養における栄養指導を行うために大切な「疾患のなりたち」を理解する上で必要となる病理学の基礎的事項をまず説明する。、さらに、チーム医療の一員としての職務を行う上で重要な診断・治療の概要についても説明する。また、各種栄養素の代謝障害によってもたらされる疾患・病態についても、病理学的事項を踏まえつつ解説する。

【到達目標】

1. 疾患のもたらす病理学的変化の概要について説明できる。
2. 疾患に対する診断法および治療法の概要について説明できる。
3. 各種栄養素の代謝障害による疾病の病態生理について、その概要を説明できる。
4. 専門的な医学用語の意味を理解し、適切に使用できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：疾患による細胞・組織の変化1 (細胞障害, 細胞の死) 教科書該当箇所 p.49-p55
第2回：疾患による細胞・組織の変化2 (炎症・創傷治癒, 循環障害) 教科書該当箇所 p.43-p48, p.133-p136
第3回：疾患による細胞・組織の変化3 (再生・腫瘍, 遺伝子異常) 教科書該当箇所 p.43-p48, p.303-p309
第4回：老化による細胞・組織の変化 (老化と個体の死) 教科書該当箇所 p.59-p62
第5回：疾患診断の概要1 (一般的診察・医療面接, 全身状態の評価) 教科書該当箇所 p.1-p5
第6回：疾患診断の概要2 (主な症候) 教科書該当箇所 p.1-p5
第7回：臨床検査の基本 (種類と特性・基準値・一般臨床検査) 教科書該当箇所 p.6-p10
第8回：臨床検査の概要1 (血液学検査・生化学検査・腫瘍マーカー) 教科書該当箇所 p.6-p10
第9回：臨床検査の概要2 (免疫検査・微生物検査・生体機能検査, 画像診断) 教科書該当箇所 p.6-p10
第10回：疾患治療の概要1 (治療計画と治療評価の方法・各種治療法の概略) 教科書該当箇所 p.11-p42
第11回：疾患治療の概要2 (移植医療・終末期患者の治療・EBM) 教科書該当箇所 p.11-p42
第12回：栄養障害と代謝疾患1 (飢餓・PEM・悪液質等) 教科書該当箇所 p.63-p73
第13回：栄養障害と代謝疾患2 (糖質・脂質代謝異常, それらに関わる生理活性物質) 教科書該当箇所 p.73-p93, p.137-p.142
第14回：栄養障害と代謝疾患3 (アミノ酸・尿酸代謝異常) 教科書該当箇所 p.93-p98
第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢/態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

本教科は、人体の解剖学、生理学、生化学、基礎栄養学などの基本的な知識を土台にし、疾病を細胞・組織・個体レベルで理解するものである。したがって、2年生までに学んだ関連教科の知識を復習し、身につけておくことが重要である。

【授業外学修】

授業毎に授業計画で示した教科書の該当箇所を通読しておくこと。

本教科の内容を確実に理解するため、上述の予習も含め週当たり4時間以上の学修を要する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 第2版	竹中優(編)	医歯薬出版	3,780円	978-4-263-70586-5
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **微生物学**

サブタイトル

授業番号 NK210

担当教員名 川野 光興

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

我々の生活環境には、様々な微生物が存在し、人の生命や生活活動に密接に関わっている。本講義では、人の健康と微生物の相互関係について理解し、管理栄養士・栄養士として必要とされる微生物の知識、感染から発症、防御に至るしくみおよび微生物の利用について学ぶ。

【到達目標】

- ・微生物を分類し、基礎的な特徴を説明できる。
- ・微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる。
- ・人の健康と微生物の関わりについて説明できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：微生物学のあゆみ（微生物の発見、免疫の始まり、消毒法・抗菌薬の発見、微生物学の発展）

第2回：細菌の特徴（細菌の形態・構造、増殖、代謝、遺伝）

第3回：細菌の特徴（細菌の病原性、分類）

第4回：主な病原細菌と細菌感染症（食品媒介性細菌感染症）

第5回：主な病原細菌と細菌感染症（人の生活と密接に関係する細菌感染症）

第6回：真菌の特徴（真菌の形態、構造、分類、増殖、病原性）、原虫の特徴（原虫の特徴、構造、種類、病原性）

第7回：主な病原真菌と真菌症、主な病原原虫と原虫症

第8回：ウイルスの特徴（ウイルスの形態・構造、増殖、遺伝）

第9回：ウイルスの特徴（ウイルスの分類、病原性）

第10回：主な病原ウイルスとウイルス感染症（食品媒介性ウイルス感染症）

第11回：主な病原ウイルスとウイルス感染症（人の生活と密接に関係するウイルス感染症）、プリオンとプリオン病

第12回：感染のしくみ（感染源、感染経路、感染防御機構）

第13回：免疫のしくみ（免疫と生体防御、アレルギー）

第14回：感染症の予防（感染症法、滅菌・消毒、診断、治療）、微生物による健康維持（微生物の利用）

第15回：全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	中間試験、中間的な理解度を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

世の中の微生物に関する出来事に日頃から関心を持ち、講義に臨むこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業内容をノートにまとめる。
 - 3 発展学修として、微生物に関する新聞記事を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新訂版 クイックマスター 微生物学	西條政幸	サイオ出版	2,700円	978-4907176310
	自由記載				
参考書	自由記載	『食品微生物学の基礎』藤井 建夫 編著, 講談社			

授業科目名 **運動生理学**

サブタイトル

授業番号 NK411

担当教員名 森脇 晃義

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

運動は本来、筋肉の収縮とそれに伴うエネルギーの消費である。エネルギー摂取過剰、消費不足の現代においては、運動は生活習慣病を予防する手段の一つとなっている。さらに、競技成績を上げるためのトレーニング法、疾患時の運動、運動療法についても触れたい。

【到達目標】

運動が引き起こす様々な生理的变化が説明でき、恒常的な健康を維持するための運動の価値や意義を十分理解することを到達目標とする。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：なぜ運動が必要か

第2回：運動と生理機能

第3回：運動時のエネルギー代謝

第4回：運動と栄養素代謝

第5回：運動と食事

第6回：運動と疲労

第7回：運動と環境

第8回：運動処方の実際

第9回：健康増進のための運動

第10回：身体トレーニング

第11回：運動療法1 循環器疾患と運動療法

第12回：運動療法2 呼吸器疾患と運動療法

第13回：運動療法3 代謝性疾患と運動療法

第14回：運動療法4 神経筋疾患と運動療法

第15回：全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	最終的な理解度により評価する
	その他 自由記載		

【受講の心得】

復習を十分行うこと。解剖生理学、臨床栄養学などと関連づけて学習するとよい。

スポーツ栄養に興味を持つ学生には特に受講を薦める

選択科目ではあるが、国家試験を受験するには受講した方が有利である。受講を強く勧める。

【授業外学修】

解剖生理学I, II のうち神経, 筋, エネルギー代謝に関するを十分行なっておくこと。週当たり4時間以上学習すること

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。プリントを配布する。
参考書	自由記載	『運動生理学』, 岸恭一・上田伸男

授業科目名	人間発達学		サブタイトル		授業番号	NK212
担当教員名	福田 求					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 人間の生涯にわたる生理的・心理的・社会的発達過程を概括する。特に、自らの発達課題や摂食障害などの保育・教育上の諸問題についても考察し、将来の子育てや保育・教育の場に必要な基礎的資質を養う。						
【到達目標】 人間の生涯を通じた発達心理学の基礎的な知識を学ぶとともに、自分の性格やアイデンティティの確立などの発達における課題に気づき、より充実した生き方を探求していくための力を身に付けることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」と「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 人間とは何か 第2回 脳の機能 第3回 発達とは何か 第4回 精神分析的人格理論 第5回 エリクソンの発達課題 第6回 ピアジェの認知的発達理論 第7・8回 自分を知るアセスメント 第9回 胎生期・乳児期の発達の諸問題 第10回 幼児期の発達の諸問題 第11回 児童期の発達の諸問題 第12・13回 青年期の発達の諸問題 第14・15回 成人期・老年期の発達の諸問題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	発表の内容や態度、あるいはノートの内容などによって評価する		
	レポート		20%	質問紙法と投影法により知り得た自己像に関する情報を、如何にうまくまとめることができるかを評価する		
	小テスト					
	定期試験		60%	レポート試験により、授業内容をどのように理解して自分の生き方に生かそうとしてしているかを評価する		
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 受け身の姿勢ではなく、問題意識をもって文献などを主体的に講読し、問題の解決に向けて努力しようとする事。						
【授業外学修】 授業毎に紹介された参考文献を次回授業までに読んだり、出された課題を完成させたりして、予習・復習を週当たり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	自由記載	講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。				
参考書	自由記載	講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。				

授業科目名	食品学I		サブタイトル		授業番号	NL101
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
食生活について食物の歴史, 健康, 環境などの観点から解説するとともに食品の5大栄養素についての化学と特性について学ぶ。また, 食品の化学的・物理的な変化と食品成分の特性, さらに食品の機能性についても学ぶ。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・食品の主要成分(栄養成分・嗜好成分・機能性成分)の化学的性質を説明できる。 ・食品成分の変化と栄養の関係について説明できる。 ・食品成分による食品の分類について説明できる。 なお本科目は, ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回	人間と食物, 食品の分類					
第2回	食品成分の化学(水分)					
第3回	食品成分の化学(炭水化物)					
第4~5回	食品成分の化学(アミノ酸, ペプチド, たんぱく質, たんぱく質の構造)					
第6~7回	食品成分の化学(脂質, 脂質の性質)					
第8回	食品成分の化学(ミネラル, ビタミン)					
第9回	食品成分の化学(呈味成分)					
第10~12回	食品成分の変化と栄養(でん粉, たんぱく質, 脂質の変化)					
第13~14回	食品成分の変化と栄養(酵素による変化, 褐変反応)					
第15回	食品の物性, 機能性					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	授業の中間的な理解度を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
予習により疑問点・不明点を明らかにし, 授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし, 知識の定着を図ること。						
【授業外学修】						
1 予習として, 授業内容に関わる教科書の箇所を読み, 疑問点を明らかにする。						
2 復習として, 授業内容・配布資料をノートに纏める。						
3 発展学修として, 授業に関連した参考資料・文献を読み, ノートに纏める。						
以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	改訂マスター食品学I	小関正道	建帛社	2, 600	978-4-7679-0584-6	
	自由記載					

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	わかりやすい食物と健康(1)	吉田勉	三共出版	2, 500	978-4-7827-0647-3
	自由記載				

授業科目名	食品学II		サブタイトル		授業番号	NL202
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
食品の分類、食品原料（植物性食品、動物性食品）の特性と含有する栄養成分、ならびに各種加工食品（食用油脂、調味料、香辛料、微生物利用食等）について学ぶ。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・食品素材における主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。 ・食品加工における成分の変化と栄養の関係について説明できる。 ・食品成分表に基づく食品の分類について説明できる。 なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回	食品の分類					
第2～6回	植物性食品（穀類、いも類、甘味料、豆類、野菜・果実類など）					
第7～11回	動物性食品（魚介類、肉類、卵類、乳類など）					
第12～13回	各種食品（食用油脂、甘味料、調味料、香辛料）					
第14回	各種食品（微生物利用食品）					
第15回	まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	授業の中間時点における理解度を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
予習により疑問点・不明点を明らかにし、授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし、知識の定着を図ること。						
【授業外学修】						
1 予習として、授業内容に関わる教科書の箇所を読み、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、授業内容・配布資料をノートに纏める。						
3 発展学修として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートに纏める。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	改訂マスター食品学II	小関正道	建帛社	2, 500	978-4-7679-0585-3	
自由記載						
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	わかりやすい食物と健康(2)	吉田勉	三共出版	2, 500	978-4-7827-0751-7	

自由記載

授業科目名 **食品学III**

サブタイトル

授業番号 NL403

担当教員名 河野 勇人

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

我々が食べる食品の大半は加工食品である。従って、食品素材としての農林水畜産物の大部分は、収穫、保蔵、加工、流通を経て我々の口に入る。本講義では、これらのうち最も重要な加工工程に的をしぼり、各種の加工方法（物理的方法、化学的方法、微生物利用）を知ると共に、農林産物、畜産物及び水産物について、その加工適性を学ぶ。さらに、食材・食品が有する機能性（生理的役割）についても学ぶ。

【到達目標】

- ・食品加工に伴う食品成分の化学的・栄養学的・物理的变化を説明できる。
- ・主な加工食品について、加工原理を説明できる。
- ・食品の機能性について説明できる。

なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食品の貯蔵と加工の概説（保蔵方法、加工方法）

第2回：食品加工法（物理的・化学的・生物的方法）

第3回：食品の包装方法（包装材料、包装の種類）

第4回：食品の加工と成分変化（油脂の酸化、たんぱく質の変性、変色反応）

第5回：食品添加物（甘味料、着色料、物性付与、保存料、その他）

第6回：加工食品の表示と規格（品質表示、栄養成分表示）

第7回：穀類、豆類の貯蔵とその加工（米、大麦、小麦、豆類の加工および発酵、その他）

第8回：デンプンの貯蔵とその加工（各種デンプンのアルコール発酵、その他）

第9回：野菜・果実類の貯蔵とその加工（CA貯蔵、脱渋、冷凍野菜、乾燥野菜、トマト加工品、ジャム、ゼリー、缶詰、瓶詰、その他）

第10回：肉類の貯蔵とその加工（肉の変色、肉の発色、ハム、ソーセージ、ベーコン、その他）

第11回：乳類の貯蔵とその加工（牛乳の処理方法、チーズ、バター、ヨーグルト、その他）

第12回：魚介類の貯蔵とその加工（呈味成分の経時変化、練り製品、乾燥品、その他）

第13回：食用油脂とその加工（採油、精製、加工技術）

第14回：機能性食品（食品の成分と機能性、関連法規、表示）

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度により評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	授業の中間時点における理解度を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習により疑問点・不明点を明らかにし、授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし、知識の定着を図ること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業内容に関わる教科書の箇所を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業内容・配布資料をノートに纏める。
 - 3 発展学修として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートに纏める。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		食品加工学	菅原龍幸, 宮尾茂雄	建帛社	2, 600	978-4-7679-0550-1
		新しい食品加工学	小川正, 的場輝佳	南江堂	2, 400	978-4-524-25561-0
	自由記載					

授業科目名	食品学基礎実験		サブタイトル		授業番号	NL105
担当教員名	河塚 寛					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	実験		
【授業の概要】						
試薬、器具等の取り扱い方、測定値の取り扱いなど、食品分析に必要な基礎的概念を習得する。次に、日本食品標準成分表の作成にあたって使用されている分析法を用いて、食品の一般成分の定量分析を行う。						
【到達目標】						
食品の定量分析で使用する試薬および実験器具の取り扱い、試薬の調整（質量パーセント、モル濃度、規定濃度）および滴定操作が確実にできる。食品中の水分、灰分、たんぱく質、有機酸の定量ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 食品学基礎実験の概要説明、食品分析に必要な実験器具の取り扱い						
第3・4回 食品分析に必要な理化学機器の基本操作、実験データの処理法						
第5・6回 食品分析用試薬の調整（緩衝液、モル濃度、規定濃度）						
第7・8回 食品の定量分析（水分・灰分）						
第9・10回 食品の定量分析（たんぱく質、試料の湿式分解、滴定試薬の調整）						
第11・12回 食品の定量分析（たんぱく質、試料分解液の蒸留、滴定）						
第13・14回 食品の定量分析（有機酸）						
第15回 まとめと総合討論						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	実験に取り組む態度を評価する。			
	レポート	20%	実験より得られた結果を評価する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	実技試験を行い、理解度および実験の技術を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
安全な服装（白衣、すべりにくい履物）を着用し、配布されたプリントは必ず持参する。						
【授業外学修】						
実験の前には、必ず前回の実験内容を確認しておく。実験後には、実験で学んだ手法、得られた結果について、自ら考察を加え、実験ノートを整理する。1時間以上の学修を要する。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新しい食品学実験 第3版	吉田勉 監修	三共出版	2300円		
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	食品学総論実験	江角彰彦	同文書院	2400円		
	自由記載					

授業科目名	食品学実験		サブタイトル		授業番号	NL106
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	実験		
【授業の概要】 食品成分表において使用されている分析法を用いて、食品の一般成分の定量分析を行う。また、食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い、食品学の講義の内容と関連付けながら、食品の成分と分析に関する理解を深める。						
【到達目標】 ・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ、実験操作の意味を説明できる。 ・食品成分を分析方法に基づいて定量し、食品成分表の数値を説明できる。 ・官能評価の手法を用いて、食品のおいしさを評価できる。 なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回	食品分析の概要説明，食品成分表の解説，食品成分の変化					
第3・4回	食品の定量分析（脂質）					
第5・6回	食品成分（でんぷん）の分離と化学的变化（糊化）の分析					
第7・8回	食品の定量分析（炭水化物）					
第9・10回	旨味成分の分離と定性（核酸系，アミノ酸系），ゲル化剤，増粘剤					
第11・12回	基本5味の官能評価，機器分析（糖度計），還元糖の定性分析					
第13・14回	食品の酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応（アミノカルボニル反応）					
第15回	まとめと総合討論					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。			
	レポート	60%	毎回の実験レポートならびに纏めレポートについて、具体的・論理的に書かれているかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	実験ノートが纏められているかにより評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】 実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ、それを基にレポートを作成すること。						
【授業外学修】 1 予習として、配布プリントに基づいて実験内容を理解し、実験ノートに纏めること。 2 復習として、実験結果・考察を中心に、実験ノートに整理すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新しい食品学実験 第2版		吉田勉	三共出版	2, 300	978-4-7827-0563-6
	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	調理学		サブタイトル		授業番号	NL107
担当教員名	木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
調理とは、食品材料を安全でおいしい食べ物に変えることである。調理学では、食べ物の特性を踏まえた食事設計ができるように、食材の選択、調理・供食までの工程の中での調理の役割についてを学修する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理と、加熱操作における熱の伝わり方を理解する。 ・さまざまな食材の調理特性や、調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：調理の意義・目的、食事設計の基本 第2回：食品成分表 第3回：調理と嗜好性 第4回：加熱調理操作 第5回：非加熱調理操作・調味操作 第6回：米の調理 第7回：小麦粉の調理 第8回：いも、豆、種実類の調理 第9回：野菜の調理 第10回：果実、きのこ、藻類の調理 第11回：獣鳥肉類の調理 第12回：魚介類の調理 第13回：鶏卵、牛乳・乳製品の調理 第14回：砂糖、油脂の調理 第15回：ゲル化剤の調理						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
他の科目や実習との関連性を把握できるように、復習を必ずしておくこと。						
【授業外学修】						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、授業時間に学んだ範囲の配布プリントをまとめる。 3. 発展学修として、関連科目（調理学実習等）の教科書を読み、知識を結びつける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN

新調理学	下村道子, 和田淑子 編著	光生館	2, 400	978-4-332-05038-4
日本食品標準成分表 2015年版(七訂)本表編	医歯薬出版 編	医歯薬出版株式会社	1, 300	978-4-263-70648-0
調理のためのベーシックデータ	松本伸子	女子栄養大学出版部	1, 800	978-4-7895-0317-4
新調理学実習—基本調理から給食への展開—	宮下朋子・村元美代	同文書院	2, 500	978-4-8103-1457-1

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **調理学実習I**

サブタイトル

授業番号 NL108

担当教員名 木野山 真紀 山口 享子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 実習

【授業の概要】

調理に関する知識・技術は、給食経営管理、臨床栄養管理、応用栄養管理など管理栄養士の主要業務の基礎として重要である。調理学実習Iでは、正しい計量、材料や調理に応じた食品の切り方・扱い方、食品の性質と調理・加工法、季節による食材の特性、廃棄率・調味パーセントの意味と計算方法など、調理の基礎として必要不可欠な事項を学修する。

【到達目標】

- ・衛生的に調理を行うための身支度や調理上の衛生管理についてを理解し、基礎的技術を修得する。
- ・切る、潰す、混ぜる、計量するなどの非加熱操作の基礎的技術を修得する。
- ・炊く、煮る、蒸す、焼く、揚げるなどの加熱操作の基礎的技術を修得する。
- ・廃棄率・調味パーセントなど、食事設計に必要な計算方法の知識を修得する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1・2回 調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則、身支度、衛生管理など）、調理器具の説明、計量の実際（計量器の種類と用途、調味料の計量）、小麦粉の調理

第3・4回 包丁の正しい持ち方、乾物などの重量変化、食品の正味重量と廃棄率、パスタの調理

第5・6回 献立の基本構成と献立の評価、食器のセッティング、各種調理の調味割合、炊飯の基本、魚のさばき方、焼き魚の調理、混合だしの基本

第7・8回 各種調理の調味割合・調味計算、野菜の調理（煮物、和え物）、寒天の調理特性、豆類の調理（あん）

第9・10回 各種調理の調味割合・調味計算、煮魚の基本、希釈卵液を使った調理、蒸し物調理の基本、根菜の調理法

第11・12回 各種調理の調味割合・調味計算、煮干だしの基本、揚げ物調理の基本

第13・14回 西洋料理の食器とセッティング、肉の焼き物料理、いも類の調理、果実中のペクチンのゼリー化について、ゼラチンの調理特性

第15回 まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	20%	毎回実習テーマに沿った課題と、実習した料理を自宅で作りまとめる課題を課す。初回にレポートの書き方と、毎回調べ学習するポイントを示すが、ポイントを抑えてまとめられているか評価する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載	30%	実技試験。身支度、包丁の基礎的技術、片付けまでを評価する。

【受講の心得】

毎回調理内容に関する課題を出すので、常日頃から調理、食品に興味関心を持って情報収集に努めること。

【授業外学修】

復習として、

1. 実習した料理は必ず自宅で作り、食べてもらって評価してもらうこと。
2. 課題のレポートを書く。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	2, 700	978-4-8103-1457-1
	新調理学	下村道子, 和田淑子 編著	光生館	2, 400	978-4-332-05038-4
使用テキスト	日本食品成分表2018七訂	医歯薬出版編	医歯薬出版株式会社	1, 300	978-4-263-70723-4
	調理のためのベーシックデータ	松本伸子	女子栄養大学出版部	1, 800	978-4-7895-0317-4
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子, 森美奈子	化学同人	1, 500	978-4-7598-1826-0
	自由記載	書名：日本食品大事典 著者名：杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美 出版社：医歯薬出版株式会社 定価：9, 000 ISBN978-4-263-70716-6			
参考書	自由記載				

授業科目名	調理学実習II		サブタイトル		授業番号	NL109
担当教員名	木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
【授業の概要】 調理学実習IIでは、調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに、献立作成に関する知識・技術や、調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え、栄養成分の量の増減、あるいは調理上の工夫によって各栄養成分をコントロールする方法も学ぶ。						
【到達目標】 ・栄養価計算の手法を身につける。 ・献立の基本構成と、献立立案から評価・見直しまでの一連の流れを理解し、献立全体を評価・見直しする能力を身につける。 ・さまざまな食材を知り、献立作成における栄養成分の量の増減、調理上の工夫によって各栄養成分をコントロールする方法を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 栄養価計算について、献立の基本構成（エネルギー）、お弁当献立 第3・4回 献立の基本構成（主食・副食とその組み合わせ）、郷土料理 第5・6回 献立の基本構成（カルシウム、鉄）、麺を使った料理（学校給食から） 第7・8回 献立の基本構成（野菜の量）、西洋料理の献立 第9・10回 献立の基本構成（食塩相当量）、行事食（クリスマス料理） 第11・12回 献立の基本構成（食塩相当量）、行事食（正月料理） 第13・14回 献立の基本構成（全体を評価する）、中国料理の献立 第15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	70%	毎回、実習テーマに沿った課題と実習の料理を自宅で作る課題を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 毎回調理内容に関する課題を出すので、常日頃から調理、食品に興味関心を持って情報収集に努めること。						
【授業外学修】 復習として、 1. 実習した料理は必ず自宅で作り、食べてもらって評価してもらうこと。 2. 課題のレポートを書く。 3. 日頃から、食材の重量感覚を養い、1食もしくは1品の料理の分量を意識する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美 代 編著	同文書院	2, 700	978-4-8103-1457-1
新調理学	下村道子, 和田淑子 編著	光生館	2, 400	978-4-332-05038-4
日本食品成分表2018七訂	医歯薬出版編	医歯薬出版株式会社	1, 300	978-4-263-70723-4
調理のためのベーシックデータ	松本仲子	女子栄養 大学出版部	1, 800	978-4-7895-0317-4
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立 作成の基礎	坂本裕子・森美奈子	化学同人	1, 500	978-4-7598-1826-0
自由記載	書名：日本食品大事典 著者名：杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美 出版社：医歯薬出版株式会社 定価：9, 000 ISBN978-4-263-70716-6			

参考書

自由記載

授業科目名	調理学実験		サブタイトル		授業番号	NL210
担当教員名	木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	実験		
【授業の概要】 調理学実験では、食品の調理性や調理中における現象、調理に際して起こりやすい失敗の原因についての疑問を実際の調理と関連付けて学修する。						
【到達目標】 ・実験を通してさまざまな食材の特性を科学的に理解し、調理や献立作成に応用できる力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 だしに関する実験、嗜好性の主観的評価・客観的評価 第3・4回 米・小麦粉に関する実験 第5・6回 野菜に関する実験 第7・8回 肉・魚に関する実験 第9・10回 卵・牛乳に関する実験 第11・12回 いも・砂糖に関する実験 第13・14回 寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験 第15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート	70%	初回にレポートの書き方について説明する。実験の目的、実験方法、結果、考察が具体的に記載できているかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 これまでに学んだ調理学に関連する科目の復習を必ずしておくこと。						
【授業外学修】 1. 予習として、教科書の実験内容にかかわる部分を読んでおく。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展課題として、実験内容にかかわる料理を作る。 以上の内容を、週あたり1時間以上学修する。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	調理科学実験	長尾慶子・香西みどり 編著	建帛社	1, 900	978-4-7679-0384-2	
	新調理学	下村道子, 和田淑子 編著	光生館	2, 400	978-4-332-05038-4	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

NEW 調理と理論	山崎清子, 島田キミ 工 他	同文書院	2, 600	978-4-8103-1395-6
コツと科学の 調理事典	河野友美 著	医歯薬出版株式会社	3, 400	978-4-263-70264-2
自由記載				

授業科目名 **食品衛生学**

サブタイトル

授業番号 NL211

担当教員名 川野 光興

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

食品衛生学は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、健康な生活を確保することを目的とした学問である。食に関する専門家である管理栄養士・栄養士として、社会で活躍するための基礎的な衛生知識を習得する。すなわち、食品衛生の概論、食品の安全に関する関連法令、食中毒等の健康危害の種類と特徴、食品添加物の有効性と安全性および食品の表示等について学ぶ。

【到達目標】

- ・食品を介して発生する健康危害要因を説明できる。
- ・食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法が説明できる。
- ・食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法の概要が説明できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食品衛生の現状と課題

第2回：食品衛生行政と法規

第3回：食品衛生と微生物、食品の変質と防止

第4回：食中毒（食中毒の分類、発生状況）

第5回：食中毒（微生物性食中毒、自然毒食中毒、化学物質による食中毒）

第6回：食品による感染症（経口感染症）

第7回：食品と寄生虫（食品を媒介する寄生虫、原虫）

第8回：衛生指標菌（生菌数、大腸菌群、腸球菌、腸内細菌科菌群）と異物

第9回：有害物質による食品汚染（カビ毒、ダイオキシン類、芳香族炭化水素、有害元素）

第10回：食品添加物（食品添加物の指定、安全性評価、使用基準）

第11回：食品添加物（食品添加物の有用性、表示基準）

第12回：食品の表示（食品表示基準、遺伝子組換え食品、アレルギー含有食品、特別用途食品、保健機能食品）

第13回：器具と容器・包装に関する衛生

第14回：食品従事者による食品衛生対策

第15回：全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	中間試験、中間的な理解度を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

食中毒など食品衛生に関する記事が新聞やニュースに度々出てくるので、世の中の出来事に日頃から関心を持ち、講義に臨むこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業内容をノートにまとめる。
- 3 発展学修として、食品衛生に関する新聞記事やニュースを読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Nブックス 新版 食品衛生学[第2版]	伊藤 武, 古賀信幸 編著	建帛社	2, 600円	978-4-7679-0593-8
	自由記載				
参考書	自由記載	『食品安全の事典』 日本食品衛生学会 編, 朝倉書店 『食品衛生小六法』 新日本法規出版 『新訂版 クイックマスター 微生物学』 西條政幸 著, サイオ出版			

授業科目名	食品衛生学実験		サブタイトル		授業番号	NL212
担当教員名	川野 光興					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	実験		
【授業の概要】						
食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため、微生物や食品添加物等に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・食品、器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。 ・食品添加物などの化学物質の基礎的な検査技術を説明することができる。 ・実験データを整理し、レポートにまとめることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 微生物等を扱う際の注意点、機器・器具の説明、実験ノートの書き方 第3・4回 食品の寄生虫検査、ヒスタミンの検出 第5・6回 培養培地の調整、空中落下細菌・真菌の採取と培養、食品あるいは鼻腔等からの食中毒細菌の培養検出 第7・8回 空中落下細菌・真菌、食中毒細菌の計測、コロニー形態の観察、検出細菌のグラム染色 第9・10回 食品中の大腸菌群検査・生菌数の測定、衛生的手洗いの実践と手指の生菌数の測定 第11・12回 食器の残留物質の簡易検出、残留中性洗剤の簡易検出、合成洗剤の鑑別、食品添加物（着色料） 第13・14回 食品添加物（着色料、発色剤、漂白剤、保存料）の分析 第15回 全体のまとめ、要点・重要事項の整理						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な実験態度によって評価する。			
	レポート	40%	第1回目の授業で示した実験ノートの書き方にそって、実験目的、実験手順、結果、考察を具体的に記載しているかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので、十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。						
【授業外学修】						
1 予習として、配布プリントを参考に、実験目的、実験方法を実験ノートに記載する。 2 復習として、実験結果、考察を実験ノートに整理すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	図解 食品衛生学実験	一戸正勝他	講談社	2000円	978-4-06-139536-8	
自由記載						
参考書	自由記載	『Nブックス 新版 食品衛生学』 伊藤武, 古賀信幸 編著, 建帛社				

授業科目名	基礎栄養学I		サブタイトル		授業番号	NM101
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】 人が摂取した食物中の栄養素がどのように代謝され、生体内で利用されているかを学習する。栄養の意義について学習し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、食物の消化と吸収、各栄養素の代謝とそれらの生理学的意義を学習する。						
【到達目標】 栄養とは何か。食物はどのように体内に取り込まれるのか。栄養素は体内でどのような役割があるのか。またそれらはどのように体外に出るのか。これらの事について栄養学的に理解し、説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 栄養の概念 第3・4回 摂食行動 第5～8回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第9～12回 糖質の栄養 第13・14回 脂質の栄養 第15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	積極的に質問する等、意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	90%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 常に疑問点を持ち授業に臨むこと。ただし疑問点は自己解決できるよう努めること。						
【授業外学修】 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	基礎栄養学(第3版)	高 早苗・柳 進・河田 哲典・山田 英明・関 周司 共著	三共出版	2,700円	978-4-7827-0728-9	
自由記載						
参考書	自由記載					

授業科目名 **基礎栄養学II**

サブタイトル

授業番号 NM202

担当教員名 真鍋 芳江

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

人が摂取した食物中の栄養素がどのように代謝され、生体内で利用されているかを学習する。また、遺伝子とその発現を理解し、遺伝子発現に関連する栄養素についても学習する。

【到達目標】

食物中の栄養素の代謝とエネルギー代謝およびその生理学的意義について説明できる。さらに、遺伝子発現と栄養素および生活習慣との関連について理解でき、説明できることを目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：栄養素の機能 糖質
- 第2回：エネルギー代謝 糖代謝
- 第3回：栄養素の機能 脂質
- 第4回：エネルギー代謝 脂質代謝
- 第5回：栄養素の機能 たんぱく質
- 第6回：エネルギー代謝 たんぱく質・アミノ酸
- 第7回：栄養素の機能 ビタミン
- 第8回：栄養素の機能 ミネラル
- 第9回：水・電解質の機能
- 第10回：水・電解質の機能
- 第11回：機能性非栄養成分
- 第12回：遺伝子情報の発現と調節
- 第13回：遺伝子発現と栄養
- 第14回：エネルギー代謝 エネルギーの出納・代謝に影響する因子
- 第15回：エネルギー代謝 代謝の調節機能

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	積極的に質問する等、意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	90%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

予習と復習を行う。特に復習を必ず行うこと。また、疑問点、わからないことは教科書、参考書等でよく調べておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業の内容をノートにまとめる。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	基礎栄養学(第3版)	高 早苗・柳 進・ 河田 哲典・山田 英明・関 周司 共 著	三共出版	2, 700円	978-4- 7827- 0728-9
	自由記載	「基礎栄養学」, 高 早苗・柳 進・河田 哲典・山田 英明・関 周司 共著, 三共出版			
参考書	自由記載	「基礎栄養学」, 林 淳三・山本 孝史・鈴木 和春・木元 幸一, 建帛社「分子栄養学」, 榎原 隆三 編, 建帛社			
【注意事項】 榎 木示申					

授業科目名	栄養学実習		サブタイトル		授業番号	NM203
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	実習		
【授業の概要】 食事調査や生活活動調査等のデータを用い自己分析を行う中で、基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して確認する。 併せて、身体測定、食事調査、活動量の測定などアセスメントに必要な技術を修得する。						
【到達目標】 実習を通して科学的なものの考え方を修得すると同時に、実践力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 栄養状態の評価判定の意義と方法 第3・4回 栄養アセスメントに関する測定 第5・6回 食習慣調査 第7・8回 生活活動調査 第9・10回 調査データの整理、解析 第11・12回 課題の検討 第13・14回 プレゼン資料の作成 第15回 まとめ（発表会）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	自己課題の発表内容とファイル提出によって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載	レポート（100%）により評価する。					
【受講の心得】 実習は実際に行って初めて修得できる科目であり、正当な理由なしの欠席は原則認めない。						
【授業外学修】 1 予習として、各自の調査データを丁寧に集めてくること。 2 復習として、課題のレポートを書く。 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること						
使用テキスト	自由記載	適宜プリントを配布する。				
参考書	自由記載	「基礎栄養学」、高 早苗、柳 進、河田哲典、山田英明、関 周司 共著、三共出版 「ヒューマン・ニュートリション－基礎・食事・臨床」第10版 日本語版、J. S. Garrow, A. Ralph, W. P. T. James（編集）、細谷憲政（日本語監修）、医歯薬出版				

授業科目名 **応用栄養学I**

サブタイトル

授業番号 NN201

担当教員名 多田 賢代

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は、栄養ケアプロセスの基本を学び、食事摂取基準を理解し、ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて学ぶことを目的とする。始めに、栄養ケアプロセスと栄養状態の評価判定法について講義し、次いで「日本人の食事摂取基準」の概念および策定の科学的根拠について説明する。その上で、妊娠期、授乳期、乳児期の心身の特性と栄養状態の評価・判定法、栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。

【到達目標】

管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し、妊娠期・授乳期、乳児期の特性と栄養評価、栄養管理について説明できるようになることを目的とする。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：栄養ケアプロセス1 栄養管理の概念と基本的事項
- 第2回：栄養ケアプロセス2 栄養状態の評価・判定の意義、栄養状態に影響する要因
- 第3回：栄養ケアプロセス3 栄養状態の判定方法、栄養診断と栄養ケアプランの基本
- 第4回：食事摂取基準の解説1 「日本人の食事摂取基準（2015年版）」の策定主旨、概念
- 第5回：食事摂取基準の解説2 エネルギー、たんぱく質について
- 第6回：食事摂取基準の解説3 脂質、炭水化物について
- 第7回：食事摂取基準の解説4 ビタミン、ミネラルについて
- 第8回：発育・発達・加齢と栄養1 発生から死まで、成長・発達による変化と栄養
- 第9回：発育・発達・加齢と栄養2 加齢に伴う身体的・精神的変化、高齢者の特異性
- 第10回：母性栄養1 女性の特性と妊娠、出産、乳汁分泌の仕組み
- 第11回：母性栄養2 妊娠期の栄養と評価・判定、栄養管理
- 第12回：母性栄養3 授乳期の栄養と評価・判定、栄養管理
- 第13回：乳児栄養1 乳児の身体状況の変化と成長・発達
- 第14回：乳児栄養2 乳児期の栄養補給
- 第15回：乳児栄養3 乳児期の健康障害、栄養状態の評価・判定、栄養管理

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

毎回の授業が、管理栄養士になるための基礎づくりであり、国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、ノート整理を行い、小テストの見直しを行う。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学』	灘本知憲, 宮谷秀一 編	化学同人	2900+税	978-4-7598-1638-9
	『日本人の食事摂取基準 (2015年版) 』	菱田明, 佐々木敏 監修	第一出版	2700+税	978-4-8041-1312-8
	自由記載	その他適宜資料を配布する。			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会 監訳	第一出版	3400+税	978-4-8041-1270-1
	自由記載				

授業科目名 **応用栄養学II**

サブタイトル

授業番号 NN202

担当教員名 多田 賢代

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は応用栄養学Iに引き続き、栄養ケアプロセスの基本を学び、食事摂取基準を理解し、ライフステージにおける栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて講義する。ライフステージは、幼児期から高齢期までの心身の特性と栄養状態の評価・判定、栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。また、運動・スポーツにおける栄養、様々な環境下における栄養との関係についても講義する。

【到達目標】

管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し、幼児期から高齢期までの特性と栄養評価、栄養管理について説明できるようになることを目的とする。また、運動の生活習慣病予防への効果、スポーツ時の栄養管理、様々な環境下における栄養との関係などについても理解する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：幼児期の栄養1 幼児期の身体状況の変化と成長・発達
- 第2回：幼児期の栄養2 栄養状態の変化，栄養状態の評価・判定
- 第3回：幼児期の栄養3 幼児期の食生活と栄養管理
- 第4回：学童期の栄養1 身体の成長・発達と栄養状態の特性と評価・判定
- 第5回：学童期の栄養2 食習慣の変化，健康上の問題点と栄養管理
- 第6回：思春期の栄養1 思春期の身体発育，栄養状態の特性と評価・判定
- 第7回：思春期の栄養2 食生活，健康上の問題点と栄養管理
- 第8回：成人期・更年期の栄養1 成人期・更年期の身体機能，栄養状態の変化
- 第9回：成人期・更年期の栄養2 生活習慣病と栄養管理
- 第10回：高齢期の栄養1 身体状況の変化
- 第11回：高齢期の栄養2 栄養状態の変化，栄養状態の評価・判定
- 第12回：高齢期の栄養3 食生活，健康上の問題点と栄養管理
- 第13回：運動・スポーツと栄養1 健康づくりのための運動
- 第14回：運動・スポーツと栄養2 スポーツと栄養
- 第15回：環境と栄養

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

毎回の授業が、管理栄養士になるための基礎づくりであり、国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、ノート整理を行い、小テストの見直しを行う。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学』	灘本知憲, 宮谷秀一 編	化学同人	2900+税	978-4-7598-1638-9
	『日本人の食事摂取基準 (2015年版) 』	菱田明, 佐々木敏 監修	第一出版	2700+税	978-4-8041-1312-8
	自由記載	その他適宜資料を配布する。			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会 監訳	第一出版	3400+税	978-4-8041-1270-1
	自由記載				

授業科目名 **応用栄養学実習**

サブタイトル

授業番号 NN203

担当教員名 多田 賢代

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 実習

【授業の概要】

応用栄養学I, IIで学んだ各ライフステージの身体上, 健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として, 乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び, 技能を修得する。

【到達目標】

各ライフステージの対象者に対する栄養評価, 適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ, 各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。

なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：発育・発達・加齢と栄養, 栄養マネジメントの方法と手順
- 第2回：妊娠期の栄養管理 (1)妊娠期の特性と栄養アセスメント
- 第3回：妊娠期の栄養管理 (2)妊娠期の栄養ケアプラン
- 第4回：乳幼児の栄養管理 (1)乳児期の特性と栄養アセスメント
- 第5回：乳幼児の栄養管理 (2)乳児期の栄養ケアプラン
- 第6回：幼児期の栄養管理 (1)幼児期の特性と栄養アセスメント, 保育所給食献立作成
- 第7回：幼児期の栄養管理 (2)幼児期の栄養ケアプラン
- 第8回：幼児期の栄養管理 (3)アレルギーがある場合の栄養ケアプラン
- 第9回：学童期の栄養管理 (1)学童期の特性と栄養アセスメント
- 第10回：学童期の栄養管理 (2)学童期の栄養ケアプラン
- 第11回：成人期の栄養管理 (1)成人期の特性と栄養アセスメント
- 第12回：成人期の栄養管理 (2)生活習慣病予防の栄養ケアプラン
- 第13回：高齢期の栄養管理 (1)高齢期の特性と栄養アセスメント
- 第14回：高齢期の栄養管理 (2)高齢期の栄養ケアプラン
- 第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。
	レポート	80%	授業内容のまとめとして出される課題により, 技能の修得に役立たすこと。課題については, 確認し返却をする。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品, 調理, 献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう, 班員間のコミュニケーションを密にする。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、授業外に学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『応用栄養学実習—ケーススタディーで学ぶ マネジメント—』	五関正江, 小林三智 子 編	建帛社	2700+税	978-4- 7679- 0519-8
	『日本人の食事摂取基準 (2015年版) 』	菱田明, 佐々木敏 監修	第一出版	2700+税	978-4- 8041- 1312-8
	自由記載 適時, 資料を配布する。				
参考書	自由記載				

授業科目名 **応用栄養学III**

サブタイトル

授業番号 NN304

担当教員名 多田 賢代

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は応用栄養学IおよびII, 応用栄養学実習で学んだ栄養ケアプロセス, 食事摂取基準, ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養管理を基礎知識として, 妊娠期, 乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定に関する知識を深め, 栄養診断, 栄養ケア計画のための技能を養う。

【到達目標】

「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の知識を活用し, 妊娠期, 乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定を行い, 的確な栄養診断, 栄養ケア計画が出来るようになることを目的とする。

なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回: 栄養管理プロセス1 栄養管理の概念と進め方
- 第2回: 栄養管理プロセス2 食事摂取基準と栄養改善の計画と実施
- 第3回: 妊娠期・授乳期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定
- 第4回: 妊娠期・授乳期の栄養2 事例による栄養診断, 栄養ケア計画
- 第5回: 乳幼児期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定
- 第6回: 乳幼児期の栄養2 事例による栄養診断, 栄養ケア計画
- 第7回: 学童期・思春期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定
- 第8回: 学童期・思春期の栄養2 事例による栄養診断, 栄養ケア計画
- 第9回: 成人期・更年期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定
- 第10回: 成人期・更年期の栄養2 事例による栄養診断, 栄養ケア計画
- 第11回: 高齢期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定
- 第12回: 高齢期の栄養2 事例による栄養診断, 栄養ケア計画
- 第13回: 運動・スポーツと栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定
- 第14回: 運動・スポーツと栄養2 事例による栄養診断, 栄養ケア計画
- 第15回: まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。
	レポート	20%	授業内容のまとめとして出される課題により, 問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については, 確認し返却をする。
	小テスト	20%	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

毎回の授業が, 管理栄養士になるための基礎づくりであり, 国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。また、小テストの見直しを行う。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『応用栄養学実習—ケーススタディで学ぶマネジメント—』		五関正江, 小林三智子 編	建帛社	2700+税	978-4-7679-0519-8
	『新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学』		灘本知憲, 宮谷秀一 編	化学同人	2900+税	978-4-7598-1638-9
	『日本人の食事摂取基準 (2015年版) 』		菱田明, 佐々木敏 監修	第一出版	2700+税	978-4-8041-1312-8
	栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学 第5版		木戸康博, 小倉嘉夫, 眞鍋祐之	講談社	2800+税	978-4-06-155392-7
	自由記載	その他適宜資料を配布する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『栄養ケアプロセス用語マニュアル』,		公益社団法人日本栄養士会 監訳	第一出版	3400+税	978-4-8041-1270-1
	自由記載					

授業科目名	栄養教育論I		サブタイトル		授業番号	NO201
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>栄養教育論Iでは、栄養教育の大切さを多面的に理解し、対象者のパーソナリティー・食環境・食行動・問題点・理解度などの情報を得るために行動科学を学ぶ。情報を引き出すには、コミュニケーション力・カウンセリング力・コーチング力が必要であり、この3つの力を養えるよう講義に組み込んでいく。また、適切な栄養マネジメントの必要性を理解し、適切に行える知識と技術を学修する。</p>						
【到達目標】						
<p>栄養教育の概念・理論を正しく理解した上で栄養教育における行動科学を理解できるよう学修する。栄養教育における理論をもとに総合的な栄養マネジメントを行うための基礎力を修得する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能・態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：栄養教育の概念（1） 栄養教育の目的・目標，対象と機会</p> <p>第2回：栄養教育の概念（2） 栄養指導・栄養教育の歴史</p> <p>第3回：行動科学理論と栄養教育(1) 栄養教育，行動科学，行動療法</p> <p>第4回：行動科学理論と栄養教育(2) 行動療法における問題解決のしかた，行動療法からみた食行動の特性</p> <p>第5回：行動科学理論と栄養教育(3) 食行動のとらえかたとアセスメント， 健康増進や生活習慣のコントロールに共通した行動技法</p> <p>第6回：行動科学理論と栄養教育(4) 行動に影響する心理社会的要因，習慣変容に必要な条件</p> <p>第7回：行動科学理論と栄養教育(5) 食行動変容と心理，大規模集団や地域レベルの変化についての行動科学理論</p> <p>第8回：カウンセリングの基本と栄養カウンセリング カウンセリングの方法，行動変容面接の実際，退陣コミュニケーションの種類</p> <p>第9回：組織づくり・地域づくりへの展開と食環境づくり(1) 学習段階の発展</p> <p>第10回：組織づくり・地域づくりへの展開と食環境づくり(2) 食環境づくりと栄養教育</p> <p>第11回：栄養教育マネジメント アセスメントと栄養教育計画の立案について</p> <p>第12回：栄養教育のためのアセスメント 意義と目的，情報収集の方法，アセスメントの種類と方法</p> <p>第13回：栄養教育計画(1) プログラム，目標設定</p> <p>第14回：栄養教育計画(2) 栄養教育方法の選択，学習形態選択と組み合わせ</p> <p>第15回：栄養教育計画(3) 教材の目的と活用法，プログラムの作成</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの 姿勢／態度	10%	受講態度を評価する。
レポート		
小テスト	30%	理解度を評価する。
定期試験	60%	到達目標への理解度を評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

栄養教育論Iは、様々な対象者への栄養教育の根本となる。

講義の内容がより深く理解できるよう、予習・復習を欠かすことなく受講すること。

【授業外学修】

1. 講義で学んだことや不明なキーワードは、正しい情報源によって確認し、まとめておくこと。

2. 講義内容については、使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。

以上の内容に関しては、週当たり4時間以上かけて学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養教育論 改訂第4版	丸山千寿子, 足達淑子, 武見ゆかり	南江堂	3, 200円	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	栄養教育論II	サブタイトル		授業番号	NO302
担当教員名	安原 幹成				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】 管理栄養士は授乳期から終末期までのすべてのステージにおいて「食生活」に対する教育と正しい判断力が要求される。 課題に対して正しく判断できる力を習得する。 また、栄養教育論Iで学修したことを更に掘り下げ、ライフステージおよびライフスタイル別の栄養教育を学ぶ。 各段階における様々な特性を考慮した栄養教育が必要であり、個人および集団を対象とした栄養教育について学修する。</p>					
<p>【到達目標】 (1) 栄養教育の実施者として必要な技術と方法を理解し、習得する。 (2) 栄養教育の評価方法を理解し正しく評価する力を習得する。 (3) ライフステージ・ライフスタイル別および個人・集団での健康状態と栄養教育を理解し、習得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

第1回：栄養教育の実施

栄養教育実施者の技術，実施に向けての準備作業

第2回：栄養教育の評価

評価の意義・種類・手順，結果のフィードバック

第3回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル

プリシード・プロシードモデル，ソーシャルマーケティング

第4回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（1）

妊娠・授乳期

第5回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（2）

乳・幼児期，市町村母子保険事業

第6回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（3）

保育所・幼稚園の食育

第7回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（4）

学童期

第8回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（5）

思春期)

第9回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（6）

成人期

第10回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（7）

地域における栄養教育

第11回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（8）

高齢期

第12回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（9）

介護予防・介護と栄養教育

第13回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（10）

障害者

第14回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（11）

傷病者

第15回：ライフステージ・ライフスタイル，健康状態と栄養教育（12）

医療機関における栄養教育の実際

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	受講態度を評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	理解度を評価する。
	定期試験	60%	到達目標の理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

栄養教育論IIIは，ライフステージおよびライフスタイル別の対象者への栄養教育をより具体的に学修する。講義内容がより深く理解できるよう，予習・復習を欠かさずことなく受講すること。

【授業外学修】

1. 講義で学んだことや不明なキーワードは，正しい情報源によって確認し，まとめておくこと。
2. 講義内容については，使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。以上の内容に関しては，週当たり4時間以上かけて学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養教育論 改訂第4版	丸山千寿子, 足達淑子, 武見ゆかり	南江堂	3, 200円	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	栄養教育実習I		サブタイトル		授業番号	NO203
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	実習		
【授業の概要】						
<p>栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では、栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込んで学修する。実習を進める上で個人およびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など、現実により近い状態で模擬訓練を行う。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教育の場で求められる知識を理解・修得し、様々な教育の場で活用することができる。 ・コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し、修得することができる。 ・状況に応じた食事調査法の判断力と栄養摂取量の把握、アンケート作成、二次データ利用とその活用法を修得する。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第 1・ 2回	栄養教育のためのアセスメント（1）		初回面接と情報収集（カウンセリング技法）			
第 3・ 4回	栄養教育のためのアセスメント（2）		対象者別栄養状態（身体状況）の把握			
第 5・ 6回	栄養教育のためのアセスメント（3）		習慣的な栄養摂取量の把握			
第 7・ 8回	栄養教育のためのアセスメント（4）		フォーカスグループインタビュー			
第 9・ 10回	栄養教育のためのアセスメント（5）		一次データとしての質問紙設計、二次データの収集と利用			
第 11・ 12回	栄養教育のためのアセスメント（6）		栄養教育技法を含めたロールプレイの実践			
第 13・ 14回	栄養教育の実際（1）		栄養教育の実際 栄養教育計画の立て方			
第 15回	栄養教育の実際（2）		まとめ			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	個人およびグループ内での発言、発表状況、質問などから評価する。			
	レポート	60%	個人、グループのワークシート			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	グループで取り組んだ内容について評価する。			
自由記載						
【受講の心得】						
<p>個人とグループワークの学修方法になる。特にグループにおける協働作業では、個々の力が偏りなく、活発な意見交換を行うこと。</p> <p>日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくこと本実習で円滑な作業が期待できる。</p> <p>学修した多くの情報は、臨地実習や社会人として、現場で活かすことができるため、積極的に取り組むこと。</p>						
【授業外学修】						
<p>実習中の内容を振り返り、修得したことや問題点と課題などの復習を行う。</p> <p>また、予習として次の実習が円滑に行えるよう、関連する情報や提案材料を収集しておく。</p> <p>これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

マスター栄養教育論実習

佐藤香苗, 杉村留美 建帛社 2, 200円
子

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	栄養教育実習Ⅱ		サブタイトル		授業番号	NO304
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
【授業の概要】						
<p>栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では、栄養教育におけるPDCAサイクル組み込んで学修する。</p> <p>実習を進めて行く上でペアワークおよびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得する。実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など、現実により近い状態で模擬訓練を行う。</p>						
【到達目標】						
<p>ライフステージおよびライフスタイルにおける特徴を理解した上でより有効な栄養教育法を判断できる力を習得する。</p> <p>その場に相応しい栄養教育方法を実践するための技術を学修する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
<p>第1・2回 乳幼児期、学童期（小学生）の栄養教育、思春期（中学生・高校生）の栄養教育</p> <p>第3・4回 成人期の栄養教育 グループダイナミクスを用いて</p> <p>第5・6回 模擬患者を用いた面接技法と指導記録（SOAP）</p> <p>第7・8回 客観的臨床能力試験（OSCE）とフィードバックを反映したロールプレイ</p> <p>第9・10回 高齢期の栄養支援（高齢者施設）</p> <p>第11・12回 高齢期の栄養支援（在宅訪問栄養食事指導）</p> <p>第13・14回 スポーツと栄養教育、地域における栄養教育</p> <p>第15回 まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	個人およびグループ内での発言、発表状況、質問などから評価する。			
	レポート	60%	個人、グループのワークシート			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	グループで取り組んだ内容について評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
<p>実践に近いライフステージ別の実習となるため、それぞれが積極的に発言する機会を得ること。</p> <p>また、グループ内でも協力してチーム力が発揮できるよう努力する。</p> <p>学修した多くの情報は、臨地実習や社会人として、現場で活かすことができるため、積極的に取り組むこと。</p>						
【授業外学修】						
<p>実習中の内容を振り返り、習得したことや問題点と課題の復習を行う。</p> <p>予習として次の実習が円滑に行えるよう、関連する情報や提案材料を予め収集しておく。</p> <p>これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	マスター栄養教育論実習	佐藤香苗・杉村留美子	建帛社	2, 200		

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **カウンセリング論**

サブタイトル

授業番号 NO305

担当教員名 平尾 太亮

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

カウンセリングに関わる基礎理論を獲得するとともに、ロールプレイや事例検討を通して、カウンセリングに関する技術の修得を目的とする。

【到達目標】

- ・カウンセリングの知識について、基礎的な知識を獲得する。
- ・カウンセリングの基礎的な技法について、実際の場面で使うことができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：カウンセリングとは？

第2回：カウンセリングの理論1：精神分析療法

第3回：カウンセリングの理論2：認知行動療法，論理療法

第4回：カウンセリングの理論3：来談者中心療法

第5回：カウンセリング・マインドを考える

第6回：カウンセリングのすすめ方1：インテーク面接

第7回：カウンセリングのすすめ方2：アセスメント1

第8回：カウンセリングのすすめ方3：アセスメント2

第9回：カウンセリングのすすめ方4：介入と終結

第10回：カウンセリングにおける具体的なテクニック1：相づち，反射，開いた質問，閉じた質問

第11回：カウンセリングにおける具体的なテクニック2：要約，明確化

第12回：事例検討 1

第13回：事例検討 2

第14回：ロールプレイ

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
	レポート	30%	全講義終了後，カウンセリングにおける知識と視点をふまえて総合的に論じることができる。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	事例検討（30%）やロールプレイ（20%）に積極的に参加し，意見を出すことができる。
	自由記載		

【受講の心得】

様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した，カウンセリングに関わる基礎理論を復習すること。
2. 事例について，様々な視点から考えられるように深く読み込むこと。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **食行動学**

サブタイトル

授業番号 NO306

担当教員名 満手 千賀子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

ヒトの食行動は、単に生命維持を目的とした生理的なものだけでなく、その背景に多様な文化的、心理的側面があることを理解する。また、食行動を促進あるいは抑制する文化、行動、感情、性格など考慮すべき問題を探究し、身近な日常の食行動を素材として人間理解の機会とする。食行動調査の演習、グループ討議などを数回実施する。

【到達目標】

食するという行動を多面的に捉えて人間の多様な「こころ」の側面を学び、食教育・栄養指導に活かすことができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食行動学の概念

第2回：身体で食べる(1)

第3回：身体で食べる(2)

第4回：心で食べる(1)

第5回：心で食べる(2)

第6回：社会の中で食べる(1)

第7回：社会の中で食べる(2)

第8回：食行動のコントロール(1)

第9回：食行動のコントロール(2)

第10回：家族の食卓(1)

第11回：家族の食卓(2)

第12回：食べることの発達(1)

第13回：食べることの発達(2)

第14回：食べることと健康(1)

第15回：食べることと健康(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	70%	授業中に与えた課題に対して、具体的に述べていること。最終的な理解度を評価する。
	小テスト	20%	主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

テキスト、配布資料を整理し食行動への問題意識を以って授業に臨む。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	食べる～食べたくなる心のしくみ～	青山謙二郎	(有) 二 瓶社	600円+ 税	978-4- 86108- 054-8

自由記載

参考書

自由記載

随時、文献等を情報提供する。

授業科目名 **臨床栄養学総論** サブタイトル (傷病者の栄養管理の基礎を学ぶ) 授業番号 NP201

担当教員名 小野 尚美 阿部 ゆり子

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 2年 開講期 後期
必修・選択 必修 授業形態 講義

【授業の概要】

傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を行うために栄養ケアマネジメントが実施される。その流れに沿って、栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画の作成・実施、モニタリング・再評価における必要な知識を説明する。さらに、栄養管理を行う上で必要となる他職種との連携（チーム医療）、栄養補給（経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養）、栄養教育の方法および食品と医薬品の相互作用について講義する。

【到達目標】

- ・ 栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。
- ・ 対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。
- ・ 栄養補給法について知り、その選択ができる。
- ・ チーム医療について理解し、その中での管理栄養士の役割について説明できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：臨床栄養学の基礎	※ (担当小野・阿部)
第2回：医療制度とチーム医療	※ (担当阿部)
第3回：福祉・介護と在宅医療	※ (担当阿部)
第4回：栄養ケアマネジメントの概要	※ (担当小野)
第5回：栄養アセスメント	※ (担当小野)
第6回：問診・観察／身体計測	※ (担当阿部)
第7回：臨床検査	※ (担当阿部)
第8回：栄養ケア計画のプロセス	※ (担当小野)
第9回：経口栄養補給法	※ (担当小野)
第10回：経腸栄養補給法	※ (担当阿部)
第11回：経静脈栄養補給法	※ (担当阿部)
第12回：薬と栄養・食物の相互作用	※ (担当阿部)
第13回：栄養ケアの記録	※ (担当小野)
第14回：栄養教育の実施	※ (担当小野)
第15回：栄養ケアのアセスメント	※ (担当小野)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	積極的な授業態度、予習、復習、質問などにより評価
	レポート	10%	臨床栄養学分野の基本となる医療制度や在宅医療における管理栄養士の役割について具体的にレポートする。
	小テスト	20%	各回の時間終了時、その日の授業に関するテスト、記録にて評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

医療機関における管理栄養士の役割を知る授業である。事前に講義範囲をテキストで予習しておく。

【授業外学修】

- 1 事前に講義範囲をテキストで予習しておく。
 - 2 授業の中で指示された課題等に取り組む。
 - 3 授業後にテキストや配布プリントを読み返し、ポイントを整理する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁	羊土社	2,700円 +税	978-4-7581-0882-9
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	栄養ケアプロセス用語マニュアル	日本栄養士会 (訳)	第一出版	3,400円 +税	978-4-8041-1270-1
	臨床検査ハンドブック	奈良信雄	医歯薬出版株式会社	2,700円 +税	978-4-263-70625-1
	自由記載				

授業科目名 **臨床栄養学各論I** サブタイトル (傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶI) 授業番号 NP302

担当教員名 古川 愛子

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 3年 開講期 前期
必修・選択 必修 授業形態 講義

【授業の概要】

各種疾患別に病態と栄養生理を把握し、栄養ケア・マネジメントに必要な項目について講義をする。疾患の概要、病因、治療法で特に食生活や栄養摂取に関わる内容について把握する。医学概論・解剖生理学等で学んだ知識を復習し、疾患に応じた栄養アセスメント法から栄養診断を行い、栄養ケアプランの設定に関わる栄養食事管理の基本となる栄養素処方から、食品・料理・献立の調整法について説明する。

【到達目標】

疾患に応じた栄養・食事療法の意義を理解する。身体状況や栄養状態を的確に評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる知識を修得する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：糖尿病(1)	※ (担当古川)
第2回：糖尿病(2)	※ (担当古川)
第3回：脂質異常症	※ (担当古川)
第4回：高尿酸血症・痛風	※ (担当古川)
第5回：消化管疾患	※ (担当古川)
第6回：肝疾患(1)	※ (担当古川)
第7回：肝疾患(2)	※ (担当古川)
第8回：高血圧	※ (担当古川)
第9回：動脈硬化，冠動脈疾患	※ (担当古川)
第10回：腎疾患(1)	※ (担当古川)
第11回：腎疾患(2)	※ (担当古川)
第12回：慢性閉塞性肺疾患	※ (担当古川)
第13回：内分泌系疾患	※ (担当古川)
第14回：神経・精神系疾患	※ (担当古川)
第15回：栄養障害	※ (担当古川)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価
	レポート	0%	疾患と栄養マネジメントに関して具体的にレポートする。
	小テスト	20%	各回の主要なポイントを理解する。
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

具体的な栄養管理法を把握するため、事前・事後学習を行う。特別な理由がない限り欠席・遅刻しない。この科目の学習には、人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解しておく必要がある。

【授業外学修】

- 1.授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。
 - 2.授業の最後に、小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。
 - 3.授業に関連した項目についてレポートを作成する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養学イラストレイト® 臨床栄養学 疾患別編	本田佳子 編	羊土社	2,800円 +税	978-4-7581-0883-6
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	臨床医学疾病の成り立ち	田中明 他 編	羊土社	2,800円 +税	978-4-7581-0870-6
	自由記載				

授業科目名 **臨床栄養学各論II** サブタイトル (傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶII) 授業番号 NP303

担当教員名 小野 尚美

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 3年 開講期 後期
必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

臨床栄養学各論Iに続いて各種疾患別に病態と栄養生理を把握し、栄養ケアマネジメントを実施するために必要な項目について学ぶ。疾患の原因、症状等を把握した上で治療、特に栄養食事療法をどのように進めていくかについて講義する。

【到達目標】

・各疾患の病態と栄養（食事）の関係について説明できる。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：運動器（骨格）系疾患(1)骨粗鬆症，くる病，骨軟化症，変形性関節症
- 第2回：運動器（骨格）系疾患(2)サルコペニア，ロコモティブシンドローム
- 第3回：摂食嚥下障害
- 第4回：褥瘡
- 第5回：甲状腺異常・副甲状腺異常
- 第6回：神経性やせ症，神経性過食症
- 第7回：慢性閉塞性肺疾患
- 第8回：貧血
- 第9回：アレルギー性疾患
- 第10回：がんとターミナルケア
- 第11回：周術期の管理
- 第12回：クリティカルケア
- 第13回：先天性代謝異常症
- 第14回：妊産婦疾患
- 第15回：てんかん

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価する。
	レポート	0%	疾患と栄養マネジメントに関して具体的にレポートする。
	小テスト	30%	各回の主要なポイントを理解する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

この授業をより理解するためには、人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解していることが重要であるので，復習しておくこと。

【授業外学修】

- ・事前に講義範囲をテキストで予習しておく。
 - ・授業の中で指示された課題等に取り組む。
 - ・授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理しておく。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版		本田佳子 他 編	羊土社	2,800円 +税	978-4-7581-0883-6
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	臨床医学疾病の成り立ち		田中 明 他 編	羊土社	2,800円 +税	978-4-7581-0870-6
	自由記載					

授業科目名	臨床栄養学実習I		サブタイトル	(疾病に応じた栄養管理・食事療法を学ぶ)	授業番号	NP304
担当教員名	古川 愛子					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	実習	
【授業の概要】						
傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行えることを目的として、疾病の栄養状態の評価・判定とそれに対する栄養管理の実際を学修する。食事療法や栄養補給法の選択、栄養指導に応用できる能力を修得する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養スクリーニング評価方法を理解し、実践できる。 ・臨床検査、臨床診査等栄養状態のパラメータを理解し、実践できる。 ・栄養状態に関する情報収集と栄養のハイリスク者の抽出方法を学び実施できる。 ・栄養評価に基づき栄養管理計画を立案し、栄養管理プロセスの記録方法において記録できる。 ・提示された症例について栄養管理に必要な情報収集ができ、その情報から栄養評価と栄養診断を行い、栄養計画を立案できる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
1-2回 栄養管理のプロセスについて 3-4回 傷病者の栄養補給法と治療食への展開 5-6回 高血圧症例の栄養管理、糖尿病交換表の使い方 7-8回 糖尿病症例の栄養管理 9-10回 糖尿病症例の討議・発表、糖尿病食の調理と献立の評価 11-12回 腎臓病食品交換表の使い方、腎臓病症例の栄養管理 13-14回 腎臓病症例の討議・発表、腎臓病食の調理と献立の評価 15回 まとめ要点の整理						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な実習態度によって評価する			
	レポート	70%	疾病を理解し、症例の臨床診査、検査値等から正しくアセスメントを行っているか、栄養管理計画が立てられているかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
臨床栄養学総論、臨床栄養学各論で学んだ知識が必要である。復習を十分に行い授業に臨むこと。						
【授業外学修】						
1 予習として各疾患の特徴や食事療法について理解しておくこと 2 復習として授業で学んだ内容について自分の言葉でノートに整理しておくこと 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	トレーナーガイド 栄養食事療法の実習	本田佳子 編	医歯薬出版	2700	978-4-263-70651-0	

	糖尿病食事療法のための食品交換表	本糖尿病学会編	文光堂	900	978-4-8306-6046-7
	腎臓病食品交換表－治療食の基準－	浅野誠一・吉利和監修	医歯薬出版	1620	978-4-263-70674-9
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	臨床調理	玉川和子・口羽章子・木地明子 著	医歯薬出版	2400	978-4263706527
	日本食品成分表 2015年版(七訂)	医歯薬出版編	医歯薬出版	1300	978-4263706770
	栄養ケアプロセス用語マニュアル	公益財団法人日本栄養士会	第一出版	3400	978-4804112701
	自由記載				

授業科目名 **臨床栄養学実習II** サブタイトル (疾病に応じた栄養アセスメント・栄養管理法を学ぶ) 授業番号 NP305

担当教員名 古川 愛子

対象学部・学科 単位数 1単位
開講年次 3年 開講期 後期
必修・選択 必修 授業形態 実習

【授業の概要】

各種病態別に症例を呈示し、栄養状態を的確に評価・判定し、栄養ケアプランを作成する方法を説明する。医療機関における集団指導法について説明し、実践方法を明らかにする。

【到達目標】

栄養教育プログラムを計画させ、医療機関における集団指導やロールプレイ等の手法でベッドサイドにおける栄養教育等を実施しながら技術を修得する。実施した栄養ケアプランや栄養教育プログラムについて討論、評価、是正できるようにする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：栄養指導について
- 第2回：個人栄養指導対象事例の栄養ケアマネジメント作成（グループで検討）
- 第3回：個人栄養指導対象事例の栄養指導計画の立案（グループで検討）
- 第4回：個人栄養指導対象事例の栄養指導計画の立案（グループで検討）
- 第5回：個人栄養指導（グループ）の発表と報告書の作成
- 第6回：個人栄養指導（グループ）の発表と報告書の作成
- 第7回：在宅訪問栄養指導について
- 第8回：個人栄養指導対象事例の栄養ケアマネジメント作成（個別で検討）
- 第9回：個人栄養指導対象事例の栄養指導計画の立案（個別で検討）
- 第10回：個人栄養指導対象事例の栄養指導計画の立案（個別で検討）
- 第11回：個人栄養指導（個別）の発表と報告書の作成
- 第12回：個人栄養指導（個別）の発表と報告書の作成
- 第13回：個人栄養指導（個別）の発表と報告書の作成
- 第14回：経管栄養・経静脈栄養法について
- 第15回：経管栄養・経静脈栄養法について

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な授業態度、発表内容、質疑などにより評価する。
	レポート	70%	資料の内容、整理等について評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

各疾患に応じた栄養管理法に基づいて、栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケアプランを作成し、実施までを理解した上で受講する。各事例に応じて、栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶ。

【授業外学修】

- 1, 授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。
 - 2, 授業中の記録用紙に記入し, 期日までに提出する。
 - 3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。
- 以上の内容を, 週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	事例・症例に学ぶ栄養管理		中村丁次・板倉弘重 編	南山堂	2,800円 +税	978-4-525-26032-3
	栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント		本田佳子編	医歯薬出版	2,700円 +税	978-4-263-70651-0
	糖尿病食事療法のための食品交換表		日本糖尿病学会編	文光堂	900円+税	978-4-8306-6046-7
	腎臓病食品交換表－治療食の基準－		黒川清監修	医歯薬出版	1,500円 +税	978-4-263-70674-9
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	臨床栄養学栄養ケアマネジメント		本田佳子編	医歯薬出版	3,700円 +税	978-4-263-70664-0
	自由記載					

授業科目名	栄養マネジメント		サブタイトル		授業番号	NP306
担当教員名	小野 尚美 森光 大 石井 恭子 秋山 恭子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>栄養マネジメントでは、臨床栄養学総論、臨床栄養学各論、臨床栄養学実習で学修した知識をもとに、傷病者の病態や栄養状態に基づいた適切な栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）について学ぶ。前半は栄養管理マネジメントをするために必要な知識（スクリーニングの仕方、情報の収集と評価、栄養診断、栄養素量等の設定方法等）について講義する。後半は、各疾患の症例に対する栄養管理マネジメントについて講義する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養管理マネジメント、栄養管理プロセスについて説明できる。 ・ 栄養スクリーニングができる。 ・ 症例に対する栄養診断ができる。 ・ 栄養管理実施記録にSOAPに基づいた記録ができる <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）の概要 ※（担当小野尚美）</p> <p>第2回：栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較 ※（担当小野尚美）</p> <p>第3回：栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング ※（担当小野尚美）</p> <p>第4回：栄養アセスメント ※（担当小野尚美）</p> <p>第5回：栄養状態の判定（栄養診断） ※（担当小野尚美）</p> <p>第6回：栄養管理計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー、たんぱく質） ※（担当小野尚美）</p> <p>第7回：栄養管理計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物、脂質、水分他） ※（担当小野尚美）</p> <p>第8回：糖尿病患者の栄養管理マネジメント ※（担当秋山恭子）</p> <p>第9回：脂質異常症患者の栄養管理マネジメント ※（担当秋山恭子）</p> <p>第10回：高血圧患者の栄養管理マネジメント ※（担当秋山恭子）</p> <p>第11回：腎疾患患者の栄養管理マネジメント ※（担当秋山恭子）</p> <p>第12回：高齢者の栄養管理マネジメント ※（担当石井恭子）</p> <p>第13回：低栄養患者の栄養管理マネジメント ※（担当森光 大）</p> <p>第14回：摂食嚥下障害患者の栄養管理マネジメント ※（担当石井恭子）</p> <p>第15回：褥瘡患者の栄養管理マネジメント ※（担当森光 大）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な学習態度によって評価する			
	レポート	40%				
	小テスト	40%	理解度を評価する			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- ・ 事前に示す疾患等について十分に学習し授業に臨むこと。

【授業外学修】

- ・ 事前に授業の内容をテキストで予習しておく。
- ・ 授業の中で指示された課題等に取り組む。
- ・ 授業中に配布されたプリントやテキストを読み返し、ポイントを整理しておく。

以上の内容を週4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編 改訂第2版	基 本田佳子 他 編	羊土社	2,700円 +税	978-4-7581-0882-9
	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版	疾 本田佳子 他 編	羊土社	2,800円 +税	978-4-7581-0883-6
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **公衆栄養学I**

サブタイトル

授業番号 NQ301

担当教員名 辻本 美由喜

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

公衆栄養学は、人間集団を対象とする学問であり、公衆栄養活動という実践を伴う学問である。そこで、地域や職域での健康・栄養問題と実践されている公衆栄養活動を知り、栄養政策を知る。

【到達目標】

(1) 公衆栄養学の概念を知るために、健康・栄養問題の現状と課題について学び、栄養政策を理解できるようになる。

(2) 現在展開されている公衆栄養活動の実際を理解するために、その根拠となっている健康増進関係の法律や地方計画について学び、ひとり一人が健康づくりを実践できるようになる。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：公衆栄養の概念

第2回：公衆栄養活動

第3回：健康・栄養問題の現状と課題 (1) 社会環境と健康・栄養問題

第4回：健康・栄養問題の現状と課題 (2) 健康状態の変化

第5回：健康・栄養問題の現状と課題 (3) 食事の変化

第6回：健康・栄養問題の現状と課題 (4) 食生活の変化

第7回：健康・栄養問題の現状と課題 (5) 食環境の変化

第8回：健康・栄養問題の現状と課題 (6) 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題

第9回：栄養政策 (1) わが国の公衆栄養活動と公衆栄養関係法規

第10回：栄養政策 (2) わが国の管理栄養士・栄養士制度

第11回：栄養政策 (3) 国民健康・栄養調査

第12回：栄養政策 (4) 実施に関連する指針・ツール

第13回：栄養政策 (5) 国の健康増進の基本方針と地方計画

第14回：栄養政策 (6) 食育推進基本計画と食育の推進

第15回：まとめ 公衆栄養活動の全体像をつかむ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。
	レポート	10%	課題の背景や解決策について具体的に述べていること。コメントを記入後、返却する。
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

(1) 「公衆衛生学」, 「栄養学」, 「食品学」等の基礎分野の理解を深めておく。

(2) 公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読むこと。

【授業外学修】

- (1) 授業の初めに予習に関する小テストを行うので、テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。
- (2) 前回授業内容に関する小テストも行うので、2時間以上復習をしておくこと。
- (3) 随時授業終了時に出す課題について、レポートを作成すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	カレント公衆栄養学第2版	由田克士・押野榮司	建帛社	2,600円	
	自由記載	『日本人の食事摂取基準』(2020年版)第1出版			
参考書	自由記載	『国民栄養の現状』健康・栄養情報研究会編 第一出版 『国民衛生の動向』財団法人厚生統計協会 『栄養調理六法』栄養調理関係法令研究会 『佐々木敏の栄養データはこう読む!』佐々木敏 女子栄養大学出版部			

授業科目名 **公衆栄養学II**

サブタイトル

授業番号 NQ302

担当教員名 辻本 美由喜

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

栄養疫学の意義や公衆栄養マネジメントの考え方を学び、地域で展開されている公衆栄養活動の展開を理解する。

【到達目標】

(1) 公衆栄養マネジメントの基本的な考え方を理解するために、公衆栄養のアセスメントの目的や方法について学び、栄養疫学の意義を理解できるようになる。

(2) 総合的な視野から公衆栄養活動ができる力を養うために、具体的な公衆栄養活動の事例を通して、地域での公衆栄養プログラムの展開について学び、自ら健康づくりを実行できるようになる。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈問題・解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：栄養疫学 (1) 栄養疫学の概要

第2回：栄養疫学 (2) 暴露情報としての食事摂取量

第3回：栄養疫学 (3) 食事摂取量の測定方法

第4回：栄養疫学 (4) 食事摂取量の評価方法

第5回：公衆栄養マネジメント (1) 公衆栄養マネジメントとアセスメント

第6回：公衆栄養マネジメント (2) 公衆栄養プログラムの目標設定と計画

第7回：公衆栄養マネジメント (3) 公衆栄養プログラムの評価

第8回：公衆栄養プログラムの展開 (1) 地域特性に対応したプログラムの展開：健康づくり，食育

第9回：公衆栄養プログラムの展開 (2) 地域特性に対応したプログラム：在宅療養，介護支援

第10回：公衆栄養プログラムの展開 (3) 地域特性に対応したプログラム：健康食生活の危機管理と食支援

第11回：公衆栄養プログラムの展開 (4) 地域栄養ケアのためのネットワークづくり

第12回：公衆栄養プログラムの展開 (8) 食環境づくりのためのプログラムの展開

第13回：公衆栄養プログラムの展開 (9) 地域集団の特性別プログラムの展開：ライフステージ別

第14回：公衆栄養プログラムの展開 (10) 地域集団の特性別プログラムの展開：生活習慣病ハイリスク集団

第15回：まとめ 公衆栄養活動の理論と手法，実際の活動

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。
	レポート	10%	課題の背景や解決策について具体的に述べていること。コメントを記入後，返却する。
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

(1) 「公衆衛生学」，「栄養学」，「食品学」，「栄養教育論」，「応用栄養学の栄養マネジメント」等の理解を深めておく。

(2) 公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読む。

【授業外学修】

- (1) 授業の初めに予習に関する小テストを行うので、テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。
- (2) 前回授業内容に関する小テストも行うので、2時間以上復習をしておくこと。
- (3) 随時授業終了時に出す課題について、レポートを作成すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	カレント公衆栄養学第2版	由田克士・押野榮司	建帛社	2,600円	
	自由記載	『日本人の食事摂取基準』(2020年版)第1出版			
参考書	自由記載	『食事調査のすべて—栄養疫学—』健田中平三 監訳 第一出版 『佐々木敏の栄養データはこう読む』佐々木敏 著 女子栄養大学出版部 『データ栄養学のすすめ』佐々木敏 著 女子栄養大学出版部			

授業科目名	公衆栄養学実習I		サブタイトル		授業番号	NQ303
担当教員名	辻本 美由喜					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
【授業の概要】 地域や職域での健康と栄養の状況を知り、そこから課題や実践方法を考える。そのために必要な手法を熟知し、個人及び集団の食事状況を把握、分析、評価、計画を作成することにより、栄養活動のマネージメント能力を養う。						
【到達目標】 (1) 既存資料から公衆栄養上の課題を抽出するために、ワークショップや指導媒体の作成などにより、解決方法を考えることができる。 (2) 個人、集団の栄養状態の分析、評価、指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い、指導することができる。 (3) 公衆栄養マネージメント能力を培うために、調理実習やヘルスチェックなどにより、食事・運動・休養のとり方を考え、一人一人が健康的な生活を送ることができる。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回	公衆栄養の現状と課題とその解決方法					
第3・4回	食事調査の精度を高めるための食品の目安量や重量の把握と献立作成					
第5・6回	24時間思い出し法による食事調査とその評価					
第7・8回	食事記録法による食事調査とその評価					
第9・10回	公衆栄養の実践活動と災害時の公衆栄養活動					
第11・12回	日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導					
第13・14回	日本人の食事摂取基準（2020年版）による集団の評価と栄養指導					
第15回	公衆栄養活動の実際についての体験と自らの健康的な生活方法の修得					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	55%	ワークショップや実習等への意欲的な学習態度と、予・復習の状況などをアンケートによっても評価する。			
	レポート	30%	課題について具体的に作成できていること。コメントを記入後、返却する。			
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 「公衆栄養学」, 「公衆衛生学」, 「食品学」, 「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。						
【授業外学修】 (1) 授業の初めに予習に関する小テストを行うので、テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 (2) 前回授業に関する小テストも行うので、2時間以上復習をしておくこと。 (3) 随時授業終了時に出す課題について、レポートを作成すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	公衆栄養学実習第2版	手島哲子, 田中久子	同文書院	2, 000円		

	自由記載	『カレント公衆栄養学』第2版 由田克士・押野栄司 編著, 建帛社 『日本人の食事摂取基準』(2020年版)第1出版
参考書	自由記載	『国民栄養の現状』 『国民・健康栄養調査結果』健康・栄養情報研究会 編, 第一出版 『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会 監修, 南山堂

授業科目名	給食経営管理論I		サブタイトル		授業番号	NR201
担当教員名	北島 葉子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>給食経営管理論では、特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連の資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。</p> <p>Iにおいては、基礎的な学習並びに食事の計画・生産・サービスといった献立管理、材料管理、生産管理、栄養食事管理や安全な食事を提供するための衛生管理など給食サービス提供に関する知識と技術を学ぶ。また、給食の有用性としてどのような製品をつくり、サービスするか、どのように効率的につくるかの仕組みを計画しマネジメントを行うことや安全のための労務・衛生・危機管理などトータルマネジメントを行うための知識と技術を学ぶ。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。</p> <p>(2)衛生管理について十分に理解できる。</p> <p>(3)マーケティングの原理や応用を理解するとともに、給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。</p> <p>(4)給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる。</p> <p>(5)管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：給食経営管理の理論：給食の目的と役割，給食施設の種類と関連法規，給食施設の経営理念と組織</p> <p>第2回：給食システム：給食経営管理におけるシステムの概要</p> <p>第3回：給食システム：オペレーションシステムと資源の活用</p> <p>第4回：栄養・食事管理：栄養食事管理とPDCAサイクル</p> <p>第5回：献立管理：献立作成基準と食品構成，日本人の食事摂取基準，献立作成，作業指示書の役割，献立の評価</p> <p>第6回：材料管理：給食の食材料の特徴，購入業者の選定方法と契約方法，購入計画，食材料の保管方法</p> <p>第7回：生産管理：大量調理の方法と技術，配膳方法，作業管理</p> <p>第8回：衛生管理：衛生管理の意義，食中毒と感染症の特徴，食中毒発生時の対応，HACCPの概要</p> <p>第9回：衛生管理：大量調理施設衛生管理マニュアル</p> <p>第10回：施設・設備管理：作業動線とゾーニング，大量調理機器の種類と特徴，食器・食具</p> <p>第11回：給食とマーケティング：マーケティングの定義・基本プロセス・戦略</p> <p>第12回：品質管理：設計品質と適合品質，総合品質と満足度，品質と標準化</p> <p>第13回：人事管理：給食施設・部門の組織，雇用形態，能力開発</p> <p>危機管理：事故対策・自然災害対策と対応</p> <p>情報管理：顧客・従業員・経営情報の管理，帳票の種類と管理</p> <p>第14回：原価管理：給食の原価，財務帳表</p> <p>第15回：原価管理：費用分析</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			

定期試験 90% 最終的な理解度を評価する。
 その他
 自由記載

【受講の心得】

理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。

【授業外学修】

- (1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。
 - (2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。
 - (3)3年生の給食管理実習Iで提供する給食を試食し，給食経営管理について理解を深めること。
 - (4)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	給食経営管理論 給食の運営から給食経営管理への展開	石田裕美／富田教代 編	医歯薬出版	2, 800円 +税	
使用テキスト	管理栄養士 栄養士 必携 2019年度版	日本栄養士会 編	第一出版	2, 600円 +税	
	Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2, 100円 +税	

自由記載

参考書

自由記載

「給食経営管理論 改訂第2版」，鈴木久乃／君羅満／石田裕美 編集，南江堂「給食経営管理論 新しい時代のフードサービスとマネジメント 第3版」，中山玲子，小切間美保 編，化学同人「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント 第3版」，富岡和夫／富田教代 編著，医歯薬出版株式会社

授業科目名	給食経営管理論II		サブタイトル		授業番号	NR302
担当教員名	北島 葉子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>給食経営管理論では、特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連の資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。</p> <p>IIにおいては、医療施設、高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障がい者福祉施設、学校、事業所等の特定給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、関連法規について学修する。それによるサブシステム（献立管理、材料管理、生産管理、栄養食事管理、衛生管理、原価管理、労務管理、危機管理等）および給食のシステム等について施設の種類ごとの特徴をとらえたマネジメントの考え方や方法を学修する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態を説明できる。</p> <p>(2)各種特定給食施設の種類の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる。</p> <p>(3)利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。</p> <p>(4)各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する。</p> <p>(5)各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：医療施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴</p> <p>第2回：医療施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴</p> <p>第3回：医療施設における給食経営管理：入院時食事療養制度と入院時生活療養制度と給食費、給食と栄養教育</p> <p>第4回：高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴</p> <p>第5回：高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴</p> <p>第6回：高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育</p> <p>第7回：児童福祉施設、障がい者福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴</p> <p>第8回：児童福祉施設、障がい者福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴</p> <p>第9回：児童福祉施設、障がい者福祉施設における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育</p> <p>第10回：学校における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴</p> <p>第11回：学校における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴</p> <p>第12回：学校における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育</p> <p>第13回：事業所、その他の給食施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴</p> <p>第14回：事業所、その他の給食施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴</p> <p>第15回：事業所、その他の給食施設における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					

レポート		
小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他	90%	最終的な理解度を評価する。
自由記載		

【受講の心得】

理論のみならず、理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため、積極的に取り組み理解を深めること。また、本科目は他教科と多くの部分で重なり、応用の部分を担っているため、各教科と関連づけて学修すること。

【授業外学修】

- (1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し、予習をしておくこと。
 - (2)毎回授業終了時に小テストを行い、次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。
 - (3)日常の出来事、給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち、幅広い視点で「食」ととらえられるように心がける。
 - (4)給食経営管理論Iの復習をしておくこと。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	給食経営管理論 給食の運営から給食経営管理への展開	石田裕美／富田教代 編	医歯薬出版	2, 800円 +税	
使用テキスト	管理栄養士 栄養士 必携 2019年度版	日本栄養士会 編	第一出版	2, 600円 +税	
	Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2, 100円 +税	
	自由記載				

参考書

自由記載

「給食経営管理論 改訂第2版」, 鈴木久乃／君羅満／石田裕美 編集, 南江堂「給食経営管理論 新しい時代のフードサービスとマネジメント 第3版」, 中山玲子, 小切間美保 編, 化学同人「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント 第3版」, 富岡和夫／富田教代 編著, 医歯薬出版株式会社

授業科目名	給食管理基礎実習		サブタイトル		授業番号	NR303
担当教員名	北島 葉子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
【授業の概要】 給食経営管理論I及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，特定給食施設の利用者を対象とした食事計画，献立管理，調理作業の計画，施設・設備管理，衛生管理等をPDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）に沿って学修する。						
【到達目標】 (1)食事計画，献立，調理作業計画を作成できる。 (2)大量調理機器の取扱い，大量調理の方法，衛生管理の実際について理解できる。 (3)給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。 (4)給食管理実習Iへ活かす基本内容を修得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1～2回 HACCPに準じた調理室の使い方，厨房機器の使い方，食器洗浄の仕方と食器の種類や材質の把握 第3～4回 特定給食施設での献立作成の基本，給与栄養目標量の設定，献立作成 第5～6回 献立作成，栄養価計算 第7～8回 試作 第9～10回 献立の検討と決定，栄養価計算，給食日報の作成 第11～12回 大量調理基礎実習，給食日報の作成 第13～14回 大量調理基礎実習，作業工程表の作成 第15回 評価，改善，まとめ，実習ノートを整理し，提出する						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	65%	意欲的な実習態度によって評価する。			
	レポート	35%	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 各回の授業の前に，日程表を確認して，実習内容を把握し，自主学習をして臨むこと。また，この実習は，学生たちが主体となって進めるため，自主的に取り組む姿勢が必要である。						
【授業外学修】 (1)給食経営管理論Iの復習をする。特に，大量調理施設衛生管理マニュアルと日本人の食事摂取基準に則した給与栄養目標量の算出方法について復習しておくこと。 (2)食材の旬，価格，分量などを把握するために必要な情報を収集すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2, 100円 +税		

はじめての大量調理

殿塚婦美子 他著 学建書院

自由記載

参考書

自由記載

「日本人の食事摂取基準（2015年版）」, 菱田明/佐々木敏 監修, 第一出版「大量調理 品質管理と調理の実際」, 殿塚婦美子 編著, 学建書院「給食施設のための献立作成マニュアル 第9版」, 赤羽正之 他著, 医歯薬出版株式会社「給食マネジメント実習」, 松月弘恵 他著, 医歯薬出版株式会社「新ビジュアル 食品成分表」, 大修館書店

授業科目名 **給食管理実習I** サブタイトル 授業番号 NR304

担当教員名 北島 葉子 山口 享子

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 3年 開講期 後期

必修・選択 必修 授業形態 実習

【授業の概要】

給食経営管理論I・II, 給食管理基礎実習及び関連科目（栄養学, 食品学, 衛生学, 調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして, 少人数のグループに分かれ, 特定給食施設での給食を想定して学内での模擬給食を実施する。栄養・食事管理, 材料管理, 生産管理, 衛生管理, 原価管理, 事務管理等, 給食管理業務をマネジメントする方法を学修する。

【到達目標】

- (1)実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら, 協力, 連携, 責任の重要性を理解できる。
 - (2)栄養食事管理, 材料管理, 生産管理, 衛生管理, 原価管理等の計画, 実施, 評価に関わる帳票類の作成ができ, 給食業務が遂行できる。
 - (3)大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。
 - (4)給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。
- なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回 実習の進め方(冊子配布), 衛生管理, 実習全体の献立・料理について説明, 実習室整備を行う。

第2～14回 1クラスを2グループ(4班)に分け, 各グループが以下の全部の係(作業)を体験できるように編成する。

1) 次回管理栄養士係: 次回実施予定献立表を試作・検討し, 実施献立を決定する。作業計画, 発注業務, 栄養教育指導媒体の作成を行う。予定献立については, 対象者の給与栄養目標量, 食品構成, 嗜好, 季節, コストを考慮し, 事前に作成しておく。

2) 管理栄養士係: 給食全体について責任を担う。作業手順, 要点を説明し, 給食を実施する。大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った作業管理を行う。作業後, 帳票類の整理, 調査結果(喫食者アンケート, 残食状況)を集計し, 各種計画に対する評価・検討を行う。前日に検収, 打合わせを実施する。

3) 栄養士係: 管理栄養士係と共に給食全体について責任を担う。水質検査, 保存食の保存を行い, 管理栄養士係と共に作業管理を行う。

4) 調理(衛生)係: 管理栄養士係の指示に従い, 調理, 給食サービス, 後片づけ(器具の洗浄・消毒, 清掃), 衛生検査等の作業を行う。作業後, 実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。

第15回 発表, まとめ, 実習ノートを整理し, 提出する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	65%	意欲的な実習態度によって評価する。
	レポート	35%	各回のレポート等の提出物と実習ファイル(ノート)が, 具体的に書かれているか, また, 実習の内容, 得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

実習計画に基づき, 各自が分担の作業を果たしながら, 協力と責任の重要性を学び, 給食運営の手順, 方法を体得する実習である。事前準備, 事後のまとめなど, 時間外に実施しなければならないこともあり, 意欲的に取り組む姿勢が必要である。

【授業外学修】

(1)給食経営管理論I・IIおよび給食管理基礎実習の復習をする。

(2)給食実施における喫食者アセスメント，給与栄養目標量の設定，献立作成，食材料管理，作業工程表の作成，大量調理，食事提供，施設設備管理，衛生管理，給食評価等のポイントの理解を深めておくこと。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	lan-Do-Check-Actにそつた給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2, 100円 +税	
	はじめての大量調理 自由記載	殿塚婦美子 他著	学建書院		
参考書	自由記載	「日本人の食事摂取基準（2015年版）」，菱田明／佐々木敏監修，第一出版「大量調理 品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子編著，学建書院「給食施設のための献立作成マニュアル 第9版」，赤羽正之他著，医歯薬出版株式会社「給食マネジメント実習」，松月弘恵他著，医歯薬出版株式会社			

授業科目名 **食品流通論**

サブタイトル

授業番号 NR305

担当教員名 伊藤 未高

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は、流通と商業に関する基本的な知識を理解しながら、食品流通の特徴やしきみ、働きについて学ぶ。

【到達目標】

(1)流通と商業に関する基礎的な専門用語を理解し、自分のことばで説明ができる。

(2)食品流通の特徴やしきみ、働きについて、説明ができる。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：流通と商業のはたらき

第2回：卸売業と小売業

第3回：食品流通の役割

第4回：小売業の発展と卸売業の衰退

第5回：流通・商業を取り巻く環境の変化とマーケティングの重要性

第6回：流通業における情報システム化の進展

第7回：流通業におけるマーケティング・情報システム化の事例

第8回：フードシステムと環境変化

第9回：食品流通のしきみとはたらき

第10回：主な食品の流通(1)

第11回：主な食品の流通(2)

第12回：進展する流通チャネルの再編成(1)

第13回：進展する流通チャネルの再編成(2)

第14回：これからの流通と商業(1)

第15回：これからの流通と商業(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
	小テスト		
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）
	その他 自由記載		

【受講の心得】

各講義において、講義内容の復習のポイントや、次の講義までに取り組むべき事項を提示するので、これらを行うこと。

特に講義内容を復習する際には、新聞や雑誌記事などで企業に関するニュースを読み、講義で学習した内容と照らし合わせて自分なりの分析を行うこと。

【授業外学修】

復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト	自由記載	原田英生ら（2010）『ベーシック流通と商業』有斐閣アロマ 茂野隆一ら（2014）『新版食品流通』実教出版
参考書	自由記載	適宜，指示する。

授業科目名	総合演習		サブタイトル	(全科目の復習と模擬試験)		授業番号	NS401
担当教員名	森脇 晃義 赤木 収二 阿部 ゆり子 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 河野 勇 人 小林 英紀 多田 賢代 辻本 美由喜 古川 愛子 真鍋 芳江 安原 幹成 川野 光興 波多江 崇						
対象学部・学科			単位数	1単位			
開講年次	4年		開講期	後期			
必修・選択	選択		授業形態	演習			
【授業の概要】 4年前期までに学習した全科目を復習し、管理栄養士国家試験合格に向け、さらに知識と理解を深める。自主学习をグループ別を実施し、グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し、理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的実施し、学習到達度を測るとともに、以後の学習計画のための指標とする。							
【到達目標】 ・管理栄養士の職務や専門性について、発表を行い討議できる。 ・発表や討議を通じて、考え方や知識の幅を広げることができる。 ・課題を設定して、問題点、解決法等を文書としてまとめることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーの<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1～15回（全担当者交代） (1)自主学习：栄養セミナーⅣ等のグループ単位で目標を定め、管理栄養士の職務や専門性について討議する。 (2)自己学習：討議を通じて、考え方や知識の幅を広げる。 (3)講義：各教員により、講義内容の再確認、模擬試験の解説等を行う。 (4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き、理解度の指標を得る。							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	グループ内での討議への参加度			
	レポート						
	小テスト		30%	各分野の理解度			
	定期試験		60%	管理栄養士としての必要な知識・技能の理解度			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】 大学生生活の最終年度にあたることを自覚し、目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し、学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し、確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから、欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。							
【授業外学修】 週当たり1時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	管理栄養士国家試験過去問解説集		管理栄養士国試対策研究会 [編] 著	中央法規出版	3000		
	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説		医療情報科学研究所／編集	メディックメディア	4500		

	管理栄養士国家試験 受験必修キーワード集	女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会	女子栄養大学出版会	3200	
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	管理栄養士国家試験の要点	栄養セントラル学院編	中央法規出版	4000	
	国試の麗人	RDC管理栄養士センター監修	RDC管理栄養士センター	4850	
	管理栄養士国家試験の傾向と対策	管理栄養士教育研究会編	南江堂	3800	
	自由記載				

授業科目名	管理栄養士実務演習		サブタイトル		授業番号	NS302
担当教員名	多田 賢代 阿部 ゆり子 岡崎 恵子 辻本 美由喜 小野 尚美 安原 幹成 山口 享子 真鍋 芳江 北島 葉子 古川 愛子 木野山 真紀 大宮 めぐみ 山崎 真未 森香子 中澤 彩 山縣 綾香 原田 真澄					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 臨地実習の内容を十分に知るとともに実習効果を高めるために行う科目であり、事前学習と事後学習に分けて行う。 事前学習では、臨地実習先の施設の状況を十分に知るとともに、そこで実施する課題研究の検討や課題の円滑な実施に向けて事前準備について説明する。また、臨地実習先との円滑なコミュニケーションを図ることができるように心構えや態度について講義する。事後学習では、臨地実習で得た知識や技術、態度をまとめ、報告会に向けて説明する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業人として倫理を身につけ、人権、人格を尊重し行動できるよう支援する。 ・ 自らが臨地実習で学ぶ課題を選定し、その目的にそった計画。実践ができるよう支援する。 ・ 臨地実習施設の様々な職種の人とコミュニケーションをはかり、管理栄養士の業務の内容を理解できるよう支援する。 ・ 自らが学んだことをまとめ、発表することができるようになる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>【事前学習】</p> <p>第1回 臨地実習の日程、目的、心構えについて 第2回 科目別担当教員による実習の目的と内容の説明 第3回 介護実習（学内） 第4～7回 各科目の実習施設より管理栄養士を招き、管理栄養士の業務について学習する。 第8回 実習先を決定し、グループごとに学習する。 第9回 実習課題の検討 第10回 事前訪問の面談練習 第11回 実習先を訪問し、必要な書類、物品を準備をする。 第12回 実習施設に応じて、献立作成 第14回 実習施設に応じて、栄養教育指導案の作成。 第15回 直前学習、必要な書類、物品を準備をする。</p> <p>【事後学習】</p> <p>第1～3回 実習のまとめをして、報告会の準備をする。 第4～5回 報告会</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な授業態度、発表、報告などにより評価する。			
	レポート	60%	ファイルの内容、整理について評価する。			
	小テスト	10%	常識・漢字テスト等により評価する			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

臨地実習は管理栄養士の働く現場での学習である。この学習を効果的なものにするために授業時間外に準備したり、復習したりすることが多い。そのためにはグループ内で協調することが必要である。コミュニケーション能力と、自主性のある授業参加と受講意識を求める。

【授業外学修】

- 1, 実習に向けて、実習施設の概要を把握し、授業で学んだことを復習おく。
- 2, 実習に向けて課題を決め、実施計画を考えておく。
- 3, 授業の最後に、小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。
- 4, 授業に関連した項目について記録を取り、必要に応じてレポートを作成し、提出する。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	臨地実習のしおり	中国学園大学現代生 活学部人間栄養学科 編			
	自由記載				
参考書	自由記載				

【その他】

あいさつ等の態度や服装等、日常の基本的作法を身に付けておくこと。

授業科目名	給食管理実習II		サブタイトル		授業番号	NT401
担当教員名	北島 葉子 岡崎 恵子 安原 幹成 木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
<p>【授業の概要】</p> <p>この実習は、管理栄養士および栄養士免許に必修である「給食の運営」に該当する。特定給食施設（病院、福祉施設、学校、事業所）における給食の運営・管理について必要な専門的知識および献立作成、材料発注、検収作業、食数管理、大量調理、配膳作業など給食業務に関する現場での基本的作業に関する技術を体験学習を通して、学内で学んだ知識・技術との統合を図り、管理栄養士・栄養士として具備すべき給食の運営や技術に関する知識および技能全般を体得する。実習期間は1週間とする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる。 (2)実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ。 (3)給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる。 (4)施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫、栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し、対象者に対する理解も深める。 (5)給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる。 (6)アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p>						
<p>●実習施設の選択</p> <p>給食管理実習IIを履修するにあたり、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として、下記の特定給食施設のうち、1施設を選択の上実施とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病 院 総合病院、内科、循環器内科 ・福祉施設 特別養護老人ホーム、老健施設、その他の福祉施設 ・学 校 小・中学校又は給食センター ・事 業 所 工場給食やオフィス給食の社員食堂、配食サービス給食センター等 <p>●実習内容</p> <p>具体的な実習計画と内容は、実習施設ごとに異なるが、以下の項目について40時間（5日×8時間）実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の組織と運営の理解 ・施設別給食の特徴と給食の目的の理解 ・給食業務の基本的な流れを把握する ・献立作成について学ぶ ・食材料管理について学ぶ ・作業管理、大量調理（盛り付け、配膳を含む）について学ぶ ・衛生管理について学ぶ ・事務管理について学ぶ ・栄養教育媒体の検討および作成 ・各種調査（残食・嗜好など）実施 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度、実習態度、実習課題、実習内容に対する理解を評価する。			
	レポート	40%	実習・実習課題の内容、得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができていないか、また、事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合、修得できているか等を評価する。			
	小テスト					
定期試験						

その他

自由記載

【受講の心得】

日常の業務が行われている管理栄養士・栄養士の職場で実施される実習であるため、社会的常識に則った行動を心がけ、自ら学修すべき課題を発見できる積極的な態度で実習に取り組むこと。実践現場での貴重な体験ができるという意識を維持し、実習に対する明確な目的を持って事前の準備を怠らないこと。

【授業外学修】

(1)受け入れ実習施設の概要等、その特徴を調べておく。
(2)実習施設での実習内容を十分に把握、認識し、実習先との連絡を行う。
(3)小グループで実習を行う場合は、同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり、十分な打ち合わせ、勉強会等、協力をして準備を進める。
(4)実習に向けて、実習課題のテーマ設定を行い、文献や資料を準備する。
以上の内容は、管理栄養士実務演習とも関連しており、授業の一環でもあるため、各自が計画的に取り組み、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『実習生のしおり』, 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編
参考書	自由記載	『Plam-Do-Seeにそった給食管理実習のてびき』, 西川貴子 他著, 医歯薬出版 『給食経営管理論』, 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会監修 石田裕美/富田教代 編, 医歯薬出版株式会社 『日本食品成分表』 2015年版(七訂) 本表編, 医歯薬出版 編, 医歯薬出版株式会社 『日本人の食事摂取基準』 2015年版, 菱田明/佐々木敏 監修, 第一出版 『新ビジュアル 食品成分表』, 大修館書店 『給食施設のための献立作成マニュアル 第9版』, 赤羽正之 他著, 医歯薬出版

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅲ		サブタイトル		授業番号	NT402
担当教員名	多田 賢代 小野 尚美 古川 愛子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	実習		
【授業の概要】						
病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し、栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。						
【到達目標】						
病院や福祉施設において、患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて、管理栄養士の指導により解決し、栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例						
<ol style="list-style-type: none"> 1 病院・福祉施設における管理栄養士業務の実際について把握 2 食材料管理、衛生管理、作業管理の実際 3 栄養管理の実際（栄養基準、食品構成、献立作成） 4 特別治療食実習 5 カルテの見方 6 栄養療法の実際 7 栄養評価の実際 8 個人栄養食事指導の実際 9 集団栄養食事指導の実際 10 まとめ、報告書作成 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	実習施設での実習態度、発表、報告を評価する。			
	レポート	40%	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
報告・連絡・相談を実践すると共に、課題発見・問題解決を心がける。						
【授業外学修】						
1, 関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。						
2, 日々、学習した内容をまとめておく。						
3, 実習に必要な媒体などの準備をし、確認しておく。						
以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	臨地実習 実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編				
自由記載						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	2,700円 +税	978-4-263-70651-0
	臨床栄養学栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	3,700円 +税	978-4-263-70664-0
	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会編	文光堂	900円+税	978-4-8306-6046-7
	腎臓病食品交換表－治療食の基準－	黒川清監修	医歯薬出版	1,500円 +税	978-4-263-70674-9
	一品料理500選 治療食への展開	宗像伸子 編著	医歯薬出版	5,800円 +税	978-4-263-70288-8
自由記載					

授業科目名	給食管理実習Ⅲ		サブタイトル		授業番号	NT403
担当教員名	北島 葉子 岡崎 恵子 安原 幹成 木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	実習			
<p>【授業の概要】</p> <p>この実習は、臨地実習である「給食経営管理論」に該当する。大学における給食経営管理論を中心に、栄養学、食品学、調理学、栄養教育論等の講義・実習で学んだ内容を基にして、特定給食施設における実習を通して、給食経営管理の特徴を理解する。さらに、食材および人材に関する衛生管理、栄養管理、給食の安全確保、組織の管理運営、経済的視点の確保と給食経営分析の手法等の給食業務全般のマネジメントを実践できる給食運営の管理者たる管理栄養士として具備すべき知識および技能全般を現場において体得する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ。</p> <p>(2)実習施設の栄養・給食管理業務、運営、組織管理などの実際を理解できる。</p> <p>(3)利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導（教育）を通して、施設の特徴や在り方について理解を深める。</p> <p>(4)給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる。</p> <p>(5)給食運営に関わる費用構成について理解し、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる。</p> <p>なお、本科目目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>●実習施設の選択</p> <p>給食管理実習Ⅲを履修するにあたり、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として、下記の特定制給食施設のうち、1施設を選択の上実施とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院 総合病院、内科、循環器内科 ・福祉施設 特別養護老人ホーム、老健施設、その他の福祉施設 ・事業所 工場給食やオフィス給食の社員食堂、配食サービス給食センター等 ・学校 小・中学校又は給食センター <p>●実習内容</p> <p>具体的な実習計画と内容は実習施設ごとに異なるが、以下の項目について実習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の組織の概要と見学 ・施設別給食部門業務の特徴の理解 ・給食経営管理システムの理解 <ul style="list-style-type: none"> 経営管理、栄養・食事管理について 組織・人事管理、施設・設備管理について 食材料管理、生産管理について 衛生・安全管理、品質管理について 会計・原価管理について ・給食経営管理システムに関する研究発表及び討論 ・テーマ別研究活動及び成果報告と討論 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度、実習態度、実習課題、実習内容に対する理解を評価する。			
	レポート	40%	実習・実習課題の内容、得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができていないか、また、事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合、修得できているか等を評価する。			
	小テスト					
定期試験						

その他

自由記載

【受講の心得】

自ら実習課題を設定し、課題の発見と問題解決を経験することにより、管理栄養士の業務をより深く理解することがこの実習のねらいである。事前学習の段階から、実習への関心を深め積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- 1)受け入れ実習施設の概要等、その特徴を調べておく。
 - (2)実習施設での実習内容を十分に把握、認識し、実習先との連絡を行う。
 - (3)小グループで実習を行う場合は、同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり、十分な打ち合わせ、勉強会等、協力をして準備を進める。
 - (4)実習に向けて、実習課題のテーマ設定を行い、文献や資料を準備する。
- 以上の内容は、管理栄養士実務演習とも関連しており、授業の一環でもあるため、各自が計画的に取り組み、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編
参考書	自由記載	『日本食品成分表』2015年版（七訂）本表編，医歯薬出版 編，医歯薬出版株式会社 『新ビジュアル 食品成分表』，大修館書店 『給食経営管理論』，特定非営利活動法人 日本栄養改善学会監修 石田裕美／富田教代 編，医歯薬出版株式会社 『給食経営管理実務ガイドブック』，富岡和夫 編，同文書院

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅳ		サブタイトル		授業番号	NT404
担当教員名	多田 賢代 小野 尚美 古川 愛子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し、栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。						
【到達目標】						
病院や福祉施設において、患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて、管理栄養士の指導により解決し、栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例						
<ol style="list-style-type: none"> 1 チーム医療・チームケアと管理栄養士の役割について把握する。 2 カルテの内容を把握する。 3 担当患者の治療方針を理解する。 4 栄養ケアプランを作成する。 5 栄養ケアの実施状況を把握する。 6 栄養ケアの経過を把握する。 7 栄養評価の実際 8 個人栄養食事指導の計画, 参加 9 集団栄養食事指導の計画, 参加 10 まとめ, 報告書作成 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	実習施設での実習態度, 発表, 報告を評価する。			
	レポート	40%	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
報告・連絡・相談を実践すると共に、課題発見・問題解決を心がける。						
【授業外学修】						
<ol style="list-style-type: none"> 1, 関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2, 日々, 学習した内容をまとめておく。 3, 実習に必要な媒体などの準備をし, 確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	臨地実習 実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編				
自由記載						

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	2,700円 +税	978-4-263-70651-0
	臨床栄養学栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	3,700円 +税	978-4-263-70664-0
	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会編	文光堂	900円+税	978-4-8306-6046-7
	腎臓病食品交換表－治療食の基準－	黒川清監修	医歯薬出版	1,500円 +税	978-4-263-70674-9
	一品料理500選 治療食への展開	宗像伸子 編著	医歯薬出版	5,800円 +税	978-4-263-70288-8
自由記載					

授業科目名	公衆栄養学実習Ⅱ		サブタイトル		授業番号	NT405
担当教員名	辻本 美由喜 真鍋 芳江					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	実習			
【授業の概要】						
保健所及び市町村の公衆栄養学分野において、それぞれが果たす役割や業務内容を知る。						
【到達目標】						
<p>(1) 公衆栄養マネジメントを理解するために、地域の健康・栄養問題に関する情報の収集・分析を行い、公衆栄養プログラムの評価・判定を行うことができる。</p> <p>(2) プログラム実施から評価までのマネジメント能力を身につけるために、健康・栄養関連プログラムへの参加を通して、対象に応じた適切な保健サービスの提供プログラムの実践状況を把握することができる。</p> <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>1 事前訪問および事前学習</p> <p>実習先を訪問し施設の概要について理解する。実習内容および研究課題等の指導を受け、実習までに必要な準備に関する指示を受ける。</p> <p>2 実習内容</p> <p>(1) 保健所における実習</p> <p>ア 集中講義</p> <p>衛生行政、地域保健行政と保健所の役割、保健所・市町村栄養業務および食に係わる様々なボランティア活動</p> <p>イ 現場実習</p> <p>各保健所において作成された実習計画に従う。具体的な内容や取り組みは実習施設によって異なる。</p> <p>ア) 保健所管内の現況と管理栄養士業務の概要</p> <p>イ) 公衆栄養学や公衆栄養学に関連する法規の実際</p> <p>ウ) 地域保健における栄養体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における実態把握、分析 ・専門的な栄養指導、食生活支援 ・食環境整備（食に関する情報の整備、栄養成分表示の推進等） <p>工) 特定給食施設への栄養管理指導</p> <p>オ) 市町村に対する栄養改善事業支援と連絡調整</p> <p>(2) 市町村における実習</p> <p>各市町村において作成された実習計画に従う。具体的な内容や取り組みは実習施設によって異なる。</p> <p>ア 集中講義</p> <p>ア) 管理栄養士の役割と業務の概要</p> <p>イ) 地域保健栄養体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方健康増進計画や地方食育推進計画並びに地域保健医療計画等への参画 ・栄養改善事業の計画・評価 <p>イ 現場実習</p> <p>ア) 栄養相談および一般的栄養指導</p> <p>イ) 住民に対する健康教育（企画・実施・評価）</p> <p>ウ) 地区組織の育成及び支援</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	実習施設の指導担当者及び学内における評価として基本的態度、実習態度、実習課題、実習内容に対する理解などを評価する。			

レポート	40%	実習内容と実習課題についての記録やまとめ、大学での学びと実習施設での学びの統合や修得ができているかなどをレポートと実習ファイルで評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

(1) 日常の業務が行われ、地域住民の方が来られている職場での実習にて、社会的な常識ある行動を心がけ、自ら学修すべき課題を発見できるよう積極的な態度で取り組む。

(2) 実践現場での貴重な体験ができるという意識を持ち、実習に対する明確な目的を持ち、事前の準備を十分に行う。

【授業外学修】

(1) 公衆栄養学I、II及び公衆栄養学実習I、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活改善の基本指針、臨地実習のしおり等を再学修する。

(2) 小グループで学修を行う場合は、同一施設のメンバーと連絡をとり、十分な打ち合わせと勉強会を行いながら、実習施設の概要、特徴を調べる。

(3) 日本と実習施設等の概況や健康増進計画、食育推進計画、子育て支援計画、介護保険計画等で健康課題を調べておく。

(4) 各自の実習課題のテーマを決め、文献や資料の準備をする。

(5) 実習施設での実習内容を十分に把握し、実習先との連絡を行う。

(6) 実習施設から指定された課題の準備や用具・媒体、資料等を用意する。

以上の内容を含め、週1時間以上学修する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	公衆栄養学実習テキスト	岡山県保健福祉部健康対策課 監修	岡山県栄養士養成施設協議会 発行		

自由記載 『臨地実習のしおり』, 中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編

参考書	自由記載	『国民衛生の動向』, 財団法人厚生統計協会 編集・発行 『栄養・健康データハンドブック』, 藤沢良知 編, 同文書院
-----	------	--

授業科目名	栄養セミナーI	サブタイトル		授業番号	NU101
担当教員名	波多江 崇 川野 光興 小野 尚美 岡崎 恵子 河野 勇人 小林 英紀 安原 幹成 木野山 真紀				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 この授業では受講者を少人数のグループに分け、各々のグループに担当教員を置く。各グループの日程にしたがい、近隣の施設（犬養木堂記念館、福祉施設等）を訪問することで、地域の歴史を学び、高齢者とのコミュニケーションを体験する。さらに、各グループにあらかじめ設定された課題について、文献・資料を収集、精読し、グループ内討論を行いつつ結論を導き出すことで、他者に配慮しつつ討論を行うことができ、論理的に思考できる能力を養う。</p>					
<p>【到達目標】 ・文献の読み方、調べ方、整理の仕方、情報の収集法と整理の仕方、まとめ方、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを具体的に経験しながら身につける。 ・グループ学習のスキルを身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

第1回：オリエンテーション。授業の進め方および課題設定等

第2回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第3回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回および事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第4回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第5回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第6回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第7回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第8回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第9回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。

第10回：課題研究 文献精読およびグループ内討論

第11回：課題研究 文献精読およびグループ内討論

第12回：プレゼンテーションの方法

第13回：課題研究 文献精読およびグループ内討論

第14回：課題研究 発表の準備

第15回：課題発表会

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業への取り組みや，課題発表について評価する
	レポート	40%	指示されたレポートを作成し提出し，その内容について評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

グループ内で，他者の意見を聞き，受け入れ，積極的に発言することが求められる。

積極的な姿勢で参加すること。また，学外訪問の前には事前準備，訪問後には事後学習が求められる。

【授業外学修】

1.次回授業に用いる関連資料を準備・理解しておく。

2.授業中において学んだことなどを，記録用紙に記入し提出する。

3.課題についてまとめ，プレゼンテーションを行う。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	指定しない
--------	------	-------

参考書	自由記載	なし
-----	------	----

授業科目名	栄養セミナーIIA		サブタイトル		授業番号	NU202
担当教員名	河野 勇人 赤木 收二 大宮 めぐみ 北島 葉子 安原 幹成 波多江 崇 中澤 彩 山縣 綾香					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】 授業は3つの課題で構成される。 ・野菜を栽培し、農作業による食料の生産を体験し、生産から消費までの一連の過程を体験する。 ・グループ単位で、自らが育てた野菜を用いたレシピを考案し、調理を行い提供する。 ・多様な職域の管理栄養士から話を聞く。						
【到達目標】 ・野菜の旬、食物生産の楽しさ、生育過程を理解する。 ・グループで協力して作業を進め、意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。 ・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。 なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：授業の概要・目的の解説，授業の進め方，菜園の紹介 ※（担当（全担当者））						
第2回：施肥作業 ※（担当（全担当者））						
第3回：夏野菜の植え付け(1) ※（担当（全担当者））						
第4回：夏野菜の植え付け(2) ※（担当（全担当者））						
第5回：料理コンテストのメニュー考案・菜園作業 ※（担当（全担当者））						
第6回：菜園作業 ※（担当（全担当者））						
第7回：菜園作業 ※（担当（全担当者））						
第8回：菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(1) ※（担当（全担当者））						
第9回：菜園作業 ※（担当（全担当者））						
第10回：菜園作業 ※（担当（全担当者））						
第11回：菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(2) ※（担当（全担当者））						
第12回：菜園作業 ※（担当（全担当者））						
第13回：職域別管理栄養士講話 ※（担当（全担当者））						
第14回：料理コンテスト ※（担当（全担当者））						
第15回：菜園の片付け ※（担当（全担当者））						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	80%	菜園作業，メニュー試作，料理コンテスト，講和への意欲的な参加態度によって評価する。			
	レポート	20%	菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

- ・グループ内で他者と協力し、積極的に行動すること。
- ・日頃の食生活を振り返り、食べ物への関心を深めること。
- ・日頃から広く社会に目を向け、多様な職域に関心を持つこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、夏野菜の栽培について調べ、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学修として、料理の考案・試作、多様な職域の調査を行う。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	指定しない				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新版 野菜栽培の基礎		池田英男, 川城英夫	農文協	2, 052	9784540043949
	病害虫・雑草防除の基礎		大串龍一	農文協	1, 620	9784540993527
	自由記載					

授業科目名 **栄養セミナーIIB** サブタイトル 授業番号 NU203

担当教員名 河野 勇人 赤木 収二 岡崎 恵子 安原 幹成 波多江 崇 中澤 彩 山縣 綾香

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 2年 開講期 後期

必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

この授業は以下の課題で構成される。

- ・野菜を栽培し、農作業による食料の生産を体験し、生産から消費までの一連の過程を体験する。
- ・自らが育てた野菜の配布、加工を行う。
- ・多様な職域の管理栄養士にインタビューを行う。

【到達目標】

- ・野菜の旬、食物生産の楽しさ、難しさを理解する。
- ・グループで協力して作業を進め、意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。
- ・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。

なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：授業の概要・目的の解説，授業の進め方について ※（担当（全担当者））
- 第2回：施肥作業・冬野菜の植え付け(1) ※（担当（全担当者））
- 第3回：冬野菜の植え付け(2) ※（担当（全担当者））
- 第4回：菜園作業 ※（担当（全担当者））
- 第5回：菜園作業 ※（担当（全担当者））
- 第6回：菜園作業 ※（担当（全担当者））
- 第7回：菜園作業 ※（担当（全担当者））
- 第8回：菜園作業 ※（担当（全担当者））
- 第9回：菜園作業・インタビューの内容説明 ※（担当（全担当者））
- 第10回：菜園作業・インタビューの準備(1) ※（担当（全担当者））
- 第11回：菜園作業・インタビューの準備(2) ※（担当（全担当者））
- 第12回：菜園作業・インタビューの準備(3) ※（担当（全担当者））
- 第13回：菜園の片付け・インタビューの内容確認 ※（担当（全担当者））
- 第14回：職域別管理栄養士へのインタビュー ※（担当（全担当者））
- 第15回：インタビュー結果のまとめ ※（担当（全担当者））

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	80%	菜園作業，インタビュー活動への意欲的な取り組み姿勢により評価する。
	レポート	20%	菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記 載		

【受講の心得】

- ・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。
- ・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。
- ・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、冬野菜の栽培について調べ、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学修として、多様な職域の調査、料理の考案を行う。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	指定しない				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新版 野菜栽培の基礎		池田英男, 川城英夫	池田英男・川城英夫	2, 052	9784540043949
	病害虫・雑草防除の基礎		大串龍一	農文協	1, 620	9784540993527
	自由記載					

授業科目名 **栄養セミナーⅢA** サブタイトル 授業番号 NU304

担当教員名 多田 賢代 小野 尚美 木野山 真紀 辻本 美由喜 古川 愛子 真鍋 芳江 川野 光 興

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 3年 開講期 前期

必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

この授業は一人のチューターと数人の学生がグループを構成し、地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画、準備、実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して、所定の課題に沿って講座を企画し、内容について自主的に学習を進めるとともに、実施に必要な調理、実験等の手技を身につける。この間チューターは学生の自主性を尊重しつつ、適宜助言を与える。

【到達目標】

- ・課題について理解し、必要な技術が身につく。
- ・自主的な学習態度が身につく。
- ・グループで協力し、計画的に企画を進める力が身につく。
- ・目的を達成することの意義を理解し、実践できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回 授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について (全担当者)
第2～14回 各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講 (全担当者)

想定されるテーマ

- ・食育SATを活用した健康教室（公民館での啓発活動）
- ・骨密度測定を活用した健康教室（公民館での啓発活動）
- ・幼少児に対する食育活動
- ・全農岡山との連携事業
- ・岡山市保健所健康づくり課との連携事業

第15回 各グループの活動のまとめ (全担当者)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。
	レポート	30%	授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどうのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。
授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。

【授業外学修】

- 1 予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。
- 2 復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。
- 3 発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。

以上の内容を，授業外に週当たり1時間以上取り組むこと。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	3年前期までに使用した全ての教科書

授業科目名	栄養セミナーIIIB		サブタイトル		授業番号	NU305
担当教員名	森脇 晃義 赤木 收二 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 河野 勇人 多田 賢代 辻本 美由喜 古川 愛子 真鍋 芳江 安原 幹成 川野 光興 波多江 崇					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 この授業は2つのテーマからなる。 前半：栄養セミナーIIIAにおいて実施した健康・栄養・食生活の講座について、「セミナー発表会」の場で発表する。この発表会までに各グループでの活動をポスター等の媒体にまとめる。この間、前期から継続のチューターは学生の自主性を尊重しつつ、適宜助言を与える。 後半：卒業研究の準備段階として、担当教員のもとで教員から示される課題について課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び、自ら学ぶ。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで実施した講座についてまとめ、発表する力を身につける。 ・興味ある課題を深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて、科学研究の手法を獲得し、研究の意義を理解する。 ・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。 						
<p>【授業計画】</p>						
<p>第1回 授業の概要・目的の解説，授業の進め方について 第2回 セミナー発表会の準備(1) 第3回 セミナー発表会の準備(2) 第4回 セミナー発表会の準備(3) 第5～15回 各卒業研究ゼミでの活動 想定されるテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染性胃腸炎の発生動向に関する解析 ・食品の機能性 ・微生物利用食品の機能性 ・血糖測定を取り入れた糖尿病療養 ・健康に影響を及ぼす生活習慣と食習慣や栄養素摂取の関連 ・栄養・エネルギーセンサーと生体反応 ・保健統計データの解析 ・広汎性発達障害（自閉症）青年の自立を目指した健康料理教室の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・食文化の継承 ・地域における健康推進活動 ・米粉の調理性・米粉を利用した料理 ・女子高校生における隠れ肥満と血中脂肪酸組成との関連 ・真空調理 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	課題への取り組み意欲，取り組み行為から評価する			
	レポート	30%	課題レポートを評価する			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					

	セミナー発表会について	
	学習態度（意欲的か、行動が伴っているか、協力的かなどを評価する）20%	
自由記載	課題の理解度（ディスカッション、学習記録から評価する）15%	
	卒業研究について	
	学習態度（意欲的か、行動が伴っているかなどを評価する）50%	
	課題の理解度（ディスカッション、レポート等から評価する）15%	

【受講の心得】

グループ内で、他者と協力し、積極的に行動することが求められる。
授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。

【授業外学修】

週当たり最低1時間の予習、復習を行うこと

使用テキスト	自由記載	適宜指示する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **栄養セミナーIVA** サブタイトル 授業番号 NU406

担当教員名 森脇 晃義 河野 勇人 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 多田 賢代 辻本 美由
喜 古川 愛子 真鍋 芳江

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 4年 開講期 前期

必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

担当教員のもとで教員と共に選んだ課題について課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び、自ら学ぶ。

調査・研究成果をまとめて発表する。

【到達目標】

- ・興味あるテーマを深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて、科学研究の手法を獲得し、研究の意義を理解する。
- ・調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。
- ・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1～15回 各卒業研究ゼミでの活動 (全担当者)

想定されるテーマ

- ・ 感染性胃腸炎の発生動向に関する解析
- ・ 食品の機能性
- ・ 微生物利用食品の機能性
- ・ 血糖測定を取り入れた糖尿病療養
- ・ 健康に影響を及ぼす生活習慣と食習慣や栄養素摂取の関連
- ・ 栄養・エネルギーセンサーと生体反応
- ・ 保健統計データの解析
- ・ 広汎性発達障害（自閉症）青年の自立を目指した健康料理教室の開催
 - ・ 食文化の継承
 - ・ 地域における健康推進活動
 - ・ 米粉の調理性・米粉を利用した料理
- ・ 女子高校生における隠れ肥満と血中脂肪酸組成との関連
- ・ 真空調理

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	学習態度（意欲的か、行動が伴っているかなどを評価する）
	レポート	50%	課題の理解度（ディスカッション、レポート等から評価する）
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

グループ内で、他者と協力し、積極的に行動することが求められる。

授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。

【授業外学修】

毎週最低4時間は授業外学習を行うこと

使用テキスト 自由記載

参考書

自由記載

適宜指示する

授業科目名	栄養セミナーIVB		サブタイトル		授業番号	NU407
担当教員名	森脇 晃義 河野 勇人 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 多田 賢代 辻本 美由 喜 古川 愛子 真鍋 芳江					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 この授業は2つのテーマからなる ・担当教員のもとで進めた調査・研究成果をまとめて発表する。成果をポスター形式で発表する。報告者は各ポスターの前に立ち、内容を説明し、質疑に応じる。 ・卒業後の進路に応じた学習を進め、4年間の学びの集大成とする。						
【到達目標】 ・調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。 ・自らの将来に対応する学力、知力、技能をまとめ、社会に貢献する人材となる。 ・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1～4回 各卒業研究グループでの活動 (全担当者)						
第5～15回 各自の進路に応じた学習 (全担当者)						
(1)自主学習：卒業研究等のグループ単位で学習を進める。						
(2)自己学習：管理栄養士国家試験受験のための模擬試験および教科書の見直し等を行う。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	卒業研究：成果の発表内容			
	レポート					
	小テスト	10%	学習成果を小テストで評価する			
	定期試験					
	その他	70%	複数回の試験で到達度を評価する。			
自由記載						
【受講の心得】 大学生生活の集大成であることを自覚し、目的達成のために万全の体制で臨むことが求められる。 中長期の計画を立て、それに従い学習・行動することが必要となる。 グループ学習以外での自己学習により、学力・知力・技能は効率的に集積される。自主学習を強く推奨する。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	適宜指示する				

授業科目名	食生活論		サブタイトル		授業番号	NU108
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>栄養士の専門教科を学習するにあたり、人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち、食と環境の関わり、食文化、健康的な食生活、食育の推進について等を講義する。</p>						
【到達目標】						
<p>私たちの食生活が昔から食文化の上に成立しており、今後の食文化の形成に自分達が関わっていることを理解するとともに、自分の食生活に興味・関心をもち食生活と健康を考え見直すことができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の習得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：食生活の概念</p> <p>第2回：食生活と健康を考える (1)</p> <p>第3回：食生活と健康を考える (2)</p> <p>第4回：世界の食生活史 (1)</p> <p>第5回：世界の食生活史 (2)</p> <p>第6回：日本の食生活史 (1)</p> <p>第7回：日本の食生活史 (2)</p> <p>第8回：食生活と安全 (1)</p> <p>第9回：食生活と安全 (2)</p> <p>第10回：食生活と安全 (3)</p> <p>第11回：21世紀における健全な食生活の展望 (1)</p> <p>第12回：21世紀における健全な食生活の展望 (2)</p> <p>第13回：食育の推進 (1)</p> <p>第14回：食育の推進 (2)</p> <p>第15回：食育の推進 (3) まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他	30%	提出物			
自由記載						
【受講の心得】						
<p>テキストを事前に読んでくること。健康・栄養・料理や食文化など幅広く食生活に関することに関心をもつよう心がけること。</p>						
【授業外学修】						
<p>食生活や食育に関心をもち予習・復習をすること。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

食育・食生活論 社会・環境と健康

山本茂・奥田豊子・講談社サ
濱口郁枝 編 イエンテ 2400+税
イフイク

自由記載

参考書

自由記載 適宜紹介する。

授業科目名	食生活演習I		サブタイトル		授業番号	NU109
担当教員名	小野 尚美					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
さまざまな食材目分量と重量の測定や調理による重量の変化について学修する。また、食品成分表を正しく使い栄養価計算等を行う。さらに献立作成のための基礎知識、手順や評価方法を学修する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・主食・主菜・副菜を理解し、さまざまな料理を主食・主菜・副菜の区分に分けることができる。 ・食品成分表がなぜ必要かを理解するとともに、食品成分表を用いて栄養計算ができる。 ・献立作成の基礎知識を理解し、望ましい献立を考案できる。 なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈技能〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：5大栄養素とその働きを知ろう (1)炭水化物, 脂質, たんぱく質 ※ (担当 岡崎 恵子) 第2回：5大栄養素とその働きを知ろう (2)ビタミン, ミネラル ※ (担当 岡崎 恵子) 第3回：献立に使う食品を知ろう ※ (担当 岡崎 恵子) 第4回：6つの基礎食品を用いて食事チェックをしよう 食育SATを使ってみよう ※ (担当 岡崎 恵子 小野 尚美) 第5回：食育SATで食事チェックをしよう ※ (担当 岡崎 恵子 小野 尚美) 第6回：食品成分表を使ってみよう (1)食品の分類, 食品成分表の項目 ※ (担当 小野 尚美) 第7回：食品成分表を使ってみよう (2)数値の見方, 使い方 ※ (担当 小野 尚美) 第8回：食品成分表を使ってみよう (3)食品の成分表の選び方 ※ (担当 小野 尚美) 第9回：食品成分表を使って栄養価計算をしよう (1)計算の仕方 ※ (担当 小野 尚美) 第10回：食品成分表を使って栄養価計算をしよう (2)食品の選び方 ※ (担当 小野 尚美) 第11回：献立作成のための基礎知識 (1)食品の目分量と数え方 ※ (担当 岡崎 恵子) 第12回：献立作成のための基礎知識 (2)食品の重量測定 ※ (担当 岡崎 恵子 小野 尚美) 第13回：献立作成のための基礎知識 (3)おいしさの基本濃度 ※ (担当 岡崎 恵子) 第14回：献立作成のための基礎知識 (4)塩分濃度の測定 ※ (担当 岡崎 恵子 小野 尚美) 第15回：食品成分表を使って栄養価計算を使用 (3)まとめ ※ (担当 岡崎 恵子 小野 尚美)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。			
	レポート	50%	授業で示した課題について、正しく記載されているかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					

その他

自由記載

【受講の心得】

健康・栄養，調理や料理等幅広く食生活に関する新聞記事等に関心を持ち，読むこと。常日頃から自分の食事を意識し，何をどれだけ食べたか記憶にとどめるよう心がけること。

【授業外学修】

- 1 テーマに沿った内容について自分で調べる
 - 2 演習内容を振り返りノートにまとめる
 - 3 日常生活の中で食べた食品について栄養量を調べる
- 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	日本食品成分表2019 七訂	医歯薬出版編	医歯薬出版	1300+税	978-4-263-70648-0
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子, 森美奈子	化学同人	1500+税	978-4-7598-1826-0

自由記載

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新ビジュアル食品成分表	新しい食生活を考える会	大修館書店	1000+税	978-4-469-27007-5
	調理のためのベーシックデータ第6版	松本仲子	女子栄養大学出版部	1800+税	978-4-7895-0317-4

自由記載

【その他】

栄養価計算には電卓を使用する。また，献立作成のために料理レシピ本があると良い。

授業科目名	食生活演習II		サブタイトル		授業番号	NU110
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 食生活演習Iで学んだ知識と技術を更に向上させるとともに、基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を食事バランスガイドを用いて評価し、改善する。						
【到達目標】 ・ 日常食の献立作成の基本を学び、連続した5日間の食事設計ができる。 ・ 食事バランスガイドを理解し、これを用いた献立の評価ができる。 なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈技能〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
1-2回 食事バランスガイドの理解、食事バランスガイドを用いた食事内容の評価 3-4回 主食・主菜・副菜・汁物の料理を調べる 5-6回 5日間の連続した献立の作成 7-8回 5日間の連続した献立の評価と修正、調理実習の準備 9-10回 調理の実践 11-12回 バランスガイドを用いた献立の修正 13-14回 レシピの作成 15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な授業態度・ファイルによって評価			
	レポート	40%	課題の完成度によって評価する			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 健康・栄養、調理や料理等幅広く食生活に関する新聞記事等に関心をもち、読むこと。						
【授業外学修】 1 食生活演習Iの内容について復習する 2 講義の内容について自分の言葉でノートに整理する 3 授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり、実際に調理をする。 以上の内容を週1時間以上学修すること						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	日本食品成分表2019年版 (第七訂)	医歯薬出版編	医歯薬出版	1300+税	978-4-263-70648-0	
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子, 森美奈子	化学同人	1500+税	978-4-7598-1826-0	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

新・料理学実習	宮下朋子・村本美代 編著	同文書院	2700+税	978-4-8103-1457-1
調理のためのベーシックデータ	松本仲子	女子栄養 大学出版 部	1800+税	978-4-7895-0317-4
自由記載	自宅にある料理本等も参考図書として使用します			

授業科目名 **運動指導論**

サブタイトル

授業番号 NU411

担当教員名 辻本 美由喜

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

運動の重要性は、生活習慣病対策のみならず、認知症対策においても見直されている。そして、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、スポーツや運動への関心は非常に高まっている。そうした中、健康を増進するための栄養と運動、介護予防と運動、そして、スポーツ栄養などについての指導は、かつてないほど重要になっている。

本講義は、管理栄養士としても運動指導を適切に担える力を培うために、スポーツ栄養学と健康運動実践指導の視点から学ぶ。

【到達目標】

健康づくりの指導の一環として、現場で簡単な運動指導ができる力をつけるために、ライフステージ別健康づくりと運動指導について学び、安全で簡単な運動指導法を習得することができる。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：健康づくりと運動（健康日本21〈第二次〉、ヘルスプロモーション）

第2回：スポーツと栄養（スポーツ栄養の基本）

第3回：子どもの運動と栄養（食育、ジュニアスポーツ選手の食事）

第4回：競技力向上と栄養管理（スポーツ選手の食事、水分摂取）

第5回：女性の健康管理と運動（貧血予防、腰痛と肩痛予防の運動）

第6回：生活習慣病と運動（メタボリックシンドローム、特定保健指導）

第7回：高齢者の運動（介護予防運動）

第8回：運動基準とエクササイズ（体力と運動強度、心拍数、運動プログラム）

第9回：体操の目的と方法（ラジオ体操、ご当地体操、認知症予防体操）

第10回：効果的なウォーキング方法（ノルディックウォーキング、有酸素運動）

第11回：ストレッチングの基礎と実際（地域での運動の取組）

第12回：日常生活の中での筋力トレーニング、ウォーミングアップとクーリングダウン（貯筋運動）

第13回：スポーツと外食、市販食品（賢い選び方、食べ方）

第14回：健康管理と運動指導（運動障害と予防、応急措置）

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。
	レポート	10%	課題について具体的に作成できていること。コメントを記入後、返却する。
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

具体的な運動手法を習得するために、実践を学ぶという意識を持って受講すること。

【授業外学修】

- (1) 授業の初めに予習に関するテストを行うので、テキストや参考文献を次回学習までに読んでおくこと。
- (2) 前回授業内容に関するテストも行うので、1時間以上復習をしておくこと。
- (3) 随時授業終了時に出す課題について、レポートを作成すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	戦う身体をつくるアスリーの食事と栄養	田口素子	ナツメ社	1,300円	

自由記載

参考書

自由記載

「健康運動実践指導者用テキスト」公益財団法人健康・体力づくり事業財団事業団発行
「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平・樋口満 編著者 第一出版

【その他】

授業内容に応じて、教室を変更する場合がある。

授業科目名 **食料経済**

サブタイトル

授業番号 NU212

担当教員名 大宮 めぐみ

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、まず食料消費の経済理論と食料の流れ、それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムについて学ぶ。その上で、わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について、食料輸入と食料自給率、世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。

【到達目標】

(1) 食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ（フードシステム）を理解し、全体像を説明する力を身につける。

(2) 食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明する力を身につける。

(3) 食料需給に関連する社会問題について、経済学を基盤とした観点から考察、説明する力を身につける。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の取得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食料経済の対象領域と課題－フードシステムとは何か？何を学ぶのか？－

第2回：食料経済の理論（1）

第3回：食料経済の理論（2）

第4回：食生活の成熟

第5回：食料消費パターンの変化

第6回：家族の変化と食生活

第7回：食料の安全保障と自給率(1)

第8回：食料の安全保障と自給率（2）

第9回：前半のまとめ

第10回：食品工業の構造と特徴

第11回：食品流通業の構造と特徴（1）

第12回：食品流通業の構造と特徴（2）

第13回：外食・中食の供給構造と特徴

第14回：世界の人口と食料/食生活と政府の役割

第15回：全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	中間的な理解度を評価する。
	定期試験	50%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

本講義では食料消費の変遷、関連産業の動向、食料に関連する今日的課題等を理解し、自らのこととして考え、その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。

【授業外学修】

(1) 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。

(2) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。

(3) 発展学修として、食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	フードシステムの経済学 第5版	時子山ひろみ・荏開 津典夫・中嶋康博	医歯薬出 版株式会 社	2,700円	978-4- 263- 70606-0

自由記載

参考書

自由記載

適宜指示する

授業科目名	専門英語		サブタイトル		授業番号	NU413
担当教員名	森脇 晃義 赤木 收二					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 本演習では栄養学に関連する英文の教科書、論文を交代で講読することにより、英文の正確な読解力を養い、同時に、専門用語、表現法および引用論文の活用などについて理解を深める。						
【到達目標】 栄養学に関連する最新の情報・技術を修得・理解し、自己研鑽に継続利用できる能力を養うとともに、常に新しい課題を探求する能力・習慣を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 教科書全体のオリエンテーション、 第2回 前回資料についての担当学生による翻訳文発表と教員の解説、全員による論議をまとめ。 次回翻訳資料の配付と翻訳担当者の決定。 第3～14回 この間は英語論文のコピーも翻訳し、同時のその内容を各自が理解できるよう出席者全員に論議する。 第15回 総合討論						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト		60%	複数回の小テストで到達度を評価する		
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 相応の英和辞典を準備すること。（高校で使っていたもので良い） 専門用語は別に解説する。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容の予習復習に充てること						
使用テキスト	自由記載	相応の英和辞典、論文別刷り等が主体となる。『All about food』Helen McGrath, Oxford University Press 等。				
参考書	自由記載					

授業科目名 **フードコーディネーター論** サブタイトル 授業番号 NU414

担当教員名 北島 葉子

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 4年 開講期 前期
必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

フードコーディネーターのターゲットは、「食のアメニティの創造」であり、「ホスピタリティ」をもって仕事にあたることである。そこで、料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食（フード）のコーディネーターについて講義する。

【到達目標】

本講義では、既に学んだ関連科目（調理学や栄養学など）を生かし、レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング、ビジネス展開の計画まで、さらに、料理を盛り付ける食器や、テーブルクロス、照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネーターできる力を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：フードコーディネーターの基本理念
- 第2回：食事の文化(1)
- 第3回：食事の文化(2)
- 第4回：食事の文化(3)
- 第5回：食卓のコーディネーター(1)
- 第6回：食卓のコーディネーター(2)
- 第7回：食卓のコーディネーター(3)
- 第8回：食卓のサービスとマナー(1)
- 第9回：食卓のサービスとマナー(2)
- 第10回：メニュープランニング
- 第11回：食空間のコーディネーター(1)
- 第12回：食空間のコーディネーター(2)
- 第13回：フードサービスマネジメント(1)
- 第14回：フードサービスマネジメント(2)
- 第15回：食企画の実践コーディネーター（C-8）, まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

これまでに学んできた専門教育科目の基本的事項の理解と復習を行うこと。また、食に関する新聞記事等に関心をもち、読むなど積極的に学修すること。

【授業外学修】

- (1)予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
(2)復習として、小テストの見直しをする。
(3)発展学修として、食に関する新聞記事等を読み、まとめる。
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	三訂 フードコーディネート論	(社)日本フードスペシャリスト協会 編	建帛社		
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **食文化調査演習**

サブタイトル

授業番号 NU115

担当教員名 森脇 晃義

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

食の専門家に要求される能力の一つに、視野の広い食の知識がある。そこで、各自が国内外を問わず、その地の食文化に関する見聞をまとめ、提出することでこの科目の履修とする。

ただし、事前にテーマ、訪問地域、期間、方法等について担当教員に相談・報告すること。

【到達目標】

各自が決めたテーマにそって、地域の食文化を知り、理解することができる。また、一年後期に実施する工場見学、同時に行う研修をまとめて食文化調査演習の一部とすることができる。

自ら主体的に選んだ課題に沿って学習を進めることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：履修説明

第2回：各自が方法や期間を決定

第3回：各自が方法や期間を決定

第4回：各自が方法や期間を決定

第5回：各自が方法や期間を決定

第6回：各自が方法や期間を決定

第7回：各自が方法や期間を決定

第8回：各自が方法や期間を決定

第9回：各自が方法や期間を決定

第10回：各自が方法や期間を決定

第11回：各自が方法や期間を決定

第12回：各自が方法や期間を決定

第13回：各自が方法や期間を決定

第14回：各自が方法や期間を決定

第15回：各自が方法や期間を決定

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	100%	最終的な到達度を計画書、レポートで評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

何を学習するか、事前に関係文献や書物をひもとき、よく読んで計画、実行すること。

【授業外学修】

週当たり4時間は学習が必要

使用テキスト 自由記載 なし

参考書

自由記載

計画に沿って紹介する。

授業科目名	管理栄養士演習I		サブタイトル	(習得科目の振り返り)	授業番号	NU316
担当教員名	森脇 晃義 赤木 收二 阿部 ゆり子 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 河野 勇 人 小林 英紀 多田 賢代 辻本 美由喜 古川 愛子 真鍋 芳江 安原 幹成 川野 光興 波多江 崇 木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 管理栄養士の資格取得への準備を整えること。						
【到達目標】 これまでに学習した事項を復習し、理解と知識を集積する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
1 自主学习：テキスト、教科書で復習し、その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2 講義：各教員により、講義内容の再確認・試験を行う。 1, 2の内容について週間スケジュールを作成し、授業を進める。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	90%	毎回の小テストで到達度を評価する			
	レポート					
	小テスト	10%	最終的な理解度を評価する			
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 管理栄養士国家試験を受験する学生は積極的に受講すること。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	『クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説』, 医療情報科学研究所 編, MEDIC MEDIA 『かんもし★Basic-人体と化学』, インターメディカル 編, インターメ ディカル 『受験必修キーワード集』, 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編, 女子栄養大学出版部				
参考書	自由記載	『管理栄養士試験 合格のためのワークシート150日』, 女子栄養大学管理栄養士国家試 験対策委員会 編, 女子栄養大学出版部				

授業科目名	管理栄養士演習II		サブタイトル	(習得科目の振り返り)	授業番号	NU317
担当教員名	森脇 晃義 赤木 收二 阿部 ゆり子 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 河野 勇 人 小林 英紀 多田 賢代 辻本 美由喜 古川 愛子 真鍋 芳江 安原 幹成 川野 光興 波多江 崇 木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 管理栄養士の資格取得への準備を整えること。						
【到達目標】 これまでに学習した事項を復習し、次のステップに向けさらに理解と知識を集積する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
1 自主学习：テキスト、教科書で復習し、その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2 講義：各教員により、講義内容の再確認・試験を行う。 1, 2 の内容について週間スケジュールを作成し、授業を進める。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト	10%	小テストで達成度を評価する			
	定期試験	90%	最終的な理解度を評価する			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 管理栄養士国家試験を受験する学生は積極的に受講する。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	『クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説』, 医療情報科学研究所 編, MEDIC MEDIA 『かんもし★Basic-人体と化学』, インターメディカル 編, インターメディカル 『受験必修キーワード集』, 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編, 女子栄養大学出版部				
参考書	自由記載	『管理栄養士試験 合格のためのワークシート150日』, 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編, 女子栄養大学出版部				

授業科目名	管理栄養士専門演習		サブタイトル	(全科目の復習と模擬試験)	授業番号	NU418
担当教員名	森脇 晃義 赤木 收二 阿部 ゆり子 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 河野 勇 人 小林 英紀 多田 賢代 辻本 美由喜 古川 愛子 真鍋 芳江 安原 幹成 川野 光興 波多江 崇 木野山 真紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 3年後期までに学習した全科目を復習し、管理栄養士国家試験合格に向け、さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別を実施し、グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し、理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的実施し、学習到達度を測るとともに、以後の学習計画のための指標とする。						
【到達目標】 ・管理栄養士資格の取得を目指し、知識を統合し、問題解決能力を高める。 ・専門職として、生涯を通して自律的に学習を継続する力を身につける。 ・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1～15回（全担当者交代） (1)自主学習：栄養セミナーⅣ等のグループ単位で目標を定め、模擬試験の解説・見直し等を行う。 (2)自己学習：模擬試験の振り返り、教科書の見直し等を行う。 (3)講義：各教員により、講義内容の再確認、模擬試験の解説等を行う。 (4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き、理解度の指標を得る。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト	50%	小テストで達成度を評価する			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 大学生生活の最終年度にあたることを自覚し、目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し、学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し、確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから、欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	『管理栄養士国家試験問題集』，日本給食管理専門学校 編，中央法規 『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説』，医療情報科学研究所 編，MEDIC MEDIA 『受験必修キーワード集』，女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編，女子栄養大学出版部				
参考書	自由記載	『管理栄養士国家試験の要点』，栄養セントラル学院 編，中央法規 『国試の麗人』，RDC管理栄養士センター 監修，RDC管理栄養士センター札幌校 『管理栄養士国家試験の傾向と対策』，管理栄養士教育研究会 編，南江堂				

授業科目名 **教職概論**

サブタイトル

授業番号 NV101

担当教員名 野村 泰介

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教職概論では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を学習する。

【到達目標】

栄養教諭の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解するとともに、求められる教員像について把握し、専門職としての基礎を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの生活と学校

第2回：学習指導

第3回：生徒指導・進路指導

第4回：教育相談

第5回：学級経営

第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか

第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること

第8回：教員養成の制度

第9回：教職課程の仕組みと内容

第10回：教員の採用

第11回：教員の研修

第12回：教員の地位と身分

第13回：教員の待遇と勤務条件

第14回：学校制度

第15回：学校管理・運営体制

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題に対して真摯に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているかの2点で評価する
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

受講期間中は現在の学校教育の課題と、栄養教諭の社会的使命について真剣に考えること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新版教職入門教師への道	藤本典裕	図書文化社	1944円	978481009720785
	自由記載				
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。			

授業科目名 **教育原理**

サブタイトル

授業番号 NV102

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。

特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。

【到達目標】

現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。

本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。

そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育とはなにか

第2回：子どもの発達と現代社会

第3回：教育における思想家たちの系譜

第4回：教育の思想と実践

第5回：近代の教育制度の発展

第6回：教育課題の歴史的背景

第7回：教育の課題と教育政策の動向

第8回：諸外国の教育

第9回：教育に関する法令

第10回：教員の養成・採用・研修

第11回：学校経営における地域連携の現状

第12回：学校経営における地域連携の制度と課題

第13回：学校安全の現状

第14回：学校安全の課題と対策

第15回：これからの社会と教育

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	
	レポート	70%	最終レポート
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	コメントペーパー
	自由記載		

【受講の心得】

テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。

【授業外学修】

週当たり4時間以上，テキストを読むこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる教育原理	汐見稔幸ほか	ミネル ヴァ書 房	2, 800	9784623059263
	自由記 載				
参考書	自由記 載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	NV103
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
【到達目標】 実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育心理学とは 第2回：心身の発達に基づく教育心理学の考え方 第3回：心身の発達に応じた学びの場とその移行 第4回：学びの意欲 第5回：学びのしくみ 第6回：学びの諸相 第7回：学びの開発と体系化 第8回：中間のまとめ 第9回：主体的な学びの授業 第10回：個に応じた学びの援助 第11回：自立と社会性の学び 第12回：子どもを支える 第13回：学びと適応の評価 第14回：教師の成長 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN

よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理
学

田爪宏二（編著）

ミネルヴ
ア書房

2200円

978-4-
623-
08177-6

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **教育課程総論**

サブタイトル

授業番号 NV204

担当教員名 住野 好久

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について学修する。

【到達目標】

- ・教育課程の意義・編成の方法について理解する。
- ・教育課程の法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について理解する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育課程の意義

第2回：教育課程に関する法令(1)－教育基本法・学校教育法－

第3回：教育課程に関する法令(2)－学校教育法施行規則・学習指導要領－

第4回：教育課程に関する法令(3)－学校教育法施行規則・学習指導要領－

第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1)－～50年代－

第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2)－～70年代－

第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3)－～90年代－

第8回：学習指導要領の歴史的変遷(4)－～10年代－

第9回：新学習指導要領の特徴(1)－資質・能力論－

第10回：新学習指導要領の特徴(2)－主体的・対話的で深い学び論－

第11回：新学習指導要領の特徴(3)－高等学校－

第12回：新学習指導要領の特徴(4)－カリキュラム・マネジメント論－

第13回：新学習指導要領の特徴(5)－社会に開かれた教育課程論－

第14回：教育課程の課題

第15回：教育課程の未来

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する
	レポート		
	小テスト	40%	毎回の授業の最後に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。
	定期試験	40%	最終的な目標到達度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	高等学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	中学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	教育方法学		サブタイトル		授業番号	NV205
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 ・ 教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。 ・ 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標，内容，方法，組織 ※ (担当住野) 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 ※ (担当住野) 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 ※ (担当住野) 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 ※ (担当住野) 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 ※ (担当住野) 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり ※ (担当住野) 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 ※ (担当住野) 第8回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 ※ (担当住野) 第9回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 ※ (担当住野) 第10回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討（1） ※ (担当住野) 第11回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討（2） ※ (担当住野) 第12回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 ※ (担当住野) 第13回：教育の方法(6) 学級づくりの方法(1)学級づくりとは ※ (担当住野) 第14回：教育の方法(7) 学級づくりの方法(2)学級づくりの方法 ※ (担当住野) 第15回：教育の方法(8) 学級づくりの方法(3)集団指導と個別指導 ※ (担当住野)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の授業の終盤に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。			
	定期試験	40%	最終的な目標到達度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

毎回、授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週辺り4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	適宜、授業の中で紹介する。

授業科目名	生徒指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	NV206
担当教員名	上岡 仁					
対象学部・学科			単位数	1単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，生徒指導上の諸問題への対応について講義する。						
【到達目標】 一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し，全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，問題行動等への組織的な対応について理解することができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置付け 第2回：集団指導と個別指導の意義と方法 第3回：生徒指導体制と教育相談体制 第4回：生徒指導の進め方(1) -学級担任としての役割- 第5回：生徒指導の進め方(2) -学年団等による組織的対応- 第6回：暴力行為・いじめ・不登校への対応 第7回：生徒指導に関する法制度 第8回：家庭・地域・関係機関等との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	課題についてまとめをするとともに，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	25%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 課題についてレポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	生徒指導提要	文部科学省	教育図書	276円＋税	978-4-87730-274-0	

自由記載

参考書

自由記載

授業において随時紹介する。

授業科目名	教育相談（カウンセリングを含む）		サブタイトル	(カウンセリングを含む)		授業番号	NV207
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科		単位数	2単位				
開講年次	2年		開講期	後期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】 この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。							
【到達目標】 教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：教育相談とは 第2回：学校教育相談とは 第3回：児童・生徒の問題の理解と対応 第4回：児童・生徒理解の精神医学的な基礎 第5回：不登校の理解と対応 第6回：いじめの理解と対応 第7回：学級崩壊の理解と対応 第8回：中間のまとめ 第9回：反社会的問題行動の理解と対応 第10回：神経症的問題の理解と対応 第11回：開発的カウンセリング 第12回：保護者に対する援助 第13回：校内での協力体制・他機関との連携 第14回：教員のメンタル・ヘルス 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談 森田健宏・吉田佐治 ミネルヴァ 2200円 978-4-623-08178-3
子(編著) ア書房

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	特別支援教育概論		サブタイトル		授業番号	NV208
担当教員名	中 典子 池谷 航介					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。						
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 ※（担当池谷航介） 第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 ※（担当池谷航介） 第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み ※（担当池谷航介） 第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※（担当池谷航介） 第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 ※（担当池谷航介） 第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの支援 ※（担当中 典子） 第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ ※（担当池谷航介） 第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 ※（担当池谷航介） 第9回：学校と家庭との連携のあり方 ※（担当中 典子） 第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 ※（担当中 典子） 第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ ※（担当中 典子） 第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 ※（担当中 典子） 第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※（担当中 典子） 第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 ※（担当中 典子） 第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 ※（担当中 典子）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					

レポート	20%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	80%	最終的な理解度を評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。（2時間）

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる特別支援教育	湯浅恭正編	ミネルヴァ書房	2,400	

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	総合的な学習の時間 及び特別活動の指導 法		サブタイトル		授業番号	NV209
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>中学校・高等学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、中学校・高等学校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。</p>						
【到達目標】						
<p>学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 中学校・高等学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：道徳教育の意義と目標・内容 第2回：道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 第3回：道徳性の発達 第4回：総合的な学習の時間の意義と目標・内容 第5回：総合的な学習の時間の指導計画 第6回：総合的な学習の時間の学習指導案 第7回：総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 第8回：総合的な学習の時間の指導の手立て 第9回：総合的な学習の時間の評価 第10回：特別活動の意義と目標 第11回：特別活動と各教科等との関連 第12回：特別活動の内容 第13回：特別活動の指導と評価 第14回：特別活動の学習指導案 第15回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。			
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な知識や理解の度合いを評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	中学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	146	978-4-908255-35-9
	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	209	978-4-8278-1561-0
使用テキスト	高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省			
	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい	189	
	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省			
	自由記載				
参考書	自由記載	『新しい特別活動指導論』, 高旗正人・倉田侃司 編著, ミネルヴァ書房, 2004年			

【その他】

毎回、授業ノートを提出するので、ルーズリーフのノートを用意すること。

授業科目名	学校栄養教育実習研究		サブタイトル		授業番号	NV410
担当教員名	岡崎 恵子 山口 享子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 小学校・中学校で行う栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに、教材研究・授業参観などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討、準備を行う。						
【到達目標】 ・実際の教育現場に入るにあたって心構えができる。 ・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成，授業技術等を身に付け，準備する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 学校栄養教育実習の意義 第2～3回 学校栄養教育実習の事前指導 ・教育実習の概要 ・小・中学校の見学・観察実習（実習受け入れ校訪問） 第4～8回 学校栄養教育実習の実際 ・実習日誌の書き方 ・学習指導案の立て方 ・学習指導案の作成 ・実習研究課題の検討 第9～11回 模擬授業，ディスカッション 第12～13回 クラス経営，小学校中学校経営 ・小中学校教育の特質 ・小中学校指導の特質 ・教師の援助の仕方・考え方 ・小中学校教諭の資質 第14～15回 個別指導 ・個人差への配慮 ・障害のある子どもの指導 ・食物アレルギー，肥満，痩身等						
【授業計画 備考2】 授業形態は演習がメインになるが講義もある。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。			
	レポート	20%	教職に関しての内容・特別講師による講義について，自分の考えを具体的に述べていること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	60%	指導案，課題等の提出物の内容を評価する。			

自由記載

【受講の心得】

- ・ 栄養教諭になる者としての目線に立ち、それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。
- ・ 学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。
- ・ 学校教育の様々な課題に関心を持ち、栄養教諭の社会的使命について考えること。

【授業外学修】

- ・ 教育に関する時事問題に関心を持ち、新聞やニュース等を把握しておくこと。
 - ・ 学校現場を想定して、授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	「学校栄養教育実習書」、学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト
参考書	自由記載	担当教員が提示する。

授業科目名 **学校栄養教育実習**

サブタイトル

授業番号 NV411

担当教員名 岡崎 恵子 山口 享子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

教育実習校の現場で生徒指導，教育内容，指導方法を体験・研究する。栄養教諭教育実習中は，実習校の指導のもと食に関する指導について，特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に，実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則，実習校は出身校とし，1週間（5授業日）以上の教育実習に取り組む。

【到達目標】

教育現場での教育活動全般（食に関する指導，各教科の指導法，生徒指導，学級経営，特別活動等）について理解を深め，指導技術を修得する。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 1 校長，教頭，教務主任による実習校での指導
- 2 給食主任，学級担任，養護教諭，栄養教諭（学校栄養職員）による実習受入校での指導。
- 3 校内における連携，調整（校内研修会，職員会議等）への参加
- 4 配属学級での授業観察を通して，(1)子ども達の実態把握，(2)指導案の実際と授業との対応，(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。
- 5 食に関する指導の授業を実践する。
- 6 実習後に報告，ディスカッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	学校栄養教育実習書 他
	レポート	70%	教育実習校での評価
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- 1 教育実習生は，教育者としての責任の重大さを自覚すること。
- 2 意欲的，積極的な実習に取り組む。
教育実習は，いわば教育上のインターンともいべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢を持って取り組むこと。
- 3 研究的な実習に徹し，事前・事後学習に励む。
- 4 健康と安全に留意し，実りの多い実習となるように努力する。
- 5 本実習を受ける前には，必ず事前に実習受入校を訪問し，指導教諭等と打ち合わせをしておくこと。
- 6 教育実習生としての当然のエチケットとして，実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。

【授業外学修】

- ・ 事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。
 - ・ 実習校の指導に従って、教材研究等を行うこと。
 - ・ 指導案の作成や教材研究にあたっては、年間の授業計画も視野に入れ、他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。
 - ・ 実習校がある区市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。
- 以上の内容を、週当たり5時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	学校栄養教育実習書，学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料等を用意する
参考書	自由記載	
【その他】 特になし		

授業科目名	教職実践演習(栄養教諭)		サブタイトル	(栄養教諭)	授業番号	NV412
担当教員名	岡崎 恵子 山口 享子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 栄養教諭として求められる資質能力（使命感や責任感・教育的愛情，社会性や対人関係能力，児童生徒理解，食に関する指導力）が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し，課題解決のための演習などを行い深めていく。						
【到達目標】 大学での講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合し，教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることをめざす。教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ，社会人としての優れた識見や対人能力が培われ，豊かな人間性と思いやりのある実践的指導者となる。 なお，本科目はディプロマシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 演習を中心とするが，講義もある。						
第1回：学校栄養教育実習の振り返り 第2回：学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション 第3回：学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション ※ (担当) 第4回：学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション ※ (担当) 第5回：栄養教諭に求められる資質能力 ディスカッション ※ (担当) 第6回：学校における食育の推進について ※ (担当) 第7回：指導案の作成 ※ (担当) 第8回：指導案の作成 ※ (担当) 第9回：資料等の作成（授業，掲示物，家庭や地域への配布 など） ※ (担当) 第10回：模擬授業（対象：小学生） ディスカッション ※ (担当) 第11回：模擬授業（対象：中学生） ディスカッション ※ (担当) 第12回：学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方 ディスカッション ※ (担当) 第13回：ロールプレイング「食に関する指導における栄養教諭の対応，個別指導」 ※ (担当) 第14回：「学校栄養教育の現状とこれから」（特別講師） ※ (担当) 第15回：総合的まとめ ※ (担当)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	40%	教育実習から見えてきた課題と解決策について，自分の考えを具体的に述べていること。
小テスト		
定期試験		
その他	40%	学習指導案，模擬授業，提出物 他
自由記載		

【受講の心得】

実習校で学んだ学校・学級経営の中での児童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い，各自が将来に栄養教諭となるべく，お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分に行い取り組むこと。

【授業外学修】

大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて，実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。
参考書	自由記載	

授業科目名	学校栄養教育指導法I		サブタイトル		授業番号	NW301
担当教員名	岡崎 恵子 山口 享子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で、法制度や栄養教諭の職務内容について理解を深める。学校における食に関する指導・学校給食について学び、児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等の作成を行い実践する。また、家庭・地域との連携や調整のあり方を学び、栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。						
【到達目標】 栄養教諭制度の創設の経緯を把握し、栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解するとともに、食に関する指導、学校給食の管理・運営ができる能力を養う。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 授業形態は講義、演習になる						
第1回：栄養教諭の制度と役割 ※（担当） 第2回：学校組織と栄養教諭 第3回：学校給食と日本人の食生活 ※（担当） 第4回：子どもの発達と食生活 ※（担当） 第5回：学習指導要領の意義と食育の在り方 ※（担当） 第6回：「食に関する指導」の全体計画 ※（担当） 第7回：「食に関する指導」の展開、食に関する指導と小学生用食育教材 ※（担当） 第8回：給食の時間における食に関する指導 ※（担当） 第9回：給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践 第10回：給食の時間における食に関する指導の実践、ディスカッション 第11回：教科における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」） 第12回：教科における食に関する指導（生活科，総合的な学習の時間，体育科・保健体育科，道徳，特別活動， ※（担当） 総合的な学習時間） 第13回：個別栄養相談指導，ロールプレイ ※（担当） 第14回：家庭・地域との連携，給食だよりの作成・説明 ※（担当） 第15回：まとめ，ディスカッション ※（担当）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			

その他 10% 給食時の指導案, 給食だより等, 提出物

自由記載

【受講の心得】

各回が独立して, 15回で1つの流れとなつてつながる授業であることから, 毎回しっかり学習する態度で事前・事後学習に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確認させてほしい。

【授業外学修】

- ・授業予定一覧に沿って, 使用テキストを利用した予習・復習をすること。
 - ・指導案や資料等の作成, 教材の準備をすること。
- 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養教諭論－理論と実際－ 四訂	金田雅代 編著	建帛社	2800+税	
	食に関する指導の手引－第二次改訂版－	文部科学省	東山書房		
	小学校学習指導要領	文部科学省			
	小学校学習指導要領総則編	文部科学省			
	学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課	株式会社 学建書院		

「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省 小学校教科書 「わたしたちの家庭自由記載 科 5・6」 文部科学省 「中学校学習指導要領総則編」 文部科学省 「平成31年 食育白書」 内閣府

参考書	自由記載	「食育教材」文部科学省
-----	------	-------------

【その他】

適宜紹介する。

授業科目名	学校栄養教育指導法II		サブタイトル		授業番号	NW302
担当教員名	岡崎 恵子 山口 享子					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について、実践演習を通しさらに深く理解する。栄養教諭としての効果的な学習指導案の作成、模擬授業、ロールプレイング、アクティブラーニングを取り入れ、実践的指導力のスキルの育成を行う。						
【到達目標】						
児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を考えた指導案の立案、模擬授業等を行うことができる。栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回	学校栄養教育指導法Iを踏まえて					
第2～3回	実践演習（1） 1単位時間の学習指導案の作成の基本、模擬授業					
第4回	プロとしての栄養教諭（特別講師）					
第5～8回	実践演習（2） 食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討					
第9～14回	実践演習（3） 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討					
第15回	全体のまとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、ディスカッションへの参加状況によって評価する。			
	レポート	10%	食に関する指導についての理解度を評価する。			
	小テスト	20%	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。			
	定期試験					
	その他	50%	演習内容、課題への取組を評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
グループでの活動が多いので、この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際、各自で事前・事後学習に励むこと。						
【授業外学修】						
・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して、予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。				
参考書	自由記載	担当教員が提示する。				

授業科目名 **日本語表現** サブタイトル (音声言語と文章の表現) 授業番号 CA201

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

私たちは日常生活で言葉を介した様々なメディアに触れている。この授業では小グループでの活動を中心に、様々なメディアを分析・表現することで私的・公的な日本語表現の力を高めることを目的とする。

【到達目標】

音声言語表現及び文章表現についての基礎的な知識を獲得し、自分の考えを様々な形態に応じて表現できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：日本語表現の全体像
- 第2回：音声言語によるコミュニケーション—独話—
- 第3回：音声言語によるコミュニケーション—対話1—
- 第4回：音声言語によるコミュニケーション—対話2—
- 第5回：詩的表現1—俳句創作—
- 第6回：詩的表現2—俳句鑑賞—
- 第7回：小テスト1回目／詩的表現3—絵本—
- 第8回：視覚表現1—写真—
- 第9回：視覚表現2—写真鑑賞—
- 第10回：視覚表現3—CM分析—
- 第11回：視覚表現4—分析発表—
- 第12回：レポート1—論証—
- 第13回：レポート2—根拠づくり—
- 第14回：レポート3—レポート作成—
- 第15回：小テスト2回目

【授業計画 備考2】

補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	45%	授業内容の理解度を各回のミニ・レポートによって評価する。
	小テスト	55%	基礎的な知識の定着度を各回の小テストによって評価する。
	定期試験		
	その他		
自由記載	小テストの日程と範囲についてはそれぞれのテスト2週間前に告知する。 レポートはグループ活動の成果を中心に記述するため、グループ活動での積極性がない場合減点する。		

【受講の心得】

配付資料をファイルしておくこと。

学生相互の意見交流・評価活動を取り入れるため、積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。
 2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。
 3. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	大学生のためのレポート・論文術		小笠原喜康	講談社	本体740 円（税別）	9784062880213
	自由記載					

授業科目名	芸術	サブタイトル	(アートとデザイン)	授業番号	CA202
担当教員名	柏原 寛				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、アート及びデザインとは何かについて考えます。そのために、これまで世界各地で生まれてきたアート・デザインについて触れ、可能性や未来について考えます。					
【到達目標】 1) 幅広い分野の作品に親しむ。 2) 基礎的な用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。 3) アート作品・活動やデザイン作品・活動に対し、自分なりの考えを述べるができる。 4) 県内外にある芸術作品にふれ、自分なりの視点で作品を批評することができる。 5) 自分と対象や事象との関わりを深め、自分なりに意味や価値をつくりだすことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：アートってなんだろう 第2回：身の回りのアート 1 －パブリックアート－ 第3回：身の回りのアート 2 －パブリックアート－ 第4回：形のあるアート 1 －立体作品－ 第5回：形のあるアート 2 －絵画作品－ 第6回：形のないアート 1 －映像作品－ 第7回：形のないアート 2 －プロジェクト－ 第8回：アートに触れよう 1 －美術館にでかけよう－ 第9回：アートに触れよう 2 －美術館にでかけよう－ 第10回：デザインってなんだろう 第11回：形のあるデザイン 1 －立体分野－ 第12回：形のあるデザイン 2 －平面分野－ 第13回：デザインに触れよう 1 －街にあるデザインを探そう－ 第14回：デザインに触れよう 2 －街にあるデザインを探そう－ 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	30%	「アート及びデザインとは何か」について具体的に記述すること。		

小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

この講義の目標に対し、受講者とともに取り組みたい。課題をもとにディスカッションを行うので、協力しながら探求する態度を求める。

【授業外学修】

復習として、授業で課題を課すことがある。
 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。
参考書	自由記載	適宜、提示する。

授業科目名	心理学		サブタイトル	(心と行動の科学)		授業番号	CA203
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科				単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。							
【到達目標】 クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：心理学とは 第2回：予知体験の不思議 第3回：記憶の不思議 第4回：影響されるところ 第5回：揺れうごくところ 第6回：検査で「自分」がわかるのか 第7回：占い・新宗教がもつ現代的意味 第8回：中間のまとめ 第9回：子どもから見た現実と想像の世界 第10回：「もしかして……」と揺れ動く心の発達 第11回：不思議現象に立ち向かう子どもたち 第12回：脳とところの不思議な世界 第13回：科学的に検証するとはどういうことか 第14回：心理学を学ぶ人のために 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	自由記載	なし					
参考書	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN

不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学 入門	菊地 聡・谷口高 士・宮元博章（編 著）	北大路書 房	1900円	978-4- 7628- 2032-8
不思議現象 子どもの心と教育	菊地 聡・木下孝司 （編著）	北大路書 房	1900円	978-4- 7628- 2089-2
自由記載				

授業科目名	倫理学		サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)	授業番号	CA204
担当教員名	小谷 彰吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 激変する時代、しかも、答えのない時代を偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、『四書五経』をはじめとした先哲の思想を知る事で一つの参考としたり、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を高めていこうとする視点を身につけたい。したがって、本科目は中国学園大学のディプロマポリシーに見られる人格陶冶に直接関わる科目であり、「自己を客観的にとらえる目」を育てることによって、教育理念に迫る。こうした多くの教養を身につけることが、「知識力・情操力・意志力」を深いものにし、哲学的な思考へとつながる「全人育成」の基盤となる。						
【到達目標】 東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。						
第1回：「倫理学」とは何か(1)～授業ガイダンスと概要～ 第2回：「倫理学」とは何か(2)～哲学的思考と倫理実践へ～ 第3回：倫理の思想～徳の教育論(1)～義と宇宙観・宗教観の歴史～ 第4回：倫理の思想～徳の教育論(2)～現代社会と正義～ 第5回：日本の倫理の源流～神道・仏教・儒教と日本の精神文化～ 第6回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(1)『論語』の歴史と仁義礼智信 第7回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(2)『論語』と『武士道』 第8回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(3)その他の古典から 第9回：現代社会の倫理(1)～『品性論』から～ 第10回：現代社会の倫理(2)～『character education』から～ 第11回：現代社会の倫理(3)～『七つの習慣』をもとに～ 第12回：学校教育と倫理学(1)～いじめ問題と倫理～ 第13回：学校教育と倫理学(2)～教科化された道徳と倫理～ 第14回：これからの時代をよりよく生きていくということ～倫理と人生(1)高齢化社会と医療倫理～ 第15回：これからの時代をよりよく生きていくということ～倫理と人生(2)働き方改革と企業倫理～						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	ディスカッション等授業における意欲・態度、また、予告した文献の事前読書等			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	講義内での学習の確認とそれをもとにした自らの考えを論ずる小論文形式			

	その他					
	自由記載	子ども学部子ども学科ディプロマポリシー〈知識・理解〉に見られる保育者・教育者に求められる幅広い教養と保育と教育に関する専門的知識を習得，〈思考・問題解決能力〉に見られる現代の子供をとりまく多様な問題への対応に直接かかわるものとして，授業への参加態度とテストを50%ずつの割合とした。				
【受講の心得】 常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。						
【授業外学修】 授業内で紹介する著書については，可能な限りすべて読み，批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。 授業外で深めた基礎的教養によって，授業の中でのディスカッションの質が向上する。						
使用テキスト		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		テキストは使用しない。				
	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		講義内で随時，紹介する。				
	自由記載					

授業科目名	歴史学		サブタイトル	(身の回りのテーマ史15選)	授業番号	CA205
担当教員名	野村 泰介					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>歴史学とは、過去に書かれた文献や公文書、手紙や日記といった史料から歴史的事実を解明したり、複数の記録を繋いで新たな「歴史」を解釈する学問である。</p> <p>この講義では、高等学校までに学んできた通史（古い時代から新しい時代へ網羅的に記された歴史）ではなく、1回ごとにテーマを持たせ、掘り下げていき、さまざまな史料から当時の時代背景を考察する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史学とはどのようなものであるか理解し、歴史的方法での問題解決方法を身につける。 2. 身の回りのあらゆる事象に歴史的背景があることを一次史料、二次史料を通して理解する。 3. 授業で採りあげたテーマについて、根拠をもって自分なりの意見をもつ。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・解決力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：歴史のモノサシ 絶対年表と相対年表「懐かしさマイナス40年の法則」</p> <p>第2回：お金の歴史 和同開珎から仮想通貨まで</p> <p>第3回：戦後物価変動史 昔、ラーメン50円だったのは安いのか？</p> <p>第4回：太平洋戦争概論 なぜ日本はアメリカと戦争したのか</p> <p>第5回：女子学生の制服史 女学生スタイルブック</p> <p>第6回：モボ・モガの時代 昭和ヒトケタは本当に暗い時代だったの？</p> <p>第7回：ダブルプリズナーの記憶 戦争捕虜・ハンセン病</p> <p>第8回：古写真アーカイブズ なんでもない写真でも10年寝かせれば立派な史料！</p> <p>第9回：偉人の終活 意外と知らないエンディングノート</p> <p>第10回：華麗なる一族 藤原摂関家の系譜</p> <p>第11回：生き残るコトバ、死ぬコトバ 流行語からスタンダードになるには</p> <p>第12回：レトロとは何か 一周回っておしゃれになること</p> <p>第13回：「世代」を背負って 団塊、バブル、ロスジェネ、ゆとり・・・</p> <p>第14回：明治の世代論 80年周期説から2020年を占う</p> <p>第15回：恋愛の歴史学 日本人は恋愛が苦手？</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な受講態度、討議への参加、予習復習の状況によって評価する。			
	レポート	15%	主体的に歴史解釈ができるかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	70%	事実に基づき論理的に歴史的事項を説明できるかを評価する。			
	その他					
自由記載	毎時間、授業時間内に小レポートを書いて提出してもらう。 期末におこなう論述を中心とした筆記試験を行う。（持込み可）					

【受講の心得】

「歴史学」は高校までの歴史科目(日本史, 世界史)と違い, 単なる暗記科目ではありません。歴史学とは, 問題をたて, 事実を根拠として論理的に説明できる結論を出すことです。みなさんは講義での説明を鵜呑みにせず, 多くのテーマと事例を提示するので自分の頭で考え自分なりの歴史的解釈を出してください。

【授業外学修】

シラバス通りに授業を進めるので, テーマにあったキーワードについて週当たり4時間以上予習・復習すること。

使用テキスト	自由記載	ほぼ毎回レジュメを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **社会学**

サブタイトル (配偶者の選択と家族編成の社会的規則)

授業番号 CA206

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。

【到達目標】

現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化
- 第2回：家族社会学における「家族」の定義
- 第3回：家族を対象とした社会学的アプローチの方法
- 第4回：家族の種類と分類
- 第5回：青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察
- 第6回：青年期の異性交際の実態
- 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か
- 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム
- 第9回：配偶者選択のプロセス
- 第10回：結婚の社会的意味
- 第11回：結婚の社会的機能
- 第12回：離婚の社会的意味と機能
- 第13回：家族の新しい形
- 第14回：子どもの養育
- 第15回：老親の介護

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。
	レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。
	自由記載		

【受講の心得】

自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。
しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。

【授業外学修】

1. テキストを事前に読んでくること。
文章を読むだけではなく、掲載されている図表の意味するところを考える。
具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。
2. 最終レポートの課題を探しながら受講すること。
テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。

両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組むこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新しい家族社会学	森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4

自由記載

参考書

自由記載

講義の進行にあわせて適宜紹介する。

【その他】

特になし。

授業科目名 **日本国憲法**

サブタイトル (立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ)

授業番号 CA207

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

憲法の歴史、立憲主義に基づく憲法の内容と特徴、日本国憲法の誕生、個人の尊重と法の支配、人権、統治機構について講義する。

【到達目標】

日本国憲法は立憲主義に基づく憲法であり、個人の尊重を最も基本的な価値観としており、人権保障を何よりも重視している。また、人権保障を実現するために、法の支配を統治機構の基本原則とし、権力分立、民主主義、平和主義を採用していることを理解することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士科の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：立憲的意味の憲法とはどういうものか。
- 第2回：憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第3回：日本国憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第4回：日本国憲法の基本原則1、個人の尊重とはどういうものか。
- 第5回：日本国憲法の基本原則2、法の支配とはどういうものか。
- 第6回：日本国憲法では平和主義をどう定めているか。
- 第7回：人権の意味と特徴とは何か。
- 第8回：表現の自由とは何か。
- 第9回：信教の自由とは何か。
- 第10回：人身の自由、刑事手続における権利とは何か。
- 第11回：生存権とは何か。
- 第12回：プライバシーの権利とは何か。
- 第13回：権力分立の原理とは何か。
- 第14回：地方自治とは何か。
- 第15回：憲法改正について考えよう。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	伊藤真の日本一やさしい「憲法」の授業	伊藤真	KADOKAWA	1400円+ 税	978-4- 04- 601993-6
	自由記 載				
参考書	自由記 載	授業において随時紹介する。			

授業科目名	ボランティア基礎論	サブタイトル	地域社会とボランティア活動	授業番号	CA208
担当教員名	中田 周作 槇尾 真佐枝 柏原 寛 坂田 季穂 河野 勇人 多田 賢代 日野 正輝				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】 本学では地域社会との連携あるいはキャリア教育の一環として各種ボランティア活動に対して積極的に取り組んでいるが、近年、各地に起こる大震災を契機にボランティア活動とは何かが改めて問われている。 本講義ではボランティアの意義、歴史、精神と思想について十分な基礎知識を学ぶとともに、社会とボランティア活動との関係について考えてみる。また、各分野で活躍されている実践者の方からボランティア活動の現状と課題、その可能性についても学ぶ。</p>					
<p>【到達目標】 1)ボランティアの意義や各分野の実情を知ること、地域社会で起きている問題を解決するために何が求められているかについて考えるための基礎的知識を習得する。 2)ボランティアについて学ぶことにより、自分自身を見つめ直すと同時に相手の気持ちを思いやる大切さを身につけ、ボランティア活動を実践する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

第1回：ボランティア活動の計画と実際(1)	※（担当担当：中田周作（現代生活学部） 担当：河野勇人（現代生活学部） 担当：日野正輝（国際教養学部） 担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第2回：日ようび子ども大学の紹介	※（担当担当：柏原 寛（子ども学部））
第3回：地域のお祭りにおけるボランティア活動	※（担当講義：岸本晃一（温羅化粧部会 部会長） 司会：日野正輝（国際教養学部））
第4回：子どもの自然体験活動	※（担当講義：中田周作（現代生活学部））
第5回：手話とボランティア	※（担当講義：坂田季穂（子ども学部））
第6回：しょうがい児・者とボランティア	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部））
第7回：学習支援とボランティア	※（担当担当：柏原 寛（子ども学部））
第8回：ボランティア活動の計画と実際(2)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第9回：ボランティア活動の計画と実際(3)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第10回：地域文庫活動とボランティア	※（担当講義：坂田季穂（子ども学部））
第11回：食育ボランティア	※（担当講義：多田賢代（現代生活学部））
第12回：こどもパートナーと遊びのタネ展	※（担当担当：中田周作（現代生活学部））
第13回：ボランティア活動の計画と実際(4)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第14回：ボランティア活動の計画と実際(5)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第15回：ボランティア活動の成果の発表	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	100%	各回のレポート
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載 毎回のレポートの提出先は、所属学科で異なるので、各自で確認すること。		

【受講の心得】
身近なボランティア活動に積極的に参加し、実践体験を通して学ぼう。

【授業外学修】

ニュースや新聞を通し，社会的事象に関心を持ち，情報収集すること。

また，身近なボランティア活動に積極的に参加すること。

両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ボランティアのすすめ	岡本栄一	ミネルヴァ書房		
	基礎から学ぶボランティアの理論と実際	巡清一・早瀬昇	中央法規社		
	自由記載				

授業科目名 **数学概論**

サブタイトル (数学的活動の実際)

授業番号 CB201

担当教員名 川上 公一

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

数学では、現実の事象から離れ、抽象的な思考や形式的な操作を行う活動が増えてくる。算数から数学へ移行していく段階の教材をもとにして、数や図形の性質などを見だし発展したり、日常生活や具体的な事象と数学を結び付けて考察したり処理したりする数学的活動を行う。さらにこれらの活動の中心となるのは、数学的な表現を用いて説明し伝え合うことである。数学的活動は、身の回りに起こる事象数理的に考察する活動である。

【到達目標】

数学的活動を通して、基礎的基本的な知識・技能を確実に身に付けるとともに、数学的な思考力・表現力を高め、論理的に問題解決することの楽しさや意義を実感できるようになる。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：数と式 1 4つの4 (計算規則)
- 第2回：数と式 2 数列
- 第3回：数と式 3 等差数列の等比数列
- 第4回：数と式 4 100までの和 数列の和
- 第5回：論理 1 漸化式 数学的帰納法 背理法
- 第6回：論理 2 プログラミング n/m角形 点字と数学
- 第7回：図形 1 タングラム
- 第8回：図形 2 三平方の定理
- 第9回：図形 3 オイラーの多面体定理
- 第10回：図形 4 円の5心
- 第11回：図形 5 円周角の定理 接弦定理
- 第12回：図形 6 三角比
- 第13回：関数 1 一次関数 二次関数
- 第14回：関数 2 指数関数 対数関数
- 第15回：まとめ「何のために数学を学ぶのか」

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	講義の中での、数学的活動・問題解決への取組を評価する。
	レポート	30%	毎回の講義の「振り返り」と「気づき」をレポートで提出したものを評価する。
	小テスト		
	定期試験	40%	数学的な思考力・表現力を活用し論理的に問題解決する能力を評価する。
	その他		
	自由記載		ポートフォリオ評価を重視する。

【受講の心得】

本来教室では自由に自分の意見が発言でき、それが正しくても、まちがっていても、議論の一環となり授業が広がっていくものです。自分が気づいたことを自由に数学的に表現することを大切にしていきたい。このような活動を通して、自信を持って自分の考えを自然に表現し、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるようになってもらいたい。ことになる。

【授業外学修】

「学び」を大切にすることは、どの段階でも同じである。生き生きとした「学び」のためには、きちんとした規律が成り立っていることが大切になる。ノートを取り方、発言の仕方、話し合いの進め方などのルール作りを大切に
する。

使用テキスト	自由記載	なし（テキスト配布）
参考書	自由記載	

授業科目名	現代環境論		サブタイトル	(現代の身近な環境を「実感」する)	授業番号	CB202
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
私たちの日常の関わりの中から、現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて、現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。						
【到達目標】						
「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点をおき、環境問題という現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉と〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：授業概要の説明，環境に関する基礎講座I						
第2回：環境に関する基礎講座II						
第3回：地球環境問題認識度チェック(クイズ形式の参加型学修)						
第4回：ドングリとイノシシに学ぶ?!(吉備の中山での体験学修)						
第5回：中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？(水環境に学ぶ体験学修)						
第6回：ごみと資源と私たち(ごみ(対策・分別)について学ぶ)						
第7回：学内「環境てんけん」(体験学修)						
第8回：中国学園近辺に降る雨は大丈夫か？(大気汚染と酸性雨について学ぶ)						
第9回：「シーベルト」「ベクレル」って何だ？(放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ)						
第10回：循環型社会へ向けて(環境問題と国際的取り組み)						
第11回：環境問題解決のための新技術(脱化石エネルギー，リサイクル，水素エネルギーと燃料電池他)						
第12回：太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！(再生可能エネルギーの実践を通して)						
第13回：環境保全啓発コマーシャルづくりI(グループワーク)						
第14回：環境保全啓発コマーシャルづくりII(コマーシャルの成果発表と私たちが望む未来を考える)						
第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，グループワーク等への参加度，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	野外学修等の後はレポートを提出してもらおう。何に気づき，何を得たのかなど，書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は，その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	最後に行う「環境保全啓発コマーシャル」の内容について評価する。			
	自由記載					

【受講の心得】

この授業は、野外学修も行うため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい。野外学修等の後はレポートを提出してもらおう。試験代わりの重要な成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい(シートの返却が必要な人には個別対応するので、担当教員に直接その旨を申し出ていただきたい)。

【授業外学修】

1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。
 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。
- 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	CB203
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
【到達目標】 私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：授業概要の説明，自然科学の基礎講座I 第2回：自然科学の基礎講座II 第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 第4回：学内環境を科学する(観察と観測，結果の考察) 第5回：タイムマシンは作れるか？(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ) 第6回：君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） 第7回：水に関する基礎講座ならびに実験と実習 第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？（音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック） 第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶ） 第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習 第12回：見上げてごらん夜の星を！スマホで撮ろう流れ星（宇宙と科学） 第13回：外部講師による授業（子どもたちに科学実験の講座を数多く実践されている「岡山のでんじろう先生」の科学に纏わるお話や実験） 第14回：自然科学教材を用いた体験学修 第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，実験・実習・討議等への参加度，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	最終レポート（子どもたちに科学実験教室を実施する想定での企画書を作成する。）			
	小テスト					
	定期試験					

その他	60%	毎回の授業で「ふりかえりシート」を書いてもらう。何に気づき、何を得たのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。
-----	-----	--

自由記載

【受講の心得】

この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい。各回の授業の最後に提出してもらう「ふりかえりシート」は、試験代わりの成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい(シートの返却が必要な人には個別対応するので、担当教員に直接その旨を申し出てください)。

【授業外学修】

1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。
 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。
- 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

授業科目名 **生活と情報処理**

サブタイトル (パソコン利用の基礎)

授業番号 CC201

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現代の情報社会において、パソコンは最も基礎的なツールの1つである。
そこで、パソコンを利用して資料を作成していく。
また、ネットの基礎的な使用方法を身につける。
こうした取り組みを通して、情報処理に関する基礎的知識を習得する。

【到達目標】

本授業の具体的な目標は、次の3点である。

- (1) パソコンに関する基礎知識を学ぶ。
- (2) ワード・エクセル・パワーポイントを使って、資料を作成してみる。
- (3) ネットの基本的な利用方法を身につける。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：パソコンに関する基本知識

第2回：ネット利用に関する基本知識(1)

第3回：ネット利用に関する基本知識(2)

第4回：パワーポイントを使った自己紹介(1)

第5回：パワーポイントを使った自己紹介(2)

第6回：パワーポイントを使った自己紹介(3)

第7回：パワーポイントを使った自己紹介(4)

第8回：パワーポイントを使ったプレゼンテーション(1)

第9回：パワーポイントを使ったプレゼンテーション(2)

第10回：エクセルを使った将来の家計簿作り(1)

第11回：エクセルを使った将来の家計簿作り(2)

第12回：エクセルを使った将来の家計簿作り(3)

第13回：ワードを使った学部紹介(1)

第14回：ワードを使った学部紹介(2)

第15回：ワードを使った学部紹介(3)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	プレゼンテーションを含む
	レポート	90%	授業中に作成し提出する資料3つ（3つの課題が各30%）
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

3つの課題は必ず提出すること。
分からないことは質問すること。

【授業外学修】

授業中に具体的に指示するが、3つの課題作成にあたって授業時間内に完成しない場合は、適宜、授業外学修として取り組み、締め切り日までに必ず提出すること。

予習は不要であるが、上記の課題及び復習を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

【その他】

パソコンを大切に使用すること。

またパソコン教室には、飲食物の持ち込みを一切禁止する。

これに違反した場合は、以降の受講を認めない。

授業科目名 **情報処理演習**

サブタイトル ワードプロソフトの基本操作

授業番号 CC202

担当教員名 岸 誠一

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本演習ではMicrosoft社製ワードプロソフト Word 2016を使用し、コンピュータおよびワードプロソフトの基本操作の習得を目指し演習を行う。

【到達目標】

ワードプロソフトの基本操作を習得し、簡単な文書や広報用のちらしなどが作成できる力を身につけることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：授業概要とP Cの基本操作I

第2回：P Cの基本操作II（ファイルの管理と情報セキュリティ）

第3回：Wordの基礎知識

第4回：文字の入力

第5回：文書の作成I（ページレイアウトの設定・文字の削除，挿入，コピー，配置・文書の保存・印刷）

第6回：文書の作成II（表の作成）

第7回：文書の編集

第8回：表現力をアップする機能I（ワードアート，画像の挿入）

第9回：表現力をアップする機能II（図形の作成，テーマの適用）

第10回：長文作成 1

第11回：長文作成 2

第12回：図形を利用したイラストの作成

第13回：総合演習 1（学習指導案の作成等）

第14回：総合演習 2（学級通信・園だよりの作成等）

第15回：総合演習 3（ビジネス文書の作成等）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	各回の演習の成果物（レポート）により基本操作の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

タイピング練習はコンピュータ入力の基本なので各自で授業とは別に練習しておくこと。

【授業外学修】

1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。

2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。

3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。

以上の内容を，1回あたり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる Microsoft Office Word 2016 基礎	FOM	FOM	2, 000	978-4-86510-277-2
	自由記載				
参考書	自由記載	よくわかる Microsoft Office Word 2016 応用』 FOM出版			

授業科目名 **英語I**

サブタイトル 英語で岡山を楽しみながら学ぼう

授業番号 CD201

担当教員名 藤代 昇丈 藤井 佐代子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて、外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い、英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで紹介文を書き、簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。

【到達目標】

- ・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。
- ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。
- ・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：1-1-1 New Year's Day

第2回：1-1-2 Welcome to Okayama

第3回：1-1-4 At Korakuen

第4回：1-2-3 At Shin-Kurashiki Station

第5回：1-2-4 Ohara Museum of Art

第6回：1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine

第7回：2-1-1 At Suzuki's House 1

第8回：2-1-2 At Suzuki's House 2

第9回：2-3-1 Jeans Town Kojima

第10回：2-3-2 Okayama-ben

第11回：2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles

第12回：2-3-5 Star Watching

第13回：3-1-3 At the Beginning of the New School Year

第14回：3-3-1 A Global Company in Okayama 1

第15回：科目授業全体の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめられているかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記載	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。

【授業外学修】

- 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	岡山から“ハロー”	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	1,000	978-4-88197-743-9
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **英語II**

サブタイトル 会話で楽しく学ぶ英語

授業番号 CD202

担当教員名 藤代 昇丈 藤井 佐代子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

基礎的な文法・語彙を復習しながら、知識の定着を図る。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能すべてを統合的に学ぶが、特にスピーキングとリスニングに重点を置く。

【到達目標】

- ・基礎的な文法事項を理解し、実際に会話でその知識を使えるようになる。
- ・語彙を増やし、身の回りのことについて英語で説明できるようになる。
- ・基礎的な内容の会話を聞き取り、内容を理解できるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Unit 1 Where are you from?

第2回：Unit 2 What do you do?

第3回：Unit 3 How much are these?

第4回：Unit 4 Do you play the guitar?

第5回：Unit 5 What an interesting family!

第6回：Unit 6 How often do you run?

第7回：Unit 7 We went dancing!

第8回：Unit 8 How's the neighborhood?

第9回：Unit 9 What does she look like?

第10回：Unit 10 Have you ever been there?

第11回：Unit 11 It's a really nice city.

第12回：Unit 12 It's important to get rest.

第13回：Unit 13 What would you like?

第14回：Unit 14 It's the coldest city!

第15回：Unit 15 What are you doing later?, まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめであるかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する
	その他 自由記載	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。

【授業外学修】

- 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	interchange 5th edition level 1, Student's Book With Online Self-Study	Jack C. Richards, Jonathan Hull, Susan Proctor	Cambridge University Press		
	自由記載				
参考書	自由記載	適宜プリントを配付する。			

授業科目名	英語III		サブタイトル	(総合英語)	授業番号	CD303
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>洋楽を通して、英語独特の音声変化に慣れ親しむとともに、異文化トピックを扱った英文を読み、既習の文法事項について説明する。</p> <p>また、毎回授業の最初に英検準2級対策を行う。</p>						
【到達目標】						
<p>読解を通して、異文化理解を深めるとともに、英検準2級に相当する基礎的なコミュニケーション能力を養い、総合的な英語運用能力を身につけることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：Unit 1 Complicated (Avril Lavigne) 文法：接続詞と前置詞の区別</p> <p>第2回：Unit 2 S.O.S.(ABBA) 文法：仮定法</p> <p>第3回：Unit 3 You Are Not Alone (Michael Jackson) 文法：品詞</p> <p>第4回：Unit 4 Don't Wanna Lose You (Gloria Estefan) 文法：不定詞</p> <p>第5回：Unit 5 How Crazy Are You? (Meja) 文法：分詞</p> <p>第6回：Unit 6 Sunday Morning (Maroon 5) 文法：形容詞・副詞</p> <p>第7回：Unit 7 I Want It That Way (Backstreet Boys) 文法：知覚・使役動詞</p> <p>第8回：Unit 8 Suddenly I See (KT Tunstall) 文法：動名詞</p> <p>第9回：Unit 9 How Am I Supposed To Live Without You? (Michael Bolton) 文法：受動態</p> <p>第10回：Unit 10 Save The Best For Last (Vanessa Williams) 文法：完了形</p> <p>第11回：Unit 11 Last Christmas (Wham!) 文法：5文型</p> <p>第12回：Unit 12 Torn (Natalie Imbruglia) 文法：助動詞</p> <p>第13回：Unit 13 La La (Means I Love You) (Swing Out Sister) 文法：関係代名詞</p> <p>第14回：Unit 14 With You (Chris Brown) 1 文法：否定</p> <p>第15回：Unit 14 With You (Chris Brown) 2 まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
レポート	15%	課題について，練習問題の訳と英作文ができていること。課題は，コメントを記入して返却する。
小テスト	15%	単語テストを実施し，合計得点により評価する。
定期試験	50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

- ・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。
- ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。

【授業外学修】

1. 予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。
 2. 復習として，授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	English with Pop Hits	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂	2, 200円 +税	978-4- 7919- 3387-7

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	韓国語		サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		授業番号	CD204
担当教員名	宋 娘沃						
対象学部・学科				単位数	2単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>韓流ブーム以降、冬季オリンピック、文化交流などを通じて韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は、文法が類似している。とくに、言葉にとっても大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテイメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の言葉や文法を習得することができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 ・簡単な韓国語が書けることができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>							
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：韓国語とは 第2回：文字と発音・母音 第3回：文字と発音・子音 第4回：激音と農音，パッチム 第5回：助詞，動詞 第6回：基本文型過去形の作り方 第7回：感嘆文，疑問文 第8回：基本文型指示代名詞，助数詞 第9回：用語の丁寧形，尊敬形 第10回：会話練習，表現 第11回：挨拶，訪問の言葉 第12回：韓国の大学 第13回：韓国の食生活と食べ物 第14回：韓国の文化と映画 第15回：韓国の若者と社会生活</p>							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	授業への意欲，質問，宿題を積極的に行っていたかを評価する。			
	レポート						
	小テスト		30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。			
	定期試験		40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。			
	その他						
自由記載							

【受講の心得】

- ・ 韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。
- ・ 韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・ 予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして授業に来ること。
- ・ 復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。
- ・ 韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。

以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	1600円	978-4-8163-5558-5

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	フランス語		サブタイトル	(フランスに行こう)	授業番号	CD205
担当教員名	盛政 文子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
フランス語のわずかなセンテンスを使って、日常会話に触れる授業である。又、シャンソンを聴きながら、フランス語の持つリズムと雰囲気を楽しみ、効果的に学習する。更に、魅力あふれる映像を通して、フランス文化の理解を広げる。						
【到達目標】						
日常生活で使用する会話を身に付けること。フランスのファッションや料理、世界遺産に興味を持つことで見識を広げること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：挨拶の表現 映像：シテ島 シャンソン：『月明かりで』						
第2回：パリに行こう！ 映像：セーヌ川左岸 シャンソン：『アヴィニヨンの橋の上で』						
第3回：フランスの学生生活 映像：ナポレオンの墓						
第4回：自己紹介をする 映像：シャンゼリゼ大通り シャンソン：『オーシャンゼリゼ』						
第5回：カフェでお茶を 映像：マカロン						
第6回：フランス人の生活観 映像：パリでの生活（1）						
第7回：ショッピングを楽しむ 映像：パリでの生活（2） シャンソン：『パリのお嬢さん』						
第8回：家族について話す 映像：ルーヴル美術館						
第9回：レストランでディナーを 映像：モンマルトル						
第10回：フランス人の祝日 映像：パリのクリスマス（1） シャンソン：『きよしこの夜』						
第11回：週末の予定について 映像：パリのクリスマス（2）						
第12回：パリ郊外への旅 映像：ロワール河古城巡り						
第13回：フランスの世界遺産 映像：ノルマンディー地方						
第14回：モン・サン・ミシエルの成り立ち 映像：モン・サン・ミシエル（1）						
第15回：モン・サン・ミシエルを訪れる 映像：モン・サン・ミシエル（2）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な受講態度、ワークシートを評価する。			
	レポート	20%	授業で観たビデオの感想を評価する。			
	小テスト	0%				
	定期試験	50%	〈レポート試験〉(30%)興味を持ったフランスの文化について、日本語で600字程度のレポートを書く。〈口頭試問〉(20%)簡単なフランス語で自己紹介をする。筆記試験はない。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

フランスに行くために必要な知識と会話表現を身につけてもらいたい。そのために日頃から身近に使われているフランス語・フランスに関するニュース・旅番組にも興味を持ち、フランスに行きたいと思ってほしい。

【授業外学修】

- 1.授業時使用したワークシートを、ノートに貼ること。
 - 2.授業時観た映像についての200字程度の感想を日本語で書き、次回に提出すること。
- 以上の内容を週当たり2時間以上学修すること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト トライ！ フランス語	藤田知子 他著	駿河台出版社	税別1800円	978-4-411-00825-1

自由記載 毎授業にワークシートを配布。

参考書

自由記載

【その他】

授業時使用したワークシートを貼るB5のノートを用意する。

授業科目名 **体育講義**

サブタイトル (日常生活と健康)

授業番号 CE201

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化等が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。

【到達目標】

人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「体力」について考える

第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える

第3回：「自律神経」のはたらきについて考える

第4回：「背筋力」のはたらきについて考える

第5回：「免疫力」のはたらきについて考える

第6回：「睡眠」とスポーツ

第7回：身体形成と機能の発達

第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ

第9回：

第10回：

第11回：

第12回：

第13回：

第14回：

第15回：

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	60%	理解度を評価する
	その他 自由記載		

【受講の心得】

・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。

【授業外学修】

- ・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。
- ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)
参考書	自由記載	

授業科目名 **体育実技**

サブタイトル (スポーツに親しもう)

授業番号 CE202

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実技

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールを理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開）
- 第4回：バスケットボールIV（ゲームの展開）
- 第5回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第6回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第7回：バレーボールIII（ゲームの展開）
- 第8回：バレーボールIV（ゲームの展開）
- 第9回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）
- 第10回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第11回：バドミントンIII（ゲームの展開）
- 第12回：バドミントンIV（ゲームの展開）
- 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）
- 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第15回：卓球III（ゲームの展開）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している
	レポート		
	小テスト	40%	各競技ごとに技能テストを実施する
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。

全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。

・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)
参考書	自由記載	

授業科目名	ファーストイヤーセミナー	サブタイトル	(大学生生活に慣れよう！)	授業番号	CF101
担当教員名	佐々木 弘記 村井 隆人 岸 誠一 中田 周作 大橋 由佳				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
子ども学部子ども学科の理念・目標、学びの姿勢、図書館の活用、情報倫理、「子ども学」の基礎、社会人としての素養など、将来への展望も含めて、オムニバス形式で講義を行う。					
【到達目標】					
大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など、大学生活を充実したものとしていくための基礎的な知識や技能を身に付ける。〈知識・理解〉 〈技能〉 また、将来、保育者・教育者として、子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を形成するための素地を養う。〈態度〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉 〈技能〉 〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：図書館オリエンテーション ※ (担当外部講師, 村井)					
第2回：子ども学部 学科長講義 演題：これからの大学生活 ※ (担当佐々木)					
第3回：岡山県による学習支援ボランティア, 国立吉備青少年自然の家などでのボランティアについて ※ (担当外部講師, 村井)					
第4回：交通安全について ※ (担当外部講師, 村井)					
第5回：安全教育, インターネットやスマホの安全な活用, 子どもの安全 ※ (担当佐々木, 岸)					
第6回：マナーに関する講座 ※ (担当大橋, 村井)					
第7回：金融に関する講座(1) ※ (担当外部講師, 村井)					
第8回：感染症対策について ※ (担当外部講師, 村井)					
第9回：人権について考えよう ※ (担当外部講師, 村井)					
第10回：金融に関する講座(2) ※ (担当外部講師, 村井)					
第11回：生と性について ※ (担当外部講師, 村井)					
第12回：子ども学部で取得できる免許・資格と大学院進学について ※ (担当中田)					
第13回：子ども学部のカリキュラムとコース制について ※ (担当中田)					
第14回：白鷺eラーニングについて ※ (担当佐々木)					
第15回：アルコール依存症について ※ (担当外部講師, 村井)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	80%	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				

毎回、授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて、提出する。
自由記載 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。
最終回にコメントペーパーや資料を綴じたファイルを提出する。

【受講の心得】

大学生の基礎的素養として大切な内容であるため、積極的な態度で受講すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、配付する。
参考書	自由記載	外部講師等を招聘する場合は、一部、開講時間の変更を行うことがあるので注意すること。本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。

授業科目名 **現代子ども学入門**

サブタイトル

授業番号 CL101

担当教員名 佐々木 弘記 中田 周作 中 典子 國田 祥子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

子ども学とは、子どもを対象とする学際的な学問である。子どものあり方と子どもを取り巻く問題を、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉など様々な学問分野から、広い視点で見直していく。本講義では、オムニバス形式によって、各学問領域から多角的に子どもにアプローチすることにより、総合的に子ども研究を進めていくための基礎を培う。

【到達目標】

学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉など様々な学問分野から子ども学にアプローチをすることにより、総合的に子ども研究を進めていくための基礎となる知識や技能を身に付ける。〈知識・理解〉〈技能〉

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------|----------|
| 第1回：子ども学の基礎概念 | ※（担当佐々木） |
| 第2回：子ども学の研究対象：学校教育学のアプローチ | ※（担当佐々木） |
| 第3回：子ども学の研究対象：子どもの放課後 | ※（担当中田） |
| 第4回：子ども学の研究方法：社会学のアプローチ | ※（担当中田） |
| 第5回：子ども学の研究方法：心理学のアプローチ | ※（担当國田） |
| 第6回：子ども学の研究方法：統計学のアプローチ | ※（担当國田） |
| 第7回：子ども学の研究対象：幼児教育学（1） | ※（担当齊藤） |
| 第8回：子ども学の研究対象：幼児教育学（2） | ※（担当齊藤） |
| 第9回：子ども学の研究対象：保育学（1） | ※（担当伊藤） |
| 第10回：子ども学の研究対象：保育学（2） | ※（担当伊藤） |
| 第11回：子ども学の研究対象：社会福祉（1） | ※（担当中） |
| 第12回：子ども学の研究対象：社会福祉（2） | ※（担当中） |
| 第13回：子ども学の研究対象：子どもの放課後 | ※（担当中） |
| 第14回：子ども学の研究対象：教科教育学 | ※（担当村井） |
| 第15回：子ども学の研究対象：教科教育学 | ※（担当村井） |

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
レポート	80%	毎回作成するレポートで評価する。
評価の方法	小テスト	
	定期試験	
	その他	
自由記載		毎回、授業の内容をコメントペーパーにまとめて、提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参すること。

【受講の心得】

原則として「ファーストイヤーセミナー」を履修していること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	なし
参考書	自由記載	適宜, 指示する。

【その他】

本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。

授業科目名 **子ども研究法I**

サブタイトル

授業番号 CL202

担当教員名 佐々木 弘記 小川 深雪 村井 隆人

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、1年次の「現代子ども学入門」を踏まえ、子ども学を探究していくために日本語の文章や論文の読み方や書き方についての基礎的・基本的な知識や技能を習得する。

【到達目標】

子ども学を探究していくために日本語の文章や論文の読み方や書き方についての基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもを研究する方法としての基礎理論	※ (担当小川)
第2回：文献の読み方	※ (担当小川)
第3回：文章の構成	※ (担当小川)
第4回：研究的文書の読み方	※ (担当小川)
第5回：日本語と論文	※ (担当小川)
第6回：論文の構成	※ (担当小川)
第7回：論文の成り立ち	※ (担当小川)
第8回：文献の参照	※ (担当村井)
第9回：分かりやすい文章	※ (担当村井)
第10回：論法	※ (担当村井)
第11回：導入の文章	※ (担当村井)
第12回：展開の文章	※ (担当村井)
第13回：まとめの文章	※ (担当村井)
第14回：首尾一貫性のある文章	※ (担当村井)
第15回：子ども研究における研究方法	※ (担当佐々木, 村井)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	80%	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		毎回、授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて、提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。

【受講の心得】

原則として「現代子ども学入門」を履修していること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	原稿用紙10枚を書く力	齋藤孝	大和書房	648	
	自由記載	なし			
参考書	自由記載	適宜, 指示する。			

【その他】

本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。

授業科目名 **子ども研究法II** サブタイトル 授業番号 CL203

担当教員名 佐々木 弘記 岸 誠一 中田 周作 村井 隆人 大橋 由佳

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 2年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、「子ども研究法I」を踏まえ、子ども学を探究していくための研究方法や論文の読み方や書き方についての基礎的・基本的な知識や技能を習得する。

【到達目標】

子ども学を探究していくための研究方法や論文の読み方や書き方についての基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：文献の探し方	※（担当佐々木，中）
第2回：文献の読み方	※（担当中）
第3回：子ども研究の展開	※（担当村井）
第4回：子ども研究の実際	※（担当村井）
第5回：論文の構成	※（担当村井）
第6回：研究目的の設定	※（担当村井）
第7回：研究方法の設定	※（担当村井）
第8回：調査の仕方	※（担当村井）
第9回：結果・考察の書き方	※（担当村井）
第10回：引用・参考文献の書き方	※（担当村井）
第11回：研究の倫理	※（担当村井）
第12回：子ども研究の追究	※（担当柏原）
第13回：子ども研究の展開	※（担当柏原）
第14回：子ども研究の成果	※（担当柏原）
第15回：子ども研究のまとめ	※（担当柏原）

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80%	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。
評価の方法		
小テスト		
定期試験		
その他		
自由記載		毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。

【受講の心得】

原則として「子ども研究法I」を履修していること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	なし
参考書	自由記載	適宜, 指示する。

【その他】

本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。

授業科目名	課題研究I		サブタイトル		授業番号	CL304
担当教員名	小野 文子 岸 誠一 佐々木 弘記 中 典子 中田 周作 槇尾 真佐枝 平松 美由 紀 柏原 寛 溝田 知茂 坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 課題研究は、卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため、当該分野の基礎的知識の獲得や、データの収集方法を学ぶ。本学科において「子ども学」は、幼児・児童教育、行動科学、福祉・保育、芸術・感性から成り、それぞれに担当教員がいる。学生は、その指導教員のもとで、研究方法や文献整理などを行っていく。						
【到達目標】 様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し、学生自身が自らの研究課題を明確にすることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 第1回 授業の概要・目的の解説、授業の進め方について。各コース（幼児・児童教育、行動科学、福祉・保育、芸術・感性）を理解する。 第2回 各コースにおける研究課題。 第3回～第15回 指導教員のもとで研究方法や文献整理などを行う						
領域（キーワード） 初等・教科教育（教師論、学童保育など） 幼児教育（幼児の成長、幼児の遊びなど） 認知心理学（子どもの認知、学習など） 児童福祉（子育て支援、スクールソーシャルワークなど） 音楽教育（ピアノ演奏、音楽科教育、音楽的成長など） 美術教育（美術教材開発、造形製作など） 身体教育（身体活動、身体表現など）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	課題への取り組み意欲、取り組む行為から評価する			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	課題の理解度と定着度を評価する			
自由記載						
【受講の心得】 原則として「子ども研究法II」を履修していること。						
【授業外学修】 授業で提示された課題を実施し、週当たり2時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	課題研究II		サブタイトル		授業番号	CL305
担当教員名	小野 文子 岸 誠一 佐々木 弘記 槇尾 真佐枝 平松 美由紀 中 典子 中田 周 作 柏原 寛 溝田 知茂 坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 課題研究IIでは、課題研究Iで整理された先行研究をもとに、どのような研究課題があるのか、またどのような研究方法があるのかについて学習していく。 課題研究は、卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため、当該分野の基礎的知識の獲得や、データの収集方法を学ぶ。本学科において「子ども学」は、幼児・児童教育、行動科学、福祉・保育、芸術・感性から成り、それぞれに担当教員がいる。学生は、その指導教員のもとで、研究方法や文献整理などを行っていく。						
【到達目標】 卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行い、卒業研究I・IIへと繋がっていくように研究課題を明らかにすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 第1回～第15回 指導教員のもとで研究方法や文献整理などを行う。						
領域（キーワード） 初等・教科教育（教師論、学童保育など） 幼児教育（幼児の成長、幼児の遊びなど） 認知心理学（子どもの認知、学習など） 児童福祉（子育て支援、スクールソーシャルワークなど） 音楽教育（ピアノ演奏、音楽科教育、音楽的成長など） 美術教育（美術教材開発、造形製作など） 身体教育（身体活動、身体表現など）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	課題への取り組み意欲、取り組む行為から評価する			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	課題の理解度・定着度を評価する			
自由記載						
【受講の心得】 原則として「課題研究I」と「キャリア教育論」を履修していること。 授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。						
【授業外学修】 授業で提示された課題を実施し、週当たり2時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	卒業研究I		サブタイトル		授業番号	CL406
担当教員名	小野 文子 岸 誠一 佐々木 弘記 小川 深雪 槇尾 真佐枝 平松 美由紀 中 典 子 中田 周作 柏原 寛 藤井 佐代子 溝田 知茂 國田 祥子 坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	3単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 卒業研究IIは、課題研究で到達した卒業課題に対して研究をどのように進めるのかを具体的に学習する。課題の設定や研究への着手に先立って、学生自身の個人発表を求め、相互に意見交換を行う。 子ども学には、様々な領域や方法が存在するが、各指導教員によって各学生が夏期休暇中に自分の研究を進められるようにする。						
【到達目標】 卒業論文のテーマを明らかにし、研究を具体的に進めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
領域（キーワード） 初等・教科教育（教師論、学童保育など） 幼児教育（幼児の成長、幼児の遊びなど） 認知心理学（子どもの認知、学習など） 児童福祉（子育て支援、スクールソーシャルワークなど） 音楽教育（ピアノ演奏、音楽科教育、音楽的成長など） 美術教育（美術教材開発、造形製作など） 身体教育（身体活動、身体表現など）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	課題への取り組み意欲、取り組む行為から評価する			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	課題の理解度を評価する			
自由記載						
【受講の心得】 原則として「課題研究II」と「キャリア教育演習I」を履修していること。						
【授業外学修】 中期計画及び長期計画の目標に沿った行動をする。授業で提示された課題を実施し、週当たり5時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	卒業研究II		サブタイトル		授業番号	CL407
担当教員名	小野 文子 岸 誠一 佐々木 弘記 小川 深雪 槇尾 真佐枝 平松 美由紀 中 典 子 中田 周作 柏原 寛 藤井 佐代子 溝田 知茂 國田 祥子 坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	3単位			
開講年次	4年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 卒業研究IIは、これまで受けてきた指導をもとに、卒業論文の提出を目指して、各自、精力的に研究活動を進めていく。演習形式と個別指導とを適宜、組み合わせて、各自の論文の構想について報告し合いながら具体的な指導を行う。 卒業研究IIでは、学生が4年間の学びの集大成として、将来への自身を持つことができるように論文指導を行う。						
【到達目標】 卒業論文を完成させることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
領域（キーワード） 初等・教科教育（教師論、学童保育など） 幼児教育（幼児の成長、幼児の遊びなど） 認知心理学（子どもの認知、学習など） 児童福祉（子育て支援、スクールソーシャルワークなど） 音楽教育（ピアノ演奏、音楽科教育、音楽的成長など） 美術教育（美術教材開発、造形製作など） 身体教育（身体活動、身体表現など）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	課題への取り組み意欲、取り組む行為から評価する			
	レポート		課題の理解度を評価する			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	卒業研究の成果と発表内容			
	自由記載					
【受講の心得】 原則として「卒業研究I」と「キャリア教育演習II」を履修していること。						
【授業外学修】 各自が卒業論文を完成させるために、授業で提示された課題を実施し、週当たり5時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。				
参考書	自由記載					

授業科目名 **基礎学力養成セミナー** サブタイトル 授業番号 CM101

担当教員名 佐々木 弘記 村井 隆人 三木 博文

対象学部・学科 単位数 1単位
開講年次 1年 開講期 前期
必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。

【到達目標】

専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：自己課題の分析と確認	※ (担当佐々木, 村井)
第2回：大学での学修方法 基礎	※ (担当村井)
第3回：大学での学修方法 演習	※ (担当村井)
第4回：大学での学修方法 発展	※ (担当村井)
第5回：小学校の教科内容 (国語) 基礎	※ (担当村井)
第6回：小学校の教科内容 (国語) 演習	※ (担当三木)
第7回：小学校の教科内容 (国語) 発展	※ (担当三木)
第8回：小学校の教科内容 (算数) 基礎	※ (担当三木)
第9回：小学校の教科内容 (算数) 発展	※ (担当三木)
第10回：小学校の教科内容 (理科) 基礎	※ (担当三木)
第11回：小学校の教科内容 (理科) 発展	※ (担当三木)
第12回：小学校の教科内容 (社会) 基礎	※ (担当三木)
第13回：小学校の教科内容 (社会) 発展	※ (担当三木)
第14回：小学校の教育 (外国語活動) 基礎	※ (担当三木)
第15回：小学校の教育 (外国語活動) 発展	※ (担当三木)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	5%	レポートの内容と提出状況によって評価する。
	小テスト	5%	授業時に行なう小テストによって評価する。
	定期試験	70%	期末の5教科テストによって評価する。
	その他	10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト
	自由記載		

【受講の心得】

授業で配付した資料 (あるいは教材) の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での確認テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問すること。

【授業外学修】

1. 授業で解説された内容について復習をしておくこと。
 2. 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。
 3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問に行くこと。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

【その他】

本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。
特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。

授業科目名	基礎学力養成セミナーII		サブタイトル		授業番号	CM102
担当教員名	佐々木 弘記 三木 博文					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
基礎学力養成セミナーIを継続・発展させる講義である。大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。						
【到達目標】						
専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校の教科内容（国語）基礎／（外国語活動）基礎 ※（担当佐々木，三木） 第2回：小学校の教科内容（国語）演習／（外国語活動）演習 ※（担当三木） 第3回：小学校の教科内容（国語）発展／（外国語活動）発展 ※（担当三木） 第4回：小学校の教科内容（算数）基礎／（国語）基礎 ※（担当三木） 第5回：小学校の教科内容（算数）演習／（国語）演習 ※（担当三木） 第6回：小学校の教科内容（算数）発展／（国語）発展 ※（担当三木） 第7回：小学校の教科内容（理科）基礎／（算数）基礎 ※（担当（江口・村井）） 第8回：小学校の教科内容（理科）演習／（算数）演習 ※（担当三木） 第9回：小学校の教科内容（理科）発展／（算数）発展 ※（担当三木） 第10回：小学校の教科内容（社会）基礎／（理科）基礎 ※（担当三木） 第11回：小学校の教科内容（社会）演習／（理科）演習 ※（担当三木） 第12回：小学校の教科内容（社会）発展／（理科）発展 ※（担当三木） 第13回：小学校の教育（外国語活動）基礎／（社会）基礎 ※（担当三木） 第14回：小学校の教育（外国語活動）演習／（社会）演習 ※（担当三木） 第15回：小学校の教育（外国語活動）発展／（社会）発展 ※（担当三木）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	提出物及び受講態度によって評価する。			
	レポート	5%	レポートの内容と提出状況によって評価する。			
	小テスト	5%	授業時に行なう小テストによって評価する。			
	定期試験	70%	期末の5教科テストによって評価する。			
	その他	10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト			
自由記載						

【受講の心得】

授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での確認テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問すること。

【授業外学修】

1. 授業で解説された内容について復習をしておくこと。
2. 授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。
3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問に行くこと。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
--------	------	--

参考書	自由記載	
-----	------	--

【その他】

本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。

特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。

授業科目名 **総合教養養成セミナー**
Ⅰ

サブタイトル

授業番号 CM203

担当教員名 佐々木 弘記 三木 博文

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

1年次に実施した「基礎学力セミナーⅠ・Ⅱ」を深化・統合させる講座である。前半は、小学校コース、保幼コースとともに、現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する内容を学修し、幅広い教養を身に付ける。後

【到達目標】

現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：一般教養：現代文	※（担当佐々木，三木）
第2回：一般教養：文学	※（担当三木）
第3回：一般教養：古典	※（担当三木）
第4回：一般教養：数的推理	※（担当三木）
第5回：一般教養：判断推理	※（担当江口・村井）
第6回：一般教養：平面図形と立体図形	※（担当三木）
第7回：一般教養：地理	※（担当三木）
第8回：一般教養：歴史	※（担当三木）
第9回：一般教養：公民	※（担当三木）
第10回：一般教養：物理	※（担当三木）
第11回：一般教養：化学	※（担当三木）
第12回：一般教養：生物・地学	※（担当三木）
第13回：一般教養：英語の読み方	※（担当三木）
第14回：一般教養：英語の書き方	※（担当三木）
第15回：一般教養：英会話	※（担当三木）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	5%	レポートの内容と提出状況によって評価する。
	小テスト	5%	授業時に行なう小テストによって評価する。
	定期試験	70%	まとめとなるテストによって評価する。
	その他 自由記載	10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト

【受講の心得】

授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での小テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに担当教員に質問すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業で示された課題等のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要な資料は随時配付する。
参考書	自由記載	

【その他】

3年次に教育実習Bを履修する学生、及び、公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。

授業科目名 **総合教養養成セミナーII**

サブタイトル

授業番号 CM204

担当教員名 佐々木 弘記 三木 博文

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

2年次前期に実施した「総合教養養成セミナーI」を深化・統合させる講座である。小学校コース、保幼コースとともに、一般教養に関する内容を学修し、幅広い教養を身に付ける。

【到達目標】

一般教養に関する知識を身に付けている。また、小学校、保幼の専門に関する知識を身に付けている。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：一般教養：現代文	※（担当佐々木，三木）
第2回：一般教養：文学・古典	※（担当三木）
第3回：一般教養：数的推理	※（担当三木）
第4回：一般教養：判断推理	※（担当三木）
第5回：一般教養：地理・歴史	※（担当三木）
第6回：一般教養：公民	※（担当三木）
第7回：一般教養：物理・化学	※（担当三木）
第8回：一般教養：生物・地学	※（担当江口・村井）
第9回：一般教養：英語の読み方	※（担当三木）
第10回：一般教養：英語の書き方	※（担当三木）
第11回：一般教養：英会話	※（担当三木）
第12回：教職専門：教育実習へ向けて，幼稚園教育	※（担当三木）
第13回：教職専門：学習指導の方法，幼稚園教育	※（担当三木）
第14回：教職専門：学習指導の実際，幼稚園教育	※（担当三木）
第15回：教職専門：教材・教具の工夫	※（担当三木）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
	レポート	5%	レポートの内容と提出状況によって評価する。
	小テスト	5%	授業時に行なう小テストによって評価する。
	定期試験	70%	まとめとなるテストによって評価する。
	その他 自由記載	10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト

【受講の心得】

授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での小テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに各教科担当教員に質問すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要な資料は随時配付する。
参考書	自由記載	

【その他】

3年次に教育実習Bを履修する学生、及び、公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。

授業科目名 **キャリア教育論**

サブタイトル

授業番号 CM305

担当教員名 小野 文子 國田 祥子 小川 深雪 田淵 康江 大橋 由佳

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

卒業後、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として進路に向かうために、これらの職業・職業人に関する基礎知識を学習するとともに、望ましい職業観・勤労観を考える。また、進路選択に必要な能力及び心構えを学ぶ。

【到達目標】

職業・職業人に関する基礎知識を習得するとともに、望ましい職業観・勤労観を醸成し、社会人基礎力を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：一生涯のキャリアを考える	※ (担当小野文子)
第2回：eラーニング	※ (担当國田祥子)
第3回：自己分析	※ (担当國田祥子)
第4回：働くことの意義	※ (担当國田祥子)
第5回：保育士・幼稚園教諭の勤務の実際	※ (担当田淵康江)
第6回：保育士・幼稚園教諭への道	※ (担当田淵康江)
第7回：小学校教諭の勤務の実際	※ (担当小川深雪)
第8回：小学校教諭への道	※ (担当小川深雪)
第9回：社会人としてのマナー(1)	※ (担当大橋由佳)
第10回：社会人としてのマナー(2)	※ (担当大橋由佳)
第11回：社会人としてのマナー(3)	※ (担当大橋由佳)
第12回：身だしなみ講座	※ (担当大橋由佳)
第13回：求人票の見方	※ (担当國田祥子)
第14回：履歴書の書き方	※ (担当小川深雪)
第15回：就職試験・採用試験に向けて	※ (担当小野文子・小川深雪)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	80%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	20%	課題内容について十分に理解した上で自分なりの考察を述べること。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

自らの将来について真摯に考え、取り組むこと。

【授業外学修】

毎回の授業について、4時間以上を予習復習に充てること。

模擬試験に向けて2時間以上の予習して臨み、その結果を受けて2時間以上復習すること。

また、レポート課題が与えられた際は4時間以上をその作成に充てること。

更に、就職支援センター・エクステンションセンターを1度は訪れ、就職活動の具体を体験すること。

使用テキスト	自由記載	授業の中で適宜紹介する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **キャリア教育演習** サブタイトル 授業番号 CM306

担当教員名 佐々木 弘記 小川 深雪 岸 誠一 平松 美由紀 坂田 季穂 村井 隆人 土師 範
子 大橋 由佳

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 3年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

将来の仕事と生き方を考えるための情報提供をし、具体的な準備と行動について学ぶ。就職活動に先駆けて自己分析・職種研究を行い、自分にあったキャリアプランを作成する。

【到達目標】

採用試験・就職試験で行われる面接、筆記試験、実技などに対応できる知識・技能を身に付ける。

上記のように、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：講座の進め方，アンケート	※（担当佐々木）
第2回：自己分析	※（担当佐々木，小川）
第3回：適性と進路	※（担当佐々木，村井）
第4回：職種の特徴	※（担当佐々木，村井）
第5回：面接の受け方	※（担当小川，村井）
第6回：採用試験の特徴	※（担当岸，村井）
第7回：個人面接	※（担当岸，小川，齊藤，伊藤，坂田，小野，大橋）
第8回：集団面接	※（担当岸，小川，齊藤，伊藤，坂田，小野，大橋）
第9回：集団活動	※（担当岸，小川，齊藤，伊藤，坂田，小野，大橋）
第10回：一般教養試験	※（担当岸，齊藤，伊藤，柏原）
第11回：専門教養試験	※（担当村井，齊藤，伊藤，柏原）
第12回：教職教養試験	※（担当齊藤，伊藤，柏原）
第13回：先輩からのアドバイス	※（担当佐々木，岸，齊藤，伊藤，坂田，小野，柏原）
第14回：市町村が望む保育士・教師像	※（担当岸，齊藤，伊藤，柏原）
第15回：進路決定へ向けて	※（担当佐々木）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
	レポート	30%	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

卒業後の進路を見据えて，積極的な態度で授業に参加することが望ましい。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	教員採用試験対策セサミノート1 教職教養	東京アカデミー	七賢出版	1500	
	教員採用試験対策セサミノート3 専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版	1500	
自由記載	「保育所指導指針・解説」「幼稚園教育要領・解説」「就活グリーンBOOK」中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会				
参考書	自由記載	授業中に適宜紹介する。			

【その他】

プリント等を整理するためクリアファイルを持参すること。

授業科目名 **人権教育論**

サブタイトル

授業番号 CN201

担当教員名 磯崎 宗司

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

我が国における人権問題の現状と課題を精査し、差別や偏見をなくする手立てとしての人権教育を考察する中で、人権への正しい理解と実践力を高める。

【到達目標】

人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解するとともに、課題解決の実践力を高める。合わせて、現代の子どもをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身につけ、適切な対応ができる能力を育む。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：人権教育論の進め方（日本国憲法第三章 世界人権宣言）

第2回：身近な生活の中にある人権問題（1）（学校内での人権問題）

第3回：身近な生活の中にある人権問題（2）（社会的弱者）

第4回：人権問題の現状と課題（女性差別）

第5回：人権問題の現状と課題（子ども）

第6回：人権問題の現状と課題（障害者）

第7回：人権問題の現状と課題（高齢者）

第8回：人権問題の現状と課題（その他の重要課題）

第9回：同和問題への理解と課題解決への考察（1）

第10回：同和問題への理解と課題解決への考察（2）

第11回：学校教育における人権教育の位置づけ

第12回：小学校社会科での人権教育

第13回：中学校「歴史」「公民」での人権教育

第14回：世界の人権問題

第15回：これからの人権教育・啓発

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表等によって評価する。
	レポート	10%	身近な生活の中での人権課題に気づき具体的に記述できていること。また，同和問題についての歴史的背景，現代の課題が記述できていること。
	小テスト	10%	毎回講義終末の5分間でポイントをおさえた「まとめ」が記述できていること。
	定期試験	60%	15回の講義内容から抽出された人権課題や人権教育の現状や取組について具体的に記述できていること。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

人権問題への関心を高め，課題意識を持って社会のできごとをつかむ。

【授業外学修】

授業毎に紹介する参考文献を次回までに読んでおくこと。

小テストを5回程度実施するので、復習を十分にしておくこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎時間、授業用プリント資料を配付する。
参考書	自由記載	授業で随時紹介する。

授業科目名	子どもとおやつ		サブタイトル		授業番号	CN202
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち、欠かすことのできないものである。 そこで、この授業では幼児期における捕食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。						
【到達目標】 ・ 幼児期の栄養の基礎知識を習得する ・ 幼児期における間食の必要性について理解する ・ 間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得する なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 この授業は全8回の実習となる。 実習7回、及び試験・補講期間に期末試験を実施する。						
第1回：幼児期の間食の意義と不足しがちな栄養素 第2回：1歳児のおやつ 第3回：2歳児のおやつ 第4回：3歳児～5歳児のおやつ 第5回：子どものアレルギー（アレルギー対応のおやつ） 第6回：行事のおやつ 第7回：子どもと一緒に作るおやつ 第8回：期末試験（筆記） 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	授業の内容の最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

幼児の栄養や、調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。

髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。

【授業外学修】

1. 授業で出てきたポイントを復習すること

2. 日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち、自ら情報収集を行うこと

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名 **子どもと絵本**

サブタイトル

授業番号 CN203

担当教員名 坂田 季穂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解したうえで、絵本から広がったり深まったりする様々なつながりを生み出す方法を具体的に検討する。また、保育・教育現場で絵本を取り入れられるよう、絵本の制作や子どもたちとの絵本の読み合いなど、実践的活動を実施する。多くの絵本を知り、自らが興味・関心を持てるよう、多様な観点からアプローチする。

【到達目標】

- 1, 絵本の特徴と意義を多角的な観点から捉えることができる。
- 2, 絵本と子どもの発達について理解できる。
- 3, 絵本を保育・教育のなかに取り入れていく具体的な方法が提案できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：絵本とは何か

第2回：絵本の歴史

第3回：絵本の種類

第4回：絵本の構造

第5回：絵本の絵・言葉

第6回：絵本と子どもの発達

第7回：絵本と生活

第8回：絵本と遊び

第9回：絵本の選書

第10回：絵本制作

第11回：絵本の読み合い

第12回：図書館の視察

第13回：保育・教育現場の視察

第14回：おはなし会の実施

第15回：子どもが絵本と出会うために

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	80%	提出物については、コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

毎授業、自らテーマを設定し、絵本を紹介する。多くの絵本と出会い、生活を豊かにしてほしい。

【授業外学修】

絵本探索を含め、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 必要に応じて適宜資料を配付する。

参考書

自由記載

授業科目名	子どもと楽器		サブタイトル		授業番号	CN204
担当教員名	土師 範子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。</p> <p>子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。</p> <p>子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身がまず、集中して音に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：領域「表現」と楽器の関係</p> <p>第2回：いろいろな楽器の指導法</p> <p>第3回：子どもが使用する楽器</p> <p>第4回：子どもが使用する楽器と楽曲（3，4歳児）</p> <p>第5回：子どもが使用する楽器と楽曲（5，6歳児）</p> <p>第6回：楽器と合奏</p> <p>第7回：合奏法とその留意点</p> <p>第8回：日本の楽器（1）</p> <p>第9回：日本の楽器（2）</p> <p>第10回：日本の楽器と指導法（1）</p> <p>第11回：日本の楽器と指導法（2）</p> <p>第12回：世界の楽器（1）</p> <p>第13回：世界の楽器（2）</p> <p>第14回：生活と楽器（1）</p> <p>第15回：生活と楽器（2）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，発表・グループ課題への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	30%	出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を述べているかを評価する。			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像する事。

音を出す時、出さない時のメリハリを大切にする事。

学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合う事。

日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにする事。

【授業外学修】

1. 予習として、子どもの楽器について調べる。

2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。

3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。または、単発の授業ではなく、それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。

以上の内容を、週あたり4時間以上学修する事。

書名

著者・編集者

出版社

定価

ISBN

使用テキスト

自由記載 講義ごとに必要なプリントを配布します。

参考書

自由記載

授業科目名 **障害児援助論**

サブタイトル

授業番号 CN205

担当教員名 槇尾 真佐枝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

前半は、発達障害児に対する合理的配慮と具体的な対応方法について講義する。後半は、前半の講義で得た知識に基づいてグループワークを実施し、学生自身が事例を読み解きながら発達障害児の育ちや生活を援助する方法について考察していく。

【到達目標】

本講義の目標は、直感に頼ることなく客観的な戦略をもって発達障害児を援助・指導するという考え方を身につけるとともに、自ら保護者や他者に対して助言するスキルを身につけることである。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：発達障害と二次障害

第2回：合理的配慮の提供と決定過程

第3回：子どもへの関わり方

第4回：提案・交渉型アプローチを成立させるためのポイント(1)

第5回：提案・交渉型アプローチを成立させるためのポイント(2)

第6回：ストレス対処過程と提案・交渉型アプローチ(1)

第7回：ストレス対処過程と提案・交渉型アプローチ(2)

第8回：提案・交渉のプロセス・事例1

第9回：提案・交渉のプロセス・事例2

第10回：提案・交渉のプロセス・事例3

第11回：提案・交渉のプロセス・事例4

第12回：提案・交渉のプロセス・事例5

第13回：ABAを利用した働きかけ

第14回：ABC分析で困った行動に対処する(1)

第15回：ABC分析で困った行動に対処する(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べているかを評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	毎授業後に「本日の学び」についてのコメントペーパーの提出を課す。各回の主要なポイントが理解できているかを評価する。
自由記載			

【受講の心得】

1.事前に教科書を読み、質問事項を考えてくること。

2.毎授業においてしっかりとノートを取り、学びを深めようと意欲的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 毎授業後に示す範囲について、事前に教科書の本文をしっかりと読んでくること。(約2時間)
2. 授業中にとったノートや配付したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず教科書の本文と再度照らし合わせ、足りない文章などを書き足すこと。(約2時間)

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		発達障害の子どもの「できる」を増やす 提案・交渉型アプローチ 叱らないけど譲らない支援	武田鉄郎（編著）	学研プラス	1700円＋税
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		発達障害の子どもを伸ばす 魔法の言葉かけ	shizu（著者）、平岩幹男（監修）	講談社	1400円＋税
	自由記載	その他、必要に応じて紹介する。			

授業科目名	発達心理学		サブタイトル		授業番号	CN206
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	4年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、誕生から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期を経て生涯を終える過程で生じる、生理的・心理的発達について解説する。						
【到達目標】 子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：発達心理学とは 第2回：遺伝と環境 第3回：生物学的な基礎 第4回：親子関係 第5回：胎児期・新生児期 第6回：乳児期 第7回：幼児期 第8回：中間のまとめ 第9回：児童期 第10回：青年期 第11回：成人初期・中期 第12回：成人後期・老年期 第13回：発達上の問題行動(1) 第14回：発達上の問題行動(2) 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ よくわかる発達心理学 第2版	無藤 隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	ミネルヴァ書房	2400円	978-4-623-05379-7	

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **子ども家庭支援の心
理学**

サブタイトル

授業番号 CN207

担当教員名 國田 祥子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に、人の生理的・心理的発達について、家族・家庭の影響を踏まえて解説する。

【到達目標】

子どもの発達についての基礎知識を身につけ、子どもを取り巻く家族・家庭の意義や機能を理解する。さらに、子どもの心の健康とその課題について理解する

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子ども家庭支援の心理学とは

第2回：身体と運動の発達

第3回：認知発達と学習

第4回：言語発達

第5回：情動の発達

第6回：親子関係の形成と発達

第7回：パーソナリティの発達

第8回：中間のまとめ

第9回：発達の基礎理論

第10回：子どもの心身症

第11回：子どもの問題行動

第12回：習癖異常

第13回：虐待

第14回：子どもの慢性疾患

第15回：期末のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	100%	理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

積極的な受講態度を期待します。

【授業外学修】

毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト 自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **子どもの理解と援助** サブタイトル

授業番号 CN208

担当教員名 坂田 季穂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや、子どもを理解するための具体的な方法、子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。

【到達目標】

1, 保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。

2, 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。

3, 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。

4, 子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育における子どもの理解

第2回：子どもに対するかかわりと共感的理解

第3回：子どもの生活や遊び

第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達

第5回：子ども相互のかかわりと関係づくり

第6回：集団における経験と育ち

第7回：発達による葛藤やつまずき

第8回：保育の環境の理解と構成

第9回：環境の変化や移行

第10回：子ども理解のための観察・記録と省察・評価

第11回：子ども理解のための職員間の対話

第12回：子ども理解のための保護者との情報共有

第13回：発達の課題に応じた援助とかかわり

第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助

第15回：発達の連続性と就学への支援

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら、子ども理解に努めること。

【授業外学修】

予・復習を行い、週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	幼児理解の理論と方法		サブタイトル		授業番号	CN209
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について、発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。						
【到達目標】 乳幼児期の子どもの発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：幼児理解とは 第2回：幼児の発達の理解 第3回：保育における理解と援助 第4回：幼児の観察 第5回：保育カンファレンス(1) 第6回：保育カンファレンス(2) 第7回：保育カウンセリング 第8回：中間のまとめ 第9回：障害のある幼児の理解(1) 第10回：障害のある幼児の理解(2) 第11回：障害のある幼児の理解(3) 第12回：発達臨床の現場 第13回：発達臨床にかかわる人々 第14回：家庭支援における幼児理解 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN

	最新保育講座(3) 子ども理解と援助	高嶋景子・砂上史子・森上史朗 (編)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-05962-1
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる臨床発達心理学 第4版	麻生 武・浜田寿美男 (編)	ミネルヴァ書房	2800円	978-4-623-06326-0
	自由記載				

授業科目名 **教育社会学**

サブタイトル

授業番号 CN210

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

子どもの発達には、これまで主として、心理学的アプローチにより説明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし、大きな社会変動と多元的価値観が錯綜する現代社会において、子どもの発達を説明するためには、子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため、特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。

【到達目標】

子どもの発達を社会的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。特に、学校教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し、子どもに関する問題を自ら分析し、解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの発達に対する社会的アプローチとは

第2回：教育社会学の研究对象と研究方法

第3回：教育社会学の研究对象としての教育政策

第4回：教育社会学の研究对象としての諸国の教育事情

第5回：家族集団と子どもの社会化

第6回：仲間集団と子どもの社会化

第7回：地域社会と学校教育

第8回：地域社会と子どもの教育

第9回：学校集団の構造と組織

第10回：学校集団の社会化機能

第11回：学校安全の現状と課題

第12回：学校の安全と危機管理

第13回：子どもの社会化と逸脱行動

第14回：子どもの逸脱行動の現実

第15回：少年非行

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。
	レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。

【受講の心得】

- 1) テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。
- 2) 最終レポートの課題を探しながら受講すること。

【授業外学修】

事前にテキスト及び配付資料を読んてくることを、週あたり4時間以上行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹	北樹出版	2100	978-4-7793-0469-9
	自由記載				
参考書	自由記載	酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房			

授業科目名 **教育社会学演習**

サブタイトル

授業番号 CN311

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし、社会学の専門用語を確認しながら精読していく。同時に、子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法、子ども学の役割についても検討する。

【到達目標】

子ども学は未だ発展の途上である。子ども学の確立を目指すためには、まず、様々な学問分野からのアプローチが必要である。

本演習は、その一助として、社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育社会学の研究対象と方法

第2回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子ども社会学の位置付け）

第3回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの遊びとは）

第4回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：実証的アプローチとは）

第5回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：民間の子育て支援活動）

第6回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの仲間集団）

第7回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの放課後）

第8回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：自然体験活動の意義）

第9回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：マンガと子ども）

第10回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どものイメージ）

第11回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：地域社会と子ども）

第12回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：家庭と子ども）

第13回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：少年非行と子どもの発達）

第14回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：学歴社会と受験戦争）

第15回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの発達と新しいメディア）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	発表及び質問
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	作成したレジュメ及びその修正
	自由記載		

【受講の心得】

課題論文を読んでくること。討論に積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. 自分の発表前は、レジメの作成をすること。
2. 発表後は、発表中に指摘を受けた事項を踏まえて、レジメを修正すること。
3. 他者の発表の前に、テキストの該当箇所を読んで、質問を考えておくこと。

以上、週当たり4時間以上取り組むこと。

使用テキスト	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹 編	北樹出版	2,100円 +税	978-4- 7793- 0469-9
	自由記載					

授業科目名	教育相談		サブタイトル	(カウンセリングを含む)		授業番号	CN212
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科			単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】 この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。							
【到達目標】 教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：教育相談とは 第2回：学校教育相談とは 第3回：児童・生徒の問題の理解と対応 第4回：児童・生徒理解の精神医学的な基礎 第5回：不登校の理解と対応 第6回：いじめの理解と対応 第7回：学級崩壊の理解と対応 第8回：中間のまとめ 第9回：反社会的問題行動の理解と対応 第10回：神経症的問題の理解と対応 第11回：開発的カウンセリング 第12回：保護者に対する援助 第13回：校内での協力体制・他機関との連携 第14回：教員のメンタル・ヘルス 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談		森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3	

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **国語**

サブタイトル

授業番号 CO201

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教科としての「国語」の意味を理解し、これを教育の場で実践するために必要な知識を講義する。
この授業は小学校の教員免許の取得を目指す学生の参加を前提に講義を進めるが、必要に応じて幼児を対象とした国語教育についても扱う。

【到達目標】

1.教科としての「国語」の意味を理解するとともに、関連諸科学の知識を習得する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

4人前後の小グループでの活動を中心にする。

第1回：国語の概念と国語教育

第2回：説明文を深く読む 1

第3回：説明を深く読む 2

第4回：物語文を深く読む 1

第5回：物語文を深く読む 2

第6回：物語文を深く読む 3

第7回：絵本を深く読む

第8回：論理的な話し合いをする 1

第9回：論理的な話し合いをする 2

第10回：論理的に書いてみる

第11回：物語を書いてみる

第12回：言語文化や言語事項に触れる

第13回：メディア・リテラシーを身に付ける 1

第14回：メディア・リテラシーを身に付ける 2

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	45%	毎回提出するミニレポートを評価する。
	小テスト	55%	小テストを最大3回行う
	定期試験		
	その他	20%	提出物の状況を評価する。
	自由記載		小テストについては2週間前に実施日と範囲を伝える。 ミニレポートはグループ活動での成果を基に記述をするため、積極的な活動が見られない場合は減点する。

【受講の心得】

講義の内容の復習や課題の作成を授業外学修に当てること。
毎回の授業で配布されるプリントへの記録と整理が肝要。

【授業外学修】

1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。
2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。
3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。
4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	算数		サブタイトル		授業番号	CO202
担当教員名	川上 公一					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>小学校で教える算数の世界の背景にある数学的な内容を理解するとともに、児童に体験させる「算数的活動」を自分で体験することにより新しい活動を考える基礎にする。</p> <p>算数的活動・数学的活動は、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けるとともに、数学的な思考力・表現力を高めたり、算数・数学を学ぶことの楽しさや意義を実感したりするために、重要な役割を果たすものである。既知をもとにして、数や図形の性質などを見だし発展させたり、日常生活や具体的な事象と数学を結び付けて考察したり処理したりする活動を行う。これらの活動を行なうためには、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動が必要になる。</p>						
【到達目標】						
<p>小学校算数科の内容の数学的背景を理解し、児童に楽しい「算数的活動」を作り出すことができるようになる。これはディプロマポリシーの<知識・理解>教育に関する専門的知識の修得、<技能>教育に関する計画を立てて実践する能力の育成に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：数と計算〔第1学年〕〔第2学年〕 第2回：数と計算〔第3学年〕〔第4学年〕 第3回：数と計算〔第5学年〕〔第6学年〕 第4回：量と測定〔第1学年〕〔第2学年〕 第5回：量と測定〔第3学年〕〔第4学年〕 第6回：量と測定〔第5学年〕〔第6学年〕 第7回：図形〔第1学年〕〔第2学年〕 第8回：図形〔第3学年〕〔第4学年〕 第9回：図形〔第5学年〕〔第6学年〕 第10回：数量関係〔第1学年〕〔第2学年〕 第11回：数量関係〔第3学年〕〔第4学年〕 第12回：数量関係〔第5学年〕〔第6学年〕 第13回：算数的活動の概念 第14回：算数的活動の実際 第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	講義中の質問に対する回答、演習問題への取り組みを評価する。			
	レポート	30%	毎回、その回の講義に関連するテーマのミニレポートを評価する			
	小テスト					
	定期試験	40%	全体の理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

学習指導案作成は教員としての基礎素養です。それを身につけることを目指します。

算数の目標「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」の達成のためには、指導者としての力量を身につけなければなりません。

【授業外学修】

「学び」を大切にすることは、どの段階でも同じである。生き生きとした「学び」のためには、きちんとした規律が成り立っていることが大切になる。ノートを取り方、発言の仕方、話し合いの進め方などのルール作りを大切に

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省	文部科学省	242円	9784491015507
	自由記 載				
参考書	自由記 載				

授業科目名 **生活**

サブタイトル

授業番号 CO203

担当教員名 熊代 賢治

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

生活科の目標・内容・特徴的な指導法などの基本を学習する。その過程で、生活科の本質と教育の基本について、自分自身の言葉で表現しながら、自分なりの教育哲学を構築する。

【到達目標】

- (1)生活科の目標・内容・指導法について、簡潔に説明することができる。
 - (2)教師の力量のもととなる教育の原点を、自分の頭で考え、自分なりの教育観を持つことができる。
 - (3)歌や工作などを、子どもの気持ちで楽しみ、子どもの心が理解ができる。
- なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

- (1)生活科の目標・内容・指導法・評価に関する基礎的な理解を深める
- (2)教育・人生の基本について、自分なりの考え方を構築していく
- (3)歌、工作を子どもの気持ちで楽しく行い、子ども理解を深める

- 第1回：(1)生活科の目標 (2)大切なものとは (3)三角鉄砲
第2回：(1)自立の本質 (2)何のために生きているのか (3)イカ飛行機
第3回：(1)教科目標の趣旨 (2)愛とは何か (3)小鳥と熊
第4回：(1)学年の目標設定と趣旨 (2)幸福とは何か (3)くるくるウサギ
第5回：(1)内容構成の考え方(1) (2)子育ての目標 (3)手裏剣
第6回：(1)内容構成の考え方(2) (2)親の仕事とは何か (3)折紙・犬
第7回：(1)具体的な内容 (2)子どもの仕事とは何か (3)へそ飛行機
第8回：(1)生活科の歴史的な考察 (2)教え方の基礎 (3)吹きごま
第9回：(1)年間指導計画の作成と学習指導 (2)勉強のできる子の育て方 (3)ツバメ飛行機
第10回：(1)指導計画の作成と学習指導 (2)叱ること、怒ること (3)バラン笛
第11回：(1)年間指導計画の作製上の留意点 (2)いい先生、ダメ先生 (3)がいこつ
第12回：(1)単元計画の作成 (2)パートナーの見つけ方 (3)折紙・鶴
第13回：(1)評価のあり方 (2)頑張れの意味 (3)手品のカード
第14回：(1)学習指導の進め方 (2)子どもが幸せを感じる時 (3)楽しい体験
第15回：(1)生活科の本質 (2)教師力とは

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発表内容、意欲的な授業態度
	レポート	20%	宿題レポートの内容
	小テスト	20%	工作物と実技テスト
	定期試験	40%	基礎・基本の理解度
	その他 自由記載		

【受講の心得】

自立の基礎を養う生活科を通して、信頼される教師の力量・人生について深く考えてもらいたい。

【授業外学修】

- (1)テキストの授業で学習する項目を予習しておくこと。
- (2)授業で学習した項目についてテキストを詳読し復習しておくこと。
- (3)教育の基礎について出されたテーマについて考えレポートを作成すること。
- (4)自分の人生について考え、将来設計、夢などをまとめてみること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 生活編	文部科学省	東洋館出版社	134円	978-4-491-03464-5
	自由記載				
参考書	自由記載	『小学校 生活』教科書	東京書籍		

授業科目名 **音楽**

サブタイトル

授業番号 CO204

担当教員名 小野 文子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに、授業を構成するために必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。

【到達目標】

小学校音楽科の授業を行うために必要な、基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し、それらを応用する知識を身につけ、各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校における音楽科教育の目標と内容

第2回：教科の目標と学習指導要領

第3回：表現－歌唱、器楽、創作－ 1年生

第4回：表現－歌唱、器楽、創作－ 2年生

第5回：表現－歌唱、器楽、創作－ 3年生

第6回：表現－歌唱、器楽、創作－ 4年生

第7回：表現－歌唱、器楽、創作－ 5年生

第8回：表現－歌唱、器楽、創作－ 6年生

第9回：鑑賞教材－1, 2年生

第10回：鑑賞教材－3, 4年生

第11回：鑑賞教材－5, 6年生

第12回：音楽理論の確認と伴奏法

第13回：「器楽・歌唱・創作」と教材・教具の工夫

第14回：共通教材確認-MLでの活動をとおして-

第15回：コンピュータを使った授業の工夫

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な学習態度、予習及び復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。
	その他	20%	課題の理解度から評価する。添削後返却する。
	自由記載		

【受講の心得】

小学校教員への教職意識を持つこと。

授業内で適宜小テストを行うので、前時間の復習をして授業に臨むこと。

配布されたプリントや資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

課題を実施すること。

上記を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校音楽科教育法	有本真紀他	教育芸術社	1, 680	
	自由記載	小学校音楽1～6年（教育芸術社） 小学校学習指導要領「音楽」			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	小学校音楽1~6年生(各学年)		教育芸術社		
	自由記載				

授業科目名	図画工作	サブタイトル		授業番号	CO205
担当教員名	柏原 寛				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】 この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、実際の活動を通して、「造形的な見方・考え方」について身につけることを目的とする。</p>					
<p>【到達目標】 (1)「造形的な見方・考え方」を理解する。 1-1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深い認識をもつことができる。 1-2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。 1-3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように発想や構想することができる。 2)表現及び鑑賞の活動を通して、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)自分らしく、創造的に表現活動をすることができる。 2-2)「造形的な視点」について理解することができる。 2-3)材料や用具の適切な使用方法について理解することができる。 2-4)表し方などの工夫について理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：表現と鑑賞とは
－図画工作科の目的と内容－
- 第2回：図画工作科におけるICT活用
- 第3回：低学年における表現と鑑賞1
－造形あそび－
- 第4回：低学年における表現と鑑賞2
－絵にあらわす－
- 第5回：低学年における表現と鑑賞3
－立体にあらわす－
- 第6回：低学年における表現と鑑賞4
－工作にあらわす－
- 第7回：中学年における表現と鑑賞1
－造形あそび－
- 第8回：中学年における表現と鑑賞2
－絵にあらわす－
- 第9回：中学年における表現と鑑賞3
－立体にあらわす－
- 第10回：中学年における表現と鑑賞4
－工作にあらわす－
- 第11回：高学年における表現と鑑賞1
－造形あそび－
- 第12回：高学年における表現と鑑賞2
－絵にあらわす－
- 第13回：高学年における表現と鑑賞3
－立体にあらわす－
- 第14回：高学年における表現と鑑賞4
－工作にあらわす－
- 第15回：「造形的な見方・考え方」の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	「造形的な見方・考え方」について具体的に述べていること。
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。
 2. 予習として事前に資料を配布することがあるので理解しておくこと。
- 以上の内容をもとに，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜，提示する。
参考書	自由記載	適宜，提示する。

【その他】

はさみ, のり, テープ, 色鉛筆, 水彩絵具, 定規, コンパス, カッター, スケッチブックなど, 様々な画材, 素材, 道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。

授業科目名 **体育**

サブタイトル

授業番号 CO206

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について、子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず、各種運動領域のそれぞれについて、領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に、運動自体の理解とともに、学習者の側に立ってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。

【到達目標】

それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに、自らも示範することができるようになる。
なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷
- 第2回：ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解
- 第3回：ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の内容とその実践
- 第4回：ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解
- 第5回：ボール運動：ネット型（バドミントン）の内容とその実践
- 第6回：ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解
- 第7回：ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の内容とその実践
- 第8回：体づくり運動の理解・内容とその実践
- 第9回：器械運動：マット運動の理解
- 第10回：器械運動：マット運動の内容とその実践
- 第11回：器械運動：跳び箱運動の理解
- 第12回：器械運動：跳び箱運動の内容とその実践
- 第13回：陸上運動：短距離走の理解
- 第14回：陸上運動：短距離走の内容とその実践
- 第15回：子どもの側に立つ教材づくり

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度
	レポート	30%	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること
	小テスト	30%	全15回の授業を踏まえ、レポートを作成する
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

実技を伴うので、各運動領域に対して積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。
 - ・運動に対する興味関心を高め、運動する習慣づくりを心がける。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 特に使用しない。（作成資料を活用）

参考書

自由記載

授業科目名	基礎音楽A	サブタイトル		授業番号	CO207
担当教員名	小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 廣畑 まゆ美 織田 典恵 片岡 祥子 岡崎 三鈴				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。					
【到達目標】 コード進行の基礎知識を学び、既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					

第1回：前期の内容についての確認。子どもの成長と子どもを取りまく音楽について。	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第2回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第3回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第4回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第5回：表現法とまとめ 1	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第6回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第7回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第8回：表現法とまとめ 2	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 片岡 祥子 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第9回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第10回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第11回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第12回：表現法とまとめ 3	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第13回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第14回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第15回：表現法とまとめ 4 楽典	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	80%	自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。

定期試験

その他

自由記載 【受講の心得】

授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。

【受講の心得】

実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

授業で提示された課題を実施し、復習すること。

上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『こどもの歌100』，チャイルド本社 『大人のための音楽ワーク（テキスト）』，ヤマハ出版
参考書	自由記載	『ピアノ1. 2. 3』，ドレミ出版

授業科目名	基礎音楽B	サブタイトル		授業番号	CO308
担当教員名	小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 片岡 祥子 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
子どもと保育の内容を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。					
【到達目標】					
コード進行の基礎知識を学び、既成伴奏及び簡易伴奏の演習を行なう。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					

第1回：前期の内容についての確認。子どもを取りまく音楽について。	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第2回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 1	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第3回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 2	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第4回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 3	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第5回：表現法とまとめ 1	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第6回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 4	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第7回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 5	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第8回：表現法とまとめ 2	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第9回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 6	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第10回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する7	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第11回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 8	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第12回：表現法とまとめ 3	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第13回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 9	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第14回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 基本的な楽典の知識を習得する 10	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）
第15回：表現法とまとめ 4	※（担当小野 文子 土師 範子 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 廣畑 まゆ美 岡崎 三鈴）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	80%	自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。

定期試験

その他

自由記載

【受講の心得】

実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

授業で提示された課題を実施し、復習すること。

上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『こどもの歌100』，チャイルド本社 『大人のための音楽ワーク（テキスト）』，ヤマハ出版
参考書	自由記載	『ピアノ1. 2. 3』，ドレミ出版

授業科目名 **社会**

サブタイトル

授業番号 CO209

担当教員名 野村 泰介

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。

【到達目標】

小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校社会科の目標と内容

第2回：小学校社会科の特色と関連専門諸科学

第3回：地理的分野の基本的事項(1)

第4回：地理的分野の基本的事項(2)

第5回：地理的分野の基本的事項(3)

第6回：地理的分野の演習問題

第7回：歴史的分野の基本的事項(1)

第8回：歴史的分野の基本的事項(2)

第9回：歴史的分野の基本的事項(3)

第10回：歴史的分野の演習問題

第11回：公民的分野の基本的事項(1)

第12回：公民的分野の基本的事項(2)

第13回：公民的分野の基本的事項(3)

第14回：公民的分野の演習問題

第15回：社会認識について

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表の有無，予習復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題に対して真摯に取り組めているか，自分の考えがまとめられているかの2点で評価する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

社会科の内容は広範囲に及ぶので，社会的事象について広く関心を持ち，社会認識を深めよう。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社		4491031606

自由記載

参考書

自由記載

授業において随時紹介する。

授業科目名 **理科**

サブタイトル

授業番号 CO210

担当教員名 佐々木 弘記

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに、中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について習得する。

【到達目標】

小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を習得する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：光の性質

第2回：力のつり合い

第3回：圧力と浮力

第4回：仕事と仕事率

第5回：力学的エネルギー

第6回：電流と電圧

第7回：電力と電力量

第8回：ものの溶け方，気体の性質

第9回：燃焼と酸化・還元，電気分解

第10回：化学反応と物質量

第11回：生物の分類

第12回：体のしくみ

第13回：遺伝のしくみ

第14回：地層の成り立ち

第15回：地震と災害

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。
	レポート	10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他	10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト
	自由記載		

【受講の心得】

毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	小学校理科教科書3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」	文部科学省		
参考書	自由記載				

授業科目名	家庭		サブタイトル	(衣食住の理解)	授業番号	CO211
担当教員名	岡 礼子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	実技			
【授業の概要】						
家庭科教育で児童に何を指導し、何を学ばせ、どんな力を育むのかについて、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また、小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身に付ける。						
【到達目標】						
家庭科教育の意義を理解し、家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配布する。						
第1回：家庭科教育の歴史と現状、これからの方向性について						
第2回：「A家族・家庭生活」：家庭生活と仕事、地域との関わりについて						
第3回：「B衣食住の生活」(コンピューター活用) 子どもの学びを高めるICTの活用						
第4回：「B衣食住の生活」：基礎縫いの練習とボタンの付け方						
第5回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作/フェルトを使った小物作り(1)						
第6回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作/フェルトを使った小物作り(2)						
第7回：「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とゆで卵のゆで時間による変化						
第8回：「B衣食住の生活」：家の模型作り(1)						
第9回：「B衣食住の生活」：家の模型作り(2)						
第10回：「B衣食住の生活」C消費生活・環境：実験・実習(通風・換気実験)						
第11回：「B衣食住の生活」：1食分の献立計画						
第12回：1食分の調理実習						
第13回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(1)(エコバッグ)						
第14回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(2)(エコバッグ)						
第15回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(3)(エコバッグ)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート	30%	基礎縫い：10%、フェルトの小物：10%、エコバッグ等：10% 作品についてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに、常に「自分が授業するなら、どの題材を用いて、どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。

【授業外学修】

- 1 シラバスで計画的な学修を促すため、授業予定表に、具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと、中学校家庭科の教科書のページを明記しているため、予習として授業前に読んでおくことと、授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。
この活動を毎回実施する。
- 2 グリコの食事バランスガイドの中にあるゲームを再度家庭でも行い、赤・緑・黄の3色の体内での働きやそれに属する五大栄養素のことをしっかり身に付ける。
- 3 住居模型を使って実験した通風、換気の方法を実生活でも実践する。

以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。

		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト		「わたしたちの家庭科」	著作者代表内野紀子他	開隆堂	274円	9784304080647
		小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	103円	9784491023748
	自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。				
		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書		新編 新しい技術・家庭 家庭分野	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	646円	9784487122820
		平成29年改訂小学校教育課程実践講座 家庭	岡 陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	1,944円	9784324103104
	自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、受講者全員に購入させる必要はないが、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されているからである。				

授業科目名	英語	サブタイトル		授業番号	CO212
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>小学校高学年の現在の外国語活動が、2020年度から、高学年では教科となり、中学年では活動型の外国語活動が導入される。本講義では、小学校教師、小学校等の外部講師や一般英会話学校講師を目指す学生に、「英語に関する背景的な知識」と「授業実践に必要な英語力」の修得を行う中で、毎回、音声学に関する理解をもとに数分の発音練習を行い継続的に英語の音声に慣れることにより、授業実践に必要な英語運用力の向上を目指す。発音練習では、発音トレーニング、スピーキングトレーニング、クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの会話、授業実践に必要な単語、目標表現、Teacher talkなどを扱うようにする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・「英語に関する基本的な知識」、「児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）」、「異文化理解」、「第二言語習得に関する基本的な知識」などの英語に関する背景的な知識を理解する。 ・学級担任と外部指導者のTTについての考察 ・外国語活動・外国語の授業実践に必要な「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」から成る、CEFR A2（英検準2級）程度の英語力を身に付ける。 <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：オリエンテーション 自分の英語力を知る。（聞くこと・話すこと〈やり取り・発表〉・読むこと・書くこと）自分の英語学習経験を振り返る。発音練習</p> <p>第2回：音声に関する基本的な知識(1)、歌・チャンツの指導(1)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第3回：音声に関する基本的な知識(2)、歌・チャンツの指導(2)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第4回：発音と綴りに関する基本的な知識(1)、歌・チャンツの指導(3)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第5回：発音と綴りに関する基本的な知識(2)、歌・チャンツの指導(4)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第6回：文構造・文法に関する基本的な知識、活動体験を通した児童とのやり取り（話すこと・やり取り）(1)、発音練習</p> <p>第7回：語彙に関する基本的な知識、活動体験を通した児童との英語のやり取り（話すこと・やり取り）(2)、発音練習</p> <p>第8回：第二言語習得に関する基本的な知識(1)、自己紹介・地域紹介・(多)文化紹介（話すこと・発表）(1)、発音練習</p> <p>第9回：第二言語習得に関する基本的な知識(2)、自己紹介・地域紹介・(多)文化紹介（話すこと・発表）(2)、発音練習</p> <p>第10回：児童文学（絵本、詩）に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(1)（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習</p> <p>第11回：異文化理解に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(2)（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習</p> <p>第12回：異文化コミュニケーションに関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(3)（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習</p> <p>第13回：場面や目的に応じたALTやJTLとの会話（話すこと・やり取り）、発音練習</p> <p>第14回：正書法に関する基本的な知識 板書・掲示物における英語の表記（書くこと）、発音練習</p> <p>第15回：発音練習、まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。		

レポート	30%	レポートに記述された学びの状況を評価する。
小テスト	50%	発音・教師の使う英語・絵本の読み聞かせといった技能に関する小テストで評価する。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

予習・復習と授業中の積極的な発言を強く求める。

【授業外学修】

- 1 教科書のうち、次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。
 - 2 1の予習をする中で、疑問に思う点をまとめておくこと。
 - 3 授業後に、2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。
 - 4 英語検定準2級の取得に向けて、英語の4技能に関する学習を行うこと
- 以上の学修に、週あたり4時間以上の時間をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ小学校外国語科内容論	酒井英樹・滝沢雄一・巨理陽一	三省堂		
	『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』	文部科学省（著）	東洋館出版社		
	自由記載				
参考書	自由記載	・『子どもと英語』松香洋子（著），(株)mpi・『小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編』兼重昇・直山木綿子（編著），明治図書・『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編』安彦忠彦（監修），大城賢・直山木綿子（編著），教育出版			

授業科目名 **国語科教育法**

サブタイトル

授業番号 CO313

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

初等国語科の構造と目標，学習内容，指導法に関する知識及び技能を習得する。

【到達目標】

国語科の構造，言語領域及び事項に関わる研究成果を通して授業設計の際に何が重要になるのかを理解する。授業設計の知識や教材分析を通して指導案の作成を通じた模擬授業を行う。

【授業計画】

- 第1回：国語科の目標と教科構造
- 第2回：理解領域に関わる学習者の発達
- 第3回：表現領域に関わる学習者の発達
- 第4回：国語科の授業設計及び学習指導案の作成方法
- 第5回：「話すこと・聞くこと」の教材分析
- 第6回：「書くこと」の教材分析
- 第7回：「読むこと」（物語文）の教材分析
- 第8回：「読むこと」（説明文）の教材分析
- 第9回：「伝統的な言語文化及び国語の特質に関わる項目」の教材分析
- 第10回：書写指導の方法
- 第11回：国語科における教育評価の特徴と方法
- 第12回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業
- 第13回：「書くこと」の模擬授業
- 第14回：「読むこと」（物語文）の模擬授業
- 第15回：「読むこと」（説明文）の模擬授業

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	0%	
	レポート	20%	毎回の授業記録と習得した内容について評価する
	小テスト		
	定期試験	50%	教科に対する理解度と授業力を評価する
	その他	30%	教材に対する理解力等を模擬授業によって評価する。
自由記載 毎回の授業記録（20%），定期試験(50%)，模擬授業（30%）			

【受講の心得】

授業の復習と課題の作成を授業外学修に当てること。

国語科はすべての教科の基礎を支える教科でもある。言葉に興味・関心を広げる努力をしながら，小学校での国語科授業づくりの基礎的な事項をしっかり身に付けられるように受講すること。

模擬授業を1回は行うこと。

【授業外学修】

1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。
2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。
3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。
4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	小学校学習指導要領解説（国語編）（文部科学省） 小学校国語教科書1年～6年（光村図書）
参考書	自由記載	『新たな時代を拓く小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会，2009年

授業科目名 **社会科教育法**

サブタイトル

授業番号 CO314

担当教員名 野村 泰介

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をとおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせる。

【到達目標】

小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し、授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：小学校社会科の意義と役割
- 第2回：小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会）
- 第3回：第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象）
- 第4回：第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土）
- 第5回：第6学年の目標と内容（我が国の歴史、政治、国際理解）
- 第6回：問題解決的な学習過程
- 第7回：社会科の評価の観点と評価規準
- 第8回：小学校社会科学習指導案の作成
- 第9回：社会科の多様な学習活動
- 第10回：模擬授業
- 第11回：模擬授業
- 第12回：模擬授業
- 第13回：模擬授業
- 第14回：模擬授業
- 第15回：社会科学習指導法の課題とまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題に対して真摯に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているかの2点で評価する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

自分が小学校の教壇に立っている教師のつもりで受講すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社		4491031606
	小学社会3, 4年上		日本文教出版		
	小学社会5年上		日本文教出版		
	小学社会6年上		日本文教出版		
	自由記載				
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。			

授業科目名	算数科教育法		サブタイトル		授業番号	CO315
担当教員名	川上 公一					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 小学校算数科の4領域（数と計算，量と測定，図形，数量関係）からいくつかの単元を取り上げ，その単元の指導要領での位置づけ，その単元までの既習内容の調査を行い，目的の単元をどう教えるか考えて，指導案の作成を行い，授業演習を行う。						
【到達目標】 小学校6年間の算数科の学習内容を理解する。 指導要領，教科書をもとに各単元で児童に身に付けさせたい内容を吟味・検討し，その実現のための学習指導案が作成できるようになる。 これはディプロマポリシーの<知識・理解>専門知識の修得，<技能>教育に関する計画を立てて実線する能力の育成に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校学習指導要領による算数指導の概説 教材研究 1 年上 第2回：小学校学習指導要領による算数指導の指導の具体 1 教材研究 1 年下 第3回：小学校学習指導要領による算数指導の指導の具体 2 教材研究 2 年上 第4回：小学校学習指導要領による算数指導の指導の具体 3 教材研究 2 年下 第5回：小学校学習指導要領による算数指導の指導の具体 4 教材研究 3 年上 第6回：学習指導案の作成 1 教材研究 3 年下 第7回：学習指導案の作成 2 教材研究 4 年上 第8回：学習指導案の作成 3 教材研究 4 年下 第9回：学習指導案の作成 4 教材研究 5 年上 第10回：学習指導案の作成 5 教材研究 5 年下 第11回：学習指導案の作成 6 教材研究 6 年 第12回：授業演習 1 第13回：授業演習 2 第14回：授業演習 3 第15回：授業演習 4 まとめ授業演習の振り返り・学習指導案の修正と提出						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	講義の中での演習・参加の姿勢			
	レポート	30%	学習指導案			

小テスト	20%	毎時の学習内容の確認
定期試験		
その他	30%	模擬授業の実施, 他の人の模擬授業への参加
自由記載		ポートフォリオ評価を行います。

【受講の心得】

学習指導案作成は教員としての基礎素養です。それを身につけることを目指します。

算数の目標「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」の達成のためには、指導者としての力量を身につけなければなりません。

【授業外学修】

指導案の作成、模擬授業の準備等には授業外の時間が必要となります。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新編あたらしいさんすう 1 上	藤井斉亮 [ほか] 著	東京書籍	176円	9784487104413
	新編あたらしいさんすう 1 下	藤井斉亮 [ほか] 著	東京書籍	145円	9784487113514
	新編新しい算数2上	藤井斉亮 [ほか] 著	東京書籍	343円	9784487104420
使用テキスト	新編新しい算数2下	藤井斉亮 [ほか] 著	東京書籍	308円	9784487113521
	新編新しい算数3上	藤井斉亮 [ほか] 著	東京書籍	386円	9784487104437

自由記載
 小学校算数科教科書 1年～6年（東京書籍） 全冊が必要です。新編 あたらしいさんすう 1上 さんすう だいすき！新編 あたらしいさんすう 1下新編 新しい算数 2上新編 新しい算数 2下新編 新しい算数 3上新編 新しい算数 3下新編 新しい算数 4上新編 新しい算数 4下新編 新しい算数 5上新編 新しい算数 5下新編 新しい算数 6 数学ヘジャンプ！東京書籍

参考書

自由記載

授業科目名 **理科教育法**

サブタイトル

授業番号 CO316

担当教員名 佐々木 弘記

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示された目標を分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。その上で、学習指導案の作成に取りかかり、観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。

【到達目標】

小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校理科の目標

第2回：小学校理科の内容

第3回：育成すべき資質・能力

第4回：理科の学習理論

第5回：理科の学習指導法

第6回：問題解決能力の育成

第7回：教科書での題材の配列

第8回：教材研究の仕方

第9回：学習指導案の作成

第10回：物質・エネルギーにかかわる教材研究

第11回：生命・地球にかかわる教材研究

第12回：模擬授業 1

第13回：模擬授業 2

第14回：模擬授業 3

第15回：模擬授業 4

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。
	レポート	10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他	20%	模擬授業、白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト
	自由記載		

【受講の心得】

毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	小学校理科教科書3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」	文部科学省		
参考書	自由記載				

授業科目名	生活科教育法		サブタイトル		授業番号	CO317
担当教員名	熊代 賢治					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>(1)生活科授業の具体的な内容・事例を検討し、具体的な授業ができるようにする。</p> <p>(2)理科ソング、社会科ソング、植物カード、野鳥カードなどを使い、指導者として必要な基礎的な知識を身につけることができるようにする。</p> <p>(3)楽しい体験や工作などを通して、子どもの気持ちになって遊ぶことにより、体験的に授業に必要な技能と情操を培う。</p>						
【到達目標】						
<p>(1)生活科の具体的な授業について、イメージすることができ、指導案を書くことができる。</p> <p>(2)生活科授業を実践するための基礎的な能力・技能を体験的に修得することができる。</p> <p>(3)生活科授業をするために必要な基礎となる知識を獲得することができる。</p> <p>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
<p>(1)生活科の具体的な授業内容をイメージし指導のポイントを把握する</p> <p>(2)理科ソング、社会科ソングを歌い暗唱することで、生活科の指導に必要な基礎的な知識を修得する</p> <p>(3)野鳥カード・植物カードを使い、身近な自然についての基礎的な知識と観察眼を身につける</p> <p>(4)楽しい体験や工作をするなかで、基礎的な技能を習得し、子どもの気持ちに同調できる心を養う</p>						
<p>第1回：(1)生活科 学習指導の要点 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(紙飛行機)</p> <p>第2回：(1)単元「なかよしっぱい大作戦」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(ドングリ工作)</p> <p>第3回：(1)単元「がっこうだいすき」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(バランストンボ)</p> <p>第4回：(1)指導案づくり「がっこうだいすき」 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(シャボン玉)</p> <p>第5回：(1)単元「あきとあそぼう」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)体験(ポップコーン)</p> <p>第6回：(1)単元「秋のお宝はっけん」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(マジックハンド)</p> <p>第7回：(1)まちたんけん(吉備の中山) (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード</p> <p>第8回：体験学習「こうしんやまにいこう」(天候により延期)</p> <p>第9回：(1)教材化「こうしんやまにいこう」授業設計 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード</p> <p>第10回：(1)指導案づくり「あきとあそぼう」 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード</p> <p>第11回：(1)単元「わくわくモーモースクール」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)体験(餅つき)</p> <p>第12回：(1)単元「みずとなかよし」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(ゴム銃)</p> <p>第13回：(1)単元「だいすきなかぞくとじぶん」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)体験(綿菓子)</p> <p>第14回：(1)指導案づくり「だいすきなかぞくとじぶん」 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(俵転がし)</p> <p>第15回：(1)単元「こんなに大きくなったんだ」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度			
	レポート	20%	指導案はポイントを押さえていること。教材化レポートは子どもの視点に立っていること			
	小テスト	20%	工作をつくり実技テスト。提示した課題を達成すること			
	定期試験	40%	基礎的な知識を中心に理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
具体的な体験・実践を重視するため、授業外でも自習しながら、工夫して授業を受けること						
【授業外学修】						
(1)毎回授業で学習する理科ソング・社会科ソングを楽しく歌い復習しておくこと。						
(2)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。						
(3)工作でつくったものを使い、子どもの気持ちになって遊び、技能を身につけること。						
(4)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。						
使用テキスト	自由記載	なし（教材用のプリントを用意する）				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 生活編		文部科学省	東洋館出版社	134円	978-4-491-03464-5
	自由記載					

授業科目名	音楽科教育法		サブタイトル		授業番号	CO318
担当教員名	小野 文子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 小学校学習指導要領、小学校における音楽科教育の意義、目標、指導内容について理解を深め、小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成(指導計画の作成)、教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。						
【到達目標】 小学校学習指導要領の目標を理解した上で、教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。 (1)小学校学習指導要領について説明することができる。 (2)第1～6学年の系統性を踏まえ、発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。 (3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。 (4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校における音楽科教育の意義と目標、内容 第2回：日本の音楽科教育の歴史／学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理解 第3回：授業設計と指導上の留意点 学習指導案の書き方・授業の進め方について 年間学習指導計画と題材の評価規準 第4回：教材研究と指導法/「表現(歌唱)」の活動 伴奏法 第5回：教材研究と指導法/「表現(歌唱・器楽)」の活動 第6回：教材研究と指導法/「表現(音楽づくりとコンピュータ)」の活動 第7回：教材研究と指導法/「鑑賞」の活動 第8回：評価規準の意義と設定 第9回：学習指導案の作成方法/指導計画の作成と内容の取扱い 第10回：学習指導案の作成 第11回：模擬授業と討議 1－第1学年、第2学年 第12回：模擬授業と討議 2－第3学年、第4学年 第13回：模擬授業と討議 3－第5学年 第14回：模擬授業と討議 4－第6学年 第15回：模擬授業後の研究討議と全体のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業に取り組む姿勢、態度、発表。			
	レポート	30%	課題・レポート・指導案の、理解度・定着度。添削後、返却する。			
	小テスト	10%	暗誦の課題の到達度を評価する。			
	定期試験	20%	知識の理解度・定着度。			
	その他	10%	模擬授業の内容。			
自由記載						

【受講の心得】

小学校教員への教職意識を持つこと。

使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

授業で提示された課題を実施し、復習すること。

上記の内容を、週当たり4時間程度学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領平成29年公示解説 音楽編		平成29年6月, 文部科学省		
	小学校音楽1～6年		教育芸術社		
	自由記載 授業中に適宜資料を配付する。				

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	小学校音楽科教育法		教育芸術社		
	自由記載				

【その他】

ソプラノリコーダーを持参すること。

授業科目名	図画工作科教育法		サブタイトル		授業番号	CO319
担当教員名	柏原 寛					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方を修得することを目的とする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。 1-1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 1-2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 1-3)図画工作科における学習評価の考え方を理解している。 (2)基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 2-1)子どもの認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2-2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 2-3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 2-4)模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：図画工作科の学習指導要領 －教科の目標と内容，全体構造－ 第2回：図画工作科の授業構造 第3回：図画工作科における教師の支援 －指導上の留意点－ 第4回：図画工作科における評価 －学習評価の考え方－ 第5回：図画工作科における安全指導 第6回：「造形あそび」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第7回：「絵にあらわす」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第8回：「立体にあらわす」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第9回：「工作にあらわす」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第10回：「鑑賞」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第11回：図画工作科の学習指導案 1 －学習指導案の構成の理解－ 第12回：図画工作科の学習指導案 2 －学習指導案の作成－ 第13回：模擬授業の実施と振り返り 1 第14回：模擬授業の実施と振り返り 2 第15回：図画工作科教育法の振り返り</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの 姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって 評価する。
レポート	30%	「造形的な見方・考え方の指導」について具体的に述べていること。
小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によっ て評価する。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

「造形的な見方・考え方」が活きた授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。
 2. 予習として資料を配布することがある。
- 以上の内容をもとに，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	文部科学省『学習指導要領解説・図画工作編』
参考書	自由記載	適宜，提示する。

【その他】

はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッター，スケッチブックなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

授業科目名 **体育科教育法**

サブタイトル

授業番号 CO320

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で、現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。

また、低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し、指導案の作成並びに模擬授業、授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。

【到達目標】

体育科における、「目標-内容-方法」について理解するとともに、子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：学習指導要領の変遷（総則）

第2回：学習指導要領の変遷（体育科の目標）

第3回：学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例

第4回：学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例

第5回：学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例

第6回：3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例

第7回：体育科の年間計画及び指導案作成について

第8回：指導案の作成

第9回：模擬授業打ち合わせ

第10回：模擬授業（1）1・2年生について

第11回：模擬授業（2）3・4年生について

第12回：模擬授業（3）5・6年生について

第13回：模擬授業（4）3～6年生の保健について

第14回：模擬授業の授業評価・修正

第15回：授業評価を加味した指導案の作成

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度
	レポート	60%	指導案の理解・指導要領の理解
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	模擬授業の教師としての授業態度
	自由記載		

【受講の心得】

小学校体育科において、教師が運動の知識を有していることはもちろん、からだと心の仕組みに対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ、将来の子どもからだと心を育てていくという強い意欲をもって受講すること。

【授業外学修】

- ・授業で行われる領域について「学習指導要領解説 体育編」を授業前に読んでおくこと。
- ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社		
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	家庭科教育法		サブタイトル		授業番号	CO321
担当教員名	岡 礼子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 小学校家庭科の授業を通して、「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって、新学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等、学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。 授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の実施・評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。						
【到達目標】 小学校家庭科の授業開発を通して、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには、どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し、効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配布する。5回分、合計10回の模擬授業の実施・分析・評価については、模擬授業の実施日が決定した時点で、実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配布する。						
第1回：新しい学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて 第2回：年間指導計画と題材指導計画、学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目 第3回：既成の家庭科指導案を基に細案を作成 第4回：細案を基に模擬授業を実施1・2「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5・6年生) 第5回：細案を基に模擬授業を実施3・4「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生) 第6回：指導案の作成(1)「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」領域の内容理解(5・6年生) 第7回：指導案の作成(2)「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」領域の内容理解(5・6年生) 第8回：模擬授業の実施・分析・評価1・2「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5年生) 第9回：模擬授業の実施・分析・評価3・4「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5年生) 第10回：模擬授業の実施・分析・評価5・6「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(6年生) 第11回：模擬授業の実施・分析・評価7・8「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(6年生) 第12回：模擬授業の実施・分析・評価9・10「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生) 第13回：「B 衣食住の生活」：ご飯とみそ汁の作り方と調理実習計画 第14回：「B 衣食住の生活」：ご飯とみそ汁ともう一品「和食」の調理実習 第15回：模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	10%	模擬授業を通して身に付けたことや改善点などについて書かせ、コメントを付けて返却する。			
	小テスト	10%	指導要領の内容理解について評価する。			
	定期試験	70%	最終的な理解度について評価する。			

その他

10%

模擬授業：教師としての授業態度、発問、板書の字、声の大きさ等について評価する。

自由記
載

【受講の心得】

教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し、更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また、授業開始時に配布する授業予定表に、授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので、授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。

【授業外学修】

- 1 事前に、模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。
- 2 模擬授業についての感想を、授業後に数人発表する。
- 3 模擬授業について、学生に迅速で建設的なフィードバックを行い、次の模擬授業に活かす。
- 4 模擬授業についての感想を毎時間書かせ、授業者に一言コメントとして、良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「わたしたちの家庭科」	著作者代表内野紀子他	開隆堂	274円	9784304080647
	小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	103円	9784491023748

自由記
載

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新訂 「新しい技術・家庭 家庭分野」	佐藤文字・金子佳代子他	東京書籍	646円	9784487122820
	自由記 中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、採用試験を受験する 載 人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されている。				

【その他】

採用試験には、具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には、「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は、全て実践して身に付けておくことが望ましい。

授業科目名	英語科教育法		サブタイトル		授業番号	CO322
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>授業実践に必要な知識を修得することに加え、授業観察や指導教員による授業体験を児童の立場で体験することを通して、小学校の外国語活動・外国語の授業について体験的に理解するとともに、教師の立場で模擬授業を行い振り返り授業改善を行う。さらに、小学校での授業観察や授業参加などを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたりフレクティブな教師となる基本を身に付ける。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・「現在の小学校外国語教育についての知識・理解」や「子どもの第二言語習得についての知識・理解」に関する小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識を理解する。 ・「指導技術」と「授業づくり」の基礎を身に付け、計画・授業実施・省察・改善のサイクルを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力の基本を身に付ける。 <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：オリエンテーション 外国語教育導入の経緯・理念・現状 第2回：学習指導要領（外国語 活動と外国語科） 小・中・高等学校との連携と小学校の役割 第3回：主教材，ICT教材の活用について，学習到達目標 指導計画 技能統合型の活動 第4回：授業映像視聴 児童や学校の多様性への対応 子どもの学び方の特徴（言語使用を通じた言語習得，類推から理解へ 音声によるインプットの在り方） 児童の認知発達に即した指導法 第5回：授業模擬体験 ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り，受診から発信 音声から文字へと進むプロセス） 第6回：授業模擬体験 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方 児童とのやり取りの進め方 文字言語との出会わせ方 読む活動・書く活動への導き方 言葉の面白さや豊かさへの気付き 第7回：授業映像視聴（小学校・中学校・高等学校） 小・中・高等学校の連携，A L T等とのチームティーチングによる指導の在り方，異文化理解の視点，第二言語習得理論についての知識とその活用 第8回：評価の観点と評価規準 第9回：題材選定，教材研究 第10回：指導計画（年間指導計画，単元計画，学習指導案，短時間学習等）の作成方法 学習指導目標，指導計画作成（1時間の学習指導案作成） 第11回：授業準備 教材作成 第12回：模擬授業（1） 振り返り 授業改善（1） 第13回：模擬授業（2） 振り返り 授業改善（2） 第14回：小学校での授業参観・授業参加 第15回：振り返り，まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な気づきや改善案への建設的な議論に参加する態度を評価する。			
	レポート	50%	授業を通しての気づきや学びの記述を評価する。			
	小テスト					

定期試験

その他

自由記載

【受講の心得】

教師になる自覚と意欲をもって参加すること。

【授業外学修】

- ・ 指導案・指導細案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。
 - ・ 教師が使用する英語技能の習得に努め、実用英語検定準2級の取得をめざすこと。
- 以上の学修を、週4時間以上行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外 使用テキスト 国語活動指導者養成のためにーコアカリキュ ラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi		
	自由記載				
参考書	自由記載	「リズムで覚える教室英語」 mpi 「小学校英語の教育法」アレン玉井, 大修館書店 「子ども英語指導ハンドブック」外山節子, 旺文社			

授業科目名 **道徳教育指導論**

サブタイトル

授業番号 CO323

担当教員名 小森 順子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

道徳教育は今、大きな転換期を迎えている。道徳教育の改善・充実を図るため、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、特別の教科「道徳(「道徳科」)」が教科化され全面実施される。この改訂の内容を踏まえ、道徳教育の意義について授業全体を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また、学習指導案作成と模擬授業の演習を通して、指導方法の要点や道徳科の授業について説明する。

【到達目標】

道徳教育の現状を理解し、道徳教育の意義について考えることができるようになる。

道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について理解できるようになる。

道徳科の指導の在り方や工夫を演習を通して身に付け、授業実践ができるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：道徳とは何か 道徳教育の歴史と現状 道徳教育と道徳科の目標

第2回：指導計画と推進体制 道徳科学習指導案 一般的な学習指導過程

第3回：指導方法の工夫 教材研究

第4回：既成の学習指導案を基に細案作成

第5回：細案を基に模擬授業

第6回：模擬授業改善の視点

第7回：道徳性の発達 道徳科の内容

第8回：内容項目の指導の観点

第9回：教育実習での道徳授業を共有 授業改善の視点

第10回：道徳科の授業のつくりかた(1) 学習指導案作成の手順

第11回：道徳科の授業のつくりかた(2) 多様な学習指導 学習指導案作成

第12回：授業実践(1) 模擬授業実施

第13回：授業実践(2) 模擬授業の振り返り 指導の配慮事項

第14回：道徳科の評価 「考え議論する道徳」

第15回：まとめ よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加態度によって評価する。
	レポート	70%	各回の授業の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。授業レポートはコメントを記入して返却し、次の講義に生かす。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載	20%	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や教態で評価する。

【受講の心得】

様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち、授業実践とつないで考え、真剣に受講する。

【授業外学修】

1 予習として、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「小学どうとく 生きる力」のうち、次回の授業内容に関わる部分を読み、課題を把握しておくこと。

2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	4年小学どうとく 生きる力		日本文教 出版株式 会社		
参考書	自由記載	自由記載 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	平成29年7月	(文部科学省)	

授業科目名	キッズ・イングリッシュ シュI		サブタイトル		授業番号	CO224
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
小学校、幼稚園・保育園、認定子ども園、児童館、放課後児童クラブなどで、英語を使って、子ども達に英語に親しむ機会を提供できる知識・技能と指導力を修得できるよう実践的学習を行う。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育英語検定3級及び実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得することができる。 ・ 歌や絵本や様々な活動を通して、英語の音声や基本的な語彙・表現に慣れ親しませる指導ができる。 ・ 知識に裏打ちされた授業実践、省察、改善に取り組むことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：オリエンテーション、子どもの発達段階、指導計画づくり 第2回：模擬授業、省察、改善 第3回：保育園等での授業実践（1）、振り返り 第4回：保育園等での授業実践（2）、振り返り 第5回：保育園等での授業実践（3）、振り返り 第6回：保育園等での授業実践（4）、振り返り 第7回：保育園等での授業実践（5）、振り返り 第8回：保育園等での授業実践（6）、振り返り 第9回：授業計画・模擬授業・省察・改善 第10回：小学生への授業実践（1）、振り返り 第11回：小学生への授業実践（2）、振り返り 第12回：小学生への授業実践（3）、振り返り 第13回：小学生への授業実践（4）、振り返り 第14回：小学生への授業実践（5）、振り返り 第15回：小学生への授業実践（6）、振り返り、まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	活動・討論への積極的な参加や、教材作成への意欲、必要な技術の自己研修状況を評価する。			
	レポート	50%	指導案、授業実践の省察レポートを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	指導に必要な英語技能（英語検定準2級程度以上程度）と子ども理解・クラスルームマネジメントの在り方を修得することができる。 基本的な指導案を作成できる。 授業の省察において、理論と実践をつなぎ教師に必要な概念について、授業の具体事例をもとに記述することができる。				

【受講の心得】

指導者となる自覚と意欲をもって学ぶこと。

【授業外学修】

- ・ 保育英語検定3級および実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得に向けて、15時間以上自主学習をすること。
- ・ 15時間以上、teacher talkの練習や指導案・細案の作成、教材作成をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	The SKY book 1		mpi	1900+税	
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	改訂2版 保育英検3級テキスト			1900円+税	978-4-7807-1108-0 C2082
	小学校外国語活動の進め方	岡秀夫・金森強	成美堂	2800+税	
	自由記載	栞沢容子他『英語de保育』本の泉社 「The Sky Book 1」 MPI			

授業科目名 **キッズ・イングリッシュII** サブタイトル 授業番号 CO225

担当教員名 藤井 佐代子

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 2年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

キッズ・イングリッシュIIでの学びを基盤として、認定子ども園等での授業観察や授業実施体験を通して、より良い英語教育を提供しようとする教師認知と実践力を育てる。

【到達目標】

- ・ 保育英語検定3級および実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得することができる。
- ・ 歌や絵本や様々な活動を通して、英語の音声や基本的な語彙・表現に慣れ親しませる指導ができる。
- ・ 授業実践・省察・改善を通して、指導力を高めることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：授業計画立案，模擬授業，省察，改善
- 第2回：保育園等での授業実践，振り返り（1）
- 第3回：保育園等での授業実践，振り返り（2）
- 第4回：保育園等での授業実践，振り返り（3）
- 第5回：保育園等での授業実践，振り返り（4）
- 第6回：保育園等での授業実践，振り返り（5）
- 第7回：保育園等での授業実践，振り返り（6）
- 第8回：保育園等での授業実践，振り返り（7）
- 第9回：授業計画立案，模擬授業，省察，改善
- 第10回：保育園等での授業実践，振り返り（8）
- 第11回：保育園等での授業実践，振り返り（9）
- 第12回：保育園等での授業実践，振り返り（10）
- 第13回：保育園等での授業実践，振り返り（11）
- 第14回：保育園等での授業実践，振り返り（12）
- 第15回：保育園等での授業実践，振り返り（13），まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な授業実践への参加，教材作成の意欲，授業に必要な指導技術の修得状況を評価する。
	レポート	50%	実践を通して学んだことの記述を評価する。
	小テスト 定期試験 その他		
自由記載			授業づくりに積極的に参加できる。 自らの実践を具体的に振り返り，気づきをレポートにまとめることができる。

【受講の心得】

児童に対して思いやりをもって接し，教育現場での授業実践では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。

【授業外学修】

・ 保育英語検定3級および実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得に向けて、15時間以上の自主学習をすること。

・ 授業実践に向けて、15時間以上、指導案・細案や教材作成をしたり、teacher talk の練習をしたりすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	The SKY Book 2		mpi	1900円+ 税	
	自由記載	なし			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	改訂2版 保育英検3級テキスト			1900円+ 税	978-4- 7807- 1108-0 C2082
	自由記載	栴沢容子他『英語de保育』本の泉社			

授業科目名	児童英語演習		サブタイトル		授業番号	CO226
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>授業実践に必要な4技能にわたる、英語や英語を使ったコミュニケーションの知識をもとにして、授業観察・指導教員による授業体験を児童の立場で体験することや模擬授業を通して、振り返り授業改善を行う。そして、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語を使ったコミュニケーションの指導や、ことばへの気付きをもたらす指導を実施できる。 ・ 小学生に適した4技能の指導をすることができる。 ・ 英語で授業を行ったり、ALTとの打ち合わせを実施したりできる。 ・ 英語によるやりとりの仕方を指導できる。 ・ パフォーマンス評価を行うことができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：オリエンテーション Classroom EnglishとTeacher Talkの指導</p> <p>第2回：コミュニケーションの方法</p> <p>第3回：コミュニケーションの指導法</p> <p>第4回：ALTとのやりとり・打ち合わせ</p> <p>第5回：ことばへの気付きをもたらす指導</p> <p>第6回：小学生に適した4技能の指導について</p> <p>第7回：小学生に適したリスニングの指導</p> <p>第8回：小学生に適したスピーキングの指導</p> <p>第9回：小学生に適したリーディングの指導</p> <p>第10回：小学生に適したライティングの指導</p> <p>第11回：小学生に適した技能統合型の計画(1)</p> <p>第12回：小学生に適した技能統合型の活動(2)</p> <p>第13回：英語によるやりとりの仕方の指導</p> <p>第14回：小学校での授業参観とパフォーマンス評価</p> <p>第15回：振り返り・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	授業計画・授業実践・省察・改善での意欲的な態度を評価する。			
	レポート	30%	知識と実践を往還しながら気付いたことの記述内容を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載	<p>授業計画・実施・省察・改善に積極的に参加できる。 知識と実践から自らを具体的に振り返り、気付きをレポートにまとめることができる。</p>					

【受講の心得】 児童に対して思いやりをもって接し，学校での授業参観・授業参加では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。		
【授業外学修】 ・授業に向けて，授業の流れや教室英語に関する自己研修を30時間以上積むこと。 ・実用英語技能検定準2級程度の英語力獲得に向けて，毎週2時間以上自己研修を積むこと。		
使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	『“Hello” from Okayama 岡山からハロー』 岡山ローバル英語研究会編，山陽新聞社出版 『教室英語活用事典』 高梨庸雄，研究社 『小学校英語はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー』 吉田研作（監修），小川隆夫・東仁美（著） mpi 『やってみたくなる小学校英語』 ローバル英語研究所
【その他】 なし		

授業科目名	異文化コミュニケーション論		サブタイトル		授業番号	CO227
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 「文化」及び「コミュニケーション」という2つの言葉を、私たちは日常生活においてほとんどその意味を吟味しないまま口にすることが多い。理由は、両者ともに深く考える対象としては、あまりにも私たちの身近にあり過ぎるためであろう。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」など一連の諸概念を詳しく考察すると共に、日本人が多用するコミュニケーション型と諸外国で用いられるコミュニケーション型を比較検討し、これらコミュニケーション型の違いから生じる諸問題とその解決方法について学習する。						
【到達目標】 「『異文化を理解する』とはどういうことか」、また「日本人のコミュニケーション行為の諸特徴とは何か」等の設問に答えることが出来るようになること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：なぜ異文化コミュニケーション論を学ぶのか？ 第2回：「文化」とは何か(1) 第3回：「文化」とは何か(2)：「文化」vs「文明」 第4回：「文化」とは何か(3)：Melfordo E. Spiroの文化観 第5回：ことばと文化 第6回：コミュニケーションとは何か：知覚・意味・解釈 第7回：日本人のコミュニケーション(1)：コミュニケーションの動因と志向性 第8回：日本人のコミュニケーション(2)：コミュニケーションの基本型8 第9回：文化・情報・コミュニケーション 第10回：トランプ遊びによる「疑似異文化体験」 第11回：文化相対主義の批判的考察(1) 第12回：文化相対主義の批判的考察(2) 第13回：英語コミュニケーション(1)：「英語支配」を考える 第14回：英語コミュニケーション(2)：認識と実践 第15回：全体のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。			
	レポート	30%	与えられた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

受講生がグループを作り、「意見交換」の機会を持つ（日本語で）。この活動には積極的に参加し、実践的なコミュニケーション能力の習得の場にしてもらいたい。各回に「～について考えて来てください」と言われたテーマについて考察することで「事前学習」を、そして配布するレジュメを読み返すことで「事後学習」としてもらいたい。

【授業外学修】

1 予習として、与えられたテーマについて考え、自分の立場や疑問点を明らかにしておく。

2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	異文化コミュニケーションキーワード	石井敏 他	有斐閣		
	自由記載				

授業科目名 **小学校教育研究I** サブタイトル 授業番号 CO328

担当教員名 岸 誠一 佐々木 弘記 中田 周作 溝田 知茂 柏原 寛 村井 隆人 土師 範子

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 3年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

総合教養養成セミナーI・IIで身につけた学士力を基盤にして、小学校教員として求められる実践的指導力を身につけるため、学習指導案の作成および模擬授業を行う。

【到達目標】

学習指導案の作成および模擬授業を行い、小学校教員に求められる学習指導力、生徒指導力、マネジメント力を身に付けることを目的とする。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：授業概要，算数教材研究I（小学校教育実習へ向けて） ※（担当佐々木）
第2回：国語教材研究I（小学校教育実習へ向けて） ※（担当村井）
第3回：算数教材研究II（小学校教育実習へ向けて） ※（担当佐々木）
第4回：国語教材研究II（小学校教育実習へ向けて） ※（担当村井）
第5回：指導案の作成 目的と目標 ※（担当佐々木）
第6回：指導案の作成 学習活動と指導 ※（担当岸）
第7回：指導案の作成 板書計画と教材研究 ※（担当岸）
第8回：社会教材研究I ※（担当中田）
第9回：社会教材研究II ※（担当中田）
第10回：理科教材研究I ※（担当岸）
第11回：理科教材研究II ※（担当岸）
第12回：体育教材研究 ※（担当溝田）
第13回：図工教材研究 ※（担当柏原）
第14回：音楽教材研究I ※（担当土師）
第15回：音楽教材研究II ※（担当土師）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
	レポート	30%	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
	小テスト	50%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科	東京アカデミー	七賢出版	1800	
	自由記載				
参考書	自由記載				

【その他】

小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。

授業科目名 **小学校教育研究II**

サブタイトル

授業番号 CO329

担当教員名 岸 誠一 佐々木 弘記 柏原 寛 村井 隆人 土師 範子 岡 礼子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして、小学校教員として求められる実践的指導力を身につけるため、学習指導要領に沿った教科教育および教科外教育を学習する。

【到達目標】

学習指導案の作成および模擬授業を行い、小学校教員に求められる学習指導力、生徒指導力、マネジメント力を身に付けることを目的とする。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校と学習指導要領，関連法規	※（担当岸）
第2回：小学校学習指導要領 総則	※（担当岸）
第3回：小学校学習指導要領 国語	※（担当村井）
第4回：小学校学習指導要領 社会	※（担当岡）
第5回：小学校学習指導要領 算数	※（担当岡）
第6回：小学校学習指導要領 理科	※（担当佐々木）
第7回：小学校学習指導要領 生活	※（担当岡）
第8回：小学校学習指導要領 外国語活動	※（担当岡）
第9回：小学校学習指導要領 総合的な学習の時間	※（担当岡）
第10回：小学校学習指導要領 家庭	※（担当岡）
第11回：小学校学習指導要領 特別活動	※（担当岡）
第12回：小学校学習指導要領 道徳	※（担当岡）
第13回：小学校学習指導要領 体育	※（担当溝田）
第14回：小学校学習指導要領 図画工作	※（担当柏原）
第15回：小学校学習指導要領 音楽	※（担当土師）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
	レポート	30%	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
	小テスト	50%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	「オープンセサミ参考書専門教科小学校全科」東京アカデミー（小学校教育研究Iで使用したもの）「教員採用試験対策セサミノート3 専門教科小学校全科」「教員採用試験対策セサミノート1 教職教養」（キャリア教育演習Iと同時使用）
参考書	自由記載	

【その他】

小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。

授業科目名 **小学校教育研究III** サブタイトル 授業番号 CO430

担当教員名 岸 誠一 佐々木 弘記 小川 深雪 中田 周作 柏原 寛 溝田 知茂 村井 隆人 土 師 範子

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 4年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして、小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。

【到達目標】

新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校教諭に求められる能力とは	※ (担当岸)
第2回：小学校における現代の教育問題	※ (担当岸)
第3回：小学校の教育課程	※ (担当小川)
第4回：小学校と教育法規	※ (担当小川)
第5回：小学校における生徒指導・いじめ問題・人権教育	※ (担当岸)
第6回：小学校における教科指導 1 (国語I)	※ (担当村井)
第7回：小学校における教科指導 2 (国語II)	※ (担当村井)
第8回：小学校における教科指導 3 (算数I)	※ (担当佐々木)
第9回：小学校における教科指導 4 (算数II)	※ (担当佐々木)
第10回：小学校における教科指導 5 (社会)	※ (担当中田)
第11回：小学校における教科指導 6 (理科)	※ (担当岸)
第12回：小学校における教科指導 7 (体育)	※ (担当溝田)
第13回：小学校における教科指導 8 (図工)	※ (担当柏原)
第14回：小学校における教科指導 9 (音楽I)	※ (担当土師)
第15回：小学校における教科指導10 (音楽II)	※ (担当土師)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
	レポート	30%	各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
	小テスト	50%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	「教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科」「教員採用試験対策セサミノート1教職教養」「教員採用試験対策セサミノート専門教科小学校全科」東京アカデミー
参考書	自由記載	
<p>【その他】 小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。</p>		

授業科目名 **保育実践研究I**

サブタイトル

授業番号 CO431

担当教員名 坂田 季穂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育の本質・目的、子ども理解の在り方、保育の内容・方法、保育の表現技術等、子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。

【到達目標】

1, 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。

2, 保育に関する現代的課題についての現状分析, 考察, 検討を行う。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育の理念と概念について

第2回：保育史について

第3回：教育法規について

第4回：保育の心理学（1）乳児期の発達について

第5回：保育の心理学（2）幼児期の発達について

第6回：子どもの保健（1）疾病と保育について

第7回：子どもの保健（2）衛生管理並びに安全管理について

第8回：子どもの食と栄養（1）栄養について

第9回：子どもの食と栄養（2）乳幼児期の発達と食生活について

第10回：児童家庭福祉について

第11回：社会的養護について

第12回：社会福祉について

第13回：家庭支援について

第14回：音楽表現について

第15回：造形表現について

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	レポートはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。
 2. 発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。
- 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜紹介する。
参考書	自由記載	適宜紹介する。

授業科目名 **保育実践研究II**

サブタイトル

授業番号 CO432

担当教員名 坂田 季穂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 4年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談、育児相談、園及びクラス運営の在り方、専門機関との連携等について、実践的に研究する。

【到達目標】

1, 問題解決のための対応, 判断方法等について学びを深める。
2, 必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ, 自らの学びを振り返り, 保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。
なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：幼稚園教育要領について
- 第2回：保育所保育指針について
- 第3回：幼保連携型認定こども園保育・教育要領について
- 第4回：健康の領域
- 第5回：人間関係の領域
- 第6回：環境の領域
- 第7回：言葉の領域
- 第8回：表現の領域
- 第9回：指導計画について
- 第10回：障害児保育について
- 第11回：乳児保育について
- 第12回：保育の現状について
- 第13回：小学校との接続について
- 第14回：保育者の職務内容について
- 第15回：資質能力の確認

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	レポートはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

理論と実践をつなげ, 4年間の学びがさらに深まるよう, 保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。
 2. 発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。
- 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜紹介する。
参考書	自由記載	適宜紹介する。

授業科目名 **教育原理**

サブタイトル

授業番号 CP201

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。

特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。

【到達目標】

現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。

本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。

そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：現代の教育をめぐる諸問題

第2回：教育とは何か

第3回：教育の思想：西洋にみる教育の思想と実践

第4回：教育の思想：幼児教育の思想と実践

第5回：学校教育と学力，家庭

第6回：教員の養成，採用，研修

第7回：学校，放課後，家庭における子どもの日常生活

第8回：江戸期以前の家族と社会による教育

第9回：公教育制度の成立とその思想

第10回：学制と明治期の学校教育制度の成立と展開

第11回：大正期の学校教育制度の成立と展開

第12回：昭和期から現在にいたるの学校教育制度の成立と展開

第13回：教育に関係する主な法律

第14回：教育に関係する法令

第15回：現代社会における教育課題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。
	レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。
	自由記載		

【受講の心得】

テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。

【授業外学修】

週当たり4時間以上，テキストを読むこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる教育原理	汐見稔幸ほか	ミネル ヴァ書 房	2800円	9784623059263
	自由記 載				
参考書	自由記 載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			

授業科目名 **教育史**

サブタイトル

授業番号 CP202

担当教員名 梶井 一暁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本科目は、教職に関する科目のうちの「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する歴史及び思想」に関する事項を含むものである。現代の教育（目的、制度、内容および方法）へと続く過程について、主に講義形式により教授する。基本的に前半は西洋の教育史、後半は日本の教育史とその西洋との影響関係について考察する。

【到達目標】

以下の3つを到達目標とする。1.教育史の基本的な事項に関する知識を獲得する、2.獲得した知識にもとづいて教育史の事象を説明する、3.獲得した知識にもとづいて現代の教育の課題について考察する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育への歴史的視点[授業の目的、概要、計画など]

第2回：歴史のなかの教育[人間形成としての教育]

第3回：歴史のなかの学校[コメニウスと教科書]

第4回：歴史のなかの子ども[ルソーと「子ども」の発見]

第5回：教育対象としての子ども[ヘルバルトと教授学]

第6回：子どもを理解し、教育する[ペスタロッチーとフレーベル]

第7回：社会・経験・子ども[デューイの教育理論の示唆]

第8回：教育の発達の動向と回顧[課題の探求と発表]

第9回：歴史教科書のなかの教育史叙述[教育史の通覧]

第10回：教育の方法の変化（1）[個別と一斉]

第11回：教育の方法の変化（2）[教師中心と子ども中心]

第12回：教育改革の歴史と課題（1）[教育における権利と義務]

第13回：教育改革の歴史と課題（2）[民主主義社会における教育と学校]

第14回：教員養成の歴史と課題[専門職としての教員]

第15回：まとめ[教育の過去と現在]

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、コメント・シートにより評価する。
	レポート	40%	主要点の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

適宜、コメント・シート（感想、意見、関心など）を使い、授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し、授業に臨んでほしい。

【授業外学修】

予習として、授業内容にかかわる人物や事項を調べる。

復習として、授業で配布したプリントを読み直す。

発展学修として、授業で紹介される参考文献を読む。

以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	授業でプリント資料を配布する。なお、参考書を下記に示すので、読んで関心を広げることがを推奨する。
参考書	自由記載	1.尾上雅信編『西洋教育史』ミネルヴァ書房，2018年。2.木村元『学校の戦後史』岩波書店（新書），2015年。3.梶井一暁『映画のなかの学びのヒント』岐阜新聞社，2014年。

授業科目名	教育方法学		サブタイトル		授業番号	CP203
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。 ・ 教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。 ・ 情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標、内容、方法、組織 ※ (担当住野) 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 ※ (担当住野) 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 ※ (担当住野) 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 ※ (担当住野) 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 ※ (担当住野) 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり ※ (担当住野) 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 ※ (担当住野) 第8回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 ※ (担当住野) 第9回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 ※ (担当住野) 第10回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討(1) ※ (担当住野) 第11回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討(2) ※ (担当住野) 第12回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 ※ (担当住野) 第13回：教育の方法(6) 学級づくりの方法(1)学級づくりとは ※ (担当住野) 第14回：教育の方法(7) 学級づくりの方法(2)学級づくりの方法 ※ (担当住野) 第15回：教育の方法(8) 学級づくりの方法(3)集団指導と個別指導 ※ (担当住野)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の授業の終盤に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。			
	定期試験	40%	最終的な目標到達度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

毎回、授業の最後に小テストを行うので、授業内容をしっかりと理解しようとし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週辺り4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	適宜、授業の中で紹介する。

授業科目名	保育者論		サブタイトル		授業番号	CP204
担当教員名	平松 美由紀					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>保育者は日々の保育実践に関し、主体的且つ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ、保育者の基本的な資質と役割について学び、自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質、保育者になる構えといった学び続ける保育者としての事項を学習する。</p>						
【到達目標】						
<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的且つ曖昧である。すなわち、保育者は、この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基礎を培うことを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解説能力>に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：保育者になるということは 第2回：保育の本質 第3回：保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満） 第4回：保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前） 第5回：豊かな環境をつくる保育者 第6回：保育の展開と評価（保育課程） 第7回：保育の展開と評価（教育課程） 第8回：保育者の協働 第9回：小学校と連携する保育者 第10回：小学校との連携 第11回：専門職、他の機関との連携 第12回：保育者のキャリア形成と生涯発達 第13回：法令で定められた保育者の責務 第14回：歴史から学ぶ保育者の在り方 第15回：子育て環境と保育者の役割</p>						
【授業計画 備考2】						
事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて、学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	事前に各章を読み内容を把握しているかを評価する。			
	レポート	10%	ワークを通して気づいたことを記述することで理解度をチェックし返却する。			
	小テスト		前半の内容の理解ができているか自己評価し今後に生かす。			
	定期試験	60%	本科目の総合的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	提出物（レポートを含む）20%、授業への取組30%、試験50%					

【受講の心得】

講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。

保育者としての自分の在り方を探求するために、自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。

【授業外学修】

- ・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。
- ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり、討議したりする。
- ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね、社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	シードブック改訂『保育者論』	榎田二三子・大沼良子・増田時枝	建帛社	2000円+税	978-4-7679-3295

自由記載 シードブック改訂『保育者論』榎田二三子・大沼良子・増田時枝 編著，建帛社

参考書

自由記載

保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 他適宜紹介する。

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	CP205
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
【到達目標】 実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育心理学とは 第2回：心身の発達に基づく教育心理学の考え方 第3回：心身の発達に応じた学びの場とその移行 第4回：学びの意欲 第5回：学びのしくみ 第6回：学びの諸相 第7回：学びの開発と体系化 第8回：中間のまとめ 第9回：主体的な学びの授業 第10回：個に応じた学びの援助 第11回：自立と社会性の学び 第12回：子どもを支える 第13回：学びと適応の評価 第14回：教師の成長 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN

よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理
学

田爪宏二（編著）

ミネルヴ
ア書房

2200円

978-4-
623-
08177-6

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	教育・保育課程総論		サブタイトル		授業番号	CP206
担当教員名	佐々木 弘記 田淵 康江					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>第1～7回においては、幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について、基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。</p> <p>第8～15回においては、小学校期における学習指導とカリキュラムについて、歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。〈知識・理解〉 ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる。〈知識・理解〉 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：教育・保育について ※（担当（田淵））</p> <p>第2回：教育課程とは ※（担当（田淵））</p> <p>第3回：保育におけるカリキュラム ※（担当（田淵））</p> <p>第4回：保育における記録 ※（担当（田淵））</p> <p>第5回：保育における省察 ※（担当（田淵））</p> <p>第6回：保育カンファレンス ※（担当（田淵））</p> <p>第7回：保育におけるカリキュラム・マネジメント ※（担当（田淵））</p> <p>第8回：学習指導とカリキュラム(1) 伝達観と助成観 ※（担当（佐々木））</p> <p>第9回：学習指導とカリキュラム(2) 形式陶冶と実質陶冶 ※（担当（佐々木））</p> <p>第10回：学習指導とカリキュラム(3) 経験主義と系統主義 ※（担当（佐々木））</p> <p>第11回：教育課程の変遷 ※（担当（佐々木））</p> <p>第12回：カリキュラムを支える学習指導法 ※（担当（佐々木））</p> <p>第13回：特色あるカリキュラム事例 ※（担当（佐々木））</p> <p>第14回：学習評価からカリキュラム評価へ ※（担当（佐々木））</p> <p>第15回：小学校におけるカリキュラム・マネジメント ※（担当（佐々木））</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。			
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

第8～15回においては、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新しい時代の教育課程	田中耕治ほか	有斐閣アルマ	1900	
使用テキスト	幼稚園教育要領解説	文部科学省			
	保育所保育指針	厚生労働省			
自由記載	「新しい時代の教育課程」田中耕治ほか、有斐閣アルマ「保育所指導指針・解説」厚生労働省「幼稚園教育要領・解説」文部科学省				
参考書	自由記載	毎回、授業ノートを回収するので、ルーズリーフのノートを用意すること。			

授業科目名	保育内容総論		サブタイトル		授業番号	CP207
担当教員名	平松 美由紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のねらい及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。						
【到達目標】						
1. 子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで、保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。						
2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。						
3. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。						
4. 保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。なおこの科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。						
第1回：保育の基本及び保育内容（5領域）の理解						
第2回：保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連						
第3回：保育内容の歴史の変遷						
第4回：子どもの発達の特性と保育内容（5領域） －乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児－						
第5回：子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児，異年齢－						
第6回：個と集団の発達と保育内容（5領域）						
第7回：保育における観察と記録						
第8回：養護と教育が一体的に展開する保育の在り方						
第9回：環境を通して行う保育の在り方						
第10回：遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連）						
第11回：遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方						
第12回：家庭，地域との連携をふまえた保育－長時間保育含む－						
第13回：小学校との連携をふまえた保育の在り方						
第14回：特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方						
第15回：多文化共生の保育						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。			
	レポート	20%	自主的にワークシートを提出したかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。			
	その他					

自由記載 期末試験・レポート（70%）, 受講態度（30%）により総合的に評価する。

【受講の心得】

発表やグループ討議など, 主体的に参加すること。そのための予習, 復習を欠かさないこと。

【授業外学修】

事前学習をして授業に臨む。

授業後は振り返るシートを必ず記入する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育 内容総論	開 仁志 編著	保育出版 社	2270円+ 税	987-4- 905493- 19-8
	自由記載				
参考書	自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領			

授業科目名	特別支援教育		サブタイトル		授業番号	CP208
担当教員名	中 典子 池谷 航介					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。						
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 ※（担当池谷航介） 第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 ※（担当池谷航介） 第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み ※（担当池谷航介） 第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※（担当池谷航介） 第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 ※（担当池谷航介） 第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの支援 ※（担当中 典子） 第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ ※（担当池谷航介） 第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 ※（担当池谷航介） 第9回：学校と家庭との連携のあり方 ※（担当中 典子） 第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 ※（担当中 典子） 第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ ※（担当中 典子） 第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 ※（担当中 典子） 第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※（担当中 典子） 第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 ※（担当中 典子） 第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 ※（担当中 典子）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					

レポート	20%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	80%	最終的な理解度を評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。（2時間）

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる特別支援教育	湯浅恭正編	ミネルヴァ書房	2,400	

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **教職概論**

サブタイトル

授業番号 CP209

担当教員名 野村 泰介

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教職概論は、教職の意義と教員の役割、教員の職務内容について、制度的・実際の側面から学ぶ。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を培う。

【到達目標】

教職の意義、教員の役割、職務内容など教職に対する正しい理解を深めるとともに、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を確認することを到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの生活と学校

第2回：学習指導

第3回：生徒指導・進路指導

第4回：教育相談

第5回：学級経営

第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか

第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること

第8回：教員養成の制度

第9回：教職課程の仕組みと内容

第10回：教員の採用

第11回：教員の研修

第12回：教員の地位と身分

第13回：教員の待遇と勤務条件

第14回：学校制度

第15回：学校管理・運営体制

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題に対して真摯に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているかの2点で評価する
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記 載		

【受講の心得】

受講期間中は現在の学校教育の課題と、学校教員の社会的使命について真剣に考えること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新版教職入門教師への道	藤本典裕	図書文化社	1944円	9784810097207
	自由記 載				
参考書	自由記 載	授業において随時紹介する。			

授業科目名 **特別活動・総合的な学習の時間の指導法** サブタイトル 授業番号 CP210

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 3年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について演習を通して講義する。

【到達目標】

特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について理解することができるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育課程としての特別活動の領域
- 第2回：特別活動の目標と内容
- 第3回：特別活動の特質と教育的意義
- 第4回：特別活動と各教科等との関連
- 第5回：学級活動の目標と内容
- 第6回：学級活動の指導計画と指導過程
- 第7回：児童会活動、クラブ活動の目標と内容
- 第8回：学校行事の目標と内容、家庭・地域等との連携
- 第9回：特別活動における評価
- 第10回：総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割
- 第11回：総合的な学習の時間の目標と内容
- 第12回：総合的な学習の時間と各教科等との関連
- 第13回：総合的な学習の時間の学習過程
- 第14回：総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画
- 第15回：総合的な学習の時間における評価

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	141円+税	978-4-491-03469-0
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	126円+税	978-4-491-03468-3
	自由記載	授業において随時紹介する。			

授業科目名	生徒指導・進路指導 の理論と方法		サブタイトル		授業番号	CP211
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を、組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。						
【到達目標】						
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を、組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：生徒指導の意義と課題 ※（担当住野）						
第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ（1）学習指導と生徒指導 ※（担当住野）						
第3回：教育課程における生徒指導の位置づけ（2）道徳・特別活動等と生徒指導 ※（担当住野）						
第4回：生徒指導の実践形態と方法原理 ※（担当住野）						
第5回：子ども理解に基づく開発的生徒指導（1）小学校低学年 ※（担当住野）						
第6回：子ども理解に基づく開発的生徒指導（2）小学校中学年 ※（担当住野）						
第7回：子ども理解に基づく開発的生徒指導（3）小学校高学年 ※（担当住野）						
第8回：学校における生徒指導体制 ※（担当住野）						
第9回：暴力問題への取組と生徒指導に関する法令 ※（担当住野）						
第10回：いじめ問題への取組と生徒指導に関する法令 ※（担当住野）						
第11回：不登校問題への対応と関係機関との連携 ※（担当住野）						
第12回：進路指導・キャリア教育の意義 ※（担当住野）						
第13回：キャリア・ガイダンスの理論と実践 ※（担当住野）						
第14回：キャリア・カウンセリングの理論と実践 ※（担当住野）						
第15回：まとめ ※（担当住野）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト	40%	毎回の授業後に、授業内容に関する小テストを行う。			
	定期試験	60%	授業内容に関する記述式の試験を行う。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- 1) 事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。
- 2) 発表や討論に積極的に取り組むこと。
- 3) 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	生徒指導提要	文部科学省	教育図書	276円+ 税	978-4- 87730- 274-0

自由記載

参考書	自由記載	授業において随時紹介する。
-----	------	---------------

授業科目名	子どもと健康		サブタイトル		授業番号	CP212
担当教員名	平松 美由紀					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきか常に考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。</p>						
【到達目標】						
<p>下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。 2. こどもの健康と生活の関連性を理解できる。 3. こどもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。 						
【授業計画】						
<p>第1回：「健康」とは何か 第2回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの (1) 乳幼児期の発達と心の安定 第3回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの (2) 生活リズム 第4回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの ※（担当子） (3) 安全と食を営む力 第5回：領域「健康」の指導計画の立案 第6回：領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について 第7回：領域「健康」における保育者の役割について 第8回：領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫 第9回：領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫 第10回：領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫 第11回：領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心 第12回：領域「健康」指導上の留意事項(1)子どもの体力づくりと運動遊び 第13回：領域「健康」指導上の留意事項(2) 保育環境の安全性 第14回：領域「健康」指導上の留意事項(3) 子どもたちの食育 第15回：子どもの健康を育む保育の在り方</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	健康について自分の意見を具体的に述べていること。			

レポート 課題やレポートについては提出後、コメントを加えて返却する。

小テスト

定期試験 70% WHOの健康の定義、領域「健康」のねらい・内容について記述できる。領域「健康」のねらい・内容を踏まえた指導上の配慮について記載することができる。安全・感染症についてその特徴と対応について記載できる。

その他

自由記載

【受講の心得】

保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐくむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり、実際に子どもに接する機会を意図的にもち、子ども理解を深めたりしていく。そして、理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。

【授業外学修】

1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。また質問事項についてノートにまとめておくこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	コンパクト版 保育内容シリーズ健康	谷田貝公昭, 高橋弥生 編者	一藝社	2000円	978-4-86359-150-9

自由記載

参考書

自由記載

『最新保育講座7保育内容「健康」』 著者名 河邊貴子・柴崎俊行・杉原隆編 発行所 ミネルヴァ書房 『新保育ライブラリ』保育内容 健康 著者名 民秋 言・小田 豊・枳尾 勲・無藤 隆 発行所 北大路書房 『保育所保育指針解説』厚生労働省 発行所 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 発行所 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府 発行所 フレーベル館

授業科目名 **子どもと健康指導法** サブタイトル

授業番号 CP313

担当教員名 平松 美由紀

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

演習形式で、領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。

また、遊びに関わるだけでなく、安全教育、食育、小学校との接続を踏まえた指導について考えていく

【到達目標】

幼児期の身体に関する問題は、多様化、複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について、方法とその具体的内容について理解することを目的とする。

子どもと健康の内容を踏まえ、ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また、実践における評価について学習する。

なお、本科目は、デュプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解

第2回：領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点

第3回：領域「健康」の具体的指導場面（基本的生活習慣）の指導と幼児理解（ICT）

第4回：領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT）

第5回：領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）

第6回：領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）

第7回：領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）

第8回：領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解（模擬保育）

第9回：領域「健康」に関する安全指導と保健指導

第10回：食育に関する指導（3歳未満児を対象として）

第11回：食育に関する指導（3歳以上児を対象として）

第12回：乳幼児の病気とアレルギーに対する指導

第13回：特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導

第14回：小学校を見通した領域「健康」における指導

第15回：領域「健康」における評価

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	グループでの学修意欲・保育内容との関連の理解
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	50%	幼児の健康と身体に関する保育内容の理解
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。
- ・保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。

【授業外学修】

1. 毎回、授業に使用するテキストを読み、授業内容の概要を理解すること。
 2. 受講後は自身のノートに記載事項を1時間以上かけて整理し、分からないところを明確にしておくこと。
- 以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名 **子どもと人間関係** サブタイトル

授業番号 CP214

担当教員名 濱名 潔

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

領域「人間関係」は人とかかわる力を養う観点から示されている。この授業では、保育内容「人間関係」のねらい及び内容について理解し、保育者の役割や指導の在り方について学ぶ。

【到達目標】

子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ、「人とかかわる力の基礎」を理解する。

保育者・教育者に求められる幅広い教養と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。

保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく・前向きで誠実な態度を身につける。

これらは、ディプロマポリシーにあげている学士力の内容<知識・理解><態度>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「人間関係」のねらいと内容...幼児期に求められる人間関係について理解する。

第2回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題...多様な家族形態が抱える諸問題

第3回：子どもの人間関係の発達課題（1）...愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達

第4回：子どもの人間関係の発達課題（2）...いざこざを通した育ち、いざこざに対する保育者の援助

第5回：子どもの人間関係の発達課題（3）...道徳性と規範意識の芽生え

第6回：幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力...子どもの姿を個と集団の関係から読み解く

第7回：遊びの発達と人間関係...遊びのなかで育まれる人間関係

第8回：保育者に求められる援助の視点...年齢別の援助とは、自立を考える

第9回：子どもの協同性を育む保育者の援助...「遊んでぼくらは人間になる」を視聴、グループワーク

第10回：人間関係を結ぶ保育のあり方...遊びでつなぐ友だち作り

第11回：保育場面での気になる子どもとのかかわり...気になる子の人間関係と保育者の援助

第12回：乳児の人間関係；乳児期の人間関係の芽生え

第13回：子ども理解；子ども理解の視点、グループワーク

第14回：親の思いと家庭との関わり...保護者との信頼関係、子育て支援の今後の課題

第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への取組の積極性、発表などによる評価
	レポート	30%	提出物、レポートが課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されたりしている。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業において、『しっかりと話を聞く』『自分の考えを話す』『記録の整理』をするなどを大切にすること。

また、演習では積極的に取り組み、乳幼児期の『人間関係』の大切さを学んでほしい。

【授業外学修】

テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。

人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など、授業前後の準備・振り返りをする。

このことについて、1時間以上の学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育内容「人間関係」第2版	濱名浩 編	株式会社 みらい	2100円+ 税	9784860154455
	自由記 載				
参考書	自由記 載				

授業科目名	子どもと人間関係指導法		サブタイトル		授業番号	CP315
担当教員名	濱名 潔					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「人間関係」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。</p>						
【到達目標】						
<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：領域「人間関係」とは (1) 第2回：領域「人間関係」とは (2) 第3回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(1) 第4回：人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(2) 第5回：遊びの中の人とのかかわりの育ち(1) 第6回：遊びの中の人とのかかわりの育ち(2) 第7回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(1) 第8回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(2) 第9回：人とのかかわりを支える「保育者の役割」(3) 第10回：人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1) 第11回：人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2) 第12回：人とのかかわりを支え広げる実践(1) 第13回：人とのかかわりを支え広げる実践(2) 第14回：領域「人間関係」における今日的課題 第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への取組の積極性，発表などによる評価			
	レポート	30%	提出物，レポートが課題・テーマに沿って具体的に述べられたり，整理されたりしている。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

授業において、『しっかりと話を聞く』『自分の考えを話す』『記録の整理』をするなどを大切にすること。
また、演習では積極的に取り組み、乳幼児期の『人間関係』における保育者の援助・指導法の大切さを学んでほしい。

【授業外学修】

テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。

人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など、授業前後の準備・振り返りをする。

このことについて、1時間以上の学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ)	若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	2400+税	4472405644
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	子どもと環境		サブタイトル		授業番号	CP216
担当教員名	熊代 賢治					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 「環境」に関わる内容を楽しく体験的に学び、環境に関する基礎力を養成する。						
【到達目標】 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーの<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。 1. 「環境」のねらいについて、自分の言葉で語ることができる。 2. 環境の内容について、多様な視点から述べるができる。 3. 環境に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付ける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 (1)領域「環境」についての内容 (2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」, 「植物・野鳥カード」 (3)実際の体験としての「工作」・「実技」 の3項目を授業で行う。						
第1回：・幼児教育の基本と「環境」 ・理科ソング「草花」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「ツバメ飛行機」						
第2回：・「環境」のねらい ・理科ソング「七草」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「紙鉄砲」						
第3回：・保育「環境」の内容 ・理科ソング「野菜の歌」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「紙コップけん玉」						
第4回：・ダンゴムシ探し 飼育開始 ・理科ソング「セミの歌」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「くるくるうさぎ」						
第5回：・「環境」内容の取り扱い ・理科ソング「甲虫類」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「ストロー笛」						
第6回：・幼児の環境とのかかわり ・理科ソング「むせきつい動物」 ・「植物・野鳥カード」 ・体験「ポップコーンづくり」						
第7回：・植物とのふれあい ・理科ソング「空の雲」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「ブンブンごま」						
第8回：・植物採集と標本づくり ・理科ソング「堆積岩」 ・「植物・野鳥カード」 ・工作「紙テープのコマ」						
第9回：・植物の名前調べ ・理科ソング「火成岩」 ・「植物・野鳥カード」 ・体験「綿菓子づくり」						
第10回：・動物とのかかわり(1) ・理科ソング（復習） ・「植物・野鳥カード」 ・工作「ゴム銃」						
第11回：・動物とのかかわり(2) ・理科ソング（復習） ・「植物・野鳥カード」 ・実技「伝統ゴマまわし」						
第12回：・物, 自然とのかかわり ・理科ソング（復習） ・「植物・野鳥カード」 ・工作「手品のカード」						
第13回：・地域, 情報とのかかわり ・理科ソング（復習） ・「植物・野鳥カード」 ・工作「ストローとんぼ」						
第14回：・数量, 図形, 文字とのかかわり ・理科ソング（復習） ・「植物・野鳥カード」 ・体験「かき氷づくり」						
第15回：・「環境」全体のまとめ ・理科ソング（復習） ・「植物・野鳥カード」 ・工作「俵転がし」						
【授業計画 備考2】 (1)テキスト (2)ノート (3)ハサミ (4)セロテープ (5)色マジック (6)授業時間に指示した物						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発言, 実技の態度			
	レポート	10%	植物標本, ダンゴムシ飼育			
	小テスト	20%	工作物とその実技テスト			

定期試験 50% 環境の内容, 理科ソング 習得度

その他

自由記載

【受講の心得】

- ・ 環境の内容を楽しく体験しながら, 子どもの興味・関心, 主体性について考えてもらいたい。

【授業外学修】

- ・ 身近な動植物を意識的に探し, 子どもがどのような反応をするか, 遊びに使えるかなどを考えること。
- ・ 身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみること。
- ・ 季節の変化に注意し言葉で表現すること。
- ・ 地域の伝統・文化を探ぐり体験してみること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境	無藤隆 監修	萌文書林	2000	978-4-89347-258-8

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	子どもと環境指導法		サブタイトル		授業番号	CP317
担当教員名	熊代 賢治					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 ・領域「環境」に関わる内容を、保育者として実際に指導できるように、具体的な活動を通して体験的に学ぶ。 ・子どものまわりの「環境」の要素を整理し、子どもの視線で環境を感じ、指導者としての力量を高める。						
【到達目標】 ・「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。 ・「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。 ・子どもたちに考えさせたり、工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。 ・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ、どのように指導すればよいかを説明することができる。 ・「環境」の活動の楽しさを実感し、子どもにどのように接すればよいかを話すことができる。 ・具体的な指導計画を作ることができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
(1)領域「環境」の基礎知識の整理 (1)子どもを取り巻く環境 (2)ねらいと内容 (3)園の環境 (4)子どもの発達と環境						
(2)実際に体験する活動						
(3)工夫したり、調べる活動						
(4)考える活動						
(5)指導計画をつくる						
第1回：・人間の生活と環境 ・子どもを取り巻く環境						
第2回：・「環境」のねらい及び内容について						
第3回：・園の環境 ・子どもの発達と環境						
第4回：・自然とふれあい感動する (体験する活動) (調べる) (考える)						
第5回：・物事の法則性に気づく (体験する活動) (調べる) (考える)						
第6回：・季節感を味わう (体験する活動) (調べる) (考える)						
第7回：・自然を取り入れて遊ぶ (体験する活動) (調べる) (考える)						
第8回：・生命の営みに触れる (体験する活動) (調べる) (考える)						
第9回：・身のまわりの物に愛着をもつ (体験する活動) (調べる) (考える)						
第10回：・科学を体感する (体験する活動) (調べる) (考える)						
第11回：・数量・図形に親しむ (体験する活動) (調べる) (考える)						
第12回：・標識や文字の必要性を育む (体験する活動) (調べる) (考える)						
第13回：・身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする (体験する活動) (調べる) (考える)						
第14回：・指導計画をつくる(1) ・指導形態とカリキュラム ・指導計画作成手順						
第15回：・指導計画をつくる(2)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な授業態度			
	レポート	45%	授業ごとのレポート内容			
	小テスト					

定期試験 30% 「環境」基礎知識 習熟度

その他

- 自由記載
- ・授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。
 - ・基礎概念の理解度についての試験を実施する。

【受講の心得】

- ・授業に前向きに取り組み、考えたり、工夫しようとしている姿勢を重視する。

【授業外学修】

- ・日常的に環境を意識し、子どもの視点で美しいものや、興味を引きそうなものを探し、ノートに記録する。
- ・身近なものを使い、子どもが喜びそうな工作を考える。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	体験する 調べる 考える 領域「環境」	田宮緑	萌文書林	2000円	978-4-89347-291-5

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **子どもと言葉**

サブタイトル

授業番号 CP218

担当教員名 田淵 康江

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

発達にともなう子どもの「言葉」の世界の広がりについて、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。

【到達目標】

保育内容 領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。

人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。

言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。

児童文化財について基礎的な知識を身に付ける。

これらは、ディプロマポリシーに挙げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の習得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育の基本と領域「言葉」（1）保育の基本

第2回：保育の基本と領域「言葉」（2）保育の専門性、領域「言葉」と保育内容

第3回：乳幼児の言葉の発達を支えるもの（養育者・保育者との関係性と言葉の発達）

第4回：言葉としての身体表現、コミュニケーションとしての言葉 -映像を通して-

第5回：「なぜ」、「どうして」と言う質問を通して育つもの-事例・協議から-

第6回：友達のおしゃべりやトラブルを通して育つもの -事例を通して-

第7回：いろいろな言葉遊びを知り、言葉の広がりを理解する -体験を通して-

第8回：いろいろな文化財の意義を知り、保育への取り入れ方を知る -事例を通して-

第9回：いろいろな文化財の意義を知り、保育への取り入れ方を知る

第10回：絵本についての意義を知り、読み聞かせ体験をする

第11回：紙芝居についての意義を知り、演じる体験をする

第12回：素話についての意義を知り、話す体験をする

第13回：読む・書くなどの遊びや環境の中での文字の意味や役割を理解する -映像を通して-

第14回：読む・書くなどの遊びや環境の中での文字の意味や役割を理解する

第15回：幼児教育の現代的課題と領域「言葉」

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業への積極的な取組（体験、発表など）による評価。
	レポート	30%	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりする。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。

【授業外学修】

テキストの授業内容にかかわる部分を予習をして、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。

いろいろな児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。

このことについて、1時間以上の学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育内容「言葉」	柴崎 正行他	ミネルバ 書房	2200+税	
	自由記載				
参考書	自由記載	幼稚園教育要領解説・保育者保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 事例で学ぶ保育内容 領域「言葉」無藤 隆 監修 高濱 裕子著代表			

授業科目名	子どもと言葉指導法		サブタイトル		授業番号	CP319
担当教員名	田淵 康江					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 模擬保育・事例・映像などを基に、体験したり、協議したりして領域「言葉」の視点から、幼児を理解したり、環境構成、指導上の留意点及び、保育の構想などを理解したりする。						
【到達目標】 授業の到達目標及びテーマ ・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 なお、本科目はディプロマポリシーにあげた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：幼児教育の基本を踏まえ、保育内容 領域「言葉」のねらい及び内容について 乳幼児の言葉の発達から人との関わり、非言語的なコミュニケーションの重要性について</p> <p>第2回：バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションを体験し理解と援助を探る</p> <p>第3回：言葉の遅れがある幼児や障害がある幼児などの援助について –事例・映像を通して–</p> <p>第4回：ごっこ遊びを通して、環境構成、保育者の援助、幼児理解などを探る –事例を通して–</p> <p>第5回：生活や遊びの中で、幼児と保育者が創作紙芝居を作るまでの過程を知り、領域との関連、情報機器や教材活用を理解する。 –事例・映像を通して–</p> <p>第6回：生活や遊びの中で、幼児と保育者が創作紙芝居を作るまでの過程を知り、幼児理解と指導の援助、評価を理解する。 –グループ協議–</p> <p>第7回：読む・書くを通しての遊びや環境構成を知り、保育の構想を考える –事例・映像を通して–</p> <p>第8回：読む・書くを通しての遊びや環境構成、指導上の留意点など理解する</p> <p>第9回：絵本・素話から劇遊びに発展した事例をもとに、指導の経過、保育の構想を理解する</p> <p>第10回：領域「言葉」と総合的な活動とのつながり：絵本・素話を通して、劇遊びに発展した事例をもとにねらい・内容、環境構成・指導上の留意点を理解する –映像DVDを通して–</p> <p>第11回：いろいろな児童文化財を利用し、どう保育に取り入れるかを考える</p> <p>第12回：いろいろな児童文化財を利用し、保育に取り入れ、指導案を作成する –グループ活動–</p> <p>第13回：いろいろな児童文化財を利用し、模擬保育を行う –グループ活動–</p> <p>第14回：いろいろな児童文化財を利用し、模擬保育、評価・改善を行う –グループ活動–</p> <p>第15回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の中で、領域「言葉」との関係の深い「言葉による伝え合い」と他領域との関係（総合的な指導）など小学校とのつながりを考える</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への積極的な取組、発表などによる評価			
	レポート	30%	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりする			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的理解度を評価する			
その他						

自由記載

【受講の心得】

授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることができるよう主体的に受講する。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	子どもと表現		サブタイトル		授業番号	CP220
担当教員名	柏原 寛 土師 範子 織田 典恵					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域表現に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。なお、本講義はディプロマ・ポリシーの<思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>						
【到達目標】						
<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達を理解する。</p> <p>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2)表現を生成する過程について理解している。</p> <p>3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>4)協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：「表現」と出会う（伝える・受け止めるを通した表現の生成過程） ※（担当土師範子）</p> <p>第2回：「表現」と身体（生活と動きの気づき） ※（担当織田典恵）</p> <p>第3回：「表現」と音楽（自然の音を感じ、楽器で表現） ※（担当土師範子）</p> <p>第4回：「表現」と色・形（素材との出会い-素材の特性を活かして-） ※（担当柏原寛）</p> <p>第5回：「表現」と身体（言葉と動きの工夫） ※（担当織田典恵）</p> <p>第6回：「表現」と音楽（身近な音を、楽器で表現） ※（担当土師範子）</p> <p>第7回：「表現」と色・形（自然との出会い-身近な自然との関わりを活かして-） ※（担当柏原寛）</p> <p>第8回：「表現」と身体（音と動きの楽しみ） ※（担当織田典恵）</p> <p>第9回：「表現」と音楽（リズム遊びを展開） ※（担当土師範子）</p> <p>第10回：「表現」と色・形（描画材との出会い-描画の関わりを活かして-） ※（担当柏原寛）</p> <p>第11回：幼児表現の特徴（みて、感じて、よみとる） ※（担当織田典恵）</p> <p>第12回：「表現」と身体（イメージと動きの味わい） ※（担当織田典恵）</p> <p>第13回：「表現」と音楽（楽器を使ってアンサンブル） ※（担当土師範子）</p> <p>第14回：「表現」と色・形（イメージとの出会い-言葉や物語との関わりを活かして-）</p> <p>第15回：ICTの活用と総括 ※（担当柏原寛）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート	60%	「幼児の表現を支える」ことについて具体的に述べていること。			

小テスト 40% 各回のポイントの理解を評価する。

定期試験

その他

自由記載 授業内での小課題（40%）、最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。

【受講の心得】

「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として課題を課すことがある。
2. 予習として資料を配布することがある。

以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト	自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領
参考書	自由記載	適宜提示する。

授業科目名	子どもと表現指導法	サブタイトル		授業番号	CP321
担当教員名	柏原 寛 土師 範子 織田 典恵				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>幼児教育において育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について、関連する専門領域に触れながら、幼児の発達に即して、深い学びが実現する課程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。</p>					
【到達目標】					
<p>(1)幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1)幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼児教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 1)幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：領域「表現」のねらい及び内容 -幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに- ※ (担当土師 範子)</p> <p>第2回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (形, 色, 手触り) (2歳児未満) ※ (担当柏原 寛)</p> <p>第3回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (音) (2歳児未満) ※ (担当土師 範子)</p> <p>第4回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (動き) (2歳児未満) ※ (担当織田 典恵)</p> <p>第5回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (形, 色, 手触り) (3歳児～6歳児) ※ (担当柏原 寛)</p> <p>第6回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (音) (3歳児～6歳児) ※ (担当土師 範子)</p> <p>第7回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点 (動き) (3歳児～6歳児) ※ (担当織田 典恵)</p> <p>第8回：具体的な指導場面と保育構想 (形, 色, 手触り) ※ (担当柏原 寛)</p> <p>第9回：具体的な指導場面と保育構想 (音) ※ (担当土師 範子)</p> <p>第10回：具体的な指導場面と保育構想 (動き) ※ (担当織田 典恵)</p> <p>第11回：指導案の構造と作成 ※ (担当織田 典恵)</p> <p>第12回：模擬保育と振り返り (形, 色, 手触り) ※ (担当柏原 寛)</p> <p>第13回：模擬保育と振り返り (音) ※ (担当土師 範子)</p> <p>第14回：模擬保育と振り返り (動き) ※ (担当織田 典恵)</p> <p>第15回：ICTの活用と表現の発達 (小学校との関連) ※ (担当柏原 寛)</p>					

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	60%	領域「表現」に関わる保育について具体的に記述していること。
	小テスト	40%	各回のポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載	授業内での小課題（40%）、最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。	
【受講の心得】			
「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。			
【授業外学修】			
1. 復習として課題を課すことがある。			
2. 予習として資料を配布することがある。			
以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。			
使用テキスト	自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領	
参考書	自由記載	適宜提示する。	

授業科目名 **子どもと音楽**

サブタイトル

授業番号 CP222

担当教員名 小野 文子 河田 健二 織田 典恵

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

幼児にとって音を通じた遊びは本来、楽しく有意義なものである。その中で、拍節的な活動は身体的、知的な発達を促進させ、無拍節的な活動は叙情的な活動を助長する。そこで楽器遊び、描写的な音楽作りを実体験しながら、保育の実践者としての表現法と指導法を探っていく。また、音楽を使った身体表現について、基礎知識を習得するとともに保育・教育現場での活用方法を学修する。

【到達目標】

- ・子どもの発達を理解し、発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。
- ・音楽を使った身体表現のために必要な知識を習得し、現場で実践できる技能を身につける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：幼児の発達と音楽1－わらべ歌，童謡	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第2回：幼児の発達と音楽2－子どもの歌と伴奏	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第3回：幼児の発達と音楽3－子どもの生活と音楽表現	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第4回：生活と遊びの中の音1－身近な自然やものの音や音色，人の声や音楽等に親しむ経験	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第5回：生活と遊びの中の音2－音と保育の環境	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第6回：生活と遊びの中の音楽3－拍節とリズム	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第7回：音楽の仕組みと諸要素	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第8回：動きとリズム，人の声や音楽－乳幼児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第9回：動きとリズム－1歳児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第10回：動きとリズム－2歳児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第11回：動きとリズム－3歳児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第12回：動きとリズム－4歳児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第13回：動きとリズム－5歳児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第14回：動きとリズム－6歳児	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)
第15回：楽曲の仕組みと伴奏法	※	(担当小野 文子 河田 健二 織田典恵)

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業に取り組む姿勢，態度，発表。
レポート	30%	添削後，返却する。
評価の方法		
小テスト	20%	知識の理解度。動きとリズムの表現技法。
定期試験	20%	知識の理解度と定着度。動きとリズムの表現技法。
その他		
自由記載		【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。

【受講の心得】

保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

授業で提示された課題を実施し、復習すること。

上記の内容を、週当たり1時間程度学修すること。

使用テキスト	自由記載	こどものうた100（小林美実編著，チャイルド本社）楽しみながら体を動かす1～5歳のリトミック（神原雅之監修，ナツメ社）大人のための音楽ワーク（ヤマハ出版）
参考書	自由記載	授業中に適宜資料を配布する。

授業科目名 **子どもと音楽研究**

サブタイトル

授業番号 CP323

担当教員名 小野 文子 土師 範子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに、保育やの現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また、表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。

【到達目標】

- ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。
- ・身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識や技術を習得する。
- ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、具体的展開のための技術を習得する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの成長と身体表現	※ (担当小野文子 土師範子)
第2回：子どもの成長と音楽－遊びをとおして	※ (担当小野文子 土師範子)
第3回：表現活動と身体表現－音・音色・音楽	※ (担当小野文子 土師範子)
第4回：子どもの歌とピアノ・リズム 1	※ (担当小野文子 土師範子)
第5回：子どもの歌とピアノ・リズム 2	※ (担当小野文子 土師範子)
第6回：ピアノによる簡易伴奏の作り方	※ (担当小野文子 土師範子)
第7回：弾き歌いの表現法 1	※ (担当小野文子 土師範子)
第8回：弾き歌いの表現法 2	※ (担当小野文子 土師範子)
第9回：音楽表現－歌唱 1	※ (担当小野文子 土師範子)
第10回：音楽表現－歌唱 2	※ (担当小野文子 土師範子)
第11回：音楽表現－器楽 1 MLを活用して	※ (担当小野文子 土師範子)
第12回：音楽表現－器楽 2 MLを活用して	※ (担当小野文子 土師範子)
第13回：音楽表現－弾き歌い 1	※ (担当小野文子 土師範子)
第14回：音楽表現－弾き歌い 2	※ (担当小野文子 土師範子)
第15回：表現法のまとめと考察	※ (担当小野文子 土師範子)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度、姿勢、発表。
	レポート	30%	課題・レポートの、理解度・定着度。添削後、返却する。
	小テスト	20%	授業内の筆記・実技等の小テスト
	定期試験	20%	理解度、定着度。
	その他		

自由記載

【受講の心得】

授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。

【受講の心得】

毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し、毎日課題を演習することで、子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。

保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について、予習すること。

授業で提示された課題を実施し、復習すること。

上記の内容を、週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト	自由記載	大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」、『続こどもの歌200』、「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」
参考書	自由記載	授業の中で、その都度紹介します。

授業科目名	子どもと造形		サブタイトル		授業番号	CP224
担当教員名	柏原 寛					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
この講義では、幼児の「表現とその発達」について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。						
【到達目標】						
(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解する。 1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 1-2)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。 2-3)協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、子どもの表現活動を展開させることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「表現」に出会う 第2回：表現活動におけるICTの活用 第3回：素材との出会い 第4回：加工との出会い 第5回：生活との出会い 第6回：自然との出会い 第7回：道具との出会い 第8回：シンボルとの出会い 第9回：イメージとの出会い 第10回：物語との出会い 第11回：他者との出会い 第12回：見立てとの出会い 第13回：総合的な表現 1 第14回：総合的な表現 2 第15回：表現活動の振り返り						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	30%	「感性や創造性を豊かにする」ことについて具体的に述べていること。			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

「感性や創造性を豊かにする」とはどのようなことなのかについて探求してほしい。

【授業外学修】

1. 復習として、課題を課すことがある。
 2. 予習として、資料を配布することがある。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト	自由記載	適宜, 提示する。
--------	------	-----------

参考書	自由記載	適宜, 提示する。
-----	------	-----------

【その他】

はさみ, のり, テープ, 色鉛筆, 水彩絵具, 定規, コンパス, カッター, スケッチブックなど, 様々な画材, 素材, 道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

授業科目名 **メディア教育演習** サブタイトル 授業番号 CP225

担当教員名 岸 誠一

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 4年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

現代社会における教育や保育の現場において必要となるメディアの基礎的知識を習得するために、本演習では、特に教育メディアの特性とその活用法について学修する。

【到達目標】

教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉と〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：メディア教育とは
- 第2回：ネット社会を生きる子どもの現状と課題
- 第3回：情報モラルの指導案作りと模擬授業
- 第4回：教育メディアと著作権
- 第5回：画像処理とその活用I
- 第6回：画像処理とその活用II
- 第7回：動画編集とその活用I
- 第8回：動画編集とその活用II
- 第9回：動画編集とその活用III
- 第10回：プレゼンテーションの基本
- 第11回：プレゼンテーションソフトの活用
- 第12回：アクティブラーニングのためのICTの活用について
- 第13回：模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案（ICT活用レシピ）作成
- 第14回：教育メディアを活用した模擬授業とその評価I
- 第15回：教育メディアを活用した模擬授業とその評価II

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	70%	授業中出題する演習課題（課題解決を図るための基本的な技法を理解しているか）について評価する
	自由記載		

【受講の心得】

毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。

【授業外学修】

1. 授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、よく予習しておくこと。
2. PCの操作技能等を身につけるために、随時復習をすること。
3. 模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。

1および2の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。
参考書	自由記載	適宜、紹介する。
【その他】 パソコンを大切に使用すること。		

授業科目名	小学校教育基礎演習			サブタイトル		授業番号	CP126
担当教員名	岸 誠一 佐々木 弘記 小川 深雪 溝田 知茂 村井 隆人						
対象学部・学科					単位数	1単位	
開講年次	1年				開講期	前期	
必修・選択	選択				授業形態	演習	
【授業の概要】 小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。具体的には、小学校教員の職務内容を学習したり、小学校教員をしている卒業生の話を聞いたり、小学校に観察に行ったりする。							
【到達目標】 基礎的な小学校教員の職務内容について、一通り理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：小学校教員の職務内容の概要 ※（担当岸 誠一，溝田知茂） 第2回：教員免許に関する制度 ※（担当佐々木弘記） 第3回：法令・通知等にもとづく小学校教員の職務 ※（担当佐々木弘記） 第4回：中央教育審議会と教育行政制度 ※（担当佐々木弘記，小川深雪） 第5回：学習指導要領と学習指導 ※（担当佐々木弘記，小川深雪） 第6回：生徒指導と特別活動 ※（担当佐々木弘記，村井隆人） 第7回：学級経営，学校経営，校務分掌の実際 ※（担当小川深雪，村井隆人） 第8回：小学校教員の職務内容の実際I ※（担当岸 誠一，村井隆人） 第9回：小学校教員の職務内容の実際II ※（担当岸 誠一，村井隆人） 第10回：小学校の見学I(土曜授業参観) ※（担当岸 誠一，村井隆人，小川深雪） 第11回：ボランティア体験Iの準備（学習支援ボランティア体験を実践するにあたっての基本的な指導技術を学ぶ） ※（担当岸 誠一，村井隆人，溝田知茂） 第12回：ボランティア体験I(小学校での学習支援ボランティアの体験) ※（担当岸 誠一，村井隆人，溝田知茂） 第13回：授業参観に向けて教材研究および学習指導案の検討 ※（担当小川深雪，村井隆人，溝田知茂） 第14回：小学校での授業参観 ※（担当岸 誠一，村井隆人，小川深雪） 第15回：小学校教員の職務内容のまとめと考察，最終レポート作成 ※（担当溝田知茂，村井隆人）							
【授業計画 備考2】 ・小学校の見学では、ただ参加するだけでなく、ボランティア等を体験し、小学校における課題を実感する。その時の「実感」の内容についてレポートを課す。							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，発表・ボランティアへの取組状況，予習・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50%	小学校の見学におけるレポートにおいてそれぞれの活動の目標について，自分が体験したことを通しての「実感」を明記できること。レポートについては，コメントを記入して返却する。				
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。				
	定期試験						
	その他						

自由記載

【受講の心得】

小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、事前に配布された資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業内容・配布資料をノートにまとめる。
- 3 発展学修として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートにまとめる。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜、指示する。
参考書	自由記載	教師養成研究会『教育原理』学芸図書 汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房 山崎英則『教育実習完全ガイド』ミネルヴァ書房『教育六法』（どの出版社のものでもよい）

授業科目名	小学校教育基礎研究			サブタイトル		授業番号	CP227
担当教員名	岸 誠一 佐々木 弘記 小川 深雪 溝田 知茂 村井 隆人						
対象学部・学科					単位数	1単位	
開講年次	1年				開講期	後期	
必修・選択	選択				授業形態	演習	
<p>【授業の概要】</p> <p>小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。具体的には、小学校教員の職務についてボランティア活動などを通して体験するとともに記録をとり報告をする。その報告に対して、担当教員から観察のポイントや指導の助言を行う。そして、その助言内容を踏まえて再び実践を行う。こうした取り組みを繰り返す。</p>							
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解する。 ・小学校現場の課題について現場体験を通し、実感しながら理解する。 <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>							
<p>【授業計画】</p>							
<p>第1回：小学校教員の職務内容を理解するための方法 ※（担当岸 誠一，溝田 知茂）</p> <p>第2回：小学校の課題I ※（担当岸 誠一，村井 隆人）</p> <p>第3回：小学校の課題II ※（担当小川 深雪，村井 隆人）</p> <p>第4回：ボランティア1の内容と準備 ※（担当岸 誠一，村井 隆人）</p> <p>第5回：ボランティア1の実施(大学探検で小学校生活科) ※（担当岸 誠一，村井 隆人，小川 深雪，溝田 知茂）</p> <p>第6回：授業参観I（学習発表会）に向けて（特別活動等について事前学習） ※（担当岸 誠一，村井 隆人）</p> <p>第7回：授業参観I(学習発表会参観) ※（担当岸 誠一，小川 深雪，村井 隆人）</p> <p>第8回：小学校でボランティア（学習支援）の実施 ※（担当岸 誠一，溝田 知茂）</p> <p>第9回：前回のボランティアの体験のまとめと評価 ※（担当岸 誠一，溝田 知茂）</p> <p>第10回：授業参観IIに向けて教材研究および学習指導案の検討 ※（担当小川 深雪，村井 隆人）</p> <p>第11回：授業参観II ※（担当小川 深雪，村井 隆人）</p> <p>第12回：授業参観IIのまとめと評価 ※（担当小川 深雪，村井 隆人）</p> <p>第13回：小学校教員の職務内容について(現場教員や教育委員会による講義) ※（担当岸 誠一，村井 隆人）</p> <p>第14回：小学校教員の職務内容のまとめと考察 ※（担当岸 誠一，村井 隆人）</p> <p>第15回：授業のまとめと最終レポートの作成 ※（担当溝田 知茂，村井 隆人）</p>							
<p>【授業計画 備考2】</p> <p>ボランティア等を体験し，小学校における課題を実感する。その時の「実感」の内容についてレポートを課す。</p>							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・ボランティアへの取組状況，予習・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50%	小学校の参観やボランティア体験の後におけるレポートにおいて，自分が体験したことを通しての「実感」を明記できること。レポートについては，コメントを記入して返却する。				
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。				
	定期試験						
	その他						
自由記載							

【受講の心得】 小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。		
【授業外学修】 1. 授業ごとに紹介する参考資料を次回授業までに熟読し、よく予習しておくこと。 2. 前回の授業内容について随時小テストを行うので、授業で配ったプリントをよく読み、復習しておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。		
使用テキスト	自由記載	適宜、指示する。
参考書	自由記載	教師養成研究会『教育原理』学芸図書 汐見稔幸ほか『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房 山崎英則『教育実習完全ガイド』ミネルヴァ書房 『教育六法』（どの出版社のものでもよい）

授業科目名	保育・教職実践演習 (幼・小)		サブタイトル	(幼・小)	授業番号	CP428
担当教員名	小川 深雪 平松 美由紀 坂田 季穂					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていきたい。また、履修カルテを参照し、個別的に補完指導を行う。						
【到達目標】 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のいずれにも共通して、 (1)子どもを理解する力、(2)保育（授業）をデザインする力、(3)保育（授業）を実践する力、(4)保育（授業）を省察する力の4点を身につけることができる。						
【授業計画】						
<p>第1回：保育園実習・幼稚園実習・小学校実習の振り返りと自己の課題把握 ※（担当（小川・平松・坂田）） 免許取得者としての自覚と課題</p> <p>第2回：省察的実践者としての保育・教職者 ※（担当（小川））</p> <p>第3回：学級担任の一日(保育園・幼稚園)，週案と学級経営案の立案 ※（担当（平松・坂田））</p> <p>第4回：学級担任の一日（小学校）学級経営案の立案 ※（担当（小川））</p> <p>第5回：保・幼・小の保育と教育の内容理解と連携意義 ※（担当（小川・平松））</p> <p>第6回：保・幼・小専門実践(1)（模擬保育の実施(1)） （教材研究から学習指導案立案） ※（担当（小川・平松・坂田））</p> <p>第7回：保・幼・小専門実践(2)（模擬保育の実施(2)） （模擬授業） ※（担当（小川・平松・坂田））</p> <p>第8回：保・幼・小専門実践(3)（模擬保育の実施(3)） （教材研究から学習指導案立案） ※（担当（小川・平松・坂田））</p> <p>第9回：保・幼・小専門実践(4)（模擬保育の実施(4)） （模擬授業） ※（担当（小川・平松・坂田））</p> <p>第10回：保・幼・小専門実践(5)（模擬保育の実施(5)） （模擬授業） ※（担当（小川・平松・坂田））</p> <p>第11回：役割演技（懇談会および家庭訪問等の保護者対応） ※（担当（小川・平松））</p> <p>第12回：事例研究（問題行動への理解と対応；安全教育と危機管理） ※（担当（小川））</p> <p>第13回：グループワーク（人権，特別支援等の各種教科外指導対応） ※（担当（小川））</p> <p>第14回：教職の意義や教員の役割等に関する検討 ※（担当（小川））</p> <p>第15回：指導能力の確認 まとめ ※（担当（小川・平松・坂田））</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。			

レポート	30%	毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について、コメントして返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	40%	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。
自由記載		グループ討論，実技指導，補完指導などの結果を踏まえ，教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し，単位認定を行う。

【受講の心得】

全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は，その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に，向上心を持って授業に臨むこと。

【授業外学修】

- 1 予習として，事前に配布された資料を読み，自分の考えを書きまとめておく。
 - 2 復習として，授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ，提出する。
 - 3 発展学習として，授業に関連した参考資料や書籍を読み，記録に残す。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	随時，必要な資料を配付する。
参考書	自由記載	随時，必要に応じて指定もしくは紹介する。

授業科目名	教育実習研究A		サブタイトル		授業番号	CP329
担当教員名	平松 美由紀 田淵 康江					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
<p>本科目は、幼稚園での教育実習への自己課題を明確にするために、教育実習の意義、計画と事前準備、心構え、指導案の立案、実習記録の書き方などを学び実習に備える。また、学校で学んだ様々な実践的知識を応用し、現場の実践へつなげる力を自分なりに明確にする。幼児理解の重要性を学び、様々な事柄を自分自身が感じたり、気づいたり、考えたりする力を身に付ける。</p>						
【到達目標】						
<p>下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育の実際の中に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。 						
【授業計画】						
<p>第1回：教育実習の目的と意義 ※（担当（平松））</p> <p>第2回：教育実習の計画と準備（実習に参加し学ぶ者としての態度と心得） ※（担当（平松））</p> <p>第3回：幼稚園とは（幼稚園の生活の流れと教師の役割） ※（担当（平松・田淵））</p> <p>第4回：幼稚園の生活（園長先生、先輩による事前指導） ※（担当（田淵））</p> <p>第5回：実習日誌の書き方、実習へ向けて自己課題の作成 ※（担当（平松））</p> <p>第6回：指導案の書き方・部分指導(1) ※（担当（平松））</p> <p>第7回：指導案の書き方・部分指導(2) ※（担当（平松））</p> <p>第8回：指導案の書き方・日案(1) ※（担当（平松））</p> <p>第9回：指導案の書き方・日案(2) ※（担当（平松））</p> <p>第10回：幼稚園における特別支援教育「気になる子ども」への指導 ※（担当（田淵））</p> <p>第11回：幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） ※（担当（平松））</p> <p>第12回：幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） ※（担当（平松））</p> <p>第13回：教育実習のまとめ(1) 実習を終えて反省と評価 ※（担当（平松））</p> <p>第14回：教育実習のまとめ(2) テーマレポート、グループワーク、自己課題の反省と評価 ※（担当（平松））</p> <p>第15回：教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 ※（担当（平松））</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業で説明する実習の目的、意義について説明できる。また、実習に向けての心構えをつくる。			
	レポート	70%	実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。また、実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。			
	小テスト					
	定期試験					

その他

自由記載

【受講の心得】

日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等）を考えて生活する。また、人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。

【授業外学修】

1. 授業で事前学習する内容（実習の目的、意義、実習の内容）について事前学習ページに記載する。
2. 実習に必要な教材準備を行う。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	幼稚園教育実習	平岡弘正 監修	ふくろう 出版	2052円	978-4- 86186- 600-5

自由記載

参考書

自由記載

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

授業科目名	教育実習A		サブタイトル		授業番号	CP430
担当教員名	平松 美由紀 田淵 康江					
対象学部・学科		単位数	4単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
<p>本科目では、幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし、幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際を体験し、幼児と心と心を通わせ、幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び、「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身につける。また、観察実習・部分実習・全日実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ、実践における教師の役割と環境構成の重要性に気づける感性を養う。</p>						
【到達目標】						
<p>下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。など本科目はディプロマポリシーの<技能><態度>の修得に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育の実際を経験し、責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより、その後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち、その職務への自覚を深め、自己を陶冶する。 						
【授業計画】						
<p>第1週 観察実習</p> <p>(1) 実習園について理解する。 教育の基本方針、学級の人員構成・担当教諭の学級経営、環境（物的：敷地、建物の構造、配置及び施設設備・人的：職員構成、勤務形態等）を把握する。</p> <p>(2) 観察の仕方を学ぶ。</p> <p>第2～3週 参加実習</p> <p>(1) 幼児の発達の概要を知る。</p> <p>(2) 幼稚園教育の一日の流れを把握する。</p> <p>(3) 基本的生活習慣の援助や遊びの指導について学び、担当教諭の補助をする。</p> <p>第3～4週 指導実習</p> <p>(1) 3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。</p> <p>(2) 幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。</p> <p>(3) 様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。</p> <p>(4) 指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。</p> <p>(5) 指導の反省と評価の方法について学ぶ。</p> <p>(6) 幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導）</p> <p>(7) 保護者とのコミュニケーションの方法について学び、家庭・地域社会との連携について理解する。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	実習該当園の評価表を基準にする。（上記の4週間において次の7点から評価）意欲、責任感、研究的態度、協調性、指導計画、指導技術、事務処理。			
	レポート	40%	実習日誌、指導案立案の資料をもとに評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	教育実習における実習幼稚園の評価表、実習日誌、指導案立案、指導実習の準備や成果などを総合的に判断し、実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。				

【受講の心得】

現場での実践に積極的に臨み、自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また、今後、社会人として役立つこととして、何を大切にすべきか、互いに協同し合うこととはどのようなことかを学ぶ。

【授業外学修】

1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。
2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。
3. 指導案等の実習指導計画を作成し、指導にあたっての教材研究をする。

以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	幼稚園教育実習	平岡弘正 監修	ふくろう 出版	2052円	978-4- 86186- 600-5

自由記載

参考書

自由記載

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

授業科目名 **教育実習研究B**

サブタイトル

授業番号 CP331

担当教員名 佐々木 弘記 小川 深雪 岸 誠一

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

小学校教育実習における中心的内容である授業の「設計—実施—評価」のサイクルの中で、授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として、教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また、教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに、立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。

【到達目標】

学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育実習の意義と目的	※（担当（岸））
第2回：実習日誌の書き方；自己目標決定	※（担当（岸・小川））
第3回：授業設計の基本と1単位時間の指導過程	※（担当（佐々木））
第4回：教材研究から学習指導案へ(1)	※（担当（佐々木））
第5回：教材研究から学習指導案へ(2)	※（担当（小川））
第6回：教材研究から学習指導案へ(3)	※（担当（小川））
第7回：学習指導案立案から模擬授業；板書計画(1)	※（担当（小川））
第8回：学習指導案立案から模擬授業；板書計画(2)	※（担当（小川））
第9回：授業中の児童のつまづき対応	※（担当（小川））
第10回：特別支援教育（発達に課題を抱えた児童への対応）	※（担当（小川））
第11回：実習後の礼状の書き方	※（担当（小川））
第12回：実習での成果と課題（自己の振り返り）	※（担当（佐々木））
第13回：実習での成果と課題についての発表会	※（担当（岸・小川））
第14回：まとめ（教材研究から指導案立案）	※（担当（小川））
第15回：まとめ（指導案に基づく模擬授業）	※（担当（小川））

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	実習に向けて自己の力量を高めようという意欲的な態度の状況によって評価する。
	レポート	30%	教材研究，学習指導案の記載内容・到達度によって評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	30%	模擬授業への準備，実施と振り返りの記録等によって評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること

【授業外学修】

- 1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	小学校教育実習日誌
参考書	自由記載	小学校学習指導要領ならびに各教科・道徳の解説書

【その他】

4月当初から実習前までの期間に、補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。

授業科目名 **教育実習B**

サブタイトル

授業番号 CP432

担当教員名 佐々木 弘記 岸 誠一

対象学部・学科

単位数 4単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして、実践的指導力（学習指導力）「生徒指導力」「マネジメント力」を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し、実践を評価・分析することを通して、改善点を見付け、工夫・改善していく。つまりP D C Aサイクルを教育実習の中で繰り返しながら、小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で、第1週には、観察実習、第2.3週には、授業実践実習、第4週には一日経営実習を行う。また、4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し、課題意識を明確にして教育実習に取り組む。

【到達目標】

- ・「学習指導力」として、学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方、分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。
- ・「生徒指導力」として、授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法、児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。
- ・「マネジメント力」として、学級担任になったことを想定して、学級経営の計画を立て、学習活動の組織の仕方を取得する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1週 観察実習

- ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。
 - (1)指導案と実際の授業との対応。
 - (2)「教師－児童」の相互作用の実際。
 - (3)学級経営の具体的な取り組み。

第2～3週 授業実践実習

- ・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科・道徳の授業実践を通して実習する。
 - <各段階で求められると想定する技術>
 - 設計：指導案を書く技術
 - 展開：児童に学習内容を理解させる技術
 - 評価：授業を観察・記録する技術
- ・第3週目に研究授業を実施する。

第4週 一日経営実習

- ・一日学級担任として、学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	100%	教育実習校での評価（80%）、教育実習日誌（20%）
	自由記載		

【受講の心得】

小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること

【授業外学修】

- 1 予習として、実習校で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 授業を実践する際に、十分な教材研究を行い、指導計画を立てる。
- 3 授業後には、授業実践を振り返る。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	小学校教育実習日誌
参考書	自由記載	

授業科目名	社会福祉		サブタイトル		授業番号	CQ201
担当教員名	中 典子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 社会福祉の歴史をふまえながら、保育士資格に必要な社会福祉の制度・支援方法について学習する。						
【到達目標】 利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を学び、利用者本位の支援とは何かについて理解を深める。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：社会福祉とは 第2回：欧米における社会福祉のあゆみ 第3回：日本における社会福祉のあゆみ 第4回：社会福祉の法律 第5回：社会福祉の行財政 第6回：社会福祉の実施体制 第7回：社会福祉の担い手 第8回：社会福祉における相談援助 第9回：利用者の保護に関わる仕組み 第10回：高齢者福祉 第11回：障害者福祉 第12回：子ども家庭福祉 第13回：母子保健福祉 第14回：公的扶助 第15回：社会福祉の課題						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	80%	社会福祉記事ワークブックで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。			
自由記載						
【受講の心得】 授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。						
【授業外学修】 授業開始前までに、テキスト、ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

社会福祉概論

杉本敏夫監修

ミネルヴ
ア書房 2, 400

社会福祉記事ワークブック

松井圭三・今井慶宗
編

大学教育
出版 2, 000

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて紹介する。

授業科目名 **子ども家庭支援論**

サブタイトル

授業番号 CQ202

担当教員名 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

事例を通して人間が生活するうえで直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び、保育現場における子ども家庭支援の意義を明らかにする。

【到達目標】

子ども家庭支援の意義と目的を理解し、支援の方法と内容、専門職倫理について理解を深める。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：子ども家庭支援の意義と役割
- 第2回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援の必要性
- 第3回：保育士による子ども・子育て支援
- 第4回：保育士に求められる基本的態度
- 第5回：保護者とのコミュニケーションのとり方
- 第6回：保育士に求められる基本的態度
- 第7回：子育て家庭をとりまく社会資源との連携・協働
- 第8回：子育て家庭をとりまく社会資源
- 第9回：他専門職との連携
- 第10回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- 第11回：子ども家庭支援の内容と対象
- 第12回：保育所等を利用する子どもの家庭への支援
- 第13回：地域の子育て家庭への支援
- 第14回：要保護児童等及びその家庭に対する支援
- 第15回：子ども家庭支援の現状と課題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	70%	家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。
	自由記載		

【受講の心得】

授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、ワークブックの内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NIE家庭支援論演習		松井圭三, 小倉毅, 今井慶宗編	大学教育 出版	2, 500	
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育福祉小六法		保育福祉小六法編集 委員会	みらい		
	自由記載	必要に応じて紹介する。				

授業科目名	子育て支援		サブタイトル		授業番号	CQ203
担当教員名	中 典子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 相談援助で学んだ内容をもとに事例研究を行い、保育現場において必要な相談支援について明らかにする。						
【到達目標】 相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につける。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：保育者が行う子育て支援 第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成 第3回：保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 第4回：子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 第5回：保護者の子育て力向上に対する支援 第6回：子どもと保護者に対する状況把握 第7回：地域における社会資源の活用 第8回：子育て支援における職員連携の方法 第9回：保護者支援の方法と技術 第10回：保護者支援の計画，記録，評価，会議 第11回：事例分析について 第12回：虐待予防と対応などの事例分析 第13回：障がいのある子どもとその保護者への支援についての事例分析 第14回：保育所における保育相談支援の実際 第15回：要養護児童の家庭に対する支援						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。			
	レポート	70%	授業中に提示する事例をもとに、子育て支援の在り方を具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。						
【授業外学修】 授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

子ども家庭支援・子育て支援

西尾祐吾監修

晃洋書房 3, 000

自由記載

参考書

自由記載 必要に応じて紹介する。

授業科目名 **子ども家庭福祉**

サブタイトル

授業番号 CQ204

担当教員名 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

子どもを発達する生活者として理解し、子どものニーズや権利を知り、その充足のために子どもと環境との関係を望ましいものに整えていくにあたり、必要なことを学ぶ。子どもの福祉の意味と目的、子どもを理解する視点、子どもの成長と発達、子どもの福祉の歴史、少子・高齢社会の子ども福祉課題、社会的養護と自立支援、子どもと家庭福祉にかかわる公私の組織と施策（母子保健、保育施設、健全育成、障がい児対策、母子福祉対策、子育て支援等）、子ども家庭福祉を担う人々、専門職と機関・施設の役割、相談支援活動、地域支援活動等について多面的に学習する。

【到達目標】

子ども家庭福祉の制度と実際について理解する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子ども家庭福祉の理念と概念

第2回：子ども家庭福祉の沿革

第3回：子どもの人権擁護と現代における子ども家庭福祉の課題

第4回：児童福祉法にいちづけられる施設や機関・財政

第5回：児童福祉法以外の子ども家庭福祉に関連する法律

第6回：地域の子ども・子育て支援の対策

第7回：多様な保育ニーズへの対策

第8回：養育環境に問題のある子どもとその家庭への対策

第9回：障がいのある子どもとその家庭への対策

第10回：非行問題・情緒障がいのある子どもとその家庭への対策

第11回：一人親家庭の子どもとその家庭への対策

第12回：子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)防止への対策

第13回：貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対策

第14回：子ども家庭福祉専門職の在り方(1) 子ども家庭福祉専門職の基本的要件

第15回：子ども家庭福祉専門職の在り方(2) 児童福祉施設・機関の専門職の職務と資格

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	80%	NIE児童家庭福祉演習で毎回の授業内容の復習ができていること。 ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。
	自由記載		

【受講の心得】

毎回の授業に備えて予習を行っておくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子ども家庭福祉論	西尾祐吾編	晃洋書房	2, 200	
	NIE児童家庭福祉演習	松井圭三・今井慶宗編	大学教育出版	2, 000	
	自由記載				
参考書	自由記載	必要に応じて紹介する。			

授業科目名 **保育原理**

サブタイトル

授業番号 CQ205

担当教員名 淀澤 真帆

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

保育の基本と歴史の変遷の理解を目指した講義および保育の現状と課題の検討から、保育における基本的概念の修得を図る。

【到達目標】

1. 保育の歴史を踏まえて、乳幼児観と保育の意義について理解する。
 2. 乳幼児の発達を踏まえた子ども理解と保育の基本を学ぶ。
 3. 家庭・地域社会・保育施設の三者による総合的な乳幼児教育・保育の在り方について理解する。なおこの科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の習得に貢献する。
- なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：保育とは何か、を考える
- 第2回：現代社会と保育の関係性
- 第3回：保育の制度的位置づけ
- 第4回：保育の特性を理解する
- 第5回：環境を通して行う保育
- 第6回：子どもの発達と保育方法
- 第7回：保育所保育指針の理解
- 第8回：幼稚園教育要領の理解
- 第9回：幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解
- 第10回：保育の計画と実践
- 第11回：保育実践の振り返り
- 第12回：諸外国における保育の思想・保育施設の歴史
- 第13回：日本における保育の思想・保育施設の歴史
- 第14回：保育の現状と課題-どう乗り越える？
- 第15回：授業のまとめと期末試験

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業への積極的な参加を評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	授業の要点が理解できているか評価する。
	定期試験	50%	授業全体を通じた理解を評価する。
	その他		
	自由記載		期末試験（50%）、小テスト(20%)、学習態度（30%）により総合的に評価する。評価方法の詳細については初回の授業で提示する。

【受講の心得】

保育の基礎知識の理解に努めること。グループ討議や発表などには主体的に参加すること。そのため予習、復習を欠かさないこと。

【授業外学修】

ボランティアなどを通して、乳幼児に触れ合う経験を持つ。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育原理	大沼良子・榎沢良彦 編著	建帛社	1888+税	978-4-7679-5037-2
	自由記載				
参考書	自由記載	ビデオ教材を適宜使用する。文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』フレーベル館, 厚生労働省編(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館, 内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 も適宜使用する。			

授業科目名 **社会的養護I**

サブタイトル

授業番号 CQ206

担当教員名 槇尾 真佐枝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

社会的養護の意味と目的，子どもの権利擁護と社会的養護との関連，社会的養護の制度と実施体系（制度と法体系，仕組みと実施体系，家庭的養護，施設養護等），社会的養護の歴史，施設養護の基本原則と実際，社会的養護の現状と課題（施設等の運営管理，倫理の確立，施設内虐待の防止対策，社会的養護と地域福祉の関係等），社会的養護の専門職について講義する。

【到達目標】

社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できるようになる。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：導入：社会的養護の理念と概念
- 第2回：社会的養護の歴史的変遷
- 第3回：子どもの人権擁護と社会的養護
- 第4回：社会的養護の基本原則
- 第5回：社会的養護における保育士等の倫理と責務
- 第6回：社会的養護の制度と法体系
- 第7回：社会的養護のしくみと実施体系
- 第8回：社会的養護とファミリーソーシャルワーク
- 第9回：社会的養護の対象と支援のあり方
- 第10回：家庭養護と施設養護
- 第11回：社会的養護にかかわる専門職
- 第12回：社会的養護に関する社会的状況
- 第13回：施設等の運営管理の現状と課題
- 第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題
- 第15回：まとめ：社会的養護と地域福祉の現状と課題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。
	レポート	10%	課題に対して，適切な理解ができているかを評価する。課題プリントについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。
	小テスト		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他	10%	授業内容について適宜ノートにまとめ，適切な記載がされているかについて評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

毎回の授業において，しっかりとノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問をすること。

【授業外学修】

1. 毎授業後に示す範囲について、事前に教科書をしっかり読んでくること。(約1時間)
2. 授業中にとったノートを見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約2時間)

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	社会的養護I	相澤仁, 林浩康 (編集), 児童育成協会 (監修)	中央法規	2,000円 + 税	978-4-8058-5786-1

自由記載

参考書

自由記載

・必要に応じて提示する。

授業科目名	社会的養護II		サブタイトル		授業番号	CQ307
担当教員名	槇尾 真佐枝					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに、現在抱えている課題について明らかにする。また、子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え、実践に役立つ講義をする。						
【到達目標】 社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において、日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、子どもの心身の成長や発達を保障し、支援するために必要な知識や技術を習得し、児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：導入：子どもの権利擁護 第2回：社会的養護における子どもの理解 第3回：社会的養護の内容(1) 日常生活支援 第4回：社会的養護の内容(2) 心理的支援 第5回：社会的養護の内容(3) 自立支援 第6回：施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等 第7回：施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等 第8回：家庭養護の生活特性および実際 第9回：アセスメントと個別支援計画の作成 第10回：記録および自己評価 第11回：社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 第12回：社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 第13回：社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 第14回：社会的養護における家庭支援 第15回：まとめ：今後の社会的養護の課題と展望						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。			
	レポート	20%	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。課題プリントについては、コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には、再提出を課す。			
	小テスト					
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他	10%	グループワークのまとめについては、コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には、再提出を課す。			
自由記載						

【受講の心得】

- ・毎回の授業においてしっかりとノートを取り、前半に学んだことが後半のケーススタディに活かせるように目的を持って意欲的に取り組むこと。
- ・グループワークでは、積極的に自分の意見を述べること。また、他学生の意見について肯定的、あるいは否定的な考え方をもち、根拠ある説明をすること。

【授業外学修】

- ・授業中にとったノートを見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		社会的養護II	相澤仁, 村井美紀, 大竹智(編集), 児 童育成協会(監修)	中央法規	2,000円 +税
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	こうしてみようあなたの支援 ふりかえる・し っかり考える・進む	中野敏子・福知栄 子・梅野潤子 他	大揚社	1800円+ 税	978-4- 434- 12755-7
	自由記載				

授業科目名 **子どもの保健**

サブタイトル

授業番号 CQ208

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

子どもの保健では、子ども一人一人の発達や心身の状態を踏まえて健康の維持・増進を図り、保育現場における子どもの集団生活全体の健康と安全を考慮した対応を行うための基礎的な知識を習得する。子どもの心身の発育・発達と健康の維持・増進は、子どもを取り巻く人的・物理的環境に大きな影響を受ける。また、保育環境も社会状況により変化する。子どもの保健Iは、子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの発育・発達と保健について、子どもが相互作用しながら育つ環境を踏まえながら、子ども一人一人の発育・発達を捉え、子どもたちの健康を維持、増進するための保育の在り方について学ぶ。

【到達目標】

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの健康状態と起こりやすい症状、その対応について理解する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション 子どもと健康（健康概念、健康指標）

第2回：子どものヘルスプロモーションと保健

第3回：子どもの発育・発達 (1) 発育・発達の捉え方

第4回：子どもの発育・発達 (2) 形態的発育

第5回：子どもの発育・発達 (3) 生理機能の発達

第6回：子どもの発育・発達 (4) 運動機能・精神機能の発達

第7回：子どもの発育・発達 (5) 発育・発達の評価と支援

第8回：子どもの発育・発達 まとめ

第9回：子どもの健康管理

第10回：主な症状と対処 (1) 発熱・けいれん

第11回：主な症状と対処 (2) 嘔吐・下痢・脱水

第12回：主な症状と対処 (3) 呼吸症状

第13回：主な症状と対処 (4) 発疹

第14回：主な症状と対処 まとめ

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	授業への取り組み	2/3以上の出席%	受験資格
	レポート	20%	各内容のリフレクション
評価の方法	小テスト		
	定期試験	80%	本科目の理解の程度
その他	自由記 載		

【受講の心得】

子どもたちを取り巻く環境を踏まえて、子どもの発達や健康を支援することができる保育士になるために幅広く知識を習得するという心構えで臨んでください。

【授業外学修】

予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。教科書の記載の中で疑問点を明らかにし、疑問点を解決できる様に講義を聴いたり、文献や本を調べたりする。何を調べたら良いか分からない時には、講義後に質問してください。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	図表で学ぶ子どもの保健I	加藤忠明・岩田力 編著	建帛社	本体2400円+税	9784767932712
	自由記 載				
参考書	自由記 載	厚生労働統計協会, 国民衛生の動向 2017/2018 小山真理子 看護学基礎テキスト第2巻 看護の対象			

【その他】

授業の進行度により授業内容を変更することがある。

授業科目名	子どもの健康と安全	サブタイトル		授業番号	CQ309
担当教員名	坂田 季穂 大森 美幸 大場 広美				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学べるように、できる限り個人レベルで体験的に学習するよう計画している。</p>					
<p>【到達目標】 1, 子どもと関わる全ての実践の場において、子どもの発達段階にあわせた保育と実践できるようになることを目的とし、基礎的な技術を身につけることができる。 2, 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解できる。 3, 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：子どもの健康と保育の環境 ※（担当（坂田））
- 第2回：子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 ※（担当（坂田））
- 第3回：保育における保健的対応の基本的な考え方 ※（担当（坂田））
- 第4回：3歳未満児への対応 ※（担当（坂田））
- 第5回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患，アレルギー性疾患等） ※（担当（坂田））
- 第6回：障害のある子どもへの対応 ※（担当（坂田））
- 第7回：保育における保健活動の計画及び評価 ※（担当（坂田））
- 第8回：健康状態の観察（朝の視診）
- 1）『子どもの保健演習』の3章小児の健康と子育てに必要な養護・しつけp48～ ※（担当（大場））
- " 5章小児に多い病状・病気とその対処および予防p148～
- 2）病気がみえる免疫・膠原病・感染症；免疫p2～
- 第9回：体温，脈拍，呼吸の観察
- 1）『子どもの保健演習』の2章小児の発育を知る 生理的機能の発達p24～ ※（担当（大場））
- 第10回：応急手当て その1 発熱ほか
- 1）『子どもの保健演習』の4章小児の事故とその予防p84～ ※（担当（大森））
- 第11回：応急手当て その2 傷の手当ほか ※（担当（大森））
- 第12回：乳幼児の救急蘇生法 その1
- 1）『子どもの保健演習』の4章小児の事故とその予防p98～ ※（担当（大場・大森））
- 第13回：乳幼児の救急蘇生法 その2 ※（担当（大場・大森））
- 第14回：集団生活における健康管理（手洗い）・安全管理・服薬について
- 1）『子どもの保健演習』の5章小児に多い病状・病気とその対処および予防p108～ ※（担当（大場））
- 2）『病気がみえる免疫・膠原病・感染症』；感染症p112～
- 第15回：子どものこころの健康・地域との関わり・災害時の関わり
- 1）『子どもの保健演習』の7章児童虐待8章地域との連携・協働p196～ ※（担当（大森））

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度を評価する。
	レポート	60%	振り返りのレポートは，疑問点・感想によって評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

動きやすい服装身だしなみで出席すること。教室の机や椅子を演習用に配置と必要物品の準備や片付けは，時間内に学生同士協力しておこなうこと。授業はグループ毎に演習するので，お互いに評価し合って技術を向上させること。授業終了後，各自で手順表をノートにまとめておくこと。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書の授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにして授業に臨む。

2. 発展学修として、演習内容を実践する。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『子どもの保健演習』 中山書店 『病気がみえる(6)免疫・膠原病・感染症』 メディック メディカ
参考書	自由記載	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』（平成23年3月，厚生労働省） 『2018 年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン』（平成30年3月，厚生労働省） 『教 育・保育施設等における事故防止及び自己発生時の対応のためのガイドライン』（平成 28年3月，内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

授業科目名 **子どもの食と栄養I** サブタイトル

授業番号 CQ210

担当教員名 小野 尚美

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし、子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Iでは、栄養の基本的な知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また、家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。

【到達目標】

- ・ 栄養の基本的な内容を理解し、保育場面に活用できる。
- ・ 小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。
- ・ 発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、保育場面に活用できる。
- ・ 小児期における食育の重要性が理解できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの心身の健康と食生活

第2回：子どもの食生活の現状と課題

第3回：栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（1）炭水化物

第4回：栄養に関する基本的知識（2）脂質

第5回：栄養に関する基本的知識（3）たんぱく質

第6回：栄養に関する基本的知識（4）ミネラル

第7回：栄養に関する基本的知識（5）ビタミン，水

第8回：食べ物の消化と吸収（1）食べ物の消化過程

第9回：食べ物の消化と吸収（2）栄養素の吸収と未消化物の排泄

第10回：子どもの発育・発達の特徴，発育・発達の評価

第11回：胎児期（妊娠期）の食生活

第12回：学童期・思春期の心身の特徴と食生活

第13回：食育の基本と内容

第14回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）食物アレルギーのある子どもへの対応

第15回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）慢性疾患のある子どもへの対応

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるカードにより、評価を行う。
	レポート		
	小テスト	30%	主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義では毎回プリントを配布するので、ノートを準備する必要はない。配布したプリントに必要なことをしっかり書き留めること。

講義はプリントを中心に進めるが、事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでくること。

【授業外学修】

- ・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。
- ・授業後に、講義内容の整理や確認問題へ取り組む。
- ・興味を持てた部分をさらに自分自身で調べる。
- ・自分自身の食生活に関心を持ち、講義で学んだことを各自の食生活で実践する。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト 最新子どもの食と栄養	飯塚美和子, 瀬尾弘 子他編著	学建書院	2592円	978-4- 7624- 5841-5

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて講義中指示する。

授業科目名	子どもの食と栄養II		サブタイトル		授業番号	CQ311
担当教員名	下田 裕恵					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
乳幼児期は、心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習を通して小児の各時期に応じた栄養の実際を学ぶ。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。 ・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。 ・月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。 ・食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 調理の基本（おやつの調理） 第3・4回 献立作成と食生活の評価 第5・6回 乳児期の栄養について（調乳と市販離乳食の試食） 第7・8回 離乳食について（離乳食の調理と試食） 第9・10回 幼児の栄養と食生活について（幼児食の調理と試食） 第11・12回 成長に応じた食形態について（保育所給食、非常食とお弁当の評価） 第13・14回 保育所における食育について（おやつの調理と試食） 第15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	実習、演習に保育士になる意識を持って積極的に参加しているかを評価する。			
	レポート	40%	毎回の講義内容がまとめられ、また自分の意見が述べられていること。コメントを記入して返却する。			
	小テスト	20%	重点項目について確認する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち、実習・演習に積極的に参加し、レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。						
【授業外学修】						
毎回授業についてのレポートを作成すること。 離乳食、幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト、参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 毎回の授業のレポート及び課題、次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新子どもの食と栄養	飯塚美和子	学建書院	2400	9784762458415	
	自由記載	『最新子どもの食と栄養』、学建書院（子どもと栄養Iで使用したものと同一）				

参考書

自由記
載

授業科目名	乳児の保育I		サブタイトル		授業番号	CQ212
担当教員名	坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>乳児保育の理念と役割，乳児保育における基本的な知識に基づく援助や関わりを解説する。 近代以降の乳児保育の歴史の変遷をふまえつつ，現代社会における「乳児を育てること」について，多角的に理解を深められるよう講義する。 あたたかい愛情で保育することの重要性と，3歳未満児の発育・発達，生活と遊び，具体的な援助や関わりについて理解できるよう講義する。</p>						
【到達目標】						
<p>1，乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できる。 2，保育所，保育所以外の児童福祉施設など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。 3，3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。 4，乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域との関係機関との連携について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 第2回：乳児保育における養及び教育 第3回：乳児保育および子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 第4回：保育所における乳児保育 第5回：保育所以外の児童福祉施設における乳児保育 第6回：3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 第7回：3歳未満児の発育・発達 第8回：3歳未満児の生活と環境 第9回：3歳未満児の遊びと環境 第10回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 第11回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 第12回：乳児保育における計画・記録・評価とその意義 第13回：職員間の連携・協働 第14回：保護者との連携・協働 第15回：自治体や地域との関係機関等との連携・協働</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート		30%	乳児の発達にふさわしい内容や援助の仕方であること。課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。

【授業外学修】

次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行ってくる（週当たり1時間以上学修すること）。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新基本保育シリーズ15乳児保育I・II	児童育成協会 寺田清美・大方美香・塩谷香	中央法規	本体2600円+税	9784805857953
	自由記載				
参考書	自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 その他，適宜紹介する。			

授業科目名	乳児の保育II		サブタイトル		授業番号	CQ313
担当教員名	坂田 季穂					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<p>【授業の概要】</p> <p>3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた具体的な関わりや援助の実際について理解を深められるよう解説する。</p> <p>乳児保育における保育の方法や実際の配慮・援助などの技術が身に付けられるよう解説する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>1, 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。</p> <p>2, 養護及び教育の一体性を踏まえ, 3歳未満児の子どもたちの生活や遊びと保育の方法及び環境について, 具体的に理解できる。</p> <p>3, 乳児保育における配慮の実際について, 具体的に理解できる。</p> <p>4, 上記の1～3を踏まえ, 乳児保育における計画の作成について, 具体的に理解できる。</p> <p>なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：乳児保育の基本</p> <p>第2回：子どもの生活の流れ（0歳児クラス）</p> <p>第3回：子どもの保育環境（0歳児クラス）</p> <p>第4回：子どもの援助の実際（0歳児クラス）</p> <p>第5回：子どもの生活の流れ（1歳児クラス）</p> <p>第6回：子どもの保育環境（1歳児クラス）</p> <p>第7回：子どもの援助の実際（1歳児クラス）</p> <p>第8回：子どもの生活の流れ（2歳児クラス）</p> <p>第9回：子どもの保育環境（2歳児クラス）</p> <p>第10回：子どもの援助の実際（2歳児クラス）</p> <p>第11回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮</p> <p>第12回：集団での生活における配慮</p> <p>第13回：環境の変化や移行に対する配慮</p> <p>第14回：長期的な指導計画と短期的な指導計画</p> <p>第15回：個別的な指導計画と集団の指導計画</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		80%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識と技術を意欲的に習得すること。

【授業外学修】

1. 次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行ってくること。
2. 手作り製作物は，乳児の発達や安全面を考慮し，丁寧に製作すること。

以上の内容を週当たり2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新基本保育シリーズ15乳児保育I・II	児童育成協会 寺田清美・大方美香・塩谷香	中央法規	本体2600円+税	9784805857953
	自由記載				
参考書	自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 その他，適宜紹介する。			

授業科目名	障害児保育		サブタイトル		授業番号	CQ214
担当教員名	中 典子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 本講義は、障害児保育についての理解を深めるために、障害の特徴、支援体制、支援の方法について学ぶ。						
【到達目標】 障害児保育についての基本的知識を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：障害児保育とは 第2回：障害児保育の仕組み 第3回：知的障害の特徴 第4回：自閉症の特徴 第5回：注意欠陥/多動性障害の特徴 第6回：学習障害の特徴 第7回：視覚障害の特徴 第8回：聴覚障害の特徴 第9回：肢体不自由の特徴 第10回：言語障害の特徴 第11回：統合保育とは 第12回：保育・教育施設での支援体制 第13回：家族への支援 第14回：障害児支援におけるアセスメント 第15回：発達支援の技法						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講中の議論により評価する。授業ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。			
	レポート	70%	授業中に提示する事例をもとに、障害児保育のあり方を具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。						
【授業外学修】 授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

よくわかる障害児保育

尾崎康子他編

ミネルヴ
ア書房

2500

978-4-
623-
05703-0

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて紹介する。

授業科目名 **地域福祉論**

サブタイトル

授業番号 CQ215

担当教員名 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本授業では、地域住民を取りまく社会資源について説明するとともに、地域福祉推進に必要なことについて講義する。

【到達目標】

社会福祉協議会、NPO法人、民生・児童委員をはじめとする地域の社会資源をインターネット上やインタビューにもとづいて情報収集して把握するとともに、自分が住んでいる地域の地域福祉計画について情報収集し、それぞれの地域の地域福祉推進について必要なことを理解する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：現代における地域の特徴

第2回：地域福祉の課題

第3回：地域福祉の基本理念・概念

第4回：地域福祉の理論

第5回：地域福祉の主体と対象

第6回：地域福祉の担い手(1) 社会福祉協議会

第7回：地域福祉の担い手(2) 民生・児童委員

第8回：地域福祉の担い手(3) 民間非営利組織(NPO法人)

第9回：地域福祉の担い手(4) 社会福祉施設

第10回：地域福祉の担い手(5) 地方自治体

第11回：地域福祉の動向

第12回：地域福祉計画とは

第13回：地域福祉計画の作成の意義

第14回：地域福祉計画の方法

第15回：地域福祉の財源

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、発表や討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	社会資源と地域福祉計画について具体的に述べていること。課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

社会福祉法について学習したうえで受講すること。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ワークで学ぶ子ども家庭支援の包括的アセスメント	増沢高	明石書店	2,400	
	自由記載				
参考書	自由記載	必要に応じて紹介する。			

授業科目名	保育計画I		サブタイトル		授業番号	CQ216
担当教員名	坂田 季穂					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
幼稚園，保育所，認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて，その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達の特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに，理論的な知識をもとに，実践的な保育技術についての具体的な手法を知り，実践発表を通してスキルを身につけられるよう，保育の計画との関係性を明らかにする。						
【到達目標】						
1，乳幼児の発達の特徴を理解し，各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。 2，保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。 3，乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し，具体的な遊びや生活習慣について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：保育における計画の意義 第2回：幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 第3回：幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 第4回：指導計画の全体構造について 第5回：部分指導案の考え方と作成(1) 第6回：部分指導案の考え方と作成(2) 第7回：0歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第8回：1歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第9回：2歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第10回：3歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第11回：4歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第12回：5歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第13回：3歳未満児の生活と指導計画 第14回：3歳以上児の生活と指導計画 第15回：小学校との接続について						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		70%	乳幼児の発達の特徴や，各年齢に応じた保育計画を理解し，幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

子ども理解に努め、柔軟な発想で遊びのレパートリーを増やせるように心がけ、練習を怠らないこと。
指導案を作成する練習を積極的に行うこと。

【授業外学修】

- 1, 次回授業までに、毎回授業終了時に出す課題を行い、練習すること。
 - 2, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。
- 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学 省・厚生労働省	チャイ ルド本 社	本体500 円+税	9784805402283
自由記 載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館				
参考書	自由記 載	適宜紹介する。			

授業科目名	保育計画II		サブタイトル		授業番号	CQ317
担当教員名	坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また、基本的な理論を理解した上で、各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ、「その遊びによって何が育つのか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮、援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し、提案できるよう解説する。</p>						
【到達目標】						
<p>1, 指導計画の作成について具体的に理解できる。 2, 子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。 3, 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造をとらえ、実践できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法 第2回：保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法 第3回：長期・短期指導計画の作成について (1)年間指導計画(2)期間指導計画(3)月間指導計画(4)週間指導計画(5)日案の作成について 第4回：幼稚園の指導計画の作成 第5回：保育所・認定こども園の指導計画の作成 第6回：様々な指導計画（個別の支援計画，異年齢編成による指導計画，行事の指導計画等） 第7回：保育の評価について 第8回：指導案の作成（グループワーク） 第9回：模擬保育の観察と記録 第10回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ1・2） 第11回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ3・4） 第12回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ5・6） 第13回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ7・8） 第14回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ9・10） 第15回：模擬保育及び全体を通しての評価と改善</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	提出する指導案複数（40%）と模擬保育についてのレポート（40%）の内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

グループ内で協力し、積極的に発言や発表を行い、自ら学ぶ姿勢で臨むこと。

指導案を作成する練習を積極的に行うこと。

模擬保育の準備、練習を怠らないこと。

【授業外学修】

1, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。

2, 模擬保育については、グループ内で協力し合い、準備・練習を入念に行うこと。

以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領, 幼稚園教育要領, 保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館
参考書	自由記載	『遊びの指導』 幼少年教育研究所 同文書院 その他, 適宜紹介する。

授業科目名	保育所実習I		サブタイトル		授業番号	CQ418
担当教員名	坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 保育所等での実習指導を受けることにより、今まで学んできた理論が実際の現場でどのように活かされているかを知る。また、乳幼児に対する望ましい援助の仕方や実践における保育士等の役割について学ぶ。						
【到達目標】 これまでに学習した知識と技術を基盤として、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、保育所等での実習を通して、在園している乳幼児の生活について理解する。また、保育の理論と実践の関係について以下のように習熟する。(1)保育所等の保育内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。(2)既習の教科全体の知識・技能を基礎として、総合的に実践する応用力を涵養する。(3)保育士等の職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。(4)保育士等の職務内容及び役割、また園の職員とのチームワークなど体験的に把握する。なおこの科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能> <態度>の習得に貢献する。						
【授業計画】						
1) 見学実習 (1)施設の沿革と保育の基本方針を知る。 (2)乳幼児、保護者、保育士等の構成等について知る。 (3)物的環境（敷地、建物の構造、配置及び施設・設備）を把握する。 (4)人的環境（職員構成、勤務形態等）を把握する。						
2) 観察・参加実習 (1)観察・参加の仕方を学ぶ。 (2)乳幼児、保護者に対する理解を深める。 (3)保育の1日の流れを把握する。 (4)基本的生活習慣の自立を援助する。 (5)遊びなどの指導について学び、担当者の補助をする。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	20%	実習ノートの記述状況、指導を受けたことへの改善の跡などを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	80%	実習園での評価と実習記録・実習保育計画を総合的に評価する。			
自由記載	・保育所実習における実習園の評価表、実習日誌、指導計画の準備や成果等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。					
【受講の心得】 実習園では、乳幼児に対して自ら積極的に関わること。また、失敗を恐れずに、チャレンジ精神をもって臨むこと。分からないことは、その都度、謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。指導者に注意されたことを理解し、改善すること。						
【授業外学修】 実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあい体験をしておく。						
使用テキスト	自由記載	『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』、岡山県保育士養成協議会				
参考書	自由記載	『これで安心！保育指導案の書き方』、北大路書房				

授業科目名 **保育所実習Ⅱ**

サブタイトル

授業番号 CQ419

担当教員名 坂田 季穂

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

部分指導・全日指導を通して、指導計画立案、保育の実施、実施後の反省、評価をすることにより、乳幼児に対する理解を深めるとともに、保育所等の役割や重要性について学ぶ。

【到達目標】

保育所等の保育内容の各領域とその全体系を理解し、乳幼児の発育・発達状況に合わせた具体的な対応の仕方を学びながら、乳幼児の保育を主体的に担当し、個々の指導技術を実践の場で総合的に学び、習得する。そして、保育計画及び指導計画の体系と立案の方法を理解したり、保育記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解するなど、保育士等としての意識を高め全般的な技術に習熟する。また、子育て支援の内容や方法を具体的に学ぶ。なお、この科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能> <態度>の習得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

指導実習は実習生自らが指導計画を立案し、保育実践を行い、その後、保育の反省と評価を行う。指導実習では、1日の乳幼児の生活のある部分だけの経験や活動だけを指導する部分実習から始まり、次第に1日の全体を指導する全日実習を経験する。

- (1)保育全般に参加し、保育技術を習得する。
- (2)乳幼児の発達や個人差について理解し、適切な対応方法を学ぶ。
- (3)指導計画を立案し、実践する。
- (4)子どもの家族とのコミュニケーションの方法について具体的に学ぶ。
- (5)地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
- (6)子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。
- (7)保育士等としての職業倫理を理解する。
- (8)保育士等に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度		
	レポート	20%	実習ノートの記述や、指導を受けたことへの改善状況、自分自身の反省・工夫・改善などを評価
	小テスト		
	定期試験		
	その他	80%	実習園での評価と実習記録・実習計画を総合的に評価する。
自由記載			・保育所実習における実習園の評価表、実習日誌、指導案の準備や成果等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。

【受講の心得】

・実習園では、乳幼児に対して自ら積極的に関わること。また、失敗を恐れずに、チャレンジ精神をもって臨むこと。分からないことは、その都度、謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。指導者に注意されたことは十分理解し、速やかに改善すること。

【授業外学修】

実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあいを体験しておくこと。

使用テキスト 自由記載 『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』, 岡山県保育士養成協議会

参考書

自由記載

『最新 保育園幼稚園の実習完全マニュアル』, 成美堂出版

授業科目名	保育実習研究I		サブタイトル		授業番号	CQ320
担当教員名	坂田 季穂					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所実習において必要な理論とスキルを、テキストから詳しく学ぶ。 ・ 実習で使用する記録用紙に基づいて記録の書き方を具体的に学ぶ。また、実技発表を実施する事により、現場に即した保育の指導方法を身につける。 						
【到達目標】						
<p>保育所実習の事前指導として、学内において講義や視聴覚教材などを利用して演習を行うことにより、実習の意義を理解するとともに学習意欲・意識を高める。また、記録の在り方、指導案の書き方などを理解する。実習終了後には反省会を実施し、実習総括・評価をもとにして、子ども観・保育観を深め、新たな学習目標を明確にする。なお、この科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力> <技能> <態度>の習得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：保育実習に関する行動計画 実習日誌・提出物について 第2回：保育所実習の意義と目的 心構え・自己課題について 第3回：保育の内容 第4回：特別な配慮を要する子どもの保育 第5回：実習の実際 事前訪問について 第6回：実習の基準と留意事項 プライバシーの保護と守秘義務について 第7回：指導計画案の形式と記入の仕方 第8回：年齢に応じた指導事例 第9回：実習前準備 総括 第10回：実習事後処理 実習後課題について 礼状 第11回：実習の自己評価・課題の明確化 第12回：実習後学びのグループワーク(1) 第13回：実習後学びのグループワーク(2) 第14回：実習後発表 第15回：保育所実習のまとめ（報告会の役割・準備）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	実習準備を確実にできたかを評価する。			
	レポート	50%	実習での気づきを良い方向に生かすような記述ができたかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	実習後の体験発表：実習で得た成果を説得力を持って発表できたかを評価する。			
自由記載	・ 授業態度、および実習の事前準備や事後のレポート等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。					

【受講の心得】

- ・ 毎回実習に関する重要な課題に取り組むので、欠席しないよう心がけること。
- ・ 実際に子どもたちと関わることを意識し、真剣に授業に取り組むこと。
- ・ 乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。
- ・ 守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守する。

【授業外学修】

実習準備・事前訪問・実習事後処理などを適切に行う。

使用テキスト	自由記載	『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』, 岡山県保育士養成協議会
参考書	自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省, フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省, フレーベル館 その他, 適宜紹介する。

授業科目名 **施設実習**

サブタイトル

授業番号 CQ421

担当教員名 槇尾 真佐枝 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

児童福祉施設及び障がい者支援施設で実習指導を受けることにより、その種別による目的や機能を認識し、利用児(者)の生活状況を理解し、保育士がどのような立場にあることが望ましいかを明らかにする。

【到達目標】

児童福祉施設及び障がい者支援施設について学んだ理論が実際の現場でいかに応用されているかを知り、自ら実践できるようになることを目的とする。また、利用児(者)にとって望ましい支援のあり方を理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

児童福祉施設・障がい者支援施設において10日間の泊まりこみ実習指導を受け、下記のことを学ぶ。

1. 実習施設における一日の流れを体験によって理解する。
2. 施設における支援方針が生活の中でどのように展開されているのかを知り、参加する。
3. 支援のための計画を理解する。
4. 職員の利用児(者)へのかかわり方に基づいて、実際に利用児(者)と関わる。
5. 職員の利用児(者)へのかかわり方を通して彼らの思いを理解する。
6. 生活支援の一部を担当し、支援のための技術を習得する。
7. 利用児(者)の最善の利益に関する配慮を学ぶ。
8. 保育士としての職業倫理を理解する。
9. 安全及び疾病予防への配慮について理解する。
10. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
11. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭や地域社会を理解する。
12. 利用児(者)の生活の安定をもたらす専門職としての資質を習得する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度		
	レポート	20%	実習で学んだことについて具体的に記載されていること、また、学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については、コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載	80%	実習先施設から返却された評価票に基づいて、評価する。

【受講の心得】

「施設実習研究」で学んだ事をしっかり復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み、利用児・者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。

【授業外学修】

・毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し、その都度見直したり、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト	自由記載	・使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の「施設実習研究」の授業にて配付する。
参考書	自由記載	・必要に応じて紹介する。

授業科目名	施設実習研究		サブタイトル		授業番号	CQ322
担当教員名	楨尾 真佐枝					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために、本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など、実習指導を受けるための心得について講義する。また、実習終了後には、実習の課題と反省についてまとめ、自己の振り返りをするために研究発表を行い、施設実習で何を学び、どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。						
【到達目標】 施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：施設実習の意義と目的を学ぶ。</p> <p>第2回：実習施設の役割・機能について理解する。</p> <p>第3回：対象となる利用児(者)について理解する。</p> <p>第4回：運営状況について学ぶ。</p> <p>第5回：施設保育士の職務内容について把握する。</p> <p>第6回：職員間の役割分担やチームワークを理解し、施設保育士としての資質を学ぶ。</p> <p>第7回：施設の一日の流れを理解する。</p> <p>第8回：利用児(者)への支援の方法を学ぶ。(乳児院・児童養護施設における支援内容)</p> <p>第9回：利用児(者)への支援の方法を学ぶ。(障害児・者支援施設における支援内容)</p> <p>第10回：施設で生活する利用児(者)の思いを理解する。(乳児院・児童養護施設で生活する子どもの特性と思い)</p> <p>第11回：施設で生活する利用児(者)の思いを理解する。(障害児・者支援施設で生活する人たちの特性と思い)</p> <p>第12回：実習計画(自己課題)を立てる。</p> <p>第13回：実習日誌の書き方について学ぶ。(デイリープログラムの書き方、利用児・者との関わりについての記載方法)</p> <p>第14回：実習日誌の書き方について学ぶ。(本日の実習課題と取り組みのポイント、本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法)</p> <p>第15回：まとめ：施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。			
	レポート	50%	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	事前学習に積極的に取り組んだかどうかについて、評価する。実習日誌は、コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には、再提出を課す。			
自由記載						

【受講の心得】

- ・ 毎回提示される課題を丁寧に作成すること。
- ・ 授業中は、一言一句聞き逃さないような心構えをもち、真剣な態度で臨むこと。

【授業外学修】

- ・ 授業中にとったノートや配付したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習の手引きと再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト	自由記載	・ 使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。
参考書	自由記載	・ 必要に応じて紹介する。

授業科目名	保育実習Ⅲ		サブタイトル		授業番号	CQ423
担当教員名	槇尾 真佐枝 中田 周作					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 福祉施設での実習指導を受けることにより、その種別による目的や機能を認識し、その全体系を明らかにする。そして、専門職としての保育士の職務意識を高め、全般的な技術に習熟するための実習を行う。						
【到達目標】 本実習の目的は、次の4つである。(1)個々の利用児・者に対する援助計画・日常的支援・専門的支援を理解できるようになる。(2)日常的支援の重点を理解し、指導者の助言をもとに援助計画を立案できるようになる。(3)担当者の指導のもとに利用児・者の援助実践を行い、養護技術の具体を知り、自ら実践できるようになる。(4)個々の利用児・者の異なるニーズに対応するサポートシステムを知り、自ら実践できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 基本的な実習を終えた後、次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施、関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題をもつこと。						
1) 援助計画の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画、日常的支援、専門的支援を理解する。 2) 援助プログラムの立案 <ul style="list-style-type: none"> ・日常的支援の時間配分や生活、教育、訓練、治療、矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し、その助言を受けて立案する。 3) 援助プログラムによる援助実践 <ul style="list-style-type: none"> ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言、実習場面の立ち会い、事後の評価等を受ける。 4) 保育士の態度と技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 5) 多様性と共通性の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを、施設で実践することで学習する。 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	20%	実習で学んだことについて具体的に記載されていること、また、学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については、コメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	80%	実習先施設から返却された評価票に基づいて、評価する。			
自由記載						

【受講の心得】

「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み、利用児・者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。

【授業外学修】

・毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し、その都度見直したり、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト	自由記載	・必要に応じて紹介する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **保育実習研究II**

サブタイトル

授業番号 CQ324

担当教員名 槇尾 真佐枝

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

児童福祉施設の種類の種類は、大変に多い。そこで、保育所以外の様々な児童福祉施設について改めて講義し、自らの実習先の特徴が確認できるように説明する。また、実習に必要な技能について指導を行う。

【到達目標】

保育所以外の児童福祉施設における実習(保育実習III)では、総合的な保育の実践力を身につけるために、学習科目の関連について学び、保育の全体計画、観察、記録、自己評価の方法、職業倫理、保育士の専門性について理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：保育実習の意義と目的
- 第2回：保育実習に対する心構え
- 第3回：保育実習の計画と準備
- 第4回：実習へ向けての自己課題作成
- 第5回：実習先への事前訪問
- 第6回：乳幼児期の支援
- 第7回：児童期の支援
- 第8回：中学生・高校生の支援
- 第9回：子育て家庭の支援
- 第10回：実習日誌の書き方1 日誌と記録の意義
- 第11回：実習日誌の書き方2 児童の観察のポイント
- 第12回：実習日誌の書き方3 実習の計画と考察
- 第13回：保育実習のまとめ1 礼状の書き方と振り返りシートの作成
- 第14回：保育実習のまとめ2 グループワークにおける振り返り
- 第15回：保育実習のまとめ3 実習報告会の実施

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるかについて評価する。
	レポート	50%	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	30%	実習日誌については、コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には、再提出を課す。
	自由記載		

【受講の心得】

実習に関わる重要な授業なので、毎回意欲的に取り組むこと。わからないことがあれば、その都度、積極的に質問すること。また、実習後は自らを振り返り、学び得たことを次に活かせるようにしっかりとまとめること。

【授業外学修】

・授業中にとったノートや配布したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習日誌の説明部分と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト	自由記載	なし(プリントを配付する)
参考書	自由記載	必要に応じて紹介する。

授業科目名 **児童館の機能と運営** サブタイトル

授業番号 CQ225

担当教員名 榎尾 真佐枝 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

児童福祉法制定当時の経緯，児童福祉法に盛り込まれた健全育成の考え方，健全育成の具体的内容，現代の子どもの健全育成上の課題，遊びの健全育成上の意義。児童館の起源，施策の経緯，施設概要，施設規模別特徴，児童館の機能と運営上の留意点，児童館の課題と展望。放課後児童クラブの起源，施策の経緯，事業概要，活動内容と実施上の留意点，変化しつつある放課後児童クラブの課題と展望について講義する。

【到達目標】

児童福祉の基本理念である「健全育成」の考え方を理解し，説明できるようになることを目的とする。また，現代の子どもの健全育成上の課題について学び，その理念を地域で具現する児童館・放課後クラブの機能を理解できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの育成環境とその課題	※（担当（榎尾））
第2回：児童福祉法の理念と健全育成	※（担当（榎尾））
第3回：健全育成に貢献する社会資源	※（担当（榎尾））
第4回：児童館の変遷・概要・特性	※（担当（榎尾））
第5回：児童館に求められる機能	※（担当（榎尾））
第6回：子どもの遊びと発達	※（担当（榎尾））
第7回：児童館における健全育成活動の実際	※（担当（榎尾））
第8回：異年齢保育での遊び	※（担当（榎尾））
第9回：放課後児童クラブの概要・特性	※（担当（中））
第10回：放課後児童支援員の役割	※（担当（中））
第11回：養育環境に課題をもつ子どもへの理解と援助	※（担当（中））
第12回：児童館・放課後児童クラブにおける地域連携	※（担当（中））
第13回：児童館・放課後児童クラブにおける個別援助	※（担当（中））
第14回：児童館・放課後児童クラブにおける集団援助	※（担当（中））
第15回：児童館における子育て支援	※（担当（中））

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができる。
レポート	50%	授業中に提示する課題をもとに，具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
評価の方法		各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。
小テスト	30%	
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

事前に教科書を読んでくること。毎回の授業においてしっかりとノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問すること。

【授業外学修】

1. 毎授業後に示す範囲について、事前に教科書の本文をしっかり読んでくること。(約2時間)
2. 授業中にとったノートや配付したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず教科書の本文と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約2時間)

使用テキスト	自由記載	・なし(適宜, プリント配付)
参考書	自由記載	・必要に応じて提示する。

授業科目名	児童館指導法I		サブタイトル		授業番号	CQ226
担当教員名	榎尾 真佐枝 野上 邦子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ，年間を通じた活動の流れ，行事等の企画立案方法，小学生の仲間づくり，子育て支援活動，ボランティアの育成・支援等，児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法について講義する。						
【到達目標】						
児童ソーシャルワークをベースとした，児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れについて学び，行事の企画や，利用者への対応等について理解できるようになる。また，児童館・放課後児童クラブの業務の実際について説明ができるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：児童館の概要・遊びを通じた児童の健全育成 ※（担当（榎尾・野上））						
第2回：児童館の施設規模別特徴と施設特性 ※（担当（榎尾））						
第3回：児童館・放課後児童クラブでの小学生への対応 ※（担当（榎尾））						
第4回：児童館での中高生への対応 ※（担当（榎尾））						
第5回：配慮を要する児童への関わり ※（担当（榎尾））						
第6回：子どもの参画・子どもの主体性について ※（担当（榎尾））						
第7回：児童館の1日（週，年）の流れと活動のねらい ※（担当（野上））						
第8回：児童館における遊びの環境構成 ※（担当（野上））						
第9回：遊びを通じた支援の実際（プログラム作り，具体的展開，支援法） ※（担当（野上））						
第10回：児童館におけるグループワーク・ケースワーク ※（担当（野上））						
第11回：児童館における生活・学習支援 ※（担当（野上））						
第12回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案 ※（担当（野上））						
第13回：企画発表会・講評 ※（担当（野上））						
第14回：児童館における子育て支援活動 ※（担当（榎尾））						
第15回：児童館・放課後児童クラブにおける保護者・学校・地域との連携について ※（担当（榎尾））						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。			
	レポート	50%	授業中に提示する課題をもとに，具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

事前に教科書を読んでくること。毎回の授業においてはしっかりとノートを取り、学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また、発表場面では、積極的に参加すること。

【授業外学修】

- 1.毎授業後に示す範囲について、事前に教科書をしっかり読んでくること。(約2時間)
- 2.授業中にとったノートを見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約2時間)

使用テキスト	自由記載	・テキストは、使用しない。適宜プリントを配付する。
参考書	自由記載	・必要に応じて提示する。

授業科目名	児童館指導法II		サブタイトル		授業番号	CQ327
担当教員名	榎尾 真佐枝 野上 邦子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
児童ソーシャルワークの展開方法，中高生の居場所づくり，児童の参画，地域のネットワークづくり等，児童館・放課後児童クラブの発展的活動の実施方法，児童館・放課後児童クラブ活動の記録方法について講義する。						
【到達目標】						
児童ソーシャルワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れについて学び，行事の企画や，利用者への対応，地域とのかかわり等について理解できるようになる。また，児童館・放課後児童クラブの業務の実際をより深く知り，説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：地域のネットワークづくり：地域資源の発掘・育成 ※（担当（榎尾）） 第2回：地域のネットワークづくり：地域との関係機関との連携・協働 ※（担当（榎尾）） 第3回：中高生の居場所づくり ※（担当（榎尾）） 第4回：児童館におけるコミュニティワーク ※（担当（野上）） 第5回：コミュニティワークの展開方法と児童厚生員の役割 ※（担当（野上）） 第6回：児童館における相談対応 ※（担当（野上）） 第7回：実践記録の取り方 ※（担当（野上）） 第8回：実践レポートの書き方 ※（担当（野上）） 第9回：地域のニーズを踏まえた行事やイベント等の企画立案 ※（担当（野上）） 第10回：企画発表会・講評 ※（担当（野上）） 第11回：児童厚生員の役割：プレイワーカーとして ※（担当（榎尾）） 第12回：児童厚生員の役割：児童ソーシャルワーカーとして ※（担当（榎尾）） 第13回：遊びの健全育成上の意味 ※（担当（榎尾）） 第14回：児童館の実践事例から考える：出前児童館 ※（担当（榎尾）） 第15回：児童館の実践事例から考える：おしゃべり広場 ※（担当（榎尾））						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。			
	レポート	50%	授業中に提示する課題をもとに具体的に述べているかについて評価する。レポートについては，コメントを記入して返却する。			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。			
	定期試験					
	その他					

自由記載

【受講の心得】

事前に教科書を読んでくること。毎回の授業においてしっかりとノートを取り、学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また、分からないことは積極的に質問すること。

【授業外学修】

1. 毎授業後に示す範囲について、事前に教科書をしっかり読んでくること。(約2時間)
2. 授業中にとったノートを見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約2時間)

使用テキスト	自由記載	・テキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。
参考書	自由記載	必要に応じて提示する。

授業科目名	児童館実習		サブタイトル		授業番号	CQ428
担当教員名	榎尾 真佐枝 中田 周作					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 児童館で実習指導を受けることにより、その施設の果たす目的や機能を認識し、利用児・者について理解し、児童厚生員がどのような指導・支援をしているのかを明らかにする。						
【到達目標】 児童館が地域における児童健全育成の拠点であることについて学び、児童厚生員の担っている役割を理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
1. 実習先 別紙の児童館一覧表より配当する。						
2. 実習時間・期間 夏季（8月1日～9月30日）および春季（2月1日～3月31日）のうち10日間						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	20%	実習で学んだことについて具体的に記載されていること。また、学びが日々ステップアップしていること。実習日誌については、コメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	80%	実習先施設から返却された評価票に基づいて、評価する。			
自由記載						
【受講の心得】 「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み、利用児・保護者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で職員に直接質問すること。						
【授業外学修】 ・毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙（別紙）に記載し、その都度見直したり、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、児童館職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。（約4時間）						
使用テキスト	自由記載	特になし。（必要に応じて、プリント配付）				
参考書	自由記載					

授業科目名 **学童保育論**

サブタイトル

授業番号 CQ229

担当教員名 中田 周作 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現代の日本社会における子育て支援に関する重要な問題のうちの1つは、子育て家庭の保護者の就労支援である。これを実現するためには、保育所や放課後児童クラブ（学童保育）などの充実が必須である。

しかしながら、これまで政策面からも学術的観点からも学童保育は等閑視されてきた。

そこで学童保育に関する現状や政策、指導員の役割、学童保育の運営について講義する。

【到達目標】

本講義では、まず、学童保育の現状と役割を理解することを目標とする（第1～10回）。

次に、学童保育の運営の実態と地域社会との関わりについて理解することを目標とする（第11～15回）。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：学童保育と指導員の資格	※（担当中田周作）
第2回：現代社会における子どもを取り巻く社会状況	※（担当中田周作）
第3回：子どもたちの放課後の実態	※（担当中田周作）
第4回：学童保育の現状	※（担当中田周作）
第5回：学童保育の役割	※（担当中田周作）
第6回：学童保育に関する法律	※（担当中田周作）
第7回：学童保育に関する制度	※（担当中田周作）
第8回：学童保育の歴史	※（担当中田周作）
第9回：指導員の職務と倫理1	※（担当中田周作）
第10回：指導員の職務と倫理2	※（担当中田周作）
第11回：学童保育の運営方式	※（担当中典子）
第12回：指導員の連携と研修	※（担当中典子）
第13回：学童保育と保護者との関わり	※（担当中典子）
第14回：学童保育と地域との関わり	※（担当中典子）
第15回：学童保育と子育て支援	※（担当中典子）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	100%	授業担当者の領域に対応するレポートを2つ
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

児童期の子どもの放課後はどのような実態にあるのか。他の講義なども参考にしながら、考察を深めること。

【授業外学修】

本講義は集中講義である。そのため、集中講義が始まる前までに「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」を読んでおくこと。

事前の総学修時間は、30時間以上とする。

集中講義終了後の復習総学修時間も、30時間以上とする。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	放課後児童クラブ運営指針解説書				
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	学童保育方法論		サブタイトル		授業番号	CQ230
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>学童保育方法として、「実践の構造」「実践の内容」「実践の方法」「実践の実際」の4つで構成した。これらについて理論的な枠組みに加えて、実際のエピソードも適宜紹介しながら授業を進めていく。</p> <p>講義を中心としながら、随時グループワーク等も織り交ぜながら取り組んでいく。</p> <p>また、実際の学童保育現場にも赴き、現場スタッフの方々の動きを肌で感じたり、子どもたちとのかかわりに挑戦したりできる回も設けていく。</p>						
【到達目標】						
<p>学童保育実践の構造、内容、方法を理解するとともに、これらについて実際に活用することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
<p>実際の学童保育現場へ赴く際には、適切な服装を心掛けてもらいたい（詳細は、開講中にも指示する）</p>						
<p>第1回：学童保育実践の構造(1) — 養護・ケア・教育という機能— ※ (担当住野)</p> <p>第2回：学童保育実践の構造(2) — 「運営指針」における育成支援— ※ (担当住野)</p> <p>第3回：学童保育実践における「遊び」(1) ※ (担当若井)</p> <p>第4回：学童保育実践における「遊び」(2) ※ (担当若井)</p> <p>第5回：学童保育実践における「遊び」(3) ※ (担当若井)</p> <p>第6回：学童保育実践における「生活」(1) ※ (担当若井)</p> <p>第7回：学童保育実践における「生活」(2) ※ (担当若井)</p> <p>第8回：学童保育実践における「生活」(3) ※ (担当若井)</p> <p>第9回：学童保育実践における「行事」(1) ※ (担当若井)</p> <p>第10回：学童保育実践における「行事」(2) ※ (担当若井)</p> <p>第11回：学童保育実践における「保護者との連携」(1) ※ (担当若井)</p> <p>第12回：学童保育実践における「保護者との連携」(2) ※ (担当若井)</p> <p>第13回：学童保育実践における「学校との連携」 ※ (担当若井)</p> <p>第14回：学童保育実践における「同僚との協働」 ※ (担当若井)</p> <p>第15回：まとめ ※ (担当若井)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	講義の際の聴く態度や記録、グループワーク等での積極的な姿勢で臨んでいること			
	レポート	40%	最後に提出するレポートに、学修した内容を的確にまとめられているとともに、自身の見解や経験についても記述できていること			
	小テスト	30%	毎日最後に実施する小テストに、学修した内容が自身の言葉で記述できており、自身の見解や経験についても記述できていること			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

学童保育の実践者から、学童保育実践の素晴らしさを学んでほしい。また、学童保育実践を理解することは、学童保育指導員を目指す方だけでなく、保育士や小学校教員を目指す方にとっても大いに役立つだろう。ぜひ、現場で「活かしてやるぞ！」という心構えで受講してほしい。

【授業外学修】

授業時に提示した各課題に取り組むこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	学童保育実践入門—かかわりとふり返りを深める	中山芳一	かもがわ出版	1620円	4780305713
	自由記載	使用テキストについては、初回に講師が直接販売するため、事前の購入は不要。			
参考書	自由記載	・『現代日本の学童保育』，日本学童保育学会編，旬報社，2012年。 ・『学童保育実践力を高める！～記録の書き方・生かし方，実践検討会のすすめ方～』，住野好久・中山芳一，かもがわ出版，2009年。			

授業科目名	学童保育実習I		サブタイトル		授業番号	CQ431
担当教員名	中田 周作 中 典子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 この授業では、学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。						
【到達目標】 学童保育所は、実際には、どのような保育をしているのか、実習を通して経験する。 また、放課後の子どもたちと接することによって、子どもたちの実態を理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
1. 実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より、実習先を配当する。						
2. 実習期間 おおよそ、次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	80%	実習に関する書類や実習ノート			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	実習先の評価			
	自由記載					
【受講の心得】 原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。						
【授業外学修】 運営指針解説書は実習時に携行すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	290円+税	978-4-577-81427-7	
参考書	自由記載					

授業科目名	学童保育実習Ⅱ		サブタイトル		授業番号	CQ432
担当教員名	中田 周作 中 典子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	実習			
【授業の概要】 この授業では、学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。						
【到達目標】 学童保育所は、実際には、どのような保育をしているのか、実習を通して経験する。 また、放課後の子どもたちと接することによって、子どもたちの実態を理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
1. 実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より、実習先を配当する。						
2. 実習期間 おおよそ、次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間						
3.振り替え 放課後児童指導員資格を取得するためには、本実習の履修が必要であるが、その他の実習（ただし2単位以上）の単位で振り替えることができる。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	80%	実習に関する書類や実習ノート			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	実習先の評価			
自由記載						
【受講の心得】 原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。						
【授業外学修】 運営指針解説書は実習時に携行すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	290円+税	978-4-577-81427-7	
自由記載						
参考書	自由記載					

授業科目名 **学童保育実習研究**

サブタイトル

授業番号 CQ333

担当教員名 中田 周作 中 典子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

この授業では、学童保育実習を履修するために必要な事前・事後指導を行う。
事前指導では、実習において必要とされる基礎的技能および実習にあたっての心得を指導する。
事後指導では、実習内容を省察し、今後の実践力向上に活かすことができるようにする。

【到達目標】

学童保育実習を有意義なものにするための学修を行う。
また、放課後児童クラブ運営指針に則った育成支援を理解する。
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：放課後児童指導員養成課程における実習の位置づけ	※ (担当中田周作, 中典子)
第2回：「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」	※ (担当中田周作)
第3回：放課後児童クラブ運営指針の概要	※ (担当中田周作)
第4回：放課後児童クラブにおける育成支援の内容	※ (担当中田周作)
第5回：特別講座（1）実習先の概要と実習日誌の書き方	※ (担当中田周作, 中典子)
第6回：特別講座（2）実習先の概要と実習全般にわたる注意事項	※ (担当中田周作, 中典子)
第7回：実習の心得と実習に係る書類作成等の確認	※ (担当中田周作)
第8回：指導案と実践記録（1）	※ (担当中田周作)
第9回：指導案と実践記録（2）	※ (担当中田周作)
第10回：お礼状及び実習報告書の作成	※ (担当中田周作)
第11回：実習報告書の作成	※ (担当中田周作)
第12回：実習報告書の作成	※ (担当中田周作)
第13回：実習の報告	※ (担当中田周作, 中典子)
第14回：実習の報告	※ (担当中田周作, 中典子)
第15回：実習のまとめと資格制度の確認	※ (担当中田周作, 中典子)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	授業中に作成する書類やレポート
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	実習報告書
	自由記載		

【受講の心得】

原則として、学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者のみ履修できる。

【授業外学修】

実習の事前事後指導については、週あたり1時間以上の予習復習を行うこと。

授業外学修の内容については、毎回異なるので、授業の時に指示する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	290円+税	978-4-577-81427-7
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **日本語表現**

サブタイトル (音声言語と文章の表現)

授業番号 LA101

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

私たちは日常生活で言葉を介した様々なメディアに触れている。この授業では小グループでの活動を中心に、様々なメディアを分析・表現することで私的・公的な日本語表現の力を高めることを目的とする。

【到達目標】

音声言語表現及び文章表現についての基礎的な知識を獲得し、自分の考えを様々な形態に応じて表現できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：日本語表現の全体像
- 第2回：音声言語によるコミュニケーション—独話—
- 第3回：音声言語によるコミュニケーション—対話1—
- 第4回：音声言語によるコミュニケーション—対話2—
- 第5回：詩的表現1—俳句創作—
- 第6回：詩的表現2—俳句鑑賞—
- 第7回：小テスト1回目／詩的表現3—絵本—
- 第8回：視覚表現1—写真—
- 第9回：視覚表現2—写真鑑賞—
- 第10回：視覚表現3—CM分析—
- 第11回：視覚表現4—分析発表—
- 第12回：レポート1—論証—
- 第13回：レポート2—根拠づくり—
- 第14回：レポート3—レポート作成—
- 第15回：小テスト2回目

【授業計画 備考2】

補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	45%	授業内容の理解度を各回のミニ・レポートによって評価する。
	小テスト	55%	基礎的な知識の定着度を各回の小テストによって評価する。
	定期試験		
	その他		
自由記載	小テストの日程と範囲についてはそれぞれのテスト2週間前に告知する。 レポートはグループ活動の成果を中心に記述するため、グループ活動での積極性がない場合減点する。		

【受講の心得】

配付資料をファイルしておくこと。

学生相互の意見交流・評価活動を取り入れるため、積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。
 2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。
 3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。
 4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	大学生のためのレポート・論文術		小笠原喜康	講談社	本体740 円（税別）	9784062880213
	自由記載					

授業科目名	心理学		サブタイトル	(心と行動の科学)		授業番号	LA102
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科			単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】 この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。							
【到達目標】 クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：心理学とは 第2回：予知体験の不思議 第3回：記憶の不思議 第4回：影響されるころ 第5回：揺れうごくころ 第6回：検査で「自分」がわかるのか 第7回：占い・新宗教がもつ現代的意味 第8回：中間のまとめ 第9回：子どもから見た現実と想像の世界 第10回：「もしかして……」と揺れ動く心の発達 第11回：不思議現象に立ち向かう子どもたち 第12回：脳とところの不思議な世界 第13回：科学的に検証するとはどういうことか 第14回：心理学を学ぶ人のために 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	自由記載	なし					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学 入門	菊地 聡・谷口高 士・宮元博章（編 著）	北大路書 房	1900円	978-4- 7628- 2032-8
不思議現象 子どもの心と教育	菊地 聡・木下孝司 （編著）	北大路書 房	1900円	978-4- 7628- 2089-2
自由記載				

授業科目名	ボランティア基礎論	サブタイトル	地域社会とボランティア活動	授業番号	LA103
担当教員名	中田 周作 榎尾 真佐枝 柏原 寛 坂田 季穂 河野 勇人 多田 賢代 日野 正輝				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】 本学では地域社会との連携あるいはキャリア教育の一環として各種ボランティア活動に対して積極的に取り組んでいるが、近年、各地に起こる大震災を契機にボランティア活動とは何かが改めて問われている。 本講義ではボランティアの意義、歴史、精神と思想について十分な基礎知識を学ぶとともに、社会とボランティア活動との関係について考えてみる。また、各分野で活躍されている実践者の方からボランティア活動の現状と課題、その可能性についても学ぶ。</p>					
<p>【到達目標】 1)ボランティアの意義や各分野の実情を知ること、地域社会で起きている問題を解決するために何が求められているかについて考えるための基礎的知識を習得する。 2)ボランティアについて学ぶことにより、自分自身を見つめ直すと同時に相手の気持ちを思いやる大切さを身につけ、ボランティア活動を実践する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

第1回：ボランティア活動の計画と実際(1)	※（担当担当：中田周作（現代生活学部） 担当：河野勇人（現代生活学部） 担当：日野正輝（国際教養学部） 担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第2回：日ようび子ども大学の紹介	※（担当担当：柏原 寛（子ども学部））
第3回：地域のお祭りにおけるボランティア活動	※（担当講義：岸本晃一（温羅化粧部会 部会長） 司会：日野正輝（国際教養学部））
第4回：子どもの自然体験活動	※（担当講義：中田周作（現代生活学部））
第5回：手話とボランティア	※（担当講義：坂田季穂（子ども学部））
第6回：しょうがい児・者とボランティア	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部））
第7回：学習支援とボランティア	※（担当担当：柏原 寛（子ども学部））
第8回：ボランティア活動の計画と実際(2)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第9回：ボランティア活動の計画と実際(3)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第10回：地域文庫活動とボランティア	※（担当講義：坂田季穂（子ども学部））
第11回：食育ボランティア	※（担当講義：多田賢代（現代生活学部））
第12回：こどもパートナーと遊びのタネ展	※（担当担当：中田周作（現代生活学部））
第13回：ボランティア活動の計画と実際(4)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第14回：ボランティア活動の計画と実際(5)	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））
第15回：ボランティア活動の成果の発表	※（担当担当：槇尾真佐枝（子ども学部） 担当：中田周作（現代生活学部） 担当：柏原 寛（子ども学部） 担当：坂田季穂（子ども学部））

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	100%	各回のレポート
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載 毎回のレポートの提出先は、所属学科で異なるので、各自で確認すること。		

【受講の心得】
身近なボランティア活動に積極的に参加し、実践体験を通して学ぼう。

【授業外学修】

ニュースや新聞を通し，社会的事象に関心を持ち，情報収集すること。

また，身近なボランティア活動に積極的に参加すること。

両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ボランティアのすすめ	岡本栄一	ミネルヴァ書房		
	基礎から学ぶボランティアの理論と実際	巡清一・早瀬昇	中央法規社		
	自由記載				

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	LA104
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
【到達目標】 私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：授業概要の説明、自然科学の基礎講座I 第2回：自然科学の基礎講座II 第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 第4回：学内環境を科学する(観察と観測、結果の考察) 第5回：タイムマシンは作れるか？(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ) 第6回：君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） 第7回：水に関する基礎講座ならびに実験と実習 第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶ） 第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習 第12回：見上げてごらん夜の星を！スマホで撮ろう流れ星（宇宙と科学） 第13回：外部講師による授業（子どもたちに科学実験の講座を数多く実践されている「岡山のでんじろう先生」の科学に纏わるお話や実験） 第14回：自然科学教材を用いた体験学修 第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	最終レポート（子どもたちに科学実験教室を実施する想定での企画書を作成する。）			
	小テスト					
	定期試験					

その他	60%	毎回の授業で「ふりかえりシート」を書いてもらう。何に気づき、何を得たのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。
-----	-----	--

自由記載

【受講の心得】

この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい。各回の授業の最後に提出してもらう「ふりかえりシート」は、試験代わりの成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい(シートの返却が必要な人には個別対応するので、担当教員に直接その旨を申し出ていただきたい)。

【授業外学修】

1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。
 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。
- 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

授業科目名 **生活と情報処理**

サブタイトル (IT機器利用の基礎)

授業番号 LA105

担当教員名 石原 信也

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

情報のもつさまざまな側面のうち、これを文化と言う角度から説明し、情報と人間生活のかかわりを明らかにする。

情報とは、情報処理とはから始め、私たちの生活に密着したシステムについて仕組みや機能を講義する。

【到達目標】

生活に密着したシステムについて仕組みや機能を理解し、説明できるようになることを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ICTの現状と先端技術の紹介と解説

第2回：情報処理の歴史

第3回：ハードウェア（入出力機器、及びその補助装置）

第4回：ハードウェア（演算制御、記憶装置、及びその補助装置）

第5回：ソフトウェア（数値や文字に関するコンピュータの内部表現）

第6回：ソフトウェア（画像や音響・動画などに関するデータ形式）

第7回：ソフトウェア（プログラム）

第8回：フリーウェアからアプリケーション内課金の話

第9回：知的財産権と盗作、剽窃

第10回：個人情報と電子マネー

第11回：セキュリティマネジメントと信頼性

第12回：クラウドサービスとセンサー技術

第13回：ホームエレクトロニクス・カーエレクトロニクス

第14回：統計とビッグデータ・人工知能

第15回：耐久性の話

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

新聞・TV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持って接してほしい。

【授業外学修】

1.予習として、参考書やWebから授業内容にかかわる部分を調査し、疑問点を明らかにする。

2.復習として、課題のレポートを書く

3.発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 テキストは使用せず、適宜資料を配布する。

参考書

自由記載

新聞・TV等の報道は重要な参考情報である。

授業科目名 **体育講義**

サブタイトル (日常生活と健康)

授業番号 LA109

担当教員名 土田 豊

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。

【到達目標】

人間のからだと心の仕組みについて理解し、教育の現場に出た際、子どもたちのからだと心の異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「体力」について考える

第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える

第3回：「自律神経」のはたらきについて考える

第4回：「土踏まず」のはたらきについて考える

第5回：「背筋力」のはたらきについて考える

第6回：「健康診断」で分かることについて考える

第7回：「前頭葉」のはたらきについて考える

第8回：「子どものからだと心を元気にする方法」について考える

第9回：

第10回：

第11回：

第12回：

第13回：

第14回：

第15回：

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。
	レポート	40%	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。
	小テスト	30%	全8回の授業内容を踏まえ、自分自身が健康的な生活を送る上で留意することを中心にレポートを作成する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【授業外学修】

- 「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。
- 各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。
- 授業で学んだことを日常生活で実践するなどして、自分のからだと心の状態に対するセルフチェックを心がけること。

以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	その都度プリントを準備する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **体育実技**

サブタイトル (スポーツに親しもう)

授業番号 LA110

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実技

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールを理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開）
- 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開）
- 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）
- 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開）
- 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開）
- 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）
- 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第15回：卓球III（ゲームの展開）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している
	レポート		
	小テスト	40%	各競技ごとに技能テストを実施する
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。

全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。

・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)
参考書	自由記載	

授業科目名	芸術	サブタイトル	(アートとデザイン)	授業番号	LA201
担当教員名	柏原 寛				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、アート及びデザインとは何かについて考えます。そのために、これまで世界各地で生まれてきたアート・デザインについて触れ、可能性や未来について考えます。					
【到達目標】 1) 幅広い分野の作品に親しむ。 2) 基礎的な用語を理解し、それをを用いて作品を説明できる。 3) アート作品・活動やデザイン作品・活動に対し、自分なりの考えを述べるができる。 4) 県内外にある芸術作品にふれ、自分なりの視点で作品を批評することができる。 5) 自分と対象や事象との関わりを深め、自分なりに意味や価値をつくりだすことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：アートってなんだろう 第2回：身の回りのアート 1 －パブリックアート－ 第3回：身の回りのアート 2 －パブリックアート－ 第4回：形のあるアート 1 －立体作品－ 第5回：形のあるアート 2 －絵画作品－ 第6回：形のないアート 1 －映像作品－ 第7回：形のないアート 2 －プロジェクト－ 第8回：アートに触れよう 1 －美術館にでかけよう－ 第9回：アートに触れよう 2 －美術館にでかけよう－ 第10回：デザインってなんだろう 第11回：形のあるデザイン 1 －立体分野－ 第12回：形のあるデザイン 2 －平面分野－ 第13回：デザインに触れよう 1 －街にあるデザインを探そう－ 第14回：デザインに触れよう 2 －街にあるデザインを探そう－ 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	30%	「アート及びデザインとは何か」について具体的に記述すること。		

小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

この講義の目標に対し、受講者とともに取り組みたい。課題をもとにディスカッションを行うので、協力しながら探求する態度を求める。

【授業外学修】

復習として、授業で課題を課すことがある。
 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。
参考書	自由記載	適宜、提示する。

授業科目名 **日本国憲法**

サブタイトル (立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ)

授業番号 LA202

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

憲法の歴史、立憲主義に基づく憲法の内容と特徴、日本国憲法の誕生、個人の尊重と法の支配、人権、統治機構について講義する。

【到達目標】

日本国憲法は立憲主義に基づく憲法であり、個人の尊重を最も基本的な価値観としており、人権保障を何よりも重視している。また、人権保障を実現するために、法の支配を統治機構の基本原則とし、権力分立、民主主義、平和主義を採用していることを理解することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：立憲的意味の憲法とはどういうものか。
- 第2回：憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第3回：日本国憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第4回：日本国憲法の基本原理1、個人の尊重とはどういうものか。
- 第5回：日本国憲法の基本原理2、法の支配とはどういうものか。
- 第6回：日本国憲法では平和主義をどう定めているか。
- 第7回：人権の意味と特徴とは何か。
- 第8回：表現の自由とは何か。
- 第9回：信教の自由とは何か。
- 第10回：人身の自由、刑事手続における権利とは何か。
- 第11回：生存権とは何か。
- 第12回：プライバシーの権利とは何か。
- 第13回：権力分立の原理とは何か。
- 第14回：地方自治とは何か。
- 第15回：憲法改正について考えよう。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	伊藤真の日本一やさしい「憲法」の授業	伊藤真	KADOKAWA	1400円+ 税	978-4- 04- 601993-6
	自由記 載				
参考書	自由記 載	授業において随時紹介する。			

授業科目名	現代環境論		サブタイトル	(現代の身近な環境を「実感」する)	授業番号	LA204
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
私たちの日常の関わりの中から、現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて、現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。						
【到達目標】						
「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点をおき、環境問題という現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉と〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：授業概要の説明，環境に関する基礎講座I						
第2回：環境に関する基礎講座II						
第3回：地球環境問題認識度チェック(クイズ形式の参加型学修)						
第4回：ドングリに学ぶ(吉備の中山での体験学修)						
第5回：中国学園近辺の用水の水は大丈夫か？(水環境に学ぶ体験学修)						
第6回：ごみと資源と私たち(ごみ(対策・分別)について学ぶ)						
第7回：学内「環境てんけん」(体験学修)						
第8回：中国学園近辺に降る雨は大丈夫か？(大気汚染と酸性雨について学ぶ)						
第9回：「シーベルト」「ベクレル」って何だ？(放射能について学ぶ)						
第10回：循環型社会へ向けて(環境問題と国際的取り組み)						
第11回：環境問題解決のための新技術(脱化石エネルギー，リサイクル，水素エネルギーと燃料電池他)						
第12回：太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを！(再生可能エネルギーって何だ？)						
第13回：環境保全啓発コマーシャルづくり(グループワーク)						
第14回：コマーシャルの成果発表と私たちが望む未来を考える						
第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，グループワーク等への参加度，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	野外学修等の後はレポートを提出してもらおう。何に気づき，何を得たのかなど，書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は，その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	最後に行う「環境保全啓発コマーシャル」の内容について評価する。			
	自由記載					

【受講の心得】

この授業は、野外学修も行うため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい。野外学修等の後はレポートを提出してもらおう。試験代わりの重要な成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい(シートの返却が必要な人には個別対応するので、担当教員に直接その旨を申し出ていただきたい)。

【授業外学修】

1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。
 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。
- 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

授業科目名	倫理学		サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)	授業番号	LA205
担当教員名	小谷 彰吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 激変する時代、しかも、答えのない時代を偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、『四書五経』をはじめとした先哲の思想を知る事で一つの参考としたり、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を高めていこうとする視点を身につけたい。したがって、本科目は中国学園大学のディプロマポリシーに見られる人格陶冶に直接関わる科目であり、「自己を客観的にとらえる目」を育てることによって、教育理念に迫る。こうした多くの教養を身につけることが、「知識力・情操力・意志力」を深いものにし、哲学的な思考へとつながる「全人育成」の基盤となる。						
【到達目標】 東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。						
第1回：「倫理学」とは何か(1)～授業ガイダンスと概要～ 第2回：「倫理学」とは何か(2)～哲学的思考と倫理実践へ～ 第3回：倫理の思想～徳の教育論(1)～義と宇宙観・宗教観の歴史～ 第4回：倫理の思想～徳の教育論(2)～現代社会と正義～ 第5回：日本の倫理の源流～神道・仏教・儒教と日本の精神文化～ 第6回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(1)『論語』の歴史と仁義礼智信 第7回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(2)『論語』と『武士道』 第8回：日本の倫理の源流～『四書五経』から～(3)その他の古典から 第9回：現代社会の倫理(1)～『品性論』から～ 第10回：現代社会の倫理(2)～『character education』から～ 第11回：現代社会の倫理(3)～『七つの習慣』をもとに～ 第12回：学校教育と倫理学(1)～いじめ問題と倫理～ 第13回：学校教育と倫理学(2)～教科化された道徳と倫理～ 第14回：これからの時代をよりよく生きていくということ～倫理と人生(1)高齢化社会と医療倫理～ 第15回：これからの時代をよりよく生きていくということ～倫理と人生(2)働き方改革と企業倫理～						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	ディスカッション等授業における意欲・態度、また、予告した文献の事前読書等			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	講義内での学習の確認とそれをもとにした自らの考えを論ずる小論文形式			

	その他					
	自由記載	国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー〈知識・理解〉に見られる時刻・他国の行動様式、考え方の基盤となる文化的背景の理解、〈態度〉に見られる日本人としてのアイデンティティを保ちながら、多様な文化を理解し尊重することに直接かかわるものを重点的に評価することから、授業への参加態度とテストに50%を充てる。				
【受講の心得】 常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。						
【授業外学修】 授業内で紹介する著書については、可能な限りすべて読み、批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。 授業外で深めた基礎的教養によって、授業中でのディスカッションの質が向上する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		テキストは使用しない。				
	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		講義内で随時、紹介する。				
	自由記載					

授業科目名 **韓国語**

サブタイトル (韓国語の基礎を学ぶ)

授業番号 LA106

担当教員名 宋 娘沃

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

韓流ブーム以降、平昌冬季オリンピック、文化交流などを通じてますます韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は文法が類似している。とくに、言葉にとってもっとも大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として、自己紹介や挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実務的な語学力を身につける。また、最近の韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞も行う。

【到達目標】

- ・韓国語の言葉や文法を習得することができる。
- ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。
- ・簡単な韓国語の読み書きができ、韓国の社会や文化を理解することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：韓国語とは

第2回：文字と発音・母音

第3回：文字と発音・子音

第4回：激音と濃音、パッチム

第5回：助詞、動詞と活用

第6回：助詞、時間・単位の基本

第7回：基本文の過去形の作り方

第8回：感嘆文、疑問文

第9回：基本文の指示代名詞、人称代名詞

第10回：助数詞と固有数詞

第11回：挨拶の言葉

第12回：日常生活の言葉

第13回：訪問の言葉

第14回：韓国の大学

第15回：韓国の若者と語学

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。
	定期試験	40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。
- ・韓国に関するニュースや興味ある記事、文化に関心をもって講義に臨むこと。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。
- ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『初めての韓国語』	李昌圭	ナツメ社		978-4-8163-5558-5

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	中国語I	サブタイトル	(発音記号, 基本文型, 会話, 短文)	授業番号	LA107
担当教員名	畑木 亦梅				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。歌を通して発音をマスターしてもらい、日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかなどを解きながら、基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また、外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい、一緒に探し当てていく。					
【到達目標】					
既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時、趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：テキスト第一課 発音(1) 単母音, 声調, 子音, 軽声, 特殊母音 (課題提出 テキスト第一課分P9-10), 発音を習得するための歌の紹介など					
第2回：テキスト第二課 発音(2) 重母音, 鼻母音, 声調の記号のつけ方					
第3回：発音の復習, 知っておいて便利な言葉 (課題提出 テキスト第二課分P13-14)					
第4回：テキスト第三課 名詞文「...是...(...は...です)」について(肯定文, 否定文, 疑問文); 副詞「也, 都(も)」について, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第三課分P19-20)					
第5回：テキスト第四課 指示代名詞, 存在文「有...(...あります/います)」について, 「ちょっと...する」の言い方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第四課分P25-27)					
第6回：テキスト第五課 動詞文, 動作の継起, 願望文「想...(...したい)」について, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第五課分P33-34)					
第7回：テキスト第六課 動作・行為の完了, 形容詞文について, 比較, 起点などの表し方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第六課分P39-40)					
第8回：テキスト第七課 動作の進行, いろいろな「在」の使い方, 数字・日付の言い方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第七課分P46-46)					
第9回：テキスト第八課 過去の経験の表しかた, 東京ディズニーランドに行ったことがありますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第八課分P51-52)					
第10回：テキスト第九課 皆さんはお元気ですか 強化トレーニング (課題提出 テキスト第九課分P57-58)					
第11回：テキスト第十課 休みの日はどのように過ごしますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十課分P63-64)					
第12回：テキスト第十一課 納豆は食べますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十一課分P69-70)					
第13回：テキスト第十二課 私について(1) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十二課分P75-77)					
第14回：テキスト第十三課 私について(2) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十三課分P81-82)					
第15回：復習, おさらい, 定期試験に向けて					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発音練習・発言など授業への積極性		
	レポート	30%	課題提出の完成度		
	小テスト				
	定期試験	50%	発音の基本・テキストにある強化トレーニング内容の定着		
	その他				

自由記載

【受講の心得】

予習，復習をしっかりとすること。テキストを必ず持ってくること。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており，声を出して練習すること。遅刻しないこと。

【授業外学修】

- 1 予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。
- 2 復習として，学んだ本文内容や文法を再確認すること。

週に最低4時間ほどの予習・復習が望ましい。

使用テキスト	自由記載	実践スキルアップトレーニングシリーズ 初級中国語 畑木亦梅・李亦松 共著 中国言語文化研究所出版（購入については別途指示）
--------	------	---

参考書	自由記載	
-----	------	--

【その他】

プリント配布，学習内容に合わせて中国事情を紹介

授業科目名	中国語II		サブタイトル		授業番号	LA111
担当教員名	畑木 亦梅					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
この授業は中国語Iを履修した学生を対象により実践的な内容を扱う。中国語Iと同様、中国語学習の肝である発音をテキストを繰り返し読み上げる等を通じて定着を目指す。中国語Iと比べ、各課にあたる単語の量も大幅に増え、会話も長くなる。それに、会話に沿って作られた文章(読解文)も勉強し長文に触れてもらう。長文の修飾関係を明確にすることによって、文法構造を正しく理解し自らの考えを表現できる基礎的なコミュニケーション能力の育成を図る。						
【到達目標】						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：テキスト第一課 会話文 1 说起... , (就) 想起... 2 没办法 3 程度補語 (課題提出)						
第2回：テキスト第一課 読解文, 練習問題 (課題提出)						
第3回：テキスト第二課 会話文 1 连... 都... 2 就 3 把 (課題提出)						
第4回：テキスト第二課 読解文, 練習問題 (課題提出)						
第5回：復習(1)						
第6回：テキスト第三課 会話文 1 “挺” “的” 2 边... 边... 3 以为 (課題提出)						
第7回：テキスト第三課 読解文, 練習問題 (課題提出)						
第8回：テキスト第四課 会話文 1 “v”+“是”+“v”, “不过/可是”... 2 “adj”+“是”+“adj”, “不过/可是”... (課題提出)						
第9回：テキスト第四課 読解文, 練習問題 (課題提出)						
第10回：復習(2)						
第11回：テキスト第五課 会話文 1 比較文 2 “这么/那么”+“adj”or“v” 3 怪不得 (課題提出)						
第12回：テキスト第五課 読解文, 練習問題 (課題提出)						
第13回：テキスト第六課 会話文 1 相当于 2 只, 只有, 只是 3 可能補語 (課題提出)						
第14回：テキスト第六課 読解文, 練習問題 (課題提出)						
第15回：復習(3) おさらい, 定期試験に向けて						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発音練習・発言など授業への積極性, 遅刻・欠席の有無			
	レポート	30%	課題提出の完成度			
	小テスト					
	定期試験	50%	各課の文法説明文, 練習問題の定着			
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

やさしく楽しい中級中国語

郭春貴・郭久美子・白帝社 2400+税
梁勤

978-4-
86398-
269-7

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **ベトナム語**

サブタイトル

授業番号 LA203

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

ベトナム語には、日本語のような複雑な助詞や英語のような動詞の時制変化がなく、主として単語の配列によって意味を表す。発音と声調、語順さえ覚えれば比較的習得しやすい言語と言えよう。ベトナム語の習得のためには、何よりもまず、正しい発音の習得が大切である。複雑な発音と声調が組み合わさった言語であるため、カタカナ表記を読むだけでは通じない。講義ではCDを活用し、CDを何度も聞きながら、繰り返し発音を学んでいく。同時に、ベトナムの基本的文法も学習する。

【到達目標】

ベトナム語の簡単な日常会話を身につけ、簡単なコミュニケーションがとれるようにする。ベトナム語を正確に発音できるようにする。特に、表記と発音の基本的なルールを学び、声調の連続に慣れ、ベトナム語らしく意味の通じやすい発音を身につける。ベトナムの文化についても理解する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ベトナム語の特徴について(1)

第2回：挨拶、自己紹介(1)

第3回：ベトナム語の発音と文字1

第4回：ベトナム語の発音と文字2

第5回：基本単語と発音1

第6回：基本単語と発音2

第7回：数と関連表現

第8回：時間と関連表現

第9回：ベトナム文化の特徴について

第10回：動詞文1

第11回：動詞文2

第12回：動詞文3

第13回：形容詞文1

第14回：形容詞文2

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への積極的な取り組み、態度などを評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	試験で理解度を測り結果を基に評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

課題を随時出すので、必ず提出すること。

必ず出席すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、課題を随時出すので必ず提出する。
 - 2 復習として、授業で習った表現を何度も繰り返し声に出して練習する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	プリントを配付する。
参考書	自由記載	

授業科目名	タイ語		サブタイトル		授業番号	LA206
担当教員名	平井 ケスタ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>タイ語学習で大切なものは、発音については母音と子音および5つの声調を区別して発音できることである。さらに、タイ語独自の文の形をよく理解する必要がある。また文の中で語形が変化せず、語順によってその機能が決まってくる。性、数、時制などの区別も見られず、英文法とは大きく様子が異なるのである。このようなタイ語の読み方、書き方および日常会話での基本的な表現方法を学習するとともに、タイ人の習慣や価値観などの文化的な面も紹介する。</p>						
【到達目標】						
<p>タイ語の文字を書くことや読むことができるようになること。タイ語特有の表現スタイルを理解し、基本的な語彙と文法表現を習得して、コミュニケーションができるようになることを目標とする。</p> <p>学科のディプロマポリシーに則り、タイ語の学習を通して、タイの文化や歴史等の背景に理解を深め、国際感覚を養うことを目指す。したがって、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：タイ語ってどんな言葉？</p> <p>第2回：挨拶1</p> <p>第3回：タイ語の発音と文字</p> <p>第4回：よく使う基本単語</p> <p>第5回：数字と数え方</p> <p>第6回：年月日(曜日, 月, 年)</p> <p>第7回：形容詞</p> <p>第8回：動詞</p> <p>第9回：挨拶2</p> <p>第10回：場所をたずねる</p> <p>第11回：買い物</p> <p>第12回：レストランで</p> <p>第13回：禁止表現</p> <p>第14回：タイの文化</p> <p>第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	各回の授業での教師からの質問への回答の様子等で評価する。		
	レポート		0%			
	小テスト		20%	その授業時間内での重要な箇所の理解の状況を数値化する。		
	定期試験		40%	文法、読み方、文字の書き方等を総合的に評価する。		
	その他		0%			
	自由記載					

【授業外学修】

週当たりの時間数として、

- ・文字・単語の書き方、読み方の復習 1 時間
- ・文法に関する既習事項の復習 2 時間
- ・次回の授業に関する内容についての予習 1 時間

を目安にした学修が望ましい。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	タイ語が面白いほど身につく本	ギエッティポン・ルーンスワン/近藤由美	KADOKAWA	1600円+税	978-4-04-602522-7
	自由記 載				
参考書	自由記 載	必要に応じて授業の中で指示する。			

授業科目名 **ファーストイヤーセミナーI** サブタイトル (学問の方法) 授業番号 LA108

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

本セミナーでは、大学生として最低限必要なスタディスキルズを身に付ける。高校と大学とでは、学生に課される課題が大きく異なる。例えば、多くの学生は、レポートを書いた経験が無いと思われるが、大学の大体の授業ではレポートを書くスキルが求められ、それに伴い資料の収集や、限られた時間で集めた資料を読むことが必須となる。しかも、それらを自主的に進めて行くことが求められるのである。そのため、本セミナーでは、その様な課題をどう行っていけばよいのか、順序立てて指導していく。

【到達目標】

ファーストイヤーセミナーでは、大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など、大学生活を充実したものとしていくための基礎作りを行う。大学生としての基礎を確実に習熟していくことが目標となる。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：大学生活について

第2回：図書館の活用

第3回：人権について

第4回：健康で健やかな生活を送るために（エイズ教育）

第5回：スタディスキルズ1

第6回：スタディスキルズ2

第7回：グループワーク

第8回：グループワーク

第9回：グループワーク

第10回：グループワーク

第11回：グループワーク

第12回：グループワーク

第13回：グループワーク

第14回：グループワーク

第15回：グループワーク

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	毎回の講義の取組態度を評価する。
	レポート	25%	課題意識、取組態度を評価する。
	小テスト	40%	理解度を評価する。
	定期試験		
	その他	20%	課題プレゼン発表をとおして、取組態度、理解度、表現力を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

課題は提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。

【授業外学修】

復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	(1) 『Primary course on paragraph writing』， Yoshihito Sugita, Richard Caraker, Seibido (2) 『大学生のためのレポート・論文の書き方』， 石井一成， ナツメ社
参考書	自由記載	

授業科目名	ファーストイヤーセミナーII		サブタイトル	(学問の方法)	授業番号	LA112
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
【授業の概要】						
<p>本セミナーでは、セミナーIに引き続き大学生として身に付けておくべきスタディスキルズを扱う。セミナーIで学んだ知識を基礎として、実践的にレポート執筆・資料収集を行うことで、その際に生じる学生の疑問に答えていく形式をとる。学生同士がお互いに助け合えるよう、パートナーを組ませ、協働的に課題に取り組む。それにより、学生間の対話の中から一人では気がつかなかった観点や、問題への気付きを促す。その上で、クラス内で教員を含めて討議を行うことで、スキルの向上を目指す。</p>						
【到達目標】						
<p>情報収集・情報整理の方法、文献の読み方、レポートの書き方、文献引用のしかた、剽窃防止などについて実践的に学び、大学生として必要なアカデミックスキルを身につけることを目標とする。</p> <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：大学でのレポートとは 第2回：レポートの書き方（文章構成） 第3回：ブレインストーミング、アウトラインの書き方 第4回：剽窃とは、文献引用の方法（パラフレーズ、要約、直接引用） 第5回：情報収集・整理の方法、文献の読み方 第6回：ディスカッションの仕方 第7回：課題研究 文献による調査、ディスカッション 第8回：課題研究 文献による調査、ディスカッション 第9回：課題研究 文献による調査、ディスカッション 第10回：課題研究 文献による調査、ディスカッション 第11回：課題研究 文献による調査、ディスカッション 第12回：レポートドラフト1ピアレビュー、ディスカッション 第13回：プレゼンテーションの仕方(1) 第14回：プレゼンテーションの仕方(2) 第15回：プレゼンテーション</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	15%	毎回の講義の取組態度を評価する。			
	レポート	25%	課題意識、取組態度を評価する。			
	小テスト	40%	理解度を評価する。			
	定期試験					
	その他	20%	課題プレゼン発表をとおして、取組態度、理解度、表現力を評価する。			
自由記載						

【受講の心得】

課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくることが求められる。レポートは書き直し作業が重要となるため、教員や学生からのフィードバックを活用して書き直すこと。

【授業外学修】

予習・復習、課題の作成等のために、週当たり4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **コミュニケーション技法** サブタイトル 授業番号 LJ101

担当教員名 佐生 武彦 松浦 加寿子

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 1年 開講期 前期
必修・選択 必修 授業形態 講義

【授業の概要】

英語によるコミュニケーションの特徴は、「言語化される情報量が多い」ことである。これは日本語によるコミュニケーションの対極にある。学生が英語によるコミュニケーションを円滑に行うための能力を身に付けるには、語彙や文法等の言語学的な要素に加えて、「情報を言語化する」ための癖や習慣が不可欠となる。この授業では、日本語では普段言葉にしない情報を、意識して言語化する訓練を行う。

【到達目標】

「相槌（「聞いてるよYES）」、「文脈依存」、「少ない自己開示」、「反論を控える」等々、日本人のコミュニケーションに特徴的な傾向をコントロールできる能力を身に着けること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「日本人のコミュニケーション」を考える
- 第2回：Low Context コミュニケーションを鍛える1
- 第3回：Low Context コミュニケーションを鍛える2
- 第4回：Low Context コミュニケーションを鍛える3
- 第5回：Low Context コミュニケーションを鍛える4
- 第6回：「自己開示」増強トレーニング1
- 第7回：「自己開示」増強トレーニング2
- 第8回：「自己開示」増強トレーニング3
- 第9回：「自己開示」増強トレーニング4
- 第10回：振り返り1（3分間スピーチ）
- 第11回：真逆の演出1
- 第12回：真逆の演出2
- 第13回：真逆の演出3
- 第14回：真逆の演出4
- 第15回：総括と振り返り2（3分間スピーチ）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	与えられた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	スピーチの出来具合を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

自己の性格を変える必要はないが、新しい自分を創造する必要があるかもしれない。その時は何事もチャレンジと思い、頑張っ欲しい。

【授業外学修】

1 予習として、日々テーマを決めて、即興で1分のスピーチを創る練習をしておく。

2 復習として、授業中の自分のスピーチを振り返り、改善点をまとめる。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜、プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **異文化コミュニケーション論**

サブタイトル

授業番号 LJ109

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

「文化」及び「コミュニケーション」という2つの言葉を、私たちは日常生活において殆どその意味を吟味しないまま口にすることが多い。理由は、両者ともに深く考える対象としては余りにも私たちの身近にあり過ぎるためであろう。この授業では、「文化」や「コミュニケーション」など一連の諸概念を詳しく考察すると共に、日本人が多用するコミュニケーション型と諸外国で用いられるコミュニケーション型を比較検討し、これらコミュニケーション型の違いから生じる諸問題とその解決法について学習する。

【到達目標】

到達目標としては、「『異文化を理解する』とはどういうことか」、また「日本人のコミュニケーション行為の諸特徴とは何か」等の設問に答えることが出来るようになること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「異文化コミュニケーション論」とは何か？何を学ぶのか？
- 第2回：文化」とは何か(1)：文化人類学的視点と動物行動学的視点
- 第3回：「文化」とは何か(2)：「文化」vs「文明」
- 第4回：「文化」とは何か(3)：Melford E. Spiroの文化観
- 第5回：日本人のコミュニケーション(1)：コミュニケーションの動因と志向性
- 第6回：日本人のコミュニケーション(2)：コミュニケーションの基本型8
- 第7回：「説得 VS persuasion」から見た日米コミュニケーション比較
- 第8回：文化・情報・コミュニケーション-情報代謝論
- 第9回：コミュニケーションとは何か：知覚・意味・解釈
- 第10回：トランプ遊びによる「擬似異文化体験」
- 第11回：文化相対主義の批判的考察(1)：文化相対主義の出自と考え方
- 第12回：文化相対主義の批判的考察(2)：コミュニケーション論から見た相対主義
- 第13回：英語コミュニケーション(1)：「英語支配」を考える
- 第14回：英語コミュニケーション(2)：認識と実践
- 第15回：まとめと展望

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。
	レポート	30%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業内で他の受講生とのディスカッションや意見交換を促すことがある。その時は、敏速に行動に移すように心掛けて欲しい。

【授業外学修】

1 予習として、テキストを熟読し、講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。

2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回、プリントを配布する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	異文化コミュニケーションキーワード		石井敏 他著	有斐閣		
	自由記載					

授業科目名 **プレゼンテーション技法** サブタイトル 授業番号 LJ201

担当教員名 佐々木 公之

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 2年 開講期 前期
必修・選択 必修 授業形態 講義

【授業の概要】

大学での授業，進学，就職先でもさまざまプレゼンテーションの機会がある。自分の意志，研究結果などを表現でも，プレゼンテーション能力を必要不可欠となっている。授業では，プレゼンテーションでの表現方法や図の作り方，効果的伝達方法などを学ぶ。また，調査・研究・企画などを通じてのプロジェクトマネジメントについても学ぶ。

【到達目標】

人前で発表すること，伝え方について理解を深める。プレゼンテーション使用されるツールのマスターする。「プレゼンテーションの構成・コンテンツ制作」ができるようにする。最終的に，各人が研究テーマに即した最終発表に結実させる。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：プレゼンとは何か	※（担当佐々木）
第2回：プレゼンの構成	※（担当佐々木）
第3回：効果的なプレゼンテーションとは	※（担当佐々木）
第4回：プレゼンテーションと画像等	※（担当佐々木）
第5回：プレゼンテーションとグラフ	※（担当佐々木）
第6回：ケーススタディー実施（画像とグラフ）	※（担当佐々木）
第7回：言語と非言語の表現方法	※（担当佐々木）
第8回：言語の表現方法	※（担当佐々木）
第9回：非言語の表現方法	※（担当佐々木）
第10回：プロジェクト研究とテーマ設定	※（担当佐々木）
第11回：プロジェクト演習(1)	※（担当佐々木）
第12回：プロジェクト演習(2)	※（担当佐々木）
第13回：プロジェクト演習(3)	※（担当佐々木）
第14回：最終発表演習(1)	※（担当佐々木）
第15回：最終発表演習(2)	※（担当佐々木）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	毎回の講義の取組態度を評価する。
	レポート	20%	レポート・提出物
	小テスト		
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験
	その他 自由記載		

【受講の心得】

実際にパワーポイントソフトが使いこなせ，作業できるように指導を行う。パワーポイントの制作だけでなく，発表方法・姿勢など表現の指導にも注力する。

【授業外学修】

復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	一生使えるプレゼン上手の資料作成入門	岸 啓介	インプレス	1944	4295000698
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	できるPowerPoint パーフェクトブック	井上香緒里	インプレス	1944	4295000442
	自由記載				

授業科目名	ビジネス・ディスカッション技法		サブタイトル		授業番号	LJ209
担当教員名	伊藤 未高					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>本授業では、集団はどのように形成されるのか、集団はどのような特徴や性質を持っているのか、組織のソフトなルールや関係性を理解したうえで、ディスカッションを通じてどう組織を正しい方向へ向かわせていくかについて学ぶ。</p> <p>まず、コミュニケーションの基礎について学ぶ。そのうえで、上記前段で述べる、集団や組織、組織のルール・関係性などについて学んでいく。また、上記後段については、ビジネスで実際に使われているディスカッションの技法を学ぶ。演習を多分に盛り込み、実践的に学んでいく。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>ビジネスの現場で行われるディスカッションの目的、役割について理解すること。また、組織のソフトなルールや関係性を理解したうえで、組織を正しい方向へ向かわせるための効果的なディスカッションとはどのようなものか、理解できるようになることである。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：今、なぜ「コミュニケーション」か(1) ～コミュニケーションの基礎知識～</p> <p>第2回：今、なぜ「コミュニケーション」か(2) ～演習(1)言葉と意味～</p> <p>第3回：集団形成の背景や目的 集団・組織とは(1) ～演習(2)集団形成要因～</p> <p>第4回：集団形成の背景や目的 集団・組織とは(2) ～演習(3)組織の成立要素～</p> <p>第5回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(1) ～組織と目指す姿～</p> <p>第6回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(2) ～演習(4)自分の組織を分析してみる～</p> <p>第7回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(3) ～演習(5)生産性向上のためのコミュニケーション～</p> <p>第8回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(4) ～演習(6)しぐさと印象～</p> <p>第9回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(5) ～目標に向けた組織ダイナミクス～</p> <p>第10回：組織における問題解決 意見が対立したときのコミュニケーション(1) ～演習(7)コンフリクトの原因と対応～</p> <p>第11回：組織における問題解決 意見が対立したときのコミュニケーション(2) ～演習(8)問題解決のコミュニケーション～</p> <p>第12回：組織における問題解決 意見が対立したときのコミュニケーション(3) ～演習(9)敵対型対応の協働型コミュニケーション～</p> <p>第13回：交渉 利益最大化を目指すコミュニケーション(1) ～交渉とは～</p> <p>第14回：交渉 利益最大化を目指すコミュニケーション(2) ～演習(10)三つの交渉の流れ～</p> <p>第15回：交渉 利益最大化を目指すコミュニケーション(3) ～演習(11)メディアーションの流れ～</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する(発言内容のレベルは問わない)			
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する(自分の言葉による論理的な説明を求める)			

小テスト

定期試験

50%

授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）

その他

自由記載

【受講の心得】

各講義において、講義内容の復習のポイントや、次の講義までに取り組むべき事項を提示するので、これらを行うこと。

特に講義内容を復習する際には、新聞や雑誌記事などで企業に関するニュースを読み、講義で学習した内容と照らし合わせて自分なりの分析を行うこと。

【授業外学修】

上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『組織を動かすコミュニケーションカー 企業・学校・サークル あらゆる組織の円滑な 運営のために』（2010）	高橋眞知子	実教出版	1944円	4407319917

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて別途配布する

授業科目名	インテグレート ド・イングリッ シ ユ A	サブタイトル		授業番号	LJ102
担当教員名	森年 ポール 山本 忠クレイグ				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>Students will develop their ability to speak, listen, read and write in English to exchange simple information when introducing themselves. It will also improve their research, presentation and study skills and develop learner independence and responsibility. -CEFR A1-</p> <p>この授業では、学生が簡潔な基本的会話での話題について情報を交換するために英語で話し、聞き、読み、書く基本的な能力を伸ばす。また、調査、発表、研究の技能と自画くできる能力と責任感を開発し始める。-CEFR A1-</p>					
【到達目標】					
<p>1. Like playing sports, music or other skills, learning English takes time and practice. The teachers will support your learning in and out of class, but it is each student's responsibility to use and practice English as much as possible during the lessons. Students must show significant improvement by the end of the course.</p> <p>スポーツや音楽やその他の技能と同様に、英語にも時間と練習が必要である。教員は授業内外で学修のサポートをするが、授業中にできるだけ多くの英語を使って練習することは学生の責任である。進歩がほとんどなかったり、全くなかったりする場合には、単位を与えられない。</p> <p>2. Students must also do self-study activities for every unit using the online workbook and submit their work by the deadlines. Students need to get at least 12% on self-study assignments in total to pass.</p> <p>学生はすべてのユニットにおいてオンラインのワークブックを使って自習し、締め切りまでに課題を提出しなければならない。単位の取得には、100点のうち少なくとも12%を自習課題で得る必要がある。</p> <p>3. This course is also connected to the 英検演習 and 初級英語 courses.</p> <p>この授業は、「英検演習」と「初級英語」の授業と関連がある。</p> <p>This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回 : Self-introductions; Administration; Course outline (自己紹介活動及び授業の進め方と概要の説明)
- 第2回 : Unit 1 – New friends: A–B (新しい仲間: A–B)
- 第3回 : Unit 1 – New friends: C–D and review (新しい仲間: C–D 及び復習)
- 第4回 : Unit 2 – People and places: A–B (様々な人々と場所: A–B)
- 第5回 : Unit 2 – People and places: C–D and review (様々な人々と場所: C–D及び復習)
- 第6回 : Unit 3 – What’s that?: A–B (あれは何?: A–B)
- 第7回 : Unit 3 – What’s that?: C–D and review (あれは何?: C–D及び復習)
- 第8回 : Unit 4 – Daily life: A–B (日常生活: A–B)
- 第9回 : Unit 4 – Daily life: C–D and review (日常生活: C–D及び復習)
- 第10回 : Mini–test 1; Your research presentations; Individual tutorials (小テスト 1; 学生の研究発表と個別指導)
- 第11回 : Unit 5 – Free time: A–B (自由時間: A–B)
- 第12回 : Unit 5 – Free time: C–D and review (自由時間: C–D及び復習)
- 第13回 : Unit 6 – Work and play: A–B (学修と遊び: A–B)
- 第14回 : Unit 6 – Work and play: C–D and review (学修と遊び: C–D及び復習)
- 第15回 : Unit 7 – Food: A–B (食品: A–B)
- 第16回 : Unit 7 – Food: C–D and review (食品: C–D及び復習)
- 第17回 : Unit 8 – In the neighborhood: A–B (自分の地域: A–B)
- 第18回 : Unit 8 – In the neighborhood: C–D and review (自分の地域: C–D及び復習)
- 第19回 : Mini–test 2; Individual tutorials (小テスト; 個別指導)
- 第20回 : Unit 9 – What are you doing?: A–B (何をしているの?: A–B)
- 第21回 : Unit 9 – What are you doing?: C–D and review (何をしているの?: C–D及び復習)
- 第22回 : Unit 10 – Past experiences: A–B (過去の経験: A–B)
- 第23回 : Unit 10 – Past experiences: C–D and review (過去の経験: C–D及び復習)
- 第24回 : Unit 11 – Getting away: A–B (お出掛け: A–B)
- 第25回 : Unit 11 – Getting away: C–D and review (お出掛け: C–D及び復習)
- 第26回 : Unit 12 – Time to celebrate: A–B (お祝い: A–B)
- 第27回 : Unit 12 – Time to celebrate: C–D and review (お祝い: C–D及び復習)
- 第28回 : Mini–test 3; IPA test; Individual tutorials; Research presentation practice (小テスト 3; 発音記号の小テスト; 個別指導; 研究発表の練習)
- 第29回 : Research presentations (two groups) (研究発表(2グループで))
- 第30回 : Course review, evaluation questionnaires (授業全体の振り返り, 評価, アンケート)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート		
	小テスト	40%	3 mini-tests (小テスト3回) (3 x 10%), IPA test (発音記号の小テスト) (10%)
	定期試験		
	その他	40%	Online homework (オンラインによる自習課題) (20%) (Students must get at least 12%) (合格には最低12%), Research presentation (研究発表) (20%)
	自由記載		

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Four Corners 1	Richards, J.C. & Bohlke, D.	Cambridge University Press	4, 000円 + 税	9781107641747
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	英検2級 での順パス単	旺文社編	旺文社	1, 300円 + 税	9784010947043
	自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、教科書、ノート、ワークシートなど）を持ち込まなければならない。			

授業科目名	インテグレート ド・イングリッシ ユB	サブタイトル		授業番号	LJ110
担当教員名	森年 ポール 山本 忠クレイグ 松浦 加寿子				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】					
This course develops students' ability to speak, listen, read and write in English to exchange simple information about familiar contexts and topics. It will also continue to improve students' research, presentation and study skills and to develop learner independence and responsibility. -CEFR A2-					
【到達目標】					
Students develop their general English ability through topics including interest, health, restaurant and personal goals.					
This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					

- 第1回 : Introductions, LMS online homework set-up, Research presentations work schedule
- 第2回 : Unit 7 Food: Lesson A - Breakfast, lunch and dinner
- 第3回 : Unit 7 Food: Lesson B - I like Chinese food
- 第4回 : Unit 7 Food: Lesson C - Meals (自分の地域: A-B)
- 第5回 : Unit 7 Food: Lesson D - Favorite food
- 第6回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson A - Around town
- 第7回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson B - How do I get to...?
- 第8回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson C - Fun in the city
- 第9回 : Unit 8 In the neighborhood: Lesson D - A great place to visit
- 第10回 : Unit 9 What are you going?: Lesson A - I'm looking for you
- 第11回 : Unit 9 What are you going?: Lesson B - I can't talk right now
- 第12回 : Unit 9 What are you going?: Lesson C - These days
- 第13回 : Unit 9 What are you going?: Lesson D - What's new?
- 第14回 : Unit test 1, Individual tutorials, Pronunciation test during the week
- 第15回 : UK theme day
- 第16回 : Unit 10 Past experiences: Lesson A - Last weekend
- 第17回 : Unit 10 Past experiences: Lesson B - You're kidding!
- 第18回 : Unit 10 Past experiences: Lesson C - Did you make dinner last night?
- 第19回 : Unit 10 Past experiences: Lesson D - I saw a great movie
- 第20回 : Unit 11 Getting away: Lesson A - Where were you?
- 第21回 : Unit 11 Getting away: Lesson B - That's great!
- 第22回 : Unit 11 Getting away: Lesson C - My vacation
- 第23回 : Unit 11 Getting away: Lesson D - Travel experiences
- 第24回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson A - I'm going to get married
- 第25回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson B - Sure. I'd love to
- 第26回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson C - Planning a party
- 第27回 : Unit 12 Time to celebrate: Lesson D - Birthdays
- 第28回 : Unit test 2, Individual tutorials
- 第29回 : Group research presentations and feedback
- 第30回 : Course review, Student questionnaire

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート	20%	Research Presentation (研究発表)
	小テスト	40%	Pronunciation test (発音記号の小テスト) (10%); Unit tests (小テスト2回) (2 x 15%)
	定期試験		
	その他	20%	Online homework (オンラインによる自習課題)
自由記載			Students must do self-study activities for every unit using the online workbook by the deadlines. Students must score at least 60% to pass the course. They must also keep up with the schedule of work for the research presentations -CEFR A2-

【受講の心得】

This is a discussion-based course; thus, students are expected to actively communicate in English. As students share and discuss weekly assignments in class, the assignments must be completed in advance. Also, other tasks related to projects must be submitted on time.

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Four Corners 1 (2nd edition) with Online Self-Study and Online Workbook Pack	Richards, J.C. & Bohlke, D.	Cambridge University Press	4, 000円 + 税	9781108560450
	自由記 載				
参考書	自由記 載	Handouts, worksheets, YouTube videos, PowerPoint files, online resources, etc.			

授業科目名	日本近現代史		サブタイトル		授業番号	LJ103
担当教員名	菅谷 幸浩					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<p>【授業の概要】</p> <p>本講義では幕末維新时期から平成時代に至るまでの日本の政治外交の展開，社会の変容を政治学と歴史学の観点からたどることで，日本近現代史の構造的理解を目指すものである。世界史的視野から自国史を位置付け，理解することは国際教養学部学生に求められる専門的教養の一つである。講義内容は大きく分けて3つの時期によって構成し，第1期は幕末・明治維新から日露戦争に至るまでの近代国家としての発展，第2期は大正・昭和戦前期における政党内閣時代の歩みから軍部の抬頭，米ソ冷戦と戦後日本政治の相関関係，第3期は平成初期における政治改革論議の高まり，冷戦終結後の日米関係と民主党への政権交代，安倍長期政権の登場までを扱う。各時代を特徴付けた政策や思想，主要な政治指導者の役割と国際環境の推移など，一次史料の読解を踏まえて検討していく。授業内では受講者自身に政権担当者や外交官の立場になってもらい，歴史上の重要局面でどのような選択や決定が可能であったか体験してもらう機会も用意する。その上で，現在の安倍長期政権をめぐる問題点や，今後の日本の課題について，日本政治外交史・国際関係論の知識も踏まえて展望できる視座を養いたい。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>現在の政治外交を短期間というスパンではなく，戦前や戦後の歴史的背景を踏まえたグローバルな視点から捉える力を養う。骨子として，非西欧世界に位置する日本にとって，近代化や民主化はどのような条件の下で進化したのか，国内政治（国内社会）と国際政治（国際社会）がどのように影響し合うことで各時代の政権の在り方や政策選択を規定したのか，といった点を説明できるようにする。その上で，日本近現代史にとどまらず，学際的な視点や時事問題への関心を得られるようにしたい。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献するものである。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：比較の視点から「近代」を捉える／明治維新の課題 第2回：明治立憲制の成立 第3回：近代日本の議会と政党 第4回：第一次世界大戦と日本外交 第5回：大正デモクラシーと政党政治 第6回：政党内閣時代の動揺と崩壊 第7回：「準戦時体制」から日中戦争へ 第8回：近衛新体制と松岡外交 第9回：日米交渉から日米開戦へ 第10回：連合国の戦後構想 第11回：敗戦と占領 第12回：55年体制の成立 第13回：55年体制の展開 第14回：昭和の終わりと平成の始まり 第15回：21世紀日本の国家像</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な授業態度，発言，資料の朗読など，授業への貢献度により評価する。目的意識を持って参加してほしい。			
	レポート	50%	日本近現代史を学ぶことが現在の問題を捉える上でどのような意義があるか，講義内容も踏まえ，自分の言葉でどれだけ表現できているかという点を評価する。			
小テスト						

定期試験

その他

自由記載

集中講義（全4日間）という形をとるため、理由のない遅刻や欠席は慎むこと。出席率が3分の2に満たなかった場合や、授業態度に改善が見られない者、レポートが未提出の場合は単位認定の対象外とする。レポートの書式や提出方法については最終講義の際に指示する。

【受講の心得】

本講義では歴史学と政治学双方の視点から日本近現代史の論点と課題を検討する。いずれも諸君にとっては縁のない分野かもしれないが、何らかの形で国際社会に向き合おうとするとき、近代以降の歴史や現在の政治についての理解を欠くことは出来ない。「歴史は社会科学の実験場である」（井上寿一）という言葉が示すように、戦前から戦後に至る日本の歴史的体験には現在の問題を考える上での教訓が数多く含まれている。講義の進め方としては、高等学校で「日本史」未履修の場合でも理解に困らないよう、パワーポイントで画像を表示し、視覚的な理解につなげるようにする。テーマによっては、時事問題と関連付けて解説することにより、過去の歴史が現代と密接な関係を有するものであることを知ってもらいたいと思っている。また、受講者に対しては、ノートテイキングにとどまらず、基本的な知識や自分の考えについて発問する機会も多々ある。講義の中で疑問に感じたことは自ら図書館で調べるなど、積極的姿勢も合わせて期待する。その上で、本講義の内容を今後の各自のテーマに役立ててもらいたいと思っている。意欲ある若い学生と岡山の地で出会えることを楽しみにしている。

【授業外学修】

1. その日の講義で配布したレジュメを見直すこと。
2. 講義の中で登場した語句を辞典で調べたり、「発展学修」として、講義で紹介された参考文献を読む。
3. 講義内容と自らの調査研究に基づき、レポートを作成する。

以上の授業外学修時間に費やされる時間の目安は60時間である。

使用テキスト

自由記載

特定のテキストは使用しない。毎回、レジュメを配布する。板書だけでなく、パワーポイントに表示した内容や教員の口頭説明も含め、レジュメに書き込むこと。

書名

著者・編集者

出版社

定価

ISBN

日米関係史

五百旗頭真編

有斐閣

2592円

978-4641183575

「戦争」で読む日米関係100年

簗原俊洋編

朝日新聞
出版

1728円

978-4022599889

参考書

自由記載

各テーマの参考書籍については、入手しやすいものを中心にレジュメに記載する。講義で扱う時期全般をカバーするものとして、五百旗頭真編『日米関係史』（有斐閣、2008年）、簗原俊洋編『「戦争」で読む日米関係100年』（朝日新聞出版、2014年）、戦前については平間洋一『日英同盟』（角川学芸出版、2015年）、伊藤之雄『元老』（中央公論新社、2016年）、加藤陽子『戦争まで 歴史を決めた交渉と日本の失敗』（朝日出版社、2016年）、戦後については五百旗頭真『日米戦争と戦後日本』（講談社、2005年）、小林英夫『自民党と戦後史』（中経出版、2014年）、日本再建イニシアティブ『「戦後保守」は終わったのか』（KADOKAWA、2015年）が平易な入門書である。いずれも現在の研究水準を知る上で重要な書籍である。どれか一冊でも読むことで、本講義の理解度が深まる。

【備考】

準備の都合上、参加予定者は自己紹介のメールを8月下旬から9月第1週までの期間にsugaya@asia-u.ac.jp（■は@）に送信すること。授業内容についての問い合わせにはメールで随時対応する。

授業科目名	グラマー&ユーセ ツジ		サブタイトル		授業番号	LJ104
担当教員名	大橋 典晶					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
<p>授業では、次のような活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な（既習の）文法項目と語彙・語法について再確認する ・平易な英語で書かれた文章を読む ・英語で短い文章を書く <p>予習・復習を強く推奨し、その実行具合を毎時間確認する。予習については、指名、授業中のやり取りを通して確認する。復習も同様であるが、小テストを頻繁に実施して、復習の確認とするとともに、評価の一部とする。</p>						
【到達目標】						
<p>高等学校での外国語（英語）学習を踏まえ、文法・語法の基礎を固める。その基礎を基に、英語を通してメッセージを理解し、正確な英文を書く力を養う。このことにより、1年後期以降の学習に必要な英語力の基礎を身に付ける。</p> <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能> に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：文法の概観，品詞，動詞と時制・相</p> <p>第2回：現在時制(1) be動詞と現在進行形</p> <p>第3回：現在時制(2) 一般動詞の単純現在形</p> <p>第4回：過去時制</p> <p>第5回：未来</p> <p>第6回：語順</p> <p>第7回：名詞，冠詞など</p> <p>第8回：代名詞と所有格</p> <p>第9回：リーディング&ライティングアクティビティ(1) 時制に注意して</p> <p>第10回：形容詞と副詞</p> <p>第11回：法助動詞(1) 能力，提案，要求，許可</p> <p>第12回：法助動詞(2) 願望，可能性，助言，必要性</p> <p>第13回：準動詞（動名詞，不定詞，分詞）</p> <p>第14回：前置詞，群動詞，接続詞</p> <p>第15回：リーディング&ライティングアクティビティ(2) 話者の意図を読み取る・書く</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	予習の状況，発表などの受講態度によって評価する。特に予習を重視する。			
	レポート	40%	教科書にある「課題」から，各自の問題意識に応じた課題を選んでレポートしていること。レポートは返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

予習・復習を強く求める。また小テストにもきちんと取り組むこと。

【授業外学修】

- 1 復習として、小テストの学修をする。
 - 2 予習として、教科書の授業内容に目を通し、疑問点を明らかにすると同時に、辞書などを使って、練習問題を解く。
 - 3 発展学修として、自ら求めて英文法問題集を解く。
- 以上の学修に、週1時間以上をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「GRAMMAR EXPRESS BASIC」	Marjorie Fuchs (著), Irene E. Schoenberg (著), Margo Bonner (著)	ピアソン・エデュケーション		
自由記 載					
参考書	自由記 載	田中 茂範 (著), 「表現英文法」コスモピア			

授業科目名 **英検演習**

サブタイトル 英検合格に向けて

授業番号 LJ105

担当教員名 藤代 昇丈 竹野 純一郎

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

実用英語技能検定試験（以下「英検」）の受験対策を行う。本年度の英検を受験することを前提とした講座である。単語帳の作成の仕方、過去問題への取り組み方などを学び、演習問題を中心に授業を行う。

【到達目標】

今後自律的に英検対策を行っていけるよう、自主学修の方法を習得することを目標とする。また、語彙・文法的知識、リーディング・リスニングスキルの強化を目指す。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：模擬テスト1, 単語帳の作り方
- 第2回：演習問題1（読解）, 解き直しの仕方
- 第3回：演習問題2（リスニング）
- 第4回：演習問題3（文法）
- 第5回：演習問題4（読解）
- 第6回：演習問題5（リスニング）
- 第7回：演習問題6（文法）
- 第8回：演習問題7（読解）, 振り返り
- 第9回：実用英語技能検定一次試験直前対策
- 第10回：試験問題解き直し, スピーキング練習
- 第11回：演習問題8, 面接対策
- 第12回：演習問題9, 面接対策
- 第13回：演習問題10, 面接対策
- 第14回：演習問題11, Q&Aセッション
- 第15回：模擬テスト2

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめられているかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他	10%	積極的に英検の受験に向けて学習し成果を挙げられているかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・授業中にはペアやグループでの活動を実施するので積極的に参加すること。

【授業外学修】

- 1 授業までに、指示されたテキストの問題を解き、疑問点を明らかにするよう、2時間以上予習すること。
- 2 授業で理解できなかった構文や文法項目を参考書などで調べまとめるなど、2時間以上復習すること。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2019年度版 英検2級 過去6回全問題集		旺文社	1,728円	
	英検2級 である順パス単		旺文社	1,404円	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	エクステンシブ・リーディング	サブタイトル		授業番号	LJ106
担当教員名	森年 ポール				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>この授業では、学生が個々のレベルに応じて楽しく読むことを手助けする。また、読みの技術、速さ、理解度、流暢さを向上させる。グレード別の読み物、プリント、ワークシート、Mreader（グレード別読み物のオンライン上の小テスト）を使う。ほとんどの授業で、時間を決めたリーディング演習をして、時間を計測する。また、学生それぞれが読んできた本の内容について話し合う。この授業では、授業外で本を読むことが欠かせない。この授業で身につけた読みの技術は、「英検演習」と「インテグレートッド・イングリッシュ A」の授業でも使うことができる。</p> <p>This course helps students to enjoy reading in English at their own level. It improves their reading skills, reading speed, comprehension and fluency. Graded readers, handouts, worksheets and Mreader (an online quiz program for graded readers) will be used. Most lessons will include timed reading drills and reading time. Students will also discuss books they have read. Reading outside of class is essential for this course. The reading skills developed in this course can also be used in the 英検演習 and インテグレートッドイングリッシュA courses.</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>学生は、この授業で学修する読みの技術を理解して使えるようになる。単位を取得するには、読みの速さ、理解度、流暢さにおいて少なくとも要求される最低限の能力を向上させなければならない。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p> <p>Students should be able to understand and use the reading skills included in this course. They must also improve their English reading speed, comprehension and fluency by reading at least the minimum required to pass.</p>					
【授業計画】					

第1回：「エクステンシブ・リーディング」の説明と学生個々のグレード別読み物のレベルチェック

Introduction to Extensive Reading (ER); Level placement check; The graded readers

第2回：時間を決めての反復リーディングとMreaderの説明

Introduction to repeated timed reading and Mreader

第3回：読みの技術: 自分のためになる本を選ぶ

Reading skill: How to choose a book that is good for you.

第4回：読みの技術: 総覧，登場人物紹介ページを使う，及び質問

Reading skill: Using glossaries, character pages and questions

第5回：本に関する学生同士のグループ・ディスカッション

Peer group book discussion

第6回：読みの技術: スキミング

Reading skill: Skimming

第7回：読みの技術: スキャニング

Reading skill: Scanning

第8回：読みの技術: 文脈やその他の手がかりから未知の単語の意味を推測する

Reading skill: Guessing the meaning of new words from context and other hints

第9回：読みの技術: ビジュアル化; 個別指導

Reading skill: Visualising; Tutorials

第10回：本に関する学生同士のグループ・ディスカッション

Peer group book discussion

第11回：読みの技術: 言い換えと要約

Reading skill: Paraphrasing / Summarising

第12回：読みの技術: 予測

Reading skill: Predicting

第13回：読みの技術: 内容の配列

Reading skill: Sequencing

第14回：読みの技術: 読むこと理由付け

Reading skill: Reasons for reading

第15回：本に関する学生同士のグループ・ディスカッション

Peer group book discussion

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト	30%	MReader quizzes
	定期試験		
	その他	70%	授業への英語を使った積極的参加 20%; 読みの速さの向上 20%; 学生同士のグループ・ディスカッションのレポート (3x10%)
	自由記載		

【受講の心得】

To develop reading skills, students must try to use the skills in this course. Reading in English is at your own level and pace, so it should not be too difficult. Also, students choose the books they read, so reading should be interesting and fun.

However, students must make the effort to attend, participate and use English.

【授業外学修】

Students should read for at least 35 minutes or more every day in their free time to develop their English reading skills, speed and comprehension.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Xreading VL	Paul Goldberg	XLearning Systems	1, 500円	9784865390698

自由記
載

参考書

自由記
載

プリント教材, ワークシート, 及びMreaderによる小テスト Prints, worksheets and Mreader quizzes

授業科目名 **日本の伝統文化**

サブタイトル

授業番号 LJ107

担当教員名 小野山 和男

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

日本の伝統文化の中から、ふるさと岡山と日本の美術について考える。日本美術の

絵画、仏像、やきもの、暮らしと美術に焦点をあてて考察する。日本文化の最も成熟し花開いた桃山時代の茶の湯とその周辺にある美術、工芸作品を知り理解を深めることで伝統とは何か、現代に生きる自分との接点を考える機会とする。

【到達目標】

日本の伝統文化について考え理解を深めるきっかけとなること。そのために必要な基本的な事柄や基礎となる価値観を学ぶこと。伝統文化に対して幅広い見方や柔軟な受け止め方ができるようになること。現代も伝統とは無縁ではなく繋がりのなかにあることを理解する。グローバル人材として日本、岡山の伝統文化に対する理解は欠かせない。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：オリエンテーション、伝統文化から何を学ぶか
- 第2回：岡山の伝統文化 岡山県立美術館－雪舟から国吉康雄まで
- 第3回：岡山の伝統文化 伊部陶芸美術館－須恵器と備前焼
- 第4回：岡山の伝統文化 大原美術館と瀬戸内芸術祭
- 第5回：岡山の伝統文化 岡山の作家たち 平櫛田中ほか
- 第6回：やきもの制作－絵皿の制作
- 第7回：日本美術 絵巻物の世界、襖絵と屏風
- 第8回：日本美術 狩野派と琳派
- 第9回：日本美術 浮世絵
- 第10回：やきもの制作－マダカップの制作 縄文土器と弥生土器
- 第11回：日本のやきもの－縄文土器と弥生土器、須恵器
- 第12回：日本のやきもの－織部、志野、黄瀬戸、備前焼
- 第13回：日本のやきもの－伊万里と鍋島
- 第14回：課題プレゼン発表1
- 第15回：課題プレゼン発表2 課題レポート提出

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	毎回の講義の取組を評価する
	レポート	30%	課題意識、取組を評価する
	小テスト	20%	理解度を評価する
	定期試験		
	その他	20%	課題プレゼンをとおして取組、理解度、表現力を評価する
自由記載	レポートの成果 30%、試験結果 50%、授業への取り組み 20%（毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する）		

【授業外学修】

岡山県内の美術館を見学レポートを提出すること。この学習に週当たり4時間以上を充てること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	日本の美術	田中日佐夫	東京美術	2000円+ 税	
	自由記載	毎回の授業に使用する。			
参考書	自由記載				

授業科目名	日本のポップカルチャー	サブタイトル		授業番号	LJ111
担当教員名	中川 浩一				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>日本発信のコンテンツとして「クールジャパン」と称される日本のポップカルチャーを定義しその歴史的素地や文化的な構築状況を理解する。</p> <p>ポップカルチャーとしての実際を知ることによってそれぞれの分野での作品の鑑賞力・批評力を高める。</p> <p>また海外での展開やとらえ方についても理解を深め、世界的な視座から日本的文化状況の再理解を進める。</p> <p>現在進行形で姿を変えつつあるポップカルチャーのありかたを時事的に捉える。</p> <p>ポップカルチャーとしての成立要件について観察しその知見を元に新しいポップカルチャーの萌芽を発見する。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のポップカルチャーが内包する分野や構造について理解し、その特異性と普遍性について比較検討的にまた分析的に論じることができる。 ・海外からみた場合の日本のポップカルチャーのありようについて、実情を踏まえた上で独自の視点から論じ、その内包する問題点についても批評できる視座を持つ。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

第1回：日本のポップカルチャーとはなにか？

- ・その定義と展開の概要
- ・ポップカルチャーの成立要件

第2回：キャラクター論 1

- ・「キャラクター」の記号性について
- ・「キャラクター」はいかにして生まれたか？

第3回：キャラクター論 2

- ・属性によるキャラクター分析
- ・属性と物語性の連関関係

第4回：キャラクター論 3

- ・初音ミクの衝撃
- ・Vtuberの誕生
- ・物語とキャラクターの分断

第5回：コミックイラスト論

- ・コミックイラストという存在
- ・見る側の権力装置としてのキャラクターイラスト
- ・属性創成と絵画への回帰

第6回：アニメ論 1

- ・アニメーション表現の成立過程
- ・「凸坊新画帖」の誕生
- ・「ディズニー」的表現の内包
- ・政岡憲三の衝撃

第7回：アニメ論 2

- ・「東映動画」の時代
- ・手塚治虫の功罪
- ・テレビアニメの誕生

第8回：アニメ論 3

- ・アニメーションブーム
- ・物語の多様化と細分化
- ・「ANIME」の誕生

第9回：アニメ論 4

- ・テクノロジーがもたらすアニメ表現の変化
- ・3DCG/セルルック/VFX/Live2D/Unity/Unreal
- ・海外アニメーションとの乖離

第10回：デジタル音楽論

- ・作曲環境(DAW)による楽曲制作
- ・DAWがもたらした「音楽革命」
- ・ミクPからメジャーデビューまで多面的な「アーティスト」展開

第11回：マンガ論 1

- ・現代のマンガはどうやって作られているか？
- ・現代マンガ家の作画法
- ・マンガ的表現の萌芽とその歩み
- ・コマ割の概念の登場

第12回：マンガ論 2

- ・マンガ家「手塚治虫」
- ・貸本マンガからガクの登場
- ・マンガのメジャー化
- ・少女漫画の成立

第13回：マンガ論 3

- ・マンガからMANGAへ
- ・海外からのまなざし

第14回：コスプレ論

- ・コスプレの志向性
- ・二次元の現実化なのか二次元への同一化なのか？
- ・「コスプレイヤー」の成立

第15回：ポップカルチャーの磁場論～コミケとデザフェスとYouTube

- ・ポップカルチャーの展開伸張の場としてのコミケ
- ・ポップカルチャーの萌芽空間としてのデザフェス
- ・ポップカルチャーの感動共有装置としてのYouTube～「○○してみた」の成立

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な授業態度・授業への貢献度・授業への参加度（ディスカッション等）
	レポート	85%	授業に則した特定のテーマを設定したレポートを複数回課す。課題テーマを吟味熟考し理解していること、またその内容について具体的に論述できていること。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・積み重ね学習であるので前回までの授業内容は必ず理解し把握しておくこと。
- ・授業終了前に次回内容について予習すべき内容を説明するので次回授業にはそれを予習した上で臨むこと。
- ・前回授業時に映像あるいは書籍あるいはプリントの読了あるいはリサーチを指示した場合は必ずそれをしてこること。
- ・講義中に議題について頻繁に質問するので正解不正解に拘らず積極的に答えること。
- ・課題提出についてはデジタル環境を利用するのでメールアドレスが必要（GmailやYahooメールなどフリーメールでよい）。

【授業外学修】

授業に際しては前回までの授業内容を理解し把握しておくこと。また疑問点などを整理し授業に備えること（積み重ね学習であるため）。

授業計画に則して、講義中に動画視聴や著作査読を指示するので必ず実施すること。

特定のテーマについてリサーチすることを指示するのでそれも実施すること（それによって得られた知識をベースに講義は展開されるため）。

リサーチした内容について自分なりの視座から社会的な意味性や文化的背景について一定の意見を形成しておくこと。

<以上週当たり各4時間以上学修すること>

使用テキスト	自由記載	使用しない。（講義内で参考映像を上映して解説する他、必要に応じてプリントを配布するあるいはレジユメ形式のPDFをダウンロード可能なかたちで提示する）
参考書	自由記載	『ユリイカ 2018年7月号 特集=バーチャルYouTuber』（青土社）ISBN-10: 4791703510 『平成最後のアニメ論』町口哲生（ポプラ社）ISBN-10: 4591162397 『21世紀のアニメーションがわかる本』土居伸彰（フィルムアート社）ISBN-10: 4845916444 『視覚文化「超」講義』石岡良治（フィルムアート社）ISBN-10: 4845914301 『日本文化の論点』宇野常寛（ちくま新書）ISBN-10: 4480067132 『まんが学特講 目からウロコの戦後まんが史』みなもと太郎 / 大塚英志（角川学芸出版）ISBN-10: 4046214465 『「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか』大塚英志（角川oneテーマ21）ISBN-10: 4047100196 『日本のアニメは何がすごいのか 世界が惹かれた理由』津堅信之（祥伝社新書）ISBN-10: 4396113595 『小池一夫のキャラクター新論 ソーシャルメディアが動かすキャラクターの力』小池一夫（小池書院）ISBN-10: 481491332X 『初音ミクはなぜ世界を変えたのか?』柴那典（太田出版）ISBN-10: 4778313968 『コスプレする社会—サブカルチャーの身体文化』成実弘至（編集）（せりか書房）ISBN-10: 4796702903

授業科目名 **日本語学概論**

サブタイトル

授業番号 LJ108

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

外国人に日本語を教えるという日本語教育の観点から日本語を見直すとともにその論点や問題点を考える。また、身近な言語表現を取り上げ、そのしぐみを歴史的・社会的背景とともに考察する。そして、豊かで鋭い言語感覚を身につけ、日本語を客観的に観察することができる能力を養い、日本語学の基礎的知識を学ぶ。

【到達目標】

豊かで鋭い言語感覚を持つとともに、日常的に使用している日本語を客観的に観察することができること、また日本語学の基礎的知識を習得し、多文化理解への視野を広げ、国際的な感覚を身につけることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション・日本語学とは何か

第2回：世界の言語と日本語

第3回：音声・音韻(1)

第4回：音声と音韻(2)

第5回：文字・表記(1)

第6回：文字・表記(2)

第7回：語彙(1)

第8回：語彙(2)

第9回：文法(1)

第10回：文法(2)

第11回：文法(3)

第12回：社会言語学

第13回：第二言語習得

第14回：言語生活

第15回：この授業のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	アクティブラーニングを積極的に取り入れグループの話し合いや簡単な発表などを適宜行う。
	レポート	30%	与えられた課題について自分の考えを具体的に書くこと。
	小テスト		
	定期試験	30%	最終的な理解度、到達度を評価する。
	その他		
	自由記 載		

【受講の心得】

グループごとで話し合いや発表を行うことがあるが積極的に参加してほしい。

【授業外学修】

1. 与えられた項目を予習しておくこと。2. 講義で学んだ学習内容を再確認して次の講義に臨むこと。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新しい日本語学入門		庵功雄	スリーエーネットワーク	2000円	9784883195893
	自由記載					

ビジネス実務総論

授業科目名 **I (企業・ビジネス概論)** サブタイトル

授業番号 LJ112

担当教員名 伊藤 末高

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、ビジネスの実務における基本である経営学の基礎的な知識を学ぶ。また、就職活動を念頭においたキャリア開発についても学修する。

【到達目標】

ビジネスを遂行するのに必要な基礎的知識を学び、どのようなものか理解できるようになること。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：経営学の要点(1)

第2回：経営学の要点(2)

第3回：経営学の要点(3)

第4回：経営学の要点(4)

第5回：会社を理解する(1)

第6回：会社を理解する(2)

第7回：会社を理解する(3)

第8回：会社を理解する(4)

第9回：ビジネスの現場(1)

第10回：ビジネスの現場(2)

第11回：ビジネスの現場(3)

第12回：ビジネスの現場(4)

第13回：キャリア開発と就職活動(1)

第14回：キャリア開発と就職活動(2)

第15回：キャリア開発と就職活動(3)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
	小テスト		
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）
	その他		
	自由記載		授業での発言等は最大5%の加点となる。授業での発言はプラスの評価のみであり、どのような内容でもマイナスの評価を受けることはないため、積極的な発言を求める。

【受講の心得】

授業中は、「聞いて」「考えて」「発言する」ことを心掛けること。

【授業外学修】

授業時に配布したレジュメの見直しをすること。

また、授業の前後には、講義のテーマに関して、新聞、雑誌、インターネットなどの記事を参照すること。

上記を週あたり、4時間以上学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『イチから学ぶビジネス』（2016）	小野正人	創成社	5470円	4794424817

自由記載

参考書	自由記載	適宜、提示する。
-----	------	----------

授業科目名 **地誌学**

サブタイトル

授業番号 LJ113

担当教員名 日野 正輝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

地誌学は、地表の自然および人間居住の地域的多様性を記述し、多様性が生まれた歴史および仕組みを理解する学問である。この講義では、次に掲げる世界の大都市9都市を取り上げて、主に1980年代以降の変容に焦点を当てて、各都市の特異性と共通性を学ぶことにする。同時に、世界経済のグローバル化の具体的な動きを都市の景観の形成を通して理解できるようにする。ロンドン、ニューヨーク、北京、上海、ソウル、シンガポール、バンコク、デリー、東京。

【到達目標】

世界の大都市の個性に関心を払うと同時に、現代都市の理解においては、グローバル化についての基礎的知識が必要とされる。そこで、世界の大都市の新しい景観を通して、グローバル化の具体的な姿を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：世界の都市化と大都市の空間構造
- 第2回：世界に先駆けて大都市化したロンドン
- 第3回：ロンドンの衰退と再生
- 第4回：ニューヨークの変容
- 第5回：変容を続けるシンガポール（1）
- 第6回：変容を続けるシンガポール（2）
- 第7回：バンコクのメガシティ化（1）
- 第8回：バンコクのメガシティ化（2）
- 第9回：中国の大都市：北京
- 第10回：中国の大都市：上海
- 第11回：インドの首都デリー
- 第12回：デリーの郊外開発
- 第13回：メガシティ・ソウルの空間構造
- 第14回：成熟段階を迎えた東京大都市圏
- 第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	
	レポート	20%	
	小テスト	30%	
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず関連情報をインターネットを使って収集し、世界の大都市で現在起きている興味深い現象について紹介し、意見交換すること。

【授業外学修】

授業中に説明した内容をインターネットおよび参考文献を活用して復習し、理解を深める。そのために、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する。

授業科目名 **比較文化論**

サブタイトル (日米比較)

授業番号 LJ114

担当教員名 松本 青也

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

主にアメリカ人と日本人の考え方や生き方を、国際調査の結果やアメリカのテレビ番組などの分析をもとに様々な側面から比較対照すると共に、実際にLanguage Exchangeのウェブサイトを活用して英語圏の人々と交流し、その体験について報告・発表する。

【到達目標】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、主にアメリカを中心とする英語圏と日本を比較対照し、それぞれの文化の特質を浮き彫りにすることで異文化理解を深めながら、英語圏の人々との異文化コミュニケーションを実際に体験することで、文化の多様性や異文化交流の意義を理解する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：初めに：文化とは何か

(1)異文化コミュニケーションに必要な異文化理解とは

(2)Language Exchangeのウェブサイトを活用した異文化交流について

第2回：「謙遜志向」対「対等志向」

第3回：「集団志向」対「個人志向」

第4回：「依存志向」対「自立志向」

第5回：「形式志向」対「自由志向」

第6回：「調和志向」対「主張志向」

第7回：「自然志向」対「人為志向」

第8回：「悲観志向」対「楽観志向」

第9回：「緊張志向」対「弛緩志向」

第10回：英語圏の人々との異文化交流の実践報告と、課題についての討議

第11回：日米の宗教

第12回：言語衝突と文化摩擦

第13回：異文化理解と学校英語教育

第14回：研究対象としての異文化

第15回：英語圏の人々との異文化交流についての発表

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業での発言、授業後に提出するリアクションなどによる評価
	レポート	50%	授業やテキストの内容を的確に把握した上で、身近な事例を挙げて自分なりの視点から課題を考察していること。コメントによるフィードバックを行う。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載	30%	異文化交流の実践報告と発表の内容を評価する。

【受講の心得】

学期の初めにテキストを購入し、集中講義が始まるまでに最後まで一通り読んでおくこと。

【授業外学修】

- ・学期の初めから、週当たり4時間以上かけてテキストを読み、各章の内容について疑問に思ったことを調べたり感想をまとめておくこと。
- ・毎回授業の初めに、テキストの該当箇所について感想を聞くので、必ず前もって読んでおくこと。
- ・授業後に、テキストと授業内容について考えたことや調べたことをリアクションとして提出すること。
- ・Language Exchangeのウェブサイトを活用して英語圏の人々とメールやテキストチャット、ボイスチャットなどで交流すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新版 日米文化の特質 一価値観の変容をめぐってー	松本青也	研究社	2, 200円	432737735X
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	異文化社会アメリカ	示村陽一	研究社	2, 200円	4327421685
	英語は楽しく使うもの	松本青也	朝日出版社	864円	(電子書籍)
	自由記載				

授業科目名 **TOEIC演習** サブタイトル 授業番号 LJ115

担当教員名 竹野 純一郎

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

TOEICの受験をこれから考える学生を前提とした入門講座である。TOEICのテストの内容については <http://www.toeic.or.jp/>を参照すること。

【到達目標】

TOEICテストの内容を知り、問題形式に慣れるとともに、問題に対応できる英語力を伸ばすことが到達目標である。教科書の内容については、確実に身に付けることを最低限到達すべき目標とする。具体的なTOEICテストの目標得点は600点である。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：Unit 1 Going Overseas
- 第2回：Unit 2 Going Shopping
- 第3回：Unit 3 Talking about Food and Health
- 第4回：Unit 4 Enjoying Sports and Entertainment
- 第5回：Review Test 1
- 第6回：Unit 5 Preserving Nature
- 第7回：Unit 6 Giving Directions
- 第8回：Unit 7 Going Job Hunting
- 第9回：Unit 8 Working in the Office
- 第10回：Review Test 2
- 第11回：Unit 9 Paying the Bills
- 第12回：Unit 10 Advertising a New Product
- 第13回：Unit 11 Renting an Apartment
- 第14回：Unit 12 Troubleshooting
- 第15回：Review Test 3

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	毎授業時に前時の復習の小テストを実施し理解度を評価する。小テストでは既習トピックに関する単語や熟語を扱う。
	定期試験	40%	中間・期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習では、語彙問題・リーディング問題を自力で解く。授業では、予習の答え合わせとリスニング問題を中心とした模擬問題を解き、解説を聞く。不明な点は必ず質問して解決すること。

英語力を伸ばすには、復習が特に大切である。付属CDも活用して、語彙・文法・リスニング・リーディングに関する授業内容の見直しを行い、知識と技能を確実なものにすること。

なお、授業には英和辞典（できれば英英辞典）を持参すること。電子辞書も可。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、既に学んだトピックで扱われた単語や熟度の暗記をする。
- 3 発展学習として、授業で学んだトピックのCDを繰り返し聞く。

以上の内容を、週当たり最低4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	TOEIC Test: On Target 〈Book 1〉 ; TOEICテスト: オン・ターゲット 〈Book 1〉	大賀リエほか	南雲堂	2, 100円 +税	978-4-523-17841-5
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **ポピュラー・ソング** サブタイトル

授業番号 LJ116

担当教員名 大橋 典晶

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

英語のリズム・語彙・文法の学習を、歌を通じて行う授業である。ここで言う「ポピュラー・ソング」とは、「英語の歌詞を持つ歌すべて」のことであり、特定のジャンルを意味するものではない。授業では、英語で歌われる楽曲を聞き、歌詞の内容を理解して、曲に合わせて歌ってみるなどの活動を行う。音楽の授業ではないので、歌が上手かどうかには関係なく、英語を耳と口と体全体で感じる授業としたい。最初の5回は、教員だけが楽曲を準備するが、第6回からは、学生が持ち回りで楽曲を準備し、他の学生にプレゼンテーションするという形態をとる。教員も、毎回1曲提供する。

【到達目標】

歌を上手に歌えるかどうかは、この授業の目標ではなく、評価の対象でもない。目標とするのは、英語コミュニケーション力の基礎を培うことである。

具体的には、歌を通して英語に興味をもち、その歌詞を通して語彙や文法力を高め、歌うことを通してリズムやイントネーションを身に付けることを目標とする。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能> に貢献する。

【授業計画】

第1回：We are the World/USA for Africa

第2回：The Tennessee Waltz/Patti Page と Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow Polka-dot Bikini/Brian Hyland

第3回：Hey Paula/Paul & Paula と Yesterday Once More/The Carpenters

第4回：Annie's Song/John Denver

第5回：Hotel California/The Eagles

第6回：学生プレゼンテーションとJamaica Farewell/Harry Belafonte

第7回：学生プレゼンテーションとOh, Pretty Woman/Roy Orbison

第8回：学生プレゼンテーションとLocomotion/Little Eva

第9回：学生プレゼンテーションとEl Condor Pasa/Simon & Garfunkel

第10回：学生プレゼンテーションとSir Duke/Stevie Wonder

第11回：学生プレゼンテーションとTears in Heaven/Eric Clapton

第12回：学生プレゼンテーションとI've Never Been to Me/Charlene

第13回：学生プレゼンテーションとDon't Want to Miss a Thing/Aerosmith

第14回：学生プレゼンテーションとNever Had A Dream Come True/S Club 7

第15回：学生プレゼンテーションとCan't Take my Eyes off you/Sheena Easton

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	授業中の積極的な受講態度、発表の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	曲紹介の準備とその発表の状況によって評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

しっかり声を出して歌いましょう。

【授業外学修】

プレゼンテーションの準備にはしっかり時間をかけること。

授業後の復習として、毎週30分程度は、授業で取り扱った曲を聴いたり、さらに歌詞を調べたりすること。

以上の学修を、15週合計で15時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	指定せず、自作のプリントを配付する。
参考書	自由記載	なし

授業科目名 **日本文化論**

サブタイトル

授業番号 LJ117

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

日本人にとって当然である事象であっても外国人にとって疑問や関心を持つことがあるが、この講義では外国人に日本文化を紹介できるようになる知識を学ぶ。

【到達目標】

1. 外国人に日本の文化の特異性を知るとともに紹介することができる。2. また外国人が疑問に感じていることや関心を持っていることを知り、自分なりに説明することができる知識を得ることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション 日本文化とはなにか

第2回：日本はどんな国か

第3回：日本の歴史(1)・発表

第4回：日本の歴史(2)・発表

第5回：ことばと文化(1)・発表

第6回：ことばと文化(1)・発表

第7回：ことばと文化(2)・発表

第8回：ことばと文化(3)・発表

第9回：年中行事(2)・発表

第10回：日本の食・発表

第11回：多文化共生・発表

第12回：宗教(1)・発表

第13回：宗教(2)・発表

第14回：現代文化とポップカルチャー・発表

第15回：この講義のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	参加度，積極性，発表の質で評価する。
	レポート	20%	客観的な視点から自分の意見がまとめられているかどうかで判断する。
	小テスト		
	定期試験	40%	理解度，到達で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業計画の提示されているテーマに関するプリントを読んで理解するとともに、自分の考えを整理しておくこと。

【授業外学修】

授業計画で示されているテーマに関する資料を読んでおき、自分の考えをまとめておくこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 毎回プリントを配布する予定。

参考書

自由記載

授業科目名	日本の食文化		サブタイトル		授業番号	LJ118
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>人間にとっての「食」の意味を考察し、良い食習慣の確立が健全な社会および健康で活力のある社会人の確立の基盤になることを講義する。そこで、主に日本人の食生活の変遷を学習しながら、食生活の成立・変容に影響を及ぼしてきたと考えられる様々な規制因子等を自然科学的な視野、さらに人文・社会科学的な視野で捉え、見直しながら、現代から未来への日本人としての食生活の智恵を講義する。</p>						
【到達目標】						
<p>(1)我が国固有の食（和食）について理解を深める。 (2)また個々の状況に応じた食生活の有り様を多角的に捉え考えられる能力を身につけ、これからの自分の食生活を見直すことが出来る。 (3)和食の基本的な事実や歴史を学習することは、異文化交流のシーズとなるはずで、学びの成果を将来あらゆる場面で役立てられる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：「和食」日本の伝統的な食文化 第2回：食文化の領域（定義，作法） 第3回：日本の食文化形成と展開 第4回：大陸文化，南蛮文化，欧米文化，多国籍の食，DVD「日本と世界の食文化」 第5回：主食の文化 第6回：副食の文化 第7回：調味料，油脂，香辛料，菓子，茶，酒 第8回：日本料理の形成と発展 第9回：日本料理の形成と発展，食器，食卓の文化 第10回：日常の食生活・非常の食生活 第11回：外食文化の設立と変化 第12回：行事食と地域の食文化 第13回：家庭・地域，学校，社会における食育 第14回：日々の食事を振り返る 食事バランスガイド DVDの視聴 第15回：食の未来展望，内容に関するディスカッション</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	授業終了時に当日の講義の要約等を記述して，提出される出席カードによって，評価を行う。			
	レポート	50%	授業に関連した課題について，その情報の正確性と記述内容を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

- ・講義科目でもあるが、一部演習作業も交え、理解を深める。
- ・受講生にとって食事は日頃あまり意識しないもの、気に留めないものであると思いますが、受講には興味をもって臨むこと。
- ・講義の事前事後学習とも、紹介文献等に目を通し、知識の定着化、階層化を図ること。

【授業外学修】

1回の講義当たり、講義内容の整理や復習、興味を持たれた部分をさらに自分自身で調べるなどの作業に少なくとも1時間程度をかけて、内容の理解や定着を図ること。授業で紹介する文献等について次回授業までに目を通すことも勧める。また、講義内容を理解するためにも、自分自身の食事に関心を持ち、講義で学んだことを各自の食生活の中に活かそうとする態度をもちつつ、学びを生活に役立てられる学修を行うこと。

以上の内容を週当たり4時間以上を充てること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト 日本の食文化	江原絢子 石川尚子	アイ・ケイ コーポレーション	2500	

自由記載 講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。

参考書

自由記載

講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。DVD「日本と世界の食文化」、DVD「食事バランスガイドで健やかに」

授業科目名 **日本語教育概論**

サブタイトル

授業番号 LJ119

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

日本語教育とは何か、教師に求められるものは何か、日本語教育の基礎的な知識に加え、コースデザインや4技能の指導法、コミュニケーションスキルなどを包括的な講義を行う。

【到達目標】

1. 日本語教師としての基本的な知識を習得することができる。2. 教授内容を把握するとともに、指導法の基礎を身につけることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション・日本語教育とは何か

第2回：国内外の日本語教育事情

第3回：日本語教師の役割

第4回：コースデザイン(1)

第5回：コースデザイン(2)

第6回：外国語教授法

第7回：日本語教育文法(1)

第8回：日本語教育文法(2)

第9回：初級の指導内容(1)

第10回：初級の指導内容(2)

第11回：教材・教具

第12回：日本語授業の実際

第13回：様々な教室活動

第14回：中級の指導内容(1)

第15回：中級の指導内容(2)・この講義のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	アクティブラーニングを積極的に取り入れグループの話し合いや簡単な発表などを適宜行う。
	レポート	30%	与えられた課題について自分の考えを具体的に書くこと。
	小テスト		
	定期試験	30%	最終的な理解度、達成度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

この講義ではディスカッション、発表などを行うので積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. 授業計画で示されたテーマを予習しておくこと。2. 講義で学んだ学習内容を再確認するとともに整理しておくこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 毎回プリントを配布する予定。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新・はじめての日本語教育2	高見澤孟	アスク	1900	978-4-87217-994-1
	自由記載				

授業科目名	吉備学（エリア・スタディーズ）		サブタイトル		授業番号	LJ202
担当教員名	日野 正輝					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 自分たちが日ごろ特別に意識することなく過ごしている場所・地域について、古代あるいは100年前はどのような場所であったのかと尋ねてみるだけで、場所・地域がそれまでと違ったものとして感じられるようになる。この授業では、身近な地域の観察からはじめて、岡山県南の自然環境の変遷、岡山県の歴史遺産を学習するとともに、地域を学ぶ上で有効な手法である「地図表現」として、コンピューターを使った地図作成の方法（GIS:地理情報システム）を学ぶ。これは統計データや自分で収集したデータを使って現在の地域の姿を把握するために身に付けておくに役に立つ方法である。						
【到達目標】 地元の歴史・風土に関心を持ち、身近な土地・景観を通して我々を取り巻く世界を考える態度を養う。同時に、地理情報システムの入門的学習を通し、地図表現のスキルを修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：岡山の自然 第2回：庭瀬の街並み 第3回：旧城下町としての岡山市街地の変遷 第4回：岡山県の日本遺産 第5回：岡山県の地場産業 第6回：倉敷市真備町の平成30年7月豪雨災害 第7回：デジタル地図（GIS）とMANDARA入門 第8回：都道府県別地図の作成 第9回：市町村別の統計地図の作成（1） 第10回：地図で見る岡山県内の地域差 第11回：小地域データの地図化（1） 第12回：小地域データの地図化（2） 第13回：施設分布の地図化 第14回：地図を使った地域紹介 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的に地域課題へ取り組む受講態度、発表、討議への参加によって評価する。			
	レポート	30%	「私が考える新しい地域の姿」について地域課題の背景と解決策を具体的に述べていること。			
	小テスト	20%				
	定期試験		最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

受講生は、授業で説明を受けた地図作成の方法をきちんと使いこなせるように反復練習すること。作成した地図に関連した情報をインターネットなどを使って収集し、地図の内容を解説できるようにする。

【授業外学修】

授業中に説明した内容をインターネットおよび参考文献を活用して復習し、理解を深める。MANDARAの修得には反復練習が欠かせない。そのために、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要に応じて自作のプリント教材を使用する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	フリーGIS ソフトMANDARA 10入門		谷 謙二	古今書院	2,400円 (税別)	978-4-7722-8118-8.
	自由記載	講義の中で適宜紹介する。				

授業科目名	観光英語A		サブタイトル		授業番号	LJ203
担当教員名	竹野 純一郎					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本講義では、主に海外を旅行する際に必要な知識と観光英語を学ぶ。言語を習得するには、繰り返し聴き、話すことが必要となるが、授業中に観光で想定される場面での会話練習の機会を増やすためにも、ハンドアウトを用いた予習は必須である。定期的実施する英語の語彙・表現テストには、授業中に扱う観光に必要な国内外の地理・歴史などに関する問題も含まれる。</p>						
【到達目標】						
<p>本講義では、観光に関連したテーマを扱うハンドアウトを用いて、実用的な語彙の増強を図りつつ、日常的な会話表現を含んだ実践的な英語表現を学ぶ。英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すと同時に、観光に関連したテーマの語彙・表現、背景となる国内外の地理・歴史などを学び、定期的に小テストで学力定着を確認することで「観光英語検定」対策も併せて行う。海外での旅行・観光の際に想定される様々な場面において、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：ツーリズム・イングリッシュとは？ 観光英語と旅行地理の必要性</p> <p>第2回：Chapter 1 Travel Information/Reservation アジアの旅行地理（1）</p> <p>第3回：Chapter 2 At the Airport/On a Airplane アジアの旅行地理（2）</p> <p>第4回：Chapter 3 Getting to a Hotel/At a Hotel アジアの旅行地理（3）</p> <p>第5回：Chapter 4 At a Restaurant/Dining ヨーロッパの旅行地理（1）</p> <p>第6回：Chapter 5 Asking for/Giving Directions ヨーロッパの旅行地理（2）</p> <p>第7回：Chapter 6 Transportation/Buses and Trains ヨーロッパの旅行地理（3）</p> <p>第8回：観光英検にチャレンジ(1)</p> <p>第9回：Chapter 7 At a Bank/Money Exchange 南北アメリカの旅行地理（1）</p> <p>第10回：Chapter 8 Sightseeing 南北アメリカの旅行地理（2）</p> <p>第11回：Chapter 9 At a Hospital/Pharmacy オセアニアの旅行地理（1）</p> <p>第12回：Chapter 10 Making Complaints オセアニアの旅行地理（2）</p> <p>第13回：Chapter 11 Dealing with Problems 中東・アフリカの旅行地理（1）</p> <p>第14回：Chapter 12 Tour Conductor Duties 中東・アフリカの旅行地理（2）</p> <p>第15回：観光英検にチャレンジ(2)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの 姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20%	課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。
小テスト	20%	小テストで観光英語の理解度を評価する。なお，小テストの実施はあらかじめアナウンスする。
定期試験	40%	中間・期末に授業内容の理解度を評価する。
その他 自由記載		

【受講の心得】

背景となる国内外の地理，歴史などに関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めてほしい。

【授業外学修】

- 1 予習として，ハンドアウトを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。
- 2 復習として，英語および観光の知識として不十分な部分をレポートにまとめる。
- 3 発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	授業で随時紹介する。

授業科目名	ビジネス・イングリッシュ	サブタイトル		授業番号	LJ204
担当教員名	山本 忠クレイグ				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>This course focuses on various language skills such as vocabulary: important new words and phrases; reading: authentic articles on a variety of topics from the Financial Times and other newspapers and books on business; listening: hear authentic interviews with business people and scripted recordings; and speaking: practice in realistic business situations, in relation to common problem areas in business at a basic level. Students will also develop essential business communication skills, such as making presentations, taking part in meetings, negotiating, telephoning, and using English in social situations. The contents link with Integrated English, Basic and Technical Seminar and other courses.</p> <p>Students are expected to come to every class and do all assigned homework. Students are expected to actively participate in daily lessons, using as much English as possible. Students should feel welcomed to asking questions to peers and the teacher in English. As this is a 2-credit course, students are required to spend at least 4 hours per week to study and do homework to help assure they are prepared for each lesson. It is most effective for students to study 20-30 minutes every day, rather than all at one time. There are no make up tests, so if you miss a test day without an exception note, you will get zero "0" points.</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>The objective of this course is to improve students' ability to communicate in English in a wide range of business situations. It will also develop the communication skills students need to succeed in business and will increase knowledge of the international business world.なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第1回： Introduction to Business English & Unit 1: Introductions - Introduce yourself 第2回： Unit 2: Work and Leisure - Discuss what people want from work 第3回： Unit 3: Problems - Talk about problems at work 第4回： Unit 4: Travel - Talk about business travel 第5回： Unit 5: Food and Entertaining - Discuss food from different countries 第6回： Unit 6: Buying and Selling - Talk about buying different products 第7回： Unit Assessment 1 (Unit 1-6) & Class tutorial 第8回： Unit 7: People - Talk about how you like to work 第9回： Unit 8: Advertising - Do an advertising quiz 第10回： Unit 9: Companies - Do a companies quiz 第11回： Unit 10: Communication - Do a communications quiz 第12回： Unit 11: Cultures - Look at some tips for doing business in another country 第13回： Unit 12: Jobs - Discuss jobs 第14回： Unit Assessment 2 (Unit 7-12) 第15回： Course Review & Final Evaluation</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	Active Participation		
	レポート	10%	Writing		
	小テスト	30%	Unit Assessments (2x15%)		
	定期試験				

その他 30% Online Homework

自由記載 For students to improve at a high level, students are expected to use English as much as possible and work with classmates to complete in-class activities.

【受講の心得】

Active participation is an important part of language development. To show understanding, students are expected to use English to share their ideas and opinions regarding content covered in class.

【授業外学修】

Students must do at least 4 hours per week of self-study to improve their business English skills. This will be done through online homework assignments and weekly journals. Students are encouraged to supplement classes with their own research to increase knowledge and understanding of the lessons.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Elementary Market Leader	David Cotton, David Falvey, Simon Kent with Nina O'Driscoll	Pearson Education	6048円	9781292134741

自由記載

参考書	自由記載	Along with the textbook, Elementary Market Leader, students MUST bring a dictionary, B5 notebook, and a course folder containing course handouts to every lesson.
-----	------	---

授業科目名	インテグレート ド・イングリッ シュC	サブタイトル	なし	授業番号	LJ205
担当教員名	森年 ポール 山本 忠クレイグ				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>This course develops students' ability to speak, listen, read and write in English to communicate more easily in familiar situations and to exchange non-routine, but non-technical information about less familiar topics. It will more deeply challenge students' research and presentation skills and assume that students have become more autonomous learners able to take responsibility for their own education. -CEFR B1-</p> <p>この授業では、学生が日常慣れ親しんだ話題ではより容易にコミュニケーションができ、それほど慣れ親しんでいないとは言えない話題については、日常を離れた、ただし専門的ではない情報を交換するために話し、聞き、読み、書く能力を伸ばす。また、より深く研究し発表する技能を学生に求め、学生が自己教育力に責任を持てる自立した学習者となることを前提とする。-CEFR B1-</p>					
【到達目標】					
<p>1. As 2nd-year students, you will be expected to show increasing maturity, learner independence and ability to take responsibility for your own learning. The teachers will support you in and out of class, but it is each student's responsibility to use and practice English as much as possible during the lessons. Students must show significant improvement by the end of the course.</p> <p>2年生として、より成熟し自立して自己の学修に責任を持てるようになっていくことを期待されている。教員は授業内外で学修のサポートをするが、授業中にできるだけ多くの英語を使って練習することは学生の責任である。進歩がほとんどなかったり、全くなかったりする場合には、単位を与えられない。</p> <p>2. Students must do self-study activities for every unit using the online workbook and submit their work by the deadlines. Students need to get at least 12% on self-study assignments in total to pass.</p> <p>学生はすべてのユニットにおいてオンラインのワークブックを使って自習し、締め切りまでに課題を提出しなければならない。単位の取得には、100点のうち少なくとも12%を自習課題で得る必要がある。</p> <p>3. This course is a progression from Integrated English A and B and is also connected to 2nd-year Tourism English A, Business English and Writing courses.</p> <p>この授業はインテグレートド・イングリッシュAとCからの発展コースで、2年次開講の「ツーリズム・イングリッシュA」、「ビジネス・イングリッシュ」、「ライティング」と関連がある。</p> <p>This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回 : Self-introductions; Administration; Course outline (自己紹介活動及び授業の進め方と概要の説明)
- 第2回 : Unit 1 – Education: A–B (教育: A–B)
- 第3回 : Unit 1 – Education: C–D and review (教育: C–D及び復習)
- 第4回 : Unit 2 – Personal stories: A–B (自己に関する物語: A–B)
- 第5回 : Unit 2 – Personal stories: C–D and review (自己に関する物語: C–D及び復習)
- 第6回 : Unit 3 – Style and fashion: A–B (スタイルとファッション: A–B)
- 第7回 : Unit 3 – Style and fashion: C–D and review (スタイルとファッション: C–D及び復習)
- 第8回 : Unit 4 – Interesting lives: A–B (興味深い人生: A–B)
- 第9回 : Unit 4 – Interesting lives: C–D and review (興味深い人生: C–D及び復習)
- 第10回 : Mini–test 1; Your research presentations; Individual tutorials (小テスト 1; 学生の研究発表と個別指導)
- 第11回 : Unit 5 – Our world: A–B (私たちの世界: A–B)
- 第12回 : Unit 5 – Our world: C–D and review (私たちの世界Our world: C–D及び復習)
- 第13回 : Unit 6 – Organizing your time: A–B (時間の管理: A–B)
- 第14回 : Unit 6 – Organizing your time: C–D and review (時間の管理: C–D及び復習)
- 第15回 : Unit 7 – Personalities: A–B (性格: A–B)
- 第16回 : Unit 7 – Personalities: C–D and review (性格: C–D及び復習)
- 第17回 : Unit 8 – The environment: A–B (環境: A–B)
- 第18回 : Unit 8 – The environment: C–D and review (環境: C–D及び復習)
- 第19回 : Mini–test 2; Individual tutorials (小テスト 2; 個別指導)
- 第20回 : Unit 9 – Relationships: A–B (人間関係: A–B)
- 第21回 : Unit 9 – Relationships: C–D and review (人間関係: C–D及び復習)
- 第22回 : Unit 10 – Living your life: A–B (人生を生きる: A–B)
- 第23回 : Unit 10 – Living your life: C–D and review (人生を生きる: C–D及び復習)
- 第24回 : Unit 11 – Music: A–B (音楽: A–B)
- 第25回 : Unit 11 – Music: C–D and review (音楽: C–D及び復習)
- 第26回 : Unit 12 – On vacation: A–B (休暇: A–B)
- 第27回 : Unit 12 – On vacation: C–D and review (休暇: C–D及び復習)
- 第28回 : Mini–test 3; IPA test; Individual tutorials; Research presentation practice (小テスト 3; 発音記号の小テスト; 個別指導; 研究発表の練習)
- 第29回 : Research presentations (two groups) (研究発表(2グループで))
- 第30回 : Course review, evaluation questionnaires; Submit research report (授業全体の振り返り, 授業評価アンケート, 研究レポート提出)

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート		
	小テスト	40%	3 mini–tests (小テスト3回) (3 x 10%), IPA test (発音記号の小テスト) (10%)
	定期試験		
	その他	40%	Online homework assignments (オンラインによる自習課題) (20%) (minimum 12% to pass) (合格には最低12%), Research presentation (研究発表) (20%)
	自由記載		

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり8時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Four Corners 3 with Online Self-study and Online Workbook	Richards, J.C. & Bohlke, D.	Cambridge University Press	4, 000円 +税	9781107664296
	自由記 載				
参考書	自由記 載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、教科書、ノート、ワークシートなど）を持参すること。			

授業科目名	経営学		サブタイトル		授業番号	LJ206
担当教員名	伊藤 未高					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
<p>本講では、企業の経営全般について体系的に学ぶ。大きくは3つの分類から構成されている。1つめは、企業経営とは何か、現代の経営環境はどのように変化しているかについて学ぶ。次に、企業経営の基本的な領域として、戦略、組織、生産、マーケティング、人的資源、財務の管理について学んでいく。最後に、近年見られる企業経営の新しい展開として、コーポレート・ガバナンス、グローバル経営、ベンチャーや企業倫理などについて学ぶ。</p> <p>授業では、各テーマにおける個別的な事象だけでなく、全体像を理解したり、事例を用いて、企業経営の実態を見る視点や分析する力を重視する。積極的に事例を盛り込むことで、企業の経営という広い領域についても、イメージできるようにする。</p>						
【到達目標】						
<p>企業とビジネスとの関係や企業の目的、現代の環境変化への対応、経営戦略やマーケティング等についての基本知識を理解することによって、雑誌、記事を読んだ際に、その内容の理解に基づき、内容の説明ができるようになること。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：企業経営とは何か (1) ～ 企業とビジネスの関係 第2回：企業経営とは何か (2) ～ 企業の目的と成果 第3回：企業経営とは何か (3) ～ 現代環境の変化への対応 第4回：企業経営の基本領域 (1) ～ 経営戦略 第5回：企業経営の基本領域 (2) ～ 生産戦略 第6回：企業経営の基本領域 (3) ～ マーケティング戦略 第7回：ケーススタディ (1) ～ 花王のシャンプー「メリット」の復活 第8回：企業経営の新展開 (1) ～ ビジネスの海外展開 第9回：企業経営の基本領域 (1) ～ 経営組織戦略 第10回：企業経営の基本領域 (2) ～ 人的資源戦略 第11回：企業経営の基本領域 (3) ～ 財務戦略 第12回：企業経営の新展開 (1) ～ コーポレートガバナンス 第13回：企業経営の新展開 (2) ～ グループ経営 第14回：企業経営の新展開 (3) ～ イノベーションとベンチャー 第15回：企業経営の新展開 (4) ～ 企業倫理</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）			
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

各講義において、講義内容の復習のポイントや、次の講義までに取り組むべき事項を提示するので、これらを行うこと。

特に講義内容を復習する際には、新聞や雑誌記事などで企業に関するニュースを読み、講義で学習した内容と照らし合わせて自分なりの分析を行うこと。

【授業外学修】

上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『現代経営入門』（2011）	高橋宏幸，丹沢安治，花枝英樹，三浦俊彦	有斐閣	2592円	4641183945

自由記載

参考書	自由記載	必要に応じて別途配布する
-----	------	--------------

授業科目名 **ホスピタリティ論**

サブタイトル

授業番号 LJ207

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

複雑化・高速化・高度化する多面的な現代社会において、あらゆる分野で適材適所の人財が求められている。経済が成熟し、モノがあふれている社会では、消費者の求める商品の質は高くなり、商品そのものの魅力だけではなく、消費者の「心」や「気持ち」を動かすようなホスピタリティあふれる販売方法の必要性も高まっている。新しい概念としての「ホスピタリティ・マネジメント」の導入は、医療・福祉・介護・生活文化・地域・金融・教育・旅行・外食・観光等で大きな成果を挙げている。ホスピタリティを理解し、ビジネスで活かすことを目的とする。

【到達目標】

社会動向とビジネス知識の関連性を習得できる。講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの構成を所与の条件に対してグループの一員としてマネジメントする力・教職する力を習得する。ホスピタリティ・マネジメントを理解することで“おもてなし”を含めた笑顔などの振る舞いの大切さが理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：ホスピタリティとは
- 第2回：ホスピタリティの歴史と文化
- 第3回：日本のおもてなし
- 第4回：ホスピタリティ・コミュニケーション
- 第5回：苦情対処とサービスリカバリー
- 第6回：ホスピタリティ・マネジメント
- 第7回：CS（顧客満足）・ES（従業員満足）
- 第8回：ケーススタディ(1) 旅行産業とホスピタリティ
- 第9回：ケーススタディ(2) 観光産業とホスピタリティ
- 第10回：ケーススタディ(3) サービス産業とホスピタリティ
- 第11回：事例研究(1) 旅行産業とホスピタリティ
- 第12回：事例研究(2) 観光産業とホスピタリティ
- 第13回：事例研究(3) サービス産業とホスピタリティ
- 第14回：事例研究(4) 業種別ホスピタリティの特徴とは
- 第15回：ホスピタリティのまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な授業態度, 授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	レポート・提出物
	小テスト		
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験
	その他 自由記載		

【受講の心得】

現代社会においてすべてのビジネスに必要とされる顧客指向への理解が深まる。ホスピタリティが企業業績に与える影響を理解することで、価値創造に対し新たな視点を持ったビジネス・パーソンへの基礎を作ることができる。

【授業外学修】

- ・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- ・毎回の授業内容について2時間以上復習しておくこと。
- ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ホスピタリティ・マネジメント入門 第2版	服部勝人	丸善(株)	2052円	4621079751

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **国際英語論**

サブタイトル

授業番号 LJ208

担当教員名 竹野 純一郎

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

15回の授業の前半は主に、それぞれの国が公用語・第2言語、あるいは国際語・共通語として英語を用いている歴史的背景や現状、そしてその問題点について学習する。後半は、国際英語の一例としてグロービッシュを取り上げ、その具体的な考え方や実際の用いられ方、そしてその問題点について学ぶ。

【到達目標】

科学技術の進歩やインターネットの普及にともない、英語を取り巻く環境は大きく様変わりしている。従来の母国語話者が用いる英語が正しい英語であるという考え方にとらわれず、非英語母語話者によるコミュニケーションツールとして用いられている英語に焦点を当てる。国際英語の一例として、ビジネスツールとして用いられている「グロービッシュ」について学び、ビジネスや国際交流の場面において用いられる国際英語を理解する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「国際英語」とは？「グロービッシュ」とは？

第2回：国際英語1 公用語／第2言語話者の英語（インドとその周辺地域の英語）

第3回：国際英語2 公用語／第2言語話者の英語（東南アジアの英語）

第4回：国際英語3 公用語／第2言語話者の英語（アフリカの英語）

第5回：国際英語4 公用語／第2言語話者の英語（カリブ地域の英語・そのほかの地域の英語）

第6回：国際英語5 国際語／共通語としての英語（ヨーロッパの英語・中東における英語）

第7回：国際英語6 国際語／共通語としての英語（東アジアの英語）

第8回：国際英語まとめ

第9回：グロービッシュ1（グロービッシュの必要性）

第10回：グロービッシュ2（語彙1：グロービッシュ1500語）

第11回：グロービッシュ3（語彙2：グロービッシュ1500語とVOAスペシャル・イングリッシュ1500語の比較）

第12回：グロービッシュ4（グロービッシュの求める構文・文法と日本人の構文・文法力）

第13回：グロービッシュ5（脱ネイティブ化する英語）

第14回：グロービッシュまとめ

第15回：まとめと振り返りのセッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	40%	課題のテーマについて調べ適切にまとめ、自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

指示された予習は必ずして授業に臨むこと。与えられた課題は自ら調べ、考えて取り組むこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子	昭和堂	2400円+ 税	978-4- 8122- 1227-1
	globish The World Over	Jean-Paul Nerriere, David Hon		1500円+ 税	978-4- 492- 04420-9
	自由記載				
参考書	自由記載	大橋典晶・竹野純一郎ほか「グロービッシュの求める構文・文法と日本人の構文・文法力」中国学園紀要第10号 竹野純一郎ほか「グロービッシュ1, 500語とVOAスペシャル・イングリッシュ1, 500との比較」中国学園紀要第10号 竹野純一郎ほか「Comparing the Globish Word List with Those Commonly Used in Japan (グロービッシュ語彙リストと日本で一般的に用いられている語彙リストとの比較)」CHUGOKUGAKUEN Journal, Vol.10 佐生武彦・竹野純一郎ほか「English that Breaks Away From The Native Standard As Seen From The Perspective Of A “Culture VS Civilization” Theory (「文化」対「文明」理論という視点から見た脱ネイティブ化する英語)」CHUGOKUGAKUEN Journal, Vol.11			

授業科目名	インテグレート ド・イングリッシ ユD	サブタイトル	なし	授業番号	LJ210
担当教員名	森年 ポール 山本 忠クレイグ				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>This course develops students' ability to speak, listen, read and write in English to exchange information on a wider range of familiar and unfamiliar non-technical topics. It will continue to challenge students' research and presentation skills and assumes that students have become autonomous learners able to take responsibility for their own education. CEFR B1+</p> <p>この授業では、学生が日常慣れ親しんだ話題、及びそれほど慣れ親しんでいるとはいえない、より広範囲な非専門的 的 話題について情報を交換するために話し、聞き、読み、書く能力を伸ばす。また、これまで同様に、研究し発表 する技能を学生に求め、学生が自己教育力に責任を持てる自立した学習者となっていることを前提とする。CEFR B1+</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>1. As 2nd-year students, you will be expected to take responsibility for your own learning. The teachers will support you in and out of class, but it is each student's responsibility to use and practice English as much as possible during the lessons. Students who show little or no improvement will not pass the course.</p> <p>2年生として、自己の学修に責任を持てることを期待されている。教員は授業内外で学修のサポートをするが、授 業中にできるだけ多くの英語を使って練習することは学生の責任である。進歩がほとんどなかったり、全くな かったりする場合には、単位を与えられない。</p> <p>2. Students must do self-study activities for every unit using the online workbook and submit their work by the deadlines. Students need to get at least 15% on self-study assignments in total to pass.</p> <p>学生はすべてのユニットにおいてオンラインのワークブックを使って自習し、締め切りまでに課題を提出しなけれ ばならない。単位の取得には、100点のうち少なくとも15%を自習課題で得る必要がある。</p> <p>3. This course is a progression from Integrated English A, B and C and is connected with 2nd-year Tourism English A and B courses.</p> <p>この授業はインテグレートド・イングリッシュA、BとCからの発展コースで、2年次開講の「ツーリズム・イン グリッシュA」と「ツーリズム・イングリッシュB」と関連がある。</p> <p>This course will contribute to acquiring knowledge and understanding of English and tourism, thinking and problem-solving abilities and language and IT skills among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能 〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回 : Self-introductions; Administration; Course outline (自己紹介活動及び授業の進め方と概要の説明)
- 第2回 : Unit 1 – The news: A–B (ニュース: A–B)
- 第3回 : Unit 1 – The news C–D and review (ニュース : C–D 及び復習)
- 第4回 : Unit 2 – Communicating: A–B (コミュニケーション: A–B)
- 第5回 : Unit 2 – Communicating: C–D and review (コミュニケーション: C–D 及び復習)
- 第6回 : Unit 3 – Food: A–B (食品: A–B)
- 第7回 : Unit 3 – Food: C–D and review (食品: C–D 及び復習)
- 第8回 : Unit 4 – Behavior: A–B (行動: A–B)
- 第9回 : Unit 4 – Behavior: C–D and review (行動: C–D 及び復習)
- 第10回 : Mini–test 1; Your research presentations; Individual tutorials (学生の研究発表と個別指導)
- 第11回 : Unit 5 – Travel and tourism: A–B (旅行と旅行産業: A–B)
- 第12回 : Unit 5 – Travel and tourism: C–D and review (旅行と旅行産業: C–D 及び復習)
- 第13回 : Unit 6 – The way we are: A–B (私たちの在り方: A–B)
- 第14回 : Unit 6 – The way we are: C–D and review (私たちの在り方: C–D 及び復習)
- 第15回 : Unit 7 – New ways of thinking: A–B (新しい考え方: A–B)
- 第16回 : Unit 7 – New ways of thinking: C–D and review (新しい考え方: C–D 及び復習)
- 第17回 : Unit 8 – Lessons in life: A–B (人生の教訓: A–B)
- 第18回 : Unit 8 – Lessons in life: C–D and review (人生の教訓: C–D 及び復習)
- 第19回 : Mini–test 2; Individual tutorials (小テスト 2; 個別指導)
- 第20回 : Unit 9 – Can you explain it?: A–B (説明できますか?: A–B) (説明できますか?: C–D 及び復習)
- 第21回 : Unit 9 – Can you explain it?: C–D and review (説明できますか?: C–D 及び復習)
- 第22回 : Unit 10 – Perspectives: A–B (ものの見方: A–B)
- 第23回 : Unit 10 – Perspectives: C–D and review (ものの見方: C–D 及び復習)
- 第24回 : Unit 11 – The real world: A–B (現実の世界: A–B)
- 第25回 : Unit 11 – The real world: C–D and review (現実の世界: C–D and review)
- 第26回 : Unit 12 – Finding solutions: A–B (解決法を見つける: A–B)
- 第27回 : Unit 12 – Finding solutions: C–D and review (解決法を見つける: C–D 及び復習)
- 第28回 : Mini–test 3; Individual tutorials; Research presentation practice (小テスト 3; 個別指導; 研究発表の練習)
- 第29回 : Research presentations (研究発表)
- 第30回 : Course review, evaluation questionnaires; Submit research report (授業全体の振り返り, 授業評価アンケート, 研究レポート提出)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート		
	小テスト	30%	3 mini–tests (小テスト 3 回) (3 x 10%)
	定期試験		
	その他	50%	Online homework assignments (オンラインによる自習課題) (25%) (minimum 15% to pass) (合格には最低) (15%), Research presentation (研究発表) (25%)
	自由記載		

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり 8 時間以上学修すること。

Students should spend 8 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Four Corners 4	J.C. Richards & D. Bohlke	Cambridge University Press	4, 000円	9781107644038
参考書	自由記載	Students must bring all their study materials (dictionary, textbook, notebook, worksheets, files, etc.) to every class. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、教科書、ノート、ワークシートなど）を持参すること。			

授業科目名 **世界遺産研究**

サブタイトル

授業番号 LJ211

担当教員名 日野 正輝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

「世界遺産と地域」と題して、世界遺産を通して世界の自然と文化の多様性を理解するとともに、グローバルな視点を養い、遺産の保存の意義を学習する。授業は大きく3部からなる。第1部（第1～4回）は、自然、文化景観、文化財等の保存に関する考え方を概説した上で、世界遺産条約およびユネスコ世界遺産センターの活動を紹介する。第2部（第5～14回）は、世界遺産の事例を取り上げて、登録遺産の内容と保存の取り組み、地域への影響、問題点などについて検討する。ここでは、受講者をグループ分けして、グループごとに世界遺産の事例について文献調査し、それを報告して討議する。そのことを通じて世界遺産に登録された地域の風土・歴史・保存の取り組みと課題を検討する。

【到達目標】

世界遺産の保存の意義を理解するとともに、持続的な保存を可能にする地域のあり方について考察する視点を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：世界遺産の保存の思想と背景
- 第2回：日本の自然・文化財保護の制度
- 第3回：世界遺産と地域の観光振興
- 第4回：世界遺産保存が抱える課題
- 第5回：世界遺産：世界の自然遺産
- 第6回：世界遺産：日本の自然遺産
- 第7回：世界遺産：アジアの文化遺産1
- 第8回：世界遺産：アジアの文化遺産2
- 第9回：世界遺産：ヨーロッパの自然遺産
- 第10回：世界遺産：ヨーロッパの文化遺産
- 第11回：世界遺産：南北アメリカの自然遺産
- 第12回：世界遺産：南北アメリカの文化遺産
- 第13回：世界遺産：アフリカの世界遺産
- 第14回：世界遺産：日本の文化遺産1
- 第15回：世界遺産：日本の文化遺産2

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度と授業中の質疑応答。
	レポート	40%	授業内容に関係したテーマに関するレポートの構成力，説明・表現力，データ収集力。
	小テスト	30%	授業内容の理解の程度を毎回小テストで計る。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

受講生は、関心のある世界遺産を選び、資料収集し発表する。集団討議を通じて、世界遺産と地域との関係について、理解を深める。

【授業外学修】

授業中に説明した内容をインターネットおよび参考文献を活用して復習し，理解を深める。自分が関心を寄せる世界遺産について自習し，発表できるようにする。そのために，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。授業に必要な資料は適宜コピーして配布する。
参考書	自由記載	安江則子著『世界遺産学への招待』法律文化社，2011年。そのほか，授業のなかで適宜紹介する。

授業科目名 **国際関係論**

サブタイトル

授業番号 LJ212

担当教員名 井上 あえか

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

国際関係論は、突き詰めれば、なぜ戦争が起こるのかを究明し、どうしたら平和を実現し維持することができるかを追究する学問である。この授業では、日本を取り巻く世界情勢を中心として、緊迫する状況やその地理的・歴史的背景を地図や資料を使って考え、グローバル化する国際社会のゆくえと、日本が直面する諸課題を考える。

【到達目標】

過去の戦争と平和に関する国際関係の現実と理論を結びつけ、複雑に変動を続ける現代社会を理解する力を養うことを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：国際関係のとらえ方

第2回：日本を取り巻く国際関係（テキスト「地図で読む「国際関係」入門」第1章前半）

第3回：日本の安全保障（テキスト第1章後半）

第4回：アメリカのリーダーシップ（テキスト第2章）

第5回：新興国と先進国（テキスト第3章前半）

第6回：アジアの域内統合（テキスト第3章後半）

第7回：EUの実験（テキスト第4章）

第8回：発展途上国（テキスト第5章）

第9回：グローバリゼーションとは何か（テキスト第6章）

第10回：国際主体としての国際機関（テキスト第7章前半）

第11回：国際主体としてのNGO（テキスト第7章後半）

第12回：二一世紀の難題（テキスト第8章）

第13回：日本の課題（テキスト終章）

第14回：受講生による発表1

第15回：受講生による発表2

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度、質疑応答への参加によって評価する。
	レポート	40%	毎回の授業内容についてコメントシートを提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	30%	学期末に、「紛争・対立・暴力」から章を選んで発表する。 コメントシートは毎回の講義内容を理解し、自ら考えたことを記載する。
自由記載		第14回と第15回の授業では、西崎・武内編「紛争・対立・暴力」から、各自任意の一章を選んでよく読み、内容の紹介を行う。このプレゼンテーションは単位取得の必須要件になる。	

【受講の心得】

授業で使用するテキスト、配布資料を理解し、事柄を説明する態度を養う。

テキストの予・復習、参考文献の参照、コメントシートの提出等を通じて授業へ主体的に参加すること。

【授業外学修】

予習として、教科書の授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。

授業中に説明した内容を参考文献を活用して復習し、理解を深める。

日常的に関連する内容についてニュース、新聞、インターネット情報に注目すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	地図で読む「国際関係」入門	眞淳平	筑摩書房	860円+税	9784480689436
	紛争・対立・暴力—世界の地域から考える	西崎文子・武内進 —	岩波書店	820円+税	9784005008421
	自由記 載				
参考書	自由記 載	その他、授業の中で適宜紹介する。			

授業科目名 **ビジネス実務演習** サブタイトル 授業番号 LJ301

担当教員名 伊藤 未高 佐々木 公之

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 3年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

社会人として必要なビジネスの知識やスキル（企画・計画の立案，コミュニケーション，情報処理，プレゼンテーション等）を，講義と演習を通して学ぶ。

演習は，ロールプレイなどの体験型学習やグループに分かれてディスカッションや発表を行う。

【到達目標】

企画の立案やコミュニケーションの実践，プレゼンテーションの実施等を学ぶことで，ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。

また，演習時に企画の立案やコミュニケーションの実践，プレゼンテーションの実施をできるようになることである。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：会社とは，ビジネスとは，仕事への取り組み方

第2回：基本的なコミュニケーション（話し方，マナー）～演習～

第3回：顧客とのコミュニケーション（来客，訪問，営業・接客と交渉）～演習～

第4回：会議と会合～演習～

第5回：企画とプレゼンテーション（ビジネス文書の基本，企画から発表までの流れ）

第6回：企画とプレゼンテーション～演習(1)～

第7回：企画とプレゼンテーション～演習(2)～

第8回：チームワークと人のネットワーク～演習～

第9回：仕事の進め方（計画と実行，計画の重要性）～演習～

第10回：統計・データの読み方，まとめ方～演習～

第11回：情報収集（新聞・インターネットの活用）～演習～

第12回：会社の数字の読み方（売上と利益，コストの理解）～演習～

第13回：法律と税金の知識～演習～

第14回：会社をとりまく環境

第15回：会社をとりまく環境～演習～

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
	小テスト		
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）
	その他		
	自由記載		授業での発言等は最大5%の加点となる。授業での発言はプラスの評価のみであり，どのような内容でもマイナスの評価を受けることはないため，積極的な発言を求める。

【受講の心得】

授業中は，「聞いて」「考えて」「発言する」ことを心掛けること。

【授業外学修】

授業時に配布したレジュメの見直しをすること。

また、授業の前後には、講義のテーマに関して、新聞、雑誌、インターネットなどの記事を参照すること。

上記を週あたり、4時間以上学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『2019年版 ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト』（2018）	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団（監修）	日本能率協会マネジメントセンター	2160円	4820726900
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	『2019年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』（2018）	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団（監修）	日本能率協会マネジメントセンター	2160円	4820726897
	自由記載				

授業科目名 **日米関係**

サブタイトル

授業番号 LJ302

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

既存の歴史観や歴史事実に異議を申し立てる考察は、常に「陰謀論」として退けられてきた。しかしながら、各国における機密文書の全文公開などを通して、むしろ「『都合の悪い真実』が暴露され、白日の下にさらされないように、『陰謀論というレッテル』が貼られてきた」ことが分かってきた。この講義では、所謂「陰謀論」を参考にし、グローバリズムとショナリズムのせめぎ合いを基調にして、幕末から現在までの日米関係を概観する。

【到達目標】

日米関係についての基礎的な知識を習得し、今後日本人に求められる世界の見方を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：幕末の世界と日本
- 第2回：ジョン万次郎と米国
- 第3回：日露戦争と米国
- 第4回：FRBとウッドロー・ウィルソン
- 第5回：米国における対日排斥運動
- 第6回：真珠湾とルーズベルト
- 第7回：OSSと対日占領政策
- 第8回：東京裁判
- 第9回：米国製日本国憲法
- 第10回：米ソ冷戦の中の日本
- 第11回：60年代の日本と米国
- 第12回：1970 - 2000 の日米関係
- 第13回：911と世界と日本
- 第14回：トランプ大統領と安倍首相
- 第15回：まとめと今後の展望

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。
	レポート	40%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。
	小テスト		日米関連の歴史、人物、事件について発表、討論
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

この分野の内容を深く理解するために、英語で書かれた文献を多く読むように心掛けて欲しい。

【授業外学修】

【授業外学修】

1 予習として、テキストを熟読し、講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。

2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	授業中にプリントを配布する。

授業科目名 **英語学概論**

サブタイトル

授業番号 LJ303

担当教員名 大橋 典晶

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

英語をコミュニケーションのツールとしてではなく、研究の対象として扱い、これを記述するという学問の入門講座である。理論や概念ばかりに偏らないように、身近な事例から始めて、英語学の全体に広く触れる講座とした。使用教科書は平易に書かれているので、学生は、予習の段階で内容をつかんでおき、さらに、章末の「課題」に対する各自の考え、資料を用意しておく。授業では、「課題」についてお互いに議論する中で、さらに理解を深めていきたい。授業後には、課題についてのレポートを作成して、提出することとする。

【到達目標】

英語学の分野の中でも、以下の項目について概観し、基礎的な知識を身に付けることを目標とする。このことにより、各学生の将来の研究の方向性の検討に寄与したり、教員としてのより深い英語の理解につなげたりする。

【ことばの起源と語族、人間のことばと言語研究、英語の発音とスペリング、英語の語彙、標準英語の成立、英語のバリエーション、ことばと音声、音の組み合わせとアクセント、文ができるしくみ、文の内部構造、言葉の意味とコンテキスト、まとまりのある文章、ことばのやりとりにおけるルール、英語と文化など】

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>に貢献するものである。

【授業計画】

- 第1回：ことばの起源と語族
- 第2回：人間のことばと言葉研究
- 第3回：英語の発音とスペリング
- 第4回：英語の語彙
- 第5回：標準英語の成立
- 第6回：英語のバリエーション
- 第7回：ことばの変化
- 第8回：ことばと音声
- 第9回：音の組み合わせとアクセント
- 第10回：文ができるしくみと文の内部構造
- 第11回：言葉の意味とコンテキスト
- 第12回：まとまりのある文章
- 第13回：ことばのやりとりにおけるルール
- 第14回：英語と文化
- 第15回：ことばと社会、まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。
	レポート	40%	教科書にある「課題」から、各自の問題意識に応じた課題を選んでレポートしていること。レポートは返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

予習と授業中の積極的な発言を特に求めます。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「はじめての英語学」	長谷川瑞穂（編著）	研究社		
	自由記載				
参考書	自由記載	安藤貞夫・澤田治美（編）	「英語学入門」	開拓社	

授業科目名 **日・アセアン関係**

サブタイトル

授業番号 LJ304

担当教員名 日野 正輝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

アセアン10ヶ国は参加国の主権を重んじ、意思決定はコンセンサスに基づいて行われるが、次第に地域の経済的統合の度合いを高めつつある。2015年のアセアンの総人口は6.3億人を上回る。しかも、経済発展の著しい地域でもある。しかも、日本にとっては、近隣国だけに、今後、アセアン諸国との交流は政治、経済、文化のあらゆる分野において一層大切になってくる。授業では、アセアン加盟国のそれぞれの政治・経済・文化の特徴を概観し、日本との近年の関係について学習する。授業は、下記の教科書を使用して、受講生には、国別の概要紹介を割り当てる。受講生は担当した箇所について要旨を準備してプレゼンテーションする。

【到達目標】

急速な経済発展を続けるアセアンの潜在力を理解するとともに、今後の日・アセアン関係の在り方について考察できる視点を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ASEANの概観

第2回：タイの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（1）

第3回：タイの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2）

第4回：ミャンマーの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（1）

第5回：ミャンマーの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2）

第6回：カンボジア・ラオスの政治・経済・文化

第7回：フィリピンの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（1）

第8回：フィリピンの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2）

第9回：ベトナムの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（1）

第10回：ベトナムの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2）

第11回：インドネシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（1）

第12回：インドネシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2）

第13回：マレーシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（1）

第14回：マレーシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2）

第15回：シンガポールの政治・経済・文化の特徴と日本との関係

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極性や取り組みの態度など授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題として与えるレポートの結果を評価する。
	小テスト	30%	理解度を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

受講生は、授業で紹介される資料・データだけに留まらず関連情報をインターネットを使って収集して、質疑応答の時間にはそれにコメントを加えて紹介するような積極的な参加が期待される。

【授業外学修】

授業計画で紹介した内容に相当するテキストの箇所を精読するとともに、テキストに示された図表のデータでテキストの内容を確認する。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	図解 ASEANを読み解く 第2版	みずほ総合研究所	東洋経済 新報社	1800円 (税別)	978-4- 492- 09328-3

自由記載

参考書

自由記載 講義の中で適宜紹介。

授業科目名	英語文学概論		サブタイトル		授業番号	LJ305
担当教員名	福永 信哲					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 現代英語にも、言語としての発達の歴史が刻まれている。英語がブリテン島を起源にアメリカへ、他の植民地へと引き継がれ、多様性をもつに至った歴史は、英語テキストを熟読することによってよく味わわれる。受講生は、英語の歴史を概観した英語教科書を読むとともに、英語文学とその背景をなす文化の代表的なテキストを音読して、意味の奥行、姿・形の美しさ、音楽性を感じ取る感受性を養うことを求められる。同時に、英語発達の歴史を概観し、その言語としての特徴を学ぶことが期待される。						
【到達目標】 英語教員を目指す受講生が、英語原文テキストを読むことを通して、英語の背後にある文化を理解することを目標とする。英語文学に流れる基本的な人間観を英語の言語事実から読み取ってゆく。特に、音読練習は重視される。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 授業計画の枠組は、以下の通りである。授業の進度は適宜調整する余地があるが、基本的な枠組は守られる。音読とリスニングを重視する観点からCD、カセットテープなどネイティブスピーカーの音読素材が利用できる場合は、リスニングから入る。						
<p>第1回：授業方針の説明と資料の配布、初回講読練習</p> <p>第2回：英語の起源と特徴（アングロサクソン人のブリテン島支配と古英語の成立　ゲルマン語を起源として成立した古英語の特徴：自然語と音楽性）を教科書で学ぶ</p> <p>第3回：英語の起源と特徴（ノルマン人征服による古英語とフランス語の融合）その1　基層としての古英語にラテン語源のフランス語が加わってゆくプロセスを教科書で学ぶ</p> <p>第4回：英語の起源と特徴（ノルマン人征服による古英語とフランス語の融合）その2　素朴な古英語に聖書のラテン語源の文化言葉が融合するプロセスを教科書で学ぶ</p> <p>第5回：古英語とフランス語の融合によってもたらされた英語の特徴（アングロサクソン語源の言葉とラテン語源の言葉のバランス）を、現代英語文学テキストを読んで理解する</p> <p>第6回：シェイクスピアとその時代（エリザベス朝イギリス）イングリッシュ・ルネサンスとその気風を教科書で概観する</p> <p>第7回：シェイクスピアと欽定英訳聖書（近代英語の源流）その1　シェイクスピア劇の代表的テキストを読む</p> <p>第8回：シェイクスピアと欽定英訳聖書（近代英語の源流）その2、ヘブライ起源の聖書が英語に翻訳され、ブリテン島に根を下ろすプロセスを教科書で辿る；中間小テスト</p> <p>第9回：英語文学の代表的テキストを読む―その一　ワーズワスの詩を読む</p> <p>第10回：英語文学の代表的テキストを読む―その二　テニソンの詩を読む</p> <p>第11回：英語文学の代表的テキストを読む―その三　ディケンズの小説テキストを読む</p> <p>第12回：英語文学の代表的テキストを読む―その四　ジョージ・エリオットの小説テキストを読む</p> <p>第13回：英語文学の代表的テキストを読む―その五　ヘレン・ケラーの自伝を読む</p> <p>第14回：アメリカニズムの基本的テキストを読む―その一　アメリカ合衆国独立宣言とキング牧師の演説を読む</p> <p>第15回：アメリカニズムの基本的テキストを読む―その二　アメリカ精神の象徴としての大統領演説を読む</p>						
【授業計画 備考2】 各回の授業で学んだキーワード、フレーズを挙げ、内容のポイントをまとめるワークシートを数回課す。これを提出することを求められる。 コースの中間点で課せられる中間小テストは答案を、評点をつけて返す。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの姿勢／態度	20%	キーワード、フレーズと内容のポイントの課題レポートを基準に評価する
レポート	30%	次回の授業でフィードバックします。上記課題レポートを参照する。
小テスト	20%	授業のポイントの理解度を診る；英語の正確な読みが中心になる。
定期試験	30%	授業のポイントの理解度を診る；英語の正確な読みが中心になる。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

英語テキストを、辞書を引いて読み解いて、英語という言葉の多面的な特徴をつかんでもらう。事前学習としてテキストの予習は不可欠である（次週の予習範囲を予告する）。事後学習として、上記の課題レポートを提出してもらおう。

【授業外学修】

英語教科書とその他の資料の予習が求められている。辞書を引くことは必須の準備である。その他、人名、歴史・宗教用語はGoogleの検索エンジンを活用すること。復習は、キーワード、フレーズと、内容のポイントの課題レポートを提出することをもって代替する。

以上の学修に週当たり4時間以上を充てること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	BBC: The Story of English	Robert McCrum	英宝社	2000円	978-4-269-14060-8
自由記載	教科書の他に、テキスト資料を前もって配布します。予習の範囲もその都度指示します。授業後半のアメリカニズムに関する背景については、Susan Tripp 著 A Short History of the United States（篠崎書林、絶版）を刷って、配布します。				
参考書	自由記載	参考資料は、配布のハンドアウトに明示する。電子辞書の持ち込みを可とするが、必ず本の辞書（中英和辞典以上）を授業に持ってくる。本の英和辞典を持っていない受講生は、初回の情報提供を元にして、できるだけ早期に用意すること。			

【その他】

イギリスとアメリカの地図は必携である（プリントして配布する）。

【注意事項】

高校普通科の英語教科書を一通り学習した程度の英語語学力がないと授業についていくのは困難です。

授業科目名 **日・東アジア関係**

サブタイトル

授業番号 LJ306

担当教員名 富田 暁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

中国、朝鮮、台湾などの近隣諸国・地域と日本との関係を概観することで、「大国」である中国が中心となって形成した前近代東アジアの国際関係を説明する。日本を含めた東アジア内の関係を考えるにあたっては、東南アジアなど、歴史的な繋がりと比較の双方において重要な材料・視点を提示する、東アジアの周辺地域・勢力との関係にも留意しながら講義を進める。

【到達目標】

前近代の、日本を含む東アジア世界が展開した国際関係・秩序と、それらが現在の東アジア世界で見られる様々な政治状況や諸問題にも影響を及ぼしていることを知り、説明できるようになる。また、そうした関係・秩序の中で、国・地域の歴史や文化の固有性および共通性が形成されてきたことを理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「東アジア」の学び方：様々な「東アジア」

第2回：中国文明の成立と周辺諸地域

第3回：漢と倭国

第4回：邪馬台国の時代

第5回：古墳時代と鉄の国際交易

第6回：古代朝鮮と倭国

第7回：南北朝の時代と倭の五王

第8回：隋の国際関係と遣隋使

第9回：唐の成立と朝鮮半島と日本

第10回：遣唐使と東アジア

第11回：安史の乱と東アジア

第12回：唐の滅亡から日宋貿易へ

第13回：モンゴル帝国の時代

第14回：海禁と倭寇：明朝の時代

第15回：清代の東アジアと「鎖国」

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度や授業中の質疑への応答状況进行评估する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他	30%	授業後に授業に関するレスポンスペーパーを提出してもらう。課題への回答、授業へのコメント・質疑などの記入内容をもとに、意欲や理解度を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

授業内容の理解促進のために、高校までに学んだ日本史や世界史の知識、一般常識程度の地理知識を随時確認しておくことが望ましい。そのさいは、高校時などに入手した地歴教科の教科書や資料集などの利用が簡便である。

【授業外学修】

配布した資料や紹介する参考文献などをもとに予習・復習をおこなうこと。また、国際関係や東アジアに関する日々のニュースをチェックすること。

以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	決まったテキストは使用しない。講義ではレジюмеや資料プリントを配布する。
参考書	自由記載	講義中に適宜紹介する。

授業科目名 **国土計画論**

サブタイトル

授業番号 LJ401

担当教員名 日野 正輝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

人類は農耕を始めて以来、大地を開墾し、居住空間を拡大させてきた。産業革命以降、人々の国土利用は、大規模な土地改変を伴ったものになった。加えて、国土利用の在り方が、社会問題として問われるようになった。この授業では、岡山県の事例を参照しながら、日本において古代から近代までに行われた土地開発を概観した後、第二次世界大戦後に展開された日本の全国総合開発計画・国土形成計画を辿ることで、国土利用を巡って、これまでどのようなことが問題・検討されてきたのか、そして実際どのような開発が進められてきたかを理解する。次いで、全国計画と関連させながら岡山県、岡山市の総合開発計画を紐解き、地域の環境整備にあり方についても学習する。

【到達目標】

少子高齢社会を迎えて、地方農山村のなかには消滅の危険が指摘される集落が少なくないが、過去半世紀余りにわたって日本が取り組んできた国土計画のなかで検討された諸問題を理解し、今後の地域づくりを考える観点と思考力を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：古代・中世の国土開発：条理制・官道・灌漑用水路

第2回：近世の土地改変：瀬替え・干拓

第3回：近代の国土開発：農地開発・工業地帯造成

第4回：地域政策としての総合開発計画

第5回：国土総合開発法の体系

第6回：第一次全国総合開発計画（1）

第7回：第一次全国総合開発計画（2）

第8回：第二次全国総合開発計画

第9回：第三次・第四次全国総合開発計画

第10回：第五次全国総合開発計画

第11回：国土形成計画

第12回：国土の将来ビジョン

第13回：岡山県の総合開発計画にみる県土の変容

第14回：岡山市の総合開発計画にみる岡山市の姿

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	
	レポート	20%	
	小テスト	30%	
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず関連情報をインターネットなどを使って収集し、意見交換に努めること。

【授業外学修】

授業中に説明した内容をインターネットおよび参考文献を活用して復習し、理解を深める。そのために、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	情報処理I		サブタイトル		授業番号	LK101
担当教員名	赤木 竜也					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。						
【到達目標】 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：コンピュータの基礎知識 第3回：ワードプロセッサの基本 (文書の作成) 第4回：ワードプロセッサの活用 (編集機能) 第5回：ワードプロセッサの活用 (表・図形機能) 第6回：表計算ソフトの基本 (基本的な表の作成1) 第7回：表計算ソフトの基本 (書式設定) 第8回：表計算ソフトの基本 (基本的なグラフの作成) 第9回：表計算ソフトの基本 (基本的な表の作成2) 第10回：表計算ソフトの応用 (基本的な関数) 第11回：表計算ソフトの応用 (応用的な関数) 第12回：表計算ソフトの応用 (応用的な関数) 第13回：表計算ソフトの応用 (データベース機能) 第14回：アプリ間のデータ活用 第15回：総合演習・まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	習熟達成度を評価する		
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する		
自由記載						
【受講の心得】 コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。						
【授業外学修】 授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間半以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN

30時間でマスター
Word&Excel2016 (Windows10対応)

実教出版編修部

実教出版 1, 026円

978-4-
407-
34019-8

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	情報処理II		サブタイトル		授業番号	LK102
担当教員名	赤木 竜也					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容について学修する。</p>						
【到達目標】						
<p>情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を学び、情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：ビジネス文書の基礎知識 第2回：図形要素の挿入と取り扱い 第3回：演習Ⅰ 第4回：表の編集と段組み 第5回：長文に便利な機能 第6回：演習Ⅱ 第7回：表とグラフの作成 第8回：グラフの作成とデータ分析の基礎知識 第9回：演習Ⅲ 第10回：関数 第11回：データベース機能の利用 第12回：演習Ⅳ 第13回：WordとExcelの連携 第14回：総合演習 第15回：総合演習・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	70%	習熟達成度を評価する			
	その他	10%	授業中出題する演習問題について評価する			
自由記載						
【受講の心得】						
<p>コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。</p>						
【授業外学修】						
<p>授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間半以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

30時間アカデミック 情報基礎
Word&Excel2016

杉本くみ子/大澤栄
子

実教出版 1, 512円

978-4-
407-
34062-4

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	情報処理III		サブタイトル		授業番号	LK201
担当教員名	赤木 竜也					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および1年次開講科目「情報処理Ⅰ」「情報処理Ⅱ」を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環として表計算ソフトを用いて情報処理の発展的内容について学修する。						
【到達目標】 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、表計算ソフトの応用的技術を学び、情報に応じてより高度な表・グラフの作成およびデータの分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：表計算の基礎 第2回：外部データの取込 第3回：データ処理の基礎1(数式とテーブル) 第4回：データ処理の基礎2(グラフ) 第5回：データ処理の基礎3(関数の利用1) 第6回：データ処理の基礎4(関数の利用2) 第7回：データ処理の基礎5(関数の利用3) 第8回：データ処理の応用1(データの集計とデータベース処理) 第9回：データ処理の応用2(ピボットテーブルとピボットグラフ) 第10回：データ処理の応用3(マクロ) 第11回：データ処理の応用4(グラフ機能を利用したデータ分析) 第12回：実践データ処理1(関数の複合的利用) 第13回：実践データ処理2(作業グループとさまざまなグラフ) 第14回：実践データ処理3(基礎統計処理) 第15回：総合演習・まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	70%	習熟達成度を評価する			
	その他	10%	授業中出題する演習問題について評価する			
自由記載						
【受講の心得】 コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席(公欠を含む)する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。						
【授業外学修】 授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間半以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

30時間アカデミック 情報活用 Excel2016/2013 飯田慈子・米沢雄 実教出版 1, 620円 978-4-407-34029-7
介・岡本久仁子

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	ライティング	サブタイトル		授業番号	LL201
担当教員名	山本 忠クレイグ				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業は、仕事やビジネスのための、さまざまなタイプの短く簡潔な文章を書くことに焦点を当てる。これには、情報要求、招待、宿泊予約のための電子メール、入国カード、文書の付け紙、ファックス送付状、就職応募書類、履歴書を含む。学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。この授業は、「インテグレートッド・イングリッシュC」, 「基礎ゼミ」, 「専門ゼミ」などの授業と関連している。					
【到達目標】 この授業の目標は、学生の英語で書く基本的な能力と、短く簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法、語彙、句読法、綴り字法の知識を伸ばすことである。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：書くことについて考える 第2回：導入を書く 第3回：様々な様式を埋める 第4回：感謝を述べる 第5回：情報を要求する 第6回：ユニット小テスト1；詳細な情報を得る 第7回：招待し、会合の手配する 第8回：面会時間・場所を決め、それを変更する 第9回：指示を与える 第10回：問題に対応する 第11回：ユニット小テスト2; 描写する 第12回：意見を言い、推薦する 第13回：休暇について書く 第14回：趣味について書く 第15回：仕事に応募する ユニット小テスト3					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	英語を使っての授業への積極的参加		
	レポート	10%	毎週の作文課題		
	小テスト	45%	ユニット小テスト		
	定期試験				
	その他	20%	課題		
自由記載	英語を使っての授業への積極的参加 25%, 毎週の作文課題 10%, ユニット小テスト 3x15%, 課題 20%				

【受講の心得】

学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。

【授業外学修】

授業で直接指導できる時間は限られているので、学生は、自習と毎時間の授業のための準備と課題に週当たり4時間以上の学修が必要である。この学習は、一度に行うよりも、毎日30-40分学修するのが効率的である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Writing for the Real World 1	Roger Barnard & Dorothy E. Zemach	Oxford University Press	3034円	9780194538145

自由記
載

参考書

自由記
載

学生は、教科書とともに和英辞典、A4サイズのノート、授業プリントと課題を入れた授業用ファイル、自習課題を毎時間持参すること。

授業科目名 **観光英語B**

サブタイトル

授業番号 LL202

担当教員名 竹野 純一郎

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

この講義では海外から日本を訪れる留学生、旅行者などに対して、英語で日本紹介や簡単な通訳案内ができるようになることを目的としている。日本を訪れる人々に日本のことをより良く知ってもらうためには、英語と知識を磨かなければならない。英語での伝達能力を強化するために毎時間暗唱テストを行い、日本についての知識面を補強するために定期的に小テストを行う。

【到達目標】

本講義では、日本と観光について学び、その知識を英語で表現できるようにすることを目標とする。日本国内で通訳案内をする際に想定される様々な場面において、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：日本政府観光局（JNTO）について / 日本を紹介する英語表現

第2回：日本の地理・歴史 / 北海道

第3回：日本の観光（1） / 東北

第4回：日本の観光（2） / 関東（1）

第5回：日本の料理（1） / 関東（2）

第6回：日本の料理（2） / 中部（1）

第7回：日本の宗教 / 中部（2）

第8回：日本の伝統芸能（1） / 近畿（1）

第9回：日本の伝統芸能（2） / 近畿（2）

第10回：日本の行事 / 中国

第11回：日本の祝祭日 / 四国

第12回：日本の娯楽・スポーツ / 九州（1）

第13回：日本の教育・ビジネス / 九州（2）

第14回：日本の世界遺産（1）

第15回：日本の世界遺産（2）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調べ適切にまとめ、自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。
	小テスト	20%	小テストで日本の観光や英語に関する理解度を評価する。なお、小テストの実施はあらかじめアナウンスする。
	定期試験		
	その他	40%	毎授業開始時に前時に学んだ内容の通訳案内暗唱テストを行う。どれだけ覚えることができたかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

背景となる日本事象全般に関する知識が必要となるので、日頃から知識獲得に努めてほしい。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、前時に学んだ通訳案内模範文を暗記し、暗唱テストの準備をする。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	なし（毎回プリント配布）
参考書	自由記載	

授業科目名 **イングリッシュ・ドラマ** サブタイトル 授業番号 LL203

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 2年 開講期 後期
必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

受講生は、グループに分かれて、一つの物語に取り組み、約4ヶ月かけて英語劇の舞台を完成させます。具体的には、日本のむかし話（「花咲じいさん」、「カサ地蔵」または「さるかに合戦」）を英語で演じます。この舞台に向けて、特に発音、イントネーション、リズム等の音声面のトレーニングを重視します。

【到達目標】

到達目標は、与えられた役を人前で自信をもって演じられる（音声を含む）ようになることである。そのために、英語コミュニケーション力の向上の基盤となる、発音、イントネーション、リズムを向上させ、同時に語彙力も充実させる。さらに、非言語的要素（ジェスチャー、表情など）の表現力も向上させる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：英語の「演劇的アプローチ」とは何か？キャスティング
- 第2回：読み合わせ1（音声指導）
- 第3回：読み合わせ2（音声指導），半立ち稽古1
- 第4回：半立ち稽古2
- 第5回：音声チェック
- 第6回：半立ち稽古3
- 第7回：半立ち稽古4
- 第8回：セリフ・チェック
- 第9回：立ち稽古1
- 第10回：立ち稽古2
- 第11回：立ち稽古3
- 第12回：立ち稽古4
- 第13回：最終音声チェック
- 第14回：小返し
- 第15回：総稽古

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な演技への取り組み，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	70%	最終の上演時にセリフと演技を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

「台詞を覚えてくる」ことで他の受講生に迷惑をかけないことが大前提の授業である。

【授業外学修】

1 予習として、自分のセリフを暗記する。

2 復習として、授業で受けたセリフの発音、リズム、イントネーションをのやり方、指導を受けた演出を反復し、確実に身につける。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	日本のむかし話オリジナル英語シナリオ集 Vol.1 こんな英語学習方法も「あり」かな	佐生武彦	ふくろう 出版	1,300円 +税	4861863473
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	プロフェッショナル・イングリッシュA	サブタイトル	(ドラマの英語)	授業番号	LL301
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 海外ドラマ『グリー』を視聴し、ドラマの英語表現について講義する。豊富な演習問題や言語活動を通して、総合的な英語運用能力の向上を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙や重要表現を確認後、ドラマの内容を理解する。 2. ディクテーションやロールプレイなどの活動を通して、日常会話表現の定着を図る。 3. ドラマの内容に関連するトピックについてグループディスカッションをする。 4. 文法事項の確認をする。 5. 英作文問題を解く。 					
<p>【到達目標】 さまざまな場面に応じた会話表現について学び、自分の気持ちや考えを英語で表現できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>【授業計画 備考】 1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					

- 第1回：Unit 1 New Directions[Grammar in Focus 動名詞]
 〈Language in Focus 励ます〉
- 第2回：Unit 1 New Directions[Grammar in Focus 動名詞]
 〈Language in Focus 励ます〉
- 第3回：Unit 2 What's the Other Option?[Grammar in Focus 仮定法 1]
 〈Language in Focus 決意を示す〉
- 第4回：Unit 3 You're Leaving Us?[Grammar in Focus 現在完了形]
 〈Language in Focus 驚きを示す〉
- 第5回：Unit 4 Don't Stop Believing[Grammar in Focus 関係詞 1]
 〈Language in Focus 説得する〉
- 第6回：Unit 5 He's Not Coming[Grammar in Focus 不定詞]
 〈Language in Focus 謝罪する〉
- 第7回：Unit 6 I Want In[Grammar in Focus 分詞]
 〈Language in Focus 称賛する〉
- 第8回：Unit 7 Where Is Everybody?[Grammar in Focus 関係詞 2]
 〈Language in Focus 落胆を示す〉
- 第9回：Unit 8 You Inspire People[Grammar in Focus 使役動詞]
 〈Language in Focus 話を切り出す〉
- 第10回：Unit 9 He Doesn't Belong Here[Grammar in Focus 進行形]
 〈Language in Focus 感謝を示す〉
- 第11回：Unit 10 So Be It[Grammar in Focus 受動態]
 〈Language in Focus 会話を打ち切る〉
- 第12回：Unit 11 It's a Win-Win for Both of Us[Grammar in Focus 不定代名詞]
 〈Language in Focus 確認する〉
- 第13回：Unit 12 Thanks for Telling Me[Grammar in Focus 仮定法 2]
 〈Language in Focus 打ち明ける〉
- 第14回：Unit 12 Thanks for Telling Me[Grammar in Focus 仮定法 2]
 〈Language in Focus 打ち明ける〉
- 第15回：まとめ

評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
	レポート			
	小テスト		30%	既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。
	定期試験		50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
	その他			
	自由記載			

【受講の心得】

- ・ 予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。
- ・ 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

【授業外学修】

1. 予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。
 2. 復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN

『グリー』で学ぶコミュニケーション英語
1：ニュー・ディレクションズ結成

角山照彦 / Simon
Capper

松柏社

2,
200+税

978-4-
88198-
734-6

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **時事英語**

サブタイトル

授業番号 LL302

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

VOA (Voice Of America) のニュース英語を教材にして、リスニングとリーディングの能力を鍛える。具体的には、ホームワークとして、週に1本のペースで、Editorials (論説) を聴き取り、テキストを完成させる。授業では、完成させたテキストを、ニュースの背景を考慮しながら、熟読する。授業の残り20分を使って、学習した内容についての英語の質問に英語で答える活動を行う。

【到達目標】

英検2級程度のまとまった論説をリスニングとリーディングの両面で理解できるようにする。また、ニュースの背景になっている諸事情に対する興味・関心が持てるようにする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「時事英語」とは何か？何をどう勉強すればよいのか？

第2回：VOA Editorials No.01の読解・Q&A in English

第3回：VOA Editorials No.02の読解・Q&A in English

第4回：VOA Editorials No.03の読解・Q&A in English

第5回：VOA Editorials No.04の読解・Q&A in English

第6回：VOA Editorials No.05の読解・Q&A in English

第7回：VOA Editorials No.06の読解・Q&A in English

第8回：VOA Editorials No.07の読解・Q&A in English

第9回：VOA Editorials No.08の読解・Q&A in English

第10回：VOA Editorials No.09の読解・Q&A in English

第11回：VOA Editorials No.10の読解・Q&A in English

第12回：VOA Editorials No.11の読解・Q&A in English

第13回：VOA Editorials No.12の読解・Q&A in English

第14回：VOA Editorials No.13の読解・Q&A in English

第15回：VOA Editorials No.14の読解・Q&A in English

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	授業に持ち込むテキストの完成度、授業に取り組む姿勢
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	60%	最終的な聴解力と読解力を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

「継続は力なり」を実証するクラスにしたい。やれば必ず伸びます。やる気満々で参加して貰いたい。

【授業外学修】

1 予習として、授業で扱うテキストの完成 (ディクテーション) させる。

2 復習として、授業で学んだ語彙、文法等を再度チェックする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	「自主編纂のテキスト+mp3」を授業初日に配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **英語プレゼンテーション**

サブタイトル

授業番号 LL303

担当教員名 藤代 昇丈

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め、学んだり経験したことに基づいて、その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また、発表された情報や提案を聞いたりと読んだりして、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。

【到達目標】

英語を通して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また、英語を通して、発表された情報や提案を的確に理解し、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：英語によるプレゼンテーションとは

第2回：ニュースを読んでまとめてみよう —新聞を読もう—

第3回：ニュースを読んでまとめてみよう —新聞を読もう—

第4回：プレゼンテーションで使う表現を理解して、プレゼンテーションを実際に行おう

第5回：ニュースを聞いてまとめてみよう —ニュースを聞こう—

第6回：ニュースを聞いてまとめてみよう —ニュースを聞こう—

第7回：プレゼンテーションで使う表現を理解して、プレゼンテーションを実際に行おう

第8回：発表の仕方や討議に必要な表現を理解し、質問や意見を述べてみよう

第9回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —タイトルを決めて必要な資料を集めよう—

第10回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —発表内の全体像を考えよう—

第11回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —パラグラフ毎の英文を書いてみよう—

第12回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —パラグラフ毎の英文を書いてみよう—

第13回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —事前配布資料を作成しよう—

第14回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —プレゼンテーションを行おう(1)—

第15回：タイトルを決めてプレゼンテーションを行おう —プレゼンテーションを行おう(2)—

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する
	レポート	20%	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	40%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記載	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。
- ・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・知識から実践へと進むことができるように、積極的に授業に参加し、授業外でもしっかり練習をして欲しい。

【授業外学修】

- 1 課題については十分に調査してレポートを作成すること。
- 2 プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。
- 3 ペアやグループで作成する課題についてよく打ち合わせる事。

上記に関連して授業までに4時間以上の準備を要する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Successful Presentations An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージラーニング株式会社	2, 160	978-4-86312-212-3
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **日英翻訳演習**

サブタイトル (翻訳の英語)

授業番号 LL304

担当教員名 松浦 加寿子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

正確な英文を書くためには語彙力や語法、基本的な文法知識が必要である。英文構成力を身につけるために、短文を例示して文法事項の解説を行い、理解を深めてから演習問題を通して翻訳の方法について講義する。

【到達目標】

基本的な語彙や語法、文法項目について学び、自然な英語に翻訳できるようになることを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Pre-Unit 品詞と文の主要素

第2回：Unit 1 名詞の使い方

第3回：Unit 2 前置詞と人称代名詞

第4回：Unit 3 動詞の使い方

第5回：Unit 4 O (目的語) とC (補語)

第6回：Unit 5 文の主要素と文型

第7回：Unit 6 現在形 (三単現の-s) と過去形

第8回：Unit 7 未来を表す表現と現在完了：2語以上でVの場合(1)

第9回：Unit 8 ～している：2語以上でVの場合(2)

第10回：Unit 9 受動態：2語以上でVの場合(3)

第11回：Unit 10 ～される

第12回：Unit 11 助動詞：2語以上でVの場合(4)

第13回：Unit 12 英語の否定文はこう作る

第14回：Unit 13 英語の疑問文はこう作る

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
	レポート	30%	練習問題の英作文をやってくる。課題は、コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記 載		

【受講の心得】

- ・予習を前提として進めていくので、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。
- ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

【授業外学修】

1. 予習として、テキストを読み、未知の語句があれば辞書で調べて練習問題を解いておくこと。

2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Writing English for You in Japan 『書くための英文法』 形から学ぶ英語のルール	Masayuki Omote	南雲堂	1,700円 +税	9784523178897
	自由記 載				
参考書	自由記 載				

授業科目名 **日英通訳演習**

サブタイトル

授業番号 LL305

担当教員名 竹野 純一郎

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

このクラスは日英通訳トレーニング法の基礎的な手法を英語学習へと応用し、英語力を上げることと基礎的な日英通訳技術を身につけることをねらいとする。演習では通訳に関する基本理論、考え方を学びながら、Quick Response, Retention, Sight Translation, Shadowingなどのトレーニングを通して語彙、文法、などの実践力を養う。

【到達目標】

英語通訳に関する理解を深める。

英語から日本語、日本語から英語へのトレーニングを行い、簡単な逐次通訳ができる。

英語力を高め、特にリスニングの精度をあげる。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の能力を習得するために貢献する。

【授業計画】

第1回：通訳の基本 テキストUnit 1 家族

第2回：通訳トレーニング Quick Response・Repeating テキストUnit 2 大学生活

第3回：通訳トレーニング Dictation テキストUnit 3 趣味

第4回：通訳トレーニング Shadowing テキスト Unit 4 海外文化

第5回：通訳トレーニング Sight translation テキスト Unit 5 国際交流（1）

第6回：通訳トレーニング Retention テキスト Unit 6 国際交流（2）

第7回：通訳トレーニング Note taking テキスト Unit 7 日本の文化

第8回：演習 テキスト Unit 8 数字で説明する私たちの世界

第9回：演習 テキスト Unit 9 観光

第10回：演習 テキスト Unit 10 社会事情1

第11回：演習 テキスト Unit 11社会事情2

第12回：演習 テキスト Unit 12 コミュニケーション

第13回：演習 実技テスト（グループ別）

第14回：演習 実技テスト（グループ別）

第15回：総括 通訳トレーニングの個人学習への応用

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表、予習状況によって評価する
	レポート		
	小テスト	30%	語彙・文法力などの習熟度を評価する
	定期試験		
	その他 自由記載	50%	通訳の実技を行い評価する

【受講の心得】

英語にふれる時間を増やすとともに日本語を正しく話す練習も必要である。

身のまわりにあるものを英語で表現するように心掛け、毎日独り言でよいので必ず英語を話す。

積極的に演習に取り組むこと。（個人練習、パートナーとのペアワークなど様々な形態の練習に意欲的に取り組む。）

【授業外学修】

- 1 教科書の予習
- 2 チャレンジコーナーの復習
- 3 NHKの7時のニュース（9時のニュース）の英語放送を聞く。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Developing Interpreting Skills for Communication	Ayako Saito Hiroko Kawauchi Yoko Yasutake	南雲堂	1900円+ 税	978-4- 523- 17845-3

自由記載

参考書

自由記載

中山幸男『プロはこうして英語をモノにする』あさひ出版 橋本敬子・国井信一『究極の英語学習法 入門編ワークブック』アルク

授業科目名	プロフェッショナル・イングリッシュB	サブタイトル	(映画の英語)	授業番号	LL306
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>映画『ブラダを着た悪魔』を視聴し、ドラマの英語表現について講義する。豊富な演習問題や言語活動を通して、総合的な英語運用能力の向上を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 語彙や重要表現を確認後、ドラマの内容を理解する。 2. ディクテーションやロールプレイなどの活動を通して、日常会話表現の定着を図る。 3. ドラマの内容に関連するトピックについてグループディスカッションをする。 4. 文法事項の確認をする。 5. 英作文問題を解く。 					
<p>【到達目標】</p> <p>さまざまな場面に応じた会話表現について学び、自分の気持ちや考えを英語で表現できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：Unit 1 Job Interview [Grammar in Focus 過去完了形]
 〈Language in Focus 別れ際の挨拶〉
- 第2回：Unit 1 Job Interview [Grammar in Focus 過去完了形]
 〈Language in Focus 別れ際の挨拶〉
- 第3回：Unit 2 First Day on the Job [Grammar in Focus 助動詞 1]
 〈Language in Focus 依頼する〉
- 第4回：Unit 3 Hurricane on the Weekend [Grammar in Focus 関係代名詞 1]
 〈Language in Focus 反論する〉
- 第5回：Unit 4 Andy's Makeover[Grammar in Focus 現在進行形]
 〈Language in Focus 困惑を示す〉
- 第6回：Unit 5 Andy Meets Christian [Grammar in Focus 助動詞 2]
 〈Language in Focus 聞き返す〉
- 第7回：Unit 6 Miranda's Request [Grammar in Focus 分詞]
 〈Language in Focus 希望を伝える〉
- 第8回：Unit 7 Nate's Birthday [Grammar in Focus 仮定法]
 〈Language in Focus 驚きを示す〉
- 第9回：Unit 8 Andy's Decision [Grammar in Focus 現在完了形]
 〈Language in Focus 確認する〉
- 第10回：Unit 9 Breakup with Nate [Grammar in Focus 動名詞]
 〈Language in Focus 提案する〉
- 第11回：Unit 10 The Dream Job [Grammar in Focus 受動態]
 〈Language in Focus 意思・予定を述べる〉
- 第12回：Unit 11 Announcement at the Party [Grammar in Focus 関係代名詞 2]
 〈Language in Focus 称賛する〉
- 第13回：Unit 12 Andy's Final Choice [Grammar in Focus 使役動詞]
 〈Language in Focus 丁寧に依頼する〉
- 第14回：Unit 12 Andy's Final Choice [Grammar in Focus 使役動詞]
 〈Language in Focus 丁寧に依頼する〉
- 第15回：まとめ

評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
	レポート			
	小テスト		30%	既習事項について語彙や表現，文法項目などの理解度を評価する。
	定期試験		50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
	その他			
	自由記載			

【受講の心得】

- ・ 予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。
- ・ 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし，授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

【授業外学修】

1. 予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。
 2. 復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN

『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語
Aline Brosh Mckenna, 角山照彦 松柏社 2, 978-4-88198-200+税 712-4
/ Simon Capper

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	英語ディベート	サブタイトル	なし	授業番号	LL307
担当教員名	森年 ポール				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>This course aims to develop students' ability to form, express and support their considered opinions in English and to think critically, through discussion of social issues that should be directly relevant and important to the students.</p> <p>この授業は、学生が英語で自分の意見を形成し、表現し、それを裏付ける能力と、批判的に思考する能力を、学生自身に直接関係したり重要であったりする社会問題を議論することを通して伸ばすことを目標とする。</p>					
【到達目標】					
<p>Students are expected to discuss socially relevant topics such as parenting, friendships and self-image in a mature way. English should be used to communicate your ideas and the reasons for those ideas through conversation, opinion-sharing, discussion and short presentations. You will learn to reflect on your opinions, feelings and the beliefs they are based on, and to think more critically. This course connects with 「Professional English A, B」 and 「Introduction to English Literature」 courses.</p> <p>学生は、例えば親となること、友情、自己イメージといった社会的に関連した話題を、大人として議論することを期待されている。学生は、自分の考えやその理由を、会話、意見の共有、議論、プレゼンテーションを通して英語で伝えることになる。学生は、自分の意見や感情、そしてそのもととなる信念を熟考し、批判的に考えることができるようになる。この科目は、プロフェッショナル・イングリッシュ A・B と英語文学概論に関連している。</p> <p>This course will contribute to acquiring knowledge and understanding, thinking and problem-solving abilities, skills and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy.</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：Introduction to the course; Course administration (英語でのディベートの説明; 授業の進め方)</p> <p>第2回：First impressions: What a man thinks about a woman when they first meet (第一印象: 男は女に初めて会ったとき、何を考えるか。)</p> <p>第3回：Single or married? (独身を通すか結婚するか)</p> <p>第4回：Love, marriage and the role of romance and family in marriage</p> <p>第5回：Living together before marriage (結婚前に同棲すること)</p> <p>第6回：International relationships (国を超えた人間関係)</p> <p>第7回：Taking care of your parents in their old age (高齢となった親の世話)</p> <p>第8回：What are friends for? (友人は何のために?)</p> <p>第9回：How should teachers behave to be good roles models to students? (教師は、学生の模範となるためにはどうふるまうべきか)</p> <p>第10回：Why go to school? (なぜ学校に通うのか)</p> <p>第11回：Raising a child with a good education for success in life (子供の将来のために良い教育を提供しながら子育てをすること)</p> <p>第12回：Online-bullying (ネット上のいじめ)</p> <p>第13回：Are rumours helpful or harmful? (うわさは役に立つのか害があるのか)</p> <p>第14回：Weight issues and self-image (体重の問題と自己イメージ)</p> <p>第15回：Course review; Student course evaluation questionnaires (総復習)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		

授業への取り組みの姿勢／態度	20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
レポート		
小テスト	40%	Unit short tests (English knowledge) (ユニットごとの小テスト(英語に関する知識))
定期試験		
その他	40%	End-of-term-discussion (Discussion skills) (定期試験(ディスカッションの技能))

Students must obtain at least 24% each for both unit tests and end-of-term discussion to pass.

自由記載

合格するには、ユニットテストと定期試験で少なくとも24%の点数を得る必要がある。

【授業外学修】

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

Students should spend 4 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing research, homework, reports, self-study or other assignments.

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Impact Issues 2	R. Day, J. Shaules, J. Yamanaka	Pearson Publishing		9620199318

自由記載

参考書

自由記載

Students should bring their dictionaries, course file, notebook, worksheets, homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English. 学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、授業ファイル、ノート、ワークシート、課題など）をすべて持参すること。この授業は、積極的な授業参加と比較的高いレベルの英語を必要とする。

授業科目名	英語文学講読		サブタイトル		授業番号	LL401
担当教員名	福永 信哲					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	4年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
多様な英語テキストを正確に、深く読む実践練習を課す。講読テキストの内容は、文学的英語（詩、散文）を中心にして、国際コミュニティの中の日本、異文化理解の観点を加える。学習方法としては、英語読解の力をコミュニケーション能力に生かすため、音読練習を重視する。同時に、受講生が英語の文体感覚を磨くため、意味の奥行、姿・形の美しさ、音楽性を感じとる感受性を養う課題を課す。						
【到達目標】						
英語教員を目指す受講生が、多様な英語テキストを読むことを通して、中学校、高校の英語教科書を分析・評価する力を養う。また、この力を基にして、英語授業の組み立てができるだけの素養を磨くことを目的とする。ディプロマポリシーの観点から見る、コミュニケーション能力と語学力の習得に貢献する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
教科書は使用せず、講読資料は前もって配布する。各回のテーマに合った講読素材を提示する。受講生は予習をすることが必須である。4技能のバランスよい習得のためにCD、テープなどのリスニング用ソフトはできるだけ活用する。1) リスニング、2) 音読練習、3) 解説、文法説明、文体の見方の提示する。						
第1回：授業方針の説明と資料の配布 第2回：英語テキストの読み方：文脈の中の言葉 第3回：英語テキストの読み方：辞書が語る意味、文脈が語る意味 第4回：英語テキストの読み方：語源が語る意味の奥行 第5回：国際コミュニティの中の日本：外国人の目に映る日本人像 第6回：国際コミュニティの中の日本：日本人の大切にしてきた言葉と英語訳 第7回：異文化理解は日本語を相対化することと裏表 第8回：英語読解を通して見えてくる日本語の特性、中間小テスト 第9回：英文法は表現の豊かさを生むスパイス 第10回：仮定法の曖昧な豊かさ 第11回：詩（ものの情趣）を読む（ものの情趣を味わう知恵） 第12回：歴史エッセーを読む（過去を振り返ると、未来が見えてくる） 第13回：生態学エッセーを読む（生物多様性の意味） 第14回：ユーモア、アイロニー（複眼でものを見る眼） 第15回：名文を音読して学ぶ意味と姿と音楽の融合						
【授業計画 備考2】						
・英語を読んで原文をそのまま受け取り、話すことができるような問題意識を求めます。音読は、そのための重要な手段です。 ・中間点で小テストを課します。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	キーワード、フレーズと内容のポイントの課題レポートを基に評価する			
	レポート	30%	上記課題レポートを基準とする。			
	小テスト	20%	授業のポイントの理解度を診る；英語の正確な読みが中心になる。			
	定期試験	30%	授業のポイントの理解度を診る；英語の正確な読みが中心になる。			

その他

自由記載 各回授業内容のポイントを復習する課題レポートをもって授業への取り組みの姿勢/態度を診る。

【受講の心得】

多様な文体の英語テキストを、英和辞典を引いて音読して、その特徴を体に染みこませることを旨とする。日本語への翻訳ではわからない言葉の含蓄、音楽性、文法などを原語から味わうことを求められる。事前学習として、テキストの予習は不可欠である（次週の予習範囲を予告する）。

【授業外学修】

事後学習として、授業のポイントを折々の課題レポートでまとめて、提出してもらう。就職活動で欠席する場合は、早めに教材資料を確保してもらうためにクラスメートに託すことも配慮します。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	英語文学テキストの抜粋を資料として配布する。
参考書	自由記載	参考資料は、配布のハンドアウトに明示する。電子辞書の持ち込みを可とするが、必ず本の英和辞典（中英和辞典以上の）を授業に持ってくる。本の英和辞典を持っていない受講生は、初回の情報提供に従ってなるべく早期に用意すること。

【その他】

予習をせずに授業に出席するといけません。出席管理も厳正にします。就職活動で欠席する場合でも、課題レポート提出は免除されません。教育実習で欠席する場合は、事前に申し出ること。欠席の間に配布された教材資料は早い機会に配布して、自主的な学修のゆとりを保証します。教材資料は自主学習できるよう、注解には配慮します。

授業科目名	英語	サブタイトル		授業番号	LT201
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>小学校高学年の現在の外国語活動が、2020年度から、高学年では教科となり、中学年では活動型の外国語活動が導入される。本講義では、小学校教師、小学校等の外部講師や一般英会話学校講師を目指す学生に、「英語に関する背景的な知識」と「授業実践に必要な英語力」の修得を行う中で、毎回、音声学に関する理解をもとに数分の発音練習を行い継続的に英語の音声に慣れることにより、授業実践に必要な英語運用力の向上を目指す。発音練習では、発音トレーニング、スピーキングトレーニング、クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの会話、授業実践に必要な単語、目標表現、Teacher talkなどを扱うようにする。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語に関する基本的な知識」、「児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）」、「異文化理解」、「第二言語習得に関する基本的な知識」などの英語に関する背景的な知識を理解する。 ・学級担任と外部指導者のTTについての考察 ・外国語活動・外国語の授業実践に必要な「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」から成る、CEFR A2（英検準2級）程度の英語力を身に付ける。 <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：オリエンテーション 自分の英語力を知る。（聞くこと・話すこと〈やりとり・発表〉・読むこと・書くこと）自分の英語学習経験を振り返る。発音練習</p> <p>第2回：音声に関する基本的な知識(1)、歌・チャンツの指導(1)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第3回：音声に関する基本的な知識(2)、歌・チャンツの指導(2)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第4回：発音と綴りに関する基本的な知識(1)、歌・チャンツの指導(3)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第5回：発音と綴りに関する基本的な知識(2)、歌・チャンツの指導(4)（聞くこと・話すこと）、発音練習</p> <p>第6回：文構造・文法に関する基本的な知識、活動体験を通した児童とのやりとり（話すこと・やり取り）(1)、発音練習</p> <p>第7回：語彙に関する基本的な知識、活動体験を通した児童との英語のやりとり（話すこと・やり取り）(2)、発音練習</p> <p>第8回：第二言語習得に関する基本的な知識(1)、自己紹介・地域紹介・(多)文化紹介（話すこと・発表）(1)、発音練習</p> <p>第9回：第二言語習得に関する基本的な知識(2)、自己紹介・地域紹介・(多)文化紹介（話すこと・発表）(2)、発音練習</p> <p>第10回：児童文学（絵本、詩）に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(1)（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習</p> <p>第11回：異文化理解に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(2)（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習</p> <p>第12回：異文化コミュニケーションに関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(3)（聞くこと・話すこと・読むこと）、発音練習</p> <p>第13回：場面や目的に応じたALTやJTLとの会話（話すこと・やりとり）、発音練習</p> <p>第14回：正書法に関する基本的な知識 板書・掲示物における英語の表記（書くこと）、発音練習</p> <p>第15回：発音練習、まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。		

レポート	30%	レポートに記述された学びの状況を評価する。
小テスト	50%	発音・教師の使う英語・絵本の読み聞かせといった技能に関する小テストで評価する。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

予習・復習と授業中の積極的な発言を強く求める。

【授業外学修】

- 1 教科書のうち、次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。
 - 2 1の予習をする中で、疑問に思う点をまとめておくこと。
 - 3 授業後に、2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。
 - 4 英語検定準2級の取得に向けて、英語の4技能に関する学習を行うこと
- 以上の学修に、週あたり4時間以上の時間をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ小学校外国語科内容論	酒井英樹・滝沢雄一・巨理陽一	三省堂		
	『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』	文部科学省（著）	東洋館出版社		
	自由記載				
参考書	自由記載	・『子どもと英語』松香洋子（著），(株)mpi・『小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編』兼重昇・直山木綿子（編著），明治図書・『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編』安彦忠彦（監修），大城賢・直山木綿子（編著），教育出版			

授業科目名	キッズ・イングリッシュ シュI		サブタイトル		授業番号	LT202
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
小学校、幼稚園・保育園、認定子ども園、児童館、放課後児童クラブなどで、英語を使って、子ども達に英語に親しむ機会を提供できる知識・技能と指導力を修得できるよう実践的学習を行う。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育英語検定3級及び実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得することができる。 ・ 歌や絵本や様々な活動を通して、英語の音声や基本的な語彙・表現に慣れ親しませる指導ができる。 ・ 知識に裏打ちされた授業実践、省察、改善に取り組むことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：オリエンテーション、子どもの発達段階、指導計画づくり 第2回：模擬授業、省察、改善 第3回：保育園等での授業実践（1）、振り返り 第4回：保育園等での授業実践（2）、振り返り 第5回：保育園等での授業実践（3）、振り返り 第6回：保育園等での授業実践（4）、振り返り 第7回：保育園等での授業実践（5）、振り返り 第8回：保育園等での授業実践（6）、振り返り 第9回：授業計画・模擬授業・省察・改善 第10回：小学生への授業実践（1）、振り返り 第11回：小学生への授業実践（2）、振り返り 第12回：小学生への授業実践（3）、振り返り 第13回：小学生への授業実践（4）、振り返り 第14回：小学生への授業実践（5）、振り返り 第15回：小学生への授業実践（6）、振り返り、まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	活動・討論への積極的な参加や、教材作成への意欲、必要な技術の自己研修状況を評価する。			
	レポート	50%	指導案、授業実践の省察レポートを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	指導に必要な英語技能（英語検定準2級程度以上程度）と子ども理解・クラスルームマネジメントの在り方を修得することができる。 基本的な指導案を作成できる。 授業の省察において、理論と実践をつなぎ教師に必要な概念について、授業の具体事例をもとに記述することができる。				

【受講の心得】

指導者となる自覚と意欲をもって学ぶこと。

【授業外学修】

- ・ 保育英語検定3級および実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得に向けて、15時間以上自主学習をすること。
- ・ 15時間以上、teacher talkの練習や指導案・細案の作成、教材作成をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	The SKY book 1		mpi	1900+税	
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	改訂2版 保育英検3級テキスト			1900円+税	978-4-7807-1108-0 C2082
	小学校外国語活動の進め方	岡秀夫・金森強	成美堂	2800+税	
	自由記載	椋沢容子他『英語de保育』本の泉社 「The Sky Book 1」 MPI			

授業科目名 **キッズ・イングリッシュ**
シュII

サブタイトル

授業番号 LT203

担当教員名 藤井 佐代子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

キッズ・イングリッシュIIでの学びを基盤として、認定子ども園等での授業観察や授業実施体験を通して、より良い英語教育を提供しようとする教師認知と実践力を育てる。

【到達目標】

- ・ 保育英語検定3級および実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得することができる。
- ・ 歌や絵本や様々な活動を通して、英語の音声や基本的な語彙・表現に慣れ親しませる指導ができる。
- ・ 授業実践・省察・改善を通して、指導力を高めることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：授業計画立案，模擬授業，省察，改善
- 第2回：保育園等での授業実践，振り返り（1）
- 第3回：保育園等での授業実践，振り返り（2）
- 第4回：保育園等での授業実践，振り返り（3）
- 第5回：保育園等での授業実践，振り返り（4）
- 第6回：保育園等での授業実践，振り返り（5）
- 第7回：保育園等での授業実践，振り返り（6）
- 第8回：保育園等での授業実践，振り返り（7）
- 第9回：授業計画立案，模擬授業，省察，改善
- 第10回：保育園等での授業実践，振り返り（8）
- 第11回：保育園等での授業実践，振り返り（9）
- 第12回：保育園等での授業実践，振り返り（10）
- 第13回：保育園等での授業実践，振り返り（11）
- 第14回：保育園等での授業実践，振り返り（12）
- 第15回：保育園等での授業実践，振り返り（13），まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な授業実践への参加，教材作成の意欲，授業に必要な指導技術の修得状況を評価する。
	レポート	50%	実践を通して学んだことの記述を評価する。
	小テスト 定期試験 その他		
	自由記載		授業づくりに積極的に参加できる。 自らの実践を具体的に振り返り，気づきをレポートにまとめることができる。

【受講の心得】

児童に対して思いやりをもって接し，教育現場での授業実践では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。

【授業外学修】

・ 保育英語検定3級および実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得に向けて、15時間以上の自主学習をすること。

・ 授業実践に向けて、15時間以上、指導案・細案や教材作成をしたり、teacher talk の練習をしたりすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	The SKY Book 2		mpi	1900円+ 税	
	自由記載	なし			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	改訂2版 保育英検3級テキスト			1900円+ 税	978-4- 7807- 1108-0 C2082
	自由記載	栞沢容子他『英語de保育』本の泉社			

授業科目名	英語科教育法		サブタイトル		授業番号	LT204
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>授業実践に必要な知識を修得することに加え、授業観察や指導教員による授業体験を児童の立場で体験することを通して、小学校の外国語活動・外国語の授業について体験的に理解するとともに、教師の立場で模擬授業を行い振り返り授業改善を行う。さらに、小学校での授業観察や授業参加などを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたりフレキシブルな教師となる基本を身に付ける。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・「現在の小学校外国語教育についての知識・理解」や「子どもの第二言語習得についての知識・理解」に関する小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識を理解する。 ・「指導技術」と「授業づくり」の基礎を身に付け、計画・授業実施・省察・改善のサイクルを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力の基本を身に付ける。 <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：オリエンテーション 外国語教育導入の経緯・理念・現状 第2回：学習指導要領（外国語 活動と外国語科） 小・中・高等学校との連携と小学校の役割 第3回：主教材，ICT教材の活用について，学習到達目標 指導計画 技能統合型の活動 第4回：授業映像視聴 児童や学校の多様性への対応 子どもの学び方の特徴（言語使用を通じた言語習得，類推から理解へ 音声によるインプットの在り方） 児童の認知発達に即した指導法 第5回：授業模擬体験 ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り，受診から発信 音声から文字へと進むプロセス） 第6回：授業模擬体験 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方 児童とのやり取りの進め方 文字言語との出会わせ方 読む活動・書く活動への導き方 言葉の面白さや豊かさへの気付き 第7回：授業映像視聴（小学校・中学校・高等学校） 小・中・高等学校の連携，ALT等とのチームティーチングによる指導の在り方，異文化理解の視点，第二言語習得理論についての知識とその活用 第8回：評価の観点と評価規準 第9回：題材選定，教材研究 第10回：指導計画（年間指導計画，単元計画，学習指導案，短時間学習等）の作成方法 学習指導目標，指導計画作成（1時間の学習指導案作成） 第11回：授業準備 教材作成 第12回：模擬授業（1） 振り返り 授業改善（1） 第13回：模擬授業（2） 振り返り 授業改善（2） 第14回：小学校での授業参観・授業参加 第15回：振り返り，まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な気づきや改善案への建設的な議論に参加する態度を評価する。			
	レポート	50%	授業を通しての気づきや学びの記述を評価する。			
	小テスト					

定期試験

その他

自由記載

【受講の心得】

教師になる自覚と意欲をもって参加すること。

【授業外学修】

- ・指導案・指導細案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。
- ・教師が使用する英語技能の習得に努め、実用英語検定準2級の取得をめざすこと。

以上の学修を、週4時間以上行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
小学校英語	はじめる教科書 外国語科・外				
使用テキスト	国語活動指導者養成のためにーコアカリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi		

自由記載

参考書

自由記載

「リズムで覚える教室英語」 mpi 「小学校英語の教育法」アレン玉井, 大修館書店
「子ども英語指導ハンドブック」外山節子, 旺文社

授業科目名	児童英語演習		サブタイトル		授業番号	LT205
担当教員名	藤井 佐代子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>授業実践に必要な4技能にわたる、英語や英語を使ったコミュニケーションの知識をもとにして、授業観察・指導教員による授業体験を児童の立場で体験することや模擬授業を通して、振り返り授業改善を行う。そして、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・英語を使ったコミュニケーションの指導や、ことばへの気付きをもたらす指導を実施できる。 ・小学生に適した4技能の指導をすることができる。 ・英語で授業を行ったり、ALTとの打ち合わせを実施したりできる。 ・英語によるやりとりの仕方を指導できる。 ・パフォーマンス評価を行うことができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：オリエンテーション Classroom EnglishとTeacher Talkの指導</p> <p>第2回：コミュニケーションの方法</p> <p>第3回：コミュニケーションの指導法</p> <p>第4回：ALTとのやりとり・打ち合わせ</p> <p>第5回：ことばへの気付きをもたらす指導</p> <p>第6回：小学生に適した4技能の指導について</p> <p>第7回：小学生に適したリスニングの指導</p> <p>第8回：小学生に適したスピーキングの指導</p> <p>第9回：小学生に適したリーディングの指導</p> <p>第10回：小学生に適したライティングの指導</p> <p>第11回：小学生に適した技能統合型の計画(1)</p> <p>第12回：小学生に適した技能統合型の活動(2)</p> <p>第13回：英語によるやりとりの仕方の指導</p> <p>第14回：小学校での授業参観とパフォーマンス評価</p> <p>第15回：振り返り・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	授業計画・授業実践・省察・改善での意欲的な態度を評価する。			
	レポート	30%	知識と実践を往還しながら気付いたことの記述内容を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載	<p>授業計画・実施・省察・改善に積極的に参加できる。 知識と実践から自らを具体的に振り返り、気付きをレポートにまとめることができる。</p>					

【受講の心得】 児童に対して思いやりをもって接し，学校での授業参観・授業参加では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。		
【授業外学修】 ・授業に向けて，授業の流れや教室英語に関する自己研修を30時間以上積むこと。 ・実用英語技能検定準2級程度の英語力獲得に向けて，毎週2時間以上自己研修を積むこと。		
使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	『“Hello” from Okayama 岡山からハロー』 岡山ローバル英語研究会編，山陽新聞社出版 『教室英語活用事典』 高梨庸雄，研究社 『小学校英語はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー』 吉田研作（監修），小川隆夫・東仁美（著） mpi 『やってみたくなる小学校英語』 ローバル英語研究所
【その他】 なし		

授業科目名	観光総論		サブタイトル		授業番号	LM201
担当教員名	未定					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>観光は、日本経済を支える重要な産業となっている。日本政府観光局は、訪日外国人は、2800万人を越え、交通・宿泊・飲食・レジャーなど日本経済に多大な影響を及ぼし、各自治体ともインバウンド市場に注力している。この授業では、観光産業を包括的に理解するために、観光の歴史や文化、観光と経済の関連性、観光と地域取組みなど観光学の基礎的な知識を習得します。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>観光と社会動向と一般的なビジネス知識全般を修得できる。 理解力：観光学を通しての社会動向や経済との関連性を習得できる。 対話力：講義中での、観光に対するディスカッションなどでコミュニケーション力など養う。 応用力：観光の実態と観光産業全体について理解ができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：観光の意義：講義の概要と観光学とは何かについて学ぶ 第2回：観光とは何か：訪日外国人など観光の現状を知る 第3回：観光の歴史：歴史的背景から観光について考える 第4回：観光産業の現状（1）：航空産業について学ぶ 第5回：観光産業の現状（2）：鉄道産業について学ぶ 第6回：観光産業の現状（3）：宿泊産業について学ぶ 第7回：観光産業の現状（4）：レジャー産業について学ぶ 第8回：世界と観光産業-アジア-：東南アジアの観光地や主要産業について 第9回：世界と観光産業-ヨーロッパ-：ヨーロッパの観光地や主要産業について 第10回：世界と観光産業-アメリカ-：北南アメリカの観光地や主要産業について 第11回：日本の観光施策(1)：東日本地区の観光施策 第12回：日本の観光施策(2)：西日本地区の観光施策 第13回：国内旅行の実務：国内旅行に関する法律・注意事項など 第14回：海外旅行の実務：海外旅行に関する法律・注意事項など 第15回：今後の観光産業：2030年の観光産業について						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	旅行計画作成を自主的に取り組んでいるかを評価する。		
	レポート		20%	情報収集と内容構成及び考察を評価する。		
	小テスト		50%	学習内容の理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【授業外学修】

(事前・事後学修)

- 第1回 観光への想いを持って講義に臨む
- 第2回 インバウンド市場など調査しておく
- 第3回 観光の始まり・旅行の起源について調査
- 第4回 航空産業の事前調査と現状分析
- 第5回 鉄道産業の事前調査と現状分析
- 第6回 宿泊産業の事前調査と現状分析
- 第7回 レジャー産業の事前調査と現状分析
- 第8回 アジアの現状や観光地理を自主学習
- 第9回 ヨーロッパの現状や観光地理を自主学習
- 第10回 アメリカの現状や観光地理を自主学習
- 第11回 北海道・東京・名古屋などの観光地調査
- 第12回 京都・大阪・広島・九州などの観光地調査
- 第13回 国内旅行に関連する法律など調査
- 第14回 海外旅行に関連する法律など調査
- 第15回 観光業の将来予測についてレポート作成

各回授業の事前・事後学修について過当たり4時間以上の学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新現代観光総論	前田 勇他	学文社		
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **簿記会計論**

サブタイトル

授業番号 LM202

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

簿記は、企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。今日の企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには、簿記の体系的な修得が重要である。また、簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので、簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では、小規模な株式会社を取り上げて仕訳を中心に学び、重要な項目については決算処理や財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の作成方法についても簡単に学習する。

【到達目標】

簿記の流れを体系的に修得し、小規模株式会社で日々発生する取引の内容を理解することにより、日商簿記検定3級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：簿記とは

第2回：仕訳の基礎

第3回：商品売買

第4回：現金・預金

第5回：小口現金

第6回：手形取引

第7回：貸付金・借入金

第8回：手付金（内金）の受払

第9回：その他日常の取引1

第10回：その他日常の取引2

第11回：その他日常の取引3

第12回：貸倒れ

第13回：固定資産

第14回：総合問題演習

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
評価の方法	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。
2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。
※電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。
※スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。
2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。
3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。

以上の内容を予習・復習として週当たり4時間以上学修をすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級	TAC株式会社	TAC出版	2160円	9784813277934
参考書	自由記載				

授業科目名	観光実務		サブタイトル		授業番号	LM203
担当教員名	未定					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
わが国の成長戦略として、「観光」は重要なキーワードとなっている。観光産業で活躍するためにも、観光業の知識だけでなく、地理的な知識やコミュニケーション力なども必要となる。観光事業に関する幅広い知識の習得を目指し、実際に観光産業で使われる手法を身に付け、実社会で活躍できる人材を目指す。						
【到達目標】						
観光業界で行われる実務を中心に学び、業界動向についても考える。また、グループワークなどを通じてコミュニケーション能力も養う。						
理解力：観光の基本的な概念を知り、観光業の実務的知識を深める						
応用力：観光産業での職業人として活躍するためのヒューマンスキルなどを高める。						
多文化理解力：世界各国の観光地や文化・歴史の違いを理解する。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：観光業界とは：講義の概要と観光業界について学ぶ						
第2回：観光業界と関連業種：ツアーコンダクターなど観光関連職種について学ぶ						
第3回：日本の世界遺産(1)：東日本の世界遺産について学ぶ						
第4回：日本の世界遺産(2)：西日本の世界遺産について学ぶ						
第5回：海外の世界遺産(1)：北半球の世界遺産について学ぶ						
第6回：海外の世界遺産(2)：南半球の世界遺産について学ぶ						
第7回：ツアーコンダクターの実務：仕事内容や特徴・必要なスキル						
第8回：航空業界の実務：CA・グランドスタッフなどの航空関連業種について知る						
第9回：旅行会社と実務：パスポートの手続き、保険など旅行会社全般について学ぶ						
第10回：旅行業と実務：接客方法・話し方など観光業に必要なヒューマンスキルを学ぶ						
第11回：観光産業と職業調査(1)：グループワークにて観光産業調査						
第12回：観光産業と職業調査(2)：グループワークにて観光産業調査						
第13回：観光産業と職業調査(3)：グループワークにて観光産業調査						
第14回：観光産業と職業での研究発表：観光実務での必要な能力について発表						
第15回：観光業と実務能力						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	実務スキル修得に向けて自主的に取り組んでいるかを評価する。			
	レポート	20%	情報収集と内容構成及び考察を評価する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	学習内容の理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【授業外学修】

(事前・事後学修)

- 第1回 事後：観光業界の職種調査
- 第2回 事後：職種別に必要なスキルの抽出
- 第3回 事前：北海道・東京・名古屋などの世界遺産の調査
- 第4回 事前：京都・大阪・広島・九州などの世界遺産の調査
- 第5回 事前：ヨーロッパなど北半球の世界遺産の調査
- 第6回 事前：オセアニア・南米など南半球の世界遺産
- 第7回 事前：ツアーコンダクターについて事前調査
- 第8回 事前：航空業界について調査
- 第9回 事前：旅行業の仕組みについて調査
- 第10回 事前：旅行業に必要なニューマンスキルを調査
- 第11回 事前：観光産業の仕事内容・特徴について調査
- 第12回 事前：観光産業の仕事内容・特徴について調査
- 第13回 事前：観光産業の仕事内容・特徴について調査
- 第14回 事前：発表の準備
- 第15回 事前：観光産業で活躍するための実務的な能力を分析抽出する

各回授業の事前・事後学修について過当たり4時間以上の学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	観光サービス論—観光を初めて学ぶ人の14章				
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **観光産業論**

サブタイトル

授業番号 LM204

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

観光産業の歴史の変遷、旅行業の観光産業内の位置づけ、ホスピタリティ産業としてのホテルの組織運営や経営管理、観光・レジャー産業について幅広く基礎的知識を学ぶ。

具体的には（１）観光産業の歴史と現状の把握、（２）旅行業の特徴及び交通・宿泊・飲食産業との関係、（３）宿泊産業の経営形態とマネジメント、（４）観光・レジャー産業の動向その将来像、などについて幅広く学ぶ。また、観光資源を活用し地域創生を行う観光まちづくりに取り組める人材の育成をめざして講義・解説する。

【到達目標】

- ・観光産業の概要と社会に及ぼす影響を理解できる。
- ・観光産業の果たす役割と仕組み、及び課題を理解できる。
- ・宿泊業におけるホスピタリティとマネジメントについて理解できる。
- ・観光を核とした地域活性化等のまちづくり産業の振興方法について理解できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：観光とは何か（観光産業の概念）

第2回：観光産業の歴史と現状

第3回：観光産業の効果、観光産業の構図と経営

第4回：旅行業の歴史と変遷、旅行需要とマーケティング

第5回：旅行会社の業務形態と取扱商品（国内・海外・団体・個人旅行）

第6回：旅行業の収益構造（低利益率からの脱却）、観光と交通産業

第7回：宿泊産業の歴史とホテル経営の理念

第8回：ホスピタリティ（ホテルサービスと日本のおもてなし）

第9回：ホテルの経営形態とマネジメント

第10回：観光の転換点、日本人に見る観光とレジャーの価値観

第11回：少子高齢化が観光産業に及ぼす影響

第12回：ニューツーリズムと観光の質の変化

第13回：観光資源の活用法、他産業と観光

第14回：観光まちづくりのあり方

第15回：観光産業の課題と展望

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	レポート・提出物
	小テスト		
	定期試験	50%	期末試験
	その他 自由記載	10%	プレゼンにより積極的に自分の考えを発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ、授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ情報収集を行うなど、自主的な学習に努めること。
- ・授業中のペア・グループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。
- ・観光・レジャー産業を用いた地域振興案を考える習慣を付けること。

【授業外学修】

- ・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- ・毎回の授業内容について2時間以上復習しておくこと。
- ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	観光産業論 (観光学全集 第6巻)	林 清	原書房	3004円	4562092025

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	現代ビジネス論		サブタイトル		授業番号	LM301
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では、組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識、およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識を習得しながらキャリア形成を考えていく。						
【到達目標】						
「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け、ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め、論理的思考にて判断できる力を養う。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：ビジネス実務能力とは - 社会の現状と気づき - ※ (担当佐々木)						
第2回：起業と日本 ※ (担当佐々木)						
第3回：経営理念・ビジョンと企業戦略（会社と経営戦略） ※ (担当佐々木)						
第4回：経営戦略とケーススタディー ※ (担当佐々木)						
第5回：プロジェクトマネジメント【経営戦略】 ※ (担当佐々木)						
第6回：マーケティング戦略を学ぶ(1) ※ (担当佐々木)						
第7回：マーケティング戦略を学ぶ(2) ※ (担当佐々木)						
第8回：ケーススタディー ※ (担当佐々木)						
第9回：プロジェクトマネジメント【マーケティング戦略】 ※ (担当佐々木)						
第10回：外部資源活用と分析手法 ※ (担当佐々木)						
第11回：プロジェクトマネジメント1（チームビルディング） ※ (担当佐々木)						
第12回：プロジェクトマネジメント1（チームビルディング） ※ (担当佐々木)						
第13回：プロジェクトマネジメント2（論理的発想からの能力開発） ※ (担当佐々木)						
第14回：プロジェクトマネジメント2（論理的発想からの能力開発） ※ (担当佐々木)						
第15回：プロジェクトマネジメント3（プレゼン技術習得）と総括 ※ (担当佐々木)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。			
	レポート	20%	レポート・提出物			
	小テスト					
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験			
	その他					

自由記
載

【受講の心得】

「前に出る力」「考え抜く力」「チームワーク力」の意味を知る。ビジネスの基礎となる原理、原則を知ると共に企画力とプレゼンテーション力を身に付ける。自己成長へのヒントをつかみ、応用するセンスを身につける。実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。

【授業外学修】

1. 予習として、授業内容に関わる箇所を読み、疑問点を明らかにする。

2. 復習として、課題のレポートを書く。

以上の内容を、週4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書 ノート	佐々木公之他	銀河書籍	1000	978866450278
参考書	自由記 載				

授業科目名 **観光政策論**

サブタイトル

授業番号 LM302

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

観光の経済的・文化的な重要性が高まるにつれ、観光政策には、経済的な側面からは外貨獲得や地域活性化が求められる、社会・文化的な側面からは地域文化の振興や福祉政策としての機能も求められている。本授業では、観光政策に関わる基本的な理論を解説し、観光開発・観光マーケティング・観光産業など主要分野における観光政策の実践的な展開過程を紹介する。併せて、国際観光の動向を検討し、今後の観光政策の進むべき方向性に関して議論する。

【到達目標】

本授業の目標は、

- (1)観光政策に関する基礎理論を体系的に修得する
- (2)実際観光政策が展開する推移と動向を理解するという2点である。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：観光政策の意義と役割
- 第2回：観光政策の概念
- 第3回：観光政策の類型
- 第4回：観光政策の理念と目標
- 第5回：観光開発の概念と特徴
- 第6回：地域社会における観光開発の影響
- 第7回：観光政策の評価
- 第8回：観光マーケティングの概念と特徴
- 第9回：観光マーケティングミックス
- 第10回：観光産業の構造
- 第11回：国際観光の動向・統計分析
- 第12回：国際観光の動向に関する考察
- 第13回：日本のインバウンド観光に関する統計分析
- 第14回：日本のインバウンド観光における課題
- 第15回：今後の観光政策展開の方向性に関する討論

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への積極的参加
	レポート	20%	レポート・提出物
	小テスト		
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業は、教員による解説と受講者の発表及び討論からなる。積極的な参加を求める。

【授業外学修】

- 1 教科書のうち、次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。
 - 2 1の予習をする中で、疑問に思う点をまとめておくこと。
 - 3 授業後に、2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。
- 以上の学修に、週あたり4時間以上の時間をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	観光学全集〈第9巻〉	寺前 秀一	原書房	2592	4562091371
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	マーケティング論		サブタイトル		授業番号	LM303
担当教員名	伊藤 未高					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>本講義では、マーケティングの基本的な理論について体系的に学ぶ。マーケティングの理論は、大きく2つの体系で考えることができ、1つは、市場をどのように捉え、他社と差別化された製品をいかに顧客に提供するかという視点で考えることができる。ここでは、具体的に、市場の細分化や製品の差別化、市場のライフサイクルという市場についての学習と消費者行動や新製品開発、戦略的マーケティング等のマーケティング・マネジメントについて、学んでいく。</p> <p>もう1つは、関係性という視点で考えるマーケティング理論です。チャンネルという協業者との関係や営業という顧客との関係、さらに消費者行動との関係をデータでどのように見ていくか、国際化などの環境変化に対していかに対応するかといったことを学ぶ。</p> <p>授業では、各テーマにおける個別的な事象だけでなく、全体像を理解したり、事例を用いて、マーケティングの実態を見る視点や分析する力を重視する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>マーケティングに関する基礎知識を修得し、企業のブランド力や商品が市場で販売されるまでのプロセスや、実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって、実務的な学習能力を養うこと。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：市場からみるマーケティング(1)～マーケティングの考え方 第2回：市場からみるマーケティング(2)～製品差別化 第3回：ケーススタディ(1)～ファーストリテイリングの差別化戦略「ノンエージ・ユニセックス」 第4回：市場からみるマーケティング(1)～市場細分化 第5回：市場からみるマーケティング(2)～製品ライフサイクル 第6回：行動からみるマーケティング(1)～消費者行動 第7回：行動からみるマーケティング(2)～新製品開発 第8回：行動からみるマーケティング(3)～マーケティング・ミックス 第9回：行動からみるマーケティング(4)～戦略的マーケティング論 第10回：行動からみるマーケティング(5)～マーケティングの組織と資源 第11回：関係からみるマーケティング(1)～マーケティングにおける関係の理論 第12回：関係からみるマーケティング(2)～チャンネル関係の構築 第13回：関係からみるマーケティング(3)～営業活動による顧客関係の構築 第14回：関係からみるマーケティング(4)～マーケティングと環境変化 第15回：ケーススタディ(2)～資生堂の国際マーケティング</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する(発言内容のレベルは問わない)			
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する(自分の言葉による論理的な説明を求める)			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する(記述試験を予定)			
	その他					

	自由記載				
<p>【受講の心得】</p> <p>事前学習は不要であるが、既習の経営学の中にある戦略や組織・人事等の「企業経営の基本領域」に関して、理解があいまいな場合は、再度学習をしておくこと。</p> <p>毎回、事後学習として、授業で実施した内容について、復習をして欲しい。復習のポイントは、授業中に指示をする。</p> <p>また、「マーケティング」に関する新聞等の記事を読み、テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。</p>					
<p>【授業外学修】</p> <p>上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『現代マーケティング論』（2008）	高嶋克義，桑原秀史	有斐閣	2160円	4641123438
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『ビジネス・ケースブック〈3〉』（2004）	「一橋ビジネスレビュー」編集部	東洋経済新報社		4492521445
	『ケースに学ぶ国際経営』（2013）	吉原英樹編，白木三秀編，新宅純二郎編，浅川和宏編	有斐閣	3024円	4641184151
	自由記載	<p>ケーススタディ教材：「ファーストリテイリングー「ユニクロ」成長神話の終焉と新市場への挑戦」※絶版のため購入不要。授業でプリントを配布する。ケーススタディ教材：「国際マーケティング：資生堂のケース」</p>			

授業科目名	ビジネス実務総論 II（経営戦略論）		サブタイトル		授業番号	LM304
担当教員名	伊藤 末高					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<p>【授業の概要】</p> <p>本授業では、まず戦略に関する基礎的な知識やその背景にある論理について、実例を踏まえながら学んでいく。具体的には、戦略とは何か、何を強調した考え方か、どのような体系があるか、どのように戦略論として発展してきたかを理解していく。ここでは、定説となっている戦略の概念やフレームワーク、戦略策定方法などを学ぶ。その上で、企業のケースを読みこみ、成功や失敗の要因を考察するとともに、実際にフレームワークを活用することで、更なる理解を深めていく。</p> <p>また、ケーススタディを通じて、戦略の策定方法について見ていく。次に、企業の組織構造や企業文化についても学ぶ。更に、企業革新や戦略のパラダイム転換など、環境の変化によって企業が求められる変革について、ケーススタディを通じて理論を学んでいく、</p> <p>企業の経営に関する基礎的な理解が必要となるため、経営学の講義を履修していることが望ましい。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>実際の企業競争について学び、企業間の競争が理解できるようになる。また、日本企業、欧米企業、アジア企業の経営戦略の実態の把握によって、グローバルな視点の考え方を理解することである。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：戦略とは何か 経営戦略の基本 ～ケース(1)自転車屋さんなのに上場企業～</p> <p>第2回：経営環境(1) 業界の構造 ～ケース(2)液晶テレビ業界の競争状況や業界内で活躍する企業～</p> <p>第3回：経営環境(2) 企業を取り巻く経営環境 ～ケース(3)トヨタ自動車の環境変化への対応～</p> <p>第4回：事業戦略(1) 基本戦略 ～ケース(4)しまむらの事業戦略～</p> <p>第5回：事業戦略(2) 製品ライフサイクル別戦略 ～ケース(5)富士ゼロックス社製コピー機の年代別投入戦略～</p> <p>第6回：事業戦略(3) 市場地位別戦略 ～ケース(6)アサヒビールの市場戦略～</p> <p>第7回：事業戦略(4) 企業の内部環境を重視した戦略 ～ケース(7)富士フィルムの内部環境を重視した戦略～</p> <p>第8回：事業戦略(5) 事業システム ～ケース(8)アスクルのカスタマーダイレクト事業～</p> <p>第9回：企業戦略(1) 事業領域 ～ケース(9)ふくやのドメイン定義～</p> <p>第10回：企業戦略(2) 成長戦略 ～ケース(10)ニコンの成長戦略～</p> <p>第11回：企業戦略(3) 企業内の資源配分 ～ケース(11)サントリーの戦略的資源配分～</p> <p>第12回：企業戦略(4) 戦略の社会的側面 ～ケース(12)環境と調和したパタゴニアの企業～</p> <p>第13回：経営組織(1) 組織構造 ～ケース(13)パナソニックの組織構造～</p> <p>第14回：経営組織(1) 組織構造 ～ケース(13)パナソニックの組織構造～</p> <p>第15回：経営組織(3) 企業変革 ～ケース(15)コマツの変革～</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）			
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）			

その他

自由記載

【受講の心得】

事前学習は不要であるが、既習の経営学の中にある戦略や組織・人事等の「企業経営の基本領域」に関して、理解があいまいな場合は、再度学習をしておくこと。

毎回、事後学習として、授業で実施した内容について、復習をして欲しい。復習のポイントは、授業中に指示をする。

また、「経営戦略」に関する新聞等の記事を読み、テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。

【授業外学修】

上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『1からの戦略論<第2版>』（2016）	嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎	碩学舎	2592円	450216741X

自由記載

参考書	自由記載	必要に応じて別途配布する
-----	------	--------------

授業科目名	国際経営論		サブタイトル		授業番号	LM305
担当教員名	伊藤 未高					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>本講義の目的は、国際経営の実態を理解することである。本講義ではまず、国際経営活動について学ぶ。具体的には、輸出、海外生産、海外研究開発、輸入、技術導入、外国企業との合併などの活動である。次に、現代の国際経営に至るまでの歴史的なプロセスについて学ぶ。そのうえで、現代の国際経営ではどのような課題が見られるか、国際経営の今後の展望はどうであるかに、についても見ていく。更には、国内経営と比較した場合の国際経営の特徴も把握する。国際経営の個別的な事実だけでなく、国際経営の全体像、達成した成果、残されている課題についても理解しながら講義を進める。授業では、積極的に事例を盛り込むことで、国際経営という広い領域についても、具体的にイメージできるようにする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>本講義の到達目標は、国際経営における基礎知識を理解し、日本企業の国際経営の課題を考えながら実態を把握することである。具体的には、国際経営に関する本や雑誌、記事を読み内容をわかった上で、その内容について他人に説明ができるようになることである。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：国際経営環境の新しい動き：外部環境の新しい動き</p> <p>第2回：国際経営とは：多国籍企業の経営</p> <p>第3回：国際経営戦略(1)：国際経営戦略の歴史的展開</p> <p>第4回：国際経営戦略(2)：ケーススタディ（トヨタ自動車）</p> <p>第5回：国際マーケティング(1)：輸出マーケティングと国際調達</p> <p>第6回：国際マーケティング(2)：グローバル・サプライチェーン・マネジメント</p> <p>第7回：海外生産(1)：海外生産の発展と日本的生産のグローバル展開</p> <p>第8回：海外生産(2)：ケーススタディ（シーゲート・テクノロジーズ）</p> <p>第9回：技術移転と海外研究開発：技術の国際移転、海外研究開発とソフトウェアの海外開発</p> <p>第10回：国際経営マネジメント：国際経営を行ううえでの論点と対応策</p> <p>第11回：北米・欧州のなかの日本企業：北米と欧州</p> <p>第12回：アジアのなかの日本企業：アジアと中国、インド&ケーススタディ（アジアにおけるグローバル小売競争の展開）</p> <p>第13回：新興国市場と日本企業：新興国市場と新興国戦略</p> <p>第14回：サービス企業の海外進出：サービス企業の特徴と海外進出</p> <p>第15回：国際経営の新展開：国際経営戦略の新しい動きと国際経営マネジメントの革新</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）			
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）			
その他						

	自由記載				
<p>【受講の心得】</p> <p>事前学習は不要であるが、既習の経営学の中にある「ビジネスの海外展開」に関して、理解があいまいな場合は、再度学習をしておくこと。</p> <p>毎回、事後学習として、授業で実施した内容について、復習をして欲しい。復習のポイントは、授業中に指示をする。</p> <p>また、「国際経営」に関する新聞等の記事を読み、テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。</p>					
<p>【授業外学修】</p> <p>上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『国際経営 第4版』 (2015)	吉原英樹	有斐閣	2160円	4641220646
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『ケースに学ぶ国際経営』 (2013)	吉原英樹編, 白木三秀編, 新宅純二郎編, 浅川和宏編	有斐閣	3024円	4641184151
	自由記載				

授業科目名	旅行ビジネス実務		サブタイトル		授業番号	LM306
担当教員名	未定					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
<p>インバウンドの増加にともない、観光ビジネスはより重要な産業となっている。観光はさまざまな分野への波及効果や経済効果が期待できるため、日本は観光立国実現のために動き始めている。従来からの国内旅行や海外旅行だけではなく、訪日外国人旅行、すなわちインバウンドが旅行ビジネスにおいて現在注目を集めている。旅行ビジネスにおいて必要である、さまざまな視点からの実務的で専門的な知識を修得する。</p>						
【到達目標】						
<p>国内旅行・海外旅行・訪日外国人旅行など、日本を取り巻く観光の現状について理解でき、修学旅行や新婚旅行等の旅行形態に応じて考えることができるようにする。また、新しい観光の形である、いわゆる「ニューツーリズム」についてや、観光資源としての世界遺産についてもその背景や意義を理解できるようにする。さらに、観光ビジネスの実際について、トラブルやクレーム対応まで含めて理解できるようにする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：旅行ビジネス実務についての概要 第2回：日本の観光の歴史と現状 (1) 第3回：日本の観光の歴史と現状 (2) 第4回：観光旅行のさまざまな形態（修学旅行・新婚旅行など） 第5回：観光地の特徴と類型化 第6回：新しい観光の形 (1)（産業観光，エコツーリズム・グリーンツーリズムなど） 第7回：新しい観光の形 (2)（ヘルスツーリズム・ロングステイツーリズムなど） 第8回：観光資源としての世界遺産 第9回：観光ビジネス実務の実際 (1) 第10回：観光ビジネス実務の実際 (2) 第11回：観光ビジネス実務の実際 (3) 第12回：観光ビジネス実務の実際 (4) 第13回：トラブル・クレーム対応事例 (1) 第14回：トラブル・クレーム対応事例 (2) 第15回：旅行ビジネス実務についてのまとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。			
	レポート	20%	レポート・提出物			
	小テスト					
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

講義形式で行うが、受講生は課題解決のための議論への積極的な参加を期待する。具体的には、「観光の実践的かつ専門的知識を身に付け日本の観光政策について課題やその解決方法を見出す。」「国内旅行・海外旅行・訪日外国人旅行の企画を立てる。」「ニューツーリズムや観光資源としての世界遺産の魅力や課題を説明する。」などさまざまな課題について探求する態度を求める。

【授業外学修】

- ・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- ・毎回の授業内容について2時間以上復習しておくこと。
- ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	観光学入門のための14章	原田 昌彦	JTB総合 研究所	2,260円	BB25625906

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	観光関連法規		サブタイトル		授業番号	LM401
担当教員名	未定					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 さまざまな旅行トラブルについて取り上げ、消費者の視点から個々の判例を通して解決の指針を明らかにする。また、観光に関する法律を観光の対象に関するものと観光業に携わる業者に分けて説明を加えていく。						
【到達目標】 旅行に関する諸問題を把握し、観光をするうえで必要となる法律について知識を深め、理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：イントロダクション・法律の働き 第2回：私権の制限の根拠 第3回：文化財保護法 第4回：景観法 第5回：世界遺産条約 第6回：自然保護法 第7回：観光関連法規と行政 第8回：観光関係法概観 第9回：旅行業法(1) 第10回：旅行業法(1) 第11回：旅行業法(1) 第12回：旅行業約款(1) 第13回：旅行業約款(1) 第14回：旅行業約款(1) 第15回：宿泊関係法・約款 その他 旅行・観光関係判例・事例研究						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	毎回の講義の取組態度を評価する。			
	レポート	30%	レポート・提出物			
	小テスト					
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験			
	その他					
【受講の心得】 旅行トラブルについて日頃から関心を持ち、授業に臨むこと。						
【授業外学修】 1.予習として、授業内容に関わる箇所を読み、疑問点を明らかにする。 2.復習として、課題のレポートを書く。 以上の内容を、週4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

旅行のトラブル相談Q&A(トラブル相談シリーズ)

兵庫県弁護士会消費者保護委員会

民事法研究会

2, 376円 4865560793

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **日本の文学**

サブタイトル

授業番号 LN204

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

この授業の前半（第1回～第5回）では、日本語の歴史や文学作品の読み方を確認していく。後半（第6回～第15回）では、担当を決め、前半の技能などを活かしながら文学作品を読み、学生同士で批評を行っていく。

【到達目標】

作品を読解しつつ、時代背景や文体を分析することで、日本文学に対して深く理解することを目指す。また、自身の考え方・主張を持ち、作品を批評できるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：授業概要の説明／文学の概念

第2回：日本文学の変遷

第3回：文学へのアプローチ1

第4回：文学へのアプローチ2

第5回：文学へのアプローチ3

第6回：演習1

第7回：演習2

第8回：演習3

第9回：演習4

第10回：演習の中間まとめ

第11回：演習5

第12回：演習6

第13回：演習7

第14回：演習8

第15回：演習9／授業のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	討論への参加度や担当回への準備を評価する
	レポート	45%	毎回提出する小レポートを評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他	25%	担当回の演習内容を評価する
	自由記載		

【受講の心得】

1. わからないところは、積極的に尋ねてほしい。質問は随時受け付ける。
2. 電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。

【授業外学修】

1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。
2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。
3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。
4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	プリントを配布する。
参考書	自由記載	適宜指示する。

授業科目名 **日本の音楽**

サブタイトル

授業番号 LN203

担当教員名 日高 好一

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

多くの学生がJポップだけでなく、Kポップや洋楽など幅広い音楽に親しむ昨今、日本の音楽文化を深く掘り下げる機会はありません。そこで、「雅楽からJポップまで：知っておきたい日本の名曲」というタイトルで、日本人の心に残るメロディーを各ジャンルから一曲ずつ選出し、その歌とメロディーの出自・来歴と時代背景を探り、我が国の豊かな音楽文化に親しむ。唱歌については、その「復権」の願いを込めて、少し時間を多めにとって、実際に授業の中で歌ってみる。

【到達目標】

日本で生まれた名曲の歴史的・文化的な背景を知り、日本の音楽を知的にも鑑賞できる能力を涵養すること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：日本のメロディー：その特徴を考える

第2回：雅楽－越殿楽

第3回：平曲－平家琵琶

第4回：都々逸－さのさ

第5回：風刺歌謡－のんき節

第6回：唱歌－ふるさと

第7回：唱歌－椰子の実

第8回：唱歌－この道

第9回：昭和歌謡－人生の並木道

第10回：昭和歌謡－リンゴの唄

第11回：演歌－星影のワルツ

第12回：演歌－舟歌

第13回：フォーク－遠い世界に

第14回：フォーク－白いブランコ

第15回：国民の唄－花が咲く

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

歌の社会的・文化的背景に興味を持ってもらいたい。一緒に声に出して歌ってもらいたい。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業内容にかかわる疑問点を明らかにすること。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	未定
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本中世・近世史**

サブタイトル

授業番号 LN301

担当教員名 吉永 隆記

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、日本史のうち、中世から近世の政治史・社会経済史を踏まえつつ、岡山県を主軸とした歴史や文化について講義する。講義内では、『岡山県史』や『岡山県古文書集』などに収められた史料を提示しつつ、各時代の政治、地域社会像、生産活動、宗教など、多角的に歴史史料の社会的背景を解説する。

【到達目標】

岡山県地方の歴史・文化について、地域社会の視点からその特徴を理解することができる。また、岡山県に関する歴史史料に触れることで、特徴的な史料の存在や、歴史史料の残存状況等についても学習することができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉・〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：岡山県の古代史，中世・近世史の流れ

第2回：源平合戦と岡山県地域

第3回：中世岡山の宗教者とその活動

第4回：南北朝内乱と岡山県地域

第5回：荘園の世界(1)－備中国上原郷－

第6回：荘園の世界(2)－備中国新見庄－

第7回：在地領主と地域社会－美作国塩湯郷の温泉をめぐって－

第8回：岡山の戦国時代(1)－戦乱と地域社会－

第9回：岡山の戦国時代(2)－戦国大名宇喜多氏－

第10回：岡山城築城と城下町の整備

第11回：岡山藩政の展開

第12回：岡山の百姓一揆

第13回：岡山の幕末

第14回：岡山の民話にみる近世の慣習

第15回：岡山県における歴史・文化の特徴と総括，現代に生きる地域の「歴史」について

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業内での応答や、受講態度を評価する。
	レポート	70%	授業内で課すレポートを評価する。レポートの課題内容は初回時に提示する。レポートでは、各自の意見や見解を論理的に述べることを重視する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業中、受講者に対して意見を問うことがある。授業を受け身で聞くのではなく、提示された論点や史料に対して、常に各自の考えや疑問をまとめながら受講すること。

【授業外学修】

1 予習として、高校日本史における日本中世史・近世史の流れを教科書等で復習しておくこと。教科書がない場合は、『新もういちど読む山川日本史』（2017年）などを読んでおくこと。

2 復習として、講義で扱った内容についてレジюмеやレジюме記載の参考文献を読んで理解を深め、レポート作成に向けて学習・調査を行うこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	講義内でレジюмеを配布する。
参考書	自由記載	配布レジюмеを用いて講義を行うが、各講義テーマごとに参考文献を提示する。講義の復習や理解を深めるために、読んでおくことが望ましい。

授業科目名	基礎ゼミⅠ		サブタイトル		授業番号	LP201
担当教員名	日野 正輝 藤代 昇丈	竹野 純一郎 松浦 加寿子	佐生 武彦 岡本 輝彦	森年 ポール 伊藤 未高	佐々木 公之	山本 忠クレイグ
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】 卒論作成に向けた基礎訓練として、「読み書きプロジェクト」を実施する。具体的には、月に2冊の書籍を完読し、その内の一冊についてブックレビューを書き、提出する。担当者は、ブックレビューを添削し、学生の作文能力の向上に努める。また、2週間に一度のペースで、ブックレビューの口頭発表を行う。						
【到達目標】 半期で8冊の書籍を読むことで、読書の習慣を身に付ける。また、ブックレビューの作成を通して、文章力を高める。加えて、ブックレビューしたものをクラスで発表することで、スピーチ力を向上させる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 15回						
第1回 ゼミの在り方に関する説明、書籍選定に関するアドバイス 第2～14回 ブックレビューとQ&A 第15回 反省とまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表討議への参加によって評価する。			
	レポート	40%	ブックレポートの質と量によって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	40%	書籍の完読数によって評価する。			
自由記載						
【受講の心得】 課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。他者のブックレビューの際には、適切な質問ができるように、アクティブ・リスニングを心がける。						
【授業外学修】 1. 予習として、書籍を完読し、ブックレビューを書く。 2. 復習として、添削済みのブックレビューを、校正し、完成させる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜配布する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	基礎ゼミII		サブタイトル		授業番号	LP202
担当教員名	日野 正輝 藤代 昇丈	竹野 純一郎 松浦 加寿子	佐生 武彦 岡本 輝彦	森年 ポール 伊藤 未高	佐々木 公之	山本 忠クレイグ
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 基礎ゼミIIでは、卒論作成に向けた基礎訓練として、「読み書きプロジェクト」を継続する。具体的には、月に2冊の書籍を完読し、その内の一冊についてブックレビューを書き、提出する。担当者は、ブックレビューを添削し、学生の作文能力の向上に寄与する。また、2週間に一度のペースで、ブックレビューの口頭発表を行う。						
【到達目標】 半期で8冊の書籍を読むことで、読書の習慣を身に付ける。また、ブックレビューの作成を通して、文章力を高める。加えて、ブックレビューしたものをクラスで発表することで、スピーチ力を向上させる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 15回						
第1回 ゼミの在り方に関する説明，書籍選定に関するアドバイス 第2～14回 ブックレビューとQ&A 第15回 反省とまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表討議への参加によって評価する。			
	レポート	40%	ブックレポートの質と量によって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	40%	書籍の完読数によって評価する。			
自由記載						
【受講の心得】 課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。他者のブックレビューの際には、適切な質問ができるように、アクティブ・リスニングを心がける。						
【授業外学修】 1. 予習として、書籍を完読し、ブックレビューを書く。 2. 復習として、添削済みのブックレビューを、校正し、完成させる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	専門ゼミI		サブタイトル		授業番号	LP301
担当教員名	日野 正輝 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ポール 佐々木 公之 山本 忠 クレイグ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 伊藤 末高					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 専門ゼミIでは、各担当教員が設定したテーマから、学生が追及したい分野を選んで研究をする。専門ゼミは少人数制で演習を行い、基礎ゼミで養った知識を土台として、研鑽をし、卒業論文執筆に向け、研究・調査を進めていく。専門ゼミIでは、まず卒業論文のテーマの決定を行うが、その過程で同じ学術的分野に関心を持った学生と、お互いに興味のあるトピックについて討議を行うことで、広い視野からテーマの可能性を検討し、より具体的な研究課題の選定を目指す。						
【到達目標】 卒業論文の執筆に向け、題目を選定することを目標とする。その過程で、いくつかの興味のあるトピックに関する資料を収集し、それらの知識を深めることにより、テーマを絞り込み、卒業論文の題目を明確化していく。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】 第1回 卒業論文とは 第2～15回 文献の収集、グループに分かれディスカッション						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	与えられた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくることが求められる。						
【授業外学修】 1 予習として、ディスカッションの内容を吟味し、自分の立脚点や論点を明らかにしておく。 2 復習として、ディスカッションで学んだ事項を各自で再確認する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	専門ゼミII		サブタイトル		授業番号	LP302
担当教員名	佐生 武彦 クレイグ	大橋 典晶 藤代 昇丈	日野 正輝 松浦 加寿子	竹野 純一郎 岡本 輝彦	森年 ポール 伊藤 末高	佐々木 公之 山本 忠
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】 専門ゼミIIでは、専門ゼミIで決定したテーマについて情報収集を行っていく。集めた情報は、定期的に授業内で発表し、補足が必要な箇所や意見の提示方法が偏っていないかを、教員を含めた学生間のディスカッションの中で見直す。						
【到達目標】 卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行うことを目標とする。また、研究の概要と論文のアウトライン作成までを行う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 専門ゼミIで収集した文献の見直し 第2～15回 グループワーク						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度，発表討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		80%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
【受講の心得】 課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくることが求められる。						
【授業外学修】 1 予習として、文献を熟読し、ディスカッションの内容の吟味し、さらに自分の立脚点や論点を明らかにしておく。 2 復習として、ディスカッションで学んだ事項を各自で再確認する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	卒業研究I		サブタイトル		授業番号	LP401
担当教員名	日野 正輝 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ポール 佐々木 公之 山本 忠 クレイグ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 伊藤 末高					
対象学部・学科				単位数	3単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】 卒業研究Iでは、専門ゼミIIで作成した、研究概要と論文のアウトラインを基に、卒業論文の執筆を開始する。アウトラインに、意見の裏付けとなる引用論文の情報も加筆し、学術的に有効な論文であるか再確認を行う。執筆の進捗状況を授業内で発表し、必要な修正を行いながら、執筆を進める。この段階では、多くのプレゼンテーションやディスカッションの経験により、意見の論理性、論証の妥当性を自己評価できる能力を身に付けていると期待される。						
【到達目標】 卒業論文執筆のための研究を具体的に進めていく。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 専門ゼミIIで作成した研究概要とアウトラインの見直し 第2～15回 グループワーク						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み、質問等あれば教員に相談すること。						
【授業外学修】 1. 卒業論文に関する文献を読み、執筆作業を進める。 2. 適宜、担当教官と議論を行う。 以上の内容を、週当たり7時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	卒業研究II		サブタイトル		授業番号	LP402
担当教員名	日野 正輝 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ポール 佐々木 公之 山本 忠 クレイグ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 伊藤 未高					
対象学部・学科		単位数	3単位			
開講年次	4年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 卒業研究IIでは、引き続き卒業論文の執筆を行い、論文の仕上げ・発表を行う。論文の仕上げにおいては、教員からのコメントに加えて、学生間でお互いの論文を点検し合うことにより、内容の修正や文章の校正を行っていく。学期末には、完成した卒業論文をクラス内で口頭発表し、質疑応答を行った上で、最終調整を行い、論文を提出する。						
【到達目標】 卒業論文を完成させる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】 第1回 論文執筆状況の確認 第2～14回 グループワーク 第15回 プレゼンテーション						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み、質問等あれば教員に相談すること。						
【授業外学修】 1. 卒業論文に関する文献を読み、執筆作業を進める。 2. 適宜、担当教官と議論を行う。 以上の内容を、週当たり7時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	トップリーダー講義 (キャリア研究)	サブタイトル		授業番号	LQ101
担当教員名	佐々木 公之 岩谷 英昭				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】 各業界で活躍されるトップリーダー（経営者・起業家・専門家等）を招き業界のしくみ，求める人物像を講義・ケーススタディー・ディスカッション・アクティブラーニングを交えながら最先端の業界の動向や夢実現への必要なスキルの直接指導を受けます。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山地域を中心に各業界でご活躍されるリーダーから直接，社会に必要な知識，社会的スキル，また考え方について講義を通じて直接指導を受け，職業理解を高め，将来の目指す方向，大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。 ・将来の目標が明確に言えることができる。 ・学生時代にチャレンジすることが年次ごとに具体的に述べられることができる <p>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：トップリーダーとは ※（担当佐々木）
 復習 トップリーダーについてまとめ
- 第2回：アクティブラーニング演習
 予習 アクティブラーニング練習課題 復習 レポート ※（担当佐々木）
 作成
- 第3回：トップリーダー講義(1) 業界のリーダーによる現
 状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第4回：トップリーダー講義(2) 業界のリーダーによる現
 状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第5回：トップリーダー講義(3) 業界のリーダーによる現
 状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第6回：トップリーダー講義(4) 業界のリーダーによる現
 状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第7回：トップリーダー講義(5) 業界のリーダーによる現
 状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第8回：トップリーダーの気質と特徴 ※（担当佐々木）
- 第9回：トップリーダー講義(6) 業界のリーダーによる現
 状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第10回：トップリーダー講義(7) 業界のリーダーによる
 現状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第11回：トップリーダー講義(8) 業界のリーダーによる
 現状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第12回：トップリーダー講義(9) 業界のリーダーによる
 現状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第13回：トップリーダー講義(10) 業界のリーダーによる
 現状と社会的スキルの指導 ※（担当外部講師+佐々木）
 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成
- 第14回：トップリーダーと業界分析(1) ※（担当佐々木）
- 第15回：トップリーダーと業界分析(2) ※（担当佐々木）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	各業界の特徴や自分自身が今後どうすべきなどが具体的に述べてあ ること。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載	30%	プレゼンテーションをとおして最終的な理解度を評価する。

【受講の心得】

受講前に、業界について事前に調査を行い、受講後、復習を必ず行い理解を高めることを強く勧める。

【授業外学修】

- 1 予習として、各リーダーの業界を毎回調査し分析すること。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学修として、講師・授業で紹介された参考文献・記事などを読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	配布プリント
参考書	自由記載	適宜配布

授業科目名	キャリア・デザイン	サブタイトル		授業番号	LQ303
担当教員名	佐々木 公之				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>「将来の自分が何をしたいのか?」「どのような学生生活で成長するのか?」など大学4年間の過ごし方, 学習への動機付けを行う。将来の自分のあるべき姿を考え, 4年間で何を学び, どのような資格にチャレンジするか人生設計を企て大局的な視野に立って考える。挨拶, 文章の書き方等の社会的基本技能習得や人生ロードマップ作成, 大学4年間のアクションプラン作成を求める。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>将来の人生設計を考えた4年間の学生生活の過ごし方と職業理解を高める。現時点での, 自分自身を理解した上で, 社会現状, 各業界・業種の特徴, ワークスタイルなど考えながら将来に対して大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。授業を通じて, 将来の自分を見据えたキャリアデザインを描き, そこに到達するまでの4年間の行動方針の設定を目指す。</p> <p>なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：キャリアデザインとは：講師のキャリアを通じて重要性を理解する ※（担当岩谷・佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第2回：ライフコースを知ろう ～将来のキャリアと大学教育～：教材を読みキャリアの重要性を理解する ※（担当佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第3回：働くことを考える：教材を通じて働くことの意義を理解する ※（担当岩谷）
教科書の事前・事後チェック
- 第4回：変化のなかの若者と意識：教材を通じて現代社会の若者動向について考える ※（担当佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第5回：社会が求める人物像：グループ討議により社会的スキルについて考える ※（担当岩谷）
教科書の事前・事後チェック
- 第6回：大学から労働への移行：実社会で求める人物像についてグループ討議 ※（担当佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第7回：企業のフレキシビリティと労働者のキャリア：労働環境・労働形態について学ぶ ※（担当佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第8回：日本の雇用制度とワーク・ライフ・バランス：日本的な雇用形態を理解する ※（担当佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第9回：世界をみすえたキャリアのあり方：ローモデル教育として世界で活躍する人物について考える ※（担当岩谷）
教科書の事前・事後チェック
- 第10回：キャリアとビジネススキル(1) ～挨拶・言葉遣い～：社会的スキルとして事例にて学ぶ ※（担当岩谷）
教科書の事前・事後チェック
- 第11回：キャリアとビジネススキル(2) ～ビジネス文書の書き方～：ビジネスに必要な基礎知識を学ぶ ※（担当佐々木）
教科書の事前・事後チェック
- 第12回：キャリアとビジネススキル(3) ～チームビルディング～：キャリアについてグループ討議 ※（担当佐々木）
討議内容について準備と振り返り
- 第13回：人生ロードマップ作成：目標と夢の明確化を行う ※（担当岩谷）
レポート作成と振り返り
- 第14回：大学4年間のアクションプラン作成：4年間のアクションプランを発表する ※（担当岩谷）
事前に発表準備と振り返り
- 第15回：大学生活とキャリアデザイン：年次ごとの目標を明確化しアクションプランを考える ※（担当岩谷・佐々木）
事後でのレポート作成

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	夢・目標・アクションプランが具体的に述べてあること。

小テスト
定期試験
その他
自由記
載

【受講の心得】

- ・事前にトピックについて予習を行い，事後学習として講義のまとめを行うことを強く勧める。
- ・受講前に，教科書を読み理解して授業に臨むこと
- ・グループワークでは積極的に授業に参加すること
- ・授業中に他学生に迷惑を掛けないように受講すること

【授業外学修】

- 1 授業毎に紹介する教科書，参考文献を次回授業までに読んでおくこと。
- 2 復習として，グループワーク，課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として，授業で紹介された記事などを読む。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	サッカーボール型キャリア開発	岩谷英昭 小泉京美	白桃書房	1800円+税	9784561256762
	自由記 載	別途指示			
参考書	自由記 載	小野田博之著「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」（日本能率協会マネジメントセンター，2005）			

授業科目名 **ライフ・デザイン** サブタイトル 授業番号 LQ401

担当教員名 日野 正輝 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ポール 佐々木 公之 山本 忠
クレイグ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 伊藤 末高

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 4年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

学生自らの卒業後のライフ設計に役立てることを目的に、学部の各教員が自らのライフ・ヒストリーを学生に披露しながら、個人、夫婦、そして家族としての在り方、また「生」、「老」、「病」、「死」等について討議する機会を持つ。

【到達目標】

自らの人生設計に対する考え、各ライフステージに必要な心構えや態度を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：人生設計に必要なこと	※ (担当各教員)
第2回：私のライフ・ストーリー 1	※ (担当各教員)
第3回：私のライフ・ストーリー 2	※ (担当各教員)
第4回：私のライフ・ストーリー 3	※ (担当各教員)
第5回：私のライフ・ストーリー 4	※ (担当各教員)
第6回：私のライフ・ストーリー 5	※ (担当各教員)
第7回：私のライフ・ストーリー 6	※ (担当各教員)
第8回：私のライフ・ストーリー 7	※ (担当各教員)
第9回：私のライフ・ストーリー 8	※ (担当各教員)
第10回：私のライフ・ストーリー 9	※ (担当各教員)
第11回：私のライフ・ストーリー 1 0	※ (担当各教員)
第12回：私のライフ・ストーリー 1 1	※ (担当各教員)
第13回：私のライフ・ストーリー 1 2	※ (担当各教員)
第14回：学生による振り返り 1	※ (担当各教員)
第15回：学生による振り返り 2 とまとめ	※ (担当各教員)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	授業内でのディスカッションや意見交換への参加度をみる。
	レポート	50%	自らのライフデザインを完成させ、提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

授業内で他の受講生とのディスカッションや意見交換を促すことがある。その時は、速やかに行動するように心掛けて欲しい。

【授業外学修】

1 予習として、協議の題材に関するテキストを熟読し、自分の意見を明確にしておく。

2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名 **地域アクティブ・ラーニング** サブタイトル 授業番号 LQ201

担当教員名 日野 正輝 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ポール 佐々木 公之 山本 忠
クレイグ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 伊藤 末高

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 2年 開講期 後期
必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

本講は、地域・行政・企業・支援機関が抱える実際の課題についてアクティブラーニングを通じて課題解決を検討する科目である。課題解決学習（PBL：Project/Problem Based Learning）を通じて、課題解決手法やフレームワーク修得を目指し、思考力・問題解決能力を高め、チームワーク、リーダーシップを養うことを目指す。

【到達目標】

地域・企業が抱える諸問題を把握や実際のプロジェクトマネジメント手法を身に付けるようにする。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：フィールドワークの基本
- 第2回：地域の抱える課題とは
- 第3回：プロジェクトマネジメント演習(1)
- 第4回：プロジェクトマネジメント演習(2)
- 第5回：地域課題の検討
- 第6回：課題解決手法の習得（KJ法）
- 第7回：課題解決手法の習得（ブレインストーミング）
- 第8回：地域アクティブ・ラーニングの実施(1)
- 第9回：地域アクティブ・ラーニングの実施(2)
- 第10回：地域アクティブ・ラーニングの実施(3)
- 第11回：地域課題の明確化
- 第12回：地域課題の解決策検討(1)
- 第13回：地域課題の解決策検討(2)
- 第14回：発表の準備（プレゼンテーション）
- 第15回：プレゼンテーション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業内容を自主的かつ計画的に取り組んでいるかを評価する
	レポート	20%	レポート・提出物
	小テスト		
	定期試験	50%	プレゼン・期末試験
	その他 自由記載		

【受講の心得】

座学と実際のフィールドワークを合わせて授業を行う。外部講師（行政・企業など）から、実際に抱える課題について説明などを行ってもらうためマナーや挨拶などの徹底を図る。また、主体性を重んじ、自分が何をすべきかなど社会人基礎力向上を図る。

【授業外学修】

事前の情報収集と事後の学習内容の整理を行うこと。

なお、以上の内容を、週当たり最低4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	実例でよくわかるアンケート調査と統計解析	菅 民郎	ナツメ社	2000	4816351299
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	インターンシップ (短期)		サブタイトル		授業番号	LQ301
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 約2週間に亘って、将来のキャリアを念頭に入れ企業・行政・NPOにて就業体験を行う制度である。職場の実情を知り体感することで職業理解、実務能力を向上させるだけでなく、自己の職業適性について考える契機となる。学内にて事前研修を行った後、実際9-10日間のインターンシップを経験する。期間中は、「インターンシップ実施日誌」、受け入れ先からの実習の態度、意欲、成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」、インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。						
【到達目標】 ・職業、勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～28回 インターンシップ実習 第29回 実習体験報告 第30回 インターンシップふりかえり						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。			
	自由記載					
【受講の心得】 受講前に、インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として、希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として、インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3 発展学修として、講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	体験報告書等				
参考書	自由記載	適宜配布				

授業科目名	インターンシップ (中長期)		サブタイトル		授業番号	LQ302
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科		単位数	4単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 1か月～2か月に亘って、将来のキャリアを考え国内外にて就業体験を企業・行政・NPOにて行う制度である。国内企業にて長期間の就業体験を積むことで職業理解、実務能力向上を目指す。海外インターンシップでは海外での就業体験にて、異文化理解だけでなく、語学力の向上にて国際的視野に立った人材育成が図られる。学内にて事前研修を行った後、実際20～50日間のインターンシップを経験する。期間中は、「インターンシップ実施日誌」、受け入れ先からの実習の態度、意欲、成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」、インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。						
【到達目標】 ・職業、勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を中長期間掛けて実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～98回 インターンシップ実習 第99回 実習体験報告 第100回 インターンシップふりかえり						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	70%	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	学内での取り組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。			
自由記載						
【受講の心得】 受講前に、インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として、希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として、インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3 発展学修として、講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	体験報告書等				
参考書	自由記載	適宜配布				

授業科目名 **留学準備セミナー** サブタイトル (留学のための英語) 授業番号 LR201

担当教員名 松浦 加寿子

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 2年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

2年生後期で行われる「 Semester留学」の準備講義である。リスニングや語句の並び替え問題、リーディングなどの練習問題を通して語彙力を強化し、英語力を養うとともに、留学中に必要な基礎知識について説明する。

【到達目標】

留學生活のさまざまなシチュエーションに必要な語彙や口語表現を学び、英会話ができるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回： Semester留学について
- 第2回： Chapter 1 On the Plane
- 第3回： Chapter 2 Airport Arrival Procedures
- 第4回： Chapter 3 Meeting the Host Family
- 第5回： Chapter 4 Sharing Japanese Culture
- 第6回： Chapter 5 Taking the Bus
- 第7回： Chapter 6 Orientation
- 第8回： 小テスト, Chapter 7 Making Phone Calls
- 第9回： Chapter 8 Seeking Medical Care
- 第10回： Chapter 9 Giving Presentations
- 第11回： Chapter 10 Shopping
- 第12回： Chapter 11 Airport Departure Procedures
- 第13回： Chapter 12 Keeping in Touch by Email
- 第14回： Extra Exercises
- 第15回： 留学の心構え, まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	既習事項について語彙や表現、文法項目などの理解度を評価する。
	定期試験	50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- ・ 予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。
- ・ 英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。

【授業外学修】

1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また、練習問題も解いておくこと。

2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	グローバルキャリアをめざして一語学留学のためのファーストステップ	辻 勢都, 辻 和成, Margaret M. Lieb	三修社	2, 000円	978-4-384-33448-7
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	短期海外留学		サブタイトル		授業番号	LR101
担当教員名	日野 正輝 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ポール 佐々木 公之 山本 忠 クレイグ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 伊藤 末高					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 1年次の夏休みを利用して、東南アジア諸国または英語圏の国で約10日間の研修旅行を実施する。研修期間中は、現地の大学または語学学校で提供されるESL（English as a Second Language）プログラムにて、他国の留学生と共に、約10日間（オリエンテーション含む）にわたって、英語によるコミュニケーションのスキルを学ぶ。また、現地の伝統文化の探求を通して、異文化で生きる術を習得し、人間力の強化を図る。海外研修日誌に日々の活動を記録し、留学の目的と日々の活動内容を常に明確にするが求められる。帰国後は、研修を通して得たこと学んだことを「ふりかえりシート」に記し、提出する。						
【到達目標】 海外での研修を通して異文化を理解し、人間力の強化を図り、英語によるコミュニケーションのスキルを身に付ける。なお、本科目はディプロマシーポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
本科目の活動は研修先（平成30年度はフィリピン・マニラ）を中心として行われ、次のような内容が含まれる。 (1) 研修中の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・語学、文化の授業 ・フィールド・トリップ など (2) 帰国後の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート提出 ・大学祭での展示 ほか 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	海外研修先での日誌（研修日誌）の内容から授業への取り組みの姿勢や態度を評価する。			
	レポート	20%	帰国後のレポート（ふりかえりシート）の内容を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	60%	現地語学学校での学習成果を評価する。			
自由記載						
【受講の心得】 パスポートの取得や海外研修を行う基本的な手続きを指定された期日を守って行うこと。なお、本科目は必修科目となっていないが特別な理由がない限り原則全員参加である。						
【授業外学修】 1. 事前学習として、海外研修に必要な英語表現や研修を行う国について予習する。 2. 研修中・研修後に、研修で習った英語表現や研修を行った国について復習する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	別途指示される。				
参考書	自由記載					

授業科目名	セメスター留学		サブタイトル		授業番号	LR202
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科		単位数	12単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にしたプログラムである。2年後期（9月末～1月中旬）期間中に姉妹校Vancouver Community College（米国）、AOI College of Language（カナダ）、提携校University of Wisconsin-Stout（米国）、Douglas College（カナダ）等のESL（English as a Second Language）プログラムにて週30時間以上の英語学習を課した留学プログラムである。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>各留学先で提供されるプログラムを合格点で修了させること。分野別に授業が実施されることになるが、全ての授業で合格点を獲得しなければ、所定9単位は取得できないので注意すること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>留学先ごとに若干の差があるが、Listening, Speaking, Reading, Writing, Vocabulary, Grammar, Pronunciationの分野から現地でのESLの授業が行われる。いずれの留学先においても、ELSの授業クラスはレベル分けされており、プレースメント・テスト等により所属クラスが決定される。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	100%	留学先から送付される各授業の成績や担当教員の所感等を総合的に判断して評価する。			
自由記載						
<p>【受講の心得】</p> <p>中国学園を代表して研修に参加するものとし、留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。</p>						
<p>【授業外学修】</p> <p>留学期間中は、1日3時間程度を予習・復習の授業外学修に費やし、残りの時間は帰国後（12月末）から学期が終了する1月下旬まで、帰国プレゼンテーションのための資料づくりや報告書の作成等に費やすことで、必要な時間数を確保することに努める。</p>						
使用テキスト	自由記載	留学先にて指定されたものを購入する。				
参考書	自由記載	なし				

授業科目名 **日本事情 ※留学生 対象科目** サブタイトル 授業番号 LS101

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

1. 日本の文化や社会, 習慣について幅広く学習し日本人のものの見方, 考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力, そして, 知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。
2. 日本や日本人を正しく理解することができる。
3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。

なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <技能> の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回: オリエンテーション・日本はどんな国か

第2回: 自国を紹介する

第3回: 日本の旅を考える

第4回: 日本の食

第5回: 自国の食文化を紹介する

第6回: 年中行事

第7回: 自国の年中行事を紹介する

第8回: 現代文化とポップカルチャー

第9回: スポーツを楽しむ

第10回: 環境保護を考える

第11回: 教育

第12回: 自国の教育を紹介する

第13回: 政治と憲法

第14回: 多文化共生社会について考える

第15回: 異文化交流

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極的な受講態度, 発話回数, 予習復習の成果で評価する
	レポート	10%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

1. 資料を読んだり, ディスカッションをしたりするので, 自分からどんどん発言すること。
2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。

【授業外学修】

1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。
 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。
 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語I ※留学生対象科目** サブタイトル 授業番号 LS102

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につけることができること。2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できること。3. 中上級の表現力が習得できること。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：アカデミック・リーディング(1)

第2回：語彙・文法(1)

第3回：アカデミック・ライティング(1)

第4回：アカデミック・リーディング(2)

第5回：語彙・文法(2)

第6回：アカデミック・ライティング(2)

第7回：アカデミック・リーディング(3)

第8回：語彙・文法(3)

第9回：アカデミック・ライティング(3)

第10回：アカデミック・リーディング(4)

第11回：語彙・文法(4)

第12回：アカデミック・ライティング(4)

第13回：アカデミック・リーディング(5)

第14回：語彙・文法(5)

第15回：アカデミック・ライティング(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する
	レポート	10%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。

【授業外学修】

毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。

テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語II ※留学生対象科目** サブタイトル 授業番号 LS103

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 1年 開講期 後期
必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

総合的な日本語力のもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につけることができる。
2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。
3. 中上級の表現力を習得することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：アカデミック・リーディング(1)
第2回：発表・討議
第3回：アカデミック・リーディング(2)
第4回：発表・討議
第5回：アカデミック・リーディング(3)
第6回：発表・討議
第7回：アカデミック・リーディング(4)
第8回：発表・討議
第9回：アカデミック・リーディング(5)
第10回：発表・討議
第11回：プレゼンテーション(1)
第12回：プレゼンテーション(2)
第13回：プレゼンテーション(3)
第14回：プレゼンテーション(4)
第15回：プレゼンテーション(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。
	レポート	20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト		
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。

【授業外学修】

1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。
 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語検定試験対策** サブタイトル

授業番号 LS104

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

日本語検定対策という科目名であるが、総合的な日本語力の向上を目指す。また、大学生に必要な表現力の向上を図る。

【到達目標】

1. 新聞記事, エッセイ, 小説など一般的な文章を理解することができ, そのための語彙・文法を使うことができる。
2. 会話, ニュース, 会議などを聞いて理解することができる。
3. 自分の意見を整理して話すことができる。

なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度> の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回: 読解(1)

第2回: 文字・語彙, 文法(1)

第3回: 聴解・会話(1)

第4回: 読解(2)

第5回: 文字・語彙, 文法(2)

第6回: 聴解・会話(2)

第7回: 読解(3)

第8回: 文字・語彙, 文法(3)

第9回: 聴解・会話(3)

第10回: 読解(4)

第11回: 文字・語彙, 文法(4)

第12回: 聴解・会話(4)

第13回: 読解(5)

第14回: 文字・語彙, 文法(5)

第15回: 聴解・会話(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極性, 予習・復習の成果で判断する。
	レポート	10%	自分の考えがまとめられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	定着度で評価する。
	定期試験	40%	理解度・到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

毎回配布するプリントは事前に読んで, 内容を理解しておくこと。新出語は調べておくこと。

【授業外学修】

1. 確認のための小テストがあるので、毎回学習した内容は自分の言葉でまとめておくこと。
 2. 語彙や文法の意味を理解して覚えておくこと。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **教職概論**

サブタイトル

授業番号 LU101

担当教員名 野村 泰介

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教職概論は、教職の意義と教員の役割、教員の職務内容について、制度的・実際の側面から学ぶ。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を培う。

【到達目標】

教職の意義、教員の役割、職務内容など教職に対する正しい理解を深めるとともに、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を確認することを到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：子どもの生活と学校

第2回：学習指導

第3回：生徒指導・進路指導

第4回：教育相談

第5回：学級経営

第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか

第7回：児童生徒と教師—学ぶことと教えること

第8回：教員養成の制度

第9回：教職課程の仕組みと内容

第10回：教員の採用

第11回：教員の研修

第12回：教員の地位と身分

第13回：教員の待遇と勤務条件

第14回：学校制度

第15回：学校管理・運営体制

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題に対して真摯に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているかの2点で評価する
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記 載		

【受講の心得】

受講期間中は現在の学校教育の課題と、学校教員の社会的使命について真剣に考えること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新版教職入門教師への道	藤本典裕	図書文化社	1944円	9784810097207
	自由記 載				
参考書	自由記 載	授業において随時紹介する。			

授業科目名 **教育原理**

サブタイトル

授業番号 LU102

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。

特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。

【到達目標】

現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。

本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。

そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育とはなにか

第2回：子どもの発達と現代社会

第3回：教育における思想家たちの系譜

第4回：教育の思想と実践

第5回：近代の教育制度の発展

第6回：教育課題の歴史的背景

第7回：教育の課題と教育政策の動向

第8回：諸外国の教育

第9回：教育に関する法令

第10回：教員の養成・採用・研修

第11回：学校経営における地域連携の現状

第12回：学校経営における地域連携の制度と課題

第13回：学校安全の現状

第14回：学校安全の課題と対策

第15回：これからの社会と教育

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	
	レポート	70%	最終レポート
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	コメントペーパー
	自由記載		

【受講の心得】

テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。

【授業外学修】

週当たり4時間以上、テキストを読むこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる教育原理	汐見稔幸ほか	ミネル ヴァ書 房	2, 800	9784623059263
	自由記 載				
参考書	自由記 載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	LU103
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
【到達目標】 実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育心理学とは 第2回：心身の発達に基づく教育心理学の考え方 第3回：心身の発達に応じた学びの場とその移行 第4回：学びの意欲 第5回：学びのしくみ 第6回：学びの諸相 第7回：学びの開発と体系化 第8回：中間のまとめ 第9回：主体的な学びの授業 第10回：個に応じた学びの援助 第11回：自立と社会性の学び 第12回：子どもを支える 第13回：学びと適応の評価 第14回：教師の成長 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】 毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理
学

田爪宏二（編著）

ミネルヴ
ア書房 2200円

978-4-
623-
08177-6

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **教育方法学**

サブタイトル

授業番号 LU201

担当教員名 住野 好久

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法、技術を教授するとともに、情報機器及び教材の活用について教授する。

【到達目標】

- ・子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。
- ・教育の目的に適した指導技術を理解し、身につける。
- ・情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標，内容，方法，組織
- 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法
- 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定
- 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発
- 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為
- 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり
- 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際
- 第8回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究
- 第9回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成
- 第10回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討（1）
- 第11回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討（2）
- 第12回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成
- 第13回：教育の方法(6) 学級づくりの方法(1)学級づくりとは
- 第14回：教育の方法(7) 学級づくりの方法(2)学級づくりの方法
- 第15回：教育の方法(8) 学級づくりの方法(3)集団指導と個別指導

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	各回の授業の終盤に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。
	定期試験	40%	最終的な目標到達度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

毎回，授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	適宜、授業の中で紹介する。

授業科目名 **教育課程総論**

サブタイトル

授業番号 LU202

担当教員名 住野 好久

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について学修する。

【到達目標】

- ・教育課程の意義・編成の方法について理解する。
- ・教育課程の法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について理解する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育課程の意義

第2回：教育課程に関する法令(1)－教育基本法・学校教育法－

第3回：教育課程に関する法令(2)－学校教育法施行規則・学習指導要領－

第4回：教育課程に関する法令(3)－学校教育法施行規則・学習指導要領－

第5回：学習指導要領の歴史的変遷(1)－～50年代－

第6回：学習指導要領の歴史的変遷(2)－～70年代－

第7回：学習指導要領の歴史的変遷(3)－～90年代－

第8回：学習指導要領の歴史的変遷(4)－～10年代－

第9回：新学習指導要領の特徴(1)－資質・能力論－

第10回：新学習指導要領の特徴(2)－主体的・対話的で深い学び論－

第11回：新学習指導要領の特徴(3)－高等学校－

第12回：新学習指導要領の特徴(4)－カリキュラム・マネジメント論－

第13回：新学習指導要領の特徴(5)－社会に開かれた教育課程論－

第14回：教育課程の課題

第15回：教育課程の未来

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する
	レポート		
	小テスト	40%	毎回の授業の最後に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。
	定期試験	40%	最終的な目標到達度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	高等学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	中学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	英語科教育法I		サブタイトル		授業番号	LU203
担当教員名	大橋 典晶					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 15回の授業のうち、前半においては、教科書をよく読んでくるという予習に基づいて、授業の中で諸々の問題点を議論することを中心に進め、知識を身に付ける。後半においては、各自で読書をすることを求め、授業では学習指導案を作成し、それを模擬授業の形で実行してみる。						
【到達目標】 英語学習、英語教育を考えるとときに、どのような要素がこれに含まれるかをまず知り、その知識に基づいて授業、教科指導を計画し、実行するための基礎的な知識を身に付ける。また、学習指導案が書けるようになることを目指す。 本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉に貢献するものである。						
【授業計画】						
第1回：英語教育の基本問題1（英語教育の位置付け、「英語とは」） 第2回：英語教育の基本問題2（指導目標、学習者、教師などの要素） 第3回：英語教育の基本問題3（言語習得理論、教授法） 第4回：スキルの習得とその指導1（発音、綴り字、語彙、文法） 第5回：スキルの習得とその指導2（4技能） 第6回：スキルの習得とその指導3（4技能の統合） 第7回：授業と学習指導案 第8回：教材と機器の活用、TT 第9回：テストと評価 第10回：小学校での英語教育とこれからの英語教育 第11回：学習指導案の作成方法 第12回：学習指導案の作成演習 第13回：学習指導案に基づいた模擬授業演習 第14回：模擬授業演習のまとめ 第15回：模擬授業、学習指導案の反省と科目授業全体の振り返り 定期試験は実施しない。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	予習の状況及び発表などの授業への貢献度により評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	40%	学習指導案と模擬授業の完成度などを評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】 予習と授業中の積極的な発言を求めます。						
【授業外学修】 必ず事前に教科書を読み、自分で調べることによって、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにするという予習を行うこと。この学修に、週当たり4時間以上をかけること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

「新学習指導要領にもとづく英語科教育法」	望月昭彦（編著）	大修館
「中学校学習指導要領解説外国語編」	文部科学省	開隆館出版
「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」	文部科学省	開隆館出版
自由記載		

参考書

自由記載

授業科目名 **英語科教育法II**

サブタイトル

授業番号 LU301

担当教員名 大橋 典晶

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

英文で書かれた英語科教育法に関する教科書を用いて、これを講読し、内容について議論したり考えを述べたりする。この活動を通して、日本語で知っているだけでなく英語でも英語科教育法に関する知識を得、これを説明したり実行したりできるようになることを目指す。

予習を特に重要視し、DVDは各自で視聴してくるようにし、授業内で英文を読むことも可能な限り短時間で済ませられるようにして、議論や発表に時間をかけるように計画する。

【到達目標】

「英語科教育法I」で学習した知識を用いながら、英語で書かれた英語科教育法の本や論文が読めるようになり、知識と技能を一層深める。なお、授業で使用する本や論文は外国のものであるが、学習指導要領との関連に留意することとする。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>に貢献するものである。

【授業計画】

第1回：指導の背景知識1（言語習得）

第2回：指導の背景知識2（学習者の要因）

第3回：指導の背景知識3（学習者中心の授業，動機づけ）

第4回：実際の言語指導1（新教材の導入）

第5回：実際の言語指導2（ドリルと練習）

第6回：実際の言語指導3（4技能の指導）

第7回：実際の言語指導4（詩，歌，ドラマを使った指導）

第8回：授業運営1（教師の役割，授業規律の保持）

第9回：授業運営2（授業内での評価，宿題の出し方）

第10回：授業計画と教材1（授業の流れの計画，教科書・辞書の利用法）

第11回：授業計画と教材2（言語活動の計画）

第12回：授業計画と教材3（ICT機器の活用）

第13回：言語と意味内容を統合した指導1（CLIL [言語と意味内容を統合した指導] とは何か）

第14回：言語と意味内容を統合した指導2（CLILを用いた指導の実際）

第15回：まとめと振り返りのセッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	予習・復習の状況60%，授業中の積極性20%，発言内容20%により評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習を強く求める。

【授業外学修】

「英語科教育法I」の教科書等も参考にしながら、必ず事前に英文を読み、意味の理解できない表現は自分で調べ、それでも理解できない箇所を明らかにするという予習を行うこと。この学修に、週当たり4時間以上をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「Essential Teacher Knowledge Book & DVD PAC」	Jeremy Harmer (著)	ピアソン・エデュケーション		
	自由記載				
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版			

授業科目名	生徒指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	LU302
担当教員名	上岡 仁					
対象学部・学科			単位数	1単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，生徒指導上の諸問題への対応について講義する。						
【到達目標】 一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し，全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，問題行動等への組織的な対応について理解することができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置付け 第2回：集団指導と個別指導の意義と方法 第3回：生徒指導体制と教育相談体制 第4回：生徒指導の進め方(1) -学級担任としての役割- 第5回：生徒指導の進め方(2) -学年団等による組織的対応- 第6回：暴力行為・いじめ・不登校への対応 第7回：生徒指導に関する法制度 第8回：家庭・地域・関係機関等との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	課題についてまとめをするとともに，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	25%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 課題についてレポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	生徒指導提要	文部科学省	教育図書	276円＋税	978-4-87730-274-0	

自由記載

参考書

自由記載

授業において随時紹介する。

授業科目名	進路指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	LU303
担当教員名	上岡 仁					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
進路指導・キャリア教育の意義や具体的な進め方について講義する。						
【到達目標】						
児童生徒が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し能力を伸ばさせる進路指導と、児童生徒が学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人が社会的・職業的に自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成するキャリア教育の意義や進め方について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：進路指導・キャリア教育の意義と教育課程における位置付け 第2回：学校の教育活動全体を通じた進路指導・キャリア教育の進め方 第3回：進路指導・キャリア教育の全体計画と年間指導計画の作成 第4回：進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制と関係機関等との連携 第5回：進路指導・キャリア教育の視点を持つカリキュラム・マネジメントの意義 第6回：ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義と留意点 第7回：生涯を通じたキャリア形成と自己評価 第8回：キャリア・カウンセリングの基本的な考え方と方法						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	課題についてまとめをするとともに、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト	25%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 課題についてレポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
【授業外学修】						
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	小学校キャリア教育の手引き（改訂版）	文部科学省	教育出版	780円＋税	978-4-316-30052-2	

自由記載

参考書

自由記載

授業において随時紹介する。

授業科目名 **英語科教育法Ⅲ**

サブタイトル

授業番号 LU304

担当教員名 竹野 純一郎

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

15回の授業で英語の授業と関わりのあるさまざまな内容について学習する。中でも、実際の英語授業実践に焦点を当て、中学校や高等学校の教育現場でどうすれば効果的な授業を実践できるのかを、テキストのみならずDVDを用いて授業研究、授業観察を行い、その上で、よりよい授業のあり方を検討、協議し、学生自らも模擬授業実践を行う。

【到達目標】

中学校や高等学校での英語教育実践について、テキストやDVDを用いて授業研究・授業観察を行うことによって、理論として学んできた知識を実際の教育実践に移すことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：中学入門期の指導，高校入学時の指導

第2回：「英語で授業」の考え方

第3回：基本の授業パターン

第4回：コミュニケーション，活動を中心にした授業

第5回：指導技術1（全般，発音・文字指導）

第6回：指導技術2（文法，語彙指導）

第7回：指導技術3（リスニング）

第8回：指導技術4（リーディング）

第9回：指導技術5（スピーキング）

第10回：指導技術6（ライティング）

第11回：指導技術7（オーラル・イントロダクション，音読）

第12回：文法指導のアプローチ

第13回：評価，教材・教具の扱い

第14回：クラスルーム・マネジメント，自律的学習者を育てるための工夫

第15回：まとめと振り返りのセッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	予習・復習の状況60%，授業中の積極性20%，発言内容20%により評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

積極的に議論に参加してほしい。

【授業外学修】

1 予習として、必ず事前に教科書を読み、自分で調べることによって、理解できる箇所と理解できない箇所を明らかにしておく。

2 復習として、「英語で授業」を行うために「クラスルームイングリッシュ」を授業で扱うので、学んだ表現が自然に口から出てくるまで練習する。

これらの学修に、週当たり4時間以上をかけること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	英語授業ハンドブック〈中学校編〉DVD付	金谷憲, 青野保, 太田洋, 馬場哲生, 柳瀬陽介	大修館書店	3,600円 +税	978-4-469-04173-6
	英語授業ハンドブック〈高校編〉DVD付	金谷憲, 阿野幸一, 久保野雅史, 高山芳樹	大修館書店	4,000円 +税	978-4-469-04177-4
	自由記載				
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領」東山書房 文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版 染矢正一「教室英語表現事典」大修館書店			

授業科目名 **英語科教育法IV**

サブタイトル

授業番号 LU305

担当教員名 大橋 典晶

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

15回の授業の前半は、評価の中でも「テスト」について、生徒の英語力を正確に図るテストの在り方を学習する。テスト作成の実習も組み込む。後半では、学習指導案の書き方を、より詳細に学習し、実際に指導案を書いてみて、模擬授業で実践する。模擬授業について、協議を行う。

【到達目標】

学習指導要領との関連に留意しながら、評価と学習指導案について、知識をもち、理論を実践に移すことができる。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能>に貢献するものである。

【授業計画】

第1回：テストの目的と欠陥テスト

第2回：さまざまな「テストング・ポイント」をもつテスト（総合小問題、発音テスト、聞き取りテストなど）

第3回：さまざまなテストの形式（空所補充、並べかえ、書き換え、誤文訂正など）

第4回：さまざまなテストの形式（部分書き取り、和訳、和文英訳など）

第5回：テスト作成演習1

第6回：テスト作成演習2（協議）

第7回：学習指導案の基礎知識1（教育実習と学習指導案、学習指導案作成の疑問、学習指導案作成の手順）

第8回：学習指導案の基礎知識2（学習指導案の細目／授業実習／道徳学習指導案例）

第9回：学習指導案の基礎知識3（学習指導案にみる授業の“個性”／「道徳」「特別活動」「総合的な学習の時間」について）

第10回：学習指導案作成演習

第11回：模擬授業1と反省協議

第12回：模擬授業2と反省協議

第13回：模擬授業3と反省協議

第14回：模擬授業1～3の総括と反省協議

第15回：まとめと振り返りのセッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	予習・復習の状況60%，授業中の積極性20%，発言内容20%により評価する
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

積極的に議論に参加してほしい。

【授業外学修】

第6回目までは、教科書を事前に読み、理解できる箇所とできない箇所を明らかにしてくる。

第7回目以降は、教科書に目を通すことはもちろん、実際に学習指導案を書いてみる。

以上の学修に、週当たり4時間以上を充てること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	「無責任なテストが『落ちこぼれ』を作る」	若林俊輔, 根岸雅史	大修館書店		
	「教育実習生のための学習指導案作成教本英語科改訂版」	教育実習を考える会	蒼丘書林		
参考書	自由記載				
	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版 金谷憲, 谷口幸夫編「テストの作り方」研究社 米山朝二, 杉山敏著「英語科教育実習ハンドブック新版」大修館書店			

授業科目名	道徳教育指導論		サブタイトル		授業番号	LU306
担当教員名	小森 順子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>よりよく生きていくための基盤となる道徳性を育てるにはどうすればよいか。道徳的価値についての理解を深め、単なる徳目主義に陥ることなく、価値の自覚を図るための指導の在り方を検討していく。学校教育活動全体における道徳教育の現状と課題を概観し、道徳教育、道徳科の意義と重要性について考える。道徳科の指導について、教材の選定や指導過程の工夫等、学習指導案を作成する作業を通して、ねらいとする道徳的価値について考えさせる観点と方法を身に付ける。さらに、作成した道徳科学習指導案で模擬授業をすることで、道徳科の意義と目標を理解する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>価値観が多様化する社会において、よりよく生きていきたいという願いに沿うためには、成長過程における様々な体験や人的物的環境を通して、道徳的価値に繋げていくことが必要である。生きる基盤となる道徳性は、それが心に響いたとき自覚され、受け止められて実践力につながっていくものである。学校教育活動全体を通じた道徳教育の重要性や道徳科における指導の在り方や工夫を学ぶことによって意義と理解を深め、実践意欲を養う。同時に、教員を志望する者としての自覚をもち、真摯に学習しようとする姿勢と態度を養う。</p> <p>現在の学校における道徳教育について知るために、道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題を学び、道徳教育及び道徳科について理解する。</p> <p>人間の道徳性はどのように習得されていくか、道徳性の発達について学び、さらによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳的価値について熟慮し、学齢期の子どもたちの道徳性の修得はいかにすればよいかについて考えられるようにする。</p> <p>道徳科の指導方法についての技能を習得するために、手段となる教材の選択の工夫、道徳科学習指導案の作成演習、授業展開の工夫などを学び、道徳科の授業ができるようにする。</p> <p>毎時間の課題に対する記述や道徳科学習指導案作成、内容項目のまとめレポート、グループでの討議や積極的な発表ができるようになることを目的とする。</p> <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：道徳とは何か</p> <p>第2回：道徳教育の歴史と現状 道徳性の発達</p> <p>第3回：学校における道徳教育と道徳科の目標 指導計画と推進体制</p> <p>第4回：道徳科の内容 内容項目の指導の観点(1)</p> <p>第5回：内容項目の指導の観点(2)</p> <p>第6回：指導の配慮事項 教材に求められる内容の観点</p> <p>第7回：道徳科の授業のつくりかた(1) 道徳科学習指導案 一般的な学習指導過程</p> <p>第8回：道徳科の授業のつくりかた(2) 学習指導案作成の手順 教材研究</p> <p>第9回：道徳科の授業のつくりかた(3) 多様な学習指導 指導方法の工夫</p> <p>第10回：学習指導案作成(1)</p> <p>第11回：学習指導案作成(2)</p> <p>第12回：授業実践(1) 模擬授業と振り返り 模擬授業改善の視点</p> <p>第13回：授業実践(2) 模擬授業と振り返り 模擬授業改善の視点</p> <p>第14回：道徳科の評価 「考え議論する道徳」</p> <p>第15回：まとめ よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの 姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加態度によって評価する。
レポート	70%	各回の授業の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。授業レポートはコメントを記入して返却し，次の講義に生かす。
小テスト		
定期試験		
その他 自由記載	20%	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や教態で評価する。

【受講の心得】

様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち，授業実践とつないで考え，真剣に受講する。

【授業外学修】

1 予習として，「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「新しい道徳1」のうち，次回の授業内容に関わる部分を読み，課題を把握しておくこと。

2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので，復習をしておくこと。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新しい道徳1年 中学校		東京書籍		
	自由記載 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	平成27年7月	(文部科学省)		

参考書

自由記載

授業科目名	総合的な学習の時間 及び特別活動の指導 法		サブタイトル		授業番号	LU307
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>中学校・高等学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、中学校・高等学校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。</p>						
【到達目標】						
<p>学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 中学校・高等学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：道徳教育の意義と目標・内容 第2回：道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 第3回：道徳性の発達 第4回：総合的な学習の時間の意義と目標・内容 第5回：総合的な学習の時間の指導計画 第6回：総合的な学習の時間の学習指導案 第7回：総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 第8回：総合的な学習の時間の指導の手立て 第9回：総合的な学習の時間の評価 第10回：特別活動の意義と目標 第11回：特別活動と各教科等との関連 第12回：特別活動の内容 第13回：特別活動の指導と評価 第14回：特別活動の学習指導案 第15回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。			
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な知識や理解の度合いを評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	中学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省	廣済堂あ かつき	146	978-4- 908255- 35-9
	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	209	978-4- 8278- 1561-0
使用テキスト	高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省			
	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	ぎょうせい	189	
	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省			
	自由記載				
参考書	自由記載	『新しい特別活動指導論』, 高旗正人・倉田侃司 編著, ミネルヴァ書房, 2004年			

【その他】

毎回、授業ノートを提出するので、ルーズリーフのノートを用意すること。

授業科目名	教育相談		サブタイトル	(カウンセリングを含む)		授業番号	LU308
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科				単位数	2単位		
開講年次	3年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】 この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。							
【到達目標】 教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：教育相談とは 第2回：学校教育相談とは 第3回：児童・生徒の問題の理解と対応 第4回：児童・生徒理解の精神医学的な基礎 第5回：不登校の理解と対応 第6回：いじめの理解と対応 第7回：学級崩壊の理解と対応 第8回：中間のまとめ 第9回：反社会的問題行動の理解と対応 第10回：神経症的問題の理解と対応 第11回：開発的カウンセリング 第12回：保護者に対する援助 第13回：校内での協力体制・他機関との連携 第14回：教員のメンタル・ヘルス 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。							
【授業外学修】 毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談			森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	特別支援教育概論		サブタイトル		授業番号	LU309
担当教員名	中 典子 池谷 航介					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。						
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 ※（担当池谷航介）						
第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 ※（担当池谷航介）						
第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み ※（担当池谷航介）						
第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※（担当池谷航介）						
第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 ※（担当池谷航介）						
第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの支援 ※（担当中 典子）						
第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ ※（担当池谷航介）						
第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 ※（担当池谷航介）						
第9回：学校と家庭との連携のあり方 ※（担当中 典子）						
第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 ※（担当中 典子）						
第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ ※（担当中 典子）						
第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 ※（担当中 典子）						
第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ ※（担当中 典子）						
第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 ※（担当中 典子）						
第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 ※（担当中 典子）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					

レポート	20%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	80%	最終的な理解度を評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間）

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。（2時間）

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる特別支援教育	湯浅恭正編	ミネルヴァ書房	2,400	

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **教育実習研究（中・高）** サブタイトル 授業番号 LU310

担当教員名 大橋 典晶 藤代 昇丈

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 3年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 実習

【授業の概要】

中・高等学校での教育実習を有意義なものとするための事前学習である。教育実習の意義を考えることから始めて、実習に対する心構え、生徒の指導に関する技術にとどまらず、実習生としての1日の中で具体的にを行うことを身につけられるよう、講義、協議などを行う。教科の指導に関しては、教材研究・授業の計画立案から指導案の書き方に重点を置く。

【到達目標】

その事前学習として、実習の基盤となる知識や技術を身につける。道徳、総合的な学習の時間、生徒指導等の内容を網羅し、特に、教科の指導力の向上を図る。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉に貢献するものである。

【授業計画】

- 第1回：教育実習の意義と目的
- 第2回：学習指導要領（総則編）について
- 第3回：人権教育について
- 第4回：実習校での1日（連絡、見学、日誌、心構えなど）
- 第5回：生徒指導について
- 第6回：道徳と総合的な学習の時間について
- 第7回：教材研究の仕方
- 第8回：授業の流れと教師の支援
- 第9回：中学校授業見学（岡山市立吉備中学校）
- 第10回：学習指導案の書き方(1)
- 第11回：学習指導案の書き方(2)
- 第12回：マイクロティーチングの実施
- 第13回：マイクロティーチングの反省と改善案検討
- 第14回：学習指導案の改善について（教育実習の反省を踏まえて）
- 第15回：実習のまとめと振り返りのセッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な発言などの授業中の取組を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	学習指導案と模擬授業の完成度などを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

予習と授業中の積極的な発言を求めます。

【授業外学修】

第11回目までは、在学中に学んだことの振り返りの色合いが強い。あやふやな内容については、過去の教材を当たるなどして、知識を確実なものにすること。

第12回目以降は、しっかり準備してマイクロティーチングに臨むこと。

以上の学修を週1時間以上行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	教育実習生のための学習指導案作成教本英語 科改訂版	教育実習を考える会	蒼丘書林		
	新編 教育実習の常識	教育実習を考える会	蒼丘書林		
	自由記載	学内で作成した教材を使用する			
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説」東山書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説」東山書房			

授業科目名 **教育実習I**

サブタイトル

授業番号 LU401

担当教員名 藤代 昇丈 大橋 典晶

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

原則として、実習の2週間(中学校実習については前半の2週間)を次の3ステージに分け、それぞれのステージにおいて、取り組み方を変えながら知識や技術を身につける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

【到達目標】

実際に学校現場で、生徒指導、教科指導、担任業務などを、指導教諭の指導の下に実習する。このことを通して、教員として働くための基本的な知識と技術を実践的に身につける。実習に入る前には、学生各自が自己課題を設定し、これを追究することとする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

※実習校と協議し、実習期間をおおまかに次の3ステージに分ける。

第1週前半：学級経営、生徒指導、教科指導などを観察し、その具体的な内容を知る。また、生徒を指導する際の留意点を知る。教科指導においては、学習指導案と実際の指導の関係、教師の指導援助と生徒の反応というインタラク션을理解する。

第1週後半～第2週前半：学級経営、総合的な学習の時間、特別活動、教科指導、(中学校においては、道徳)などを実際に行う。総合的な学習の時間や教科指導では、授業の計画立案、教材研究、学習指導案の作成、授業の実施、反省といった一連の流れの中で、よりよい学習指導案を作り、よりよい授業を実施する方法を模索する。

第2週後半：引き続き実際に指導に参加することを続ける。高等学校実習では、研究授業を実施し、広く校内の先生方の指導を受け、その反省をもとに授業改善の在り方を考察し、実践する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な実習への取り組み態度、授業準備状況、実習の達成度を評価する。
	レポート	20%	学習指導案、実習日誌等の内容を評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載	20%	研究授業の出来具合を評価する。

【受講の心得】

- ・謙虚で真摯な態度で実習に臨むこと。
- ・指導教員の指導には素直に従い、指摘された事項を授業に生かすこと。
- ・実習期間は生徒にとっては教師であることを自覚し、自らを律すること。

【授業外学修】

- 1 指導案作成に当たっては指導教員の指導に基づき、十分に調べ検討して作成すること。
- 2 授業実践に当たっては事前によく練習を行うこと。
- 3 授業後には指導教員の指導を必ず受け、指導された内容を記録の上振り返り、次の授業に向けて改善点を実習日誌等にまとめること。

上記に関連して実習期間を中心に合計で15時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	学内で作成した教材を使用する
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説」「高等学校学習指導要領解説」開隆堂

授業科目名 **教育実習II**

サブタイトル

授業番号 LU402

担当教員名 大橋 典晶 藤代 昇丈

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

原則として、実習の2週間を次の3ステージに分け、それぞれのステージにおいて、取り組み方を変えながら知識や技術を身につける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

本授業では、「教育実習I」に引き続いて、主に第3ステージの内容を、中学校での4週間の実習のうち第3週と第4週に行う。

【到達目標】

実際に中学校現場で、生徒指導、教科指導、担任業務などを、指導教諭の指導の下に実習する。このことを通して、教員として働くための基本的な知識と技術を実践的に身につける。実習に入る前には、学生各自が自己課題を設定し、これを追究することとする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

※実習校と協議し、実習期間をおおまかに次の3ステージに分ける。

第1ステージ：観察を通して、基本的な心構えや言葉遣いなどを知る。

第2ステージ：実際に授業や指導をする中で、授業計画立案、指導案の作成などを行い、指導教諭からの指導を受ける。

第3ステージ：研究授業を行い、指導を受け、その反省を生かして授業改善のための取り組みをする。

このうち、本授業では、主に第3ステージの内容を中学校での実習の第3週と第4週に行う。

第1週・第2週（中学校での実習の第3週と第4週）：学級経営、総合的な学習の時間、特別活動、教科指導などを実際に行う。総合的な学習の時間や教科指導では、授業の計画立案、教材研究、学習指導案の作成、授業の実施、反省といった一連の流れの中で、よりよい学習指導案を作り、よりよい授業を実施する方法を模索する。研究授業を実施し、広く校内の先生方の指導を受け、その反省をもとに授業改善の在り方を考察し、実践する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な実習への取り組み態度、授業準備状況、実習の達成度を評価する。
	レポート	20%	学習指導案、実習日誌等の内容を評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	研究授業の出来具合を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・謙虚で真摯な態度で実習に臨むこと。
- ・指導教員の指導には素直に従い、指摘された事項を授業に生かすこと。
- ・実習期間は生徒にとっては教師であることを自覚し、自らを律すること。

【授業外学修】

- 1 指導案作成に当たっては指導教員の指導に基づき、十分に調べ検討して作成すること。
- 2 授業実践に当たっては事前によく練習を行うこと。
- 3 授業後には指導教員の指導を必ず受け、指導された内容を記録の上振り返り、次の授業に向けて改善点を実習日誌等にまとめること。

上記に関連して実習期間を中心に合計で15時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	学内で作成した教材を使用する
参考書	自由記載	文部科学省「中学校学習指導要領解説」開隆館出版

授業科目名 **教職実践演習（中・高）** サブタイトル 授業番号 LU403

担当教員名 大橋 典晶 竹野 純一郎 藤代 昇丈

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 4年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

教育実習を中心とした諸実習の体験及び学内での授業において修得した知識と技能を実践的能力に高めるため、討論・ロールプレイング・講義・実習・見学・調査・模擬授業等を通して、振り返りと演習を中心に授業を進める。教員としての資質の検証もあわせて行う。また、個人別カルテを作成し、個別的に補完指導を行う。

【到達目標】

教職課程の最終仕上げに当たる科目として、次の4テーマから見て不足している知識や技能を補いながら、教員免許保有者として望ましい資質を一層高めること。

(1) 社会人としての優れた識見 (2) 教科内容の実践的指導力 (3) 教育に対する熱意と使命感 (4) 豊かな人間性と思いやり

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能> <態度> に貢献するものである。

【授業計画】

第1回：これまでの学修の振り返りについての講義と自己振り返りカードの作成

第2回：教育実習成果発表とグループ討論（レポート提出）

第3回：特別支援教育の現状と課題についての講義，ディスカッション

第4回：特別講義「教職を目指す人たちへ」（松畑学長）

第5回：教員としての心構え

第6回：介護等体験の成果発表とグループ討論（レポート提出）

第7回：生徒理解・生徒指導についての講義と中学校見学の課題設定

第8回：中学校授業見学1

第9回：中学校授業見学2

第10回：中学校見学の反省会，グループ討議

第11回：（教科）より良い学習指導案の研究

第12回：（教科）学習指導案の研究と模擬授業の準備

第13回：模擬授業1及び反省会

第14回：模擬授業2及び反省会

第15回：まとめと振り返り（教員としてふさわしい資質・能力の検証を含む）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中の積極的な取組態度により評価する。
	レポート	20%	授業ごとの課題レポートの完成度により評価する。翌回の授業でレポートを返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	発表，発言の正確性，教授の技能が身につけている度合いにより評価する。
	自由記載		教員として最小限必要な資質能力が身につけていると認めた場合に単位を認定する。

【受講の心得】

教職課程の総仕上げとして、真摯に取り組んでほしい。

【授業外学修】

それぞれの授業時間には、レポート提出、報告の準備が課される。その準備を怠りなく行うこと。また、授業後には、教員としての資質・能力のうち、不足していると気づいたことについて補足の学修を行うこと。以上の学修に、週当たり4時間以上をかけること。

使用テキスト	自由記載	随時、資料を配付する。
参考書	自由記載	土屋澄男（編著）「新編英語科教育法入門」文部科学省「中学校学習指導要領解説外国語編」開隆館出版 文部科学省「高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編」開隆館出版

授業科目名	総合食品栄養学特論		サブタイトル		授業番号	GJ501
担当教員名	河野 勇人 川野 光興					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
食品栄養学は栄養学の中の食物（食品素材）に関連した分野である。人間が摂取する食品の大部分は生物由来であるので、種々の生物が栄養としている生物あるいは物質について食品学的な考察をしながら、人間の摂取する食物の特異性を広く深く考慮し理解する。食品の多様性、特殊性、安全性、流動性などを広く理解し、これを学校や社会での栄養教育へ反映させ、食品の意義を理解させる。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・食品の意義、その文化的背景、安全性などを具体的に幅広く理解し、的確に説明できる。 ・食品に関する問題を自発的に調査し、論理的に纏めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1～2回	人の健康に有用な微生物					
第3～4回	食品の有する栄養学的機能性					
第5～7回	食品生産に利用する微生物、食品加工・食品開発における課題や問題点、知財					
第8～10回	食品媒介病原微生物の現状・課題・対策					
第11～12回	食品寄生虫の現状・課題・対策					
第13～14回	実践的な食品の衛生管理方式					
第15回	まとめと総合討論					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。			
	レポート	50%	与えられた課題に対して具体的、論理的に述べられているかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加すること。						
【授業外学修】						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				

授業科目名	総合食品栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GJ602
担当教員名	河野 勇人 川野 光興					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
特論に関連する課題を設定して、自ら文献を調べ、調査しながら、担当指導者と討論をして理解を深め、問題解決能力を養う。また特論に関連する論文を読み、現実の問題を具体的に解決する方策を演習する。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品の意義、文化的背景、安全性等に関連した専門原著論文の読解力、理解力、考察力、内容の伝達力を身に付ける。 ・ 食品に関する課題を自発的に設定、調査し、解決する能力を身に付ける。 ・ 食品に関する現実の問題を、具体的、論理的に纏め、解決することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1～2回	人の健康に有用な微生物、食品生産に利用する微生物に関する文献を輪読し、討論する。					
第3～4回	食品の栄養学的機能性に関する総説、論文を輪読し、討論する。					
第5～7回	食品加工、食品開発に関する論文や知財に関する総説を輪読し、討論する。					
第8～10回	食品媒介病原微生物に関する論文を輪読し、討論する。					
第11～12回	食品寄生虫に関する論文を輪読し、討論する。					
第13～14回	食品の衛生管理に関する論文を輪読し、討論する。					
第15回	まとめと総合討論					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。			
	レポート	50%	与えられた課題に対して具体的、論理的に述べられているかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加し討議に加わること。						
【授業外学修】						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				

授業科目名	総合人間栄養学特論		サブタイトル		授業番号	GK501
担当教員名	森脇 晃義 波多江 崇 多田 賢代 小野 尚美					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】 人間の健康維持・増進および健康障害に関わる栄養学を広く俯瞰し概説する。この特論は各分野の専門的な視点で人間を主体とした栄養学を学び、幼少時から高齢者にいたるまでの栄養教育には必須な基本的かつ先進的な知識と考え方を学ぶための講義である。						
【到達目標】 病院，施設，学校等において栄養管理や栄養指導の意義を理解し，地域においては高度な視点を心得，教育実務に役立てることができる。						
【授業計画】						
(オムニバス方式) 以下のテーマについて学修する。 (1)人体の構造と機能について細胞生理学的なレベルで再認識しその正常な営みに必要な物質とその補給経路，代謝，合成，分解等について認識を深める。 (2)個人から集団への栄養管理と環境衛生管理について，公衆栄養学の概念を具体的に理解する。 (3)慢性疾患における治療を目的とした栄養介入例について取り上げ，課題および問題点について討議する。 メタボリックシンドロームや動脈硬化性疾患（虚血性心疾患，脳血管障害等）を中心に疾病を生活習慣要因，遺伝要因，外部環境要因，加齢，性差等の面から多面的に捉えていく。特に食（栄養）と健康・疾病の密接な関連を重視し，健康増進，疾病予防，再発抑制の面からも理解を深める。 (4)小児の栄養教育の現状と問題点を明確にし，その解決方法を具体的に実例に基づいて検証し，問題解決方法を模索する。 (5)ライフステージにおける健康管理および疾病治療に関する栄養介入例について取り上げ，課題および問題点について討議する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト		100%	時間内の質疑応答，課題レポート，受講態度から総合的に判断する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					

授業科目名	総合人間栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GK602
担当教員名	森脇 晃義 波多江 崇 多田 賢代 小野 尚美					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】 特論に関連する課題を設定して、院生が文献的にしらべ、調査しながら、担当指導者と討論をして理解を深め、問題解決能力を養う。また、特論に関連する論文を読み、具体的な問題、学校や社会における食生活の歴史、食文化の意義、新しい食文化の創成など、考え討論する。これにより管理栄養士としてより深く、広い知識と洞察力を身につけることができる。これにより対象者に食の文化や歴史、現在の問題点などを分かり易く、具体的に教育することができる。						
【到達目標】 食文化を理解し、食文化の創成過程について理解し、栄養指導等を行う時に具体的に教示できる。						
【授業計画】						
(オムニバス方式)以下のテーマについて演習を行う。 (1)人体の構造と機能について細胞レベルから理解し、その正常な機能発現に必要な物質とその輸送経路、および代謝等について文献を輪読し、理解を深める。 (2)個人から集団への栄養管理と環境衛生管理についての論文を輪読する。 (3)慢性疾患における治療を目的とした栄養介入例に関する論文を読み、課題および問題点について討議して、関連分野の理解をも深める。 食と健康の維持・増進、疾病(主に生活習慣病)の病態・予防・治療に関する論文を輪読し、理解を深める。 (4)小児の栄養教育に関わる、内外の報告文を読み、検討し、現状と問題点を明確にし、その解決方法を具体的に実例に基づいて考察する。 (5)ライフステージにおける健康管理および疾病治療に関する栄養介入例についての論文を読み、課題および問題点について討議して、関連分野の理解を深める。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40 %	授業内の質疑応答から評価する		
	レポート		30%	課題レポートを評価する		
	小テスト		30%	達成度を評価する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					

授業科目名	食品化学特論		サブタイトル		授業番号	GL501
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
食品構成成分の化学的・物理的特性とその栄養機能について理解することは食品の加工・調理を行う上で重要なことである。この特論においては、食品構成成分の化学構造、存在状態について学ぶとともに、加工・調理による食品成分の変化および食品成分間反応についての知識と理解を深める。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> 食品成分の化学的・物理的变化を総合的に理解し、食品の品質との関連性を的確に説明できる。 食品化学に関する問題を自発的に調査し、論理的に纏めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回	食品の種類と分類					
第2～5回	食品成分の化学的・物理的特性					
第6～9回	食品成分間反応					
	(1)酸化と劣化					
	(2)酵素による食品成分の変化					
	(3)非酵素的変化					
	(4)微生物的成分変化					
第10～12回	食品素材の化学的特性					
第13～14回	調理・加工食品の品質					
第15回	まとめと総合討論					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。			
	レポート	50%	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加すること。						
【授業外学修】						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	食品学	久保田紀久枝，森光康次郎	東京化学同人	2,600	978-4-8079-1665-8	

自由記載

授業科目名	食品化学演習		サブタイトル		授業番号	GL602
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
食品化学に関する内外の論文についてゼミナール形式で購読する。論文を理解するために必要な食品関連の基礎的知識についても演習を行い、専門知識を深め、食品に関する多角的視野と理解力を養う。また、具体的な事例を取り上げ、演習を通じて問題点の把握と自ら考察する能力を養う。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・食品化学に関連した専門原著論文の読解力、理解力、考察力、内容の伝達力を身に付ける。 ・食品化学に関する課題を自発的に設定、調査し、論理的に解決する能力を身に付ける。 ・食品に関する現実の問題を、具体的、論理的に纏め、解決することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1～6回	文献購読・討論(1)～(6)					
第7～12回	調査報告・討論(1)～(6)					
第13～14回	事例演習・討論(1)～(2)					
第15回	まとめと総合討論					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。			
	レポート	50%	与えられた課題に対する具体的、論理的内容により評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加し討議に加わること。						
【授業外学修】						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。				
参考書	自由記載	特に定めない。				

授業科目名 **代謝調節栄養学特論** サブタイトル

授業番号 GM501

担当教員名 赤木 收二

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

ヒトは、食物として各種栄養素を摂取し、それらを消化・吸収した後、エネルギーへの変換、生体高分子への合成および生理活性物質の生成等を行うことで、恒常性を保ちながら生命を維持する。体内において各栄養素は個別にあるいは相互的に絶妙な代謝調節をうけているが、疾病の多くは、この調節機構の破綻の結果ともいえる。本授業では、栄養学的介入を行う上で重要な疾患を中心に、各栄養素の消化・吸収および代謝について、疾患のなりたちに関連づけながら学修する。さらに、各種疾患について、栄養指導などの栄養学的治療介入を行う上での根拠となるエビデンスについて理解を深める。

【到達目標】

各種疾病のなりたちを理解し、栄養学的理論を展開・応用・実践させる能力を向上させつつ、さらに新たな栄養学的介入を探索するために適切な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において、個々人の身体状況・栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うための能力を高めることが本授業の目標である。本授業は現代生活学研究科人間栄養学専攻のディプロマポリシーのうち、人の健康と病気に関わる医療・臨床栄養学の分野への高度専門職業人としての就職、ならびにその後の活動支援に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

事前に授業に用いる資料を配布する。

- 第1・2回 消化器系器官の機能と構造 食物の消化, 吸収
- 第3・4回 糖質代謝と疾患 糖尿病
- 第5・6・7回 脂質代謝と疾患 脂質異常症 肥満とメタボリックシンドローム 動脈硬化
- 第8回 アミノ酸代謝と疾患
- 第9回 尿酸代謝と高尿酸血症
- 第10・11・12回 ミネラル代謝と疾患 腎疾患, 骨, 貧血
- 第13回 体温調節と代謝
- 第14回 睡眠と栄養素, 時間栄養学の基礎
- 第15回 まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢/態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	100%	口頭試問により評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。

【授業外学修】

学部時代に学習した関連事項について復習しておくこと。
事前に資料を配布するので、授業前に通読しておくこと。
週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に定めない。適宜資料を配布する。
--------	------	-------------------

参考書

自由記載

授業科目名	代謝調節栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GM602
担当教員名	赤木 收二					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
各種栄養素の代謝およびそれらに関連した疾患についての論文を、ゼミナール形式で講読し、代謝調節栄養学特論で習得した知識を深めるための演習を行う。						
【到達目標】						
栄養学的アプローチが重要とされる疾患の最新の知見に関する論文を読み解きつつ、討論に参加することを通じて疾病についての理解をより深める。さらに新たな栄養学的介入を探求するために必要な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において個々人の身体状況や栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うことができる能力を高めることを目標とする。本授業は現代生活学研究科人間栄養学専攻のディプロマポリシーのうち、人の健康と病気に関わる医療・臨床栄養学の分野への高度専門職業人としての就職、ならびにその後の活動支援に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
事前に授業に用いる資料を配布する。						
第1～8回 各種栄養素の代謝と関連疾患に関する論文の講読と討論 第9回～10回 栄養障害にともなう代謝調節の変化・破綻に関する論文の購読と討論 第11～13回 老化にともなう各種病態と栄養素摂取に関する論文の購読と討論 第14回 体温調節機構とそれに影響する栄養素摂取に関する論文の講読と討論 第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		100%	口頭試問により評価する。		
	自由記載					
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
【授業外学修】						
事前に配布した資料を通読しておくこと。 週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。資料を事前に配布する。				
参考書	自由記載					

授業科目名 **細胞栄養学特論**

サブタイトル

授業番号 GN501

担当教員名 小林 英紀 真鍋 芳江

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

ヒトが摂取する栄養分は、基本的には細胞内において代謝され生体成分としての固有の働きを示し、細胞を基本としたさまざまな生命現象に関与する。本特論では生体を構成する組織細胞内で営まれる生体高分子の代謝や諸反応を分子レベルで分析・総合し、生命維持における各栄養素の役割を理解する。

【到達目標】

ヒトの摂取した栄養が実際に細胞内でどのようなしくみで生命を支えているかを、細胞レベル、分子レベル、遺伝子レベルから深く理解する。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、「知識・理解」の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：生物にとって栄養とは何か

第2回：食物と栄養

第3回：物質（炭素）の代謝と栄養の摂取

第4回：物質（窒素）の代謝と栄養の摂取

第5回：生体エネルギーと細胞代謝

第6回：細胞内への物質の出入りの仕組み

第7回：細胞の構造と機能

第8回：細胞の構造と機能

第9回：細胞小器官の構造と機能

第10回：細胞小器官の構造と機能

第11回：細胞の進化

第12回：細胞間情報伝達

第13回：細胞内シグナル伝達

第14回：遺伝子と遺伝子発現

第15回：栄養面から見た生命の進化

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	授業への取り組み姿勢，授業での質疑応答
	レポート	50%	授業内容の課題レポート（毎回）
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

常に積極的に自主学習する気構えと探究心をもって授業に臨むこと。

【授業外学修】

英文の資料と参考書を併用して、輪読形式で授業をおこなう。週あたり4時間以上の予備学修を行って授業に出席すること。

使用テキスト 自由記載 特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。

参考書	自由記載	なし
【その他】 なし		

授業科目名	細胞栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GN602
担当教員名	小林 英紀 真鍋 芳江					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 細胞生物学と分子栄養学に関わる研究の原著論文を講読し、論文の読解力を養う。						
【到達目標】 原著論文の講読をとおして、生命現象を解析するための実験手法や方法論を会得し、生命を支えるしくみを、細胞、分子、遺伝子の各レベルから深く理解する。						
【授業計画】						
第1回：栄養学分野における学術情報の収集について：邦文論文についてのガイダンス 第2回：栄養学分野における学術情報の収集について：外書（英文）および英文論文についてのガイダンス 第3回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第4回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第5回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第6回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第7回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第8回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第9回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第10回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第11回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第12回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第13回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第14回：論文講読：実際の論文やトピックを読んで紹介、討議する 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	演習への取り組み、質疑応答。		
	レポート		50%	演習内容の課題レポート（毎回）		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 自ら進んで新しい問題を見つけ、明らかにしようとする心構えと探究心が必要である。						
【授業外学修】 英文の資料参考書を併用する。基本事項についてあらかじめ学修・準備して授業に臨むこと（週あたり4時間以上）。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。				
参考書	自由記載	なし				
【その他】 なし						

授業科目名	栄養生理学特論		サブタイトル		授業番号	GO501
担当教員名	森脇 晃義					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 人体の栄養に関わる生理機能は、消化器系ばかりでなく統合的に神経が統轄する生理機能の一つととらえることができる。本特論では、特に神経細胞における刺激伝達物質受容体の構造、脳内分布、神経刺激伝達とそれに続く脳の統合機能を学ぶ。						
【到達目標】 摂食や飲水行動の中枢である視床下部の機能について、ホルモン合成、分泌を含めて、報酬系、嫌悪系などの神経伝達調節物質と食行動の関わりについて理解を深める。						
【授業計画】						
第1回：栄養と摂食 第2回：中枢神経系における摂食，飲食調節 第3回：摂食行動と視床下部摂食中枢の機能 第4回：摂食行動と視床下部満腹中枢の機能 第5回：摂食行動に影響を与える因子 第6回：糖代謝とインスリン分泌 第7回：中枢神経系におけるインスリンの作用 第8回：サイトカインの栄養生理における役割 第9回：中枢神経系における食欲抑制物質1 第10回：中枢神経系における食欲抑制物質2 第11回：中枢神経系における食欲抑制物質受容体 第12回：飲水行動に影響を与える因子 第13回：血漿浸透圧と体液量の調節 第14回：ホルモンとストレス環境への対応 第15回：神経系とストレス環境への対応						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	質疑応答から評価する		
	レポート		20%	課題レポートを評価する		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	プリントを配布する。				
参考書	自由記載					

授業科目名	栄養生理学演習		サブタイトル		授業番号	GO602
担当教員名	森脇 晃義					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 特論に関連する具体的かつ現実的な課題を取り上げ、解決する方策を創案する。このことは、栄養教諭が実際に直面する、学童・生徒の食に関わる問題を解決するために必要な指導力を養うことになる。取り上げる課題は以下のようである。人体の構造・機能のホメオスタシスを維持する中枢として、神経系の機能を熟知し、外部から機能を調節する因子について理解を深める。						
【到達目標】 栄養素の意義、摂取食品の栄養源のバランスなどと疾病の関係などについて、深く理解する。						
【授業計画】						
第1回 摂食、飲食調節に関わる中枢の機構 第2回 摂食行動と視床下部摂食中枢の機能 第3回 摂食行動と視床下部満腹中枢の機能 第4回 摂食行動に影響を与える多様な因子・条件 第5回 中枢神経系におけるホルモンの作用 第6回 脂質代謝1 第7回 脂質代謝2 第8回 脂質代謝3 第9回 神経系とストレス環境への対応1 第10回 神経系とストレス環境への対応2 第11-15回 上記の課題論文を中心として、栄養生理学関連分野について、総合的に討論する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	質疑応答から評価する			
	レポート	50%	課題レポートを評価する			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載	時間内の質疑応答、課題レポートにより行う。					
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】 毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					

授業科目名 **環境・食品微生物学
特論**

サブタイトル

授業番号 GP501

担当教員名 川野 光興

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

地球環境には、様々な微生物が存在し、ヒトの生活と密接に関係している。本特論では、微生物の有効利用および感染症・食中毒の起因微生物についての最近の知見を学ぶ。また、食品安全確保および食品の品質保持方法について学ぶ。

【到達目標】

- ・地球環境に関わる微生物の生態学的な意義を理解するとともに、食品の生産に関わる微生物や感染症・食中毒に関する微生物の特徴および制御について理解し、実践的な知識を身につける。
- ・専門的かつ実践的な食品安全に関する知見および手段を身につける。

【授業計画】

- 第1回：環境と微生物(1)
- 第2回：環境と微生物(2)
- 第3回：食品と病原微生物(1)
- 第4回：食品と病原微生物(2)
- 第5回：感染症と微生物
- 第6回：食品の腐敗と微生物フローラ
- 第7回：食品保存と微生物
- 第8回：微生物による環境浄化
- 第9回：微生物の機能と食品
- 第10回：微生物とバイオテクノロジー
- 第11回：健康と腸内フローラ
- 第12回：食品安全確保の考え方
- 第13回：HACCPと食品衛生管理
- 第14回：遺伝子手法による微生物学的衛生管理
- 第15回：全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	50%	授業時間内の質疑応答が的確にできている。
	レポート	50%	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。
参考書	自由記載	

授業科目名	環境・食品微生物学 演習		サブタイトル		授業番号	GP602
担当教員名	川野 光興					
対象学部・学科			単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 環境・食品微生物に関する文献および微生物制御技術や品質管理に関する文献を講読する。各自が問題点を整理し 討論を行うことで、研究を評価できる能力と人の生活環境を取り巻く微生物の制御に関する実践力を習得する。						
【到達目標】 ・環境・食品に関わる微生物の病原性と有用性を評価できる能力および微生物に関する情報を適切に評価できる能力を身につける。 ・微生物に関する知識・理解を深め、食品の品質管理などの微生物制御を実践・展開する能力を身につける。						
【授業計画】						
第1～3回 環境微生物分野の論文の講読と討論 第4～9回 食品微生物分野の論文の講読と討論 第10～11回 微生物の機能に関する論文の講読と討論 第12～13回 腸内フローラと健康に関する論文の講読と討論 第14回 微生物学的衛生管理手法の演習 第15回 全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの 姿勢/態度		50%	授業時間内の質疑応答が的確にできている。		
	レポート		50%	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
【授業外学修】 1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					

授業科目名	健康栄養学特論		サブタイトル		授業番号	GQ501
担当教員名	多田 賢代					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>栄養と健康との関わりについて、学部での学習を基盤にさらに専門性を深め、より実践的な知識を学習する。出来る限り多角的な視点から課題を設定し、具体的な事例報告等をもとに、実践的手法、技術を学ぶ。これにより、適正な食生活、生活習慣、栄養管理の意義、栄養アセスメントなどについて対象者の理解を促す方法を思考し、ディスカッションする。そして、健康・栄養指導者として、より幅の広い視野をもって対応する能力を養う。</p>						
【到達目標】						
<p>各ライフステージにおける健康維持に必要な栄養学的側面や生活習慣の側面を理解し、解説することができる。中でも、小児期及び成人期における栄養アセスメントに必要な生化学的検査、臨床医学的検査、生活状況調査などの過程と評価を理解し、問題点を探求し、考察できる能力や対象者に対応・指導できる能力を身につける。</p>						
【授業計画】						
<p>第1～14回 提示するテーマに関する文献検索と文献紹介・抄読を通して、健康教育理論と行動変容について学び、栄養の指導に活かす。</p> <p>(オムニバス) 以下のテーマについて学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の各種要因（生活習慣、遺伝体質、加齢・老化、性差、環境等）の評価・検討 ・健康的な生活習慣（食・運動・喫煙・飲酒・睡眠習慣、ストレス等）の評価と対策 ・小児期から思春期にいたる現在の健康・栄養状態の把握と問題点の抽出 ・小児期から思春期の健康・栄養状態の背景考察と対策事例の理解 ・小児期から思春期の健康・栄養状態を解決するための健康教育理論の応用 <p>第15回 まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については、確認し返却をする。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】						
<p>1 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。</p> <p>2 復習として、課題のレポートを書く。</p> <p>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					

授業科目名 **健康栄養学演習**

サブタイトル

授業番号 GQ602

担当教員名 多田 賢代

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

健康栄養学特論で学んだ内容をもとに、指定した課題について文献検索、抄読を行い、担当指導者とディスカッションしながら、理解を深めて、課題解決能力を養う。さらに担当指導者や受講生同士と共に測定することにより、様々な測定技術を修得し、また指導者が提示する調査データや測定値などをもとに集計解析する手法を学び、対象者に適切な食生活・保健習慣を身につけてもらうための健康・栄養教育を実践できる能力を養う。

【到達目標】

健康や栄養学に関する専門的な論文等を抄読の上その内容を考察、説明し、正しく判断評価することができるようになる。実際に、健康・栄養状態を判断するために必要な各種測定方法や調査方法を理解し、その技術を身につける。また、それらの測定値等を適切に処理する技法や実際の調査・測定値を使った情報処理技術を理解・演習し、考察できる能力を身につける。その結果から適切に対象者に対応・指導できる能力を身につける。

【授業計画】

第1～7回

現代の栄養および食生活における問題点を抽出し、健康のあり方を考察する。加えて、栄養教育・食育等に関する実践的論文を輪読・抄読し、新しい知識を付加していくとともに、健康に関するタイムリーな問題点を捉えた、実際の調査・測定値をもとに、その処理技法、評価法を理解、演習し、問題点を明確にして解決法を検討し、その具体的解決策についてのプランを立案する。

第8～14回

健康栄養学に関する専門的な論文を講読し、論文の課題・方法・結果等について検討する。論文を正しく自分で評価する能力を養い、それを習慣づける。また身体・栄養状態、動脈硬化度、自律神経等を測定し評価する。その結果をクライアントに適切に説明（フィードバック）し、状況に応じた適正な栄養管理・教育、生活指導ができる能力を身につける。

第15回

まとめとディスカッション

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については、確認し返却をする。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。

【授業外学修】

- 1 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。
--------	------	------------------------

参考書

自由記載

授業科目名 **病態栄養学特論**

サブタイトル (疾病に応じた栄養素の体内代謝と調節法を学ぶ)

授業番号 GR501

担当教員名 赤木 収二 古川 愛子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

病気の原因となる栄養摂取ならびに病態に応じた栄養摂取ならびに体内での栄養素の代謝について、大学学部で学んだことを基礎にさらに専門性を深めた講義をする。健康の維持増進，生活習慣病の予防，病気からの回復に関わる栄養学をさらに深く理解することにより，児童・生徒やクライアントなどへの栄養教育力と実践的な指導力を身につけ，疾病の予防や治療について説明する。

【到達目標】

(1)栄養素とその体内での代謝について理解したうえで，摂取栄養素の過不足やアンバランスが体内代謝と健康に影響することを学ぶ。(2)体内代謝は個体側の要因，特に遺伝素因によって大きな影響を受けることを理解して，個人差を考慮した栄養摂取について理解する。(3)これらの学習成果を生かした，栄養教育が実践できることを目的とする。本授業は現代生活学研究科人間栄養学専攻のディプロマポリシーのうち，人の健康と病気に関わる医療・臨床栄養学の分野への高度専門職業人としての就職，ならびにその後の活動支援に貢献する。

【授業計画】

- 第1回 栄養素アセスメント
- 第2回 栄養の補給法
- 第3回 代謝性疾患，とくに糖・脂肪代謝の栄養学
- 第4回 循環器疾患の栄養支援
- 第5回 消化器疾患の栄養ケア
- 第6回 炎症性腸疾患の栄養ケアと食事療法
- 第7回 肝不全の栄養管理と疾病進展の予防
- 第8回 腎不全の栄養ケア
- 第9回 骨粗鬆症の病態と管理・予防の栄養学
- 第10回 悪性腫瘍の栄養管理と栄養指導
- 第11回 高齢者の栄養ケア
- 第12回 成長期にある児童・生徒の栄養管理・栄養指導
- 第13回 小児疾患，および婦人疾患の栄養学
- 第14-15回 まとめと総合討議

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	積極的な授業態度，討論，質問などにより評価する。
	レポート	50%	疾患に応じて具体的に栄養マネジメント方法についてまとめる。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載	課題レポートと質疑応答で総合評価する。	

【受講の心得】

常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。

【授業外学修】

- 1, 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。
 - 2, 配布資料を元に質疑, 討論ができるように準備しておく。
 - 3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。
- 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。
参考書	自由記載	

授業科目名	病態栄養学演習		サブタイトル	(事例提示による栄養ケアの実践法を学ぶ)	授業番号	GR602
担当教員名	赤木 収二 古川 愛子					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
<p>特論に関連する具体的事例について、問題点を抽出し、関連する文献を調べ、また必要事項を調査しながら、患者を中心として、問題を解決する方法を提示でき、実践できるようなコミュニケーション法を学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>各病態の具体的事例について、問題点を抽出し、実践に活用できる栄養管理計画書の作成について解説する。患者に対して、問題を解決する方法を提示し、実践できるようなコミュニケーション法を説明する。本授業は現代生活学研究科人間栄養学専攻のディプロマポリシーのうち、人の健康と病気に関わる医療・臨床栄養学の分野への高度専門職業人としての就職、ならびにその後の活動支援に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>栄養過剰や欠乏に起因する疾患に関する専門的な事例を取り上げ、論文・総説を講読し、論文の読解力を涵養するとともに、問題点を探索し、その解決のために何をすべきか、独自で創案する方法を身につける。病態の解析法、試験・検査法を学習し、臨床検査データを評価できる能力を養う。病態栄養学における諸問題を取り上げた原著論文の講読をゼミナール形式で行い、エビデンスに基づいた栄養評価方法や栄養治療方法の理解を深め、実践できるよう能力を養う。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	実践的な栄養ケアマネジメントについて積極的な討論を評価する。			
	レポート	50%	事例に応じて実践可能な栄養ケアマネジメントについて具体的なレポートを作成する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】						
<p>1, 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。 2, 配布資料を元に質疑、討論ができるように準備しておく。 3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					

授業科目名	公衆衛生学特論		サブタイトル		授業番号	GS501
担当教員名	波多江 崇 辻本 美由喜					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 人間集団の健康増進と疾病予防のために、生活環境や食品の衛生管理を科学的エビデンスに基づいて判断し施策を立案できる能力を養う。そのために保健・医療・福祉・介護システムを深く理解し、環境保全、環境衛生維持、学校保健などの具体的な方策や施策を理解しその評価が正しく行える能力を養う。また、疫学的判断ができる能力を養う。						
【到達目標】 科学的エビデンスに基づく評価・判断能力を身に付ける。						
【授業計画】						
第1回：公衆栄養・公衆衛生学の意義 第2回：衛生統計：衛生統計の意義 第3回：衛生統計：疾病統計 第4回：産業保健：労働と健康 第5回：産業保健：生物学的モニタリング 第6回：産業保健：生物学的モニタリングの栄養分野への応用 第7回：学校保健：学校保健の意義，学校給食 第8回：環境保健：環境保健の意義 第9回：環境保健：環境保全 第10回：保健・医療・福祉と介護 第11回：高齢者保健 第12回：疫学：疫学の意義 第13回：疫学：感染症の疫学 第14回：栄養疫学の意義 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	意欲的な学習態度		
	レポート		50%	データに対して十分な考察がなされている		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】 レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	公衆衛生学演習		サブタイトル		授業番号	GS602
担当教員名	波多江 崇 辻本 美由喜					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 セミナー方式で関連論文を講読するとともに、現場実務者を迎えて現実のエビデンスに基づいて理解を深め、建設的かつ具体的な討論をすることができる能力を養い、討論により関連分野の自己の評価判断基準を確立する。						
【到達目標】 公衆衛生学と栄養学の関連を明瞭にし、課題解決にむけての研究方法を会得する。						
【授業計画】						
第1～3回 衛生統計分野の論文の講読 第4～6回 産業保健分野の論文の講読 第7～9回 地域保健活動の論文の講読 第10・11回 学校保健分野の論文の講読 第12～14回 環境保健分野の論文の講読 第15回 総括的討論						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	意欲的な学習態度		
	レポート		50%	データに対して十分な考察がなされている		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
【授業外学修】 レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	特別研究		サブタイトル		授業番号	GT701
担当教員名	森脇 晃義 波多江 崇 赤木 収二 河野 勇人 多田 賢代					
対象学部・学科				単位数	8単位	
開講年次	2年			開講期	通年	
必修・選択	必修			授業形態	実習	
【授業の概要】						
<p>特別研究は、より実用的、実践的な調査・研究を目的とする「課題研究」と、新しい事実、事象の発見を目指し主として実験研究を行う「論文研究」がある。前者は専門性の高い企業の現場、病院等の施設現場へ3～6ヶ月間派遣し、必要な実技を習得するとともに、現場での問題点を発掘し派遣先のスタッフとともに、指導教員の指導責任下で研究し、問題点とその解決法についての報告書をまとめる。後者は指導教官の指導のもと、主として研究室で実験や調査を行い、学術論文として関連雑誌・紀要などへ掲載公表する。このことで、院生はより深く、より正しく問題点を理解し、その解決策を創出する能力を高め、クライアントへの栄養教育、学校などにおける栄養教諭として資質、栄養管理能力を高めることができる。</p>						
【到達目標】						
研究課題について自ら調査、実験研究を行い、それらをまとめた研究論文として発表できることが到達目標である						
【授業計画】						
指導教員と議論して上で決定する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	100%	修士研究論文を評価する			
	自由記載					
【授業外学修】						
毎週最低4時間は学習すること						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	保育・幼児教育学特論		サブタイトル		授業番号	MA301
担当教員名	平松 美由紀					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 本講座では、子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに、諸外国との比較をしながら、幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに、子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対する理解力を高め、保育の実力を深めていく。						
【到達目標】 子どもの視点に立ちながら、より高度な活動の理解と解釈を可能にするために、保育・幼児教育の法令変遷について理解し、諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。 また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。なお、この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、 <知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：リサーチ・リテラシーについて ※（担当本授業の目的と保育・幼児教育の基本） 第2回：保育・幼児教育論1 ※（担当我が国の保育・幼児教育の制度1） 第3回：保育・幼児教育論2 ※（担当我が国の保育・幼児教育の制度2） 第4回：保育・幼児教育論3 ※（担当幼児教育の歴史的変遷1） 第5回：保育・幼児教育論4 ※（担当保育・幼児教育の歴史的変遷2） 第6回：保育・幼児教育論5 ※（担当幼保一元化に向けての変遷） 第7回：保育・幼児教育論6 ※（担当保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題） 第8回：保育・幼児教育論7 ※（担当倉橋惣三の保育論1） 第9回：質的研究の歴史と概要 ※（担当倉橋惣三の保育論2） 第10回：保育実践を対象としたフィールドワーク ※（担当保育者の専門性1 幼児理解） 第11回：保育実践を対象としたフィールドワーク ※（担当保育者の専門性2 保育者の援助） 第12回：保育実践を対象としたフィールドワーク ※（担当保育者の専門性3 保育評価） 第13回：保育実践を対象としたフィールドワーク ※（担当保育・幼児教育の実践課題について発表1） 第14回：保育実践を対象としたフィールドワーク ※（担当保育・幼児教育の実践課題について発表2） 第15回：発表とファイナルディスカッション ※（担当発表とファイナルディスカッション）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。			
	レポート	50%	自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載	予習や意見発表など講義への取り組みの積極性（50%）と、レポートの論理性（50%）を基準に評価を行う。					

【受講の心得】

実践の場で多角的に観察し、気づいたことをわかりやすくまとめて他に伝えられるようにする。

【授業外学修】

積極的に保育現場での乳幼児保育の参与観察をする。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子どもエスノグラフィ入門	柴山真琴	新曜社	1900+税	978-4-7885-0973-3
	自由記載	柴山真琴 2006 『子どもエスノグラフィ入門』新曜社	入手できない場合は貸出あり。		
参考書	自由記載	保育用語辞典 第8巻	森上史朗・柏女霊峰編		

授業科目名 **学校教育学特論**

サブタイトル

授業番号 MA302

担当教員名 佐々木 弘記 岸 誠一

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

第一に、先行研究を概括しながら、学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について議論するとともに、教師の専門的力量的形成について考察する。

第二に、反省的実践家としての教師の専門的力量的形成のモデルを取り上げ、省察と熟考による実践的見識の獲得過程に言及する。

第三に、学校教育におけるいくつかの問題場面を想定し、反省的思考の過程について学ぶ。

【到達目標】

学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について理解を深めることができる。〈知識・理解〉

教師の専門的力量的形成について思考し、反省的実践家として教育に係る諸問題に対応できる問題解決能力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた〈高度な専門性を備えた教育者〉の育成に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育課程の変遷	※（担当岸誠一）
第2回：学習指導の様式	※（担当岸誠一）
第3回：行動主義の学習論	※（担当岸誠一）
第4回：認知主義の学習論	※（担当岸誠一）
第5回：構成主義の学習論	※（担当岸誠一）
第6回：教師の専門的力量的	※（担当岸誠一）
第7回：技術的熟達者モデル	※（担当岸誠一）
第8回：反省的実践家モデル	※（担当岸誠一）
第9回：省察と熟考	※（担当岸誠一）
第10回：教師の職能成長	※（担当岸誠一）
第11回：専門的力量的形成(1)	※（担当佐々木弘記）
第12回：専門的力量的形成(2)	※（担当佐々木弘記）
第13回：反省的思考の方法(1)	※（担当佐々木弘記）
第14回：反省的思考の方法(2)	※（担当佐々木弘記）
第15回：反省的思考の方法(3)	※（担当佐々木弘記）

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
レポート	50%	課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。
小テスト		
定期試験		
その他		
自由記載 レポート（50%），授業態度（50%）		

【受講の心得】

授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、課題のレポートを書く。
 - 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	授業の中で適宜資料を配付する。
参考書	自由記載	『教育方法学 岩波テキストブック』, 佐藤学 (著), 岩波書店, 1996年 『専門家の知恵—反省的实践家は行為しながら考える』, ドナルド・ショーン (著), 佐藤学・秋田喜代美 (訳), ゆみる出版, 2001年

授業科目名 **教育方法学特論**

サブタイトル

授業番号 MB301

担当教員名 住野 好久

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び、それを実践するための力量を身につける。

【到達目標】

これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた〈高度な専門性を備えた教育者〉の育成に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育方法学研究の全体像
- 第2回：教育方法学研究の歴史(1)－コメニウス
- 第3回：教育方法学研究の歴史(2)－ヘルバルト
- 第4回：教育方法学研究の歴史(3)－生活綴方
- 第5回：教育方法学研究の歴史(4)－戦後新教育
- 第6回：教育方法学研究の歴史(5)－教育の現代化
- 第7回：教育方法学研究の歴史(6)－集団づくり
- 第8回：教育方法学研究の歴史(7)－学びの共同体論
- 第9回：教育方法学研究の歴史(8)－アクティブ・ラーニング
- 第10回：教育方法学研究の実践課題(1)－学力・資質能力論
- 第11回：教育方法学研究の実践課題(2)－教授と学習
- 第12回：教育方法学研究の実践課題(3)－指導と評価の一体化
- 第13回：教育方法学研究の実践課題(4)－授業づくりと学級づくり
- 第14回：教育方法学研究の到達点を踏まえた指導構想の発表（第1回）
- 第15回：教育方法学研究の到達点を踏まえた指導構想の発表（第2回）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加・貢献、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	講義内容を深く理解したうえで、教育方法学の実践化のための知見を示すこと。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

教育実習等での経験と講義内容とを結びつけながら学修すること。

授業で配付するプリント・資料などを整理し、講義ノートを詳細にとること。

【授業外学修】

- 1 予習：配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習：ノートの内容を確認し、プリント・資料などを整理する。
- 3 発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。

使用テキスト	自由記載	随時, プリントを配布する。				
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		『戦後日本教育方法論史(下):各教科・領域等における理論と実践(上)(下)』	田中耕治	ミネルヴァ書房		
	自由記載					

授業科目名 **子どもと音楽演習**

サブタイトル

授業番号 MB302

担当教員名 小野 文子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に、現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して、子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で、実践的な表現方法のあり方を考察し、より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。

【到達目標】

子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では、子どもの音楽的成長と発達について理解し、子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また、子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに、子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには、どのような音楽的活動を経験させ、どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて、教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校の音楽科教育の現状と課題

小学校における音楽科教育の意義と内容／音楽科学習指導要領

第2回：子どもと音の環境

第3回：子どもの成長と音楽体験，さまざまな音楽

第4回：子どもの動きと音楽（拍節的な動きと音，拍節的でない動きと音）

第5回：音楽表現の企画（教材，表現技法を中心に）

第6回：音楽表現の実践（実践の観察と分析，検討）

第7回：現場での音楽表現事例(1)（記録を分析，検討－児童の様子と楽曲，表現技法を中心に）

第8回：現場での音楽表現事例(2)（記録を分析，検討－児童の様子と音楽形態，表現技法を中心に）

第9回：音楽表現を支える，強弱，速度，音色を意識した伴奏法

第10回：音楽表現を支える伴奏法，即興演奏法

第11回：共通教材におけるアンサンブル－MLを活用して

第12回：表現活動の展開例

第13回：創作活動の展開例－コンピュータを活用して

第14回：伴奏技術の研究法考察－MLを活用して

第15回：伴奏法の実践と検討・考察

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況により評価する。
	レポート	20%	レポート課題について，コメントし返却する。
	小テスト	20%	理論や技術の獲得を評価する
	定期試験		最終的な理解度定着度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について，予習すること。

授業で提示された課題を実施し，復習すること。

上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト	自由記載	ドロシー・T・マクドナルド/訳 神原雅之「音楽的成長と発達」1999年 溪水社。
参考書	自由記載	小学校音楽1～6年 小学校学習指導要領「音楽」

授業科目名	子どもと英語演習		サブタイトル		授業番号	MB303
担当教員名	大橋 典晶					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
英語教育と国際理解教育の接点に基づく英語教育人間学を基盤として、児童に対する英語によるコミュニケーション力の育成のためのカリキュラム・教材開発やオリジナルな指導法に習熟し、コミュニケーションへの積極的態度(マインド)を基盤にした国際人育成の考え方・進め方を具体的実践を通して習得する。						
【到達目標】						
英語教育と国際理解の関係理解に基づいて、日本語を母語とする児童が外国語として英語を学び、英語コミュニケーション能力を習得する意義・内容・方法の概要を把握し、児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法を具体的につかむとともに、児童英語コミュニケーションの育成法を学習場面に合わせて修得している。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉に貢献するものである。						
【授業計画】						
第1回 英語教育の目的・目標						
第2回 英語コミュニケーションの本質						
第3回 国際理解教育と英語教育の接点(1):ことば・文化・社会						
第4回 国際理解教育と英語教育の接点(2):英語表現の発想と意味						
第5回 英語と日本語のカルチャー・ギャップ(1):ことばの共通性と異質性						
第6回 英語と日本語のカルチャー・ギャップ(2):日英語の発想・文化比較						
第7回 児童英語コミュニケーションの特質(1):コミュニケーションの本質的意義						
第8回 児童英語コミュニケーションの特質(2):こどもの発達と英語コミュニケーション						
第9回 英語コミュニケーションマインド・スキルの習得(1):英語能力の全体構造						
第10回 英語コミュニケーションマインド・スキルの習得(2):英語能力の習得法						
第11回 児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法(1):コミュニケーション教材の特徴						
第12回 児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法(2):モデル教材の分析						
第13回 児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法(3):教材化の具体的方法						
第14回 児童英語コミュニケーションの育成法(1)育成上の基本的留意点						
第15回 児童英語コミュニケーションの育成法(2)具体的育成法						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	予習・講義内容などに基づく講義中の発言や疑問点への解決姿勢などを評価する。			
	レポート	50%	レポートは指定・自由課題についての調査・研究の口頭発表及びレポート提出で、主として講義内容への理解度と研究姿勢によって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	『英語教育人間学の展開』	松畑熙一	開隆堂書店			
	自由記載					
参考書	自由記載	『英語力とは何か』, 山田雄一郎著, 大修館書店				

授業科目名 **子どもと理科演習**

サブタイトル

授業番号 MB304

担当教員名 佐々木 弘記

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習指導に用いられる学習理論を指導場面に沿って考察する。更に、いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。

【到達目標】

小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、理科の学習指導に用いられる学習理論について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した教材研究の技能を身に付ける。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：小学校理科の目標・内容

第2回：理科で育成する資質・能力

第3回：理科の学習理論

第4回：探究学習論

第5回：問題解決学習論

第6回：認知論的学習論

第7回：構成主義学習論

第8回：教材研究の仕方

第9回：学習指導案における指導と評価

第10回：理科におけるプログラミング教育

第11回：情報機器を活用した授業

第12回：物理領域にかかわる教材研究

第13回：化学領域にかかわる教材研究

第14回：生物領域にかかわる教材研究

第15回：地学領域にかかわる教材研究

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	課題について要点をおさえ、自分の考えを述べたレポートによって評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業で配付された資料について予習・復習をして授業に臨むこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載 「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省, 小学校理科教科書				
参考書	自由記載				

授業科目名 **子どもと国語演習** サブタイトル

授業番号 MB305

担当教員名 村井 隆人

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

子どものことばとその教育についての知見が集積されている国語教育学の成果を中心に、その理論と実践を学ぶ。授業では、各回で設定したテーマに関する文献の解説とディスカッションを行う。テーマは話すこと・聞くこと、書くこと、読むことという領域を基に設定しているが、国語学・国文学・心理学などの関連学問領域の成果についても触れる。

【到達目標】

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことというそれぞれの言語活動における子どもの言語表現や反応、さらには言語教育の理論と実践について知り、子どものことばとその教育についての自分の考えをもつことができる。この科目は、ディプロマポリシーに掲げた高度な専門性を備えた保育者、教育者、研究者の育成に貢献する。

【授業計画】

第1回：幼児・児童の言語とその教育についての研究の概観

第2回：幼児期の言語発達

第3回：学童期の言語発達

第4回：音声言語コミュニケーション能力の発達—入門期—

第5回：音声言語コミュニケーション能力の発達—中学年以降—

第6回：文学作品に対する子どもの反応の発達—参加者のスタンス—

第7回：文学作品に対する子どもの反応の発達—観察者のスタンス—

第8回：説明的文章の読みの発達—小学校低学年から中学年—

第9回：説明的文章の読みの発達—小学校高学年から中学校—

第10回：作文における言語表現の発達—小学校低学年から中学年—

第11回：作文における言語表現の発達—小学校高学年から中学校—

第12回：幼児・児童の言語教育に関する理論と実践(1)

第13回：幼児・児童の言語教育に関する理論と実践(2)

第14回：幼児・児童の言語教育に関する理論と実践(3)

第15回：各領域の成果と展望

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	予習及び討議への参加の状況によって評価する。
	レポート	50%	授業内容の理解度を期末レポートによって評価する。
	小テスト 定期試験 その他		
	自由記 載	授業への取り組みの姿勢／態度50%（文献の内容についての疑問や、他学生の意見へのコメントなど）、期末レポート50%	

【受講の心得】

毎回の授業で行うディスカッションに積極的に参加すること。

毎回の授業で用いる文献を予習する際に、複数の疑問・意見を挙げておくこと。

【授業外学修】

1. 復習として、授業内容をノートに整理しておくこと。
2. 予習として、授業で用いる文献を熟読しておくこと。
3. 授業で用いる文献に関連する参考文献の調査と収集を行うこと。
4. 参考文献を読み、他の受講者に説明できるようにしておくこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		国語科教育学研究の成果と展望 2	全国大学国語教育学会編	学芸図書	5000円	9784761604349
	自由記載	『国語科教育学研究の成果と展望II』，全国大学国語教育学会編，学芸図書				

授業科目名 **子どもと表現演習**

サブタイトル

授業番号 MB306

担当教員名 柏原 寛

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

子どもの表現活動について乳幼児期から学童期の実態に応じた内容の演習を通して理論を探求する。様々な表現のツールを用いながら、その特徴や面白さを確認し、探求する力を身につける。

【到達目標】

(1)美術・造形教育の基本を踏まえ、各期のねらい及び内容の背景にある研究領域を理解する。

1-1)子どもが経験し身につけていく内容の背景にある研究領域を理解している。

(2)子どもの発達や学びの過程を理解し、素材や環境要素を教材化することができる。

2-1)子どもの心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想をもとに教材を選択することができる。

2-2)美術・造形教育の特性及び子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、指導の構想に活用することができる。

【授業計画】

第1回：表現とは

第2回：美術・造形教育とは

第3回：美術・造形造形教育の歴史

第4回：造形能力の発達

第5回：造形活動の表現特性

第6回：子どもの想像力

第7回：子どものあそびと表現

第8回：造形環境

第9回：自然環境と造形表現

第10回：素材（紙）

第11回：素材（粘土）

第12回：素材（身近な材料）

第13回：技法

第14回：鑑賞

第15回：造形表現の読み取り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	「子どもの表現」について背景・理論などについて具体的に述べていること。
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

子どもの造形表現を豊かにする活動およびその背景にある理論について理解するために手を動かし、頭を動かして探求してほしい。

【授業外学修】

課題を課すことがある。

使用テキスト 自由記載 毎回資料を配布する。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	美術教育概論 新訂版	大橋 功 (著, 監 修, 編集)ほか	日本文教 出版	2592	4536601031
	自由記載				

【その他】

はさみ, のり, テープ, 色鉛筆, 水彩絵具, 定規, コンパス, カッター, スケッチブックなど, 様々な画材, 素材, 道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。

授業科目名	子どもと健康演習		サブタイトル		授業番号	MB307
担当教員名	平松 美由紀					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
演習形式で、幼児教育学における領域健康・身体教育に関する文献、学術論文を集め、購読・発表する。また、幼児の身体的な遊びについて実践場면을観察するとともにその分析を行う。						
【到達目標】						
下記の3点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げたく						
保育所、幼稚園、小学校、地域社会、家庭などのあらゆる領域における子育て支援、保育、教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して、多様な視点からアプローチし、理論化を図る> ことに貢献する。						
1. 教育・保育の対象の理解として乳幼児期の身体の発達の課題やその課題分析をする。						
2. 教育・保育における乳幼児期の各年齢に応じた支援・援助について分析できる。						
3. 子どもの健康に関する課題解決について教育・保育の視点からアプローチし理論化できる。						
【授業計画】						
第1回：乳幼児期の身体発達の特徴		※（担当乳幼児期の身体発達の特徴）				
第2回：乳幼児期の遊びの目的		※（担当乳幼児期の遊びの目的）				
第3回：身体を使った遊びとは何か		※（担当身体を使った遊びに関する乳幼児の実態と課題）				
第4回：乳幼児期の身体遊びが与える身体発達への影響（遊びの検討1）		※（担当乳幼児期の身体遊びが与える身体発達への影響（遊びの検討1））				
第5回：乳幼児期の身体遊びが与える身体発達への影響（遊びの検討2）		※（担当乳幼児期の身体遊びが与える身体発達への影響（遊びの検討2））				
第6回：幼児教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（遊びに関する内容1）		※（担当幼児教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（遊びに関する内容1））				
第7回：幼児教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（個と集団での遊びに関する内容2）		※（担当幼児教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（個と集団での遊びに関する内容2））				
第8回：身体教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（身体を使った遊び1）		※（担当身体教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（身体を使った遊び1））				
第9回：身体教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（身体を使った遊び2）		※（担当身体教育学に関する文献・論文の購読・要約・発表（身体を使った遊び2））				
第10回：乳幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討・ICTの利用（0～2歳児1）		※（担当乳幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討・ICTの利用（0～2歳児1））				
第11回：乳幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討・ICTの利用（3歳児2）		※（担当乳幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討・ICTの利用（3歳児2））				
第12回：乳幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討・ICTの利用（4～5歳児3）		※（担当乳幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討・ICTの利用（4～5歳児3））				
第13回：観察場面の分析（0～2歳児1）		※（担当観察場面の分析（0～2歳児1））				
第14回：観察場面の分析（3歳児2）		※（担当観察場面の分析（3歳児2））				
第15回：観察場面の分析（4～5歳児3）		※（担当観察場面の分析（4～5歳児3））				
乳幼児の健康を考える保育の在り方とは		乳幼児の健康を考える保育の在り方とは）				
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	35%	乳幼児期の発達の特性を捉え、理論的に発表したり、レポート作成したりできる			
	レポート	35%	分析方法について理解している。			

小テスト

定期試験

その他

30% 事前事後学習で資料準備, 作成できる

自由記載

- ・乳幼児期の発達の特徴を捉え, 理論的に発表したり, レポート作成したりできる (35%)
- ・観察場面の分析方法について理解している (35%)
- ・事前事後学習で資料準備, 作成できる (30%)

【受講の心得】

1. 乳幼児の健康に関する実状やその研究データなどを収集し, 解決にむけた方法を探る。
2. 乳幼児の身体発達についての先行研究を集約し, 研究方法について理解する。

【授業外学修】

1. 乳幼児を対象とした身体に関する学術論文や文献を集め, そのポイントを記載する。
2. 具体的な乳幼児の身体発達を促す遊びや場面について, 生活の中でエピソードを収集する。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	子どもと環境演習	サブタイトル		授業番号	MB308
担当教員名	熊代 賢治				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには、指導者はどのような準備をし、どのように子どもに接すればよいか、ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。</p> <p>また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには、どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え、明らかにしていく。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが身近な環境に親しみ、自然とふれあい、様々な事象に興味・関心をもつためには、指導者はどのような準備、仕掛け、声かけをすれば良いかポイントを述べることができる。 ・子どもが身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすれば良いかを具体的に述べるができる。 ・物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにするためには、どのような遊び・活動が効果的なのかを具体例を挙げながら述べるができる。 <p>、なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：「環境」のねらいと内容について要点を考察する</p> <p>第2回：子どもの身近な環境とは何か。自然とは何か。子どもが興味・関心を持つためには、° どうすれば良いか。</p> <p>第3回：子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすれば良いか。発見を楽しむとはどういうことか。子どもはどのような場面で何を考えるか。</p> <p>第4回：「(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第5回：「(2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第6回：「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第7回：「(4)自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第8回：「(5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりする」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。」</p> <p>第9回：「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第10回：「(7)身近な物を大切に作る」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第11回：「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ」どのような場面設定・準備・声かけをしたら良いか、イメージして、まとめる。</p> <p>第12回：「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第13回：「(10)日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第14回：「(11)生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第15回：「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」どのような場面設定をし、準備し、声かけをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p>					

【授業計画 備考2】

授業の前半で資料を集め、思索を深め、子どもの具体的な活動をイメージする。

授業の後半は、ポイントを押さえたレポートを作成する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な授業態度
	レポート	75%	レポートの内容、独自性
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		・学習者の考え、発想、イメージを尊重する

【受講の心得】

・「子どもと環境」について、深く根本的なことについて考え、イメージしていく。既成概念にこだわらない自由な考えを述べること。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。

【授業外学修】

・「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し、見識を深めていくこと。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	子どもと人間関係演習		サブタイトル		授業番号	MB309
担当教員名	濱名 潔					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>本授業は授業前に調べ学習を行い、授業は議論中心に行う。具体的には、幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また、そのための質的研究方法論についての理解も深める。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。 ・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の人間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。 ・先行研究のまとめ方、議論の方法を身に付ける。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「高度な専門性を備えた教育者」の育成に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：「人間関係」に関する研究とは何か ... 発達研究と実践研究について理解を深める</p> <p>第2回：「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る ... 仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する。</p> <p>第3回：「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論 ... 受講生の発表と議論</p> <p>第4回：「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論 ... 受講生の発表と議論</p> <p>第5回：「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論 ... 受講生の発表と議論</p> <p>第6回：「保育者の人間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論 ... 受講生の発表と議論</p> <p>第7回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述...『エピソード記述入門』の紹介と議論</p> <p>第8回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究...『発達心学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論</p> <p>第9回：幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方...ドキュメンテーションの紹介と議論</p> <p>第10回：質的研究方法論のTEMについて理解を深める...『TEMでわかる人生の径路』を基にした議論</p> <p>第11回：TEMで幼児の仲間関係をどのように捉えられるか...保育実践研究のツールとしての複線径路・等至性モデルの可能性と課題」に関する議論</p> <p>第12回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA...「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論</p> <p>第13回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ...『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論</p> <p>第14回：エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか...『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論</p> <p>第15回：仲間関係に関するテーマを基にした議論 ... 各受講者の関心のあるテーマを基に議論</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	使用しない。適宜プリントを配布する。
参考書	自由記載	使用しない。

授業科目名	教育心理学特論		サブタイトル		授業番号	MC301
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、学習者の認知過程についての知見をふまえた、新たな授業実践のあり方を解説する。						
【到達目標】 教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで、児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教授学習過程とは 第2回：学習科学:思弁から科学へ 第3回：熟達 —熟達者と初心者の違いは何か— 第4回：転移 —学んだことを活用するために— 第5回：認知発達 —子どもはいかに学ぶのか— 第6回：神経科学 —学習を支える脳のメカニズム— 第7回：学習環境 —学びの環境をデザインする— 第8回：算数教育 —意味を理解させる— 第9回：理科教育 —ブラックボックスの内部を探る— 第10回：読みの指導 —大きな構図を見る— 第11回：作文教育 —知識の陳述から知識の変換へ— 第12回：教育評価 —指導と評価を一体化する— 第13回：教師の学習 —教師の成長を支援する— 第14回：情報教育 —学習を支える情報テクノロジー— 第15回：学習科学の現状						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	100%	発表内容および討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。						
【授業外学修】 有意義な討議を行うため、必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	授業が変わる 認知心理学と教育実践が手を結ぶとき	松田文子・森 敏昭 (監訳)	北大路書房	3200円	4-7628-2088-1	

授業を変える 認知心理学のさらなる挑戦	森 敏昭・秋田喜代 美(監訳)	北大路書 房	3800円	978-4- 7628- 2275-9
自由記載				

授業科目名 **子ども社会学特論**

サブタイトル

授業番号 MC302

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本授業は、下記のテーマにしたがって進めていく。

受講学生は、順番に担当部分についての発表資料を作成し、その作成した資料にもとづいて発表を行う。

その発表に関しては、学生たち自身が質疑応答や討論をする。

教員は、この議論について適宜、補足説明をしたり、必要な事項について講義する。

【到達目標】

現代社会における教育現象は、決して単純なものではない。教育分野における社会的アプローチの有効性のひとつは、こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。

そこで、本授業では、現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ、社会学の方法を用いて分析する。

このような学習を積み重ねることにより、教育者・保育者として、社会現象としての教育についての確かな理解ができる実践者となることを目標とする。

【授業計画】

第1回：子ども社会学の位置づけ

第2回：子ども社会学の研究対象と研究方法

第3回：子どもの発達と子どもの「居場所」

第4回：子どもの「居場所」と臨床教育社会学

第5回：子どもの逸脱行動

第6回：「いじめ」の定義の再検討

第7回：学校と地域社会の連携

第8回：母親の育児不安と父親の育児態度

第9回：母親の育児不安と育児サークル

第10回：現代日本の子ども観

第11回：子どもの仲間集団

第12回：子どもの放課後と学童保育

第13回：子ども研究の方法（テキスト分析）

第14回：子ども研究の方法（フォーカス・グループ・インタビュー）

第15回：子ども研究の方法（SCAT）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	作成したレジюме及びその修正
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	発表及び質問
	自由記載		

【受講の心得】

積極的な姿勢で臨むこと。

【授業外学修】

発表資料の作成

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子ども社会学の現在	住田正樹	九州大学 出版会	3, 800	978-4- 7985- 0135-2

自由記載

参考書

自由記載

住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版 酒井朗, 多賀太, 中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 日本子ども社会学会 編『いま, 子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 永井聖二・加藤 理 編『消費社会と子どもの文化』学文社

授業科目名 **相談・援助特論**

サブタイトル

授業番号 ME301

担当教員名 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し、ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し、子どもを取り巻く環境に働きかける支援の理解を深める。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び、保育・教育現場における相談援助について説明する。

【到達目標】

1. 相談援助の基本的考え方を把握する。
2. 子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解する。
3. 事例研究にもとづいて、アセスメントの方法について学ぶ。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：相談援助の構造

第2回：相談援助の理論・意義・機能

第3回：相談援助における面接技術

第4回：相談援助の対象・プロセス

第5回：相談援助の方法と技術

第6回：関係機関との連携

第7回：保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の遵守」

第8回：保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」

第9回：保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」

第10回：保育・教育相談援助の基本「受容、自己決定、秘密保持の遵守」

第11回：保育・教育相談援助の実際「保護者への支援方法」

第12回：保育・教育相談援助の実際「保護者への支援計画と連絡・記録・評価」

第13回：保育・教育相談援助の実際「要保護の子どもと家庭への支援」

第14回：保育・教育相談援助の実際「障がいのある子どもと保護者への支援」

第15回：保育・教育相談援助の実際「虐待の予防に向けての保護者への支援」

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲のある受講態度、発表や討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育実践を深める相談援助・相談支援	西尾祐吾監修	晃洋書房	2800	978-4-7710-2894-4

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて紹介する。

授業科目名	発達障害児支援特論		サブタイトル		授業番号	ME302
担当教員名	原田 新					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で、二次障害の予防を見据えた発達障害児への具体的な支援方法や関わり方、また家族支援の方法について身につけることを目指す。						
【到達目標】						
各種の発達障害特性や支援方法について理解することで、発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に、子育て支援、保育、教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：障害とは 第2回：発達障害の理解(1) 第3回：発達障害の理解(2) 第4回：発達障害の理解(3) 第5回：発達障害と二次障害 第6回：インクルーシブ教育 第7回：発達障害児の見方と関わり方：リフレーミング(1) 第8回：発達障害児の見方と関わり方：リフレーミング(2) 第9回：発達障害児の見方と関わり方：分かりやすい指示・声かけ 第10回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(1) 第11回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(2) 第12回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(3) 第13回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(4) 第14回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(5) 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	80%	授業内での討論や演習等への参加状況、授業外での取り組み状況、授業内で作成する成果物を総合的に評価する。			
	レポート	20%	授業に関わるテーマの小レポート（2回）を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に、授業中に行う討論や演習等に参加すること。						
【授業外学修】						
授業で配布する資料や、参考書等を参照しながら、予習、復習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

ライブ講義 発達障害の診断と支援	内山登紀夫	岩崎学術出版社	2500円+税	978-4-7533-1065-4
自閉スペクトラム症の理解と支援	本田秀夫	星和書店	1800円+税	978-4-7911-0971-5
自由記載				

授業科目名	子どもの認知と学習 特論		サブタイトル		授業番号	ME303
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 人の行動は内的な認知過程に依存しており、その過程は感情や意識、経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と、それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。						
【到達目標】 子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：学習および認知について 第2回：古典的条件づけ 第3回：オペラント条件づけ 第4回：技能学習 第5回：社会的学習 第6回：問題解決と推理 第7回：概念過程と言語獲得 第8回：記憶のしくみ 第9回：情報の検索と忘却 第10回：知識と表象 第11回：イメージと空間の情報処理 第12回：認知の制御過程 第13回：文章の理解と記憶 第14回：意思決定 第15回：日常世界の記憶						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	100%	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。						
【授業外学修】 有意義な討議を行うため、必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

グラフィック学習心理学	山内光哉・春木 豊 (編著)	サイエ ンス社	2550円	978-4- 7819- 0977-9
グラフィック認知心理学	森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 (共 著)	サイエ ンス社	2400円	978-4- 7819- 0776-8
自由記載				

授業科目名 **学校福祉特論**

サブタイトル

授業番号 MF301

担当教員名 中 典子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本授業では、学校における現代的課題やその背景にある子育て環境からスクールソーシャルワークの必要性を説明し、その動向・支援過程・実践をもとにしてスクールソーシャルワーカーの役割を明らかにする。授業は、あらかじめ精読したテキスト内容に基づいて議論をすることによってすすめ、今日の日本における子どもの教育権保障に対するスクールソーシャルワークの可能性を探る。

【到達目標】

子どもの暮らし充実を図るためになされてきた学校という場所でのスクールソーシャルワークの動向・支援過程・実践からスクールソーシャルワーカーの役割を理解する。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：スクールソーシャルワークが必要な理由(1) 学校における現代的な課題
- 第2回：スクールソーシャルワークが必要な理由(2) 児童生徒を取り巻く子育て環境の課題
- 第3回：スクールソーシャルワークとは何か
- 第4回：スクールソーシャルワークの歴史(1) アメリカにおけるスクールソーシャルワーク
- 第5回：スクールソーシャルワークの歴史(2) 日本におけるスクールソーシャルワーク
- 第6回：スクールソーシャルワークと学校との関連
- 第7回：学校が連携する機関・施設とその機能
- 第8回：スクールソーシャルワークの基盤となる理論
- 第9回：スクールソーシャルワークの支援プロセス ミクロ・メゾ・マクロ実践におけるプロセス
- 第10回：教育施策とスクールソーシャルワーク(1) 教育行政におけるスクールソーシャルワーカーの位置づけ
- 第11回：教育施策とスクールソーシャルワーク(2) いじめ・不登校におけるスクールソーシャルワーカーの役割
- 第12回：教育施策とスクールソーシャルワーク(3) 学力保障におけるスクールソーシャルワーカーの役割
- 第13回：福祉施策とスクールソーシャルワーク(1) 児童虐待におけるスクールソーシャルワーカーの役割
- 第14回：福祉施策とスクールソーシャルワーク(2) 貧困におけるスクールソーシャルワーカーの役割
- 第15回：スクールソーシャルワークの課題と展望

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。
評価の方法	レポート	50%	事例研究において、状況把握にもとづく支援計画が具体的に述べられていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

子どもの最善の利益について「児童の権利に関する条約」から学んでおくこと。

【授業外学修】

授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間)

授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)

授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかるスクールソーシャルワーク	山野則子他編	ミネルヴァ書房	2,800	978-4-623-07834-9

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて紹介する。

授業科目名 **地域教育社会学特論** サブタイトル

授業番号 MF302

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本授業は、下記のテーマにしたがって進めていく。

受講学生は、順番に担当部分についての発表資料を作成し、その作成した資料にもとづいて発表を行う。

その発表に関しては、学生たち自身が質疑応答や討論をする。

教員は、この議論について適宜、補足説明をしたり、必要な事項について講義する。

【到達目標】

現代社会における教育現象は、決して単純なものではない。教育分野における社会的アプローチの有効性のひとつは、こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。

そこで、本授業では、地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ、社会学の方法を用いて分析する。

このような学習を積み重ねることにより、教育者・保育者として、社会現象としての地域教育についての的確な理解ができる実践者となることを目標とする。

【授業計画】

第1回：子どもの社会化とは何か

第2回：現代日本の子ども観 (1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観

第3回：現代日本の子ども観 (2)課題図書に見る子ども観

第4回：現代日本の子ども観 (3)地域住民の子ども観

第5回：子ども社会化エージェント (1)子どもの仲間集団における社会化の特徴

第6回：子ども社会化エージェント (2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴

第7回：子ども社会化エージェント (3)家族集団における社会化の特徴

第8回：現代社会における子育て支援 (1)母親の育児不安の実態

第9回：現代社会における子育て支援 (2)放課後子ども教室と学童保育

第10回：現代社会における子育て支援 (3)近隣集団と地域集団の活動

第11回：現代社会における子育て支援 (4)子どもとインターネット、ケータイ

第12回：地域における子育て支援活動の現実 (1)放課後子どもプラン

第13回：地域における子育て支援活動の現実 (2)教育支援人材の育成

第14回：地域における子育て支援活動の現実 (3)地域集団における子育て支援活動(1)

第15回：地域における子育て支援活動の現実 (4)地域集団における子育て支援活動(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	作成したレジюме及びその修正
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	発表及び質問
	自由記載		

【受講の心得】

積極的な姿勢で臨むこと。

【授業外学修】

発表資料の作成

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子どもへの現代的視点	住田正樹・多賀太	北樹出版	2800	4-7793-0076-2
	自由記載				
参考書	自由記載	住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会 酒井朗, 多賀太, 中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会			

授業科目名 **地域教育福祉特論**

サブタイトル

授業番号 MF303

担当教員名 槇尾 真佐枝

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

・現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで、子どもの教育環境・児童福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際、「地域におけるネットワーク形成」に着目し、コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また、院生自身が事例を読み解き、自らプレゼンテーションをする時間を設ける。

【到達目標】

・現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して、地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解する。

・子ども、家族に関する理解を前提に、子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析、考察することができるようになる。

【授業計画】

第1回：子どもをめぐる現状と課題

第2回：「子どもの権利条約」からみた教育・福祉

第3回：地域ネットワークとは

第4回：子育ての現状と子育てネットワーク

第5回：幼稚園における子育て支援

第6回：児童館で展開される子育てネットワーク

第7回：学校現場を中心にみたネットワーク

第8回：公民館活動からみたネットワーク

第9回：市町村における子どもの専門機関のネットワーク

第10回：里親における地域ネットワーク

第11回：社会福祉協議会からのネットワーク

第12回：子育て拠点施設を核としたネットワーク形成

第13回：地域における様々な連携について

第14回：子どもをめぐる多義的なネットワークとは

第15回：地域教育・地域福祉の今後の展望と課題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	テキストの内容を把握した上での質問、発言、及び他学生の意見に対するコメントなどについて評価する
	レポート	50%	出題に対して適切な分析力、表現力、また、参考文献・資料などの活用力などについて評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他	30%	プレゼンテーションについては、「他者によく分かる授業」を観点として評価する
	自由記載		

【受講の心得】

事前に教科書をよく読んでくること。毎回の授業において、他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また、分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し、他学生に提示できるように努力すること。

【授業外学修】

1. 毎授業後に示す範囲について、事前に教科書をしっかり読んでくること。(約1時間)
2. 教科書の内容に関連することについて深めることができる文献や先行研究論文にあたり、要約のプリントを作成すること。(約2時間)

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	児童福祉の地域ネットワーク		牧里毎治・山野則子 (編)	相川書房	2,000円 +税	978-4-7501-0355-6
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	近代児童福祉のパイオニア		ボブ・ホルマン著, 福知栄子・田澤あけ み・内本充統・林浩 康	法律文化 社	2800	978-4-589-03032-0
	自由記載					

授業科目名 **子どもと放課後特論** サブタイトル

授業番号 MF304

担当教員名 住野 好久

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

放課後における子どもの生活実態を様々な統計データから読み解く。その上で、放課後における子どもの心身の発達及び学習の過程とそれを支援する教育と福祉に関する理論と思想、及び、現状と課題について検討する。最後に、学校教育と放課後児童健全育成事業・放課後子ども総合プランとの連携のあり方について、社会的、制度的、経営的な観点から考察する。

【到達目標】

放課後における子どもの生活実態を理解するとともに、放課後の子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。

【授業計画】

- 第1回：子どもの放課後生活（1）データの収集
- 第2回：子どもの放課後生活（2）データの分析
- 第3回：子どもの放課後生活の課題分析
- 第4回：子どもの放課後における教育（1）社会教育
- 第5回：子どもの放課後における教育（2）地域教育
- 第6回：子どもの放課後における教育（3）子育て協同
- 第7回：子どもの放課後における教育（4）民間
- 第8回：子どもの放課後における福祉（1）子ども家庭福祉
- 第9回：子どもの放課後における福祉（2）児童厚生施設
- 第10回：子どもの放課後における福祉（3）放課後児童クラブ
- 第11回：現代における放課後子ども対策の現状（1）放課後子ども総合プラン
- 第12回：現代における放課後子ども対策の現状（2）施設・設備・職員
- 第13回：岡山県における放課後子ども対策の現状（1）放課後子ども総合プラン
- 第14回：岡山県における放課後子ども対策の現状（2）施設・設備・職員
- 第15回：子どもの放課後と学校教育

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
評価の方法	小テスト	40%	毎回の授業後に、授業内容に関する小テストを行う。
	定期試験	60%	学校と放課後の諸事業との関連に関する小論文形式の最終試験を行う。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って、積極的に討論に参画すること。

【授業外学修】

- 1) テキスト及び配付資料を熟読すること。
- 2) 学校外の子どもの対象とした様々な事業に参加したり、そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	現代日本の学童保育	日本学童保育学会 編	旬報社	2700	4845112760
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **子ども学特別研究**

サブタイトル

授業番号 MH401

担当教員名 小野 文子 佐々木 弘記 中 典子 國田 祥子

対象学部・学科

単位数 8単位

開講年次 1年

開講期 通年

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

入学後、院生は研究指導教員と話し合い、修士論文としてふさわしい研究テーマを設定する。特に、実践現場にある者に対しては、大学院入学の契機となった解決課題を中心的テーマとするように指導する。研究テーマに応じて決定された研究指導教員が修了まで指導する。目安として、1年次では主として研究テーマに沿った先行研究の文献や資料を収集することで研究分野に関する理解を深め、具体的な研究計画を完成させる。1年次後半から2年次にかけてデータや資料を収集、解析し、修士論文の執筆を進める。現職の社会人や実践経験のある学生では、自ら体験した事例や、現場で集めたデータを基に研究を進めることを原則とする。2年次後半で研究の仕上げを行い、修士論文を完成させる。

【到達目標】

子ども学の本質・内容・方法に関する基本理解に基づいて、

- ・自ら事象を分析し、何が問題であるかを見出し、解決法を探る力を身につける。
- ・子ども学の基礎的な研究手技を身につける。
- ・論理的で普遍性のある表現力を身につける。

以上を踏まえたうえで修士論文を完成させる。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。

小野 文子：器楽の演奏を通して作品の様式及び楽曲への理解を深め、教育現場における音楽の技術と表現力に関する研究指導を行う。

佐々木弘記：教育方法学、教育工学の手法を用いて、教授－学習過程やメディアの活用に関する理論的・実証的研究の指導を行う。

中 典子：事例研究の手法を用いて学校をベースに展開するソーシャルワークプロセスに関する研究指導を行う。

國田 祥子：表示メディアと読みの関係、音読の効果、頻度と注意の関係等に関する研究指導を行う。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	執筆された論文を学位審査委員会で審査する。

論文は、受講中の討論や中間発表での議論が反映されていることと、高度専門職業人や自由記載 研究者としての問題解決の基礎的能力を身に付けていると認定できることが求められる。表現系の場合は作品や実演も審査の対象とすることができる。

【受講の心得】

時間を有意義に使い、研究が単に独りよがりではなく、誰かに共感され、評価され、貢献をするよう努力すること。

【授業外学修】

授業で提示される次回の内容について，予習すること。

授業で提示された課題を実施し，復習すること。

上記の内容を，週当たり10時間程度学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	日本語表現		サブタイトル	(日本語の用字用語と言語表現について)	授業番号	HA201
担当教員名	又吉 里美					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
本講義は、適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」「話すこと・聞くこと」の演習をおこなう。また、表現活動のおもしろさを味わう。						
【到達目標】						
1. 適切な日本語表現を身につける。 2. 意見文を中心として、様々な種類の文章が書けるようになる。 3. 就職活動や就職後にありえる場面や状況に応じた日本語について理解し、実際に使うことができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
本講義では、場面や状況に応じた日本語の使い方を学ぶために、意見文を中心に多様な種類の文章を実際書いていく。						
第1回：授業概要・日本語を用いた対話（自己紹介） 第2回：日本語を用いた対話（他己紹介） 第3回：日本語表現の留意点(1)類義語 第4回：日本語表現の留意点(2)日本語の構造 第5回：日本語表現の留意点(3)書き言葉 第6回：日本語表現の留意点(4)外来語 第7回：日本語表現の留意点(5)区切って書く 第8回：意見文を書く(1)分析と考察を書く 第9回：意見文を書く(2)事実・意見・感想の違い 第10回：意見文を書く(3)事実・意見・根拠の構造で書く(1) 第11回：意見文を書く(4)事実・意見・根拠の構造で書く(2) 第12回：物語を書く(1)構想して物語を書く(1) 第13回：物語を書く(2)構想して物語を書く(2) 第14回：物語を書く(3)評価と鑑賞 第15回：振り返りとまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，課題への取組などの状況によって評価する。			
	レポート	50%	毎回，課題を提示する。また，授業中の課題も評価対象とする。			
	小テスト					
	定期試験	40%				
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

- ・初回授業時に詳細を提示する。
- ・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。

【授業外学修】

- 1, 予習として, 課題に取り組むこと。
- 2, 復習として, 授業で学んだことを実践すること。
- 3, 発展学習として, 授業で紹介した参考文献(授業時に適宜紹介する)を読むこと。

以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。
参考書	自由記載	

授業科目名	芸術		サブタイトル	アートに親しむ	授業番号	HA202
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
<p>アートカードなどを使った鑑賞ゲームや、岡山県内の美術館に赴いての作品鑑賞や、スライドによる作品鑑賞を行うほか、デザインとアートとの共通点や相違点にも触れながら、個人の暮らしと社会における両者の意味を探求する。また、自分が好きなアート作品について調べ、鑑賞会を行う。なお、授業中のディスカッションで学習内容を主体的に振り返る。</p>						
【到達目標】						
<p>心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味について理解を深めることが目標である。この授業はディプロマポリシーに掲げられた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
<p>第6回第7回は学外での美術鑑賞を予定しており、同日に連続して行うほか、現地集合・現地解散とする。このため、通常授業と異なる曜日・時間帯に行う。なお、美術館への交通費は自己負担とするが、観覧は無料。保育学科の学生が履修した場合、学外実習期間中は休講とし、別日にて補講を行う。</p>						
<p>第1回：オリエンテーション、美術鑑賞いろいろ、ディスカッション：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？ レポート作成</p> <p>第2回：芸術は昔からあったのか？/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り</p> <p>第3回：西洋V.S.日本 神仏像の比較でなにがみえる？/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り</p> <p>第4回：アートはお金持ちのもの？庶民のもの？/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り</p> <p>第5回：鑑賞と五感 アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り</p> <p>第6回：美術館での鑑賞(1)</p> <p>第7回：美術館での鑑賞(2) 振り返り(スライド鑑賞との違い)</p> <p>第8回：鑑賞と記憶や経験(大人の鑑賞と子どもの鑑賞の比較)/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り</p> <p>第9回：鑑賞会に向けて(1) 鑑賞ナビゲーターの基本姿勢と役割/アートゲームと鑑賞の関係</p> <p>第10回：鑑賞会に向けて(2) 作品選定・鑑賞作品の研究</p> <p>第11回：鑑賞会に向けて(3) 鑑賞作品の研究/ゲームと鑑賞ナビゲートの練習・観察/振り返り</p> <p>第12回：鑑賞会に向けて(4) アートゲームと鑑賞ナビゲートの練習・観察/振り返り</p> <p>第13回：鑑賞会とディスカッション：鑑賞で発揮されて育つ力とは？鑑賞には何が必要か？</p> <p>第14回：デザインって何だろう？ あなたのー押しデザインは？</p> <p>第15回：レポート発表：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	振り返りや鑑賞会における意欲・関心・態度によって評価する。		
	レポート		40%	課題意識を持ち、具体的に述べていることを評価する。		
	小テスト		0%			
	定期試験		0%			
	その他		0%			
自由記載						

【受講の心得】

授業中，作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに，他者の発言に耳を傾け，自分の鑑賞の手がかりとすること。

【授業外学修】

自分が好きなデザインや紹介したい芸術作品について調べるほか，資料を用意してプレゼンテーションや鑑賞会の準備をすること。また，アートゲームと鑑賞する作品との関係性について理解を深める。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。
参考書	自由記載	

授業科目名 **法学概論**

サブタイトル (日常生活の法律知識)

授業番号 HA203

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

法律や裁判は難しい、悪いことはしないからなどと敬遠する人もいるが、私たちの日常生活は憲法や法律によって守られており、少しでもそれらの知識を有することは必要である。人が生まれる前から死んだ後のことまで、法律ではどのように決められているか、また日常生活ではどのようなことに注意すればよいかなどわかりやすい講義を行なう。

【到達目標】

受講により社会人としての全般的な法律知識を得ることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：テキスト紹介および説明を行なう。なお、ストーリーを楽しみながら、法律・裁判の知識や日常生活での注意事項が自然に身につく推理小説として、弁護士でもある和久峻三氏の『赤かぶ検事』『京都殺人案内』他の作品を紹介する。

第2回：法とは何か 推理小説による法学等理解について

第3回：法とは何か 社会規範、法と道徳等について

第4回：法とは何か 法と強制、刑罰、犯罪捜査、裁判員制度について

第5回：法とは何か 法と強制、損害賠償・慰謝料等について

第6回：法とは何か 法の存在形式、法の目的等について

第7回：法と人生 パソコンによる法律学習

第8回：法と人生 日本国憲法について（基本的人権）

第9回：法と人生 労働法関係（男女雇用機会均等法）について

第10回：法と人生 労働法関係（育児・介護休業法等）について

第11回：法と人生 民法関係（婚約・結婚・出産・命名・親子等）について

第12回：法と人生 民法関係（夫婦の権利と義務・離婚・財産等）について

第13回：法と人生 民法関係（死亡・葬儀・相続等）について

第14回：法と人生 消費生活関係（契約、取消し、訪問販売の手口、消費生活センター等）について

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、出席状況等によって評価する。
	レポート	20%	レポート内容、提出期限・最低字数の厳守、等によって評価する。
	小テスト		
	定期試験	70%	テキスト、ノート、プリント、視聴覚教材等を用いた講義の最終的な理解度によって評価する。
	その他 自由記 載		

【受講の心得】

授業時の携帯等の使用は禁止する。

【授業外学修】

- (1) 予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。
- (2) 予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。
- (3) 日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。

以上(1)～(3)を、週当たり4時間以上学修すること。

- (4) 和久作品を1冊以上読みレポートを提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『ライフステージと法』 自由記 載	副田隆重 他	有斐閣	1900円	9784641221017
参考書	自由記 載	和久峻三, 『赤かぶ検事』 『京都殺人案内』 シリーズ他, (講談社, 光文社, 角川書店 他)			

授業科目名 **社会心理学**

サブタイトル (心と身体と社会の関係)

授業番号 HA204

担当教員名 澤田 陽一

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は、社会学と心理学の学際領域である従来の社会心理学の基礎理論だけではなく、心（の働き）と身体（脳を含む実体）と社会（あるいは環境）との関係性から、人間（ヒト）の心理（心の働き）・行動を説明・解説する。

【到達目標】

心と身体と社会の関係性についての様々な現象や知見を知ること、多角的に人間（ヒト）を捉えることが出来るようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：社会心理学事始

第2回：社会を把握するためには ～感覚から認知へ：表象の成立～

第3回：社会的比較I ～他者を知る～

第4回：社会的比較II ～自己を知る～

第5回：パーソナリティと対人認知(1) ～相手の性格を知る～

第6回：パーソナリティと対人認知(2) ～対人魅力 ～どんな人に対して魅力を感じるのか～

第7回：情動・感情

第8回：集団の中の個人I 社会的影響と集団意思決定

第9回：集団の中の個人II 社会的影響と援助行動

第10回：コミュニケーション

第11回：攻撃性の心理

第12回：政治・経済の中にある心理

第13回：脳から見た社会性 ～社会性の破綻に見る個人～

第14回：信じることの心理

第15回：総括・授業の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	授業時に積極的に発言すること。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	75%	問題・設問に対して、学習したことを正確に記述できること。
	その他		
	自由記載		定期試験は選択問題以外に、特定の専門用語および理論について記述式の説明を求める問題を出题する。これにより、断片的な知識を評価するだけではなく、他者に論理的に説明できる能力も評価する。

【受講の心得】

私語厳禁

【授業外学修】

授業で紹介する専門用語はとて多く、授業だけでは理解が難しいものも少なくないので、それらについて、図書館などの専門書等を利用して、自身で再度、確認を行うこと。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特になし
参考書	自由記載	適宜, 講義内で紹介する

授業科目名 **社会学**

サブタイトル (配偶者の選択と家族編成の社会的規則)

授業番号 HA205

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。

【到達目標】

現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化
- 第2回：家族社会学における「家族」の定義
- 第3回：家族を対象とした社会学的方法
- 第4回：家族の種類と分類
- 第5回：青年期の異性交際に関する社会学の意味の考察
- 第6回：青年期の異性交際の実態
- 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か
- 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム
- 第9回：配偶者選択のプロセス
- 第10回：結婚の社会的意味
- 第11回：結婚の社会的機能
- 第12回：離婚の社会的意味と機能
- 第13回：家族の新しい形
- 第14回：子どもの養育
- 第15回：老親の介護

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。
	レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。
	自由記載		

【受講の心得】

自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。
しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。

【授業外学修】

1. テキストを事前に読んでくること。
文章を読むだけではなく、掲載されている図表の意味するところを考える。
具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。
2. 最終レポートの課題を探しながら受講すること。
テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。

両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組みむこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新しい家族社会学	森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4

自由記載

参考書

自由記載

講義の進行にあわせて適宜紹介する。

【その他】

特になし。

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	HA206
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
【到達目標】 私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：授業概要の説明、自然科学の基礎講座I 第2回：自然科学の基礎講座II 第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 第4回：学内環境を科学する(観察と観測、結果の考察) 第5回：タイムマシンは作れるか？(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ) 第6回：君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） 第7回：水に関する基礎講座ならびに実験と実習 第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶ） 第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習 第12回：見上げてごらん夜の星を！スマホで撮ろう流れ星（宇宙と科学） 第13回：外部講師による授業（子どもたちに科学実験の講座を数多く実践されている「岡山のでんじろう先生」の科学に纏わるお話や実験） 第14回：自然科学教材を用いた体験学修 第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	最終レポート（子どもたちに科学実験教室を実施する想定での企画書を作成する。）			
	小テスト					
	定期試験					

その他	60%	毎回の授業で「ふりかえりシート」を書いてもらう。何に気づき、何を得たのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。
-----	-----	--

自由記載

【受講の心得】

この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい。各回の授業の最後に提出してもらう「ふりかえりシート」は、試験代わりの成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい(シートの返却が必要な人には個別対応するので、担当教員に直接その旨を申し出ていただきたい)。

【授業外学修】

1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。
 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。
- 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

授業科目名	キャリア形成論		サブタイトル	(『自分のキャリア』は、視野を広げ、経験することで、企業等からあてにされる自分流を作る！)	授業番号	HA101
担当教員名	豊福 幸雄					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 社会が複雑化し、働くことの意識の多様化が進む中、自律的なキャリアに多くの関心が集まりつつある。これからは、会社に依存するのではなく、将来のために学生時代から真剣に自分のキャリアは自らの手で作り上げ、職業意識を涵養することや体験学習で、キャリアの活性化を図る糸口を見つける。						
【到達目標】 ・社会環境における生活学を心豊かに理解し、専門的な知識をもって自分を育て活かしていくことが、エキサイティングな営みを生み、新たなる視点に気づき、自発的な行動が自然と形成できる。そのための基礎力を身につける。 ・キャリア形成の知識・考え方を理解修得し、自己の目指す職業人としての優位な役割を果たし、よりよい人生を迎えるための充実した基礎を身につけることができる。 なお、本科目は演習経験を積み重ねながら、ディプロマポリシーに掲げた短期大学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：キャリア形成の前提（コミュニケーション） 第2回：夢の実現 社会からの期待 第3回：働く目的と自己を知る 第4回：職業の意義 第5回：仕事の条件と職業倫理 第6回：企業意識と職業意識 第7回：多様な働き方 第8回：プロフェSSIONAL志向 第9回：転職行動 第10回：キャリアの概念とキャリアアンカー 第11回：キャリア発達の段階とその特徴 第12回：CDPと組織内キャリアの形成 第13回：自立型人材育成とワークシステム 第14回：ワークキャリアとライフキャリア 第15回：まとめ「自己の形成・人生の羅針盤としてのキャリア」						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	真摯に授業に望み、自己啓発していく意欲と発表や討論が若者らしい状態：興味を持ち、真剣に理解しようとする意欲			
	レポート	10%	課題に対して、趣旨を逃さず具体的例をもって記する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	総合的に理解するために、キャリア形成用語20%：キャリア形成用語説明20%：概論40%：自己形成20%の課題から構成評価			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

社会に通じる規範をもとに、真剣な態度の参加型を中心とした講義とし、積極的かつ若い元気な発言行動を求める。また、授業をもとに、将来の自分磨きを図る環境を常に意識し、学生生活の中でキャリア形成の安定と視野の広がりを築けるように学修する態度を求める。

【授業外学修】

1. 予習として使用テキストを次回授業までに読んでおくこと。
 2. 自己啓発するために生活の中で、家庭・学校でのコミュニケーションを図り、視野を広げること。
 3. 学生個々が、授業から授業の間の1週間の出来事の発表をするので、新聞の購読と実際自分が行動したHOTなNEWSを考察して発表準備すること。
 4. 復習として、授業で行ったグループ討論や使用テキストの要点をまとめる。
- 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	働く意味とキャリア形成	谷内篤博	勁草書房	2200+消費税	978-4-326-65322-5
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **キャリア開発論**

サブタイトル (基礎学力(言語・非言語分野)) 授業番号 HA102

担当教員名 小川 深雪 藤本 宏美

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では就職活動や就職先などで求められる基礎学力の習得・向上を目指す。全講義(15回)の前半(8回)と後半(7回)に、それぞれ言語分野と非言語分野に関する内容の講義が行われる。

【到達目標】

- ・言語分野では日本語文章表現のためのリテラシーの習得ができています。
- ・非言語分野では就職試験に出題されるような文章題の基礎的問題が解ける。

なお、本教科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：キャリア開発と「ことば」の力	※ (担当 小川深雪)
第2回：音声言語によるコミュニケーション－対話－	※ (担当 小川深雪)
第3回：音声言語によるコミュニケーション－会話－	※ (担当 小川深雪)
第4回：文章表現のための基礎力－書き慣れ－	※ (担当 小川深雪)
第5回：作品から学ぶ日本語文章－韻文－	※ (担当 小川深雪)
第6回：手紙の書き方－形式と内容－	※ (担当 小川深雪)
第7回：小論文の書き方	※ (担当 小川深雪)
第8回：言語分野のまとめ	※ (担当 小川深雪)
第9回：生活の中の身近な数学 1 数の概念	※ (担当 藤本宏美)
第10回：生活の中の身近な数学 2 文字と式(鶴亀算など)	※ (担当 藤本宏美)
第11回：生活の中の身近な数学 3 文字と式, グラフ	※ (担当 藤本宏美)
第12回：生活の中の身近な数学 4 数列	※ (担当 藤本宏美)
第13回：生活の中の身近な数学 5 金額の計算	※ (担当 藤本宏美)
第14回：生活の中の身近な数学 6 場合の数	※ (担当 藤本宏美)
第15回：生活の中の身近な数学 7 経路問題	※ (担当 藤本宏美)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	15%	意欲的な受講態度, 予習, 復習の状態によって評価する。
	レポート	25%	レポートの内容, 理解度, 考察力などについて評価する。
	小テスト	60%	各領域の基礎的な理解度を評価する。
	定期試験		
	その他		
自由記載			・「言語分野」に関しては, ミニ・レポート (50%), 小テスト (50%) で評価する。 ・「非言語分野」に関しては, 授業への取組み (30%), 小テスト (70%) で評価する。 「言語分野」と「非言語分野」をそれぞれ50点で評価し, その合計が総合評価となる。

【受講の心得】

1. 配布する資料は必ず持参すること。
2. 授業態度は, 礼儀正しい態度で臨むこと。

【授業外学修】

1. 復習として、勉強したことを資料を見ながら学修しておくこと。
 2. 分野によって課されるレポートは作成しておくこと。
 3. 授業で身につけた知識・技術について、普段の生活に活かせるようにすること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

【その他】

「言語分野」, 「非言語分野」共にプリント資料を用いる。

授業科目名 **体育実技**

サブタイトル (適切な運動実践)

授業番号 HA207

担当教員名 土田 豊

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実技

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の習得に貢献する。

【授業計画】

第1回：体力テスト

第2回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）

第3回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）

第4回：バレーボールIII（ゲームの展開）

第5回：バレーボールIV（ゲームの展開）

第6回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）

第7回：バドミントンII（ゲームの展開）

第8回：バドミントンIII（ゲームの展開）

第9回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）

第10回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）

第11回：バスケットボールIII（ゲームの展開）

第12回：バスケットボールIV（ゲームの展開）

第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）

第14回：卓球II（ゲームの展開）

第15回：卓球III（ゲームの展開）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	バレーボールとバスケットボールにおいては、技能テストを実施する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。

全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

1. 日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。

2. 各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）
参考書	自由記載	

授業科目名 **フレッシューズセミナー**

サブタイトル

授業番号 HA103

担当教員名 小築 康弘 宇野 保子 藤田 悟 仁宮 崇 加賀田 江里 奥村 弥生

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

導入教育を目的として開講された本科目では、新入生が学生生活を有意義なものとするため、学生として必要な勉学の進め方（ノートの取り方・レポートの書き方・質問の仕方）を学修する。

【到達目標】

・学生としての学修方法を実践することができる

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：オリエンテーション／レポートの書き方（1）	※（担当 小築（講義），宇野・藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価））
第2回：レポートの書き方（2）	※（担当 小築（講義），宇野・藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価））
第3回：質問の仕方	※（担当 小築康弘）
第4回：メモ・ノートの取り方：キーワードを捕まえよ	※（担当 小築康弘）
第5回：レポート（1）（2）の添削指導	※（担当 小築，宇野，藤田，仁宮，加賀田，奥村）
第6回：レポートの書き方（3）	※（担当 小築（講義），宇野・藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価））
第7回：ゲストスピーカーの話の聞き方	※（担当 小築康弘）
第8回：実践：講演を聞いてメモを取り，質問する（1）	※（担当 仁宮 崇，小築康弘）
第9回：レポート（3）の添削指導	※（担当 小築，宇野，藤田，仁宮，加賀田，奥村）
第10回：レポートの書き方（4）	※（担当 小築康弘）
第11回：スマートフォンで図書館蔵書検索	※（担当 小築康弘）
第12回：実践：図書館利用	※（担当 宇野保子，加賀田江里，奥村弥生）
第13回：レポート（4）の添削指導	※（担当 小築，宇野，藤田，仁宮，加賀田，奥村）
第14回：実践：講演を聞いてメモを取り，質問する（2）	※（担当 藤田 悟，小築康弘）
第15回：実践：講演を聞いてメモを取る	※（担当 小築康弘）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への取り組む姿勢を評価する。
	レポート	30%	指示されたルールを守ってレポートを作成し，期限までに提出できるかで評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	質問に関する実技試験20%，メモ・ノートテイキングの成果物の評価が16%，検索・探索結果の写真の提出が4%で，それぞれの事項を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

学んだことを普段の学修において実践すること。

【授業外学修】

- ・ 課題として出されるレポートの作成をすること
- ・ 授業で得た学生としての学修を様々な場面で実践すること

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	地域創生論		サブタイトル	(地域資源の活用)	授業番号	HA208
担当教員名	加藤 せい子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>私たちが暮らす地域について、まずは地域とは何か「知る」ことから講義を始め、まち歩きなどから地域の資源を自分で知ることによって「好き」になり、愛着が生まれ自分の地域に「還る」循環を創る仕組みを知る。外部講師を招き、実践を積み重ねていき地域づくりのノウハウを会得し、自ら参画していく意識を醸成していくことを目的とする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>自分の地域に誇りを持ち、何ができるかに気づく。 地域に関心を持ち、自ら地域を語れることができる。 また地域で出来ることを意識し、自ら企画運営ができる基盤を創る。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：地域創生とは 第2回：地域に関心を持つ 地域づくりの事例 地域資源とは？ 第3回：地域に関心を持つ 地域の魅力を知る（プレストーミング） 第4回：地域に関心を持つ 地域の課題を知る（親和法） 第5回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の現状 ワークショップ ※（担当特別講師） 第6回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の高齢者対策 ワークショップ ※（担当特別講師） 第7回：地域が抱える課題 岡山県的生活文化振興 ワークショップ ※（担当特別講師） 第8回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(1) 第9回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(2) 第10回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(3) 第11回：地域開発の実践ワークショップ プレプレゼンテーション 第12回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション 第13回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション 第14回：地域開発の実践ワークショップ プログラム実践 第15回：地域開発の実践ワークショップ ふりかえり</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの 姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって 評価する。
レポート	20%	レポートにより授業の理解度を評価する。
小テスト		
定期試験	50%	地域開発に関するプレゼンテーションの完成度によって評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

本科目はワークショップ方式を使い授業を進めるので，仲間同士で意見を出しながら進めていく。
振り返りレポートの提出が必須。

【授業外学修】

次回授業するテキスト部分を読み込み，分からない部分は事前に調べて授業に参加する。
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『システム×デザイン思考で世界を変える』	前野隆司	日経BP 社	1800円	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	ボランティア論	サブタイトル	地域社会で生きる	授業番号	HA209
担当教員名	福森 護				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>阪神淡路大震災を契機にボランティア活動に対する関心が高まり、また、東日本大震災を契機に、ボランティア活動とは何かが改めて問われている。その分野は福祉、教育、まちづくり、環境、災害救援、国際協力等幅が広い。本科目は、ボランティアの意義や歴史、また、それぞれの分野で活躍する実践者からボランティア活動についての現状と課題、今後の可能性、個人や社会とのつながりなどを学び、自らも主体的に行動できる知識の修得を目指す。</p>					
【到達目標】					
<p>ボランティアの意義や各分野の活動の実態等を知ること、地域社会で起きている問題を解決するために何が求められているのか、また自分に何が出来るのかを考えることができる。</p> <p>ボランティア活動をとおして、相手にどのような影響を及ぼすか、そして、人や組織が対等な関係でつながるといふことはどういうことかを考えることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：ボランティア活動とは？ ※（担当福森護）</p> <p>第2回：ボランティアの歴史・社会的役割 ※（担当福森護）</p> <p>第3回：ボランティア活動の事例1（地域活動、まちづくり） ※（担当福森護）</p> <p>第4回：ボランティア活動の事例2（企業、福祉） ※（担当福森護）</p> <p>第5回：ボランティア活動の事例3（国際協力） ※（担当福森護）</p> <p>第6回：中国学園におけるボランティア活動 ※（担当学内講師）</p> <p>第7回：社会貢献・文化貢献とボランティア1（地域活性化の活動） ※（担当外部講師）</p> <p>第8回：社会貢献・文化貢献とボランティア2（音楽活動を通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第9回：社会貢献・文化貢献とボランティア3（イベントを通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第10回：社会貢献・文化貢献とボランティア4（芸能活動を通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第11回：ボランティア活動の実際1（動機） ※（担当福森護）</p> <p>第12回：ボランティア活動の実際2（選択） ※（担当福森護）</p> <p>第13回：ボランティア活動の実際3（実践） ※（担当福森護）</p> <p>第14回：ボランティア活動の実際4（報告） ※（担当福森護）</p> <p>第15回：学修と実践をとおして「ボランティア」とはを皆で考える（ディスカッションと発表）。 ※（担当福森護）</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度				
	レポート	60%	2回のレポートを課す。		
	小テスト				
	定期試験				

その他 40% 2回のボランティア活動を評価する。

自由記載 履修者は、2回以上、ボランティア活動を行うことを義務付ける。

【受講の心得】

ボランティア活動に関心を持ち、理論で学んだことを実践で生かしながらボランティアについて自分の答えを見つけることを求める。

【授業外学修】

- 1.課題のレポートを書く。
- 2.各回で紹介された参考文献や、ボランティア情報をもとに積極的に活動すること。
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	各回で配布する資料等を使用する。
参考書	自由記載	『ボランティア論』, 藺田碩哉 編著, ヘルスシステム研究所 『学生のためのボランティア論』, 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子 編, 社会福祉法人大阪ボランティア協会 『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』, 巡 静一・早瀬 昇 編著, 中央法規出版 『ボランティア学を学ぶ人のために』, 内海成治・入江幸男・水野義之 編, 世界思想社 『ボランティア学のすすめ』, 内海成治 編著, 唱和堂

授業科目名 **英語 A**

サブタイトル (英語で語る岡山)

授業番号 HA210

担当教員名 藤代 昇丈

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて、外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い、英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで紹介文を書き、簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。

【到達目標】

- ・ 英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。
- ・ 対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。
- ・ 岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day
第2回：1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City
第3回：1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu
第4回：1-2-2 Kibiji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station
第5回：1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Hights
第6回：1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine
第7回：1-3-4 A Visit to Yumeji's House / 1-3-5 Yunogo Hot Springs
第8回：2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ
第9回：2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert
第10回：2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben
第11回：2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Athletes from Okayama
第12回：2-3-5 Star Watching / 3-2-1 Naked Man Festival (Hadakamatsuri)
第13回：3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity
第14回：3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1
第15回：3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめられているかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記載	10%	積極的に自分の考えや学修内容について発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・ 予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学修に努めること。
- ・ 授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。

【授業外学修】

- 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	岡山から“ハロー”	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	1, 000	978-4-88197-743-9
	自由記載				
参考書	自由記載	なし			

授業科目名 **英語B**

サブタイトル (総合英語演習)

授業番号 HA211

担当教員名 藤井 佐代子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

国内や海外で使用する、英文記事・英語でのメールのやりとり・日常英会話の英語表現を、ペアワークやインタビュー・ゲーム等の実践を通し、聞く、話す、読む、書くという4技能にわたって学び、英語でコミュニケーションを図る知識・技能を修得する。

【到達目標】

英語検定準2級程度に相当する基礎的なコミュニケーション能力、語彙力・文法力を修得する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：歌を通したAuthentic EnglishI

第2回：Unit 1 Nice to meet you!

第3回：Unit 2 What am I thinking of?

第4回：歌を通したAuthentic EnglishII

第5回：Unit 3 Do you like noodles?

第6回：Unit 4 How often do you do yoga?

第7回：洋画を通したAuthentic EnglishIII

第8回：Unit 5 How often do you exercise?

第9回：Unit 6 Time for trivia!

第10回：洋画を通したAuthentic EnglishIV

第11回：e-mail

第12回：crossword I, Unit 7 What does she look like?

第13回：crossword II, Unit 8 Which do you prefer?

第14回：おもてなし英語, Unit 9 What did you do?

第15回： My dream

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	活動や討論への積極的な参加を評価する。
	レポート	40%	学んだ英語表現を使ったスピーチ原稿作成（復習）を評価する。
	小テスト	20%	6回の小テスト結果を評価する。
	定期試験		
	その他		
自由記載			会話やプレゼンに積極的に参加できる。 学んだ英語表現を使った簡単なスピーチ原稿を復習として作成してくる。 小テストでは、英文の内容を8割以上理解することができる。

【受講の心得】

注意深く聞き、自分のもてる力を発揮して伝えたい内容を英語で積極的に伝えようとする事。

わからない点は、辞書で調べること。

毎時間、辞書或いは辞書機能があるものを持参すること。

【授業外学修】

- 1.復習のスピーチ原稿を作成してくること。
 - 2.学んだ英語表現を音読したり，書き留めたりして，復習すること。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NOW YOU'RE TALKING!		Chris Elvin	EFL Press	2500 + 税	4580244428939
	自由記 載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	SmartChoice 2nd Edition Student Book 1		Ken Wilson	Oxford University Press		
	自由記 載					

授業科目名	仏語		サブタイトル	(フランスに行こう)	授業番号	HA104
担当教員名	盛政 文子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
フランス語のわずかなセンテンスを使って、日常会話に触れる授業である。又、シャンソンを聴きながら、フランス語の持つリズムと雰囲気を楽しみ、効果的に学習する。更に、魅力あふれる映像を通して、フランス文化の理解を広げる。						
【到達目標】						
日常生活で使用する会話を身に付けること。フランスのファッションや料理、世界遺産に興味を持つことで見識を広げること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：挨拶の表現 映像：シテ島 シャンソン：『月明かりで』						
第2回：パリに行こう！ 映像：セーヌ川左岸 シャンソン：『アヴィニヨンの橋の上で』						
第3回：フランスの学生生活 映像：ナポレオンの墓						
第4回：自己紹介をする 映像：シャンゼリゼ大通り シャンソン：『オーシャンゼリゼ』						
第5回：カフェでお茶を 映像：マカロン						
第6回：フランス人の生活観 映像：パリでの生活（1）						
第7回：ショッピングを楽しむ 映像：パリでの生活（2） シャンソン：『パリのお嬢さん』						
第8回：家族について話す 映像：ルーヴル美術館						
第9回：レストランでディナーを 映像：モンマルトル						
第10回：フランス人の祝日 映像：パリのクリスマス（1） シャンソン：『きよしこの夜』						
第11回：週末の予定について 映像：パリのクリスマス（2）						
第12回：パリ郊外への旅 映像：ロワール河古城巡り						
第13回：フランスの世界遺産 映像：ノルマンディー地方						
第14回：モン・サン・ミシエルの成り立ち 映像：モン・サン・ミシエル（1）						
第15回：モン・サン・ミシエルを訪れる 映像：モン・サン・ミシエル（2）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な受講態度、ワークシートを評価する。			
	レポート	20%	授業で観たビデオの感想を評価する。			
	小テスト	0%				
	定期試験	50%	〈レポート試験〉(30%)興味を持ったフランスの文化について、日本語で600字程度のレポートを書く。〈口頭試問〉(20%)簡単なフランス語で自己紹介をする。筆記試験はない。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

フランスに行くために必要な知識と会話表現を身につけてもらいたい。そのために日頃から身近に使われているフランス語・フランスに関するニュース・旅番組にも興味を持ち、フランスに行きたいと思ってほしい。

【授業外学修】

- 1.授業時使用したワークシートを、ノートに貼ること。
 - 2.授業時観た映像についての200字程度の感想を日本語で書き、次回に提出すること。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト トライ！ フランス語	藤田知子 他著	駿河台出版社	税別1800円	978-4-411-00825-1

自由記載 毎授業にワークシートを配布。

参考書

自由記載

【その他】

授業時使用したワークシートを貼るB5のノートを用意する。

授業科目名 **中国語**

サブタイトル (発音記号, 基本文型)

授業番号 HA105

担当教員名 張文

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

この授業は中国語の発音・基本文型に重点を置く。発音をマスターしてもらい、日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなどを解きながら、基礎的な会話表現を学んでいくものとする。また、外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番ふさわしい方法が何かについて考えてもらう。

【到達目標】

中国語の発音記号（ピンイン）をマスターする。基本的な構文を理解し、あいさつ言葉や簡単な表現を身につける。中国語に触れることによって中国へ目を向け、相互理解を深めるために欠かせないコミュニケーション力・意欲を高める。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた能力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：テキスト第1週 発音I 声調 単母音
- 第2回：テキスト第2週 発音II 複母音 子音
- 第3回：テキスト第3週 発音III そり舌音 鼻音を伴う母音
- 第4回：テキスト第4週 発音IV 軽声 r化音 声調変化 数字の言い方
- 第5回：テキスト第5週 「是」構文 動詞述語文 一般疑問文
- 第6回：テキスト第6週 会話文「名前・国籍・所属」
- 第7回：テキスト第7週 形容詞述語文 疑問詞疑問文
- 第8回：テキスト第8週 会話文「・・・の・・・ 性質」
- 第9回：テキスト第9週 「有」構文 反復疑問文
- 第10回：テキスト第10週 会話文「趣味」
- 第11回：テキスト第11週 「在」構文 連動文
- 第12回：テキスト第12週 会話文「場所」
- 第13回：テキスト第13週 時間の表し方 前置詞
- 第14回：テキスト第14週 会話文「家族構成」
- 第15回：まとめ 定期試験に向けて

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発音練習・発言など授業への積極性
	レポート	20%	課題の提出と完成度
	小テスト		
	定期試験	60%	発音の基本・テキストにある強化トレーニングの内容の定着
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習、復習をしっかりとすること。テキストを必ず持ってくる。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており、声を出して練習すること。遅刻しないこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、次の授業に出る新出単語を覚えておくこと、テキストの問題に目を通しておくこと。
 - 2 復習として、学んだ本文内容や文法を再確認すること。
- 週に最低5時間以上の予習・復習が望ましい。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	おぼえチャイナ1-暗唱中心・入門中国語15週-		朝日出版社	2376	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	韓国語		サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)	授業番号	HA106
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>韓流ブーム以降、冬季オリンピック、文化交流などを通じて韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は、文法が類似している。とくに、言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国語の言葉や文法を習得することができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 ・簡単な韓国語が書けることができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：韓国語とは</p> <p>第2回：文字と発音・母音</p> <p>第3回：文字と発音・子音</p> <p>第4回：激音と農音、パッチム</p> <p>第5回：助詞、動詞</p> <p>第6回：基本文型過去形の作り方</p> <p>第7回：感嘆文、疑問文</p> <p>第8回：基本文型指示代名詞、助数詞</p> <p>第9回：用語の丁寧形、尊敬形</p> <p>第10回：会話練習、表現</p> <p>第11回：挨拶、訪問の言葉</p> <p>第12回：韓国の大学</p> <p>第13回：韓国の食生活</p> <p>第14回：韓国の文化と映画</p> <p>第15回：韓国の若者と社会生活</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に行っているのかを評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。		
	定期試験		40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。		
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- ・ 韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。
- ・ 韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・ 予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・ 復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。
- ・ 韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	1600円	978-4-8163-5558-5

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **生活学概論**

サブタイトル

授業番号 HG101

担当教員名 小築 康弘 藤田 悟

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

豊かな生活を作り上げていくには、生活に関わる様々なことを理解し、自身の生活の場で選択し、実践していく必要がある。中でも、日々の暮らしにおいて、「着ること」「食ること」「住むこと」が大きな要件となる。これら、いわゆる「衣食住」の基礎知識を身につけるのが、本講義の目的である。

【到達目標】

・衣食住の基礎知識を有し、発展的な学修においてそれら知識を利用することができる
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：衣服の構造：被服ができあがるまで	※（担当 藤田 悟）
第2回：衣服の役割：社会的機能と保健衛生的機能について	※（担当 藤田 悟）
第3回：衣服の選択：自分に似合う服を選ぶには	※（担当 藤田 悟）
第4回：衣服の材料：服の素材の種類や特徴から快適な着心地を手に入れる	※（担当 藤田 悟）
第5回：衣服の管理：洗濯や保管中のトラブルについて	※（担当 藤田 悟）
第6回：食の機能と栄養機能	※（担当 小築康弘）
第7回：食と生活リズム／食の精神的機能	※（担当 小築康弘）
第8回：食事形態の選択	※（担当 小築康弘）
第9回：食事に対する価値観／食べ物の安全と安心の概念	※（担当 小築康弘）
第10回：食中毒	※（担当 小築康弘）
第11回：住居の機能	※（担当 小築康弘）
第12回：住まいの快適さ	※（担当 小築康弘）
第13回：住まいの安全性	※（担当 小築康弘）
第14回：ライフサイクルと住生活	※（担当 小築康弘）
第15回：住環境	※（担当 小築康弘）

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの 姿勢／態度		
評価の方法	レポート	20%	[小築] 授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができて いるか、併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。
	小テスト	45%	[藤田] 各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解 度を評価する。[小築] 予習範囲の確認テスト・前回の範囲の復習 テストにより、知識の定着度・理解度を評価する。
	定期試験	35%	[小築] 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。

【授業外学修】

[藤田]

1. 講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容について調べる事前学修を毎回行う
2. 事後学修として、講義時に配布された「レジュメ」を読み講義で学んだ内容を整理し理解するために復習を毎回行う

[小築]

3. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること
 4. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること
 5. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	人と生活	「生活する力を育てる」ための研究会編	建帛社	2,000+ 税	978-4-7679-1446-6
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **生活学基礎演習I**

サブタイトル

授業番号 HG102

担当教員名 小築 康弘 宇野 保子 藤田 悟 奥村 弥生 仁宮 崇 加賀田 江里

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

我々が普段の生活を営んで行く上で、様々な「あたりまえ」が存在する。米を炊き、みそ汁を作り、配膳し、食べる。洗濯をし、干し、折畳み、筆筒などにしまう。総合生活学科は、「生活者の視点」を培う学科であり、そこで勉強をする学生は当然ながら、これら生活者の「あたりまえ」について明確なイメージを持つ必要がある。そこで、本演習では、これら生活の中の「あたりまえ」を改めて体得するとともに、そのエッセンスを自分のものとすることを目的とする。

【到達目標】

・日々の生活における初歩的な知識・技術を身につけ、普段の生活に活かすことができる
 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：授業のねらい・到達目標の説明、グループ分け	※ (担当 小築康弘)
第2回：情報：メールの基礎	※ (担当 小築康弘)
第3回：情報：ネット検索の初歩	※ (担当 小築康弘)
第4回：衣服管理：洗濯の基礎知識	※ (担当 宇野保子)
第5回：衣服管理：衣類の計画的な管理	※ (担当 宇野保子)
第6回：調理：調理の基本 (1)	※ (担当 加賀田江里)
第7回：調理：調理の基本 (2)	※ (担当 加賀田江里)
第8回：生活の中の医療：健康と医療 (1)	※ (担当 仁宮 崇)
第9回：生活の中の医療：健康と医療 (2)	※ (担当 仁宮 崇)
第10回：生活：手紙のしきたり	※ (担当 小築康弘)
第11回：生活：片付け (1)	※ (担当 奥村弥生)
第12回：生活：片付け (2)	※ (担当 奥村弥生)
第13回：生活：生活に関わるお金の仕組みの理解	※ (担当 藤田 悟)
第14回：生活：生活の中の知的財産の理解	※ (担当 藤田 悟)
第15回：まとめ	※ (担当 小築康弘)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	45%	授業へ取り組む姿勢を評価する。
	レポート	20%	基礎的知識・技術を実生活に活かす意欲について述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。
	小テスト	30%	基礎的知識の定着度・理解度を評価する。
	定期試験		
	その他	5%	実技試験により、修得した基礎的技術の修得度・実践力を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、普段の生活の中で様々な活動に興味を持つとともに、習ったことを生活の中に生かすことを求める。

【授業外学修】

- 1 授業で身につけた知識・技術について復習し、普段の生活に活かせるようにすること
 - 2 いくつかの分野で課されるレポートの作成をすること
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	なし
参考書	自由記載	なし

授業科目名 **生活学基礎演習II** サブタイトル 授業番号 HG107

担当教員名 小築 康弘

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

我々は進歩の激しい世界に生活をしている。そこで、必要になるのは新たな知識を取り入れ、新たな技術・知識に対応することである。それが、現代の生活者に必要な能力の一つである。本演習では、その基礎となる『学修する習慣』のより確実な構築を目的とするとともに、言語能力および非言語能力として数学および論理学の基礎的能力を身に付けることを目指す。

【到達目標】

・基礎的な言語能力および非言語能力の学修を通し、自身の必要に合わせて学修する習慣を身につけている
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：授業のねらい～なぜ「学習する習慣」が必要なのか～
- 第2回：非言語分野の演習(1)
- 第3回：言語分野の演習(1)
- 第4回：非言語分野の演習(2)
- 第5回：非言語分野の演習(3)
- 第6回：非言語分野の演習(4)
- 第7回：第2回～第6回の演習内容の確認テスト
- 第8回：言語分野の演習(2)
- 第9回：非言語分野の演習(5)
- 第10回：非言語分野の演習(6)
- 第11回：非言語分野の演習(7)
- 第12回：第2回～第6回の演習内容および第8回～第11回の演習内容の確認テスト
- 第13回：非言語分野の演習(8)
- 第14回：非言語分野の演習(9)
- 第15回：改めて考える～なぜ「学習する習慣」が必要なのか～

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト	50%	各回の内容の理解度・定着度を評価する。
	定期試験	50%	自身が身につけた能力を適切に発揮できるかを評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、到達目標にあるように『学習の習慣化』を求める。

【授業外学修】

1. 授業で提示される次回の内容について予習をすること
 2. 定期試験に向けて、自身の身につけた言語能力・非言語能力の定着を図ること
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	未定
参考書	自由記載	未定

授業科目名	ホスピタリティ論		サブタイトル		授業番号	HG108																														
担当教員名	仁宮 崇 奥村 弥生																																			
対象学部・学科		単位数	2単位																																	
開講年次	1年		開講期	後期																																
必修・選択	必修		授業形態	講義																																
【授業の概要】																																				
<p>ホスピタリティは、笑顔で話す、温かい声かけをするだけでなく、相手の立場に立って考え、行動することが大切である。人間が生活する中で、人と人の繋がりは必要不可欠であり、良好な人間関係を築いていく中でもホスピタリティは重要である。本講義では、ホスピタリティに必要なコミュニケーション方法を学び、様々な事例を通して「ホスピタリティの正体」について考えていく。</p>																																				
【到達目標】																																				
<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティの意義を理解し、必要なコミュニケーション方法について理解できる。 ・様々な事例を通して、社会生活でのホスピタリティについて知識を深める。 ・学んだ内容を学内外で触れ合うすべての人に対して実践し、行動につなげていくことができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>																																				
【授業計画】																																				
<table border="0"> <tr> <td>第1回：ホスピタリティの意義</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第2回：ホスピタリティをめぐる言葉</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第3回：ホスピタリティのための傾聴・共感</td> <td>※ (担当 奥村)</td> </tr> <tr> <td>第4回：ホスピタリティと言語・非言語メッセージ</td> <td>※ (担当 奥村)</td> </tr> <tr> <td>第5回：ホスピタリティとコミュニケーション</td> <td>※ (担当 奥村)</td> </tr> <tr> <td>第6回：ホスピタリティと座席</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第7回：ホスピタリティと電話応対</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第8回：ホスピタリティの事例(1) (ホテル, サービス業)</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第9回：ホスピタリティの事例(2) (ホテル, サービス業)</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第10回：ホスピタリティの事例(3) (病院, 医療コンシェルジュ)</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第11回：ホスピタリティの実践 ステップ(1)～好感～ (基本マナー)</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第12回：ホスピタリティの実践 ステップ(2)～満足～ (気くばり)</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第13回：ホスピタリティの実践 ステップ(3)～感動～ (心くばり)</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第14回：ホスピタリティの正体</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> <tr> <td>第15回：講義のまとめ</td> <td>※ (担当 仁宮)</td> </tr> </table>							第1回：ホスピタリティの意義	※ (担当 仁宮)	第2回：ホスピタリティをめぐる言葉	※ (担当 仁宮)	第3回：ホスピタリティのための傾聴・共感	※ (担当 奥村)	第4回：ホスピタリティと言語・非言語メッセージ	※ (担当 奥村)	第5回：ホスピタリティとコミュニケーション	※ (担当 奥村)	第6回：ホスピタリティと座席	※ (担当 仁宮)	第7回：ホスピタリティと電話応対	※ (担当 仁宮)	第8回：ホスピタリティの事例(1) (ホテル, サービス業)	※ (担当 仁宮)	第9回：ホスピタリティの事例(2) (ホテル, サービス業)	※ (担当 仁宮)	第10回：ホスピタリティの事例(3) (病院, 医療コンシェルジュ)	※ (担当 仁宮)	第11回：ホスピタリティの実践 ステップ(1)～好感～ (基本マナー)	※ (担当 仁宮)	第12回：ホスピタリティの実践 ステップ(2)～満足～ (気くばり)	※ (担当 仁宮)	第13回：ホスピタリティの実践 ステップ(3)～感動～ (心くばり)	※ (担当 仁宮)	第14回：ホスピタリティの正体	※ (担当 仁宮)	第15回：講義のまとめ	※ (担当 仁宮)
第1回：ホスピタリティの意義	※ (担当 仁宮)																																			
第2回：ホスピタリティをめぐる言葉	※ (担当 仁宮)																																			
第3回：ホスピタリティのための傾聴・共感	※ (担当 奥村)																																			
第4回：ホスピタリティと言語・非言語メッセージ	※ (担当 奥村)																																			
第5回：ホスピタリティとコミュニケーション	※ (担当 奥村)																																			
第6回：ホスピタリティと座席	※ (担当 仁宮)																																			
第7回：ホスピタリティと電話応対	※ (担当 仁宮)																																			
第8回：ホスピタリティの事例(1) (ホテル, サービス業)	※ (担当 仁宮)																																			
第9回：ホスピタリティの事例(2) (ホテル, サービス業)	※ (担当 仁宮)																																			
第10回：ホスピタリティの事例(3) (病院, 医療コンシェルジュ)	※ (担当 仁宮)																																			
第11回：ホスピタリティの実践 ステップ(1)～好感～ (基本マナー)	※ (担当 仁宮)																																			
第12回：ホスピタリティの実践 ステップ(2)～満足～ (気くばり)	※ (担当 仁宮)																																			
第13回：ホスピタリティの実践 ステップ(3)～感動～ (心くばり)	※ (担当 仁宮)																																			
第14回：ホスピタリティの正体	※ (担当 仁宮)																																			
第15回：講義のまとめ	※ (担当 仁宮)																																			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考																																	
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。																																	
	レポート																																			
	小テスト																																			
	定期試験	70%	最終的な理解度を、持ち込み不可の試験にて評価する。																																	
	その他																																			
	自由記載																																			

【受講の心得】

ホスピタリティは実践することに意味がある。学んだことを日常生活でも取り入れ、実践する。相手の立場に立って考え、気くばりや心くばりをするをを求める。

【授業外学修】

1. 講義で学んだ気くばりや心くばりを意識して、日常生活の中で生かせるようにする。
2. サービスを受ける側になった際、サービス提供者の行動をみて、気くばりや心くばりを参考にする。
3. 発展学修として紹介した参考文献を読む。

以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	講義資料を配布する。
参考書	自由記載	「ホスピタリティの教科書」あさ出版 「ホスピタリティ コミュニケーションカ」日本医療企画 「レッツホスピタリティ」経済法令研究会 「ホスピタリティマネジメント:活私利他の理論と事例研究」白桃書房

授業科目名 **生活経営論**

サブタイトル

授業番号 HG218

担当教員名 宇野 保子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

多くの課題を抱えた現代社会において、主体的に自分らしいライフスタイルを創造するために、生活実践力に直接結びつく内容を扱う。具体的には、生活の仕組みと営み、生活構造と生活意識を主とした現代生活の分析、循環型社会を生き抜くためのライフスキル、生活設計に関する理論と実践について学ぶ。

テキストは、基本教材として使用するが、各種白書などの政府刊行物の最新データを参考資料として参照する。

【到達目標】

- 1.現代の生活構造・意識を理解し、その特徴を捉えることができる。
- 2.今後の生活に生かす生活スキルの基本を理解し、まとめることができる。
- 3.家族・社会・環境との関連において、共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。

本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

受講者の興味関心に応じて、参考文献や、配布資料を変え、内容を一部変更することもある。

第1回：生活を見つめる：生活の主体としての生活者、生活の営みと生活価値、生活資源

第2回：変動する現代の生活：生活構造の変化

第3回：変動する現代の生活：生活意識の変化

第4回：協働・共生社会を拓くライフスキル：生活問題解決能力

第5回：協働・共生社会を拓くライフスキル：家族コミュニケーション

第6回：循環型社会を創る消費者のライフスキル：自律的な消費行動

第7回：循環型社会を創る消費者のライフスキル：生活資源・エネルギー管理

第8回：循環型社会を創る消費者のライフスキル：安心・安全な生活経営

第9回：循環型社会を創る消費者のライフスキル：SDGsの概念と消費生活

第10回：循環型社会を創る消費者のライフスキル：SDGsと倫理的消費

第11回：衣食住のベーシックスキル：災害にそなえて

第12回：自分らしく生きるための生活設計スキル：協働と共生の時代を生きるシンプルライフ

第13回：自分らしく生きるための生活設計スキル：エシカル消費の視点から

第14回：自分らしく生きるための生活設計スキル：男女共同参画社会・ジェンダーの視点から

第15回：自分らしく生きるための生活設計スキル：自分流生き方の模索

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	各回の授業の要点整理となるサブノートの内容により、評価する。
	レポート	50%	課題に対する取り組み、思考過程、論理性を評価規準とする。
	小テスト		基礎概念の理解度を評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載	20%	各回のフィールドバックカードの記入内容の質と量

【受講の心得】

受講前に、テキストの該当箇所、配布資料を一読して、自分自身の問題としてよく考えながら受講する。

【授業外学修】

- 1 授業中に紹介した文献を積極的に読破する。
- 2 授業中に配布した資料を繰り返し精読し，書き込み用プリントを整理する。
- 3 期末のレポート作成に向け学んだ内容を，自分自身の生活に置き換えてよく考える。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生活を創るライフスキル－生活経営論	内藤道子・中間美砂子他共著	建帛社	1890円 (税込)	978-4-7696-1440-4
	家政学からの提言震災にそなえて	大竹美登利 他	一般社団法人日本家政学会	200円+税	978-4-9906439-0-4
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	男女共同参画白書	男女共同参画局	内閣府	2600円 +税	978-4-906955-79-4
	人間開発報告書2015	横田洋三ほか	CCCメディアハウス	4800円 +税	978-4-484-16107-5
	自由記載				

授業科目名 **国際関係**

サブタイトル

授業番号 HG217

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

国際関係、或いは外交関係の上で、日本にとって重要な国は第一には米国であり、次いで東アジアの近隣諸国である。この認識は、今後ますます重要になってくるであろう。この授業では、米国、中国、台湾、韓国の各国と我が国との二国間関係について、その「友好と敵対」の歴史を概観し、相互の文化的影響なども視野に入れながら、考察する。また、「文化論」と「コミュニケーション論」の立場から「国際理解」についても概観する。

【到達目標】

日本を取り巻く国際社会の概略的な理解と「文化」及び「コミュニケーション」に関する基礎的な知識を習得する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：国際関係の今：世界の中の日本

第2回：日米関係 その1

第3回：日米関係 その2

第4回：日米関係 その3

第5回：日中関係 その1

第6回：日中関係 その2

第7回：日韓関係 その1

第8回：日韓関係 その2

第9回：日台関係

第10回：文化と文明 その1

第11回：文化と文明 その2

第12回：文化とコミュニケーション その1

第13回：文化とコミュニケーション その2

第14回：文化とコミュニケーション その3

第15回：まとめと試験対策

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。
	レポート	60%	与えられた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業の終わりに、担当者へのフィードバックとして、感想・質問・意見等を書いて提出することになるので、考えながら講義を聴くことが必要になる。参考文献として紹介する書籍を読む事前学習と、授業後にレジュメを見直す事後学習で授業内容の理解を深めてもらいたい。

【授業外学修】

1 予習として、テキスト（プリント）を熟読し、講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。

2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	随時、プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名	消費生活学		サブタイトル		授業番号	HG211
担当教員名	矢吹 香月					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>戦後、資本主義経済の発展は、私たちの生活を便利にした反面、多くの消費者問題を生んだ。消費者問題の歴史の中で、私たち消費者は保護の客体から権利の主体となり、現在は、消費者市民社会に参画する消費者市民の一員になることが求められている。高度情報化、国際化等のめまぐるしい社会経済の動きの中で、消費生活の変化も激しく、多様な消費者問題が発生している。このような社会にあって、現代の消費生活や消費者問題に関する理解を深め、消費者市民社会を構成する一員として主体的に行動できる消費者について考える。また、消費者教育の重要性を認識し、その基本的な知識を修得する。</p>						
【到達目標】						
<p>現代の消費生活の特徴や消費者問題を理解し、その事象や原因について説明できる。 消費者教育の基本的な知識を習得し、消費者教育の必要性や基本的な考え方について説明できる。 自立した消費者としての意思決定能力や実践能力を高めるため、具体的・実践的な手立てを考えることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：オリエンテーション 第2回：消費者問題の基礎知識（1） 第3回：消費者問題の基礎知識（2） 第4回：商品・サービス取引に関する問題（1） 第5回：商品・サービス取引に関する問題（2） 第6回：商品・サービス取引に関する問題（3） 第7回：商品・サービスの安全をめぐる問題 第8回：商品・サービスの表示をめぐる問題 第9回：消費者信用をめぐる問題 第10回：情報通信に関する問題 第11回：消費者運動（学外授業） 第12回：事例研究(1) 第13回：事例研究(2) 第14回：事例発表（プレゼンテーション） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加状況によって評価する。			
	レポート	20%	テーマに対して、その背景と解決策について具体的に述べていること。			
	小テスト					
	定期試験	45%	期末テストを行い、最終的な理解度を評価する。			
	その他	20%	授業時間の中でプレゼンテーションができるとともに、質疑応答に対応できる。			
自由記載						

【授業外学修】

授業前には必ずテキストを読み，問題意識を持って授業に臨んでもらい，毎回授業終了時に小レポートを作成すること。

授業後はテキストや資料プリントを見直し，学習内容の理解を深めるため身のまわりの出来事に置き換えて考えておくこと。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	消費者問題入門（第3版）	吉田良子	建帛社	2,415円	978-4-7679-1442-8

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて随時紹介する。

授業科目名 **現代生活とマナー** サブタイトル

授業番号 HG103

担当教員名 小築 康弘 奥村 弥生 加賀田 江里

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

マナーは、相手の立場に立って考え、相手を不快にさせないためにあるものである。数多くの異なる個性や価値観をもつ人々が営む現代生活において、他者に与えている印象について知ることは重要である。本科目は、人生をより良く豊かに生きるために、確実に身につけておきたいマナーについて考え実践する。

【到達目標】

各回で学んだ基本的マナーを身につけ、普段の生活に活かすことができる

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：マナーとは	※ (担当 小築康弘)
第2回：食事のマナー：洋食	※ (担当 加賀田江里)
第3回：テーブルマナーの実践	※ (担当 加賀田江里)
第4回：食事のマナー：和食	※ (担当 小築康弘)
第5回：立ち居振る舞い：立ち方・座り方・おじぎ	※ (担当 奥村弥生)
第6回：身だしなみ	※ (担当 奥村弥生)
第7回：会話のマナー	※ (担当 奥村弥生)
第8回：敬語	※ (担当 奥村弥生)
第9回：電話のマナー (1)	※ (担当 奥村弥生)
第10回：電話のマナー (2)	※ (担当 奥村弥生)
第11回：冠婚葬祭のマナー	※ (担当 奥村弥生)
第12回：時間のマナー	※ (担当 小築康弘)
第13回：ネットのマナー	※ (担当 小築康弘)
第14回：人権とマナー (多様性を考える)	※ (担当 小築康弘)
第15回：まとめ	※ (担当 小築康弘)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	45%	授業への取り組み姿勢を評価する。
	レポート	45%	既存のマナーについて学んだ上で、自分はどのように考えるのかを述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	10%	ロールプレイを実施し、修得技術を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・マナーの授業であることを強く意識すること
- ・前回学んだ内容を、必ず身につけた状態で授業に臨むこと

【授業外学修】

1. 学修したマナーを普段の生活の中で実践する
 2. 授業毎に課されるレポートを作成する
- 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	大学生のための失敗しない大人のマナー	旺文社 編	旺文社	1,100+ 税	978-4-01- 052747-4
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **生活環境論**

サブタイトル

授業番号 HG215

担当教員名 小築 康弘

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

環境もしくは生活環境という言葉は耳慣れた言葉であり、ほとんどの人々が一定のイメージを抱いていると考えられる。しかしながら、改めて「環境とは?」「生活環境とは?」と質問された時に、説明ができるだろうか。本講義の目的は、これら「環境とは?」「生活環境とは?」に対するイメージを受講者自身の中に形成することにある。

【到達目標】

・衣食住と環境の関わりについてイメージを抱くことができる
・日本を含めた世界で発生しているいくつかの環境問題について、自分なりの考えを述べることができる
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：人間活動と環境

第2回：環境問題概論 (1)

第3回：環境問題概論 (2)

第4回：水環境

第5回：食生活と環境

第6回：住生活と環境

第7回：衣生活と環境

第8回：日本における環境問題 (1)

第9回：日本における環境問題 (2)

第10回：日本における環境問題 (3)

第11回：日本における環境問題 (4)

第12回：地球規模の環境問題 (1)

第13回：地球規模の環境問題 (2)

第14回：地球規模の環境問題 (3)

第15回：環境保全

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度		
評価の方法	レポート	14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができているかを評価する。
	小テスト	21%	予習範囲の確認テストが14%、前回の範囲の復習テストが7%で、それぞれを個別に行い、それぞれの知識の定着度・理解度を評価する。
	定期試験	65%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べるくせをつけること。

【授業外学修】

1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること
 2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること
 3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	生活と環境	藤城敏幸	東京教学社	1,900円 +税	978-4-8082-5012-6
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **生活情報論**

サブタイトル

授業番号 HG205

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

情報の持つさまざまな側面についての理解を深め、日常生活との関わりについて学習する。パソコンのしくみ、インターネットの活用、マルチメディア技術など、生活と関わりのあるテーマを選んで、授業を進めていく。

【到達目標】

情報処理の基礎的な知識の修得、また生活と情報の関わりについて理解を深めることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：パソコンハードウェアについて（CPU、メモリ、ハードディスク、ビデオカードなどのしくみ）

第2回：パソコン周辺機器について（ディスプレイ、プリンタ、外部記憶装置などのしくみ）

第3回：オペレーティングシステム（OS）について

第4回：アプリケーションソフトウェア、画像の表現について

第5回：生活におけるパソコン、タブレット、スマホの利用について

第6回：インターネットのしくみ

第7回：生活の中のインターネットの利用

第8回：ソーシャルネットワークとCMC（Computer-mediated Communication）

第9回：ウイルスとセキュリティについて

第10回：ウイルスとセキュリティについて（ネット詐欺から身を守る）

第11回：デジタル世界の著作権

第12回：デジタル世界の著作権

第13回：デジタル世界の著作権

第14回：ロボット最新事情

第15回：「生活と情報」の展望と情報化社会の問題点

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	45%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	25%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト	30%	
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

生活と情報について考えるきっかけを提供する授業であるため、情報に関わるさまざまなことに興味を感じながら受講していただきたい。特別な知識や技術は要求しない。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、板書により授業を進める。また、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	授業の中で、適宜指示をする。

授業科目名	衣と生活		サブタイトル		授業番号	HT201
担当教員名	宇野 保子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>被服は、人の心と体を包む最も身近な環境といわれている。この人体を包むモノとしての機能性の側面と、心を包む表現としての両面から授業を進める。具体的には被服そのものの材料や構成、衣と個人に関わる服装表現、衣と社会に関わる社会規範や流行現象等について講義をする。後半では、グループディスカッションを取り入れ、生活者の視点から、自分自身の衣生活を振り返る。</p>						
【到達目標】						
<p>被服を多面的に学ぶことにより、被服と人間、社会との関係を理解し、将来にわたり快適な衣生活が創造できることを最終目標とする。従って、(1)被服の基礎知識を修得する。(2)現代の衣生活を的確に理解する。(3)生活者の視点から衣生活の問題点を指摘し改善の提案ができる。(4)前項の改善点を実践する努力ができる。これが段階的に設定する到達目標である。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
受講者の興味関心に応じて、参考文献や配布資料を補足し、内容を一部変更することもある。						
<p>第1回：生活の中の衣 近年の生活様式の変化に伴う衣の変化について学ぶ。 第2回：服装の社会規範 服装の社会規範を試み、規範に対する世間の評価と個人の評価について考える。 第3回：社会的役割と服装 服装によって、社会的役割がどのように表現されているかを明らかにする。 第4回：服装の流行と流行色 日本で戦後流行した服装や色を概観し、その動機普及の過程等をとらえる。 第5回：新しいファッション 最新ファッションの傾向を知る。 第6回：個性と服装 着用者の個性が、服装にどのように表現されているかを学ぶ。 第7回：ライフスタイルと服装 服装とライフスタイルの関係を学ぶ。自分らしい衣生活スタイルを構築する。 第8回：衣の品質 衣に要求される品質について学ぶ。 第9回：衣の表示 衣料品につけられている品質表示について学び、正しい管理方法を考える。 第10回：衣の素材 衣を構成する繊維、糸、布の概要を学ぶ。 第11回：アパレル産業 衣生活の中でアパレル産業の位置づけについて学ぶ。 第12回：衣の消費と廃棄 資源、環境問題、エシカル消費の視点から、衣の消費と処分について考える。（ディスカッション） 第13回：衣生活の社会化 衣生活に関連した家事労働が社会化した背景を知り、その利用法を学ぶ。 第14回：衣生活の消費者問題 衣に関わる商品、サービス、安全等の消費者問題について考える。（ディスカッション） 第15回：これからの衣生活 学んだ知識・ディスカッション内容を基に、現在の衣生活の問題点・改善点について各自の意見をまとめる。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	特にグループディスカッションへの参加・貢献度を評価する。			
	レポート	50%	思考・問題解決能力をレポート内容・形式・実践の有無に対する記述から評価する。			
	小テスト	0%				
	定期試験	0%				
	その他	20%	毎回のフィールドバックカードでの授業への意欲を評価する。			

	自由記載					
<p>【受講の心得】</p> <p>テキストを使用しての内容が主となるので、テキストは必ず携行する。 各自の勉強方法に応じたノートを工夫して作成する。</p>						
<p>【授業外学修】</p> <p>1 1回目から10回目までは、授業前にテキストの該当箇所を熟読し、授業後は専門用語を中心に概念をまとめて知識の定着を図る。</p> <p>2 11回目以降は、授業中に紹介する資料や参考文献を精読し、テーマに関連した報道や、新聞記事等にも目を通し、レポート作成に備える。</p> <p>3 学んだ内容で、実生活で実践できることを積極的に取り入れる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ファッションと生活－現代衣生活論－		酒井豊子・藤原康晴	財団法人 放送大学 教育振興 会	2097円 (税込)	4-595- 51316- X C1377
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	消費者の視点からの衣生活概論		菅井清美・諸岡晴美	井上書院	1800円 (税別)	978-4- 7530- 2323-3
	自由記載					

授業科目名 **食と生活**

サブタイトル

授業番号 HF201

担当教員名 小築 康弘

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

標準的な日本人は一日に3回の食事を行う。単純すぎる計算であるが、人生が80年で毎日3回の食事をすると仮定すると、87,600回の食事を生涯にわたってすることになる。このことから分かるように、我々が生活を営んで行く上で「食」は重要な要素である。そこで、本教科は生活の中における「食」を広く学び、「食」に対する考えを構築することを目的とする。

なお、本教科はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目である。

【到達目標】

- ・「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる
- ・日本および世界の食生活に関する基礎的な知識、および食の安全に関わる初歩的な知識を有している

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：日本の食文化(1)
- 第2回：日本の食文化(2)
- 第3回：日本の食文化(3)
- 第4回：日本の食文化(4)
- 第5回：日本の食文化(5)
- 第6回：世界の食文化(1)
- 第7回：世界の食文化(2)
- 第8回：世界の食文化(3)
- 第9回：世界の食文化(4)
- 第10回：世界の食文化(5)
- 第11回：栄養素
- 第12回：食の安全(1)
- 第13回：食の安全(2)
- 第14回：食の安全(3)
- 第15回：食の安全(4)

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート	14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができていないかを評価する。
評価の方法	小テスト	21%	予習範囲の確認テストが14%、前回の範囲の復習テストが7%で、それぞれを個別に行い、それぞれの知識の定着度・理解度を評価する。
	定期試験	65%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくくせをつけること。

【授業外学修】

1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること
 2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること
 3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	フードコーディネーター教本2019	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3,240円 (税込)	978-4-388-15441-8
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **衣生活実習**

サブタイトル

授業番号 HT203

担当教員名 宇野 保子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

本講では、履修者自らが選んだデザインで自分自身の採寸結果を踏まえて衣服の型紙を作成し、裁断、縫製を行ない仕上げる。履修者自身のイメージする衣服に仕上がるよう助言をし、アパレル業界での作業工程にも触れながら制作を続ける。制作物は個人の実習作品であるが、実習室での共同作業、人体計測や着装において履修者相互の協力と、コミュニケーションが重要となる。

【到達目標】

豊富なアパレル製品に囲まれる中で、衣服の成り立ちは見えにくくなってきている。自分自身が身につける衣服を制作する事により、一枚の布から衣服が出来上がる全工程を経験し、その構成を理解することを目標とする。実習技術は個人差が大きい、各人が協力し合い、それぞれの技術にあった素材、デザイン、縫製方法で着用できる作品に仕上げ、達成感を味わうことも、到達目標の一つである。従って、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈思考・問題解決〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：〈被服と人体〉人体計測を行い着衣基体である人体の把握をする。
- 第2回：〈立体構成の基礎〉立体構成の被服制作の基本となる胸部原型と下衣原型の構成理論を学ぶ。
- 第3回：〈基礎縫い〉手縫い・ミシン縫いの基礎を、部分縫いの形成で実習する
- 第4回：〈被服制作実習1〉作りたい作品のコンセプトをまとめ、スタイル画に表現する
- 第5回：〈被服制作実習2〉製図、型紙作成、要尺の算定
- 第6回：〈被服制作実習3〉作品のイメージに合う布地を探す
- 第7回：〈被服制作実習4〉裁断 標つけ
- 第8回：〈被服制作実習5〉仮縫い
- 第9回：〈被服制作実習6〉本縫い1 表地の縫製
- 第10回：〈被服制作実習7〉本縫い2 裏地の縫製
- 第11回：〈被服制作実習8〉本縫い3 中綴じ
- 第12回：〈被服制作実習9〉本縫い4
- 第13回：〈被服制作実習10〉仕上げ
- 第14回：〈被服制作実習11〉試着、相互評価
- 第15回：〈被服制作実習12〉レポート作成

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	用具の準備、片付け、清掃、履修者相互の協力も含んだ取り組み姿勢を評価する。
	レポート	20%	作品のコンセプトを主とした内容・記述表現を主とした形式を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	実習物の完成度(技術・表現)と、学生相互の計画的な制作過程を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

制作は個人作業であるが、履修者全員が気持ちよく、能率的に実習できるよう実習室の使用ルールに従う。作品の制作中は、時間の始めに予定を確認し、記録を取りながら作業を進め、実習レポートにまとめる。

【授業外学修】

1 図書館やネットでデザイン検索をしたり、街中やショップでファッション・ウォッチングをしたりして、制作するデザインを考える。

2 制作する作品に適合する実習材料（布地）を捜す。希望があれば、履修者で、実習として探しに出かけることも計画している。

以上の内容を、必要に応じて行う。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	被服構成学実習テキスト	三田利子・宇野保子	西日本法規出版	3100円 (税込)	4-931220-33-9 C3077

自由記載 テキストは、実習室備品として準備(個人購入の必要なし)

参考書

自由記載

授業科目名	生活と医学		サブタイトル		授業番号	HG202
担当教員名	川上 道子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>医療管理秘書士や医療事務，社会福祉主事として資格を持って就職した際に必要になる，専門的な知識を身につける。</p> <p>また，社会人として生活する上で役立つ医学の基礎的な知識・事柄を学ぶ。</p> <p>今後変化することが予想される，日本の医療・介護・福祉の制度について，最新情報を得ることにより将来を考える授業にしたい。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活と医学の関係が理解できる。 2. 人間の生活行動が理解でき，自分や家族の生活と関連づけて考えることができる。 3. 代表的な疾病や障害が理解できる。 4. 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。 						
【授業計画】						
<p>【授業計画 備考】</p> <p>わが国の医療・介護の制度が目まぐるしく変化していることから，できるだけ最新の情報を提供したい。新聞やDVD等の視覚教材で理解を深めたい。</p>						
<p>第1回：生活と医学の関係について 医学の歴史</p> <p>第2回：人間の身体の構造と仕組み</p> <p>第3回：生命維持の仕組み 循環器系の理解と病気</p> <p>第4回：人間の生活行動としての「動くこと」に関連した病気や障害（運動器系・脳神経系）</p> <p>第5回：人間の生活行動としての「食べること」に関連した病気や障害（消化管の機能・摂食）</p> <p>第6回：人間の生活行動としての「息をすること」に関連した病気や障害（呼吸器の機能）</p> <p>第7回：人間の生活行動としての「トイレに行くこと」に関連した病気や障害（腎・泌尿器系・直腸の病気や障害）</p> <p>第8回：人間の生活行動としての「話す・聞くこと」に関連した病気や障害（言語障害・コミュニケーション障害）</p> <p>第9回：人間の生活行動としての「眠ること」に関連した病気や障害（睡眠障害・薬物療法）</p> <p>第10回：人間の生活行動としての「お風呂に入ること」に関連した病気や障害（清潔行動・お洒落の意義）</p> <p>第11回：人間の生活行動としての「子どもを産むこと」に関連した病気や障害（STD・不妊症治療等）</p> <p>第12回：よくある病気の検査や治療・・・急性期を中心に</p> <p>第13回：よくある病気の検査や治療・・・慢性期を中心に（リハビリテーション）</p> <p>第14回：これから増える病気の検査や治療・・・認知症・がん</p> <p>第15回：これから増える病気の検査や治療・・・生活習慣病（糖尿病・高血圧等）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，出席状況，質問内容によって評価する。			
	レポート	20%	授業中に出した課題の提出状況，内容によって評価する。			
	小テスト	10%	リアクションペーパーへの記載内容によって評価する。			

定期試験 50% 最終的な理解度を評価する。
 その他
 自由記載

【受講の心得】

事前・事後学修を十分に行い、分からないことは積極的に質問すること。

【授業外学修】

授業中に出す課題に積極的に取り組む。
 毎回の授業に対して、予習・復習を行う。
 以上の学修を、1週当たり4時間以上行う。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ぜんぶわかる人体解剖図	坂井健雄・橋本尚嗣 著	成美堂出版	1900円 + 税	978-4-415-30619-3 C2047
	看護につなげる形態機能学	菱沼典子	メヂカルフレンド社	2400円 + 税	978-4-8392-1499-9 C3047
自由記載	1. 厚生労働省認定教科書『医療保険事務 医学一般』, 財団法人 日本病院管理教育協会 総合生活学科で注文予定				
参考書	自由記載	必要に応じ提示する。			

授業科目名 **ライフステージと健康**

サブタイトル

授業番号 HG210

担当教員名 土田 豊

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

自分自身の健康対策および家族の健康を維持する意義や方法について理解し、生涯に渡って健康で有意義な生活を送れるようになるための様々な知識について講義する。

【到達目標】

様々な健康に関する情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できるようにすることおよび、現在の自らの心身の状態を客観的に把握・評価できるようになることを目的とする。

なお、本科目ではディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：人間の体力について考える
- 第2回：眠りについてホルモンの働きから考える
- 第3回：自律神経の働きについて考える
- 第4回：脳の覚醒と運動との関係について考える
- 第5回：体幹筋力と日常生活の関係について考える
- 第6回：日常生活の中に潜む事故（リスク）について考える
- 第7回：電磁波が人体に及ぼす影響について考える
- 第8回：鉄欠乏性貧血と脳貧血について考える
- 第9回：出産・育児と喫煙、飲酒の関係について考える
- 第10回：コミュニケーションの重要性について考える
- 第11回：健康診断から分かることについて考える
- 第12回：心（前頭前野）の働きについて考える
- 第13回：アレルギーについて考える
- 第14回：視力と虫歯の問題について考える
- 第15回：からだと心を元気にする方法について考える

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。
	レポート	50%	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。
	小テスト	20%	定期的に学習内容の定着を確認する小テストを実施する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【授業外学修】

1. 「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。
 2. 自分自身の心身の状態に興味・関心を高め、シラバスに記載されている授業内容に関する情報を集めるなどして予備知識を得ておくこと。
 3. 授業で学んだことを日常生活で実践したり、関連した書籍等を読むなどして学習内容を深く理解すること。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **公衆衛生学**

サブタイトル

授業番号 HG207

担当教員名 波多江 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

公衆衛生学は、人びとを疾病から守り、健康の保持・増進をはかることを目的としており、管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は、母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と、地域保健、精神保健、環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで、広い範囲にわたっている。そのうちで、保健統計、環境保健、食品衛生を中心に学習する。

【到達目標】

- (1)社会あるいは家庭において、人びとの健康を保持・増進していくための基礎知識を身につける。
- (2)公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集、分析、情報管理の方法を学び活用できる。
- (3)本科目は、ディプロマポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：公衆衛生と健康の概念（テキスト p.2～p.9）
第2回：保健統計；人口静態統計（テキスト p.40～p.43）
第3回：保健統計；人口動態統計（テキスト p.44～p.53）
第4回：保健統計；死因統計（テキスト p.54～p.61）
第5回：保健統計；疾病統計（テキスト p.62～p.65）
第6回：社会保障と医療経済；社会保障制度（テキスト p.152～p.159）
第7回：社会保障と医療経済；医療保障制度（テキスト p.160～p.167）
第8回：社会保障と医療経済；国民医療費（テキスト p.168～p.171）
第9回：地域保健（テキスト p.172～p.177）
第10回：成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキスト p.178～p.183）
第11回：成人保健と健康増進；健康日本21（テキスト p.184～p.191）
第12回：成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策（テキスト p.192～p.197）
第13回：食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキスト p.308～p.313）
第14回：食品保健；食中毒（テキスト p.314～p.325）
第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度
	定期試験	70%	最終的な理解度
	その他 自由記載		

【受講の心得】

事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確実なものとする。

【授業外学修】

(1)予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。

(2)復習として、授業で作成したノートを整理する。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆衛生がみえる2018-2019	医療情報科学研究所	メディックメディア	3888	4896326873
自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	図説 国民衛生の動向 2018/2019	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	1650	4875117779
自由記載					

授業科目名 **社会福祉論**

サブタイトル

授業番号 HW201

担当教員名 松井 圭三

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講では、福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。具体的には、「社会福祉の概念」、「社会福祉の沿革」、「年金」、「医療」、「介護」、「子育て」、「障害者福祉」、「高齢者福祉」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得します。また、現代生活に必要な社会福祉の基本的知識を広く修得します。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士のうち、〈知識・理解〉に修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：現代社会と社会福祉

第2回：社会福祉とは

第3回：社会福祉の歴史（イギリス）I

第4回：社会福祉の歴史（イギリス）II

第5回：わが国の社会福祉の歴史I

第6回：わが国の社会福祉の歴史II

第7回：公的扶助

第8回：児童福祉I

第9回：児童福祉II

第10回：障害者福祉I

第11回：障害者福祉II

第12回：高齢者福祉I

第13回：高齢者福祉II

第14回：社会福祉のこれから

第15回：全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		レポートの提出期限を遵守する。

【受講の心得】

本講座は講義形式とグループ討議で授業を展開します。

- ・予習と授業の積極的参加を期待します。
- ・他教科と連動して考える力、専門的知識が求められます。
- ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる章節を読み、疑問点を明らかにする。
- ・復習として、課題のレポートを書く
- ・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本授業では、時間外学習時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学習が必要となる。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	社会福祉記事ワークブック	松井圭三ほか	大学教育 出版	2000円	978-4- 86429- 365-5
	21世紀の社会福祉政策論文集	松井圭三	ふくろう 出版	2300	978-4- 86186- 381-3
	自由記載				
参考書	自由記載	随時紹介します。			

授業科目名	食と健康		サブタイトル		授業番号	HF203
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>健康を保つのに必要な要素はいくつかあるが、その大事な一つは「食」である。この教科では、われわれヒトを含む動物が生きていくために必ず必要とする、食品に含まれる物質である「栄養素」を学ぶことにより、「食」と健康の関わりについて理解する。あわせて、栄養素以外の物質（非栄養素）にも健康に貢献する効果（食品機能）があるため、そのような物質についても学ぶ。</p> <p>なお、本教科はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目である。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている ・食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている ・食の安全に関わる事項のうち、食品の表示、食品添加物、食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：栄養とは 第2回：タンパク質(1) 第3回：タンパク質(2) 第4回：脂質(1) 第5回：脂質(2) 第6回：炭水化物(1) 第7回：炭水化物(2) 第8回：ミネラル 第9回：ビタミン 第10回：食品表示制度(1) 第11回：食品表示制度(2) 第12回：食品表示制度(3) 第13回：食品添加物 第14回：食物アレルギー(1) 第15回：食物アレルギー(2)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができているか、併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。			
	小テスト	21%	予習範囲の確認テストが14%、前回の範囲の復習テストが7%で、それぞれを個別に行い、それぞれの知識の定着度・理解度を評価する。			
	定期試験	65%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多いので、すぐに調べておくくせをつけること。

【授業外学修】

1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること
 2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること
 3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	わかりやすい栄養学 改定5版	吉田 勉 編	三共出版	2,484円 (税込)	978-4-7827-0744-9
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **食品学**

サブタイトル

授業番号 HF202

担当教員名 小築 康弘

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

ヒトが食用にする品物の総称を食品というが、実際にどのようなものがあり、どのようなものを含み、どのような性質があるのだろうか。そこで、本教科では食材に関する知識、食材に含まれる食品成分についての知識を得ることを目的とする。

なお、本教科はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目である。

【到達目標】

- ・食材についての基礎的な知識を有している
- ・食品成分についての基礎的な知識を有している

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食品とは／食品成分：水分

第2回：食品成分：タンパク質(1)／食材：肉(1)

第3回：食品成分：タンパク質(2)／食材：肉(2)

第4回：食品成分：タンパク質(3)／食材：肉(3)

第5回：食品成分：炭水化物(1)／食材：肉(4)

第6回：食品成分：炭水化物(2)／食材：魚(1)

第7回：食品成分：炭水化物(3)／食材：魚(2)

第8回：食品成分：脂質(1)／食材：魚(3)

第9回：食品成分：脂質(2)／食材：野菜・きのこ・海藻(1)

第10回：食品成分：脂質(3)／食材：野菜・きのこ・海藻(2)

第11回：食品成分：ビタミン(1)／食材：野菜・きのこ・海藻(3)

第12回：食品成分：ビタミン(2)，ミネラル(1)／食材：乳・乳製品・卵

第13回：食品成分：ミネラル(2)／食材：穀類，酒・ドリンク類

第14回：食品成分間反応(1)／調味料・香辛料

第15回：食品成分間反応(2)／加工食品

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度		
評価の方法	レポート	14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができていないかを評価する。
	小テスト	21%	予習範囲の確認テストが14%、前回の範囲の復習テストが7%で、それぞれを個別に行い、それぞれの知識の定着度・理解度を評価する。
	定期試験	65%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくくせをつけること。

【授業外学修】

1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること
 2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること
 3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること
- 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	栄養科学シリーズNEXT 食品学総論 食べ物と健康 第3版	辻英明・海老原清・渡邊浩幸 編	講談社	2,600円 (税別)	978-4-06-155386-6
	フードコーディネーター教本2019	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3,240円 (税込)	978-4-388-15441-8
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	食空間と調理		サブタイトル		授業番号	HF204
担当教員名	加賀田 江里 石田 有美枝					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
食空間における厨房とその計画, 内装デザインに加えテーブルマナーなどについて講義を行い, それらに関する基本的な知識の修得を目的とする。 本科目はフードコーディネーター3級養成科目の一つである。						
【到達目標】						
厨房計画や内装デザイン, テーブルマナーの基礎知識について学び, 理解することができる。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回: 厨房の基礎知識・概説 ※ (担当 加賀田 江里)						
第2回: 厨房計画とメニュー1 ※ (担当 加賀田 江里)						
第3回: 厨房計画とメニュー2 ※ (担当 加賀田 江里)						
第4回: キッチンスタイルの基本 ※ (担当 加賀田 江里)						
第5回: 厨房計画の進め方 ※ (担当 加賀田 江里)						
第6回: 食空間のあり方 ※ (担当 加賀田 江里)						
第7回: 食空間と内装デザイン計画の基礎1 ※ (担当 石田 有美枝)						
第8回: 食空間と内装デザイン計画の基礎2 ※ (担当 石田 有美枝)						
第9回: 食空間と内装デザイン計画の基礎3 ※ (担当 石田 有美枝)						
第10回: 食空間と内装デザイン計画の基礎4 ※ (担当 石田 有美枝)						
第11回: 食空間と内装デザイン計画の基礎5 ※ (担当 石田 有美枝)						
第12回: テーブルマナーとサービス1 ※ (担当 加賀田 江里)						
第13回: テーブルマナーとサービス2 ※ (担当 加賀田 江里)						
第14回: テーブルマナーとサービス3 ※ (担当 加賀田 江里)						
第15回: テーブルマナーとサービス4 ※ (担当 加賀田 江里)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
【授業外学修】						
毎回授業の初めに, 前回の授業の内容に関する小テストを行うので1週間に4時間以上の復習をしておくこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	フードコーディネーター教本2019:3級資格認定試験対応テキスト	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会		3240円	978-4388154418	
	自由記載					

参考書

自由記載

授業科目名 **基礎調理演習**

サブタイトル

授業番号 HF101

担当教員名 加賀田 江里

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

食材の切り方や調理法・衛生管理など、調理の基礎となる事柄を学ぶ。基礎を学んだ上で簡単な献立を自ら計画・実践することで調理をする上での初歩的な調理操作を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：調理室の使い方，調理器具の使い方，基本操作について

第2回：調理の基本操作 1

第3回：調理の基本操作 2

第4回：調理の基本操作 3

第5回：調理の基本操作 4

第6回：調理の基本操作 5

第7回：調理の計画 1

第8回：調理の実践 1

第9回：調理の基本操作 6

第10回：調理の基本操作 7

第11回：調理の基本操作 8

第12回：調理の基本操作 9

第13回：調理の基本操作 10

第14回：調理の計画 2

第15回：調理の実践 2

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート	20%	自ら考えたメニューのレシピを作成しまとめ，提出すること。
	小テスト	30%	主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリ類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。

【授業外学修】

1. 授業で出てきたポイントを復習すること
 2. 日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと
- 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **応用調理演習**

サブタイトル

授業番号 HF304

担当教員名 加賀田 江里

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

2年前期まで行ってきた通常の調理方法に加え、電子レンジ、炊飯器などの調理家電を用いて調理実習を行う。

【到達目標】

多くの人は食材を調理・加工し、生きる上で必要なエネルギーおよび栄養素を得る。しかし大学卒業後、社会人として働き、生活していく中で調理のために使える時間は限られていくことが予想される。そこで通常の調理に加えて、様々な調理家電を用いることで調理の時間短縮につなげ、限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：調理器具による熱の伝わりかたの違いについて

第2回：時短調理 1

第3回：時短調理 2

第4回：時短調理 3

第5回：時短調理 4

第6回：時短調理 5

第7回：時短調理 7

第8回：時短調理 8

第9回：時短調理 9

第10回：時短調理 1 0

第11回：時短調理 1 1

第12回：献立計画

第13回：献立の実践 1

第14回：献立計画 2

第15回：献立の実践 2

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート	50%	自ら考えたメニューのレシピを作成し、まとめて提出する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。

【授業外学修】

1. 授業で出てきたポイントを復習すること
 2. 日頃から食に関する情報に興味関心をもち、自ら情報収集を行うこと
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	

授業科目名	調理実習I		サブタイトル		授業番号	HF205
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
調理の基本となる材料や料理に応じた切り方や調理法，衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。15回の実習を通して，繰り返し学習することで基本的な調理操作を身に付けることを目的とする。						
【到達目標】						
調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士カの内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 調理の基本1 実習に関するガイダンス（使用上の注意，身支度等）調理器具の説明，計量						
第2回 調理の基本2						
第3回 調理の基本3						
第4回 調理の基本4						
第5・6回 焼き物の調理						
第7・8回 炒め物の調理						
第9・10回 揚げ物の調理						
第11回 蒸し物の調理						
第12・13回 複数の調理法を組み合わせた料理						
第14・15回 小麦粉を使ったお菓子						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	調理に関する基礎的な知識を評価する。			
	定期試験	30%	実習に出てきた料理の中で基本となるものの実技試験を行う。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	調理学実習	大羽和子 他共著	ナカニシヤ出版	2,916円	978-4888481397	
自由記載						
参考書	自由記載	『調理と理論』，山崎清子 他共著，同文書院 『新ビジュアル食品成分表 増補版』，新しい食生活を考える会 編，大修館書店				
【その他】						
材料入手の都合により，実習内容の変更や実習時期の変更をすることがあります。						

授業科目名	調理実習II		サブタイトル		授業番号	HF206
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 調理器具や食材料の知識を身に付けると共に調理の基礎的な技術を習得することを目的として調理実習を行う。 授業効果を高めるために、1年後期開講の食生活実習を履修しておくことが望ましい。						
【到達目標】 健康的な食生活を送るための調理技術を習得し、レシピを見て理解し、自分自身で作ることができるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得の貢献する。						
【授業計画】						
第1回：実習の心得 班編成 調理の基礎（計量，調味など） 第2回：基礎調理：和食 1 第3回：基礎調理：和食 2 第4回：基礎調理：洋食 1 第5回：基礎調理：和食 3 第6回：基礎調理：和食 4 第7回：基礎調理：洋食 2 第8回：基礎調理：中華 1 第9回：基礎調理：和食 5 第10回：基礎調理：中華 2 第11回：基礎調理：洋食 3 第12回：基礎調理：洋食 4 第13回：基礎調理：和食 6 第14回：基礎調理：和食 7 第15回：基礎調理：製菓						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他	30%	実技テスト：実習で実施した内容の中で実技試験を行う。			
自由記載						
【受講の心得】 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリ類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	フードコーディネーター教本2019:3級資格認定試験対応テキスト	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3, 240	978-4388154418	

調理学実習

大羽和子 他共著 ナカニシ
ヤ出版 2, 916 978-
4888481397

自由記載

参考書

自由記載 『新ビジュアル食品成分表 増補版』, 新しい食生活を考える会 編 大修館書店

【その他】

材料入手の都合により, 実習内容の変更や実習時期の変更あり。

授業科目名 **調理実習Ⅲ**

サブタイトル

授業番号 HF301

担当教員名 加賀田 江里 小川 美香 山田 伸介 岡 久

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

特別講師による和・洋・中の調理実習を通して、それぞれの食文化やテーブルマナーについてさらに発展的な内容を学ぶ。

本科目はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目の一つである。

なお、授業効果を高めるために、1年後期開講の食生活実習および2年前期開講のフードクリエイティブ実習を履修しておくことが望ましい。

【到達目標】

料理をより美しく、そして美味しく作るための発展的な技法を身に付ける。

和食、中華、西洋、世界の料理の食の文化について理解を深める。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：実習の概要説明，調理の基礎について	※（担当 加賀田 江里）
第2回：和食の調理	※（担当 小川 美香）
第3回：和食の調理と食の文化	※（担当 小川 美香）
第4回：和食の調理とテーブルコーディネート	※（担当 小川 美香）
第5回：和食とテーブルマナー	※（担当 小川 美香）
第6回：中華料理の調理	※（担当 山田 伸介）
第7回：中華料理の基本と食の文化	※（担当 山田 伸介）
第8回：中華料理の実習とテーブルコーディネート	※（担当 山田 伸介）
第9回：中華料理の実習とテーブルマナー	※（担当 山田 伸介）
第10回：西洋料理の基本と食の文化	※（担当 岡 久）
第11回：西洋料理の実習とテーブルコーディネート	※（担当 岡 久）
第12回：西洋料理の実習とテーブルマナー	※（担当 岡 久）
第13回：イタリア料理の実習と各国料理の歴史	※（担当 岡 久）
第14回：世界の料理	※（担当 加賀田 江里）
第15回：製菓	※（担当 加賀田 江里）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート	50%	調理のポイントについてまとめ、なぜそれがポイントとなるのか具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。

使用テキスト	自由記載	プリント（各講師作成）
参考書	自由記載	『フードコーディネーター教本2019:3級資格認定試験対応テキスト』，日本フードコーディネーター協会 編，柴田書店
<p>【その他】 食材の入荷状況等によって実習内容が変更になる場合あり。</p>		

授業科目名	フードコーディネーター実習		サブタイトル		授業番号	HF302
担当教員名	小築 康弘 原のり子 石田 有美枝					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
<p>本授業では、今日的なライフスタイルに合わせた、人々の食を豊かにするための食のコーディネート技法について学修する。具体的には、テーブルコーディネートを中心に据え、テーブルマナー及び食品素材について、実習により体得することを目的とする。</p> <p>本科目は、フードコーディネーター資格3級のための必要な科目の1つである。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルコーディネートの技法を知り、実践できる ・テーブルマナーの基礎を身につけるとともに、和食のマナーを実践できる ・食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：授業のねらい・到達目標の説明／食品と衛生～手洗い～ ※（担当 小築康弘）</p> <p>第2回：食材の実体験(1)：品種と味・食感 ※（担当 小築康弘）</p> <p>第3回：食材の実体験(2)：品種と甘さ ※（担当 小築康弘）</p> <p>第4回：食材の実体験(3)：食材の科学的变化～酵素的褐変反応～ ※（担当 小築康弘）</p> <p>第5回：洋食・和食のマナーの基礎 ※（担当 小築康弘）</p> <p>第6回：和食のマナーの実践 ※（担当 小築康弘）</p> <p>第7回：テーブルコーディネート：基礎編(1) ※（担当 石田有美枝）</p> <p>第8回：テーブルコーディネート：基礎編(2) ※（担当 石田有美枝）</p> <p>第9回：食空間の構成(1) ※（担当 石田有美枝）</p> <p>第10回：食空間の構成(2) ※（担当 石田有美枝）</p> <p>第11回：食空間の構成(3) ※（担当 石田有美枝）</p> <p>第12回：テーブルコーディネート：応用編(1) ※（担当 原のり子）</p> <p>第13回：テーブルコーディネート：応用編(2) ※（担当 原のり子）</p> <p>第14回：テーブルコーディネート：応用編(3) ※（担当 原のり子）</p> <p>第15回：まとめ ※（担当 小築康弘）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	実習中の取り組む姿勢を評価する。			
	レポート	60%	各回の内容についての理解度を判定する。その際、それぞれの内容に対する自身の考えを述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。

【授業外学修】

1. 次回の内容について予習をし、スムーズに実習に移れるようにしておくこと
2. レポートの作成をすること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	フードコーディネーター教本2019	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3,240円 (税込)	978-4-388-15441-8

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **食品加工学・実習**

サブタイトル

授業番号 HF303

担当教員名 小築 康弘 太郎良 恭子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態

【授業の概要】

われわれは日常の食生活において様々な加工食品を利用している。本授業では、身近で代表的な加工食品の加工原理を学ぶとともに、それらを試作し、基礎的加工技術を修得する。実習を通じて、加工食品の安全性や利便性についての理解を深め、適正な選択や利用について考える。

なお、授業効果を高めるために、この授業は講義と実習を併用することにより行う。

【到達目標】

- ・食品加工の原理のいくつかを理解し、それら原理を利用した加工食品を製造できる
- ・基礎的加工技術を身につけている

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食品加工学とは	※ (担当 小築康弘)
第2回：酸乳飲料・ヨーグルトの製造	※ (担当 太郎良恭子)
第3回：穀類・イモ類の加工食品	※ (担当 太郎良恭子)
第4回：米粉パンの製造	※ (担当 太郎良恭子)
第5回：卵・乳加工食品	※ (担当 太郎良恭子)
第6回：マヨネーズの製造	※ (担当 太郎良恭子)
第7回：食品表示について	※ (担当 太郎良恭子)
第8回：うどん・こんにゃくの製造	※ (担当 太郎良恭子)
第9回：果実類の加工品	※ (担当 太郎良恭子)
第10回：手洗いと衛生	※ (担当 小築康弘)
第11回：食品と衛生	※ (担当 小築康弘)
第12回：シラップ漬の製造	※ (担当 太郎良恭子)
第13回：畜産加工品	※ (担当 太郎良恭子)
第14回：ジャムの製造	※ (担当 太郎良恭子)
第15回：まとめ	※ (担当 小築康弘)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	45%	授業への取り組む姿勢を評価する。
	レポート	55%	各回の内容についての理解度を判定する。また、実習については自身が作成した製品の商品的価値についても述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、衛生面・安全面に十分配慮し、計画的に行うこと。

【授業外学修】

1. 次回の内容について予習をし、スムーズに講義・実習に移れるようにしておくこと
2. レポートの作成をすること

以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	レクチャー 食品加工学	黒川守浩 編著	建帛社	2,160円 (税込)	978-4-7679-0240-1
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	フードマーケティング論	サブタイトル		授業番号	HF207
担当教員名	佐々木 公之				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】 本講義前半では、われわれの日常生活に関わる商品・サービスがいかなるマーケティング活動によって市場に存在しているのかを理解する。後半では、習得したマーケティング理論を活用し、特定の地域を想定した出店から開店、メニュー構築までの作業をシミュレーションする。</p>					
<p>【到達目標】 ・本講義の目標は、マーケティングに関する基礎的な知識を習得することと、習得した知識を活用して外食産業（飲食店）における出店業務を構築する応用力を獲得することである。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回：現代フードサービス産業の歴史：教科書による内容説明
教科書の事前・事後チェック
- 第2回：経営の基礎知識I：フード業界と経営戦略
教科書の事前・事後チェック
- 第3回：経営の基礎知識II：フード業界とマーケティング ※（担当外部講師）
教科書の事前・事後チェック
- 第4回：業態開発I：フード店舗の開業について学ぶ
教科書の事前・事後チェック
- 第5回：事業計画書 開店業務について企画立案
調査の企画立案
- 第6回：メニュープランニングI：メニュープランの流れ ※（担当外部講師）
教科書の事前・事後チェック
- 第7回：メニュープランニングII：メニュープランニングシートと事例
教科書の事前・事後チェック
- 第8回：メニュープランニング制作演習I ※（担当外部講師）
調査の企画立案・発表準備
- 第9回：メニュープランニング制作演習II
調査の企画立案・発表準備
- 第10回：メニュープランニング制作演習III
調査の企画立案・発表準備
- 第11回：食の企画・構成・演出の流れ 事例紹介 ※（担当外部講師）
教科書の事前・事後チェック
- 第12回：食の企画立案のコツと企画書制作での注意点
教科書の事前・事後チェック
- 第13回：事業計画書作成II 店舗の販売促進について企画立案
調査の企画立案・発表準備
- 第14回：事業計画書作成III 店舗の販促方法を企画立案し発表準備を行う
調査の企画立案・発表準備
- 第15回：事業計画書発表 事業計画の発表
発表でのふりかえり実施：フードマーケティングと事業計画の重要性について学ぶ
教科書の事前・事後チェック

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	30%	レポート内容で評価する。
	小テスト		
	定期試験	20%	フードマーケティングの理解度にて評価する。
	その他	20%	グループワークでの内容・参加への意欲貢献にて評価する
	自由記載		

【受講の心得】

自ら学び、学んだことを元に現実の課題に向き合う姿勢をもつこと。
特に第9回以降は時間外の復習が効果的である。

【授業外学修】

- 1 授業毎に紹介する教科書，参考文献を次回授業までに読んでおくこと。
- 2 復習として，グループワーク，課題，外部講師の授業内容をレポートとして書く。
- 3 発展学修として，授業で紹介された記事などを読む。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	フードコーディネーター教本 2018	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3,000+税	978-4388153374
	自由記載 適時資料を配付する。				
参考書	自由記載				

授業科目名	ヒューマンケア A		サブタイトル		授業番号	HW202
担当教員名	梶木 順子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解する。他職種との連携のもと、介護を展開していかなければならないことを理解する。						
【到達目標】						
介護の専門性と職業倫理及び多職・サービスについて理解し、説明することができる。 他職種との連携の重要性について学び、介護職としてサービスを提供できる専門性の範囲について理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げる学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：多様なサービスの理解（介護と介護保険制度の意義） ※（担当） 第2回：多様なサービスの理解（その他のサービス） ※（担当） 第3回：介護職の仕事内容や働く現場の理解（介護職のキャリアパス） ※（担当） 第4回：介護職の仕事内容や働く現場の理解（各施設の特徴の理解） ※（担当） 第5回：人権と尊厳を支える介護 （個人の権利を守る制度、介護分野のICF） ※（担当） 第6回：人権と尊厳を支える介護 （生活の質と人間尊重、ノーマライゼーション） ※（担当） 第7回：人権と尊厳を支える介護（虐待予防・身体拘束禁止） ※（担当） 第8回：自立に向けた介護（介護職として求められる自立と自律） ※（担当） 第9回：自立に向けた介護（自立支援のための介護方法） ※（担当） 第10回：自立に向けた介護（介護予防） ※（担当） 第11回：介護職の役割、専門性と多職種との連携 （介護の専門性と多職種の理解） ※（担当） 第12回：介護職の職業倫理（法令遵守、倫理綱領） ※（担当） 第13回：介護における安全の確保の重要性と、リスクマネジメント （緊急時の対応、応急処置、感染症対策） ※（担当） 第14回：介護職の安全（心身の健康管理、ストレスマネジメント） ※（担当） 第15回：まとめ（特に職業倫理・介護の専門性への理解） ※（担当）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					

レポート

小テスト

定期試験 100% 第1回～15回の講義内容の理解度を、ペーパー試験で評価する。

その他

自由記載 なお、本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。
本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。

【受講の心得】

各回学んだ介護職員の職業倫理とチームワーク（他職種との連携）を常に意識し、授業に望むことを求める。
また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。

【授業外学修】

- 1 予習として教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。
- 2 発展学修として授業で紹介した参考文献を次回授業までに読む。
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2019年度版介護職員初任者研修テキスト		公益財団 法人介護 労働安定 センター	6000円+ 税	978-4- 907035- 37-2

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	ヒューマンケアB		サブタイトル		授業番号	HW203
担当教員名	大西 成美					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 介護保険制度や、障がい者に関する制度を担う一員として、最低知っておくべき制度の内容、目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について学ぶ。 また介護が必要な人たちの生活（家事、住環境、終末期医療）についても理解する。						
【到達目標】 介護保険制度・障がい者総合支援制度とその他の制度を理解し・介護が必要な人につなげることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げる学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：介護保険制度（創設の背景・しくみなどの基礎的理解） ※（担当） 第2回：介護保険制度（財源・組織・役割、医療保険との関わり） ※（担当） 第3回：医療との連携とリハビリテーション（高齢者の服薬や医療行為） ※（担当） 第4回：医療との連携とリハビリテーション（訪問・通所・地域リハビリテーション） ※（担当） 第5回：障がい者に関する制度及びその他の制度（制度創設の理念・背景と目的） ※（担当） 第6回：障がい者に関する制度及びその他の制度（しくみなどの基礎的理解と個人の権利を守る概要） ※（担当） 第7回：生活と家事（家事援助の基礎知識と生活支援技術） ※（担当） 第8回：生活と家事（家事援助の技法） ※（担当） 第9回：快適な居住環境整備と介護（介護保険による住宅改修） ※（担当） 第10回：快適な居住環境整備と介護（福祉用具の知識） ※（担当） 第11回：死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期医療 ※（担当） 第12回：死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期医療 ※（担当） （終末期の基礎知識・こころの理解） 第13回：ふり返り（第4分冊における振りかえりの課題） ※（担当） 第14回：ふり返り（OJT・Off-JTの実際） ※（担当） 第15回：就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ※（担当） （キャリアにつながるOJT）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの
姿勢／態度

レポート	30%	制度や介護が必要な人の気持ちが理解でき、述べていること。提出物は、コメントを記入して返却する。
小テスト	40%	知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他	30%	授業中整理した資料等の提出物を評価する。提出物は、コメントを記入して返却する。

なお、本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目で全出席を原則とする。
自由記載 本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。

【受講の心得】

介護が必要な人の生活について理解し、学修したことを生活の中で活かすことを求める。
また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。

【授業外学修】

- 1 予習として教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。
- 2 授業で身につけた知識について復習し、介護が必要な人の気持ちについて振り返る。
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2019年度版介護職員初任者研修テキスト		公益財団 法人介護 労働安定 センター	6000円+ 税	978-4- 907035- 37-2

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	ヒューマンケアC		サブタイトル		授業番号	HW204
担当教員名	梶木 順子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なる。その違いを理解する。 また、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解し、その心理的特徴についても学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>老化・認知症・障がいについて説明することができる。 家族の気持ちについて理解し、普段の生活に生かせることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：介護におけるコミュニケーション (コミュニケーションの意義、目的、役割、 ※ (担当) 手段と技法)</p> <p>第2回：介護におけるコミュニケーション ※ (担当) (利用者・家族への対応の基礎知識)</p> <p>第3回：介護におけるチームのコミュニケーション ※ (担当) (記録による情報の共有化)</p> <p>第4回：介護におけるチームのコミュニケーション ※ (担当) (報告・連絡・相談)</p> <p>第5回：老化に伴うこころとからだの変化と日常 ※ (担当) (老年期の発達と心身の変化の特徴)</p> <p>第6回：老化に伴うこころとからだの変化と日常 ※ (担当) (心身の機能の変化と日常生活への影響)</p> <p>第7回：高齢者と健康 (高齢者の疾病と生活上の留意点-外科系-) ※ (担当)</p> <p>第8回：高齢者と健康 (高齢者に多い病気と生活上の留意点-内科系-) ※ (担当)</p> <p>第9回：認知症を取り巻く状況 (認知症ケアの理念) ※ (担当)</p> <p>第10回：医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 (認知症の概念と原因疾患・病態、ケアのポイント) ※ (担当)</p> <p>第11回：認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (生活障害、心理、行動の特徴、利用者への ※ (担当) 対応)</p> <p>第12回：家族への支援 (家族との関わり方) ※ (担当)</p> <p>第13回：障がいの基礎的理解 (障害の概念とICF) ※ (担当)</p> <p>第14回：障がいの医学的側面の基礎的知識 ※ (担当)</p> <p>第15回：家族の心理的理解、かかわり支援の理解 ※ (担当)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					

レポート	40%	身につけた知識を、実生活に生かす意欲について述べられていること。提出物は、コメントを記入して返却する。
小テスト	60%	老化・認知症・障がいについての知識の理解度（3回の小テストにより）を評価する。

定期試験

その他

自由記載
 なお、本科目は、「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。
 資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。

【受講の心得】

高齢者や認知症、障がいがある人に関心をもち、授業で得た知識を普段の生活の中で生かすことを求める。
 また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。

【授業外学修】

- 1 授業で身につけた知識・技能について復習し普段の生活に生かせるようにすること。
 - 2 課されたレポートの作成をすること。
- 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2019年度版介護職員初任者研修テキスト		公益財団法人介護労働安定センター	6000円+税	978-4-907035-37-2

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	ヒューマンケア演習I		サブタイトル		授業番号	HW301
担当教員名	冲中 純子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 介護実践に必要なところとからだのしくみの基本的な知識を、介護の流れをイメージしながら修得する。 また、介護を必要とする人にとって、生活の充足を味わうためにはどのような介護技術が必要なのかを事例をとおして理解する。						
【到達目標】 介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する知識を修得し、安全な介護サービスが提供できるように準備することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回～7回 (1)介護の基本的な考え (2)介護に関するところのしくみの基礎的理解 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動と阻害要因 (3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ・健康チェックとバイタルサイン ・骨、関節、筋肉に関する基礎知識 ・中枢神経と内部器官に関する基礎知識 第8回～15回 (4)介護過程の基本的理解 ・科学的思考 ・介護過程の展開に必要な構成要素 (5)総合生活支援技術演習 ・事例による展開						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な発言・筆記・質問を評価する。			
	レポート	40%	ところとからだの仕組みについて身に付けた基本的知識・技術・考え方を、実生活に生かす意欲や方法について述べていること。レポートについては、コメントを記入して返却する。			
	小テスト	30%	基本的知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。			
	定期試験					
	その他					

自由記載
なお、本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため、全出席を原則とする。
本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。

【受講の心得】

こころとからだを健康に保ち、気持よく本授業にのぞめるよう、服装や環境整備に留意することを求む。
また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。

【授業外学修】

- 1 予習として教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。
- 2 授業で身につけた知識・技術について復習し、介護が必要な人のことを考える。
- 3 発展学修として授業で学んだことを実生活で生かす。
以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2019年度版介護職員初任者研修テキスト	財団公益 法人介護 労働安定 センター	6000円+ 税	978-4- 907035- 37-2

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	ヒューマンケア演習II	サブタイトル		授業番号	HW302
担当教員名	冲中 純子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>介護が必要な人たちの尊厳を保持し，自立及び自律を尊重し，持っている力を発揮できるようなところとからだのしくみを理解した上で，生活を支える具体的な介護技術を学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>介護に必要な，基本的な技術と知識の修得ができる。 なお本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回：整容に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第2回：整容に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第3回：整容に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第4回：整容に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第5回：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第6回：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第7回：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第8回：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第9回：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第10回：移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第11回：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第12回：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第13回：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第14回：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第15回：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第16回：食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第17回：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第18回：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第19回：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第20回：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第21回：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第22回：入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第23回：排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第24回：排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)
- 第25回：排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ※ (担当)

- 第26回：排泄に関連したところとからだのしくみと自立
に向けた介護 ※ (担当)
- 第27回：排泄に関連したところとからだのしくみと自立
に向けた介護 ※ (担当)
- 第28回：排泄に関連したところとからだのしくみと自立
に向けた介護 ※ (担当)
- 第29回：睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に
向けた介護 ※ (担当)
- 第30回：睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に
向けた介護 ※ (担当)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	100%	各回の授業で行う介護技術の修得度を、実技発表の形で毎回確認し 評価する。
自由記載	<p>なお、本科目は、「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。</p> <p>本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。</p>		

【受講の心得】

ところとからだを健康に保ち、気持ちよく本授業に臨めるよう、服装や環境整備に留意することを求める。
また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。
- 2 授業で身につけた知識・技術について復習し、介護が必要な人のことを考える。
- 3 発展学修として、授業で学んだ技術は練習する。
以上の内容を、週あたり2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2019年度版介護職員初任者研修テキスト		公益財団 法人介護 労働安定 センター	6000円+ 税	978-4- 907035- 37-2
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **生活とデザイン**

サブタイトル

授業番号 HD102

担当教員名 藤田 悟

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現代社会の中で見られるインテリア、プロダクト、グラフィック、ファッション、建築、エディトリアル、医療福祉などのさまざまなデザインの事例を通じて、デザインの概念、分類、プロセスからそれぞれのデザインが私たちの生活にとり入れられてデザインと共に生きていることを分かりやすくスライドや動画を多用して、デザインが人の暮らしに与える影響について学ぶ。

【到達目標】

デザインに関する基礎的な知識を習得しその方法論を活用するための素養を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：社会の中でのデザインの役割

第2回：デザインの分類と基本

第3回：エディトリアルデザイン

第4回：グラフィックデザイン

第5回：ショップデザイン

第6回：インテリアデザイン

第7回：メイクアップデザイン

第8回：テキスタイルデザイン

第9回：プロダクトデザイン

第10回：ファッションデザイン

第11回：医療福祉デザイン

第12回：店舗デザイン

第13回：建築デザイン

第14回：ネイルデザイン

第15回：3Dプリンターの使い方、応用事例と全体のまとめ（小テスト実施）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予習、復習の状況によって評価する
	レポート		
	小テスト	40%	最終的理解度を評価する
	定期試験		
	その他	30%	各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する
	自由記載		

【受講の心得】

デザインに関する基本的な知識を学ぶために身のまわりのあらゆるデザインについてよく観察しておくこと。

【授業外学修】

1. 講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容のデザインについて調べることやリサーチを行ったりして事前学修を毎回行うこと（2時間以上）
2. 事後学修として、講義時に配布された「レジュメ」を読み講義で学んだ内容を整理し理解するために復習を毎回行うこと（2時間以上）

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **色彩学**

サブタイトル

授業番号 HD101

担当教員名 藤田 悟

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

わたしたちの目に見える世界は色彩に満ちている。色には、心地よさ、イメージ、アピール、区別、見やすさ、統一感、象徴や生活を豊かにする働きもある。色の持つさまざまな特性を知り、色を効果的に用いることで、プレゼンテーションの書類の見やすさはもちろんのこと、生活の中でのおもしろさや快適さなどを演出することもできる。本講義では、「新配色カード199a」を使用して、色彩調和の形式から、配色技法、色彩表現のトレーニングまで、テキストの演習用ワークシートによる作業を行いながら色彩心理に至るまで、色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

- 1.生活の中での色彩感覚を高めることができる。
 - 2.色彩に関する基礎的な知識を修得しその方法を活用できる。
 - 3.色彩検定協会（AFT）が主催する色彩検定3級の内容に準拠しており資格取得に向けた目標を持つことができる。
- なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：「光と色」およびPCCS（日本色研配色体系）について
- 第2回：色の分類と三属性および色相・トーンについて
- 第3回：色彩調和（配色の基本的な考え方）
- 第4回：配色の基本的な技法1（色相を基準にした配色）
- 第5回：配色の基本的な技法2（明度を基準にした配色）
- 第6回：配色の基本的な技法3（彩度を基準にした配色）
- 第7回：配色技法1（ベースカラー・アソートカラー・アクセントカラー）
- 第8回：配色技法2（セパレーション効果・ドミナントカラー・グラデーション・レピテーション効果）
- 第9回：配色技法3（トーンイントーン配色・トーンオントーン配色・トータル配色）
- 第10回：配色技法4（カマイユ・フォカマイユ配色・トリコロール配色・ビコロール配色）
- 第11回：色彩心理1（色の心理的効果）
- 第12回：色彩心理2（色の視覚効果，知識的効果）
- 第13回：カラーイメージによる色彩構成と言葉による色表示
- 第14回：医療関係，ファッション，住居，フードにおける色彩効果
- 第15回：まとめと小テスト

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する
	レポート		
	小テスト	20%	最終的理解度を評価する
	定期試験		
	その他 自由記載	50%	演習用ワークシートテキストの提出によって理解度を評価する

【受講の心得】

積極的にAFT主催の色彩検定3級にチャレンジする。受験者は「AFT色彩検定公式テキスト3級編」（AFT対策テキスト改訂版編集委員会）や問題集を別途購入すること

【授業外学修】

1. 事前学修は、日常生活の中で目にする様々な色彩について関心を持ちテキストを一読し分からない用語等は調べて毎回、予習しておくこと（2時間以上）

2. 事後学修は、毎回、テキストでのワークシートや講義で行った演習などの色彩理論や課題などを振り返り理解して覚える。また、講義時間内に指定された箇所までのワークシートが仕上がらない場合は、次回講義時までに指定された箇所まで完成させておくこと。（2時間以上）

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『配色入門』		日本色研 事業	1600+税	4-901355- 16-3
	『新配色カード199a』		日本色研 事業	780+税	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **生活デザイン実習 A** サブタイトル

授業番号 HD201

担当教員名 藤田 悟

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

「自分のオリジナルなデザインを現実のものとする」それはモノを創り表現する喜びであり、その喜びがあってこそ、デザインとして人に伝わるものになる。

転写プリント、ステンシル、Tシャツカッティングリメイク、シルクスクリーンの技法を通じて、オリジナルTシャツを作成する。

イメージを形として成立させるデザインの力を養成することと計画的な制作力の向上を目指す。

【到達目標】

発想から完成までのプロセスをとおしてものづくりの技法や手順を身につけ形による表現の可能性を修得する。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ステンシルの基礎知識および原理の理解

第2回：デザイン，スケッチ

第3回：コンピューターを使ったデザインの説明

第4回：原稿仕上げ，カッティング

第5回：ステンシル版を完成後，ステンシル捺染

第6回：転写プリント版下をコンピューターで作成

第7回：転写プリント仕上げ

第8回：Tシャツカッティングリメイク

第9回：シルクスクリーンの基礎知識および原理の理解

第10回：デザイン，スケッチ

第11回：コンピューターを使ったデザイン

第12回：原稿制作

第13回：フィルム写真製版

第14回：仕上げ

第15回：品評会と作品発表

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	積極的に実習に臨み各技法を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	・制作物（40%）制作物については、創造性（制作過程における独自の工夫、発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

普段から街中にあるポスターやロゴマークなどの平面作品のあらゆるデザインについて興味を示すこと

【授業外学修】

課題に沿った技法などを配布した資料を一読して事前学修として知識を深めておくこと

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **生活デザイン実習B** サブタイトル

授業番号 HD202

担当教員名 藤田 悟

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

ディスプレイは販売促進には必要不可欠なテクニックで主にショップディスプレイを中心に演出する。ディスプレイ（商品の演出表現）はショップの顔であり、消費者にショップイメージを伝えるための重要な要素である。商品を効果的にビジュアル表現するための考え方やテクニックなどについて解説しオブジェ作品の制作とステージでの表現技法について学修する。

【到達目標】

- 1.空間構成をマスターし生活空間およびショップ運営にディスプレイを活用することができる。
- 2.テーマにあった演出ができるように知識と技術力を身につける。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

- 第1回 ディ스플레이の概要説明（実際のショップにおけるディスプレイを写真で紹介し仕組みを学ぶ）
- 第2回 VMDの概要説明（VMDの目的や手法、専門用語について）
- 第3回 ディ스플레이のカラーイメージについて（カラー構成によるイメージマップを作成する）
- 第4回 商品の空間構成，商品陳列に関する知識と技法について
- 第5回 ラッピング実習1（商品の包装に用いられるラッピングの種類と技法について）
- 第6回 ラッピング実習2（ラッピングした作品を用いて空間構成をステージ表現）
- 第7回 ブライダルオブジェ企画（ブライダルをテーマにしたフラワーアレンジメント基礎講座・外部講師）
- 第8回 テーマに沿ったブライダルオブジェを制作しステージで表現
- 第9回 ショップ空間演出の企画（ショップにおける空間演出について）
- 第10回 ショップ空間演出の制作（ショップにおける空間演出について）
- 第11回 ファッションスタイリング表現（演出，陳列構成やカラーコーディネート具体例を事例から学ぶ）
- 第12回 トルソーを利用した演出（トルソー・洋服やアクセサリなどを用いてテーマごとに表現する）
- 第13回 ポートフォリオの編集と作成（各自の作品の全てをフォトブックや写真集として編集，作成する）
- 第14回 ポートフォリオの編集と仕上げ
- 第15回 作品発表

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	・制作物（40%）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

普段からお店にあるショーウィンドやディスプレイなどの空間演出制作物に興味を示すこと。

【授業外学修】

課題に沿ったアイデアなどを事前学修としてイメージしておくこと。

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **ファッション造形**

サブタイトル

授業番号 HT202

担当教員名 宇野 保子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現在の衣服のデザインの基となっている古今東西の服飾表現と、アパレル産業におけるデザインの基礎を学ぶ内容とする。テキスタイルについては一部、演習を取り入れ、理解を深める。授業前半では、各自が西洋服装史のDVDを視聴し、現在の洋服の原点となった西洋の服飾表現の変遷をたどる。後半では、ファッション造形の3要素である、材料（繊維名と3原組織）、フォルム（シルエットとディテール）、色をテキストに沿って学ぶ。基礎知識は、ファッションビジネス能力検定3級の標準テキストの水準とする。

【到達目標】

- 1.現代の洋服デザインの概要を理解する。
 - 2.造形の3要素を理解する。
 - 3.ファッションビジネス能力検定3級を目指して、基礎知識の定着を図る。
 - 4.学んだ知識、感性を駆使して、より良いファッション商品の選択ができる。
- 本教科は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、主に<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：商品企画とアパレルデザインの概要
第2回：ファッションの変遷とその背景 古代の服飾
第3回：ファッションの変遷とその背景 中世の服飾
第4回：ファッションの変遷とその背景 現代の服飾
第5回：フォルムのディテールとバリエーション
第6回：テキスタイルとアパレルデザイン、テキスタイルの表現効果
第7回：テキスタイルの実際 1 三原組織、織物
第8回：テキスタイルの実際 2 編み物、不織布
第9回：テキスタイルの実際 3 「糸と布地の基礎」グループ演習
第10回：着装とデザイン
第11回：ファッション造形知識 デザインの定義と特性
第12回：ファッションコーディネート基礎知識
第13回：ファッション企業のスタイリング
第14回：ファッション商品知識 服種・アイテム
第15回：ファッション商品知識 サイズ・繊維・表示

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢/態度	20%	授業の準備、発問への反応などを評価対象とする。
	レポート	20%	服装史のDVD視聴後の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験	60%	検定模擬試験と同レベルの定期試験で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

書き込み式のサブノートを準備するので、授業中は、説明を聞きながらこのノートを完成させる。各章ごとに、専門用語等を整理し、新しい知識の定着に努めるよう心がけていただきたい。

【授業外学修】

- 1 書き込み式のサブノートの内容整理と復習。
 - 2 テキストの章末問題の復習と、検定問題集(本教科オリジナル編集)の取り組み。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ファッションビジネスI	一般財団法人日本ファッション教育振興協会	一般財団法人日本ファッション教育振興協会	2448円 (税込)	978-4-931378-28-5
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	改訂 アパレルデザインの基礎	日本衣料管理協会刊行委員会	社団法人日本衣料管理協会	2550円 (税込)	
	自由記載				

授業科目名	ファッションビジネス		サブタイトル		授業番号	HT204
担当教員名	藤田 悟 吉村 恒夫					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>プロジェクターを利用して画像や映像を用いることでファッションビジネスの専門的なことをやさしく解説し授業を進める。また、本講義は、一般の販売職でも応用できる内容とし、講義後編には、アパレルの現場で活躍している外部講師によるオリジナルブランド企画などの特別講義も予定している。</p>						
【到達目標】						
<p>生活全体におけるファッション感覚を養い「想像力」「企画力」を高めることと、ファッションビジネス能力検定3級、ファッション販売能力検定3級取得程度の能力を身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：ファッションビジネスの概要 ※ (担当 藤田)</p> <p>第2回：ファッション産業の構成 ※ (担当 藤田)</p> <p>第3回：ファッションマーケティングの重要性について ※ (担当 藤田)</p> <p>第4回：ファッションマーケティングに必要なライフスタイル分析 ※ (担当 藤田)</p> <p>第5回：ファッションマーチャンダイジングの知識 ※ (担当 藤田)</p> <p>第6回：ファッション生活と感性分類 ※ (担当 藤田)</p> <p>第7回：ファッション販売の知識（接客と購買心理） ※ (担当 藤田)</p> <p>第8回：ファッション販売の知識（店舗演出） ※ (担当 藤田)</p> <p>第9回：アパレル小売業の構造と業態 ※ (担当 吉村)</p> <p>第10回：ファッションブランドの企画説明 ※ (担当 吉村)</p> <p>第11回：ファッションブランド企画イメージマップ作成1 ※ (担当 吉村)</p> <p>第12回：ファッションブランド企画イメージマップ作成2 ※ (担当 吉村)</p> <p>第13回：ファッションブランド企画イメージマップ作成3 ※ (担当 吉村)</p> <p>第14回：ファッションブランド企画のプレゼンテーション ※ (担当 吉村)</p> <p>第15回：まとめと小テスト ※ (担当 藤田)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する			
	レポート	30%	各講義の振り返りワークシートとレポート提出内容によって理解度を評価する			
	小テスト	20%	最終的理解度を評価する			
	定期試験					
	その他	20%	ファッションブランド企画のプレゼンテーション時に「企画力」「制作力」「ブランドイメージ」「価格設定」「プレゼン能力」の5点に点数をつけて評価する			

自由記載

【受講の心得】

日頃からストリートや雑誌等でファッションに興味を持つことと、ブランドを企画するのでいろいろなファッションブランドをリサーチして販売方法や流行を意識して感性を磨くこと。

【授業外学修】

1. 事前学修として講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容の業種や業態を見学するのとブランド企画時にブランド分析を行ってまとめておくこと

2. 事後学修として講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて講義で学んだ内容を整理し理解するために復習を毎回行うこと

以上の内容を週あたり合計4時間以上学修すること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『20歳のときに知っておきたかったことスタンフォード大学集中講義』	ティナ・シーリグ 訳者 高遠裕子	阪急コミ ユニケー ションズ	1400+税	978-4-10-484-10101-9

自由記載 使用テキスト『20歳のときに知っておきたかったことスタンフォード大学集中講義』はレポート作成に使用する。その他 適時配布

参考書

自由記載

授業科目名	ファッションコーディネート演習		サブタイトル		授業番号	HT301
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>ファッション流通・販売促進に不可欠とされるスタイリング。基本的な知識や技術を学び実際のスタイリングに応用できることを目的とする。日常生活の中でみられる、さまざまなライフシーンやTPOなどのテーマを設定し、外部講師によるメイクとネイルの基礎知識を組み合わせ、トータルコーディネートできるテクニックを習得する。それぞれがテーマに相応しいコーディネートイメージマップで表現しプレゼンテーションする。イメージマップの一部に着装シミュレーションアプリにてパソコン上でもイメージマップ作成作業を行う。</p>						
【到達目標】						
<p>基本的な着こなしについて各自が設定したテーマにあったファッションコーディネートができる。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：ファッションコーディネートの基礎知識 第2回：ファッション雑誌にみるコーディネートからのターゲット分析 第3回：ファッションコーディネートにおける素材とシルエットの関係 第4回：ファッションコーディネートオケージョンについて 第5回：トータルコーディネーションへの応用 第6回：ファッションコーディネートイメージマップの制作1 第7回：ファッションコーディネートイメージマップの制作2 第8回：ファッションコーディネートイメージマップの制作3 第9回：ファッションコーディネートイメージマップの制作4 第10回：メイクの基礎知識と技法 1 ※ (担当 外部講師) 第11回：メイクの基礎知識と技法 2 ※ (担当 外部講師) 第12回：ネイルの基礎知識と技法 1 ※ (担当 外部講師) 第13回：ネイルの基礎知識と技法 2 ※ (担当 外部講師) 第14回：パソコンでコーディネートアプリを利用したベストコーディネート提案 第15回：トータルコーディネート提案イメージプレゼンテーションの実施</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	ターゲット分析とイメージマップの制作意図を理解し、積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。			
	レポート					
	小テスト					

定期試験

その他

70%

制作物（40%）制作物については、イメージマップをイメージ通りに表現することができるか。創造性（制作過程における独自の工夫、発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど）を評価規準とする。プレゼンテーション（30%）トータルコーディネート提案したイメージマップをプレゼンする。プレゼン評価は、「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。

自由記載

【受講の心得】

シーズンサイクルと社会行事、ファッションコーディネート、ディテール等に対して興味を持ち、街頭のショーウィンドやショップを観察し、関心を高める。

【授業外学修】

事前学修として課題に沿ったコーディネート提案についてファッション雑誌を参考にして週当たり1時間以上、イメージトレーニングをしておくこと。

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **情報処理演習 A**

サブタイトル

授業番号 HG201

担当教員名 石原 信也

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

マイクロソフトオフィススートのうちWordをワードプロセッサソフトとして使用し、ちらし、ビラ、ポスターなどの「一枚もの」からスタイル機能を使用した冊子の作成方法を明らかにする。

【到達目標】

文章作成方法とページレイアウトを知り、Word固有の機能を使用した小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：PC操作の基礎・漢字変換
- 第2回：ワープロ入門・文章の入力、保存と呼び出し
- 第3回：ページレイアウトの検討と設計
- 第4回：素材の検討と調整
- 第5回：紙面デザインの余白と視線誘導・テキストボックスの使い方
- 第6回：文字組（中央寄せ・右詰・改行幅・文字幅など）
- 第7回：画像の取り込みとトリミング・加工・配置
- 第8回：中間発表（作成頁のプレゼンテーション）
- 第9回：複数ページのレイアウト・設計
- 第10回：スタイル機能
- 第11回：画面のキャプチャリングとPDF
- 第12回：ヘッダ・フッタ・段組み・目次
- 第13回：字体・ワードアート・lorem ipsum
- 第14回：最終発表（作品集のプレゼンテーション）
- 第15回：Wordの特殊機能・オフィスソフトの特殊機能

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて、中間・最終の2回、「ブロックレイアウト達成率」「視認性」「独自性・創意性」「紙面要素のバランス」の4項目で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて、中間・最終の2回、学生による相互評価を行う。
	自由記載		

【受講の心得】

演習科目のため、出席は特に重要である。

【授業外学修】

- 1.演習の準備として指示された素材を収集する。
 - 2.発展学習として発表用のスライドなどを演習中に学習した技術を使って作成する。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要なものはプリントして配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名	情報処理演習 B		サブタイトル		授業番号	HG206
担当教員名	石原 信也					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>マイクロソフトオフィススートのうちExcelを表計算ソフトとして使用し、ビジネス文書の作成方法を明らかにする。</p> <p>Microsoft Excelという表計算ソフトの基本操作及び応用操作を演習する。</p>						
【到達目標】						
<p>表計算ソフトの機能や操作、Excel固有の機能を知り、実務でよく使われるビジネス文書（請求書、見積書、リスト、売上報告書、名簿など）が効率的に出来るようになることを目的とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：オフィススイートについて</p> <p>第2回：「売上日報」／「支店別売上実績表」の作成</p> <p>第3回：「交通費精算書」／「時間帯別客単価」の作成</p> <p>第4回：「仕入予定表」／「在庫棚卸表」の作成</p> <p>第5回：「販売店別機種別売上表」／「売上成績比較（クロス集計）」の作成</p> <p>第6回：「顧客別売上集計表」／「全店経費集計表（シートの統合）」の作成</p> <p>第7回：「研修会申込記録」／「アンケート集計（クロス集計）」の作成</p> <p>第8回：「事業別売上高推移（棒グラフ）」／「商品別問合せ件数推移（折れ線グラフ）」の作成</p> <p>第9回：「社員構成比率（円グラフ）」／「受注一覧（自動入力）」の作成</p> <p>第10回：「発注一覧（自動入力）」／「会議室予約表（マクロの記録／登録）」の作成</p> <p>第11回：「顧客満足度調査」／「社員名簿」の作成</p> <p>第12回：「宿泊施設一覧」／「売上台帳」の作成</p> <p>第13回：「見積書」／「納品書」の作成</p> <p>第14回：「請求書」の作成</p> <p>第15回：課題作成</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	「必須」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	「応用」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】						
演習科目のため、出席はとくに重要である。						
【授業外学修】						
<p>1.予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

Excel | ビジネス活用ドリル「2016対
応」

日経BP

日経BP
社

1188

4822253090

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **経営学概論**

サブタイトル (経営学の基礎を学ぶ)

授業番号 HG203

担当教員名 宋 娘沃

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

企業はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり、製造したり、消費者に販売するため、さまざまな戦略を打ち立てたりしている。経営学とは人、モノ、金、情報が投入され製品やサービスに変換される企業活動のことを学ぶ学問である。経営学は製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略、人材、意思決定はどのように行われ、実践されているのか。今日わたしたちの生活と、密接に関わっている企業の仕組みや組織、戦略、雇用、人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は、前半では株式会社の仕組みや組織、管理システムに焦点をあてて学習する。後半では企業の具体的な事例を通して、企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。

【到達目標】

- ・ 経営学の基礎知識を習得することができる。
- ・ 実際の企業の事例を学習することによって、より実務的な能力が習得できる。
- ・ 企業と私たちの生活との関わりを理解することによって、自主的な学習能力を高めることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーの学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：経営学とは何か
- 第2回：企業経営の全体像
- 第3回：企業形態と組織の選択
- 第4回：企業の事業部制組織
- 第5回：企業と金融資本との関わり
- 第6回：企業と製品・サービス市場との関わり
- 第7回：競争戦略のマネジメント
- 第8回：多角化戦略のマネジメント
- 第9回：労働と組織の管理・テイラーシステム
- 第10回：トヨタ生産システム
- 第11回：ファミリービジネスのマネジメント
- 第12回：企業のブランド力
- 第13回：企業統治とは何か
- 第14回：企業組織と人材
- 第15回：企業の社会的責任

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への意欲、質問、討議を積極的に行っていたかを評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	キーワードの理解度を評価する。
	定期試験	50%	授業全体の理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・ 基本的には講義形式で行うが、必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。
- ・ 関心ある企業の動向に関する新聞、雑誌などに目を通して講義に臨むこと。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックしてまとめる。
- ・授業で習った内容の小テストを行うので、復習をする。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『1からの経営学』	加護野忠男・吉村典久 編著	中央経済社	2400円	978-4-502-69610-7

自由記載

参考書

自由記載

・伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門 第3版』日本経済新聞社, 2005年。
・小松 章『企業形態論 第3版』新世社, 2006年。
・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス, 2008年。

授業科目名 **ビジネス実務総論** サブタイトル 授業番号 HG208

担当教員名 伊藤 未高

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、ビジネスの実務における基本である経営学の基礎的な知識を学ぶ。また、就職活動を念頭においたキャリア開発についても学修する。

【到達目標】

ビジネスを遂行するのに必要な基礎的な知識とはどのようなものか理解できるようになること。

なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈思考・問題解決〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：経営学の要点(1)

第2回：経営学の要点(2)

第3回：経営学の要点(3)

第4回：経営学の要点(4)

第5回：会社を理解する(1)

第6回：会社を理解する(2)

第7回：会社を理解する(3)

第8回：会社を理解する(4)

第9回：ビジネスの現場(1)

第10回：ビジネスの現場(2)

第11回：ビジネスの現場(3)

第12回：ビジネスの現場(4)

第13回：キャリア開発と就職活動(1)

第14回：キャリア開発と就職活動(2)

第15回：キャリア開発と就職活動(3)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート	30%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
	小テスト		
	定期試験	50%	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）
	その他		
	自由記載		授業での発言等は最大5%の加点となる。授業での発言はプラスの評価のみであり，どのような内容でもマイナスの評価を受けることはないため，積極的な発言を求める。

【受講の心得】

授業中は、「聞いて」「考えて」「発言する」ことを心掛けること。

【授業外学修】

授業時に配布したレジユメの見直しをすること。

また、授業の前後には、講義のテーマに関して、新聞、雑誌、インターネットなどの記事を参照すること。

上記を週あたり、4時間以上学修をすること。

使用テキスト	自由記載	小野正人（2016）『イチから学ぶビジネス』創成社
参考書	自由記載	適宜、提示する。

授業科目名	簿記		サブタイトル		授業番号	HG216
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>簿記は、企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。今日の企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには、簿記の体系的な修得が重要である。また、簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので、簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では、小規模な株式会社を取り上げて仕訳を中心に学び、重要な項目については決算処理や財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の作成方法についても簡単に学習する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>簿記の流れを体系的に修得し、個人企業で日々発生する取引の内容を理解することにより、日商簿記検定3級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：簿記とは 第2回：仕訳の基礎 第3回：商品売買 第4回：現金・預金 第5回：小口現金 第6回：手形取引 第7回：貸付金・借入金 第8回：手付金（内金）の受払 第9回：その他日常の取引1 第10回：その他日常の取引2 第11回：その他日常の取引3 第12回：貸倒れ 第13回：固定資産の購入・売却 第14回：総合問題演習 第15回：まとめ</p>						
<p>【授業計画 備考2】</p> <p>※毎回小テストを実施。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。
2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。
2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。
3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。
4. 本講義では、予習・復習で週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級	TAC株式会社(簿記検定講座)	TAC出版	2160円	9784813277934
	自由記載				
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介する。			

【その他】

電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。
スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。

授業科目名	プレゼンテーション 演習		サブタイトル		授業番号	HG213
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>現在、情報を伝達する場面においてコミュニケーション力が求められ、その能力を醸成する必要性が言われている。</p> <p>本講義においては、情報伝達が必要となる様々な場面において、適切かつ効果的に情報を提供する方法を紹介する。また、多様なコミュニケーションツールのそれぞれの特長を生かした基本的なプレゼンテーション技術の習得を図ることとする。</p> <p>方法論としては、資料等により基礎知識を学び、合わせて演習を通して知識を定着させ、最終的にコミュニケーションツールとしてのプレゼンテーションの技法を習得することを図る。</p>						
【到達目標】						
<p>情報伝達が必要となる様々な場面で、適切かつ効果的なプレゼンテーションの技法を使用できるようになることを目標とする。</p> <p>本講義はビジネス実務士資格取得のための選択科目であることから、プレゼンテーションの技術の習得においては、日常生活における活用だけにとどまらず、ビジネスの実務においても基本的なコミュニケーションが図れるレベルに到達することを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の習得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：プレゼンテーションとは何か</p> <p>第2回：自己の棚卸とアピールの方法</p> <p>第3回：口頭による説明とそのポイント</p> <p>第4回：文字データの表現方法</p> <p>第5回：メールによるコミュニケーション方法</p> <p>第6回：レジュメの作成</p> <p>第7回：議事録の作成</p> <p>第8回：報告の作成とそのポイント</p> <p>第9回：表とグラフ（データの扱い方）</p> <p>第10回：数値データの加工</p> <p>第11回：数値の分析とビジュアル化の基礎</p> <p>第12回：客観的データとプレゼンターの主観</p> <p>第13回：ビジュアルを含んだ報告の作成</p> <p>第14回：企画・提案の作成</p> <p>第15回：パワーポイントによる表現</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。			
	レポート	15%	課題を作成する場合は、説明に即して的確に完成していること。			
	小テスト					
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

事前にプレゼンテーションの概要について入門書等により調べておくこと。事後学習については必ず行い、授業で得た知識や技術を復習を通じて身につけるよう心がけること。

【授業外学修】

予習として週当たり2時間以上、復習として週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布し、使用する。
参考書	自由記載	必要の都度講義中に紹介する。

授業科目名	キャリア基礎演習		サブタイトル		授業番号	HG104
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】 学生が自らのキャリアデザインを描き、実現のために何が必要か、何をすべきか、働く意味についても考える。インターンシップの重要性からはじまり、自己分析にて自己を知り、持てる能力を最大限に活かすために世の中には、どんな業界や仕事があるのかを学び、ゲストスピーカーによる、いろいろなキャリアプランから、仕事選びのポイントや仕事とは何かを考え、就職について意識することで、後期のキャリア開発演習に向けて職業観を身に付ける。また、随時に適切な就職情報も提供する。</p>						
<p>【到達目標】 1.働くことの意味を自ら考えて、キャリアデザインを描くことができる 2.進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を自ら調べることができる 3.就職実践力の基礎能力を修得することができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：就職活動とは		※（担当 就職支援センター）				
第2回：就職と就職活動について		※（担当 藤田）				
第3回：働くとは		※（担当 外部講師）				
第4回：企業で働くルールを理解する		※（担当 藤田）				
第5回：仕事とは何か（職業観について）		※（担当 外部講師）				
第6回：仕事とは何か（職業観について）		※（担当 外部講師）				
第7回：インターンシップのメリット、エントリーシート記載方法と登録について		※（担当 就職支援センター）				
第8回：インターンシップのエントリーシート記載練習		※（担当 藤田）				
第9回：就職模擬試験対策		※（担当 就職支援センター）				
第10回：就職模擬試験受験		※（担当 就職支援センター）				
第11回：なぜ就職するのか		※（担当 藤田）				
第12回：自己分析・自己理解		※（担当 藤田）				
第13回：企業研究と業界研究		※（担当 藤田）				
第14回：社会人基礎力		※（担当 藤田）				
第15回：後期へのキャリア開発演習に向けて		※（担当 藤田）				
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、復習の状況、就職ガイダンスの参加状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	60%	提出物（40%）授業ごとのワークシートによって理解度を評価する。模擬演習（20%）インターンシップの模擬エントリーシートによって評価する。			
自由記載						

【受講の心得】

就職支援センター主催の就職セミナー（就職活動準備講座・インターンシップ登録講座・身だしなみ講座）にもあわせて出席し、相乗効果を上げるようにシラバスを設定している。また、就職活動について、現状を理解し、自己の進路希望を具体的に考え、今から必要な学習・行動を取れるように、積極的な姿勢で授業に臨むとともに、授業で指示する課題については、そのつど真剣に取り組む。

【授業外学修】

各授業時に配布された「レジュメ」を読み内容確認と学んだ内容を整理し復習を毎回行うこと（1時間以上）。

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名	キャリア開発演習		サブタイトル		授業番号	HG109
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
【授業の概要】						
<p>学生が主体的に進路選択し、積極的な姿勢で就職活動に取り組むために必要な知識の習得を行うことを目的としている。</p> <p>学生が自らのキャリアデザインを描き、実現のために何が必要か、何をすべきか、働く意味について考え、自己分析にて自己を知り、職務適正テストの実施、基本的な履歴書・自己紹介書、エントリーシートの記載方法から、筆記試験、個人面接、グループ面接、グループディスカッション対策までを行う。また、随時に適切な就職情報も提供する。</p>						
【到達目標】						
<p>1.働くことの意味を自ら考えて、キャリアデザインを描くことができる</p> <p>2.進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を自ら調べることができる</p> <p>3.就職実践力の基礎能力を修得することができる</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：「キャリア開発演習」の解説（職業観意識についてアンケート） ※（担当 藤田）</p> <p>第2回：就職活動で知っておかなければならないこと ※（担当 外部講師）</p> <p>第3回：就職活動基本マナーについて ※（担当 藤田）</p> <p>第4回：情報収集方法について ※（担当 藤田）</p> <p>第5回：業界・業種研究，ネット就活 ※（担当 就職支援センター）</p> <p>第6回：履歴書・自己紹介書の書き方その1（実践と質問・疑問事項） ※（担当 藤田）</p> <p>第7回：履歴書・自己紹介書の書き方その2（質問事項のフォロー例） ※（担当 藤田）</p> <p>第8回：履歴書・自己紹介書の最終仕上げ ※（担当 藤田）</p> <p>第9回：社会がもとめる人材とは・先輩の就職活動の失敗と成功事例 ※（担当 藤田）</p> <p>第10回：面接のマナーの基本を把握し、面接を理解する ※（担当 藤田）</p> <p>第11回：模擬面接を実際に体験する（個人面接） ※（担当 藤田）</p> <p>第12回：模擬面接を実際に体験する（グループ面接） ※（担当 藤田）</p> <p>第13回：グループディスカッションの基本を学ぶ ※（担当 藤田）</p> <p>第14回：模擬グループディスカッションを実際に体験する ※（担当 藤田）</p> <p>第15回：来年度の就活動向について ※（担当 就職支援センター）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，討議への参加，復習の状況，就職ガイダンスの参加状況によって評価する			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					

その他 60% 提出物（30%）授業ごとのワークシートによって理解度を評価する。模擬演習（30%）、履歴書・自己紹介書などの提出物によって評価する。

自由記載

【受講の心得】

就職支援センター主催の就職セミナー（働くとは・サイトの登録について・人事担当者講演会・卒業生からのメッセージ・履歴書対策講座。面接対策講座・先輩からのメッセージ・業界、しごと研究）にもあわせて出席し、相乗効果を上げるようにシラバスを設定している。また、自らの人生と職業について友人や家族と話し合う機会を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むとともに、授業で指示する課題については、そのつど真剣に取り組む。

【授業外学修】

各授業時に配布された「レジユメ」を読み内容確認と学んだ内容を整理し復習を毎回行うこと（1時間以上）

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	就活グリーンBOOK2020	中国学園大学・中国短期大学 就職支援委員会 編	中国学園大学・中国短期大学 就職支援センター	無料配布	
自由記載	本学就職支援センター編『グリーンブック』（第1回授業時に配布予定）加えて適宜プリントを配布する。				
参考書	自由記載				

授業科目名	特別研究	サブタイトル		授業番号	HG401
担当教員名	加賀田 江里 奥村 弥生 宇野 保子 小築 康弘 藤田 悟 仁宮 崇				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 2年生前期までで学んだ知識を集約し、7分野の中からさらに深めたい1分野を学生自身が選び、担当教員のもとで指導を受けながら研究を行う。 また、授業形態はゼミナール形式で、個人的な指導・助言のもとに制作・実験・実習・調査研究などを行い、「特別研究発表会」においてプレゼンテーションを遂行する。 以上のことを通して、興味のある分野を掘り下げて学ぶための基本的な研究手法を身につけ、社会に貢献できる人材になることを目的とする。</p>					
<p>【到達目標】 1. 基本的な情報収集・分析・制作計画等の方法を身に付けることができる。 2. 問題解決や仮説にあった研究方法、調査方法を考え、独自の結論を導くことができる。 3. 調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

分野（担当），研究のテーマ，内容

衣生活分野（宇野）

衣生活に関する調査研究と制作

各自の興味関心に基づいた自主的な内容とするが、これまでの例としては、ファッション雑誌の分析、ファッションのインスピレーション調査、自主制作（ドレス、日常着、浴衣）などがある。

食生活分野（小築）

食物に関する研究・調査

「食」について、テーマを設定し、研究・調査を行う。テーマについては、話し合いにより、「何」を「どこまで」調べるのかを決め、その後、実際に研究・調査を行う。

食生活分野（加賀田）

食物に関する実験実習と調査

自らテーマを設定し、それに基づいて、実習・調査を行う。取り組むテーマについては相談の上決定する。

<過去に設定したテーマ>

岡山県産農作物に関する調査およびメニュー提案

季節に合わせたテーブルコーディネートの提案

果物を使った菓子レシピの作成

医療生活分野（仁宮）

医療、健康に関する厚生労働省や総務省のデータおよび、アンケート調査したデータを分析して現代の医療、健康の現状、問題点を調べる。

医療事務、秘書検定等、取得したい資格の問題を分析し、効率的な勉強方法を考えながら資格取得を目指す。

生活デザイン分野（藤田）

デザインに関する調査・研究および制作

デザイン性を重視した生活に関連する仮想のオリジナルブランドを提案する。既存のブランドに関して、調査、分析を行い、グラフィックソフトにて、販促・企画・デザイン・戦略システム提案までを行う。研究テーマは、各自の興味、関心にしがたって設定する。

生活コミュニケーション分野（奥村）

コミュニケーションに関する調査・研究

生活の中で経験するコミュニケーションに関連するテーマの中から、自分の興味を絞り、調査・研究を行う。

文献資料収集、インタビューやアンケート等による調査の実施、初歩的なデータ分析を通して、科学的に物事を理解する力を養う。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	

その他60%の内容

自 【作品・プレゼンテーション資料の作成】30%

由 評価の方法：作品・レポート、プレゼンテーション資料の完成度によって評価する。

載 【プレゼンテーション：30%】

評価の方法：発表会においてプレゼンテーションが出来るとともに、質疑応答に対応できる。

※「特別研究発表会」でのプレゼンテーションを必須とする。

【受講の心得】

担当教員により、各回の授業形態や進み具合は様々である。スムーズな取り組みが出来るよう学生は毎回の研究目標をしっかりと持ち、臨むこと。

【授業外学修】

1週間に8時間以上の研究・調査等の活動を要する。

使用テキスト	自由記載	各教員の指示による。
参考書	自由記載	

授業科目名	総合生活学セミナーA		サブタイトル		授業番号	HG302
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 本セミナーでは、「食とインターネット」をテーマに演習を行う。具体的には、国立健康・栄養研究所のホームページなど有用なホームページやデータベースを利用し、世に広まる様々な食の情報の信用度について考察する授業である。						
【到達目標】 ・インターネットを活用し、「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
Google, Google Scholar, 国立健康・栄養研究所のホームページ, 「健康食品」の安全性・有効性情報(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所), 厚生労働省のホームページなどの使い方を学ぶとともに、授業毎に立てられるテーマに関する情報をそれらホームページから収集する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	情報収集に対する積極性を評価する。			
	レポート	40%	授業毎の収集結果を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 本セミナーは、情報端末を操作し、情報を収集する。時を無意味に過ごすことなく、情報収集の手段や情報の質の判定のために大事な時を当ててほしい。 スマートフォンを活用するので、本機器を所有していることが望ましい。						
【授業外学修】 ・普段から気にしている「食」の情報をインターネットで調べる 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名 **総合生活学セミナーB** サブタイトル

授業番号 HG303

担当教員名 奥村 弥生

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

物語 — 古くから語り継がれる昔話や童話，ある時代にヒットする本や映画には，人間の心を理解するための豊かなヒントが含まれている。この授業では，心の理解に適した物語や映画等をいくつか取り上げ，心理学的な視点から読み解く手がかりを紹介する。そして，実際に本の講読や映画の視聴を行い，各自が自由に感じたことや考えたことを述べ合い，ディスカッションを行う。

【到達目標】

- ・ 物語を心理学的に読み解くとはどういうことか理解している
- ・ 物語を通して自分の考えや発想を広げ，ディスカッションすることができる

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：物語を通して学ぶ人間の心

第2回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（1）

第3回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（2）

第4回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（3）

第5回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（4）

第6回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（5）

第7回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（6）

第8回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（7）

第9回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（8）

第10回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（9）

第11回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（10）

第12回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（11）

第13回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（12）

第14回：物語（本・映画等）の講読・視聴とディスカッション（13）

第15回：総括

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な受講態度，ディスカッションへの貢献度で評価する。
	レポート	40%	最終レポートを課し，内容の理解度・修得度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・ 物語の講読・視聴に意欲的に取り組むこと
- ・ ディスカッションに積極的に参加すること

【授業外学修】

・関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること
以上の内容を、週あたり1時間以上学習すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	昔話の深層 ユング心理学とグリム童話		河合隼雄 著	講談社	940円+ 税	978-4-06- 256031-3
	好きな人にはワケがある –宮崎アニメと思春 期のころ		岩宮恵子 著	筑摩書房	780円+ 税	978-4- 480- 68909-2
	自由記載					

授業科目名 **総合生活学セミナーC** サブタイトル

授業番号 HG304

担当教員名 藤田 悟

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

グラフィックソフト（Adobe Photoshop・Adobe Illustrator）にて、画像処理の効果や技術、イラスト作成方法などを学び、フリー素材を活用しながら、オリジナル名刺、オリジナルCDジャケットを作成後、Windowsムービーメーカーにて簡単な動画編集までを学ぶ。

【到達目標】

グラフィックソフト、動画ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な技法について操作ができる。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Adobe Photoshopにていろいろな効果を楽しむ

第2回：着色展開（Adobe Photoshop）

第3回：画像処理方法（Adobe Photoshop）

第4回：名刺作成（Adobe Illustrator）

第5回：CDジャケット作成（Adobe Illustrator）

第6回：CDジャケット仕上げ（Adobe Illustrator）

第7回：パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備

第8回：パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備

第9回：パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備

第10回：プレゼンテーションの動画撮影

第11回：動画ファイルを読み込み後、タイトルを入れる（Windowsムービーメーカー）

第12回：動画の分割や不要な部分を削除する（Windowsムービーメーカー）

第13回：音楽ファイルを読み込んでBGMを設定する（Windowsムービーメーカー）

第14回：タイトル/クレジットを入れる（Windowsムービーメーカー）

第15回：データをCD-Rに焼き付けてオリジナルCDを完成させる

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極的に実習に臨み各ソフトの特徴を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	・制作物（40%）制作物については、創造性（制作過程における独自の工夫、発想の獨創性など）と完成度（作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど）を評価基準とする。・作品発表（20%）「説得力」「獨創性」「倫理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

日常生活の中で見るポスター、ディスプレイ、チラシなどのデザインは、どのようなソフトで制作されているかを観察し、興味を持つこと。

【授業外学修】

課題に沿ったソフトの操作方法や技法などの配布資料を一読して、事前学修として知識を深めておくこと。（週1時間以上）

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **総合生活学セミナーD** サブタイトル

授業番号 HG305

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

本セミナーでは、医療事務の中で最も難易度、社会的評価の高い「診療報酬請求事務能力認定試験」および「秘書検定準1級」の上位資格の試験対策を行う。どの試験を受けるか、両方とも受けるかは学生の希望を考慮の上、決める。なお、本セミナーで秘書検定合格を目指す学生は、「医療秘書学」の単位を取得し、1年生で秘書検定2級に合格しておくことが望ましい。他に取りたい資格がある学生は相談によって方針を決める。

【到達目標】

- ・どのように学べば理解でき、身につくか、計画を立てて勉強方法を考えることができる。
- ・高度な診療報酬請求に関する知識、診療報酬算定の技能を身に付ける。
- ・秘書検定面接試験に合格できるビジネスマナー、敬語等の知識に加え、挨拶・お辞儀・報告・状況対応能力を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

診療報酬請求事務能力認定試験

医療保険、診療報酬の学科試験対策、外来と入院レセプトの実技試験対策を15回にわたり行う。

秘書検定準1級

6月の筆記試験まではテキスト、実問題集を通して対策を行う。筆記試験が終われば面接試験対策を行う。

試験日程が決まっているので、毎週定期的に行うのではなく、学生と相談の上、試験日程に合わせて変則的に15回行う。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	100%	毎回チェックする試験の過去問題を解いた質と量で評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

難関資格・検定に挑戦するため、合格したい強い意志を持って取り組むこと。

【授業外学修】

- 1 授業で学んだページを復習すること
- 2 間違えた問題に関わるテキストの分野をよく読むこと

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	<p>テキストは受験する試験により異なる。テキストの種類は学生と相談の上決めるが、下記のテキストを推奨する。診療報酬請求事務能力認定試験：医療事務[診療報酬請求事務能力認定試験(医科)]合格テキスト&問題集（日本能率協会マネジメントセンター）2, 484円， 診療点数早見表（医学通信社）4, 860円 秘書検定準1級：カラー改訂版 出る順問題集秘書検定準1級に面白いほど受かる本（KADOKAWA/中経出版）1, 512円， 秘書検定実問題集準1級（早稲田教育出版）1, 404円， 秘書検定クイックマスター準1級（早稲田教育出版）1, 296円</p>
参考書	自由記載	

授業科目名	総合生活学セミナーE		サブタイトル		授業番号	HG306
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 製菓材料の種類と特徴を学び、実習を通して各材料の働きについて理解を深める。						
【到達目標】 製菓に関わる主要な材料の特徴と働きを理解し、新しい菓子類を自分で考えて作ることが出来る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
初回で和・洋の製菓材料および調理器具の扱い方について学び、その後テーマを絞り、実習を行う。 実習を繰り返し行う中で、使用する材料の種類、分量、調理操作の違いによるできあがりの違いを観察し、そこから自分自身でレシピ製作を行い、レシピを完成させる。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート	50%	自ら考えたメニューのレシピを作成しまとめ、提出すること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	総合生活学セミナーF		サブタイトル		授業番号	HG307
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>本セミナーは、世に広まるダイエット法について受講者全員で考察する授業である。ダイエット (diet) とは、本来『(通常の) 食事』を表す言葉であったが、そこから次第に食餌療法・食餌制限の意味でも使われるようになった言葉である。本セミナーでは、この食餌療法・食餌制限の概念を意識し、『食事と減量』という観点から世に広まるダイエット法について考察する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・議論を通じて、様々なダイエット法を批判的に考察できる ・ダイエットに対する自身の概念を構築できる <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
毎回の授業で、ダイエット法に対する情報に基づき全員で議論をする。ダイエット法の情報については、原則的に教員が準備するが、受講者からの提案があれば、全員で議論した後に、採用する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	議論への積極的な参加を評価する。			
	レポート	40%	ダイエットに対する自身の考えを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
<p>本セミナーは、着席し、一方的に耳を傾けるという授業ではない。議論に積極的に関わることで、自身の中にダイエットに対する概念を作り出すための授業である。積極的な発言・傾聴を望む。</p>						
【授業外学修】						
<ul style="list-style-type: none"> ・全授業終了後に提出する「ダイエットに対する自身の考え」に関するレポートの作成する ・世の中に広がる様々なダイエット法に注目し、「言われていることは本当だろうか？」と批判的に分析する <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名 **総合生活学セミナーG** サブタイトル

授業番号 HG308

担当教員名 奥村 弥生

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

時代を通して受け継がれる優れた名著を通して人間の心について学ぶ。具体的には、優れた名著をわかりやすく解説しているテレビ番組「100分de名著（NHK）」を視聴し、取り上げられている名著を読む。初回に、心について学ぶのに適したもの（アドラー心理学、河合隼雄、星の王子様、変身（カフカ）、古事記、等）を複数紹介するので、受講生全員で関心のあるものを選ぶ。各回で視聴・講読し、自由に感じたことや考えたことを述べ合い、ディスカッションを行う。

【到達目標】

- ・名著を通して人間の心について考えることができる
- ・名著の講読とディスカッションを通して、自分の考えを深めることができる

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：名著を通して学ぶ人間の心
第2回：名著の講読・視聴とディスカッション（1）
第3回：名著の講読・視聴とディスカッション（2）
第4回：名著の講読・視聴とディスカッション（3）
第5回：名著の講読・視聴とディスカッション（4）
第6回：名著の講読・視聴とディスカッション（5）
第7回：名著の講読・視聴とディスカッション（6）
第8回：名著の講読・視聴とディスカッション（7）
第9回：名著の講読・視聴とディスカッション（8）
第10回：名著の講読・視聴とディスカッション（9）
第11回：名著の講読・視聴とディスカッション（10）
第12回：名著の講読・視聴とディスカッション（11）
第13回：名著の講読・視聴とディスカッション（12）
第14回：名著の講読・視聴とディスカッション（13）
第15回：総括

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な受講態度、ディスカッションへの貢献度で評価する。
	レポート	40%	最終レポートを課し、内容の理解度・修得度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・名著の講読・視聴に意欲的に取り組むこと
- ・ディスカッションに積極的に参加すること

【授業外学修】

・ 関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること
以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	NHKテレビテキスト「100分 de 名著」シリーズ, NHK出版

授業科目名	総合生活学セミナーH		サブタイトル		授業番号	HG309
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 ファッションショーの企画や演出までをプロモーションする。ファッションの世界には欠かせないファッションショー。ファッションショーの運営には、演出・構成、ポスター、チラシ制作、スタイリスト、音響・映像、照明、広報、台本製作、プログラム、パンフレット制作、記録、モデル、フィッター、情報・コンピューター担当、商品管理、作品管理、衣裳作成、受付、設営、ナレーターなどと多様であるが、各自が関心のあるテーマを決めて、ポスター、台本制作、設営イメージ、音響企画、進行イメージマップを作成し、ファッションショーのイメージを企画、プランニングする。企画書やイメージマップの制作は、Adobe Photoshopにて、ファッションショーのイメージを形にしてビジュアル表現までを行う。						
【到達目標】 ファッションショーの企画と手順を理解しプロモーションすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：ファッションショーの基本 第2回：ターゲット設定・サブテーマ、コンセプト設定 第3回：デザインアイテム、カラー展開 第4回：演出設定とファッションショーの企画 第5回：イメージポスターの制作 第6回：ファッションショーイメージをマップ表現 第7回：ハンガーイラストにてコーディネート展開 第8回：スタイリングイメージマップの作成 第9回：舞台構成（平面図の作成） 第10回：ウォーキング構成 第11回：BGM選択 第12回：ナレーション文章作成 第13回：プロモーション展開とバーチャルファッションショーの準備 第14回：バーチャルファッションショー 第15回：スライドショーにてプレゼンテーション						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	ファッションショーのプランニングにおける制作意図を理解し、積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	60%	制作物については、ファッションショーの企画イメージマップをイメージ通りに表現することができるか。ファッションショーの企画・デザイン・演出・舞台等のプロセスを構成し、プロデュース力・企画力・独創性の3点に点数をつけて評価する。			
	自由記載					

【受講の心得】

インターネット、ファッション雑誌などの各メディアからのファッションショーを参考にして、企画したいファッションショーをイメージしておくこと。

【授業外学修】

事前学修として課題に沿ったファッションショー提案について、メディアの情報を参考にして週当たり1時間以上、イメージトレーニングをしておくこと。

使用テキスト	自由記載	適時配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **総合生活学セミナーI** サブタイトル

授業番号 HG310

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

本セミナーでは、医療事務の中で最も難易度、社会的評価の高い「診療報酬請求事務能力認定試験」および「秘書検定準1級」の上位資格の試験対策を行う。どの試験を受けるか、両方とも受けるかは学生の希望を考慮の上、決める。なお、本セミナーで秘書検定合格を目指す学生は、「医療秘書学」の単位を取得し、1年生で秘書検定2級に合格しておくことが望ましい。他に取りたい資格がある学生は相談によって方針を決める。

【到達目標】

- ・どのように学べば理解でき、身につくか、計画を立てて勉強方法を考えることができる。
- ・高度な診療報酬請求に関する知識、診療報酬算定の技能を身に付ける。
- ・秘書検定面接試験に合格できるビジネスマナー、敬語等の知識に加え、挨拶・お辞儀・報告・状況対応能力を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

診療報酬請求事務能力認定試験

医療保険、診療報酬の学科試験対策、外来と入院レセプトの実技試験対策を15回にわたり行う。

秘書検定準1級

11月の筆記試験まではテキスト、実問題集を通して対策を行う。筆記試験が終われば面接試験対策を行う。

試験日程が決まっているので、毎週定期的に行うのではなく、学生と相談の上、試験日程に合わせて変則的に15回行う。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	100%	毎回チェックする試験の過去問題を解いた質と量で評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

難関資格・検定に挑戦するため、合格したい強い意志を持って取り組むこと。

【授業外学修】

- 1 授業で学んだページを復習すること
 - 2 間違えた問題に関わるテキストの分野をよく読むこと
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	<p>テキストは受験する試験により異なる。テキストの種類は学生と相談の上決めるが、下記のテキストを推奨する。診療報酬請求事務能力認定試験：医療事務[診療報酬請求事務能力認定試験(医科)]合格テキスト&問題集（日本能率協会マネジメントセンター）2, 484円， 診療点数早見表（医学通信社）4, 860円 秘書検定準1級：カラー改訂版 出る順問題集秘書検定準1級に面白いほど受かる本（KADOKAWA/中経出版）1, 512円， 秘書検定実問題集準1級（早稲田教育出版）1, 404円， 秘書検定クイックマスター準1級（早稲田教育出版）1, 296円</p>
参考書	自由記載	

授業科目名	総合生活学セミナーJ		サブタイトル		授業番号	HG311
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 「健康的な食生活とは何か」を学び、自分自身の食生活を振り返る。 食生活の問題点を明確にし改善方法について自ら考える。						
【到達目標】 食生活の問題点を明確にし改善方法を考えることで、健康の維持・増進に努め、生涯にわたって健康的な食生活を意識して生活できる能力を身に付けることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 最初に食事のバランスとは何か、各栄養素の働きについて学ぶ。 次に自分自身の食生活の記録をもとに自分の食事で不足しがちな栄養素等を検討する。 不足しがちな栄養素が含まれる食品やその食品を使ったレシピ、手軽に摂取する方法などを考える。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート	40%	自ら考えた健康的な食生活とその実践方法についてまとめ、提出すること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名 **医療管理事務総論**

サブタイトル

授業番号 HM201

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

医療の歴史，医療機関で働く職員の職種とその仕事内容，医療の法律，医療保険について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。2年次に行われる医療事務関係の資格試験に焦点をあてた内容を中心に授業を展開する。医療事務コース選抜に関わる科目である。

【到達目標】

- ・ 医療の歴史，医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。
- ・ 医療に関係する法律を理解できる。
- ・ 医療保険制度について理解できる。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：医療の歴史

第2回：病院の基本を知る(1)病院組織

第3回：病院の基本を知る(2)病院と診療所

第4回：病院の基本を知る(3)医療連携

第5回：医療機関の職種(1)医師

第6回：医療機関の職種(2)看護師

第7回：医療機関の職種(3)コメディカル

第8回：医療機関の職種(4)事務

第9回：医療秘書教養

第10回：医師法

第11回：医療法

第12回：健康保険

第13回：さまざまな医療制度

第14回：DPC・出来高と包括(1)

第15回：DPC・出来高と包括(2) 院外薬局

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
2. 復習として、講義資料にある問題を復習する。
3. 医療に関わる新聞記事を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	オールカラー図解 病院のすべてがわかる!	コンパッション税理士 法人	ナツメ社	1, 728 (税 込)	978- 4816363474
	メディカルシステム論	一般社団法人 医 療教育協会	一般社団 法人 医 療教育協 会	2, 160 (税 込)	なし
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企 画) よくわかる 図解 病院の学習書 (ロギカ書房)			

授業科目名 **医療秘書学**

サブタイトル

授業番号 HM202

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

秘書業務を通して社会人として必要なビジネスマナー・接遇について学ぶ。医療秘書、医療コンシェルジュの仕事内容、心構え、患者サービスについて、テキストやDVD教材を用いて理解する。

【到達目標】

- ・社会人としてのビジネスマナー・接遇を学び、秘書検定2級程度の知識を身に付ける。
- ・医療秘書、コンシェルジュの業務内容を理解できる。
- ・医療機関で働く上で必要な接遇知識、医療安全に関わるコミュニケーションについて理解できる。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：医療秘書の業務内容 医療秘書に必要とされる資質(1)

第2回：医療秘書に必要とされる資質(2)

第3回：医療秘書の職務知識

第4回：医療事務の就職活動に関する講義 ※（担当 外部講師）

第5回：ビジネスマナー(1)

第6回：ビジネスマナー(2)

第7回：ビジネスマナー(3)

第8回：ビジネスマナー(4)

第9回：医療コンシェルジュ

第10回：医療機関職員の接遇・マナー(1)

第11回：医療機関職員の接遇・マナー(2)

第12回：医療機関職員の接遇・マナー(3)

第13回：コミュニケーション能力と医療安全

第14回：医療秘書に必要な技能(1)

第15回：医療秘書に必要な技能(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		試験は持込不可である。

【受講の心得】

仕事をする上でのビジネスマナー、接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶、行動を心がけること。秘書検定に関心のある学生は、11月と2月に行われる秘書検定3級、2級の試験を受験すること。すでに秘書検定2級に合格している学生は、知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず、医療機関の就職試験にも出題されることがあるため、就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。

【授業外学修】

1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。
 2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白 いほど受かる本	佐藤 一明	KADOKAWA/ 中経出版	1, 512 (税 込)	978- 4046041029
	自由記 載	講義資料			
参考書	自由記 載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会） 秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会） マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ） 秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社） 秘書検定準1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会） 秘書検定1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会） 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21) 医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社） ホスピタルコンシェルジュの事例紹介（DVD：金田病院提供）			

【その他】

特別講義の日程調整の関係で，講義の順番が変わることがある。

授業科目名 **介護保険事務論**

サブタイトル

授業番号 HW205

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

我が国は超高齢社会を迎え、介護保険サービスを利用する高齢者は年々増加している。その中で、保険料の増額、提供されるサービスの質の評価など、さまざまな問題が出てきている。本科目は、介護保険制度を理解した上で、介護保険サービスを利用するための要件やサービスの種類、また、介護報酬の算定方法などを医療保険と関連づけながら総合的に学ぶ。

【到達目標】

- ・介護保険制度の仕組みや背景について理解している。
- ・介護報酬算定を理解し、介護レセプトが作成できる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：介護保険制度のしくみ(1)	※ (担当)
第2回：介護保険制度のしくみ(2)	※ (担当)
第3回：介護保険制度のしくみ(3)	※ (担当)
第4回：介護保険制度と法令(1)	※ (担当)
第5回：介護保険制度と法令(2)	※ (担当)
第6回：介護保険制度と法令(3)	※ (担当)
第7回：介護サービス 介護支援専門員の業務	※ (担当)
第8回：介護報酬算定の理解 (1)	※ (担当)
第9回：介護報酬算定の理解 (2)	※ (担当)
第10回：介護報酬算定の理解 (3)	※ (担当)
第11回：介護レセプト作成(1)	※ (担当)
第12回：介護レセプト作成(2)	※ (担当)
第13回：介護レセプト作成(3)	※ (担当)
第14回：介護レセプト作成(4)	※ (担当)
第15回：介護レセプト作成(5)	※ (担当)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	15%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他	15%	課題の完成度で評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

介護事務の仕事においては当然必須であるが、医療事務の仕事にも介護保険の知識や介護報酬算定の技能が求められる時代になってきている。福祉・介護、医療分野への就職を目指す学生は仕事のこと意識して受講すること。また、仕事で介護事務に携わらなくても、将来自分の家族に介護が必要になったときにも有用な知識が多いため、生活者としての介護保険の利用も考えながら受講する。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
 2. 復習として、講義資料にある問題を復習する。
 3. 介護保険に関わる新聞記事を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新しい介護保険のしくみ	長谷憲明	瀬谷出版	2, 808円	978-4-902381-34-4
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	介護報酬基本テキスト 介護報酬サービスコード表付き	ケアアンドコミュニケーション株式会社	ケアアンドコミュニケーション株式会社	3, 240円	なし
	自由記載				

授業科目名	ビジネス実務演習	サブタイトル		授業番号	HG212
担当教員名	佐藤 由美子				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	通年		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 社会人として必要なビジネスの知識やスキル（企画・計画の立案，コミュニケーション，情報処理，プレゼンテーション等）を，講義と演習を通して学ぶ。 演習は，ロールプレイなどの体験型学習やグループに分かれてディスカッションや発表を行う。</p>					
<p>【到達目標】 到達目標は，以下の2点である。 (1)ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。 (2)演習時に，企画の立案やコミュニケーションの実践，プレゼンテーションの実施等，指定された手順に沿って，行えるようになること。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈思考・問題解決〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：キャリアと仕事へのアプローチ
- 第2回：会社活動の基本
- 第3回：話し方と聴き方のポイント
- 第4回：ビジネス活動I
- 第5回：ビジネス活動II
- 第6回：顧客とのコミュニケーション ～演習～
- 第7回：グループ演習
- 第8回：会議の基本
- 第9回：企画とプレゼンテーションI
- 第10回：企画とプレゼンテーションII
- 第11回：企画とプレゼンテーションIII ～演習～
- 第12回：コミュニケーション技法II
- 第13回：チームワークと人のネットワークI
- 第14回：チームワークと人のネットワークII
- 第15回：問題解決能力，SWOT分析 ～演習～
- 第16回：仕事の進め方I
- 第17回：仕事の進め方II
- 第18回：仕事の進め方III ～演習～
- 第19回：ビジネス文書I
- 第20回：情報収集と統計I
- 第21回：情報収集と統計II
- 第22回：情報収集と統計（時事・社会） ～演習～
- 第23回：発表準備・発表
- 第24回：会社の数字I
- 第25回：会社の数字II
- 第26回：ビジネスの法律と税金知識I
- 第27回：ビジネスの法律と税金知識II
- 第28回：産業と経済の基礎知識I
- 第29回：産業と経済の基礎知識II
- 第30回：産業と経済の基礎知識III ～演習～

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート	0%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
	小テスト	40%	
	定期試験	40%	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）
	その他		
	自由記載		授業での発言等は最大5%の加点となる。授業での発言はプラスの評価のみであり，どのような内容でもマイナスの評価を受けることはないため，積極的な発言を求める。

【受講の心得】

授業中は、「聞いて」「考えて」「発言する」ことを心掛けること。

【授業外学修】

授業の前後には，講義のテーマに関して，新聞，雑誌，インターネットなどの記事を参照すること。上記を週あたり，1時間以上学修をすること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	2019年版 ビジネス能力検定公式ジョブパス2級公式テキスト				2160	978-4-8207-2690-6 C3034
	自由記載	『ビジネス能力検定2級テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）授業中に配布するプリント				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	2019年版 ビジネス能力検定公式ジョブパス3級公式テキスト				2160	978-4-8207-2689-0 C3034
	自由記載					

授業科目名	医事コンピュータ演習		サブタイトル		授業番号	HM102
担当教員名	岡本 智子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して外来における患者登録，レセプト作成，医事統計等の医事業務の基本を習得する。						
【到達目標】						
医事コンピュータ技能検定2級・3級を目指し，コンピュータを利用した医事業務の基礎知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の習得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：日医標準レセプトソフト（オルカ）について 当該システムの基本動作 医療制度の概要</p> <p>第2回：患者登録業務(基本情報・公費)</p> <p>第3回：診療行為入力フロー</p> <p>第4回：診療行為入力業務（診察・投薬・注射）</p> <p>第5回：カルテ入力演習（訂正・前回同の入力） 病名登録</p> <p>第6回：診療行為入力業務（処置・手術）</p> <p>第7回：診療行為入力業務（検査）</p> <p>第8回：院外処方せん，請求領収書，カルテ等帳票の発行</p> <p>第9回：診療行為入力業務(画像・その他)</p> <p>第10回：カルテ入力演習(保険追加・同日併科)</p> <p>第11回：セット登録，自費登録および入力</p> <p>第12回：カルテ入力演習</p> <p>第13回：予約登録 その他の日常業務</p> <p>第14回：保険請求業務 統計業務</p> <p>第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	学習した範囲のJPL 1-1の操作ができているかを評価する。			
	定期試験	50%	診療報酬請求事務について理解し，正確にコンピュータ入力ができるかを評価する。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

診療所・病院への就職を希望する者は、最強の武器となるので、積極的にチャレンジする。
予習・復習を心がけること。

【授業外学修】

不定期に小テストを行うので、授業毎に学習した操作について次回授業までに週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書<外来版> (Ver5.0.0)
参考書	自由記載	

授業科目名 **医事コンピュータ演習応用I**

サブタイトル

授業番号 HM204

担当教員名 岡本 智子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して有床診療所における入院レセプト作成を中心に医事コンピュータ業務の実際を習得する。
また、外来については、難易度の高い診療内容の処理に対応する。

【到達目標】

医事コンピュータ技能検定2級・3級を目指す。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の習得に貢献する。

【授業計画】

第1回：外来入力業務の復習

第2回：外来カルテ入力（指導料・在宅医療）

第3回：外来カルテ入力演習（保険変更，自由診療，保険外項目など）

第4回：公費負担医療の請求業務（生活保護，原爆医療，自立支援法，難病など）

第5回：岡山県福祉医療の請求業務（乳幼児医療，障害者医療，ひとり親医療など）

第6回：外来予約業務（診療予約，検査予約，健診予約など）

第7回：入院業務について（入院登録）

第8回：入院カルテ入力（1）

第9回：入院カルテ入力（2）

第10回：入院カルテ入力（3）

第11回：入院カルテ入力演習退院処理，転棟・転室処理，入院定期請求

第12回：入院カルテ入力演習

第13回：レセプト業務（データチェックの活用，返戻レセプト・月遅れレセプト処理など）

第14回：統計業務（各種帳票の発行）

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。
	レポート		
評価の方法	小テスト	30%	学習した範囲のJPL [®] 1-7操作ができているかを評価する。
	定期試験	50%	診療報酬請求事務について理解し、正確にコンピュータ入力ができているかを評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

診療所・病院への就職を希望する者は、最強の武器となるので、積極的にチャレンジする。

予習・復習を心がけること。

医療事務コースを専攻する者は、必ず受講すること。

【授業外学修】

不定期に小テストを行うので、授業毎に学習した操作について次回授業までに週あたり1時間以上復習すること。

使用テキスト	自由記載	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書<外来版> (Ver5.0.0) [入院版] 基本操作説明書
参考書	自由記載	

授業科目名 **医事コンピュータ演習応用II**

サブタイトル

授業番号 HM302

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

医事コンピュータORCAを用いて，分院設定機能を利用して同一システムを複数の医療機関で使用し，施設基準や病棟管理設定を各自で行う。手書きのときより複雑な外来・入院のレセプトを作成して診療報酬算定の知識を学ぶ。

【到達目標】

- ・ ORCAの診療コード登録，入院設定機能の操作ができる。
- ・ 多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成ができる。
- ・ 医療事務職員として知っておいた方が良いExcel，PowerPointの機能を操作できる。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：病院の施設基準 診療コード入力

第2回：外来レセプト作成(1)

第3回：外来レセプト作成(2)

第4回：外来レセプト作成(3)

第5回：外来レセプト作成(4)

第6回：外来レセプト作成(5)

第7回：入院レセプトの復習

第8回：病院の施設基準設定，病棟設定

第9回：入院レセプト作成(1)

第10回：入院レセプト作成(2)

第11回：入院レセプト作成(3)

第12回：入院レセプト作成(4)

第13回：入院レセプト作成(5)

第14回：入院レセプト作成(6)

第15回：入院レセプト作成(7)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	70%	毎回提出するレセプト，ExcelやPowerPoint課題の完成度で評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

医療事務の仕事をする上で必要な演習である。医療事務コースの学生は必ず受講すること。複雑なレセプトを作成するため，ORCAの使用方法に加え，診療報酬請求事務の理解も努めること。

【授業外学修】

1. ORCAのマニュアル，診療報酬請求事務の教科書を読んで，予習・復習する。
2. レセプト作成で出てきた診療行為は点数表で調べておく。
3. パソコンの操作練習をする。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	日医標準レセプトソフト（ORCA） 基本操作説明書（外来版）	日本医師会総合政策 研究機構	日本医師 会総合政 策研究機 構	3,240円 （税込）	
参考書	自由記載 [入院版]基本操作説明書(簡易版)	診療報酬請求の実務	診療報酬請求演習		
	自由記載	日医標準レセプトソフト 外来版操作マニュアル 操作マニュアル 医事コンピュータ技能検定問題集3級(1)（つちや書店） コンピュータ技能検定問題集3級(2)（つちや書店）	日医標準レセプトソフト	入院版 医事コ	

授業科目名 **診療報酬請求事務**

サブタイトル

授業番号 HM101

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

医療事務の業務内容、わが国の医療保険制度、診療報酬請求事務に関する基礎知識、診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。医療事務コース選抜に関わる科目である。

【到達目標】

- ・ 医療事務職員の業務内容、医療保険制度を理解できる。
- ・ 診療報酬制度の仕組みが理解できる。
- ・ 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：医療事務の紹介 外来業務
- 第2回：入退院業務(1)
- 第3回：入退院業務(2)
- 第4回：医療保険制度と診療報酬体系について
- 第5回：初診料(1) 基礎知識
- 第6回：初診料(2) 算定・レセプト記載
- 第7回：再診料(1) 基礎知識
- 第8回：再診料(2) 算定・レセプト記載
- 第9回：医学管理料
- 第10回：在宅医療料
- 第11回：投薬料(1) 基礎知識
- 第12回：投薬料(2) 算定・レセプト記載
- 第13回：注射料
- 第14回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成(1)
- 第15回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習	一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,592 (税込)	なし
	医科診療報酬点数表	一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,160 (税込)	なし
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			

授業科目名 **診療報酬請求事務応用I** サブタイトル 授業番号 HM203

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。

【到達目標】

- ・ 処置，手術，検査，画像診断，入院といった算定技能を理解する。
- ・ 診療報酬明細書（入院）を作成する技能の基礎を身に付ける。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：投薬・注射の復習
- 第2回：処置料(1) 基礎知識
- 第3回：処置料(2) 算定・レセプト記載
- 第4回：手術料(1) 基礎知識
- 第5回：手術料(2) 算定・レセプト記載
- 第6回：検体検査(1) 基礎知識
- 第7回：検体検査(2) 算定・レセプト記載
- 第8回：検体検査(3) 算定・レセプト記載
- 第9回：生体検査
- 第10回：画像診断料
- 第11回：入院基本料・入院基本料等加算
- 第12回：入院時食事療養費・入院時生活療養費
- 第13回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成(1)
- 第14回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成(2)
- 第15回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成(3)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，課題への取り組み，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。

【授業外学修】

1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。
 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習	一般社団法人 医療教育協会出版	一般社団法人 医療教育協会出版	2,592 (税込)	なし
	医科診療報酬点数表	一般社団法人 医療教育協会出版	一般社団法人 医療教育協会出版	2,160 (税込)	なし
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			

授業科目名 **診療報酬請求事務応用II**

サブタイトル

授業番号 HM301

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

診療報酬請求事務に関するレセプト作成技能を学修する。また、カルテと作成されたレセプトを照らし合わせて、算定に誤りがないか点検し、修正する。

【到達目標】

- ・ 診療報酬明細書作成技能、およびカルテと作成された診療報酬明細書を見て点検して修正する力を身に付ける。
- ・ 医事管理士の診療報酬明細書作成問題を解く力を身に付ける。
- ・ 診療報酬請求事務に関する高度な知識、技能を身に付ける。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：診療報酬明細書作成の復習
- 第2回：診療報酬明細書作成（医事管理士）(1)
- 第3回：診療報酬明細書作成（医事管理士）(2)
- 第4回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成・点検(1)
- 第5回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成・点検(2)
- 第6回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成・点検(3)
- 第7回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成（応用問題）(1)
- 第8回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成（応用問題）(2)
- 第9回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成・点検(1)
- 第10回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成・点検(2)
- 第11回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成・点検(3)
- 第12回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成（応用問題）(1)
- 第13回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成（応用問題）(2)
- 第14回：診療報酬明細書（入院レセプト）の作成（応用問題）(3)
- 第15回：診療報酬明細書作成のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	学習態度、課題への取り組みで評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他	15%	レセプト作成課題の完成度で評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠であり、医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習	一般社団法人 医療教育協会出版	一般社団法人 医療教育協会出版	2,592 (税込)	なし
	医科診療報酬点数表	一般社団法人 医療教育協会出版	一般社団法人 医療教育協会出版	2,160 (税込)	なし
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	診療点数早見表(医学通信社) (医学通信社)	診療報酬請求事務能力認定試験 受験対策と予想問題集		

授業科目名 **医療情報学**

サブタイトル

授業番号 HM205

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

情報技術の発展に伴い、医療情報システムを導入、運用している医療機関が多くなっている。電子化が進んでおり、コンピュータが医療分野において必需品にもなっている。情報技術の医療分野への関わりを学ぶ。

【到達目標】

- ・紙カルテから電子カルテに変わって医療機関職員の仕事内容がどのように変化したかを理解できる。
- ・病院情報システムのメリットとデメリットを理解できる。
- ・パソコンやスマートフォンにおける情報セキュリティ対策の知識が理解できる。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：医療情報学を学ぶことの意義と目的 医療情報の特徴

第2回：医療情報システムの歴史

第3回：医療情報システムの特徴と必要な機能

第4回：電子カルテシステムの機能

第5回：各部門の医療情報システム

第6回：医療事務部門の情報システム

第7回：遠隔医療と地域医療連携

第8回：医療情報の標準化

第9回：コンピュータネットワーク セキュリティ(1)

第10回：コンピュータネットワーク セキュリティ(2)

第11回：コンピュータネットワーク セキュリティ(3)

第12回：病院での医療情報部門の業務内容 ※（担当 特別講師）

第13回：医師事務作業補助者 院内感染と感染症予防

第14回：医療安全管理と対策(1)

第15回：医療安全管理と対策(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

テキスト，講義資料のみならず，インターネットで閲覧可能な厚生労働省のガイドラインを読む。情報システムや情報セキュリティの知識は，医療事務のみならず，社会人として知っておくべきことであるため，社会人の一般常識のつもりで理解に努める。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
 2. 復習として、講義資料にある問題を復習する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	医療情報・病歴管理のテキスト（詳細未定）	未定	一般社団法人 日本病院管理教育協会	未定	未定

自由記載 講義資料

参考書

自由記載

医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第4.2版 DVD「映像で知る情報セキュリティ」（情報処理推進機構）

【その他】

特別講義の日程調整の関係で、講義の順番が変わることがある。

授業科目名 **診療情報管理論**

サブタイトル

授業番号 HM206

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

厚生労働省から診療録管理体制加算が設けられ、医療機関での診療情報の管理が評価されるようになった。診療情報の定義、保存期間、管理方法、活用方法、統計といった業務内容について学ぶ。診療情報を管理する職員として個人情報保護、倫理も考えていく。

【到達目標】

- ・医療機関にとって「命の記録」ともいえる診療情報を管理することの重要性を理解できる。
- ・統計指標の意味がわかり、データに応じて適切なグラフの選択ができる。
- ・個人情報保護と守秘義務を学び、情報漏洩をしない意識を養える。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：診療情報管理の必要性と学ぶ意義 診療情報の意味

第2回：診療情報管理の歴史

第3回：診療情報管理部門の位置づけと業務

第4回：診療録の記載方法と管理(1)

第5回：診療録の記載方法と管理(2)

第6回：臨床指標

第7回：医療統計学（基本統計量）

第8回：医療統計学（グラフ） 診療記録の電子化への対応

第9回：診療情報と個人情報保護(1)

第10回：診療情報と個人情報保護(2)

第11回：診療情報と個人情報保護(3)

第12回：DPC（診断群分類）とICD（国際疾病分類）

第13回：ICDコーディング

※（担当 特別講師）

第14回：基礎医学知識

第15回：医療文書

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

医療業界では診療情報管理の資格の必要性が増している。記録の重要性、統計、個人情報保護は、医療事務のみならず、社会人として知っておくべきであるため、社会人の一般常識のつもりで理解に努める。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
 2. 復習として、講義資料にある問題を復習する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	医療情報・病歴管理のテキスト（詳細未定）	未定	一般社団法人 日本病院管理教育協会	未定	未定

自由記載 講義資料

参考書	自由記載	メディカルシステム論 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン 「映像で知る情報セキュリティ」 (DVD: 情報処理推進機構) 「医療向け個人情報保護法対策」 (DVD: 東邦薬品)
-----	------	--

【その他】

特別講義の日程調整の関係で、講義の順番が変わることがある。

授業科目名	医療接客演習		サブタイトル		授業番号	HM303
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】</p> <p>サービス業への就職を希望する学生が多い中、自ら接客を練習する機会を増やすことが望まれる。接客を練習することで、実際の仕事においても言葉、表情、態度に出るようになる。受付役と来客役等、実際に接客を練習するため、グループワークが多い。医療用語の説明をする練習も行うので、この演習を受講するには「診療報酬請求事務」、「医療管理事務総論」、「医療秘書学」の単位を取得しておくことが望ましい。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関における患者対応、接客技術を理解している。 ・社会人としての来客対応、電話対応の方法を理解している。 ・医療制度や診療報酬の基礎を理解して、医療用語を患者様に説明することができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：ビジネスマナー・敬語の練習 第2回：医療スタッフのサービスマインド・敬語の練習 第3回：接客マナーの基本(1)就業中のマナーと医療機関のマナー・報告対応の練習 第4回：接客マナーの基本(2)安心感を与える印象・報告対応の練習 第5回：接客マナーの基本(3)信頼関係を築く言葉づかい・来客対応の練習 第6回：接客マナーの基本(4)電話対応の基本・電話練習 第7回：医療接客の専門家による実践指導 ※（担当 特別講師） 第8回：コミュニケーションの基本と応用(1)人間関係とコミュニケーション・電話練習 第9回：医療機関で働くための基礎知識(1)担当業務ごとの対応の基本・電話練習 第10回：医療機関で働くための基礎知識・傾聴練習 第11回：患者とご家族の心理 心のケア・傾聴練習 第12回：医療事務職員としての接客練習(1) 第13回：医療事務職員としての接客練習(2) 第14回：医療事務職員としての接客練習(3) 第15回：医療事務職員としての接客練習(4)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

患者様（お客様）を満足させる接遇を心がけ、日ごろから身だしなみ、言葉遣い、姿勢に気を配る。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
2. 復習として、教科書を読んで復習する。
3. 日常会話の中で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を意識して正しく使用する。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	医療に従事する人のための改訂版 患者接遇マナー基本テキスト	田中 千恵子	日本能率協会マネジメントセンター	1,944 (税込)	978-4820759539

自由記載 「診療報酬請求事務の実務 診療報酬請求の演習」あった方が望ましい。

参考書	自由記載	ヒヤリ・ハット小劇場実録26事例 佐野厚生総合病院編—らくらく楽しい医療安全教育研修にそのまま使える(DVD：メディカ出版) らくらく合格サービス接遇検定2級+準1級集中レッスン&問題集 (ナツメ社) DVDで学べる人のビジネスマナー (DVD：西東社) 秘書検定準1級面接合格マニュアル (DVD：実務技能検定協会) 秘書検定1級面接合格マニュアル (DVD：実務技能検定協会) 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21) 医療スタッフの接遇マニュアル (DVD：日本経済新聞出版社)
-----	------	---

【注意事項】

特別講義の日程調整の関係で、講義の順番が変わることがある。

授業科目名 **メンタルヘルス学**

サブタイトル

授業番号 HG110

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

現代はストレス社会であり、ストレスは日常生活、社会で働く上で向き合わなければならない問題である。メンタルヘルス不調を未然に防止するため、ストレスやセルフケアに関する知識、自分に合ったストレス解消方法を身につける。これから社会に出る者としてのストレス対処能力を考えていく。

【到達目標】

1. ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。
2. 自らのストレスの状況を把握できる。
3. メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識がある。
4. 自分に合ったストレス解消方法を探し、実践することができる。

本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：メンタルヘルスケアの意義 ストレスチェック義務化法について

第2回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(1)

第3回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(2)

第4回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(3)

第5回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(4)

第6回：セルフケアの重要性(1)

第7回：セルフケアの重要性(2)

第8回：ストレスへの気づき方(1)

第9回：ストレスへの気づき方(2)

第10回：ストレスへの対処，軽減方法(1)

第11回：ストレスへの対処，軽減方法(2)

第12回：ストレスへの対処，軽減方法(3)

第13回：メンタルヘルスとコミュニケーション

第14回：メンタルヘルスと活用資源

第15回：歴史上の人物から学ぶストレス対処

	種別	割合	評価規準・その他備考	
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	定期試験	70%		最終的な理解度を評価する。
	その他			
	自由記載			

【受講の心得】

精神医学に関する専門用語が多く出るため、自分で調べて理解する習慣が必要である。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
 2. 復習として、教科書を読み返し、課題に取り組む。
 3. メンタルヘルスに関する新聞記事を読む習慣をもつ。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストⅢ種 セルフケアコース 第4版	大阪商工会議所	中央経済社	1,944 (税込)	978-4502214912
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	ストレスに負けない技術-コーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社) マンガでわかりやすいストレス・マネジメント-ストレスを味方にする心理術(きずな出版) マンガでわかる! アドラー心理学 折れない心の作り方(宝島社) ミニドラマで学ぶメンタルヘルス (コミュニケーション編) (DVD：第一法規) ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防セルフケア編(DVD：第一法規)			

授業科目名	医療機関実習		サブタイトル		授業番号	HM304
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
岡山市，倉敷市を中心に中国地区の主な医療機関（約20施設）で3日間，病院事務部門の現場実習を行う。医療事務コースの学生は必修である。医療機関において，受付業務，患者対応，レセプト作成，会計，病棟事務等の現場経験を積む。						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人として相応しい態度，身だしなみで実習を行える。 ・ 大学の規則を守り，実習指導者の指示をよく聴いて，報告・連絡・相談・確認を行える。 ・ 実習内容を省みて，発表することができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 実習の心得，希望先アンケート，病院業務について 第2回 実習先決定の途中経過，接遇マナーについて 第3回 実習に当たっての注意事項などの再認識&質疑 第4～7回 病院実習第1日目（約6時間／日） 第8～11回 病院実習第2日目（約6時間／日） 第12～15回 病院実習第3日目（約6時間／日）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	実習の説明を聴く態度，実習準備の態度で評価する。			
	レポート	50%	実習日誌の内容と実習指導者の講評を読んで評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	実習報告会の発表内容で評価する。			
自由記載	3回の講義出席，期日までに実習費の支払，大学と医療機関の規則を遵守しての3日間の実習，実習日誌提出，名札返却，実習報告会での発表，これら全て単位取得における義務である。					
【受講の心得】						
全ての講義が実習前の重要な説明になるので，必ず出席すること。大学の規則を守り，医療機関の実習指導者の指示をよく聴き，身だしなみ，言葉遣い，実習態度に気をつける。個人だけでなく中国短期大学の学生として評価されることに注意する。						
使用テキスト	自由記載	説明資料を配布する。				
参考書	自由記載	「診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習」「医科診療報酬点数表」「メディカルシステム論」「病院のすべてがわかる！」				
【その他】						
実習先を選ぶアンケート調査あり。						

授業科目名	生活産業実習	サブタイトル		授業番号	HG301
担当教員名	藤田 悟 小築 康弘				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<p>【授業の概要】</p> <p>アパレル・ハウジング・フードなど、私たちの生活を支える「生活産業」に関する企業について、生活産業の概況など、流通・販売における基礎知識に関する講義を受け、さらに企業見学・調査・ショップリサーチを実施後、企業実習を体験し、就職前（社会に出る前）に必要な人間関係を学ぶ。</p> <p>【ショップリサーチ】</p> <p>企業比較研究の基礎として自主企画でのショップリサーチを実施する。好きな店舗を事前研究し、実際に店舗に出向き覆面調査を行って報告書を作成する。</p> <p>【企業現場見学】</p> <p>アパレル工場、アパレル素材工場、食品工場、ワイン・ビール工場、自動車工場、各メーカー研究所、流通センター、専門販売店、デパート、スーパーマーケットなどの生活産業の中から3カ所を選んで見学に行く予定。見学先について事前学修（調査）を行うと共に、見学後、学修した内容をレポートにまとめる。</p> <p>【企業実習】</p> <p>アパレル工場、アパレル素材工場、建材工場、住宅展示工場、食品工場、ワイン・ビール工場、各メーカー研究所、流通センター、専門販売店、デパート、スーパーマーケットなど生活産業の中から生活産業関連企業現場において、3日間程度実習を行う。実習先については、大学（学科）が指定する企業の他、希望によって実習先を選択して働きかけるが、全てが希望する実習先にならない場合もある。また、学生の申請により、各自のアルバイト先等を審査の上実習先として承認する。いずれの場合においても、実習企業について予め各自が調査研究し、実習を通じての研究目標を設定し、実習計画書として事前に提出。実習終了後は、実習報告書（レポート）を提出する。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仕事に必要な最低限のビジネスマナーを身につけている。 2. ショップリサーチや体験実習による社会的経験を報告書としてまとめることができる。 3. 実際のビジネス現場での実習を通じてコミュニケーションの手法を身に付けることができる。 <p>なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げている職業または実際生活において必要な能力を備えた人材を養成するために学士力<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>【授業計画 備考】</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生活産業の基礎知識（講義2回） 生活産業とは／会社の仕組み／会社での仕事／仕事のマナー／代表的な業界の構造について、講義（2回）を実施する。 (2) ショップリサーチ（講義1回、演習1回、実習1回） 大型ショッピングモールの旗艦店より、自分の関心や興味のあるショップに出向きリサーチを実施する。 (3) 企業現場見学（3ヶ所） 2～3ヶ所の業種の異なる企業現場を見学する。授業時間割の時間内に実施する予定。実施日の前後に事前学修及びまとめの時間を設ける。具体的スケジュールは別途指示する。 (4) 企業実習（3日間・24時間） 各人1ヶ所、3日間（24時間）、夏期休暇中（9月中旬予定）の実施とする。アルバイト先等を実習先とする場合には、日時・期間については内容および効果を勘案して、相談の上、別途指定する。実施前にオリエンテーション（事前学修）および実施後に報告書をまとめて提出する。 					

第1回：生活産業実習の概要と実習，ショッピングリサーチ，企業見学についての説明と産業構造説明	※（担当 担当全教員）
第2回：生活産業実習の基礎知識 1	※（担当 藤田）
第3回：生活産業実習の基礎知識 2	※（担当 藤田）
第4回：社会調査の役割と自主企画におけるショッピングリサーチの説明	※（担当 藤田）
第5回：自主企画ショッピングリサーチ実施（大型ショッピングモール旗艦店）	※（担当 藤田）
第6回：自主企画ショッピングリサーチ結果報告書作成	※（担当 藤田）
第7回：企業見学の説明と注意事項（各分野の産業説明含む）	※（担当 藤田）
第8回：食品産業メーカー見学予定（見学先未定）	※（担当 担当全教員）
第9回：アパレルメーカー工場見学予定（見学先未定）	※（担当 担当全教員）
第10回：その他メーカー工場見学予定（見学先未定）	※（担当 担当全教員）
第11回：企業見学レポート作成，お礼状作成	※（担当 藤田）
第12回：企業実習先確認および注意事項説明	※（担当 藤田）
第13回：企業実習	※（担当 藤田）
第14回：企業実習	※（担当 藤田）
第15回：企業実習	※（担当 藤田）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な受講態度，講義，事前学修の状況によって評価する
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	レポート内容，ショッピングリサーチの報告書，企業見学レポート，実習報告書についての評価は，各課題に沿ってレポートが作成されているか，自分なりの視点をもって考察しているか，自分なりの考え方が書かれていて独創的であるかなどについて評価する。実習報告書は，課題目標からの問題について関連づけてまとめようと努力しているかなどについて評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

礼儀正しい態度で講義，ショッピングリサーチ，企業見学，企業実習に臨むこと

【授業外学修】

見学先，実習先について事前学修をしておくこと

使用テキスト	自由記載	随時，プリント使用
参考書	自由記載	

授業科目名 **生活コミュニケーション論**

サブタイトル

授業番号 HG105

担当教員名 奥村 弥生

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

人が社会の中で生きていく上で、互いの思いを伝え理解し合うためのコミュニケーションは欠かせないものである。この授業では、コミュニケーションとは何か、どのように成り立つのかについて基礎的な知識を身につける。また、様々な種類の人間関係におけるコミュニケーションについて学ぶ。

【到達目標】

- ・コミュニケーションの重要性を理解し、自分の生活に照らして考えることができる
- ・コミュニケーションに関する基礎的な知識を身につける

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：コミュニケーションを学ぶ意義
- 第2回：自己理解
- 第3回：信頼関係の構築
- 第4回：傾聴と共感
- 第5回：援助とソーシャルサポート
- 第6回：訊く・質問する
- 第7回：自己表現とアウトプット
- 第8回：自己主張・説得
- 第9回：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
- 第10回：文字・文章によるコミュニケーション
- 第11回：親子のコミュニケーション
- 第12回：家族のコミュニケーション
- 第13回：組織におけるコミュニケーション
- 第14回：コミュニケーションの障害
- 第15回：総括

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度によって評価する。
	レポート	30%	授業毎の内容の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験	50%	内容全体の理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること。

【授業外学修】

・配布資料を基に予習・復習をすること

・授業で紹介した本や資料を読むこと

以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		大学生の生活のためのソーシャルスキル	橋本 剛 著	サイエンス社	1, 782円 (税込)	978-4-7819-1183-0
		エピソードでつかむ青年心理	大野 久 著	ミネルヴァ書房	2, 600円 + 税	978-4-6230-5737-5
		自由記載				

授業科目名 **生活コミュニケーション演習A**

サブタイトル

授業番号 HG106

担当教員名 奥村 弥生

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

コミュニケーションについて学ぶ第一歩は、「自分を知る」ことである。海外の人とやり取りする際には、自国のことを知っていなければ話ができないのと同様に、自己理解を深めることは、自分と異なる存在である他者を理解し、互いに尊重し合うための基盤となる。この演習では、様々なワークやグループディスカッションを通じて自己理解を深め、他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考える。

【到達目標】

- ・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や、自己理解の枠組みを説明できる
- ・ワークやディスカッションを通じて自己理解を深めている

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：コミュニケーションにおける自己理解の重要性—ぼくを探しに

第2回：現在の自己の全体像

第3回：自我状態を知る

第4回：自分の性格を知る

第5回：自己肯定感とは

第6回：日々の生活を見つめ直す

第7回：対人地図—自分をとりまく人間関係

第8回：自分の感情を知る

第9回：自分のストレスと対処法

第10回：自分の強みを知る(1)

第11回：自分の強みを知る(2)

第12回：自信を持つ

第13回：未来の自分を描く(1)

第14回：未来の自分を描く(2)

第15回：総括

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。
	レポート	75%	授業毎に、内容の理解度・修得度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと
- ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること

【授業外学修】

・配布資料を基に予習・復習をすること

・授業で紹介した本や資料を読むこと

以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック自己理解編	寿山泰二 著	金子書房	1,300円 +税	978-4-7608-3913-1
	自由記載					

授業科目名 **生活コミュニケーション演習B**

サブタイトル

授業番号 HG204

担当教員名 奥村 弥生

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

コミュニケーションの基本として、他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。また、傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助することや、より積極的に対象を知るための適切な聞き方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず、真に相手を知り、理解しようとする姿勢を身につける。

【到達目標】

・コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解しているとともに、様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている

・ワークやディスカッションを通じて、様々なきき方の基本的スキルを身につけている。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：いろいろなきき方—聞くhear, 聴くlisten, 訊くask

第2回：正確に聞く—伝言ゲーム

第3回：オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン

第4回：傾聴する

第5回：他者の感情を理解する

第6回：思いやりと援助

第7回：苦情への対処

第8回：傾聴訓練（1）

第9回：傾聴訓練（2）

第10回：質問する

第11回：積極的に訊く

第12回：情報を集める・まとめる

第13回：インタビュー訓練（1）

第14回：インタビュー訓練（2）

第15回：総括

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。
	レポート	75%	授業毎の内容の理解度・修得度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと

・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること

【授業外学修】

・配布資料を基に予習・復習をすること

・授業で紹介した本や資料を読むこと

以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		プロカウンセラーの聞く技術	東山紘久 著	創元社	1, 512円	978-4-422-11257-2
		マンガでわかる！質問力	谷原 誠 監修	宝島社	1, 100円 + 税	978-4-8002-7063-4
	自由記載					

授業科目名 **生活コミュニケーション演習C**

サブタイトル

授業番号 HG209

担当教員名 奥村 弥生

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

コミュニケーションの基本として、「伝える、表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や、自分の意見を適切に表現するスキルについて学ぶ。また、円滑な人間関係を構築し維持するためのスキルを学ぶ。さらに、非言語的コミュニケーションや文字によるコミュニケーションなどについても学び、表現の幅を広げる。

【到達目標】

- ・コミュニケーションにおける自己表現の重要性や、人間関係を円滑に営むためのスキルについて説明できる
- ・様々な自己表現の仕方や人間関係のスキルの基礎が身についている

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：伝えること・表現することの基本

第2回：自己開示—ジョハリの窓

第3回：会話のはじめ方と人間関係づくり

第4回：雑談，ユーモア，愚痴の意義

第5回：援助を求める

第6回：アサーション(1)

第7回：アサーション(2)

第8回：上手に断る

第9回：説得する

第10回：お礼と謝罪

第11回：非言語的表現（1）

第12回：非言語的表現（2）

第13回：アートによる表現

第14回：文章による表現

第15回：総括

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
	レポート	75%	授業毎の内容の理解度・修得度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと
- ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること

【授業外学修】

・配布資料を基に予習・復習をすること

・授業で紹介した本や資料を読むこと

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載					
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		マンガでやさしくわかるアサーション	平木典子 著	日本能率協会マネジメントセンター	1,500円 +税	978-4-8207-1928-1
		学びを結果に変えるアウトプット大全	権沢紫苑 著	サンクチュアリー出版	1,450円 +税	978-4-8014-0055-9
		自由記載				

授業科目名	生活コミュニケーション演習D		サブタイトル		授業番号	HG214
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>集団や組織におけるコミュニケーションの特徴や、集団での問題解決、ディスカッションに関する基礎的知識を身につける。ワークを通じて架空事例の問題解決を考えたり、グループごとに一つのテーマ（本や映画などの文化的な題材や、時事問題など社会的なテーマ）について話し合ったりといった経験を積み重ねていく。幅広いテーマを取り上げることを通じて、コミュニケーションの「仕方」だけでなく、伝える「中身」を豊かなものにしていくことも目指す。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・集団におけるコミュニケーションの特徴について説明できる ・集団コミュニケーションの知識・スキルの基礎が身についている ・コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解している。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：集団・組織におけるコミュニケーション 第2回：集団圧力・葛藤への対応 第3回：上下関係のスキル 第4回：褒めるスキル・叱るスキル 第5回：和解・妥協のスキル 第6回：実りある会議 第7回：問題解決ワーク（1） 第8回：問題解決ワーク（2） 第9回：問題解決ワーク（3） 第10回：問題解決ワーク（4） 第11回：テーマ別ディスカッション（1） 第12回：テーマ別ディスカッション（2） 第13回：テーマ別ディスカッション（3） 第14回：テーマ別ディスカッション（4） 第15回：総括</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。			
	レポート	75%	授業毎の内容の理解度・修得度を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと
- ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること

【授業外学修】

- ・配布資料を基に予習・復習をすること
 - ・授業で紹介した本や資料を読むこと
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載					
		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書		人間関係づくりトレーニング	星野欣生 著	金子書房	1,800円 +税	978-4-7608-3025-1
	自由記載					

授業科目名	日本語表現		サブタイトル	(日本語の用字用語と言語表現について)	授業番号	EA201
担当教員名	又吉 里美					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
本講義は、適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」「話すこと・聞くこと」の演習をおこなう。また、表現活動のおもしろさを味わう。						
【到達目標】						
1. 適切な日本語表現を身につける。 2. 意見文を中心として、様々な種類の文章が書けるようになる。 3. 就職活動や就職後にありえる場面や状況に応じた日本語について理解し、実際に使うことができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
本講義では、場面や状況に応じた日本語の使い方を学ぶために、意見文を中心に多様な種類の文章を実際に書いていく。						
第1回：授業概要・日本語を用いた対話（自己紹介） 第2回：日本語を用いた対話（他己紹介） 第3回：日本語表現の留意点(1)類義語 第4回：日本語表現の留意点(2)日本語の構造 第5回：日本語表現の留意点(3)書き言葉 第6回：日本語表現の留意点(4)外来語 第7回：日本語表現の留意点(5)区切って書く 第8回：意見文を書く(1)分析と考察を書く 第9回：意見文を書く(2)事実・意見・感想の違い 第10回：意見文を書く(3)事実・意見・根拠の構造で書く(1) 第11回：意見文を書く(4)事実・意見・根拠の構造で書く(2) 第12回：物語を書く(1)構想して物語を書く(1) 第13回：物語を書く(2)構想して物語を書く(2) 第14回：物語を書く(3)評価と鑑賞 第15回：振り返りとまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度，課題への取組などの状況によって評価する。			
	レポート	50%	毎回，課題を提示する。また，授業中の課題も評価対象とする。			
	小テスト					
	定期試験	40%				
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

- ・初回授業時に詳細を提示する。
- ・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。

【授業外学修】

- 1, 予習として, 課題に取り組むこと。
- 2, 復習として, 授業で学んだことを実践すること。
- 3, 発展学習として, 授業で紹介した参考文献(授業時に適宜紹介する)を読むこと。

以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。
参考書	自由記載	

授業科目名	芸術		サブタイトル	アートに親しむ	授業番号	EA202
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
アートカードなどを使った鑑賞ゲームや、岡山県内の美術館に赴いての作品鑑賞や、スライドによる作品鑑賞を行うほか、デザインとアートとの共通点や相違点にも触れながら、個人の暮らしと社会における両者の意味を探求する。また、自分が好きなアート作品について調べ、鑑賞会を行う。なお、授業中のディスカッションで学習内容を主体的に振り返る。						
【到達目標】						
心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味について理解を深めることが目標である。この授業はディプロマポリシーに掲げられた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
第6回第7回は学外での美術鑑賞を予定しており、同日に連続して行うほか、現地集合・現地解散とする。このため、通常授業と異なる曜日・時間帯に行う。なお、美術館への交通費は自己負担とするが、観覧は無料。保育学科の学生が履修した場合、学外実習期間中は休講とし、別日にて補講を行う。						
第1回：オリエンテーション、美術鑑賞いろいろ、ディスカッション：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？ レポート作成						
第2回：芸術は昔からあったのか？/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り						
第3回：西洋V.S.日本 神仏像の比較でなにがみえる？/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り						
第4回：アートはお金持ちのもの？庶民のもの？/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り						
第5回：鑑賞と五感 アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り						
第6回：美術館での鑑賞(1)						
第7回：美術館での鑑賞(2) 振り返り(スライド鑑賞との違い)						
第8回：鑑賞と記憶や経験(大人の鑑賞と子どもの鑑賞の比較)/アートカードゲーム/作品鑑賞/振り返り						
第9回：鑑賞会に向けて(1) 鑑賞ナビゲーターの基本姿勢と役割/アートゲームと鑑賞の関係						
第10回：鑑賞会に向けて(2) 作品選定・鑑賞作品の研究						
第11回：鑑賞会に向けて(3) 鑑賞作品の研究/ゲームと鑑賞ナビゲートの練習・観察/振り返り						
第12回：鑑賞会に向けて(4) アートゲームと鑑賞ナビゲートの練習・観察/振り返り						
第13回：鑑賞会とディスカッション：鑑賞で発揮されて育つ力とは？鑑賞には何が必要か？						
第14回：デザインって何だろう？ あなたのー押しデザインは？						
第15回：レポート発表：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	振り返りや鑑賞会における意欲・関心・態度によって評価する。			
	レポート	40%	課題意識を持ち、具体的に述べていることを評価する。			
	小テスト	0%				
	定期試験	0%				
	その他	0%				
自由記載						

【受講の心得】

授業中，作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに，他者の発言に耳を傾け，自分の鑑賞の手がかりとすること。

【授業外学修】

自分が好きなデザインや紹介したい芸術作品について調べるほか，資料を用意してプレゼンテーションや鑑賞会の準備をすること。また，アートゲームと鑑賞する作品との関係性について理解を深める。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本国憲法**

サブタイトル (立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ)

授業番号 EA203

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

憲法の歴史、立憲主義に基づく憲法の内容と特徴、日本国憲法の誕生、個人の尊重と法の支配、人権、統治機構について講義する。

【到達目標】

日本国憲法は立憲主義に基づく憲法であり、個人の尊重を最も基本的な価値観としており、人権保障を何よりも重視している。また、人権保障を実現するために、法の支配を統治機構の基本原則とし、権力分立、民主主義、平和主義を採用していることを理解することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士科の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：立憲的意味の憲法とはどういうものか。
- 第2回：憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第3回：日本国憲法はどのようにして生まれたのか。
- 第4回：日本国憲法の基本原則1、個人の尊重とはどういうものか。
- 第5回：日本国憲法の基本原則2、法の支配とはどういうものか。
- 第6回：日本国憲法では平和主義をどう定めているか。
- 第7回：人権の意味と特徴とは何か。
- 第8回：表現の自由とは何か。
- 第9回：信教の自由とは何か。
- 第10回：人身の自由、刑事手続における権利とは何か。
- 第11回：生存権とは何か。
- 第12回：プライバシーの権利とは何か。
- 第13回：権力分立の原理とは何か。
- 第14回：地方自治とは何か。
- 第15回：憲法改正について考えよう。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 課題についてレポートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	伊藤真の日本一やさしい「憲法」の授業	伊藤真	KADOKAWA	1400円+ 税	978-4- 04- 601993-6
	自由記 載				
参考書	自由記 載	授業において随時紹介する。			

授業科目名 **社会学**

サブタイトル (配偶者の選択と家族編成の社会的規則)

授業番号 EA204

担当教員名 中田 周作

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。

【到達目標】

現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化
- 第2回：家族社会学における「家族」の定義
- 第3回：家族を対象とした社会学的アプローチの方法
- 第4回：家族の種類と分類
- 第5回：青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察
- 第6回：青年期の異性交際の実態
- 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か
- 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム
- 第9回：配偶者選択のプロセス
- 第10回：結婚の社会的意味
- 第11回：結婚の社会的機能
- 第12回：離婚の社会的意味と機能
- 第13回：家族の新しい形
- 第14回：子どもの養育
- 第15回：老親の介護

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	データを読み解くグループワークへの姿勢などを参照します。
	レポート	70%	全ての講義終了後に、最終レポートを提出してもらいます。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	20%	講義のときに毎回、コメントペーパーを提出してもらいます。
	自由記載		

【受講の心得】

自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。
しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。

【授業外学修】

1. テキストを事前に読んでくること。
文章を読むだけではなく、掲載されている図表の意味するところを考える。
具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。
2. 最終レポートの課題を探しながら受講すること。
テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。

両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組みむこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新しい家族社会学	森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4

自由記載

参考書

自由記載

講義の進行にあわせて適宜紹介する。なお、一部のコマにおいて、フィールドワークを実施する場合もある。

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	EA205
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
【到達目標】 私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：授業概要の説明、自然科学の基礎講座I 第2回：自然科学の基礎講座II 第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」 第4回：学内環境を科学する(観察と観測、結果の考察) 第5回：タイムマシンは作れるか？(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ) 第6回：君のひとみは一万ボルト？はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト！（高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質） 第7回：水に関する基礎講座ならびに実験と実習 第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは？(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック) 第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習（分子構造について学ぶ） 第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習 第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習 第12回：見上げてごらん夜の星を！スマホで撮ろう流れ星（宇宙と科学） 第13回：外部講師による授業（子どもたちに科学実験の講座を数多く実践されている「岡山のでんじろう先生」の科学に纏わるお話や実験） 第14回：自然科学教材を用いた体験学修 第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	最終レポート（子どもたちに科学実験教室を実施する想定での企画書を作成する。）			
	小テスト					
	定期試験					

その他	60%	毎回の授業で「ふりかえりシート」を書いてもらう。何に気づき、何を得たのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。
-----	-----	--

自由記載

【受講の心得】

この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい。各回の授業の最後に提出してもらう「ふりかえりシート」は、試験代わりの成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい(シートの返却が必要な人には個別対応するので、担当教員に直接その旨を申し出ていただきたい)。

【授業外学修】

1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。
 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。
- 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

授業科目名	情報処理概論		サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)		授業番号	EA206
担当教員名	赤木 竜也						
対象学部・学科			単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお、本授業は教職必修科目である。							
【到達目標】 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：コンピュータの基礎知識 第3回：ワードプロセッサの基本 (文書の作成) 第4回：ワードプロセッサの活用 (編集機能) 第5回：ワードプロセッサの活用 (表・図形機能) 第6回：表計算ソフトの基本 (基本的な表の作成1) 第7回：表計算ソフトの基本 (書式設定) 第8回：表計算ソフトの基本 (基本的なグラフの作成) 第9回：表計算ソフトの基本 (基本的な表の作成2) 第10回：表計算ソフトの応用 (基本的な関数) 第11回：表計算ソフトの応用 (応用的な関数) 第12回：表計算ソフトの応用 (応用的な関数) 第13回：表計算ソフトの応用 (データベース機能) 第14回：アプリ間のデータ活用 第15回：総合演習・まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		70%	習熟達成度を評価する			
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する			
自由記載							
【受講の心得】 コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。							
【授業外学修】 授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

30時間でマスター
Word&Excel2016 (Windows10対応)

実教出版編修部

実教出版 1, 026円

978-4-
407-
34019-8

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(子どものからだと心の健康)	授業番号	EA207
担当教員名	土田 豊					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。</p>						
【到達目標】						
<p>人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している習慣や保育・教育の現場で実践されている事柄の意味について知ることを目的とする。</p> <p>人間のからだと心の仕組みについて理解し、教育の現場に出た際、子どもたちのからだと心の異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：「体力」について考える</p> <p>第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える</p> <p>第3回：「自律神経」のはたらきについて考える</p> <p>第4回：「土踏まず」のはたらきについて考える</p> <p>第5回：「背筋力」のはたらきについて考える</p> <p>第6回：「健康診断」で分かることについて考える</p> <p>第7回：「前頭葉」のはたらきについて考える</p> <p>第8回：「子どものからだと心を元気にする方法」について考える</p> <p>第9回：</p> <p>第10回：</p> <p>第11回：</p> <p>第12回：</p> <p>第13回：</p> <p>第14回：</p> <p>第15回：</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。			
	レポート	40%	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。			
	小テスト	30%	全8回の授業内容を踏まえ、子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【授業外学修】

1. 「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。
2. 各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。
3. 授業で学んだことを日常生活で実践したり、保育現場で見聞きした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	その都度プリントを準備する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **体育実技**

サブタイトル (適切な運動実践)

授業番号 EA208

担当教員名 土田 豊

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 実技

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：体力テスト

第2回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）

第3回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）

第4回：バレーボールIII（ゲームの展開）

第5回：バレーボールIV（ゲームの展開）

第6回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）

第7回：バドミントンII（ゲームの展開）

第8回：バドミントンIII（ゲームの展開）

第9回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）

第10回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）

第11回：バスケットボールIII（ゲームの展開）

第12回：バスケットボールIV（ゲームの展開）

第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）

第14回：卓球II（ゲームの展開）

第15回：卓球III（ゲームの展開）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	バレーボールとバスケットボールにおいては技能テストを実施する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。

全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

1. 日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。

2. 各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）
参考書	自由記載	

授業科目名 **フレッシューズセミナー** サブタイトル 授業番号 EA101

担当教員名 原田 眞澄 松井 みさ 大橋 美佐子 山本 房子 平尾 太亮 鳥越 亜矢 松谷 和俊

対象学部・学科 単位数 2単位
 開講年次 1年 開講期 前期
 必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

導入教育を目的として開講された本科目では、新入生が学生生活を有意義なものとするため、大学生として必要な勉学の進め方や、自立した生活の基礎を学ぶ。各種オリエンテーションや研修等の様々な活動を通じて、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションを図る。

【到達目標】

大学生として必要な勉学の進め方や自立した生活の基礎を学び実行できるようになる。また、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションを図ることができるようになる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回 大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など）。
- 第2回 大学のしくみを知る（履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方など）。
- 第3回 大学のしくみを知る（学生生活全般について）。
- 第4回 大学の施設を知る（図書館の利用）。
- 第5回 大学の施設を知る（情報処理センターの利用）。
- 第6回 協働の喜びを知る（学科行事，大学行事などを通じて）。
- 第7回 ボランティア活動の意義を知る。
- 第8・9回 保育関係の進路を知る。
- 第10回 先輩の体験談から学ぶ。
- 第11・12回 地域の特色を知る。
- 第13回 ボランティア活動の進め方を知る。
- 第14・15回 グループワーク「自分の進む道」を行う。

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，発表への参加によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50%	振り返りシートに学んだことをまとめるとともに，自分の課題等を具体的に述べていること。振り返りシートについては，担任が押印して返却する。
自由記載		

【受講の心得】

本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。

【授業外学修】

課題の予習，復習を必ず行う。
 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト 自由記載 なし 入学当初のガイダンスには，【学生手帳・授業概要】を持参すること。

参考書

自由記載

授業科目名	地域創生論		サブタイトル	(地域資源の活用)	授業番号	EA209
担当教員名	加藤 せい子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>私たちが暮らす地域について、まずは地域とは何か「知る」ことから講義を始め、まち歩きなどから地域の資源を自分で知ること「好き」になり、愛着が生まれ自分の地域に「還る」循環を創る仕組みを知る。外部講師を招き、実践を積み重ねていき地域づくりのノウハウを会得し、自ら参画していく意識を醸成していくことを目的にする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>自分の地域に誇りを持ち、何ができるかに気づく。 地域に関心を持ち、自ら地域を語れることができる。 また地域で出来ることを意識し、自ら企画運営ができる基盤を創る。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：地域創生とは 第2回：地域に関心を持つ 地域づくりの事例 地域資源とは？ 第3回：地域に関心を持つ 地域の魅力を知る（プレストーミング） 第4回：地域に関心を持つ 地域の課題を知る（親和法） 第5回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の現状 ワークショップ ※（担当特別講師） 第6回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の高齢者対策 ワークショップ ※（担当特別講師） 第7回：地域が抱える課題 岡山県の生活文化振興 ワークショップ ※（担当特別講師） 第8回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(1) 第9回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(2) 第10回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(3) 第11回：地域開発の実践ワークショップ プレプレゼンテーション 第12回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション 第13回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション 第14回：地域開発の実践ワークショップ プログラム実践 第15回：地域開発の実践ワークショップ ふりかえり</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20%	レポートにより授業の理解度を評価する。
小テスト		
定期試験	50%	地域開発に関するプレゼンテーションの完成度によって評価する。
その他		
自由記載		

【受講の心得】

本科目はワークショップ方式を使い授業を進めるので，仲間同士で意見を出しながら進めていく。振り返りレポートの提出が必須。

【授業外学修】

次回授業するテキスト部分を読み込み，分からない部分は事前に調べて授業に参加する。以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『システム×デザイン思考で世界を変える』	前野隆司	日経BP社	1,800	
	自由記載	『システム×デザイン思考で世界を変える』，前野隆司	編，日経BP社		
参考書	自由記載				

授業科目名	ボランティア論		サブタイトル	地域社会で生きる	授業番号	EA210
担当教員名	福森 護					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>阪神淡路大震災を契機にボランティア活動に対する関心が高まり、また、東日本大震災を契機に、ボランティア活動とは何かが改めて問われている。その分野は福祉、教育、まちづくり、環境、災害救援、国際協力等幅が広い。本科目は、ボランティアの意義や歴史、また、それぞれの分野で活躍する実践者からボランティア活動についての現状と課題、今後の可能性、個人や社会とのつながりなどを学び、自らも主体的に行動できる知識の修得を目指す。</p>						
【到達目標】						
<p>ボランティアの意義や各分野の活動の実態等を知ること、地域社会で起きている問題を解決するために何が求められているのか、また自分に何が出来るのかを考えることができる。</p> <p>ボランティア活動をとおして、相手にどのような影響を及ぼすか、そして、人や組織が対等な関係でつながるといふことはどういうことかを考えることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：ボランティア活動とは？ ※（担当福森護）</p> <p>第2回：ボランティアの歴史・社会的役割 ※（担当福森護）</p> <p>第3回：ボランティア活動の事例1（地域活動、まちづくり） ※（担当福森護）</p> <p>第4回：ボランティア活動の事例2（企業、福祉） ※（担当福森護）</p> <p>第5回：ボランティア活動の事例3（国際協力） ※（担当福森護）</p> <p>第6回：中国学園におけるボランティア活動 ※（担当学内講師）</p> <p>第7回：社会貢献・文化貢献とボランティア1（地域活性化の活動） ※（担当外部講師）</p> <p>第8回：社会貢献・文化貢献とボランティア2（音楽活動を通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第9回：社会貢献・文化貢献とボランティア3（イベントを通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第10回：社会貢献・文化貢献とボランティア4（芸能活動を通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第11回：ボランティア活動の実際1（動機） ※（担当福森護）</p> <p>第12回：ボランティア活動の実際2（選択） ※（担当福森護）</p> <p>第13回：ボランティア活動の実際3（実践） ※（担当福森護）</p> <p>第14回：ボランティア活動の実際4（報告） ※（担当福森護）</p> <p>第15回：学修と実践をとおして「ボランティア」とはを皆で考える（ディスカッションと発表）。 ※（担当福森護）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	60%	2回のレポートを課す。			
	小テスト					
	定期試験					

その他 40% 2回のボランティア活動を評価する。

自由記載 履修者は、2回以上、ボランティア活動を行うことを義務付ける。

【受講の心得】

ボランティア活動に関心を持ち、理論で学んだことを実践で生かしながらボランティアについて自分の答えを見つけることを求める。

【授業外学修】

- 1.課題のレポートを書く。
- 2.各回で紹介された参考文献や、ボランティア情報をもとに積極的に活動すること。
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	各回で配布する資料等を使用する。
参考書	自由記載	『ボランティア論』, 藺田碩哉 編著, ヘルスシステム研究所 『学生のためのボランティア論』, 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子 編, 社会福祉法人大阪ボランティア協会 『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』, 巡 静一・早瀬 昇 編著, 中央法規出版 『ボランティア学を学ぶ人のために』, 内海成治・入江幸男・水野義之 編, 世界思想社 『ボランティア学のすすめ』, 内海成治 編著, 唱和堂

授業科目名 **英語A**

サブタイトル (保育の英語)

授業番号 EA211

担当教員名 藤代 昇丈 松浦 加寿子 高坂 勝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

グローバル人材を育成するため、多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での1年間を通して、使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。

【到達目標】

外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう、基礎的な語彙・文法事項を理解し、その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき、基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：新学期

第2回：登園・家族

第3回：欠席の連絡

第4回：外あそび・遊具

第5回：園庭・けんか

第6回：昼食・献立表

第7回：着替え・洋服について

第8回：トイレ・昼寝 / 前半のまとめ

第9回：病気・身体の名刺

第10回：緊急の連絡

第11回：ハロウィーンについて

第12回：行事の案内状

第13回：運動会・動作

第14回：散歩・地図

第15回：お絵かき・お手紙書き / 科目授業全体の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめられているかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

- ・ 予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・ 授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。
 2. 復習として、学習した単語や熟語を暗記し、英語表現を音読するなどして身につける。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新・保育の英語	森田和子	三修社	1,900円 +税	978-4-384-33399-2

自由記載

参考書

自由記載

辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。ただし、授業中に携帯電話の辞書機能の使用は認めない。

【その他】

なし

授業科目名 **英語B**

サブタイトル (総合英語演習)

授業番号 EA212

担当教員名 藤井 佐代子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

国内や海外で使用する、英文記事・英語でのメールのやりとり・日常英会話の英語表現を、ペアワークやインタビュー・ゲーム等の実践を通し、聞く、話す、読む、書くという4技能にわたって学び、英語でコミュニケーションを図る知識・技能を修得する。

【到達目標】

英語検定準2級程度に相当する基礎的なコミュニケーション能力、語彙力・文法力を習得する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：歌を通したAuthentic EnglishI

第2回：Unit 1 Nice to meet you!

第3回：Unit 2 What am I thinking of?

第4回：歌を通したAuthentic EnglishII

第5回：Unit 3 Do you like noodles?

第6回：Unit 4 How often do you do yoga?

第7回：洋画を通したAuthentic EnglishIII

第8回：Unit 5 How often do you exercise?

第9回：Unit 6 Time for trivia!

第10回：洋画を通したAuthentic EnglishIV

第11回：e-mail

第12回：crossword I, Unit 7 What does she look like?

第13回：crossword II, Unit 8 Which do you prefer?

第14回：おもてなし英語, Unit 9 What did you do?

第15回： My dream

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	活動や討論への積極的な参加を評価する。
	レポート	40%	学んだ英語表現を使ったスピーチ原稿作成(復習)を評価する。
	小テスト	20%	6回の小テスト結果を評価する。
	定期試験		
	その他		
自由記載			会話やプレゼンに積極的に参加できる。 学んだ英語表現を使った簡単なスピーチ原稿を復習として作成してくる。 小テストでは、英文の内容を8割以上理解することができる。

【受講の心得】

注意深く聞き、自分のもてる力を発揮して伝えたい内容を英語で積極的に伝えようとする。

わからない点は、辞書で調べること。

毎時間、辞書或いは辞書機能があるものを持参すること。

【授業外学修】

- 1.復習のスピーチ原稿を作成してくること。
 - 2.学んだ英語表現を音読したり，書き留めたりして，復習すること。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NOW YOU'RE TALKING!		Chris Elvin	EFL Press	2500 + 税	4580244428939
	自由記 載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	SmartChoice 2nd Edition Student Book 1		Ken Wilson	Oxford University Press		
	自由記 載					

授業科目名 **日本事情 ※留学生 対象科目** サブタイトル 授業番号 -

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

1. 日本の文化や社会, 習慣について幅広く学習し日本人のものの見方, 考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力, そして, 知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。
2. 日本や日本人を正しく理解することができる。
3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。

なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <技能> の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回: オリエンテーション・日本はどんな国か

第2回: 自国を紹介する

第3回: 日本の旅を考える

第4回: 日本の食

第5回: 自国の食文化を紹介する

第6回: 年中行事

第7回: 自国の年中行事を紹介する

第8回: 現代文化とポップカルチャー

第9回: スポーツを楽しむ

第10回: 環境保護を考える

第11回: 教育

第12回: 自国の教育を紹介する

第13回: 政治と憲法

第14回: 多文化共生社会について考える

第15回: 異文化交流

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極的な受講態度, 発話回数, 予習復習の成果で評価する
	レポート	10%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

1. 資料を読んだり, ディスカッションをしたりするので, 自分からどんどん発言すること。
2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。

【授業外学修】

1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。
 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。
 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語I ※留学生対象科目** サブタイトル 授業番号 -

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につけることができること。2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できること。3. 中上級の表現力が習得できること。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：アカデミック・リーディング(1)

第2回：語彙・文法(1)

第3回：アカデミック・ライティング(1)

第4回：アカデミック・リーディング(2)

第5回：語彙・文法(2)

第6回：アカデミック・ライティング(2)

第7回：アカデミック・リーディング(3)

第8回：語彙・文法(3)

第9回：アカデミック・ライティング(3)

第10回：アカデミック・リーディング(4)

第11回：語彙・文法(4)

第12回：アカデミック・ライティング(4)

第13回：アカデミック・リーディング(5)

第14回：語彙・文法(5)

第15回：アカデミック・ライティング(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する
	レポート	10%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。

【授業外学修】

毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。

テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語II ※留学生対象科目** サブタイトル 授業番号 -

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

総合的な日本語力のもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につけることができる。
2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。
3. 中上級の表現力を習得することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：アカデミック・リーディング(1)

第2回：発表・討議

第3回：アカデミック・リーディング(2)

第4回：発表・討議

第5回：アカデミック・リーディング(3)

第6回：発表・討議

第7回：アカデミック・リーディング(4)

第8回：発表・討議

第9回：アカデミック・リーディング(5)

第10回：発表・討議

第11回：プレゼンテーション(1)

第12回：プレゼンテーション(2)

第13回：プレゼンテーション(3)

第14回：プレゼンテーション(4)

第15回：プレゼンテーション(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。
	レポート	20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト		
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。

【授業外学修】

1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。
 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名	保育者基礎演習		サブタイトル		授業番号	EB101
担当教員名	原田 眞澄 上岡 仁 小野 順子 松井 圭三 松井 みさ 大山 佐知子 大橋 美佐子 鳥越 亜矢 中野 ひとみ 土田 豊 山本 房子 平尾 太亮 名定 慎也 松谷 和俊					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>保育学科の実習（施設・保育所・幼稚園）では、乳幼児や障がい児（者）だけでなく教職員との人間関係が基礎となる。そこで、各実習に先駆けて、それらに共通する自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・保育技術・保育現場の実際について、演習や見学などを通して体験的に学んでいく。10人程度を1グループとし、オムニバス形式で以下の内容を網羅する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>保育者としての心豊かな人間性や自主学習力、人間関係を築く上で必要なコミュニケーション力を身につけることができるようになる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p>						
<p>第1回：グループを決める。保育者としての文章表現について知る。ファイルを作成する。 ※（担当全教員）</p> <p>第2回：こども園の見学をする（こども園の生活の理解と観察の方法を学ぶ）。 ※（担当山本房子）</p> <p>第3回：幼稚園の見学をする（幼稚園の生活を理解し、観察の方法を学ぶ）。 ※（担当小野順子）</p> <p>第4回：施設の生活を知る（施設の生活を理解し、支援方法を学ぶ）。 ※（担当平尾太亮）</p> <p>第5回：保育に関する情報の引用方法を学ぶ（図書館活用力の向上、パソコン）。 ※（担当松井圭三）</p> <p>第6回：リズム楽器の奏法と音楽リズムを学ぶ。 ※（担当松井みさ）</p> <p>第7回：ピアノの音を聴く。 ※（担当大山佐知子）</p> <p>第8回：会話表現のし方を学ぶ（保育者として聞き取りやすい話し方の基本、あいさつ、敬語の使い方など）。 ※（担当中野ひとみ）</p> <p>第9回：絵本のおもしろさを体験する。 ※（担当松谷和俊）</p> <p>第10回：文章表現の基礎を学ぶ（文章の基本的な書き方、手紙文の書き方など）。 ※（担当鳥越亜矢）</p> <p>第11回：ネイチャーゲームを体験する。 ※（担当土田豊）</p> <p>第12回：他者理解と自己理解を体験する。 ※（担当上岡仁）</p> <p>第13回：リーダーとその他の役割に応じた行動のし方を学ぶ。 ※（担当原田眞澄）</p> <p>第14回：保育者の一日の仕事を知る（「手遊び」の意義や種類について学ぶ）。 ※（担当大橋美佐子）</p> <p>第15回：身体動作で相手に関心を示す基本動作を理解する。 ※（担当名定慎也）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な受講態度、討議への参加によって評価する。			
	レポート					

小テスト

定期試験

その他

40%

毎回、振り返りシートに学んだことをまとめるとともに、自分の課題等を具体的に述べていること。振り返りシートについては、授業者が押印して返却する。

自由記載

【受講の心得】

保育者（保育士・幼稚園教諭）を目指す者は、必ず受講すること。

【授業外学修】

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	なし
参考書	自由記載	

授業科目名 **教育原理**

サブタイトル

授業番号 EC101

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

教育の本質，幼児教育・保育の歴史，教育と児童福祉の基本理念，教育課程・全体的な計画，子どもの発達の特徴と遊び，特別支援教育の理念，幼児教育と保育の教育評価，保育者に求められる資質や能力など，幼児教育・保育についての基本的な考え方や内容について講義する。

【到達目標】

幼児教育・保育についての基本的な考え方や内容について知り，説明することができるようになる。
なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：教育の本質 -4つの教育の理念-
- 第2回：幼児教育を築いた人々 -教育思想の歴史-
- 第3回：わが国の幼児教育と保育の歴史
- 第4回：子どもの発達と教育 -発達理論の歴史-
- 第5回：教育と児童福祉の基本理念 -教育法規上の目的と目標-
- 第6回：わが国と外国の幼児教育・保育の制度 -教育制度の理念と現代の教育課題-
- 第7回：教育課程・全体的な計画
- 第8回：子どもの発達の特徴と遊び -幼児教育の基本理念と指導の実際-
- 第9回：幼児教育と保育の教育評価
- 第10回：特別支援教育の理念 -一人ひとりに合った支援-
- 第11回：生涯学習社会における幼児教育と保育の理念と課題
- 第12回：子どもの人権と幼児教育・保育
- 第13回：組織マネジメントと学校評価・保育所評価
- 第14回：信頼される開かれた幼稚園・保育所づくり
- 第15回：危機管理と安全教育

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ，振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、テキストやノート、資料を読み直す。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子どもの教育の原理	古橋和夫	萌文書林	1900+税	978-4-89347-299-1

自由記載

参考書

自由記載

授業において随時紹介する。

授業科目名 **保育原理**

サブタイトル

授業番号 EC102

担当教員名 小野 順子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

保育の基礎を学ぶ教科である。保育とは、目の前の子どもの安全を守り、刹那的に子どもと遊ぶことではない。子どもとはどういう存在であり、いつ、どのように子どもと関わり、そして、それは何故なのかを問いながら行う行為が保育である。この授業では、この問いに答えるための基礎知識を保育の目的、子どもの発達などに分けて説明する。そして、その知識を基にした保育実践を考える力を、保育事例を主体的に検討することを通して説明する。

【到達目標】

- ・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総則の記述内容を理解し、説明出来る。
- ・子どもにとっての「遊び」の重要性と「子ども理解」の関連性を説明出来る。
- ・事例を読み取り、保育者としてどうすべきだったかを具体的に文章で説明出来る。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：保育に関する法令及び制度
- 第2回：保育のねらいと内容
- 第3回：保育所保育と家庭的保育
- 第4回：保護者との緊密な連携
- 第5回：保育所保育指針と施設保育
- 第6回：発達過程に応じた保育
- 第7回：環境を通して行う保育
- 第8回：保育者に求められる専門性
- 第9回：生きる力の基礎を培う保育
- 第10回：生活と遊びを通しての保育
- 第11回：保育における個と集団
- 第12回：保育の計画と評価
- 第13回：日本の保育：思想と歴史
- 第14回：世界の保育：思想と歴史、現状と課題
- 第15回：日本の保育：現状と課題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	自分の意見を主体的に述べる事が出来る。
	レポート	10%	基本の考えを理解し、それを具体的な保育実践に応用して書く事が出来る。
	小テスト		
	定期試験	80%	保育の基本や歴史について、正しい知識を持っている。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

主体的で意欲的な態度で受講すること。

【授業外学修】

1. 毎回，授業に使用するテキストを2時間以上かけて読み，授業内容の概要を理解すること。
2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところを明確にしておくこと。

以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	コンパクト版 保育者養成シリーズ 保育原理	保育原 谷田貝公昭・石橋哲成監修 一藝社	一藝社	2000円 (税別)	978-4-86359-110-3
参考書	自由記載	保育者養成シリーズ『保育原理』 『保育所保育指針・幼稚園教育要領』			
	自由記載	授業において随時紹介する。			

授業科目名	子ども家庭福祉		サブタイトル		授業番号	EC201
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
本講義の目的は下記の通りである。						
(1) 現代の日本社会における児童福祉問題を社会科学の視点より自ら考察できるようになること。						
(2) 児童福祉に関する基礎的知識を習得すること。こうした基礎知識を活用し、児童福祉問題に関するレポートを作成できるようになること。						
(3) 子ども家庭福祉の観点を学習すること。						
(4) 児童福祉関連法を学習すること。						
【到達目標】						
・児童福祉の実践能力を修得できる。						
・保育者として専門性を高めるための基本的知識を修得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：子ども家庭福祉の理念と概念						
第2回：子ども家庭福祉の歴史の変遷						
第3回：現代社会と子ども家庭福祉						
第4回：子どもの人権擁護の歴史の変遷						
第5回：児童の権利に関する条約						
第6回：子どもの人権擁護と現代社会における課題						
第7回：子ども家庭福祉の制度と法体系						
第8回：子ども家庭福祉の実施体系						
第9回：児童福祉施設						
第10回：子ども家庭福祉の専門職						
第11回：少子化と地域子育て支援						
第12回：母子保健と子どもの健全育成						
第13回：子ども虐待・DVとその防止						
第14回：障害のある子どもへの対応						
第15回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家族への対応、子ども家庭福祉の動向と課題						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。			
	レポート	10%	レポート課題に対し的確に解答しているかについて評価する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。

- ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・他教科と連動して考える力，専門的知識の応用力が求められます。
- ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。
- ・レポートの提出期限を遵守する。

【授業外学修】

- ・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。
- ・復習として，課題のレポートを書く。
- ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	第3版児童家庭福祉	小倉毅ほか	大学教育 出版	1800円	978-4- 86429- 292-4
	NIE児童家庭福祉演習	松井圭三ほか	大学教育 出版社	2000円	978-4- 86429- 438-6
自由記載	自由記載				
参考書	自由記載	講義時に適宜紹介します。			

授業科目名	社会福祉		サブタイトル		授業番号	EC202
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>社会福祉に関する基礎知識を学ぶことが本講の目的である。特に、社会福祉の歴史・法律・組織・制度・施設・技術・資格・課題・展望等を学ぶことを主眼としている。また、社会福祉は生きたものであるので社会福祉の動向についてもふれていく。具体的には、ゴールドプラン・新ゴールドプラン・エンジェルプラン・障害者プラン等今日の社会福祉政策や介護保険について言及する。ゆえに、社会福祉の基礎知識を学習すると言っても、そのメニューはきわめて多いので予習して授業に臨んでいただければと思う。</p> <p>最後に、社会福祉関係に従事しようとするものは専門知識だけでなく倫理や哲学といった人格や人間性も重要になってくる。本講ではそのような観点から現代の社会福祉問題を取り上げ、自分ならどう考えるか、どのようにして援助していくのかについても考察していく。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得する。 ・保育の専門性を高めるための社会福祉の専門的知識を修得する。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：現代社会と社会福祉 第2回：社会福祉の歴史 第3回：社会福祉のしくみ 第4回：社会福祉援助技術 第5回：社会福祉に働く人々 第6回：生活保護 第7回：児童福祉 第8回：障害者福祉 第9回：高齢者福祉 第10回：母子福祉 第11回：地域福祉 第12回：医療福祉 第13回：国際福祉 第14回：これからの社会福祉（成年後見制度） 第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。			
	レポート	10%	レポート課題に的確に解答しているかどうかを評価する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

本授業は講義形式とグループワーク討議を行います。

- ・ 予習と授業中の積極的な参加を期待します。
- ・ 他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。
- ・ 自ら考える姿勢で授業に参加してください。
- ・ レポートの提出期限を遵守する。
- ・ 社会福祉の基礎知識を学習するといっても，そのメニューは極めて多いので予習して授業を受けること。

【授業外学修】

- ・ 予習として，教科書のうち，授業内容に関する章節を読み，課題点を明らかにする。
- ・ 復習として，課題のレポートを書く。
- ・ 発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	改定新版よくわかる社会福祉概論	松井圭三他	大学教育出版	2200円	978-4-88730-935-7
使用テキスト	NIE社会福祉記事ワークブック	松井圭三ほか	大学教育出版	2000円	978-4-86429-365-5
	自由記載	松井圭三他編『社会福祉記事ワークブック』大学教育出版	2016年も使用します。	定価は2000円+税	
参考書	自由記載	授業において，随時紹介します。			

授業科目名 **子ども家庭支援論**

サブタイトル

授業番号 EC203

担当教員名 松井 圭三

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

家族、家庭の概念と子育て支援や関係機関、専門職の連携を学習する。また専門職倫理をもとに事例研究を行い、保育現場において必要な社会資源、制度、法律、サービス等の知識を習得する。

【到達目標】

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。
2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。
3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。

【授業計画】

- 第1回 家族の意義と役割
- 第2回 家庭支援の必要性
- 第3回 現代の家庭における人間関係
- 第4回 地域社会の変容と家庭支援
- 第5回 保育と相談援助
- 第6回 男女共同参画社会とワークライフバランス
- 第7回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 第8回 子育て支援施策
- 第9回 保育所入所児童の家庭への支援
- 第10回 地域の子育て家庭への支援
- 第11回 子育て支援における関係機との連携
- 第12回 要保護児童および家庭に対する支援
- 第13回 多様な家族形態と子どもたちの育ち
- 第14回 結婚、家族の事例研究
- 第15回 保育士による子ども家庭支援の意義と基本

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。
	レポート	10%	レポート課題に的確に解答しているかについて評価する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。

- ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・他教科と連動して考える力、専門的知識が求められます。
- ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。
- ・レポート提出期限を遵守する。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- ・復習として、課題のレポートを書く。
- ・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本授業では、週1時間程度の授業外学習が必要である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	NIE家庭支援演習	松井圭三他	大学教育出版	2700円	978-4-86429-501-7
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	家庭支援論	松井圭三	大学教育出版	1800円	
	自由記載	必要に応じて紹介します。			

授業科目名 **社会的養護I**

サブタイトル

授業番号 EC204

担当教員名 松井 圭三

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

社会的養護の意義と歴史の変遷、児童福祉や児童の権利擁護、社会的養護の制度や実施体系、児童の人権擁護及び自立支援等の現状と課題について学ぶ。

【到達目標】

- ・社会的養護の歴史の変遷と現状の課題についての知識を獲得する。
- ・現代社会における社会的養護の果たす役割についての知識を獲得する。
- ・社会的養護の制度や実施体系についての知識を獲得する。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：社会的養護の理念と概念
- 第2回：社会的養護の歴史の変遷
- 第3回：児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
- 第4回：児童の権利擁護と社会的養護
- 第5回：社会的養護の制度と法体系
- 第6回：社会的養護の仕組みと実施体系
- 第7回：家庭養護と施設養護
- 第8回：社会的養護における保育士等の倫理と責務
- 第9回：家庭養護と施設養護の基本原則
- 第10回：家庭養護と施設養護の実践
- 第11回：施設養護とソーシャルワーク
- 第12回：施設等の運営管理の現状と課題
- 第13回：倫理の確立
- 第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題
- 第15回：社会的養護と地域福祉の現状と課題

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。
	レポート	30%	社会的養護を支える専門職の、各施設における設置基準と意義について論じることができる。
	小テスト		
	定期試験	50%	全講義終了後、社会的養護における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した，社会的養護に関わる諸知識を復習すること。
2. 教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	社会的養護・社会的養護内容	中典子他	翔雲社	2780円	978-4-434-23547-4
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **保育者論**

サブタイトル

授業番号 EC205

担当教員名 勘藤 まり子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者は、人間性や子ども理解、発達特性に応じた指導力等の専門性が大切である。今日求められる保育者の専門性や資質について学び、自らの課題を認識し、保育者としての意欲や自覚を養うことについて講義する。

【到達目標】

保育者としての役割や職務とともに保育者の喜びや生きがい、責任について具体的に理解し、自らの資質を向上させることができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育者とは

第2回：保育者になるために

第3回：専門職であるために

第4回：初めての保育

第5回：こどもと家族にとって保育とは

第6回：こどもの生活環境を整えるとは

第7回：発達を捉える視点

第8回：専門職としての責務を理解する

第9回：保育者の協働・求められる資質

第10回：同僚性

第11回：子育て支援

第12回：新しい課題とニーズ

第13回：ニーズに対する保育者の対応

第14回：保育者の歴史 欧米・日本の保育者

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表への参加によって評価する。
	レポート	20%	授業毎に要点をおさえて記入しているか評価する。
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

保育者を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の指定された部分を読み、疑問点を明らかにする。
- ・復習として、授業を振り返り、ノート、配布物を整理する。
- ・授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育者論	矢藤誠慈郎・天野珠路	中央法規	2,000+ 税	978-4-8058-5787-8
	自由記載				
参考書	自由記載	『倉橋惣三選集第1巻～4巻』, フレーベル館 『保育者論－共生へのまなざし－』, 岸井勇雄 他監修, 同文書院 『最新保育講座 保育者論』, 汐見稔幸・大豆生田啓友 著, ミネルヴァ書房			

授業科目名 **教育心理学**

サブタイトル

授業番号 ED201

担当教員名 平尾 太亮

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに、保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。

【到達目標】

- ・教育心理学の基本的な概念や理論を知り、教育心理学についての知識を習得する。
- ・心理学的な視点や考え方を、保育・教育の場面でいかせるようにする。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育心理学とは？

第2回：子どもの発達

第3回：大人の発達

第4回：学習とは？(1)

第5回：学習とは？(2)

第6回：頭が良いとは？

第7回：記憶力が良いとは？

第8回：性格とは？(1)

第9回：性格とは？(2)

第10回：集団とは？

第11回：評価とアセスメント

第12回：子どもの心の問題(1)

第13回：子どもの心の問題(2)

第14回：カウンセリングとは？

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。
	レポート		
評価の方法	小テスト	30%	授業内で課題を実施し到達度を評価する（15%×2回）
	定期試験	50%	全講義終了後、教育心理学における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

様々な気づきが得られるように、積極的な態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。
2. 授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **子ども家庭支援の心
理学**

サブタイトル

授業番号 ED202

担当教員名 安形 元伸

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

本授業では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性と獲得すべき発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な視点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。併せて、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。さらに、子どもの精神保健とその課題についても考察しながら、生育環境が子どもに与える影響についての理解を深める。

【到達目標】

人間の生涯発達に関する心理学の基本的知識を獲得し、併せて家族・家庭の機能と役割および子育て家庭の現状と課題を理解する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：乳児期の発達段階と発達課題
- 第2回：幼児期前期の発達段階と発達課題
- 第3回：幼児期後期の発達段階と発達課題
- 第4回：学童期の発達段階と発達課題
- 第5回：思春期と青年期の発達課題
- 第6回：成人期から高齢期の発達の特徴
- 第7回：家族・家庭の意義と機能
- 第8回：親子関係・家族関係の理解
- 第9回：子育ての経験と親としての育ち
- 第10回：子育て環境の社会的状況変化
- 第11回：ライフコースとワーク・ライフ・バランス
- 第12回：多様な子育て家庭への支援
- 第13回：特別な配慮を必要とする家庭への支援（1）
- 第14回：特別な配慮を必要とする家庭への支援（2）
- 第15回：子どもを取り巻く生活環境と心身の健康

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、積極的なグループ討論と発表等によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	課題に対して適切な解答が得られていること。
	定期試験	60%	課題を理解し、それについての見解が述べられていること。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

授業前後に教科書や配布資料を読み、理解を深めること。

【授業外学修】

授業で紹介する参考文献・資料を次回授業までに読み予習をすること。また、毎回授業の初めに前回授業の内容を確認するので復習し、1時間以上予習・復習をしておくこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学	児童育成協会監修 白川佳子編	中央法規	2000	978-4-8058-5789-2
	自由記載				
参考書	自由記載	授業中に適宜紹介する。			

【その他】

授業で配布するレジュメ、資料等をファイルするホルダーを用意すること。

授業科目名	子どもの理解と援助		サブタイトル		授業番号	ED203
担当教員名	山本 房子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で、子どもを理解する視点や方法を知り、身に付ける。また、保育者（保育士や幼稚園教諭等）が、子ども理解に基づいてどのような援助を行ったり、子どもとかわかったりしているのかその基本について学ぶ。						
【到達目標】 ・ 保育における子ども理解の意義を理解する。 ・ 子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法について理解する。 ・ 子どもへの理解を深めるための、保育者の姿勢や援助について理解する なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：保育における子どもの理解の意義 第2回：子どもを理解するための保育者の姿勢や態度 第3回：子どもを理解する視点 —子どもの生活や遊び— 第4回：子どもを理解する視点 —集団の中での子ども— 第5回：子どもを理解する視点 —葛藤やつまずき— 第6回：子どもを理解する視点 —保育の環境の理解と構成— 第7回：子どもを理解する方法 —観察・記録の実際— 第8回：子どもを理解する方法 —振り返り・省察— 第9回：子ども理解を深める保育カンファレンス 第10回：子ども理解と評価 第11回：子ども理解に基づく保育者の援助 第12回：小学校との連携・接続 第13回：子育ての支援・家庭支援における子ども理解 第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	積極的な授業態度、授業や討議への参加によって評価する。			
	レポート	20%	視点をもって、具体的に分かりやすく述べているかによって評価する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業全般の試験を行い、理解度を評価する。			

その他

10%

ノートや資料の整理，ポイントをおさえた記入ができていないかによって評価する。

自由記載

【受講の心得】

子どもを理解するためには，子どもの何を見てどのようにとらえるのかという視点が大切である。主体的に授業に参加し，自分で考えたり，自分の言葉で表現したりすること。また，他者の気付きや考えからも積極的に学び取ってほしい。

【授業外学修】

- 1 予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。
- 2 復習としてノートの記入，配布資料の整理をする。
- 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子ども理解と保育実践	塚本美知子編著	萌文書林	1944円 (本体 1800円+ 税)	978-4- 89347- 306-6

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名	子どもの保健		サブタイトル		授業番号	ED204
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 子どもの心身の成長発達について学び、健康の保持増進のための保健活動について学ぶ。						
【到達目標】 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義がわかる。 2. 子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健についてわかる。 3. 小児期に起こりやすい病気と怪我について、予防法と適切な対応がわかる。 本科目は、本学科ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内、〈知識・理解〉の修得に対応する。						
【授業計画】						
<p>第1回：自分の生活習慣を振り返り、「健康」について自分の考えをまとめる 妊娠と出産に関するDVDを視聴して、生命の誕生について考える 小児期の期の区分を知る</p> <p>第2回：DVDを視聴し、生後12か月までの運動機能の発達と保健について学ぶ 小児期各期の運動機能の発達と保健について学ぶ</p> <p>第3回：子どもの生理機能と精神機能の発達と保健について学ぶ</p> <p>第4回：手洗いの洗い残し部位を実験し、手の衛生について考える</p> <p>第5回：「早寝早起き朝ごはん」運動と子どもの睡眠について学ぶ</p> <p>第6回：子どもの心の健康とその課題、地域における保健活動と児童虐待防止について学ぶわが国の人口動態について学ぶ</p> <p>第7回：各自の睡眠リズム表をもとに、生活習慣の課題と対応方法について考える 病児保育のDVDを視聴し、保育の多様化について学ぶ</p> <p>第8回：小児感染症と予防接種について学ぶ</p> <p>第9回：アレルギーの病気について学ぶ</p> <p>第10回：消化器と呼吸器の病気について学ぶ</p> <p>第11回：血液の病気について学ぶ</p> <p>第12回：泌尿器・生殖器・代謝・内分泌・皮膚の病気について学ぶ</p> <p>第13回：運動器・感覚器（目、耳、鼻）の病気について学ぶ</p> <p>第14回：精神神経系の病気・悪性腫瘍について学ぶ</p> <p>第15回：保育者間の連携や他職種との連携について知る 母子保健行政の全貌を知り、保育者が担う役割について考える</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	集中して授業に取り組み、授業内に提出する課題の記述内容が的確である。			
	レポート	10%	睡眠リズム表が正確に記入でき、締切に間に合うように提出できる。			
	小テスト					
	定期試験	60%	理解度・定着度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

保育者を目指す学生として、まず自分の健康の保持増進に関心をもつこと
小児保健に関するニュースに関心をもつこと
保育所・幼稚園などでボランティア活動をおこない、子どもの理解に努めること

【授業外学修】

授業毎に4時間以上の復習をすること
授業内容に関するテキスト内容を読んだり、それ以外の資料を調べてノート整理すること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子どもの保健	高野悟郎編	診断と治療社	2000+税	978-4-7878-2294-9

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **子どもの食と栄養A** サブタイトル

授業番号 ED205

担当教員名 荻田 志津子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

妊娠期（胎児期）、乳児期、幼児期、学童・思春期の各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学び、その後の生涯発達（成人期・高齢期）の健康および食生活と、子どもの食生活との関係を理解する。

【到達目標】

食育の基本と内容を的確に理解する。そしてバランスの良い食事内容を理解記憶して、保育者自身が実践できる。その上で幼児の保護者に説明・指導ができるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：食事のバランス、炭水化物、妊娠期と授乳期の栄養

第2回：離乳期の栄養および離乳食

第3回：幼児期のからだの発達と栄養・食事

第4回：幼児期の栄養 間食

第5回：幼児期の栄養 たんぱく質、脂質

第6回：幼児期の栄養 ビタミン、無機質

第7回：学童期・思春期の食生活

第8回：高血圧予防の栄養および食事

第9回：貧血予防の栄養および食事

第10回：骨粗鬆予防の栄養および食事

第11回：食育

第12回：保育所給食

第13回：幼児の弁当

第14回：高脂血症予防の食事

第15回：行事食およびまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的に質問したり、意見を述べられることを評価する。
	レポート	30%	既存の事実・意見を知った上で、自分の意見を述べられることを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

集中して講義を聴き、受講内容をノートにまとめる。

積極的に質問に答え、授業に参加する。

【授業外学修】

毎回授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	子どもの食と栄養 自由記載	堤ちはる	中央法規		
参考書	自由記載	特になし			

授業科目名 **子どもの食と栄養B** サブタイトル

授業番号 ED206

担当教員名 荻田 志津子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

小児栄養を基礎として、乳幼児の食事（調乳、離乳食、幼児食等）、薄味で栄養バランスのとれた子どもの食事、成人の食事を調理、試食する。

【到達目標】

実習を通して子どもの食生活の重要性と供食者としての責任を理解した上で、自分自身でもバランスのとれた薄味の料理が出来るようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：調乳

第2回：離乳食

第3回：幼児食（1～2歳児）

第4回：幼児食（1～2歳児）

第5回：幼児のおやつ

第6回：幼児食（3～5歳児）

第7回：幼児食（3～5歳児）

第8回：高血圧予防の食事

第9回：貧血予防の食事

第10回：骨粗鬆予防の食事

第11回：洋食の行事食

第12回：クリスマスの行事食

第13回：幼児の弁当

第14回：高脂血症の予防の食事

第15回：和食の行事食

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	意欲的な実習態度により評価する。
	レポート	40%	実習内容の客観的評価と改善点について具体的に述べられていることを評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

実習形式ですすめるので、積極的に参加すること。

【授業外学修】

実習内容を自宅にて再度調理し、料理技術の向上に努める。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜, 資料を配布する。
参考書	自由記載	特になし

授業科目名 **教育相談**

サブタイトル

授業番号 ED207

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

教育相談・カウンセリングの理論と方法、基本的な応答の仕方について演習を通して講義する。

【到達目標】

子どもの発達への援助、保護者への子育て支援の重要性やカウンセリング・マインドの大切さを理解し、基本的な応答の仕方を身につけることができるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：教育相談・カウンセリングとは何か

第2回：子どもの発達への援助(1) -0～2歳の情緒の発達-

第3回：子どもの発達への援助(2) -3～6歳の情緒の発達-

第4回：子ども理解の意味と方法

第5回：カウンセリングの理論と方法

第6回：カウンセリング・マインド

第7回：園における教育相談の意義と活用

第8回：登園拒否の理解と指導

第9回：社会性の発達とそのつまずきへの理解と対応

第10回：遊びの意義と教育相談

第11回：発達障害の理解と支援

第12回：子育て支援のあり方

第13回：園における保護者への支援

第14回：地域社会・関係機関との連携

第15回：保育者のメンタルヘルス

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック	清水勇・阿部裕子	学事出版	2000円+ 税	4-7619- 1181-6
	自由記載				
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。			

授業科目名 **教育・保育課程論**

サブタイトル

授業番号 EE201

担当教員名 上岡 仁

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等について講義する。

【到達目標】

幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等を知り，説明することができるようになる。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育の基本と計画 -保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて-

第2回：保育の計画とカリキュラム・マネジメント

第3回：指導計画の種類と役割

第4回：保育における計画の考え方(1) -0, 1, 2歳児を中心に-

第5回：保育における計画の考え方(2) -3, 4, 5歳児を中心に-

第6回：小学校における計画との関係

第7回：保育における計画の変遷

第8回：教育課程・全体的な計画の編成

第9回：教育課程・全体的な計画の評価・改善 -保育士及び保育所の自己評価，幼稚園の自己評価との関連から-

第10回：理想の園の教育課程・全体的な計画の作成(1) -作成の留意点等の確認-

第11回：理想の園の教育課程・全体的な計画の作成(2) -具体的な目標等の設定-

第12回：理想の園の指導計画の作成(1) -作成の留意点等の確認-

第13回：理想の園の指導計画の作成(2) -具体的な目標・活動等の設定-

第14回：発表会・意見交換(1) -全体的な計画について-

第15回：発表会・意見交換(2) -指導計画について-

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	20%	課題について追究したことをまとめるとともに，自分はどのように考えるのかを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- 1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。
- 2 課題について追究したことや自分の考えをまとめ，レポートを書くこと。
- 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。
- 4 配付する資料を整理しておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	就学前教育の計画を学ぶ	松村和子・近藤幹生・花島香代	ミネルヴァ書房	2000円+税	978-4-623-05733-7
	自由記載				
参考書	自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領			

授業科目名 **保育内容総論**

サブタイトル

授業番号 EE202

担当教員名 小野 順子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また、保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。

【到達目標】

幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている、園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。

教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。

以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。

第2回：子どもの遊びを分析して、どのような経験しているのかを話し合う。

第3回：教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。

第4回：環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。

第5回：要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。

第6回：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。

第7回：支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。

第8回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。

第9回：活動を分析し、保育の多様な展開について具体的に学ぶ。

第10回：教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。

第11回：教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。

第12回：運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。

第13回：「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。

第14回：模擬保育を目指して指導案を作成する。

第15回：模擬保育をグループで実施する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，協力する態度，授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。
	レポート	30%	課題を与えられた様式に従って，丁寧に述べていること。
	小テスト		
	定期試験	50%	幼児期における「遊び」の重要性と5領域を総合的に指導することの意味について具体的に述べていること。
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

テキストをよく読み，内容を把握して受講すること。授業ではノートに授業内容をまとめるので，受講後はそれを整理すること。

グループワークを中心とするので，積極的態で受講すること。

【授業外学修】

教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。

授業後は教科書や配布された資料をよく読み、知識を整理すること。

課題発表の資料を準備すること。

以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育内容総論	谷田貝公昭・石橋哲成監修	一藝社	2000円 (税別)	978-4-86359-117-2
参考書	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平成29年6月 チャイルド社) 幼稚園教育要領解説 (平成30年3月 文部科学省)			

授業科目名 **(保育内容) 健康**

サブタイトル

授業番号 EE203

担当教員名 土田 豊

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

乳幼児期の発達、それを援助する保育の理念と方法また、現代社会における問題点について学習し、幼稚園教育要領の中の「健康」領域に関するねらい・内容等を理解する。

【到達目標】

現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し、その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践的に学ぶを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：領域「健康」とは

第2回：子どものからだと心の現状について

第3回：幼児期における運動遊びの必要性について学ぶ

第4回：運動遊びと健康（1）集団遊びいろいろなジャンケン遊び体験

第5回：運動遊びと健康（2）風船・新聞紙を使った遊び体験

第6回：運動遊びと健康（3）サーキット遊び

第7回：食事と健康

第8回：睡眠と健康

第9回：生活習慣と健康

第10回：健康イメージマップづくり（1）方法説明・作成

第11回：健康イメージマップづくり（2）作成・発表

第12回：運動遊びと健康（4）リバーシーゲーム体験

第13回：健康かるたづくり（1）方法説明・作成

第14回：健康かるたづくり（2）かるた遊び

第15回：家庭との連携・まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。
	レポート	30%	授業で体験したことを踏まえ、実際の保育場面を想像しながら述べていること。コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	50%	領域「健康」のねらいや、子どもたちのからだと心の問題についての理解度を見る。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・運動着を着用する
- ・室内用シューズを履く
- ・貴重品は自己管理する
- ・装飾品は身につけない（髪は結わえる）
- ・全員協力の上、準備・片付けをする
- ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む

【授業外学修】

・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり、新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。

・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して、保育現場で行われている運動遊びについて、対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。

・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め、指導案として反映できるようにすること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	領域健康	無藤隆 倉持清美	萌文書林	2100	4-89347-096-5
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	(保育内容) 人間関係		サブタイトル		授業番号	EE204
担当教員名	小野 順子					
対象学部・学科			単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。</p>						
【到達目標】						
<p>幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。</p> <p>その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：現代社会と幼児の人間関係</p> <p>第2回：家庭や地域の人間関係</p> <p>第3回：3歳未満児における人間関係の発達（1）</p> <p>第4回：3歳未満児における人間関係の発達（2）</p> <p>第5回：幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち</p> <p>第6回：幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち</p> <p>第7回：乳幼児期の自立心の育ち（1）</p> <p>第8回：乳幼児期の自立心の育ち（2）</p> <p>第9回：幼児期の協同性の育ち（1）</p> <p>第10回：幼児期の協同性の育ち（2）</p> <p>第11回：幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（1）</p> <p>第12回：幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（2）</p> <p>第13回：乳幼児期の人間関係のひろがり</p> <p>第14回：乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり</p> <p>第15回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、課題に対する話し合いへの参加の状況や各回の演習シートなどによって、評価する。			
	レポート	40%	授業の内容に伴う課題について、調べたことや考えたことについて記述すること。課題やレポートについては、コメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	授業内の意欲的な発表の具体性と明確性で評価する			
自由記載						

【受講の心得】

配付資料についてはよく読み、内容を把握し、授業で学んだことを整理しておくこと。
授業ノートを作成し、受講後は、整理すること。

【授業外学修】

週当たり1時間の予・復習をすること。必要に応じて課題を出すので、レポートを作成し、提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	コンパクト版保育内容シリーズ 人間関係	高橋弥生 福田真奈	一藝社	2000	978-4-86359-151-6

自由記載 必要であれば、その都度プリントを配布する。

参考書

自由記載

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）

授業科目名 **(保育内容) 環境**

サブタイトル

授業番号 EE205

担当教員名 松谷 和俊

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

子どもの発達を環境とかがわる力の側面から学ぶ。実践例、ビデオ視聴、保育現場の観察、遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び、指導力・実践力を身につけることを目指す。

【到達目標】

子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し、具体的な保育の環境のあり方とその考え方、教師の援助のあり方について学ぶことで、環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：領域「環境」とは

第2回：乳幼児の育ちと領域「環境」

第3回：乳児、1・2歳児の発達と環境

第4回：自然や植物や生き物に触れる保育

第5回：保育現場の環境について調べよう

第6回：自然や植物や生き物に触れる保育

第7回：ものや道具にかかわることを通して

第8回：砂・水にかかわる指導を考えよう1 -子どもの願いをとらえた保育の構想-

第9回：砂・水にかかわる指導を考えよう2 -砂・水にかかわる環境構成と指導-

第10回：砂・水にかかわる指導をしてみよう

第11回：文字や数量にかかわる保育

第12回：遊びや生活の中で出会う情報とかがわることを通して

第13回：動くおもちゃをつくろう1 -計画と作成-

第14回：動くおもちゃをつくろう2 -作成と作成をとおして学んだこと-

第15回：考える力を豊かにする環境とのかかわり

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。
	レポート	30%	その授業の内容に伴う課題について、調べたことや考えたことについて記述すること。課題やレポートについては、コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

事前にテキストをよく読み、内容を把握して受講すること。

授業ノートを作成し、受講後は、整理すること。

【授業外学修】

週当たり1時間の予・復習をすること。必要に応じて提示する課題について、レポートを作成し、提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育内容環境	神長美津子・堀越紀 香・佐々木晃編著	光生館	1800	978-4-332-70186-6
	自由記載				
参考書	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領開設（平成30年3月 文部科学省）			

授業科目名 **(保育内容) 言葉**

サブタイトル

授業番号 EE206

担当教員名 山本 房子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

保育内容における領域「言葉」について理解するとともに、子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して、子どもの言葉の獲得に必要な保育者のかかわりについて学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における、ねらい・内容・留意事項を理解する。
- ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。
- ・絵本、紙芝居などの児童文化財の実践を行うことができる。
- ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：言葉とは—言葉の意義と機能—
- 第2回：言葉を獲得するという事
- 第3回：領域「言葉」のねらいと内容
- 第4回：乳児の言葉の特徴と発達
- 第5回：幼児の言葉の特徴と発達
- 第6回：「言葉に対する感覚とは」—言葉の美しさや楽しさ—
- 第7回：言葉を育てる児童文化財：絵本
- 第8回：絵本の読み聞かせをしよう
- 第9回：言葉を育てる児童文化財：紙芝居
- 第10回：紙芝居を演じてみよう
- 第11回：紙芝居を作ってみよう 1
- 第12回：紙芝居を作ってみよう 2
- 第13回：様々な児童文化財
- 第14回：言葉の発達に関わる諸問題
- 第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	積極的な受講態度、発表や活動への参加によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	50%	講義内容の理解度を評価する。
	その他	20%	ノートに各回の内容を要点を押さえて記入しているか、配布資料を整理しているかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

積極的な態度で授業に臨むこと。
グループ活動には主体的に参加すること。

【授業外学修】

- 1 予習として教科書の授業にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習としてノートの記入や資料の整理をする。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『言葉』新版・実践保育内容シリーズ(4)	[監修]谷田貝公昭 [編著]谷田貝公昭・ 廣澤満之	一藝社	税込み 2000円	978-4- 86359-159- 2
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針	内閣府文部科学省 厚生労働省 (編集)	チャイルド本社	500	978- 4805402580
	自由記載				

授業科目名	(保育内容) 表現	サブタイトル		授業番号	EE207
担当教員名	大山 佐知子 鳥越 亜矢				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 こどもの成長過程における多様な表現に関して、幅広く表現の意義とその必要性を理解する。 幼児期の発達特性をふまえながら、創造性豊かに楽しく表現し、創作体験を重ねることにより、 豊かな感性を磨くとともに創造性を高め、指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。</p>					
<p>【到達目標】 思いつくままに感じたことを色や形で表現することができること、 幼児ができる手遊びや手話歌を実践することができること、 また、音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい、 幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					
<p>【授業計画 備考】 1回～6回 音楽表現の基礎 造形表現の基礎 7回～15回 音やリズムの応用表現 オノマトペを使用した表現方法</p>					

- 第1回：「4月, 5月, 6月, 7月」視覚的に生活環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第2回：「4月, 5月, 6月, 7月」遊びの要素を加え身体を動かす環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第3回：「4月, 5月, 6月, 7月」遊びの要素に聴覚を刺激する環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第4回：「4月, 5月, 6月, 7月」第1回～第3回のまとめ ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第5回：「4月, 5月, 6月, 7月」発表 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第6回：「8月, 9月, 10月, 11月」視覚的に生活環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第7回：「8月, 9月, 10月, 11月」遊びの要素を加え身体を動かす環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第8回：「8月, 9月, 10月, 11月」遊びの要素に聴覚を刺激する環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第9回：「8月, 9月, 10月, 11月」第6回～第9回のまとめ ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第10回：「8月, 9月, 10月, 11月」発表 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第11回：「12月, 1月, 2月, 3月」視覚的に生活環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第12回：「12月, 1月, 2月, 3月」遊びの要素を加え身体を動かす環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第13回：「12月, 1月, 2月, 3月」遊びの要素に聴覚を刺激する環境を考える。 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第14回：「12月, 1月, 2月, 3月」第11回～第13回のまとめ ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)
- 第15回：「12月, 1月, 2月, 3月」発表 ※ (担当大山佐知子 鳥越 亜矢)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な態度を評価する。
	レポート	0%	
	小テスト	30%	発想や表現の豊かさ, 完成度を評価する。
	定期試験	0%	
	その他 自由記載	30%	作品の創造性, 完成度を評価する。
【受講の心得】			
[造形表現] 主体的・創造的な姿勢で, 課題に対して意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。 使用した道具・用具の片付け, 清掃をきちんとすること。			
[音楽表現] 模擬授業・発表の場に対し積極的に取り組み, 基礎を積みあげていく姿勢を持って臨むこと。			
【授業外学修】			
授業で学んだ成果を元に, 週当たり1時間～2時間予習復習すること。			
使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリントを配布する。	
参考書	自由記載		

授業科目名	保育内容の理解と方法A		サブタイトル		授業番号	EE208
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 身近な素材や道具、技法の特性を理解して表現活動を行う。						
【到達目標】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い、身近な素材や道具、技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに、それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：授業ガイダンス／5Cの力について 第2回：幼児の造形表現の発達 第3回：指導や援助の考え方、環境構成・教材研究 第4回：身近なものを使った造形遊びとその流れの体験的理解 1 第5回：身近なものを使った造形遊びとその流れの体験的理解 2 第6回：かく材料・用具の教材研究 1 第7回：パスの技法遊び／技法や素材を生かした壁面装飾(1) 第8回：偶然の色と形の技法遊び 1 第9回：偶然の色と形の技法遊び 2 第10回：色を使った様々な遊び 色作り→模様の遊び→色水の遊び 第11回：可塑性のある素材〔紙〕 1 第12回：可塑性のある素材〔紙〕 2 第13回：可塑性のある素材〔紙〕 3 / 技法や素材を生かした壁面装飾(2) 第14回：可塑性のある素材〔紙〕 4 第15回：身近な素材で楽しむ探求的な遊び／技法や素材を生かした壁面装飾(3)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な表現活動や授業中の質問・発言等を評価する。			
	レポート	0%				
	小テスト	0%				
	定期試験	0%				
	その他	70%	スケッチブックと演習記録シートの内容を評価する。			
	自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが、発想に独自性が見られる場合も評価する。また、スケッチブックに貼付する演習記録シートは記述内容の充実度や項目間の内容に関連性が見られるかどうかを評価する。				

【受講の心得】

造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えるような生活廃材や自然物を集めておくこと。

指定した回までにA4サイズのスケッチブックとツールボックスを用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。

【授業外学修】

予習として、テキストの該当箇所を熟読すること。演習記録シートを書く時間は授業中に取らないため、復習として時間外に記述すること。そのため、週に4時間程度は時間外学修にあてること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現	北沢昌代 畠山智宏 中村光絵	開成出版	2500	978-4-87603-501-4
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新版 遊びの指導	幼少年教育研究所	同文書院	3200	978-4-8103-0037-6
	自由記載				

授業科目名	保育内容の理解と方法B		サブタイトル		授業番号	EE209
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科			単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ、素材と関わりながら色や形、リズム、感触等を意識して様々な表現活動を行う。						
【到達目標】 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに、自らの感性を養い、表現イメージを豊かにする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：造形を中心とした保育としての表現活動の基本的な考え方 プロセスと結果の多様性・上手下手で捉えない・スモールステップ</p> <p>第2回：素材との直接体験(1) 粘土のいろいろ 3歳未満児対象の粘土</p> <p>第3回：素材との直接体験(2) 3歳以上児対象の粘土</p> <p>第4回：素材との直接体験(3) 絵の具体験→版遊び 表れと表現の違いを意識して</p> <p>第5回：幼児の発達に応じた版画活動(1) ローラーと糸</p> <p>第6回：幼児の発達に応じた版画活動(2) 環境への関わり</p> <p>第7回：幼児の発達に応じた版画活動(3) 版づくり</p> <p>第8回：幼児の発達に応じた版画活動(4) 刷り見当と印刷</p> <p>第9回：色彩に興味を持つ活動(1) 色が生まれる</p> <p>第10回：色彩に興味を持つ活動(2) 偶然の色と形を生かした創作ほか</p> <p>第11回：色彩に興味を持つ活動(3) 色の三属性</p> <p>第12回：単純なルールが造形活動の多様性を生み出す(1) 木を作ろう、木を描こう</p> <p>第13回：単純なルールが造形活動の多様性を生み出す(2) 消しゴムはんこを使ったリズム、反復、合成</p> <p>第14回：単純なルールが造形活動の多様性を生み出す(3) 線描表現とその認識</p> <p>第15回：単純なルールが造形活動の多様性を生み出す(4) 探索あそびで培う思考力</p> <p>まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な表現活動や授業中の質問・発言等を評価する。			
	レポート	0%				
	小テスト	0%				
	定期試験	0%				
	その他	70%	スケッチブックと演習記録シートの内容を評価する。			
	自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが、発想に独自性が見られる場合も評価する。また、スケッチブックに貼付する演習記録シートは記述内容の充実度や項目間の内容に関連性が見られるかどうかを評価する。				

【受講の心得】

造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えるような生活廃材や自然物を集めておくこと。

前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているツールボックス、スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。

【授業外学修】

予習として、テキストの該当箇所を熟読すること。演習記録シートを書く時間は授業中に取らないため、復習として時間外に記述すること。そのため、週に4時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト	自由記載	前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト（『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現』 『新版 遊びの指導』）を引き続き使用する。
参考書	自由記載	

授業科目名	保育内容の理解と方法C	サブタイトル		授業番号	EE301
担当教員名	大山 佐知子 土田 豊				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
こどもの心身の発達やこどもを取り巻く環境等を踏まえて、こどもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び、表現活動を行なう。					
【到達目標】					
生活や、遊びの中で、音楽環境作りの技術を身につけたり、こどもの心身の発達を踏まえた身体運動や集団活動の援助に関わる技術を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため、1クラス2クラスにグループ分けを行なう。					
第1回：クラス分け（1クラス・2クラス）表現活動の導入 ※（担当大山 佐知子 土田 豊）					
第2回：1クラス 音楽環境作りの基礎 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス リズムに合わせた身体表現 2クラス 土田 豊）					
第3回：1クラス 音楽環境作りの実践 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス 「歩く」動きを中心とした表現 2クラス 土田 豊）					
第4回：1クラス 音楽環境作りの応用 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス 動物の動きを取り入れた表現 2クラス 土田 豊）					
第5回：1クラス メロディーの活用と表現方法 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス 動作中心の物語表現体験 2クラス 土田 豊）					
第6回：1クラス リズムの活用と表現方法 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス バルーンダンス表現（1） 2クラス 土田 豊）					
第7回：1クラス 和音の活用と表現方法 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス バルーンダンス表現（2） 2クラス 土田 豊）					
第8回：1クラス 合奏の表現 ※（担当1クラス 大山 佐知子 2クラス バルーンダンス発表会・まとめ 2クラス 土田 豊）					
第9回：1クラス リズムに合わせた身体表現 ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス 音楽環境作りの基礎 2クラス 大山 佐知子）					
第10回：1クラス 「歩く」動きを中心とした表現 ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス 音楽環境作りの実践 2クラス 大山 佐知子）					
第11回：1クラス 動物の動きを取り入れた表現 ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス 音楽環境作りの応用 2クラス 大山 佐知子）					
第12回：1クラス 動作中心の物語表現体験 ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス メロディーの活用と表現方法 2クラス 大山 佐知子）					
第13回：1クラス バルーンダンス表現（1） ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス リズムの活用と表現方法 2クラス 大山 佐知子）					
第14回：1クラス バルーンダンス表現（2） ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス 和音の活用と表現方法 2クラス 大山 佐知子）					
第15回：1クラス バルーンダンス発表会・まとめ ※（担当1クラス 土田 豊 2クラス 合奏の表現 2クラス 大山 佐知子）					

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な態度，コミュニケーションの仕方を評価する。
	レポート	20%	提出内容によって評価する。
	小テスト	20%	実技テストによって評価する。
	定期試験	0%	
	その他	20%	完成度や創造性によって評価する。
	自由記載		

【授業外学修】

授業で学んだ成果をお元に，週あたり1時間～2時間は予習復習すること。

使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **保育内容の理解と方法D** サブタイトル 授業番号 EE401

担当教員名 松井 みさ 松谷 和俊 他

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 2年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

保育内容の理解と方法A・B・Cで学んだことを元にして、子供の生活と遊びを豊かに実践するために必要な知識や技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を総合的に習得する。

【到達目標】

子供の生活と遊びを実践するために必要な知識や技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を習得し、実践できる力を身につけることができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学資力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：児童文化等の内容を含んだテーマの設定(1)	※ (担当 (担当：全教員))
第2回：児童文化等の内容を含んだテーマの設定(2)	※ (担当 (担当：全教員))
第3回：テーマ別討論(1)	※ (担当 (担当：全教員))
第4回：テーマ別討論(2)	※ (担当 (担当：全教員))
第5回：テーマ別討論(3)	※ (担当 (担当：全教員))
第6回：テーマ別に環境構成を行う(1)	※ (担当 (担当：全教員))
第7回：テーマ別に環境構成を行う(2)	※ (担当 (担当：全教員))
第8回：テーマ別に環境構成を行う(3)	※ (担当 (担当：全教員))
第9回：テーマに沿った保育技術の習得(1)	※ (担当 (担当：全教員))
第10回：テーマに沿った保育技術の習得(2)	※ (担当 (担当：全教員))
第11回：テーマに沿った保育技術の習得(3)	※ (担当 (担当：全教員))
第12回：テーマに沿った保育技術の習得(4)	※ (担当 (担当：全教員))
第13回：テーマ別発表(1)	※ (担当 (担当：全教員))
第14回：テーマ別発表(2)	※ (担当 (担当：全教員))
第15回：まとめ	※ (担当 (担当：全教員))

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表への参加によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	80%	課題到達度を評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

テーマの途中変更を認めない。グループのメンバー間で、自分の役割を果たすこと。

課題についてグループで積極的に討議すること。

発表に向けて意欲的に参加すること。

【授業外学修】

早期にテーマを決め討議を始めること。

積極的に参加すること。

グループ内でコミュニケーションをしっかりとること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	各テーマ別にプリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **乳児保育I**

サブタイトル

授業番号 EE210

担当教員名 山本 房子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

乳児保育の意義・目的と役割及び多様な保育の場における現状と課題を理解した上で、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の在り方について学ぶ。

【到達目標】

- ・乳児保育の意義・目的や役割等について理解する。
- ・多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
- ・3才未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容や技術，運営体制について理解する。
- ・乳児保育における職員間の連携及び保護者等との連携について理解する。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：乳児保育とは

第2回：乳児保育の成り立ち

第3回：「保育所保育指針」と「児童福祉法」

第4回：DVD視聴と討議「子どもを育む保育の環境 第1巻 3歳未満児を中心に」

第5回：「保育所保育指針」における乳児保育のポイントー0，1，2歳児の発達過程をとらえるー

第6回：乳児のこころの発達

第7回：乳児のことばの発達

第8回：乳児のからだの発育と運動機能

第9回：保育所の1日の流れ

第10回：乳児保育の計画(1)

第11回：乳児保育の計画(2)

第12回：乳児保育における安全

第13回：乳児保育に関する家庭との連携

第14回：乳児保育に関する課題

第15回：乳児保育についてのまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	積極的な授業態度，授業や討議への参加によって評価する。
	レポート		
評価の方法	小テスト	20%	確認テストを行い，各回のポイントの理解度を評価する。
	定期試験	50%	授業全般の試験を行い，理解度を評価する。
	その他	10%	各回のポイントをノートに記入しているか，配布資料等を整理しているかを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

日常生活の中で，乳幼児に関連のある新聞記事や雑誌，図書などに関心を持って情報を取り入れるようにすること。身近な環境において，子どもの行動や親子関係について意識的に関心をもつようにすること。

【授業外学修】

- 1.予習として、教科書の授業内容該当の部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2.復習として、ノート of 整理を行う。
 - 3.授業内で紹介した参考文献や資料を読む。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	はじめて学ぶ乳児保育 第二版	志村聡子	同文書院	2000円	978-4-8103-1473-1

自由記載 保育所保育指針 厚生労働省 必要な参考資料はプリントを配布する。

参考書

自由記載

授業科目名	乳児保育II		サブタイトル		授業番号	EE302
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
0・1・2歳児の発達に応じたあり保育のあり方について体験的に学ぶ。						
【到達目標】						
0・1・2歳児の発達に応じた養護のあり方について理解する。						
0・1・2歳児の発達に応じた保育技術を習得することができる。						
0・1・2歳児の発達に応じた1日の過ごし方がわかる。						
本科目は、本学科ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉、〈態度〉の修得に対応する。						
【授業計画】						
<p>第1回：乳児保育に適した服装身だしなみについて考える 0・1・2歳児の特徴をふまえ、乳児保育で大切な子どもとの関係性、受容的応答的な関わりなどを考える ※（担当原田眞澄）</p> <p>第2回：0・1・2歳児の発達に応じた抱っこやおんぶについて学ぶ ※（担当原田眞澄） 0・1・2歳児の発達に応じた衣類の着脱について学ぶ</p> <p>第3回：0・1・2歳児の発達に応じた調乳と授乳について学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第4回：0・1・2歳児の発達に応じた食事（離乳食・幼児食）の与え方について学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第5回：0・1・2歳児の発達に応じたおむつのあて方・かえ方について学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第6回：おむつからトイレへの自立について学ぶ ※（担当原田眞澄） 0・1・2歳児の発達に応じた睡眠・午睡について学ぶ</p> <p>第7回：沐浴について学ぶ（前半グループ） ※（担当原田眞澄） テーマ別調査をグループワークする（後半グループ）</p> <p>第8回：沐浴について学ぶ（前半グループ） ※（担当原田眞澄） テーマ別調査をグループワークする（後半グループ）</p> <p>第9回：テーマ別調査をグループワークする（前半グループ） ※（担当原田眞澄） 沐浴について学ぶ（後半グループ）</p> <p>第10回：0・1・2歳児の発達に応じた散歩の楽しみ方と安全について学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第11回：テーマ別調査の結果を発表する ※（担当原田眞澄）</p> <p>第12回：0・1・2歳児の発達に応じた清潔（爪切り・歯みがき・鼻かみ・手洗い）について学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第13回：0・1・2歳児の発達に応じた遊びについて学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第14回：0・1・2歳児の発達に応じた遊びについて学ぶ ※（担当原田眞澄）</p> <p>第15回：乳児保育の1日の流れを知り、保育士の配慮すべきことについて考える ※（担当原田眞澄）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加できる。授業に集中して取り組める。			

レポート	15%	テーマ別調査に向けて尽力し、テーマに沿ってわかりやすく発表できる。
小テスト		
定期試験	45%	理解度・定着度を評価する。
その他	10%	おむつ替えが制限時間内に適確にできる。
自由記載		

【受講の心得】

衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加すること

【授業外学修】

授業毎1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	乳児保育	CHS子育て文化研究所 編	萌文書林	1800 + 税	9784893470683
	自由記載				
参考書	自由記載	1年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用するので、毎回持参する。			

授業科目名 **子どもの健康と安全** サブタイトル

授業番号 EE211

担当教員名 原田 眞澄

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

小児保健活動の具体的な内容を演習形式で学ぶ。

【到達目標】

1. 子どもの健康の保持増進に関する保健活動がわかる。
2. 子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法、救急蘇生法がわかる。
3. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解する。

本科目は本学科が掲げる学士力のうち、〈知識・理解〉、〈態度〉の修得に対応する。

【授業計画】

第1回：朝の視診の意義と具体的な内容を学ぶ

子どもの発育測定の意味と具体的な手順、評価方法について学ぶ

第2回：発熱や熱中症など高体温について、予防法と適切な対応を学ぶ

第3回：発熱や熱中症など高体温について適切な対応を学ぶ

第4回：擦過傷など怪我・鼻出血について適切な対応を学ぶ

第5回：嘔吐について適切な対応を学ぶ

吐物や排泄物からの感染予防について学ぶ

第6回：幼児に対する救急蘇生法について具体的に学ぶ（前半グループ）

幼児に対する様々な応急処置についてDVDを視聴して学ぶ（後半グループ）

第7回：幼児に対する様々な応急処置についてDVDを視聴して学ぶ（前半グループ）

幼児に対する救急蘇生法について具体的に学ぶ（後半グループ）

第8回：事故や災害時の安全な避難法について考える

第9回：担架などの搬送法について学ぶ

第10回：保健活動の計画・実施・評価について学ぶ

第11回：保健活動の計画・実施・評価について学ぶ

第12回：事例を元にグループ討議を行い、保育所で起こりやすい事例への対応を考える（アレルギーのある子）

第13回：事例を元にグループ討議を行い、保育所で起こりやすい事例への対応を考える（障害のある子）

第14回：事例を元にグループ討議を行い、保育所で起こりやすい事例への対応を考える（医療的ケア児）

第15回：子どもの心の健康問題と地域の保健活動について知る

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	安全で衛生的な服装身だしなみができる。集中して授業に取り組み、グループワークや技術練習できる。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	60%	理解度・定着度を評価する。
	その他	10%	技術テスト 幼児の救急蘇生法技術が適確にできる。
	自由記載		

【受講の心得】

グループ演習の際、メンバー同士で技術を高められるよう協力すること

グループワークでは自分の意見を持ち、積極的に発表すること

【授業外学修】

授業毎, 1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	応急手当マニュアル	郷木義子	ふくろ う出版	2200+税	9784861865947
	自由記 載				
参考書	自由記 載	1年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用する			

授業科目名 **特別支援教育入門**

サブタイトル

授業番号 EE212

担当教員名 平尾 太亮

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに、教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り、個別の教育的ニーズを把握、他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。

【到達目標】

- ・ 障害等、特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。
- ・ 特別な支援を要する子どもへの教育や保育、支援の方法を知り、実際に支援する際の方策を提示し、実施することができる。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：特別支援教育とは
- 第2回：障害の意味と理解，特別支援教育の歴史の変遷
- 第3回：身体障害児への理解と支援
- 第4回：知的障害の理解
- 第5回：知的障害児への支援
- 第6回：発達障害の理解，ASDの理解
- 第7回：ASD児への支援
- 第8回：AD/HDの理解，AD/HD児への支援
- 第9回：LDの理解，LD児への支援
- 第10回：指導計画の作成と記録および評価
- 第11回：子どもの発達をうながす生活や遊びの環境
- 第12回：地域の専門機関や小学校との連携
- 第13回：保護者や家族に対する理解と支援
- 第14回：特別な配慮を必要とする様々な子ども
- 第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。
	レポート		
	小テスト	40%	講義内容の理解度、定着度を評価する。
	定期試験	40%	全講義終了後、障害児保育における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。
	その他	10%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し、意見を出すことができる。
	自由記載		

【受講の心得】

様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。
2. 授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。
3. 教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	現代の障がい児保育	井村圭壯，相澤讓治 他	学文社	2, 160	978-4762025860
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	社会的養護II		サブタイトル		授業番号	EE213
担当教員名	則武 直美					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
<p>保育士は児童福祉施設で援助者（直接処遇職員）として大切な役割を担っており、その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。</p> <p>この「社会的養護II」は、社会的養護を必要とする児童や保護者に対し、児童福祉施設で実践されている養育や支援について、理解し考察を深めていくものである。</p> <p>なお授業は、講義とグループワークをもってすすめる。</p>						
【到達目標】						
<p>講義の部分では、施設において日常的に展開されている子どもたちの生活や援助者の支援を理解し、児童の心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し、児童観や養育観を獲得する。</p> <p>またグループワークにおいては、相手に伝える力（文をまとめる、適切な言葉選び、相手の視点に立った話の仕方）と、傾聴（相手の話を聞く態度、相手が話しやすい雰囲気）等、社会人として必要なコミュニケーション能力を獲得する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：社会的養護とは</p> <p>第2回：児童福祉施設で生活する子どもたち</p> <p>第3回：日常生活の支援</p> <p>第4回：子どもの現状</p> <p>第5回：里親，ファミリーホーム</p> <p>第6回：特別な支援を必要とする子どもたちの支援I</p> <p>第7回：特別な支援を必要とする子どもたちの支援II</p> <p>第8回：家庭支援</p> <p>第9回：自立支援</p> <p>第10回：自立支援計画</p> <p>第11回：様々な支援</p> <p>第12回：児童の最善の利益</p> <p>第13回：児童の権利擁護</p> <p>第14回：援助者として求められるもの</p> <p>第15回：これからの社会的養護</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	受講後の思考の発展をコメントより評価する。次回講義時に報告する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	90%	15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

講義中は頭と心の両方を使うこと。

自分の日常生活にリンクさせて考えること。

学習したことを活用し、社会の一員として自分にできることを探して行動しようとする努力をすること。

【授業外学修】

1. テキストや授業で配布した資料を、発展学習として読んで深める。
2. 講義で学んだ事柄の中から、実習に生かせる部分を取り出し、2月に行われる施設実習の現場で実践してみる。
3. グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを、日常生活の中で意識的に実行していく。
4. 講義での学びから、社会の中における自身の役割に気づき、自分にできることから行動を起こそうと努める。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	社会的養護内容	編集 相澤仁, 村井美紀	中央法規	2000円	978-4-8058-5218-7
	自由記載 基本保育シリーズ18	社会的養護内容			
参考書	自由記載				

授業科目名 **子育て支援**

サブタイトル

授業番号 EE214

担当教員名 平尾 太亮

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）の意義や基本について学び、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また、保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して、保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。

【到達目標】

- ・保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。
- ・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し修得する。

なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：保育士の行う子育て支援の特性
- 第2回：日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成
- 第3回：保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解
- 第4回：保護者支援の方法と技術
- 第5回：子ども及び保護者の状況・状態の把握
- 第6回：支援の計画と環境の構成
- 第7回：支援の実践・記録・評価・カンファレンス
- 第8回：職員間の連携・協働
- 第9回：地域資源・関係機関の種類と機能と、関係機関との連携・協力
- 第10回：保育所における保育士の行う子育て支援とその実際
- 第11回：地域の子育てに対する支援とその実際
- 第12回：障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際
- 第13回：特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際
- 第14回：子ども虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援とその実際
- 第15回：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト	65%	毎講義内で実施する事例について、保育相談支援で学修した内容を踏まえながら、様々な視点で支援方法を提案することができる。（5%×13回）
	定期試験	20%	全講義終了後、保育相談支援における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。
	その他	15%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し、意見を出すことができる。
	自由記載		

【受講の心得】

様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した，保育相談支援に関わる基礎理論を復習すること。
2. 毎授業内で事例検討を行うため，事例について読み深めること。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名	健康の指導法		サブタイトル		授業番号	EE215
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>幼児の心身の健康と安全、遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め、グループワークなどで意見交換を積極的に行う。</p>						
【到達目標】						
<p>幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：食事・食育に関する指導法について学ぶ。 第2回：着脱に関する指導法について学ぶ。 第3回：清潔に関する指導法について学ぶ。 第4回：排泄・睡眠に関する指導法について考え、指導案を作成する。 第5回：排泄・睡眠に関する指導法について、模擬保育を実践し意見交換する。 第6回：生活面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第7回：交通面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第8回：災害面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第9回：ブランコ・すべり台・鉄棒を使った運動遊びに関する指導法について学ぶ。 第10回：縄跳び・ボール遊びに関する指導法について学ぶ。 第11回：水遊び・散歩に関する指導法について学ぶ。 第12回：新聞紙を使った遊びに関する指導法について学ぶ。 第13回：表現遊びに関する指導法について学ぶ。 第14回：幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について学ぶ。 第15回：小学校との接続を考慮した指導法について、要点をまとめる。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかを評価する			
	レポート	20%	提出した課題の内容を、テーマに沿い十分なものを評価する			
	小テスト					
	定期試験	50%	知識・理解の到達度を評価する			
	その他					
	自由記載					
【授業外学修】						
授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学習を行う。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月チャイルド社）幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）				

授業科目名 **人間関係の指導法**

サブタイトル

授業番号 EE216

担当教員名 大橋 美佐子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めることを目指す。そのうえで、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを表現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に着けることを目指す。

【到達目標】

領域「人間関係」のねらい及び内容を十分理解したうえで、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点が身に付けられるようにする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ
- 第2回：教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方
- 第3回：自立心を育む援助
- 第4回：友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方
- 第5回：自他の気持ちの違いへ気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方
- 第6回：きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助（情報機器を活用する）
- 第7回：ルールのある遊びと援助
- 第8回：個と集団の育ちを考える
- 第9回：協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える（情報機器を活用する）
- 第10回：幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える（情報機器を活用する）
- 第11回：幼小の交流活動を考える
- 第12回：小学校以降の生活や学習で生かされる力（情報機器を活用する）
- 第13回：地域の中の幼稚園（情報機器を活用する）
- 第14回：多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへ
- 第15回：領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	受講態度や模擬保育等への積極的な態度により評価する。
	レポート	30%	指導案の理解度やレポートについては、調べたり考えたりしたことを記述すること。
	小テスト	20%	授業内容についての小テストを行い、評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

テキストをよく読むこと。
ノート作成は、後で見て理解できるよう整理しておくこと。

【授業外学修】

週あたり4時間の予習・復習をすること。
課題提出は必ずすること。

使用テキスト	自由記載	コンパクト版保育内容シリーズ 人間関係（保育内容 人間関係と同じ）
参考書	自由記載	幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 事例で学ぶ保育内容 領域人間関係 無藤隆監修 岩立京子編 萌文書林

授業科目名 **環境の指導法**

サブタイトル

授業番号 EE217

担当教員名 松谷 和俊

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた、具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたて、子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。

【到達目標】

- ・環境についての知識や技術について理解し、修得することができる。
- ・具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたてることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性
- 第2回：子どもの発達と環境とのかかわり
- 第3回：乳児，1・2歳児の保育に求められる環境
- 第4回：自然や植物や生き物に触れる中で学ぶこと
- 第5回：保育現場での実際の環境構成の工夫や意図
- 第6回：自然や植物や生き物に触れ、体験を深めるために
- 第7回：ものや道具にかかわることの意味と学ぶこと
- 第8回：砂や水にかかわる中で体験を広げ、深める保育構想
- 第9回：砂や水にかかわる保育指導案の作成（ICT）
- 第10回：砂・水にかかわる保育の実践
- 第11回：遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために
- 第12回：遊びや生活の中で出会う情報を保育に生かすために
- 第13回：動くおもちゃを作る中で経験させたいこと
- 第14回：動くおもちゃを作る中で学びと改善点
- 第15回：幼児期の思考力の芽生えを支えるために

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかを評価する。
	レポート	20%	提出した課題の内容を、テーマに沿い十分なものを評価する。
	小テスト		
	定期試験	60%	知識・理解の到達度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

主体的で意欲的な態度で受講すること。

【授業外学修】

1. 毎回，授業に使用するテキストを2時間以上かけて読み，授業内容の概要を理解すること。
2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところを明確にしておくこと。

以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	
参考書	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領開設（平成30年3月 文部科学省）

授業科目名 **言葉の指導法**

サブタイトル

授業番号 EE218

担当教員名 小野 順子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。

【到達目標】

幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育における「言葉」の意義

第2回：子どもの言葉の発達過程（1）－発達の道筋－

第3回：子どもの言葉の発達過程（2）－小学校への接続－

第4回：言葉を育む環境構成と援助（1）－話したい、聞きたい意欲－

第5回：言葉を育む環境構成と援助（2）－生活に必要な言葉の習得－

第6回：言葉を育む環境構成と援助（3）－すれ違い等のもどかしさへの援助－

第7回：言葉を豊かにする環境構成と援助－言葉による伝え合い－

第8回：言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさ－

第9回：子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して）

第10回：言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び）

第11回：子どもの言葉を育む保育の実践（情報機器を活用した教材研究）

第12回：子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成）

第13回：子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践）

第14回：子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り）

第15回：「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	20%	
	レポート	30%	
	小テスト		
	定期試験	50%	
	その他 自由記載		

【受講の心得】

主体的で意欲的な態度で受講すること。

【授業外学修】

1. 毎回，授業に使用するテキストを2時間以上かけて読み，授業内容の概要を理解すること。
2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところを明確にしておくこと。

以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	「（保育内容）言葉」と同じテキストを使用する。
参考書	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）

授業科目名	表現の指導法		サブタイトル		授業番号	EE219
担当教員名	松井 みさ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身に付ける。						
【到達目標】 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：領域「表現」のねらい及び内容について（1）音楽表現について 第2回：領域「表現」のねらい及び内容について（2）造形表現について 第3回：領域「表現」のねらい及び内容について（3）身体表現について 第4回：幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について 第5回：小学校の教科内容との関連、情報機器及び教材の活用について 第6回：乳幼児の生活と表現について 第7回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（1）幼児自身のイメージについて 第8回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（2）意欲的に表現活動に取り組める工夫について 第9回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（3）幼児の興味や関心と表現について 第10回：年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） 第11回：年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） 第12回：模擬保育（1） 第13回：振り返りと反省 第14回：模擬保育（2）振り返り・反省を踏まえて改善を行う 第15回：表現活動の様々な取り組みについて						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。		
	レポート		20%	要点をおさえて記入することができる。		
	小テスト					
	定期試験		60%	講義内容の理解度、定着度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【授業外学修】 授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学習を行う。						
使用テキスト	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社）				
参考書	自由記載	必要があれば授業中に適宜資料を配布する				

授業科目名 **教育・保育技術論**

サブタイトル

授業番号 EE220

担当教員名 鳥越 亜矢

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

講義、共同討議、保育教材の作成と学習経過のドキュメンテーションづくりやその発表、ディスカッション等を行う授業内容の振り返りなどを通じ、主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。

【到達目標】

子どもの特性を理解し、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法や技術の基礎的な理解や、情報機器や教材(作成を含む)の活用ができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

保育教材の材料や、折り紙は各自で準備すること。

ドキュメンテーションは手書きもしくはパワーポイント等のデジタルデータとする。

第1回：エビデンスのある教育/5Cの力と育てほしい10の姿

第2回：教育・保育の方法(1) 環境を通して行う教育，子どもにとっての環境

第3回：教育・保育の方法(2) 遊びを通じた多様な指導形態と援助

第4回：教育・保育の方法(3) 活動過程と活動における動機付け，意欲を支える援助とは

第5回：教育・保育の技術(1) 良い活動(授業)をする先生とは

第6回：教育・保育の技術(2) 教材研究と指導案作成

第7回：教育・保育の技術(3) 教える体験，教わる体験

第8回：保育現場のICT機器とその活用－研修と保育のドキュメンテーション

第9回：保育教材とそのドキュメンテーション製作に向けて

第10回：保育教材製作(1) 製作

第11回：保育教材製作(2) 製作と練習

第12回：ドキュメンテーションの作成（活用案の作成を含む）

第13回：ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習

第14回：発表(1)/ドキュメンテーションの展示

第15回：発表(2)/ドキュメンテーションの展示及び提出

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業の振り返りや活動の主体的な取り組み，意欲的な態度を評価する。
	レポート	0%	
	小テスト	0%	
	定期試験	50%	講義内容に基づいた設問に対する理解度を点数評価する。
	その他	20%	保育教材とドキュメンテーションを評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。

折り紙の参考資料等を持参して教材研究や模擬保育を行うこと。

【授業外学修】

模擬保育で行う折り紙については時間外学習として週4時間程度行うこと。

保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には、時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育をひらく造形表現	槇 英子	萌文書林	2,300円	978-4-89347-295-3

自由記載

参考書

自由記載

幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社

授業科目名 **親子ふれあい演習A** サブタイトル

授業番号 EE303

担当教員名 土田 豊 小野 順子 大橋 美佐子 山本 房子 平尾 太亮 松谷 和俊

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

保育施設には、地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること、どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し、実際に子育て支援活動を企画、運営、振り返りをしながら実践的に学ぶ。

【到達目標】

子育て支援活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方、留意点などを計画書にまとめ、実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加して下さる親子との信頼関係を、子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：様々な子育て支援活動を知る
- 第2回：活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ
- 第3回：11月の企画共有
- 第4回：11月の企画の事前準備とリハーサル
- 第5回：11月の子育て支援活動の実施1
- 第6回：11月の子育て支援活動の実施2
- 第7回：11月の活動の振り返り・12月の企画共有
- 第8回：12月の企画の事前準備とリハーサル
- 第9回：12月の子育て支援活動の実施1
- 第10回：12月の子育て支援活動の実施2
- 第11回：12月の活動の振り返り・1月の企画共有
- 第12回：1月の企画の事前準備とリハーサル
- 第13回：1月の子育て支援活動の実施1
- 第14回：1月の子育て支援活動の実施2
- 第15回：1月の活動の振り返り及び全体の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。
	レポート	50%	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

子育て支援活動中は、節度ある行動をすること。
一人ひとりが役割を自覚し、意欲的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 子育て支援活動に参加して下さる親子にとって快適で、思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え、計画的に準備を進めること。

2. 実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え、実践する。

3. 自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ、自分たちの活動に反映すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	随時プリントを配布
参考書	自由記載	

授業科目名 **親子ふれあい演習B** サブタイトル

授業番号 EE304

担当教員名 土田 豊 小野 順子 大橋 美佐子 山本 房子 平尾 太亮 松谷 和俊

対象学部・学科 単位数 1単位

開講年次 2年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

保育施設には、地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること、どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し、実際に子育て支援活動を企画、運営、振り返りをしながら実践的に学ぶ。また、保育実習等での経験を子育て支援活動の場に反映しながら学びを深める。

【到達目標】

保育現場や各自治体で実施されている子育て支援活動を把握し、活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方、留意点などを計画書にまとめ、実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を、子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：自治体で行われている子育て支援活動について学ぶ
- 第2回：子育て環境に潜むリスクについて学ぶ
- 第3回：活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ
- 第4回：活動グループづくりと企画検討会
- 第5回：6月の企画共有と事前準備
- 第6回：6月の企画の事前準備とリハーサル
- 第7回：6月の子育て支援活動の実施1
- 第8回：6月の子育て支援活動の実施2
- 第9回：6月の活動の振り返り・7月の企画共有
- 第10回：7月の企画の事前準備
- 第11回：7月の企画のリハーサル
- 第12回：7月の子育て支援活動の実施1
- 第13回：7月の子育て支援活動の実施2
- 第14回：7月の活動の振り返り
- 第15回：子育て支援活動を全体の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況进行评估する。
	レポート	50%	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

子育て支援活動中は、節度ある行動をすること。
一人ひとりが役割を自覚し、意欲的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 子育て支援活動に参加して下さる親子にとって快適で、思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え、計画的に準備を進めること。

2. 実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え、実践する。

3. 自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ、自分たちの活動に反映すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	随時プリントを配布
参考書	自由記載	

授業科目名	音楽基礎演習 A		サブタイトル		授業番号	EE221
担当教員名	大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 岡崎 三鈴					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
ピアノ基礎技法を学ぶとともに、ML教室、7205教室を用いて、音楽の基礎的な知識を習得する。						
【到達目標】						
個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに、楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ、童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：クラス分けテスト			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第2回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第3回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第4回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第5回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第6回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第7回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第8回：中間まとめ			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第9回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第10回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第11回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第12回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第13回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第14回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第15回：まとめ			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。			
	レポート					

小テスト

定期試験 40% 最終的な理解度と個人のレベルに合わせた到達技術を評価する。

その他 40% 演習課題到達度を評価する。

自由記載

【受講の心得】

出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。
毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。
きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。

【授業外学修】

授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。
参考書	自由記載	

授業科目名	音楽基礎演習B		サブタイトル		授業番号	EE222
担当教員名	大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 岡崎 三鈴					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
音楽基礎演習 A を発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに、ML教室、7205室を用いて、保育の現場で必要なコード奏や弾き歌いについても、個人のレベルにあった技術を習得する。						
【到達目標】						
よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や、保育の現場で必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：課題テスト			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第2回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第3回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第4回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第5回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第6回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第7回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第8回：中間まとめ			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第9回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第10回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第11回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第12回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第13回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第14回：個人・個別・集団指導（ピアノレッスン室・ML 教室・7205）			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
第15回：まとめ			※（担当（担当：大山佐知子 二 岡崎三鈴））	松井みさ	河田健	
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの 姿勢／態度	20%	予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。			

レポート

小テスト

定期試験 40% 最終的な理解度と個人のレベルに合わせた到達技術を評価する。

その他 40% 演習課題到達度を評価する。

自由記載

【受講の心得】

出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。

毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。

きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。

【授業外学修】

授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。
参考書	自由記載	

授業科目名	音楽実践演習 A		サブタイトル		授業番号	EE305
担当教員名	松井 みさ 大山 佐知子 岡崎 三鈴					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
音楽基礎演習 A・B で学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに、ピアノレッスン室を用いて、個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。						
【到達目標】						
基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第2回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第3回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第4回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第5回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第6回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第7回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第8回：中間のまとめ ※（担当松井みさ，大山佐知子）						
第9回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第10回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第11回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第12回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第13回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第14回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第15回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する			

レポート

小テスト

定期試験 40% 最終的な理解度と個人のレベルに合わせた到達技術を評価する。

その他 40% 演習課題到達度を評価する

自由記載

【受講の心得】

出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。

実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。

きちんとした身だしなみで授業を受講すること。

【授業外学修】

毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト	自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本
参考書	自由記載	

授業科目名	音楽実践演習 B		サブタイトル		授業番号	EE306
担当教員名	松井 みさ 大山 佐知子 岡崎 三鈴					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
音楽実践演習 A で学んだ内容をさらに発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに、ピアノレッスン室を用いて、個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。						
【到達目標】						
基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第2回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第3回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第4回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第5回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第6回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第7回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第8回：中間のまとめ ※（担当松井みさ，大山佐知子）						
第9回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第10回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第11回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第12回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第13回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第14回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
第15回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用） ※（担当松井みさ 大山佐知子）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する			

レポート

小テスト

定期試験 40% 最終的な理解度と個人のレベルに合わせた到達技術を評価する。

その他 40% 演習課題到達度を評価する

自由記載

【受講の心得】

出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。

実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。

きちんとした身だしなみで授業を受講すること。

【授業外学修】

毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト	自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本
参考書	自由記載	

授業科目名 **キッズ・イングリッシュ**

サブタイトル

授業番号 EE223

担当教員名 藤井 佐代子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

幼稚園・保育園、認定子ども園、児童館、放課後児童クラブなどで、英語を使って、子ども達に英語に親しむ機会を提供できる知識と技能、指導力を修得できるよう実践的学習を行う。

【到達目標】

保育英語検定3級及び実用英語技能検定準2級程度の英語力を獲得し、児童英語指導法を修得して授業実践を行い、子どもたちが英語に親しむ機会を提供できるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Warm-up 歌・音韻・チャンツ・アルファベットソング

第2回：Colors 歌・クラスルームイングリッシュ

第3回：The body, Numbers

第4回：Food, Animals, Family

第5回：イベント ハロウィン, クリスマス

第6回：英会話体操

第7回：エプロンシアター

第8回：英語絵本・歌

第9回：授業観察, 討論

第10回：指導案作成

第11回：細案作成, 教材作成

第12回：模擬授業

第13回：授業実践, 振り返り

第14回：授業実践, 振り返り

第15回：授業実践・振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	活動・討論への積極的な参加と、毎時間の学びの記述を評価する。
	レポート	50%	必要な技能の自己研修状況、基本的な指導案作成方法を理解し作成した指導案を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		活発な活動や発言内容・回数、具体的な気付きの記述が、相当数量ある。 指導に必要な英語技能（保育英語検定3級及び日本英語検定準2級程度）とクラスルームマネジメント力を修得することができる。 基本的な指導案を作成できる。

【受講の心得】

教師になる志をもって、自己研修に励むこと。

【授業外学修】

1. 児童英語教育の基本的な理論の予習復習を5時間以上すること。
2. 指導法の復習を10時間以上すること。
3. クラスルームイングリッシュなどの英語技能の復習・自己研修を10時間以上すること。
4. 指導案は、授業後に修正し提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	The SKY Book 1	千葉成美・金子由美	M P I	1900円+ 税	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	保育実習指導A		サブタイトル		授業番号	EF301
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】</p> <p>保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。</p> <p>実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設について，基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。 <p>なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：施設実習の意義と目標 1 第2回：施設実習の意義と目標 2 第3回：施設実習準備：事前学習と実習課題 第4回：施設実習の心得，人権教育 第5回：実習先施設調べ発表 1：乳児院・児童養護施設 第6回：実習先施設調べ発表 2：児童心理治療施設・児童自立支援施設 第7回：実習先施設調べ発表 3：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設 第8回：実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点 1 第9回：実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点 2 第10回：先輩による事前指導 第11回：お楽しみ会企画・立案・実施 第12回：食事介助体験・車いす体験 第13回：施設実習直前まとめ 第14回：施設実習のまとめ 第15回：施設実習報告会</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。			
	レポート	30%	実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。			
	小テスト	20%	講義内容の理解度，定着度を評価する。			
	定期試験					
	その他	30%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。			
自由記載						

【受講の心得】

- ・施設実習の意義をよく理解すること。
- ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので、積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。
2. 授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。
3. 実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。
4. 学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。

以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **保育実習指導B**

サブタイトル

授業番号 EF302

担当教員名 大橋 美佐子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

保育実習（保育所）の意義、目的についての説明を行う。また、保育実習の内容や実習の進め方について説明するとともに、実際に使用する指導案や実習日誌の書き方について教授する。また、実習生としての好ましい姿勢や態度についても説明を行う。

【到達目標】

保育実習の意義、目的を理解する。

保育者としての意識や態度を身につける。

実習で使用する指導案、実習日誌の書き方を習得する。

なお、本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育実習の意義と目的

第2回：実習の概要

第3回：実習生としての心得

第4回：乳幼児の理解

第5回：DVD視聴と討議「保育所の1日」

第6回：指導計画と指導案の関係性

第7回：観察記録の取り方と活用のしかた

第8回：実際の観察記録

第9回：指導案の書き方1

第10回：指導案の書き方2

第11回：実習日誌の書き方

第12回：指導案の立案(1)

第13回：指導案の立案(2)

第14回：評価・反省の意味

第15回：保育所実習についてのまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	模擬保育や討議に積極的な態度で参加しているかによって評価する。
	レポート	40%	レポートの課題にあった書き方が出来ているか、提出期限が守れているかによって評価する
	小テスト	30%	指導案の理解度を中心に総合的に評価する
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

教科書を十分読んで、疑問点を明らかにすること。

提出物の期限を厳守すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書の授業内容該当の部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、ノートの整理を行う。
3. 授業内で紹介した参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	保育者への扉	澤津まり子	建帛社		
	自由記載	『保育実習の手引き』	岡山県保育士養成協議会	授業内で指定した本を読む	
参考書	自由記載	保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	

授業科目名 **保育実習指導C**

サブタイトル

授業番号 EF303

担当教員名 大橋 美佐子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

保育実習（保育所）IIの意義，目的についての説明を行う。実習の事前においては，これまでに学修した知識や技術を実際に実施する場であることを説明する。また，実習事後においてはグループ討議や反省会で振り返りを行い，今後の課題や解決法について教授する。

【到達目標】

保育実習の意義，目的を理解し保育者としての意識や態度を身につけ積極的に実習に参加する。

実習で使用する指導案，実習日誌の書き方を習得し，実際に立案する。実習後はテーマレポートの作成を行い，自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にすることができる。

なお，本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：保育実習IIの意義と目的

第2回：保育士の役割

第3回：指導計画の実際

第4回：保育現場の先輩による事前指導

第5回：実習日誌の書き方

第6回：指導案の書き方(1)

第7回：指導案の書き方(2)

第8回：実習に対する自己課題

第9回：年齢に応じた保育

第10回：環境による保育

第11回：子どもの状況に応じた適切なかかわり

第12回：自己課題に対する振り返り

第13回：グループ討議(1)

第14回：グループ討議(2)

第15回：保育所実習のまとめ（反省会）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な態度で授業や討議等に参加し，自分の意見が出せているかにより評価する。
	レポート	50%	レポートの内容が課題に合致しているか，また提出期限が守れているかにより評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

意欲的な態度で参加すること。提出物の期限厳守。必要書類の確認を十分に行うこと。

【授業外学修】

子どもの発達過程を十分把握し、年齢に合わせた遊びが準備できるようにしておくこと。

レポートの書き方を理解しておく。

実習に必要なものを準備しておく。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『保育実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館
参考書	自由記載	

【その他】

岡山県保育士養成協議会作成の「実習のてびき」，「実習日誌」を使用する。

授業科目名	保育実習指導D		サブタイトル		授業番号	EF304
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】</p> <p>施設での実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び、児童福祉施設に関する知識を修得するとともに、実習生としての姿勢や態度、実習について学ぶことを目的とする。</p> <p>実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため、実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方、考察方法について学ぶ。</p> <p>利用児・者に対して個々に合った支援を実施するために、個別支援計画の意義や立案・作成の方法を学ぶ。</p> <p>実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこなう。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設について、発展的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を習得し、目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して、協働する力の重要性に気づくことができる。 ・個別支援計画を立案・作成することができる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：施設実習の目的と意義</p> <p>第2回：施設実習先種別の理解</p> <p>第3回：専門職の役割と援助</p> <p>第4回：実習日誌の書き方，実習に対する課題作成1</p> <p>第5回：実習日誌の書き方，実習に対する課題作成2</p> <p>第6回：個別支援計画の意義</p> <p>第7回：個別支援計画の立案・作成</p> <p>第8回：施設職員，先輩による事前指導</p> <p>第9回：事例研究1</p> <p>第10回：事例研究2</p> <p>第11回：施設研究1</p> <p>第12回：施設研究2</p> <p>第13回：施設研究3</p> <p>第14回：実習のまとめ</p> <p>第15回：実習反省会</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。			
	レポート	30%	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	事前学習の内容を精査し，日誌にまとめて記入することができる（20%）事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる（30%）			

自由記載 実習内容を60%、報告書レポート等を40%の割合で評価する。

【受講の心得】

- ・施設実習の意義をよく理解すること。
- ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので、積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

1. 授業内で学修した、児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。
2. 実習手引の、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。
3. 学修した支援方法を獲得するために、繰り返し練習すること。
4. 実際の利用児・者を想定しながら、個別支援計画を作成すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	授業内容によって、随時プリントを配布する。
参考書	自由記載	授業で必要に応じて、紹介する。

授業科目名	保育実習A		サブタイトル		授業番号	EF305
担当教員名	平尾 太亮 土田 豊					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	実習			
【授業の概要】						
<p>保育所以外の児童福祉施設や障害児・者施設などにおいて、諸教科で学んだ理論や技術がいかに具体化・統合化されているかを実地で学習する。</p> <p>そして、実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することを目的とする。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者を理解する。 ・施設実習を通して、保育者としての知見を得る。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>実習生といえども、社会人及び保育士としての自覚を持って実習に臨むこと。また、実習に先立ち児童福祉施設や障害児・者に関する本を数冊読んでおくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用児・者への理解 <ul style="list-style-type: none"> ・利用児・者との生活を通しての理解をする。 ・利用児・者のとらえ方を深める。 2) 養護活動と養護技術への理解 <ul style="list-style-type: none"> ・各施設の目標に沿った養護の実際を理解する。 ・保育士の職務内容、役割について理解する。 ・技術を学ぶ。 3) 施設への理解 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の役割と機能について理解する。 ・体験的理解と施設観の変革・再編成をする。 4) 自己啓発と福祉観の深化 <ul style="list-style-type: none"> ・実習での体験や学びをもとに自己啓発を進める ・福祉の現場に触れることにより、福祉観・援助観を深化させる。 <p>通常特定の施設に10日間宿泊してその施設の処遇を見学したり、援助活動に参加させてもらい基礎的な内容を学習する。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	20%	報告書の施設概要を詳細に記載し、学んだことについて具体的かつ考察を踏まえながら記述することができる。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	80%	実習先施設による評価（50%）と実習日誌（30%）			
自由記載						

【受講の心得】

- ・実習の目標を把握しておくこと。
- ・施設ごとに方針が異なるため、実習施設のプログラムに従うこと。
- ・課題設定をし、目標を達成できるようにする。

【授業外学修】

1. 利用児・者の活動と施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。
2. 利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて、具体的にエピソードを記入し、それらを考察しながら記述する。
3. その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り、次の日の実習課題を検討する。
4. 1日の流れを振り返り、施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし、獲得できるようにする。

以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』岡山県保育士養成協議会
参考書	自由記載	

授業科目名	保育実習B		サブタイトル		授業番号	EF306
担当教員名	大橋 美佐子 松谷 和俊					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	実習			
【授業の概要】 保育所で10日間の実習を行う。						
【到達目標】 実際の保育現場で観察や子どもとのかかわりを通し、子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ保育の方法や保護者への支援について総合的に学ぶ。 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>保育所の生活と1日の流れ</p> <p>保育所保育指針の理解と保育の展開</p> <p>子どもの観察とその記録による理解</p> <p>子どもの発達過程の理解</p> <p>子どもへの援助やかかわり</p> <p>保育の計画に基づく保育内容</p> <p>子どもの発達過程に応じた保育内容</p> <p>子どもの生活やあそびと保育環境</p> <p>子どもの健康と安全</p> <p>保育課程と指導計画の理解と活用</p> <p>記録に基づく省察・自己評価</p> <p>保育士の業務内容</p> <p>職員間の役割分担や連携</p> <p>保育士の役割と職業倫理</p> <p>以上のような内容を総合的に実習の間に、保育の現場から学ぶ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	80%	実習園からの評価による			
	レポート	20%	実習日誌, 指導案, レポートで評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 実習に積極的に、意欲的に参加する。子どもたちと十分にコミュニケーションをとる。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	保育実習C		サブタイトル		授業番号	EF307
担当教員名	大橋 美佐子 松谷 和俊					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】 保育所で10日間の実習を行う。						
【到達目標】 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを を通して保育の理解を深める。既習の教科や保育実習Bの経験をふまえ、子どもの保育及び保護者支援について総合 的に学ぶ。保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深める。 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己課題を明確化する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 子どもの心身の状態や活動の記録 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 環境を通して行う保育、生活やあそびを総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 保育課程に基づく指導計画の作成、実践、観察、記録、評価と保育の過程の理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 以上のような内容を実習の間に保育の現場から学ぶ。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの 姿勢/態度	80%	実習園からの評価			
	レポート	20%	実習日誌、指導案が丁寧に指導通りまとめられているか、課題に添 ったレポートであるか、期限内に提出できたかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	保育実習D		サブタイトル		授業番号	EF308
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
<p>保育所以外の児童福祉施設や、知的障害児・者施設で施設実習での参加観察実習でそれぞれの段階を積み上げた仕上げの実習である。利用児・者の機能、保育士の役割、指導計画など支援の内容をより詳細に体験する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することができる。 ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者の姿を理解する。 ・施設実習を通して、保育者としての知見を得る。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>基礎的な実習を終えた後、次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施、関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題を持つこと。</p> <p>1) 援助計画の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画、日常的支援、専門的支援を理解する。 <p>2) 援助プログラムの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的支援の時間配分や生活、教育、訓練、治療、矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し、その助言を受けて立案する。 <p>3) 援助プログラムによる援助実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言、実習場面の立会い、事後の批評等を受ける。 <p>4) 保育士の態度と技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 <p>5) 多様性と共通性の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを、施設で実践することで学習する。 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート	30%	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し、具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	70%	実習先施設による評価（40%）と実習日誌（30%）			
	自由記載					

【受講の心得】

- ・実習の目標を把握しておくこと。
- ・施設ごとに方針が異なるため、実習施設のプログラムに従うこと。
- ・課題設定をし、目標を達成できるようにする。

【授業外学修】

1. 利用児・者の活動と施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。
2. 利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて、具体的にエピソードを記入し、それらを考察しながら記述する。
3. その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り、次の日の実習課題を検討する。
4. 1日の流れを振り返り、施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし、獲得できるようにする。

以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会
参考書	自由記載	

授業科目名 **教育実習**

サブタイトル

授業番号 EF309

担当教員名 小野 順子 山本 房子

対象学部・学科

単位数 4単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実習

【授業の概要】

幼稚園教育の現場で4週間実習経験する。

【到達目標】

幼児とその教育を正しく理解する力、幼児を受容しかつ指導する力、事務的な事柄を処理する能力等を身につける。

優しさや思いやりある保育者の姿に触れ、信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り、実践出来る力を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

観察・参加・指導実習（部分・連続・1日実習）とおおよそ3段階で進められる。

第1週 観察実習

- ・幼稚園教育実践の場を実際に観察し、幼児の実態や指導に対する理解を深める。
- ・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。

第2週 参加実習

- ・教育実習担当教諭の計画に基づき、保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。
- ・幼児に親しみ、その接し方に慣れる。

第3～4週 指導実習

- ・部分実習

幼児の生活全体を把握し、1日のうちの1部を担当し、幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い、保育指導の基礎的实践を経験する。一人一人の幼児の行動観察をすることにより幼児理解を深める。

- ・連続実習
- ・1日実習

最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し、1日の保育を実践する。

部分実習と同様、幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自ら立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	実習先の幼稚園において、大学が示した評価基準（実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価される。
	レポート	30%	教育実習園での実習日誌・指導案等提出物などを与えられた様式に従って、丁寧に記述していること。提出期限を守っていること。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

体調管理に努め実習の課題をもち、積極的に実習に参加すること。社会人、保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。

【授業外学修】

1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の動きを日誌に記入する。
2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。
3. 指導案等の実習指導計画を作成する。

以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	幼稚園教育実習	平岡弘正監修	ふくろう出版	1900円 (税別)	978-4-86186-600-5
	自由記載				
参考書	自由記載				

【注意事項】

参考書○22有り UTFで入力 要確認

授業科目名	教育実習指導		サブタイトル		授業番号	EF310
担当教員名	小野 順子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
【授業の概要】						
現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため、事前に学習への意欲を高め、これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議、反省会等を行い、幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする、						
【到達目標】						
実習前には実習生としての態度や心構え、指導案や日誌の書き方、教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。 実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに、実習での学習の成果のまとめと発表をし、自己課題を明確にできる。 以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育実習の目標と意義 第2回：教育実習の計画と準備 第3回：幼稚園見学・観察（幼稚園教育、教師の役割、子どもの実態把握） 第4回：園長先生・先輩による事前指導 第5回：実習日誌の書き方、実習に対する課題作成 第6回：指導案の書き方・部分指導案(1) 第7回：指導案の書き方・部分指導案(2) 第8回：指導案の書き方・日案(1) 第9回：指導案の書き方・日案(2) 第10回：特別に支援を要する幼児への指導 第11回：教師の役割と援助 第12回：幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営 第13回：教育実習のまとめI 反省と評価 第14回：教育実習のまとめII テーマレポート、実習での学びのまとめと発表、自己課題の反省・評価 第15回：教育実習のまとめIII 実習反省会						
【授業計画 備考2】						
注) 第2～6回の授業は、時間の関係で授業時間以外の時間を設定予定						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、協力する態度、授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。			
	レポート	80%	特別講義や見学等の課題を与えられた様式に従って、丁寧に述べていること。提出期限を守っていること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	報告書やレポート等の評価を80%、授業態度を80%20%の割合で評価する。				

【受講の心得】

実習に取り組むに当たっての課題を決定し、その準備をする。
提出物が多いので、提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。

【授業外学修】

教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。
授業後は教科書や配布された資料をよく読み、知識を整理すること。
弾きうたい、幼児への関わり方や指導案作成等、保育技術の向上に努力すること。
保育教材等、実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。
以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	幼稚園教育実習	平岡弘正監修	ふくろう出版	1900円 (税別)	978-4-86186-600-5
	自由記載	『幼稚園教育実習』（ふくろう出版）	『指導案集』（担当者作成）	『幼稚園教育要領』	
参考書	自由記載	『指導計画の作成と保育の展開』，文部省，フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』，文部科学省，フレーベル館			

授業科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園)		サブタイトル	(幼稚園)	授業番号	EF302
担当教員名	原田 眞澄 大橋 美佐子 小野 順子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 2年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して、学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに、不足している知識・技能を補完・向上させ、保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。						
【到達目標】 保育者としての使命感や責任感をもつ。 保育者に必要な専門的知識をもつ。 保育を取り巻く環境の変化について理解し、実践的に保育に生かすことができる。 仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し、実行できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する ※ (担当全教員) (履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認)</p> <p>第2回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」 ※ (担当原田眞澄)</p> <p>第3回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」 ※ (担当原田眞澄)</p> <p>第4回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」 ※ (担当大橋美佐子)</p> <p>第5回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」 ※ (担当大橋美佐子)</p> <p>第6回：現代の乳幼児保育の課題「模擬保育について」 ※ (担当小野順子)</p> <p>第7回：模擬保育検討・準備(1) ※ (担当全教員)</p> <p>第8回：模擬保育検討・準備(2) ※ (担当全教員)</p> <p>第9回：模擬保育検討・準備(3) ※ (担当全教員)</p> <p>)</p> <p>第10回：模擬保育検討・準備(4) ※ (担当全教員)</p> <p>第11回：模擬保育最終検討・指導案等準備 ※ (担当全教員)</p> <p>第12回：模擬保育(1) ※ (担当全教員)</p> <p>第13回：模擬保育(2) ※ (担当全教員)</p> <p>第14回：模擬保育(3) ※ (担当全教員)</p> <p>模擬保育の振り返り</p> <p>第15回：実践演習全体の反省・評価・第1回目にもった課題の達成度を振り返る ※ (担当全教員)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	グループ討議には意欲的に参加し、模擬保育では仲間しようとする態度で授業に参加している。			
	レポート	50%	レポート等の提出物を与えられた様式に従って、丁寧に記述していること。提出期限を守っていること。			
	小テスト					
	定期試験					

その他

自由記載

【受講の心得】

授業は演習形式で行われるので、学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し、保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について、グループ討論・模擬保育等を通して、自ら主体的に考えていくようにする。受講前には、履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。

【授業外学修】

授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。
授業後は配布された資料をよく読み、知識を整理すること。
模擬保育の実施について必要な準備を仲間と協力して行うこと。
以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	適宜、参考資料をプリントし、配布する。
参考書	自由記載	『幼稚園教育要領』、文部科学省、平成20年度版 『保育所保育指針』、厚生労働省、平成20年度版

授業科目名 **日本語表現**

サブタイトル (日本語の用字用語と言語表現について)

授業番号 SA211

担当教員名 又吉 里美

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は、適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」「話すこと・聞くこと」の演習をおこなう。また、表現活動のおもしろさを味わう。

【到達目標】

1. 適切な日本語表現を身につける。
2. 意見文を中心として、様々な種類の文章が書けるようになる。
3. 就職活動や就職後にありえる場面や状況に応じた日本語について理解し、実際に使うことができるようになる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

【授業計画 備考】

本講義では、場面や状況に応じた日本語の使い方を学ぶために、意見文を中心に多様な種類の文章を実際に書いていく。

- 第1回：授業概要・日本語を用いた対話（自己紹介）
- 第2回：日本語を用いた対話（他己紹介）
- 第3回：日本語表現の留意点(1)類義語
- 第4回：日本語表現の留意点(2)日本語の構造
- 第5回：日本語表現の留意点(3)書き言葉
- 第6回：日本語表現の留意点(4)外来語
- 第7回：日本語表現の留意点(5)区切って書く
- 第8回：意見文を書く(1)分析と考察を書く
- 第9回：意見文を書く(2)事実・意見・感想の違い
- 第10回：意見文を書く(3)事実・意見・根拠の構造で書く(1)
- 第11回：意見文を書く(4)事実・意見・根拠の構造で書く(2)
- 第12回：物語を書く(1)構想して物語を書く(1)
- 第13回：物語を書く(2)構想して物語を書く(2)
- 第14回：物語を書く(3)評価と鑑賞
- 第15回：振り返りとまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、課題への取組などの状況によって評価する。
	レポート	50%	毎回、課題を提示する。また、授業中の課題も評価対象とする。
	小テスト		
	定期試験	40%	
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・初回授業時に詳細を提示する。
- ・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。

【授業外学修】

- 1, 予習として, 課題に取り組むこと。
- 2, 復習として, 授業で学んだことを実践すること。
- 3, 発展学習として, 授業で紹介した参考文献(授業時に適宜紹介する)を読むこと。

以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **芸術**

サブタイトル (音楽)

授業番号 SA212

担当教員名 河田 健二

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

音楽の様々な要素を取り出し、紹介する。音楽とは切っても切り離せないキリスト教との関わり合いや、器楽・声楽の各分野について学習する。また、実際に声を出して歌唱をする。

【到達目標】

音楽について深く理解し、また人前で堂々と歌唱できるようになることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：キリスト教と音楽1
- 第2回：キリスト教と音楽2
- 第3回：キリスト教と音楽3
- 第4回：キリスト教と音楽4
- 第5回：歌曲について1（発声法を含む）
- 第6回：歌曲について2（歌唱の方法について）
- 第7回：オペラへの誘い1
- 第8回：オペラへの誘い2
- 第9回：オペラへの誘い3
- 第10回：器楽の魅力1
- 第11回：器楽の魅力2
- 第12回：器楽の魅力3
- 第13回：器楽の魅力4
- 第14回：音楽の現在，そしてこれから
- 第15回：歌唱発表会

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への積極的な参加，熱心な受講態度を評価する。
	レポート	50%	与えられたテーマに対して自分の考えを表現できていることを評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	上手下手ではなく，歌唱に対する真剣な取り組み方について評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

幅広く音楽に興味を持つこと。決してある特定の分野のみに偏らないよう注意すること。

【授業外学修】

予習は必ずしも必要ではないが、学習した内容が定着するように各回の内容を自分の言葉で再定義すること。また、歌曲の回については実際に声を出すので、要領をつかめるまで各自で反復練習をすること。また、最終回では受講生全員の前で歌っていただくので、そのための準備を怠らないこと。以上の内容を週4時間程度行うこと。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用しないが、必要な文献については各回プリントを配布する予定。
--------	------	--------------------------------------

参考書

自由記載

授業科目名 **法学概論**

サブタイトル (日常生活の法律知識)

授業番号 SA221

担当教員名 未定

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

法律や裁判は難しい、悪いことはしないからなどと敬遠する人もいるが、私たちの日常生活は憲法や法律によって守られており、少しでもそれらの知識を有することは必要である。人が生まれる前から死んだ後のことまで、法律ではどのように決められているか、また日常生活ではどのようなことに注意すればよいかなどわかりやすい講義を行なう。

【到達目標】

受講により社会人としての全般的な法律知識を得ることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：テキスト紹介および説明を行なう。なお、ストーリーを楽しみながら、法律・裁判の知識や日常生活での注意事項が自然に身につく推理小説として、弁護士でもある和久峻三氏の『赤かぶ検事』『京都殺人案内』他の作品を紹介する。

第2回：法とは何か 推理小説による法学等理解について

第3回：法とは何か 社会規範、法と道徳等について

第4回：法とは何か 法と強制、刑罰、犯罪捜査、裁判員制度について

第5回：法とは何か 法と強制、損害賠償・慰謝料等について

第6回：法とは何か 法の存在形式、法の目的等について

第7回：法と人生 パソコンによる法律学習

第8回：法と人生 日本国憲法について（基本的人権）

第9回：法と人生 労働法関係（男女雇用機会均等法）について

第10回：法と人生 労働法関係（育児・介護休業法等）について

第11回：法と人生 民法関係（婚約・結婚・出産・命名・親子等）について

第12回：法と人生 民法関係（夫婦の権利と義務・離婚・財産等）について

第13回：法と人生 民法関係（死亡・葬儀・相続等）について

第14回：法と人生 消費生活関係（契約、取消し、訪問販売の手口、消費生活センター等）について

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、出席状況等によって評価する。
	レポート	20%	レポート内容、提出期限・最低字数の厳守、等によって評価する。
	小テスト		
	定期試験	70%	テキスト、ノート、プリント、視聴覚教材等を用いた講義の最終的な理解度によって評価する。
	その他 自由記 載		

【受講の心得】

授業時の携帯等の使用は禁止する。

【授業外学修】

- (1) 予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。
- (2) 予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。
- (3) 日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。

以上(1)～(3)を、週当たり4時間以上学修すること。

- (4) 和久作品を1冊以上読みレポートを提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『ライフステージと法』	副田隆重 他	有斐閣	1900円	9784641221017
	自由記 載				

参考書	自由記 載	和久峻三, 『赤かぶ検事』 『京都殺人案内』 シリーズ他, (講談社, 光文社, 角川書店 他)
-----	----------	--

授業科目名	経済学		サブタイトル	(経済の見方)	授業番号	SA222
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>テレビのニュースや新聞では貿易や為替などの情勢が頻繁に取り上げられている。一見、私たちの普通の生活に無縁なものと考えられがちであるが、物価や賃金の動きなどは私たちの生活に密着した経済現象としてとらえることができる。</p> <p>また、経済活動の重要な役割を担う企業は、その活動が経済全体に大きな影響を及ぼすものであり、社会生活においても重要なアクターとしてとらえることができる。したがって、企業活動をコントロールする経済政策は私たちにとって身近な問題として考える必要がある。</p> <p>本講義では、基本的な経済理論を学びつつ、消費者行動、企業活動及び経済政策が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考える。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>ニュース番組の経済動向が理解できるようになるだけでなく、経済現象は様々な要因で現れるということを理解したうえで、実生活において経済学的な思考ができるようになるようにする。</p> <p>本講義は上級ビジネス実務士資格取得のための選択科目であり、特に企業活動・経済政策と経済現象の関連を理解し、新聞・ニュース等の経済情勢の影響等を自ら判断できるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：経済学とは 第2回：ミクロ経済学の考え方 第3回：家計の行動 第4回：企業の行動 第5回：政府の役割 第6回：需要と供給 第7回：不完全競争市場（独占・寡占） 第8回：不完全競争下での企業の行動 第9回：マクロ経済学の考え方 第10回：国民所得 第11回：貨幣の役割 第12回：国民所得のコントロール 第13回：長期の経済とは 第14回：失業 第15回：経済政策と企業活動						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な受講態度、復習の状況により判断する。			
	レポート					
	小テスト	15%	単元ごとの理解度を評価する。			
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

予習は特に必要ない。事後学習（復習）については、講義で得た知識を実際の経済現象に照らし考えてみるという姿勢を実践すること。

【授業外学修】

授業において説明する経済学の基本的考え方は経済理論の基礎となるものである。また、経済理論はさらに発展的に展開し、別の理論とも深く関わる。従って、必ず復習し理解したうえで、後の講義を受講するよう心がけること。

週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間

使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布し、使用する。				
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	1500	978-4-04-601168-8
		図解大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	925	978-4-04-601754-3
	自由記載	参考図書については、必要の都度講義中に周知する。				

授業科目名 **社会心理学**

サブタイトル (心と身体と社会の関係)

授業番号 SA223

担当教員名 澤田 陽一

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講義は、社会学と心理学の学際領域である従来の社会心理学の基礎理論だけではなく、心（の働き）と身体（脳を含む実体）と社会（あるいは環境）との関係性から、人間（ヒト）の心理（心の働き）・行動を説明・解説する。

【到達目標】

心と身体と社会の関係性についての様々な現象や知見を知ること、多角的に人間（ヒト）を捉えることが出来るようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：社会心理学事始

第2回：社会を把握するためには ～感覚から認知へ：表象の成立～

第3回：社会的比較I ～他者を知る～

第4回：社会的比較II ～自己を知る～

第5回：パーソナリティと対人認知(1) ～相手の性格を知る～

第6回：パーソナリティと対人認知(2) ～対人魅力 ～どんな人に対して魅力を感じるのか～

第7回：情動・感情

第8回：集団の中の個人I 社会的影響と集団意思決定

第9回：集団の中の個人II 社会的影響と援助行動

第10回：コミュニケーション

第11回：攻撃性の心理

第12回：政治・経済の中にある心理

第13回：脳から見た社会性 ～社会性の破綻に見る個人～

第14回：信じることの心理

第15回：総括・授業の振り返り

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	25%	授業時に積極的に発言すること。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	75%	問題・設問に対して、学習したことを正確に記述できること。
	その他		
	自由記載		定期試験は選択問題以外に、特定の専門用語および理論について記述式の説明を求める問題を出题する。これにより、断片的な知識を評価するだけではなく、他者に論理的に説明できる能力も評価する。

【受講の心得】

私語厳禁

【授業外学修】

授業で紹介する専門用語はとて多く、授業だけでは理解が難しいものも少なくないので、それらについて、図書館などの専門書等を利用して、自身で再度、確認を行うこと。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特になし
参考書	自由記載	適宜, 講義内で紹介する

授業科目名 **社会福祉概論**

サブタイトル (社会福祉制度を中心に)

授業番号 SA224

担当教員名 松井 圭三

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

社会福祉は、私たちの生活問題を対象としているのでその概念は広い。そのため、社会福祉の本質を理解しようと思えば、歴史的変遷や思想、制度、政策を見ていく必要がある。加えて、社会福祉は実践学問であるので自然科学や人文科学・社会科学との関連についても学習することが肝要である。また、対人援助技術が現場では問われるのでソーシャルワークの概念についても言及しなければならない。

本講義では、福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックスをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。授業形式としては、講義、ビデオ視聴を主とする。また、最近の新聞等を教材にディスカッションできる機会を設定したいと考えている。

【到達目標】

- ・社会福祉実践能力を高めます。
- ・社会福祉の幅広い知識と教養を修得します。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：社会福祉とは（社会福祉の本質を中心に）
- 第2回：社会福祉の視点（社会福祉の役割を中心に）
- 第3回：社会福祉の動向（1980年代から今日までの福祉政策を中心に）
- 第4回：社会福祉の発展（英国、日本の社会福祉の歴史を中心に）
- 第5回：社会福祉の法制と機構（厚生労働省、地方自治体の社会福祉行政を中心に）
- 第6回：社会福祉従事者（福祉マンパワーの課題を中心に）
- 第7回：社会福祉施設（社会福祉施設の概要と課題を中心に）
- 第8回：低所得福祉（生活保護制度の意義、種類を中心に）
- 第9回：高齢者福祉（高齢者に関する福祉サービスを中心に）
- 第10回：障害者福祉（障害の概念と障害者の実態を中心に）
- 第11回：児童福祉（児童福祉の歴史と理念、制度を中心に）
- 第12回：医療福祉（医療、保健、福祉の連携を中心に）
- 第13回：地域福祉（地域を支える機関や人々を中心に）
- 第14回：社会福祉援助技術（対人援助技術を中心に）
- 第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

本講義は講義形式とグループ討議で進めます。

- ・予習と授業中の積極的参加を求めます。
- ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- ・復習として、課題のレポートを書く。
- ・授業で紹介された参考文献を精読する。

本講義では、週4時間程度の授業外学習が必要となる。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	社会保障論	今井慶宗他	大学図書 出版	2800円	978-4- 907166- 25-0
	NIE社会福祉記事ワークブック	松井圭三ほか	大学教育 出版社	2000円	
自由記載					
参考書	自由記載	授業において、随時紹介します。			

授業科目名	時事問題		サブタイトル	(現代日本を取り巻く諸問題)	授業番号	SA225
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>日々流れるニュースの中で、地球温暖化、大気汚染、水質汚染、化学物質汚染、森林減少、砂漠化、資源・エネルギー問題、放射能汚染などが多く取り上げられている。これら現代の多くの環境問題は私たち現代の人間がその原因をつくり、私たちの生活に影響を及ぼす問題である。後世のために、現在の環境問題を少しでも改善していく必要性がある。</p> <p>また、日本に目を向けると、アベノミクス、少子・高齢化問題、あるいはグローバル経済と中国の台頭などのテーマが取り上げられ、日本への影響が論じられている。</p> <p>本講義ではこれらの環境問題、現代日本と取り巻く諸問題について、最新のデータ等をもとに、その現状を説明し、改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。また、重要な事件などが発生した場合は、本授業計画にないものであっても講義の対象として学生の皆さんと考えてみたい。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>様々な環境問題、日本の現状について、基礎知識を修得し、理解することができるようになること。また、環境問題・日本の抱える諸問題に関する時事ニュースについて関心を持ち、考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げる学士力のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決力〉、〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：環境問題とは 第2回：地球温暖化 第3回：原子力発電の是非 第4回：大気汚染 第5回：水質汚染 第6回：砂漠化 第7回：食料問題と食品添加物 第8回：地球にやさしい社会をつくる 第9回：日本を取り巻く諸問題とその背景 第10回：技術革新と日本経済の変化 第11回：少子・高齢化問題 第12回：社会保障問題 第13回：金融政策とその問題 第14回：エネルギー問題世界経済と日本 第15回：これからの日本</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	意欲的な受講態度、予習、復習の状態によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	20%	単元毎に小テストを実施し理解度を評価する。			
	定期試験	65%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

1. 配布するプリントは必ず持参の事。
2. 日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。
3. 授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。

【授業外学修】

1. 予習として，配布したプリントを読み，疑問点を明らかにしておく。
2. 復習として，勉強したことをプリントを見ながら再度学修しておく。
3. 授業で紹介した図書を読んでおく。

以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	授業に際しプリントを配布する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	地球環境問題がよくわかる本		浦野紘平，浦野真弥	オーム社	1600	978-4-274-22090-6
	日本経済入門		藤井彰夫	日本経済新聞出版社	860	978-4-532-11385-8
	自由記載	必要の都度，随時紹介する。				

授業科目名 **体育実技**

サブタイトル (スポーツに親しもう)

授業番号 SA241

担当教員名 溝田 知茂

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 実技

【授業の概要】

各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。

【到達目標】

健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。

なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開）
- 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開）
- 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解）
- 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開）
- 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解）
- 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開）
- 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解）
- 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入）
- 第15回：卓球III（ゲームの展開）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している
	レポート		
	小テスト	40%	各競技ごとに技能テストを実施する
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

運動着を着用し、体育館シューズを使用する。

全員協力の上、準備・片付けをする。

【授業外学修】

・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。

・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。

以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)
参考書	自由記載	

授業科目名 **フレッシューズセミナー** サブタイトル 授業番号 SA151

担当教員名 福森 護 宋 娘沃 河田 健二 古谷 俊爾 佐藤 由美子 板野 敬吾 藤本 宏美

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

導入教育を目的として開講された科目であり、入学直後の学生生活の環境に慣れて、今後の大学生活を有意義なものにするために、大学生活において必要な知識や心構えについて学ぶ。また、各種オリエンテーションや研修、イベントなど、様々な活動を通じて、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションも図る。

【到達目標】

大学生活について理解を深め、スムーズに大学生活を過ごせるようになることを目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など）

第2回：大学のしくみを知る（履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方など）

第3回：大学のしくみを知る（学生生活全般について）

第4回：大学の施設を知る（図書館の利用）

第5回：大学の施設を知る（情報処理センターの利用）

第6回：協働の喜びを知る（学科行事，大学行事などを通じて）

第7回：自己アピール

第8回：グループディスカッション・グループワーク

第9回：先生方を知る

第10回：環境を考える

第11回：危機管理を考える

第12回：HIVについて

第13回：働くことの意味

第14回：人権について

第15回：大学で学ぶことの意義

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
	レポート	50%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

本科目の性質上、時間を変更して行う場合もあるので、各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。

【授業外学修】

毎回の授業で得た知識を学生生活において意識し、可能な限り活用する。

以上のことに、毎週4時間以上の授業外学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	なし 入学当初のガイダンスには, 【学生便覧・授業概要】を持参すること。
参考書	自由記載	

授業科目名	ボランティア論		サブタイトル	地域社会で生きる	授業番号	SA252
担当教員名	福森 護					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>阪神淡路大震災を契機にボランティア活動に対する関心が高まり、また、東日本大震災を契機に、ボランティア活動とは何かが改めて問われている。その分野は福祉、教育、まちづくり、環境、災害救援、国際協力等幅が広い。本科目は、ボランティアの意義や歴史、また、それぞれの分野で活躍する実践者からボランティア活動についての現状と課題、今後の可能性、個人や社会とのつながりなどを学び、自らも主体的に行動できる知識の修得を目指す。</p>						
【到達目標】						
<p>ボランティアの意義や各分野の活動の実態等を知ること、地域社会で起きている問題を解決するために何が求められているのか、また自分に何が出来るのかを考えることができる。</p> <p>ボランティア活動をとおして、相手にどのような影響を及ぼすか、そして、人や組織が対等な関係でつながるといふことはどういうことかを考えることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：ボランティア活動とは？ ※（担当福森護）</p> <p>第2回：ボランティアの歴史・社会的役割 ※（担当福森護）</p> <p>第3回：ボランティア活動の事例1（地域活動、まちづくり） ※（担当福森護）</p> <p>第4回：ボランティア活動の事例2（企業、福祉） ※（担当福森護）</p> <p>第5回：ボランティア活動の事例3（国際協力） ※（担当福森護）</p> <p>第6回：中国学園におけるボランティア活動 ※（担当学内講師）</p> <p>第7回：社会貢献・文化貢献とボランティア1（地域活性化の活動） ※（担当外部講師）</p> <p>第8回：社会貢献・文化貢献とボランティア2（音楽活動を通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第9回：社会貢献・文化貢献とボランティア3（イベントを通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第10回：社会貢献・文化貢献とボランティア4（芸能活動を通しての貢献） ※（担当外部講師）</p> <p>第11回：ボランティア活動の実際1（動機） ※（担当福森護）</p> <p>第12回：ボランティア活動の実際2（選択） ※（担当福森護）</p> <p>第13回：ボランティア活動の実際3（実践） ※（担当福森護）</p> <p>第14回：ボランティア活動の実際4（報告） ※（担当福森護）</p> <p>第15回：学修と実践をとおして「ボランティア」とはを皆で考える（ディスカッションと発表）。 ※（担当福森護）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート	60%	2回のレポートを課す。			
	小テスト					
	定期試験					

その他 40% 2回のボランティア活動を評価する。

自由記載 履修者は、2回以上、ボランティア活動を行うことを義務付ける。

【受講の心得】

ボランティア活動に関心を持ち、理論で学んだことを実践で生かしながらボランティアについて自分の答えを見つけることを求める。

【授業外学修】

- 1.課題のレポートを書く。
- 2.各回で紹介された参考文献や、ボランティア情報をもとに積極的に活動すること。
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	各回で配布する資料等を使用する。
参考書	自由記載	『ボランティア論』, 藺田碩哉 編著, ヘルスシステム研究所 『学生のためのボランティア論』, 岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子 編, 社会福祉法人大阪ボランティア協会 『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』, 巡 静一・早瀬 昇 編著, 中央法規出版 『ボランティア学を学ぶ人のために』, 内海成治・入江幸男・水野義之 編, 世界思想社 『ボランティア学のすすめ』, 内海成治 編著, 唱和堂

授業科目名 **英語 A**

サブタイトル (インターネット英語)

授業番号 SA291

担当教員名 竹野 純一郎

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

身近な話題やアカデミックな話題について、コンピュータ・インターネットを活用して英語のリーディングスキル、ライティングスキルを軸として4技能が向上するように演習を通して講義する。また必要な情報をインターネットで検索する技能、プレゼンテーション技術やメディアリテラシーについても説明する。

【到達目標】

- ・インターネットに関連する英語を通して、異文化理解を深めることができる。
- ・実生活に役立つ英語運用能力を身につけることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Search Engine

第2回：Social Networking

第3回：Online English

第4回：Cooking

第5回：Sports (Baseball)

第6回：Weather Forecast

第7回：Music

第8回：Art

第9回：Famous People

第10回：Movies

第11回：News

第12回：Science

第13回：World Heritage

第14回：Online Shopping

第15回：Trip, まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめられているかを評価する。
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
	その他 自由記載	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

【受講の心得】

- ・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。
- ・授業中には個人だけでなくペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。
- 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。
- 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Internet English	津久井良充・高橋栄 作・高木亜希子 編 著	鷹書房弓 プレス		978-4- 8034- 1255-0

自由記載

参考書

自由記載

適宜, 授業中に紹介する。

授業科目名	仏語		サブタイトル	(フランスに行こう)	授業番号	SA192
担当教員名	盛政 文子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】 フランス語のわずかなセンテンスを使って、日常会話に触れる授業である。又、シャンソンを聴きながら、フランス語の持つリズムと雰囲気を楽しみ、効果的に学習する。更に、魅力あふれる映像を通して、フランス文化の理解を広げる。						
【到達目標】 日常生活で使用する会話を身に付けること。フランスのファッションや料理、世界遺産に興味を持つことで見識を広げること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：挨拶の表現 映像：シテ島 シャンソン：『月明かりで』 第2回：パリに行こう！ 映像：セーヌ川左岸 シャンソン：『アヴィニヨンの橋の上で』 第3回：フランスの学生生活 映像：ナポレオンの墓 第4回：自己紹介をする 映像：シャンゼリゼ大通り シャンソン：『オーシャンゼリゼ』 第5回：カフェでお茶を 映像：マカロン 第6回：フランス人の生活観 映像：パリでの生活（1） 第7回：ショッピングを楽しむ 映像：パリでの生活（2） シャンソン：『パリのお嬢さん』 第8回：家族について話す 映像：ルーヴル美術館 第9回：レストランでディナーを 映像：モンマルトル 第10回：フランス人の祝日 映像：パリのクリスマス（1） シャンソン：『きよしこの夜』 第11回：週末の予定について 映像：パリのクリスマス（2） 第12回：パリ郊外への旅 映像：ロワール河古城巡り 第13回：フランスの世界遺産 映像：ノルマンディー地方 第14回：モン・サン・ミシエルの成り立ち 映像：モン・サン・ミシエル（1） 第15回：モン・サン・ミシエルを訪れる 映像：モン・サン・ミシエル（2）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な受講態度、ワークシートを評価する。			
	レポート	20%	授業で観たビデオの感想を評価する。			
	小テスト	0%				
	定期試験	50%	〈レポート試験〉(30%)興味を持ったフランスの文化について、日本語で600字程度のレポートを書く。〈口頭試問〉(20%)簡単なフランス語で自己紹介をする。筆記試験はない。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

フランスに行くために必要な知識と会話表現を身につけてもらいたい。そのために日頃から身近に使われているフランス語・フランスに関するニュース・旅番組にも興味を持ち、フランスに行きたいと思ってほしい。

【授業外学修】

- 1.授業時使用したワークシートを、ノートに貼ること。
 - 2.授業時観た映像についての200字程度の感想を日本語で書き、次回に提出すること。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト トライ！ フランス語	藤田知子 他著	駿河台出版社	税別1800円	978-4-411-00825-1

自由記載 毎授業にワークシートを配布。

参考書	自由記載
-----	------

【その他】

授業時使用したワークシートを貼るB5のノートを用意する。

授業科目名 **韓国語**

サブタイトル (韓国語の基礎を学ぶ)

授業番号 SA193

担当教員名 宋 娘沃

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

韓流ブーム以降、冬季オリンピックや文化交流などを通じてますます韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は、文法が類似している。とくに、言葉にとってもっとも大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。

【到達目標】

- ・韓国語の言葉や文法を習得することができる。
- ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。
- ・簡単な韓国語が書けることができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：韓国語とは

第2回：文字と発音・母音

第3回：文字と発音・子音

第4回：激音と農音、パッチム

第5回：助詞、動詞

第6回：基本文型過去形の作り方

第7回：感嘆文、疑問文

第8回：基本文型指示代名詞、助数詞

第9回：用語の丁寧形、尊敬形

第10回：会話練習、表現

第11回：挨拶、訪問の言葉

第12回：韓国の大学

第13回：韓国の食生活

第14回：韓国の文化と映画

第15回：韓国の若者と社会生活

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に行っているのかを評価する。
	レポート		
	小テスト	40%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。
	定期試験	40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。
- ・韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して授業に積極的に取り組むこと。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・復習として、毎回の課題をノートにまとめて来ること。
- ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	1600円	978-4-8163-5558-5

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **中国語**

サブタイトル (発音記号, 基本文型)

授業番号 SA194

担当教員名 張文

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

この授業は中国語の発音・基本文型に重点を置く。発音をマスターしてもらい、日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなどを解きながら、基礎的な会話表現を学んでいくものとする。また、外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番ふさわしい方法が何かについて考えてもらう。

【到達目標】

中国語の発音記号(ピンイン)をマスターする。基本的な構文を理解し、あいさつ言葉や簡単な表現を身につける。中国語に触れることによって中国へ目を向け、相互理解を深めるために欠かせないコミュニケーション力・意欲を高める。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた能力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回: テキスト第1週 発音I 声調 単母音
- 第2回: テキスト第2週 発音II 複母音 子音
- 第3回: テキスト第3週 発音III そり舌音 鼻音を伴う母音
- 第4回: テキスト第4週 発音IV 軽声 r化音 声調変化 数字の言い方
- 第5回: テキスト第5週 「是」構文 動詞述語文 一般疑問文
- 第6回: テキスト第6週 会話文「名前・国籍・所属」
- 第7回: テキスト第7週 形容詞述語文 疑問詞疑問文
- 第8回: テキスト第8週 会話文「・・・の・・・ 性質」
- 第9回: テキスト第9週 「有」構文 反復疑問文
- 第10回: テキスト第10週 会話文「趣味」
- 第11回: テキスト第11週 「在」構文 連動文
- 第12回: テキスト第12週 会話文「場所」
- 第13回: テキスト第13週 時間の表し方 前置詞
- 第14回: テキスト第14週 会話文「家族構成」
- 第15回: まとめ 定期試験に向けて

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発音練習・発言など授業への積極性
	レポート	20%	課題の提出と完成度
	小テスト		
	定期試験	60%	発音の基本・テキストにある強化トレーニングの内容の定着
	その他 自由記載		

【受講の心得】

予習, 復習をしっかりとすること。テキストを必ず持ってくる。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており, 声を出して練習すること。遅刻しないこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、次の授業に出る新出単語を覚えておくこと、テキストの問題に目を通しておくこと。
 - 2 復習として、学んだ本文内容や文法を再確認すること。
- 週に最低5時間以上の予習・復習が望ましい。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	おぼえチャイナ1－暗唱中心・入門中国語15週－		朝日出版社	2376	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **日本事情 ※留学生 対象科目** サブタイトル 授業番号 -

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

1. 日本の文化や社会, 習慣について幅広く学習し日本人のものの見方, 考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力, そして, 知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。
2. 日本や日本人を正しく理解することができる。
3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。

なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <技能> の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回: オリエンテーション・日本はどんな国か

第2回: 自国を紹介する

第3回: 日本の旅を考える

第4回: 日本の食

第5回: 自国の食文化を紹介する

第6回: 年中行事

第7回: 自国の年中行事を紹介する

第8回: 現代文化とポップカルチャー

第9回: スポーツを楽しむ

第10回: 環境保護を考える

第11回: 教育

第12回: 自国の教育を紹介する

第13回: 政治と憲法

第14回: 多文化共生社会について考える

第15回: 異文化交流

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極的な受講態度, 発話回数, 予習復習の成果で評価する
	レポート	10%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

1. 資料を読んだり, ディスカッションをしたりするので, 自分からどんどん発言すること。
2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。

【授業外学修】

1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。
 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。
 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語I ※留学生対象科目** サブタイトル 授業番号 -

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につけることができること。2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できること。3. 中上級の表現力が習得できること。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：アカデミック・リーディング(1)

第2回：語彙・文法(1)

第3回：アカデミック・ライティング(1)

第4回：アカデミック・リーディング(2)

第5回：語彙・文法(2)

第6回：アカデミック・ライティング(2)

第7回：アカデミック・リーディング(3)

第8回：語彙・文法(3)

第9回：アカデミック・ライティング(3)

第10回：アカデミック・リーディング(4)

第11回：語彙・文法(4)

第12回：アカデミック・ライティング(4)

第13回：アカデミック・リーディング(5)

第14回：語彙・文法(5)

第15回：アカデミック・ライティング(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する
	レポート	10%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト	10%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。

【授業外学修】

毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。

テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名 **日本語II ※留学生対象科目** サブタイトル 授業番号 -

担当教員名 岡本 輝彦

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 1年 開講期 後期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

総合的な日本語力のもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。

【到達目標】

1. 論理的な思考を身につけることができる。
2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。
3. 中上級の表現力を習得することができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：アカデミック・リーディング(1)

第2回：発表・討議

第3回：アカデミック・リーディング(2)

第4回：発表・討議

第5回：アカデミック・リーディング(3)

第6回：発表・討議

第7回：アカデミック・リーディング(4)

第8回：発表・討議

第9回：アカデミック・リーディング(5)

第10回：発表・討議

第11回：プレゼンテーション(1)

第12回：プレゼンテーション(2)

第13回：プレゼンテーション(3)

第14回：プレゼンテーション(4)

第15回：プレゼンテーション(5)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。
	レポート	20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。
	小テスト		
	定期試験	40%	理解度および到達度で評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。

【授業外学修】

1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。
 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。
- 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。
参考書	自由記載	

授業科目名	経営学概論		サブタイトル		授業番号	SM111
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】 企業はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり、製造したり、消費者に販売するため、さまざまな戦略を打ち立てたりしている。経営学とは人、モノ、金、情報が結びつけられ製品やサービスに変換される企業のことを学ぶ学問である。こうした製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略、人材、意思決定はどのように行われ、実践されているのか。今日わたしたちの生活と密接に関わっている企業の仕組みや組織、戦略、雇用、人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は、前半では株式会社の仕組みや組織、管理システムに焦点をあてて学習する。後半では実際の企業の事例を取り上げ、企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営学の基礎知識を習得することができる。 ・実際の企業の組織、管理システム、企業人材の仕組みを学習することによって、より深い専門知識が習得できる。 ・企業と私たちの生活との関わりを理解することによって、自主的学習能力を高めることができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：経営学とは何か 第2回：企業経営の全体像 第3回：企業形態と組織の選択 第4回：企業の事業部制組織 第5回：企業と金融資本との関わり 第6回：企業と製品・サービス市場との関わり 第7回：競争戦略のマネジメント 第8回：多角化戦略のマネジメント 第9回：労働と組織の管理・テイラーシステム 第10回：トヨタ生産システム 第11回：ファミリービジネスのマネジメント 第12回：企業のブランド力 第13回：企業統治とはなにか 第14回：企業組織と人材 第15回：企業の社会的責任						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への意欲、質問、討議を積極的に行っていたかを評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	各回の主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。			
	定期試験	50%	授業全体の理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

- ・基本的には講義形式で行うが、必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。
- ・関心ある企業や最新の企業活動の動向に関する新聞、雑誌などに目を通して講義に臨むこと。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして明らかにする。
- ・授業で習った内容の小テストを行うので、必ず復習をする。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『1からの経営学第2版』	加護野忠男・吉村典久 編著	中央経済社	2400円	978-4-502-69610-7

自由記載

参考書

自由記載

・小松 章『企業形態論 第3版』新世社, 2007年。・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス, 2008年。・湯沢威 他編『国際競争力の経営史』有斐閣, 2009年。

授業科目名	現代企業論		サブタイトル		授業番号	SM212
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>今日の大企業は株式会社の形態をとっている。その株式会社の仕組みを知ることが現代企業を理解する上で重要である。企業の研究開発、生産、販売、雇用などの経営活動は私たちの生活や就職に大きな役割を果たし、影響を及ぼしている。これまでの日本的経営と言われた雇用システムや垂直統合企業は大きく変わり、ひとつの部門に特化する専業企業の出現、アウトソーシング、戦略的提携が活発化する中で、企業間連携も大きく進展している。本講義では企業の仕組み、企業組織、雇用システムに焦点を当て学習する。さらに現代社会における企業の社会的責任が私たちの社会や生活にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・現代企業の仕組み、組織システムを理解することができる。 ・企業活動の実態を学習することによって、雇用システムや人材の役割が理解できる。 ・現代企業の社会的責任を学習することによって、より専門的な学習能力を高めることができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：現代企業を捉える視点 第2回：企業の諸形態 第3回：株式会社の特質 第4回：株式会社の機能と構造 第5回：株式・上場 第6回：コーポレート・ガバナンス(1) 第7回：コーポレート・ガバナンス(2) 第8回：自動車産業と系列システム 第9回：情報ネットワーク化と企業間関係 第10回：情報化と新しいビジネスモデル 第11回：企業の組織と管理論の展開 第12回：日本の企業とネットワーク組織 第13回：企業の国際化 第14回：企業の社会的責任 第15回：社会のための企業</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への意欲、まとめ方、質問、討議を評価する。			
	レポート	30%	企業の不祥事に関してその問題点や解決策についてまとめること。そのレポートはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業全体の理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

- ・現代の企業活動を理解するために、できる限り新聞や雑誌に目を通して出席すること。
- ・関心ある企業の動向を本とか雑誌論文などから調べること。

【授業外学修】

- ・予習は、毎回の教科書の内容を読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・復習は、課題のレポートを作成し、教科内容やキーワードの理解を深める。
- ・さらに進んで理解するために、授業で配った資料や参考文献を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『企業論 第3版』,	三戸 浩・池内秀 己・勝部伸夫 著	有斐閣ア ルマ	2000円	978-4- 641- 12444-8

自由記載

参考書

自由記載

・小松 章『企業形態論 第3版』新世社, 2007年。・夏目啓二 編著『アジアICT企業の競争力』ミネルヴァ書房, 2010年。・林正樹 編著『現代日本企業の競争力』ミネルヴァ書房, 2011年。

授業科目名	経営戦略論		サブタイトル		授業番号	SM313
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>経営戦略とは、競争優位を獲得するために企業が人、モノ、カネ、情報という経営資源を配分し、意思決定を下すことである。企業戦略にはいかにして低コストを実現するのか、どのようにして違いを出して差別化するのか、どのような事業に集中するのかがあり、企業を取り巻く競争はますます激化している。今日、日本企業においても経営戦略をどのように構築し、いかにして実行するかが重要な戦略課題となっている。そこで本講義では、グローバル競争に焦点を当て学習する。講義の前半では、経営戦略論の基礎理論を学び、後半では企業の経営戦略の実態を把握するために、現在もっとも注目されている日本企業や欧米企業の事例を取り上げ、解説する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・実際の企業競争について学び、企業間の競争が理解できるようになる。 ・日本企業、欧米企業の経営戦略の実態の把握によって、グローバルな視点の考え方が養える。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：経営戦略とは何か 第2回：企業環境の変化 第3回：経営戦略の領域 第4回：企業の合併と買収 第5回：多角化戦略とは何か 第6回：多角化戦略の事例（事例：キヤノン） 第7回：競争戦略とは何か(事例：スターバックス) 第8回：競争優位と参入障壁 第9回：ブランドとマーケティング戦略 第10回：デファクト・スタンダード競争と標準化戦略 第11回：戦略実現のための組織と人材 第12回：戦略総体としてのビジネスモデル 第13回：日本企業のグローバル戦略（事例：ソニー） 第14回：モバイル企業の部品調達戦略（事例：アップル） 第15回：ネットビジネス企業の経営戦略（事例：アマゾン）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への意欲、質問、討議を積極的に行っているのかを評価する。			
	レポート	30%	企業の実態を知るため、グループワークで調べてまとめる。その内容のコメントを返却する。			
	小テスト					
	定期試験	40%	キーワードの理解度、授業全体への理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	レポートの場合、企業の経営戦略に関してグループワークで調べ、まとめた内容を検討して評価する。					

【受講の心得】

- ・日常、企業の戦略や動向に関心をもつこと。
- ・企業関連の新聞や雑誌などに目をとおして、問題意識を持って積極的に出席することを望む。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・授業で習った内容の小テストがあるので、復習をする。
- ・個別企業の事例を資料や参考文献から読む。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	『経営戦略』第3版	大滝精一 編	有斐閣アルマ	2000円	978-4-641-22065-2
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	現代日本企業の競争力	林正樹編著	ミネルヴァ書房	2800円	978-4-623-06018-4
	自由記載	沼上幹＋一橋MBA戦略ワークショップ『企業戦略白書VIII』東洋経済新報社，2008年。 網倉久永・新宅純次郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社，2011年。夏目啓二編著 『21世紀ICT企業の経営戦略』文眞堂，2017年。			

授業科目名	国際経営論		サブタイトル		授業番号	SM314
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>21世紀に入り、多国籍企業のグローバル競争が熾烈になる中、グローバルな寡占構造が形成されている。一方、グローバルな産業での競争条件や参入障壁がフラット化し、BRICsを中心とする新興国の企業が台頭し、先進国企業との競争が激化している。その中、多国籍企業の国際経営のあり方も日増しに変化し、ますます重要になってきている。多国籍企業は世界的な生産、販売、調達、戦略的提携、ネットワークを築いて、その国際経営活動が日本や外国の経営活動に大きな影響が及んでいる。本講義では、国際経営のあり方やその海外活動を学習し、化粧品産業、家電産業、半導体産業、自動車産業などの国際産業を取り上げ、多国籍企業の経営活動や海外進出における新たな仕込みや競争構造、諸影響をを明らかにする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外で活動する多国籍企業のグローバル競争を学習することによって、グローバル競争の実態が理解できる。 ・日本の化粧品、家電、半導体、自動車産業の海外進出を学習することで、グローバルな視点や考え方ができる能力を養う。 ・多国籍企業の海外進出に伴う諸影響を学ぶことによって、グローバル化に関する知識が深められる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：国際経営とはなにか 第2回：多国籍企業の形成 第3回：海外進出の形態（事例：味の素） 第4回：多国籍企業の海外生産 第5回：日本の自動車産業の国際競争（事例：トヨタ自動車） 第6回：日本の自動車産業のグローバル化 第7回：アメリカのネット企業の競争優位（事例：アマゾン） 第8回：日本の化粧品産業のグローバル化（事例：資生堂） 第9回：電子機器受託製造企業（事例：台湾のホンハイ精密工業） 第10回：日本の家電産業のグローバル競争（事例・ソニー） 第11回：半導体産業とはなにか 第12回：韓国の半導体産業の事業戦略（事例：三星電子） 第13回：日・韓半導体産業の競争優位の比較（事例：東芝） 第14回：モバイル産業の部品調達戦略 第15回：グローバル企業と人事制度の変革</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への意欲的な態度、質問、討議の積極的な姿勢を評価する。			
	レポート	30%	日本企業の海外進出に対するの優位性や問題点をまとめること。その内容のコメントを返却する。			
	小テスト	40%	授業全体の理解度、キーワードの学習能力を評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- ・国際経営の実態を深めるために、VTRなどのメディアを利用する。
- ・できるだけ、新聞に目を通して国際的事情に関心を持って出席すること。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・授業で習った内容の小テストがあるので、復習をすること。
- ・個別企業の事例を資料や参考文献から読むこと。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ケースに学ぶ国際経営	吉原英樹編	有斐閣ブックス	2800円	978-4-641-18415-2

自由記載

参考書

自由記載

・宋娘沃『技術発展と半導体産業』文理閣，2005年。・新宅純二郎・天野倫文編著『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣，2009年。・夏目啓二編著『21世紀企業の経営戦略』文眞堂，2017年。

授業科目名 **マーケティング**

サブタイトル

授業番号 SM315

担当教員名 宋 娘沃

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

今日、市場では消費者の好みやライフスタイルが多様化し、個別化している。マーケティングは単に作った製品を売のではなく、売れる製品をいかに作るかが求められている。そのためには、消費者のニーズを明確にとらえ、それに合う新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に細分化し、宣伝、広告、流通チャネルまでトータルに捉えていくのが重要である。本講義では、企業におけるマーケティング戦略に焦点をあて消費者の行動との関係性を考察する。講義では具体的な企業事例を取り上げ、今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。

【到達目標】

- ・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。
- ・企業のブランドカや商品が市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。
- ・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって、実務的な学習能力を養うことができる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：マーケティングとは何か
- 第2回：マーケティングミックス
- 第3回：ターゲット市場の選定
- 第4回：標的市場と市場細分化
- 第5回：市場環境と消費者行動
- 第6回：顧客志向のマーケティング
- 第7回：製品ライフサイクル
- 第8回：消費者行動とマーケティング
- 第9回：ブランドの創造戦略(1)
- 第10回：ブランドの創造戦略(2)
- 第11回：価格設定のマーケティング戦略
- 第12回：流通チャネル
- 第13回：市場機会の模索とマーケティング戦略
- 第14回：業界の構造分析と競争優位
- 第15回：顧客維持と関係性マーケティング

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	講義への意欲や質問、討議を積極的に行っているのかを評価する。
	レポート	30%	企業の商品や市場での動向を調べ、マーケティングの実態をまとめる。その内容のコメントを返却する。
	小テスト	50%	キーワードの理解度、講義全体の理解度を評価する。2回の小テストを行う。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- ・日常、消費や興味のある商品に関する新聞や雑誌などに目をとおして、問題意識を持って出席することを望む。

【授業外学修】

- ・ 予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。
- ・ 授業で習った内容の小テストがあるので、復習をすること。
- ・ さらに、企業のマーケティング活動の事例を資料や参考文献から読むこと。

以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	入門・マーケティング戦略 新版	池尾恭一	有斐閣	2100円	978-4-641-16486-4 -7
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	コトラーの戦略的マーケティング	フィリップ・コトラー -著木村達也訳	ダイヤモンド社	2200円	4-478-50176-9
	自由記載	・ R・メイソン著 鈴木信雄他訳『顕示的消費の経済学』名古屋大学出版会，2001年。 ・ 廣田章光・石井淳蔵編『1からのマーケティング』中央経済社，2004年。 ・ 伊藤宗彦編『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。			

授業科目名	統計データ分析		サブタイトル		授業番号	SM221
担当教員名	福森 護					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】</p> <p>統計的な考え方、統計手法は、さまざまな領域で必要となる。理科系のみならず文科系の領域においても、統計分析は頻りに活用されており、統計学の知識やスキルは求められている。</p> <p>本授業では、調査、実験、観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について解説する。</p> <p>また実際のデータを活用して、パソコン（SPSS）を用いたデータの統計処理も行う。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>1) 量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。</p> <p>2) 基礎統計量、統計的検定・推定、多変量解析の考え方を理解する。</p> <p>3) パソコンを用いて結果を算出し、その結果をみて考察を行う。</p> <p>以上を到達目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：データ、尺度</p> <p>第2回：代表値、散布度、標準化</p> <p>第3回：度数分布表とヒストグラム</p> <p>第4回：相関と散布図</p> <p>第5回：共分散、相関係数、相関係数の性質</p> <p>第6回：最小2乗法、回帰直線</p> <p>第7回：離散型確率分布（二項分布、ポアソン分布）</p> <p>第8回：連続型確率分布（正規分布）</p> <p>第9回：母集団と標本、標本抽出</p> <p>第10回：統計的仮説検定の考え方</p> <p>第11回：母平均の検定</p> <p>第12回：平均の差の検定（対応なし、対応あり）</p> <p>第13回：母比率の検定</p> <p>第14回：適合度の検定、独立性の検定</p> <p>第15回：多変量解析の考え方</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	60%	3回程度のレポート課題を課す。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	20%	授業中のノート提出			
	自由記載					

【受講の心得】

まずは、データを解析して、何らかの結論を導くという、実証的な方法論に興味を持っていただきたい。
そして、実際に手法を適用して、結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている。
数学的な知識は必須ではないが、数値や数式を用いることがあるため、数学に興味を持ってもらいたい。

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。
 - 3) 発展として、自ら課題を見つけて、分析の適用を行い、考察を行う。
- 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは用いない。板書を中心とするが、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **社会調査論**

サブタイトル

授業番号 SM222

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

社会調査の一連の進め方について学習する。具体的には、調査内容・対象の決定、調査の実施方法、結果の分析法とまとめ方について学習する。またその歴史や事例についても学習する。

【到達目標】

- 1) 社会調査の基本的な考え方を理解する。
- 2) 量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。

以上を到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：社会調査とは

第2回：社会調査の歴史

第3回：社会調査の種類と用途

第4回：データ収集の技法

第5回：既存の統計データの収集

第6回：調査倫理

第7回：サンプリングの技法

第8回：調査実施に向けての準備

第9回：調査の実施方法

第10回：質的調査(1)

第11回：質的調査(2)

第12回：量的調査(1)

第13回：量的調査(2)

第14回：調査の分析(1)

第15回：調査の分析(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容を整理し、理解する。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、理解を深める。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。
--------	------	------------------------

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析	安藤明之	日本評論社	2,500円 +税	978-4-535-58632-1
	自由記載	大谷信介（他3名）共著、『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法』，ミネルヴァ書房			

授業科目名 **社会調査演習**

サブタイトル

授業番号 SM323

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

2年前期開講の『社会調査論』で学習した内容を踏まえて、実際に身近な興味・関心のある対象に関するアンケート調査を実施し、社会調査の一連の過程を体験的に学習する。調査内容・対象の決定、調査票の作成、調査の実施、分析、まとめまでを小グループに分かれて行い、最後に結果報告のプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

- 1) 社会調査の基本的な考えを理解し、実践することができる。
- 2) 量的・質的データを統計手法を適用し、得られた結果の考察を行うことができる。
- 3) パソコンの統計ソフトウェアを活用して結果を算出することができる。

以上を到達目標とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：社会調査の流れ(1)

第2回：社会調査の流れ(2)

第3回：調査テーマに関する現状と課題調査

第4回：調査票の作成 1

第5回：調査票の作成 2 と依頼文の作成

第6回：調査に関する事前発表・質疑応答

第7回：調査票の修正

第8回：集計処理

第9回：データの分析 1

第10回：データの分析 2

第11回：データの分析 3

第12回：報告書の作成 1

第13回：報告書の作成 2

第14回：結果の発表 1

第15回：結果の発表 2

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	50%	3回程度のレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

『社会調査論』・『社会調査演習』を通して、社会調査の手法を身に付ける演習であるため、2年前期開講の『社会調査論』を履修しておくこと。

授業の最中に内容を理解できるように努める。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容を整理し、理解する。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、理解を深める。

具体的には、文献・資料の検索・選定、レジメ作成とテーマ発表、質問文の作成、調査計画の発表、調査計画書・レポートの作成など。

4) 空き時間をうまく利用して調査を行うこと。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。				
参考書		書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析	安藤明之	日本評論社	2,500円 +税	978-4-535-58632-1
	自由記載					

授業科目名	基礎簿記A		サブタイトル		授業番号	SM131
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>日本の経済を支えているのは主に企業の活動による。企業活動においては売上を伸ばすことは重要であるが、一方において、経理処理の重要性がクローズアップされる。すなわち、企業の現状を把握し、正しい経営判断や営業活動の指針を得るために経理処理は重要なポイントとなるのである。</p> <p>本講義においては、企業経営における一般的な金銭の流れを把握し、次に実務上複雑と考えられる給与計算を中心に理解を深めていくものとする。その流れの中で、企業活動における費用の考え方を学んでいく。なお、本講義は、簿記検定を受験するのが目的ではなく、業務を行うための基礎を理解することを主眼としている。従って、簿記検定を目指すものは簿記論A、B及び簿記演習A、Bを受講すること。</p> <p>また、本講義及び基礎簿記演習Aに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習するものとする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>本講義においては、企業活動における取引と経理処理の関係を理解すること、及び賃金計算の方法を理解し実務に即した対応ができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>【授業計画 備考】</p> <p>本講義においては、基礎簿記演習Aとを通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習は同じ参考図書を使用し並行して授業を実施する。</p>						
<p>第1回：企業活動と経理業務</p> <p>第2回：取引と記録</p> <p>第3回：仕訳のやり方(1)</p> <p>第4回：仕訳のやり方(2)</p> <p>第5回：経理の日々の流れ(1)</p> <p>第6回：経理の日々の流れ(2)</p> <p>第7回：経理の毎月の流れ(1)</p> <p>第8回：経理の毎月の流れ(2)</p> <p>第9回：月次処理(1)</p> <p>第10回：月次処理(2)</p> <p>第11回：月次処理(3)</p> <p>第12回：給与</p> <p>第13回：社会保険料等</p> <p>第14回：年間スケジュール(1)</p> <p>第15回：年間スケジュール(2)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、積極的な授業への参加態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	適宜実施し、単元ごとの理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
<p>【受講の心得】</p> <p>本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。</p> <p>不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。</p>						
<p>【授業外学修】</p> <p>講義内容に関する項目については、必ず予習し、内容を確認しておくこと。</p> <p>また、知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。</p> <p>予習に要する時間として週当たり2時間、復習に要する時間として2時間以上学習すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

	はじめての人の経理 入門塾	栗山俊弘	かんき出版	1300円	978-4-7612-6761-2
	自由記載				
参考書	自由記載 授業の中で適宜紹介する。				

授業科目名	基礎簿記B		サブタイトル		授業番号	SM231
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>日本の経済を支えているのは主に企業の活動による。企業活動においては売上を伸ばすことは重要であるが、一方、経理処理の重要性がクローズアップされる。すなわち、企業の現状を把握し、正しい経営判断や営業活動の指針を得るために経理処理は重要なポイントとなるのである。</p> <p>本講義においては、企業経営において一般的な金銭の流れを把握し、取引に関する内容を中心に理解を深め、決算や貸借対照表及び損益計算書に至るまでの考え方に触れる。基礎簿記Aと合わせて経理的業務全般の理解ができるようにする。</p> <p>なお、本講義は、簿記の資格取得を目標とするものではなく、初学者が会社の中で経理的業務に従事するための基本的な知識の修得のみを目指すものである。従って、高校等においてすでに簿記を学んだもの、簿記の資格を目指すものは、簿記論A、Bを受講すること。</p> <p>また、本講義及び基礎簿記演習Bに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>本講義においては、簿記検定等、資格取得を目標とするものではなく、企業活動における取引と経理処理の関係を理解し、一般的な経理事務に従事するための基礎的かつ基本的な知識を習得することを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：簿記とは 第2回：簿記と経営 第3回：貸借対照表 第4回：損益計算書 第5回：取引と仕訳 第6回：仕訳のルール 第7回：仕訳の実践(1) 第8回：仕訳の実践(2) 第9回：仕訳の実践(3) 第10回：決算とは 第11回：試算表 第12回：決算(1) 第13回：決算(2) 第14回：決算(3) 第15回：簿記と企業経営						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	個別授業内容の理解度を評価する。			
	定期試験	55%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	世界一やさしい簿記の教科書1年生		村田栄樹	ソーテック社	1380	978-4-8007-2053-5
	自由記載					
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				

授業科目名	基礎簿記演習A		サブタイトル		授業番号	SM132
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>日本の経済を支えているのは主に企業の活動による。企業活動においては売上を伸ばすことは重要であるが、一方において、経理処理の重要性がクローズアップされる。すなわち、企業の現状を把握し、正しい経営判断や営業活動の指針を得るために経理処理は重要なポイントとなる。</p> <p>本講義においては、企業経営における一般的な金銭の流れを把握し、次に実務上複雑と考えられる給与計算を中心に理解を深めていくものとする。その流れの中で、企業活動における費用の考え方を学んでいく。なお、本講義は、簿記検定を受験するのが目的ではなく、経理業務を行うための基礎知識を理解することを主眼とする。従って、簿記検定を目指すものは簿記論A、B及び簿記演習A、B、Cを受講すること。</p> <p>また、本講義及び基礎簿記Aに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習するものとする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>本講義においては、企業活動における取引と経理処理の関係を理解すること、及び賃金計算の方法を理解し実務に即した対応ができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>【授業計画 備考】</p> <p>本講義においては、基礎簿記演習Aを通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習は同じ参考図書を使用し並行して授業を実施する。</p>						
<p>第1回：企業活動と経理業務</p> <p>第2回：給与明細</p> <p>第3回：給与計算(1)</p> <p>第4回：給与計算(2)</p> <p>第5回：労働基準法の考え方(1)</p> <p>第6回：労働基準法の考え方(2)</p> <p>第7回：労働基準法の考え方(3)</p> <p>第8回：実務のやり方(1)</p> <p>第9回：実務のやり方(2)</p> <p>第10回：社会保険料(1)</p> <p>第11回：社会保険料(2)</p> <p>第12回：税の計算(1)</p> <p>第13回：税の計算(2)</p> <p>第14回：賞与と退職金</p> <p>第15回：その他の手続き</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、積極的な授業への参加態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	適宜実施し、単元ごとの理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
<p>【受講の心得】</p> <p>本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。</p> <p>不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。</p>						
<p>【授業外学修】</p> <p>講義内容に関する項目については、必ず予習し、内容を確認しておくこと。</p> <p>また、知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。</p> <p>予習に要する時間として週当たり1時間、復習に要する時間として1時間以上学習すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

	みてわかる給与計算マニュアル 改訂21版	吉田正敏	経営書院	1300	978-4-86326-246-1
	自由記載				
参考書	自由記載 授業の中で適宜紹介する。				

授業科目名	基礎簿記演習B		サブタイトル		授業番号	SM232
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>日本の経済を支えているのは主に企業の活動による。企業活動においては売上を伸ばすことは重要であるが、一方、経理処理の重要性がクローズアップされる。すなわち、企業の現状を把握し、正しい経営判断や営業活動の指針を得るために経理処理は重要なポイントとなる。</p> <p>本講義においては、企業経営において一般的な金銭の流れを把握し、取引に関する内容を中心に理解を深め、決算や貸借対照表及び損益計算書に至るまでの考え方に触れる。基礎簿記Aと合わせて経理的業務全般の理解ができるようにする。</p> <p>なお、本講義は、簿記の資格取得を目標とするものではなく、初学者が会社の中で経理的業務に従事するための基本的な知識の修得のみを目指すものである。従って、高校等においてすでに簿記を学びレベルアップを目指すもの、簿記の資格を目指すものは、簿記演習A, B, Cを受講すること。</p> <p>また、本講義及び基礎簿記Bに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習するものとする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>本講義においては、簿記検定等、資格取得を目標とするものではなく、企業活動における取引と経理処理の関係を理解し、一般的な経理事務に従事するための基礎的かつ基本的な知識を習得することを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：簿記とは 第2回：簿記と経営 第3回：貸借対照表 第4回：損益計算書 第5回：取引と仕訳 第6回：仕訳のルール 第7回：仕訳の実践(1) 第8回：仕訳の実践(2) 第9回：仕訳の実践(3) 第10回：決算とは 第11回：試算表 第12回：決算(1) 第13回：決算(2) 第14回：決算(3) 第15回：簿記と企業経営</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	個別授業内容の理解度を評価する。			
	定期試験	55%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						
<p>【授業外学修】</p> <p>講義内容に関する項目については、必ず予習し、内容を確認しておくこと。</p> <p>また、知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。</p> <p>予習に要する時間として週当たり1時間、復習に要する時間として1時間以上学習すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	世界一やさしい簿記の教科書1年生		村田栄樹	ソーテック社	1380	978-4-8007-2053-5
	自由記載					
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				

授業科目名	簿記論 A		サブタイトル		授業番号	SM233
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>簿記は、企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。今日の企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには、簿記の体系的な修得が重要である。また、簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので、簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では、小規模な株式会社を取り上げて仕訳を中心に学び、重要な項目については決算処理や財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の作成方法についても簡単に学習する。</p>						
【到達目標】						
<p>簿記の流れを体系的に修得し、個人企業で日々発生する取引の内容を理解することにより、日商簿記検定3級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：簿記とは 第2回：仕訳の基礎 第3回：商品売買 第4回：現金・預金 第5回：小口現金 第6回：手形取引 第7回：貸付金・借入金 第8回：手付金（内金）の受払 第9回：その他日常の取引1 第10回：その他日常の取引2 第11回：その他日常の取引3 第12回：貸倒れ 第13回：固定資産の購入・売却 第14回：総合問題演習 第15回：まとめ</p>						
【授業計画 備考2】						
※毎回小テストを実施。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。
2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。
2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。
3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。
4. 本講義では、予習・復習で週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級	TAC株式会社(簿記検定講座)	TAC出版	2160円	9784813277934
	自由記載				
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介する。			

【その他】

電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。
スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。

授業科目名	簿記論B		サブタイトル		授業番号	SM333
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
本講義では簿記論Aで学んだ基本的な日常の手続きである仕訳を基礎に、商品管理、売上原価管理、決算の手続きなどを具体的に学習する。						
【到達目標】						
実践的な問題演習を通して小規模な株式会社における基礎的な簿記会計知識を身につけ、日商簿記3級程度の知識を修得することが目標である。						
本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の全ての項目を含んでいる。						
【授業計画】						
第1回：仕訳の復習 第2回：仕訳帳への記入・総勘定元帳への転記 第3回：商品有高帳の作成1 第4回：商品有高帳の作成2 第5回：試算表の作成1 第6回：試算表の作成2 第7回：精算表の作成1 第8回：精算表の作成2 第9回：貸借対照表・損益計算書の作成1 第10回：貸借対照表・損益計算書の作成2 第11回：伝票・仕訳日計表1 第12回：伝票・仕訳日計表2 第13回：総合問題演習1 第14回：総合問題演習2 第15回：まとめ						
【授業計画 備考2】						
毎回小テストを実施する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	日商簿記検定または全経簿記検定を受験した場合、評価に加点する。（平成31年5月～11月に受験したものに限り。）					

【受講の心得】

1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。
2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。
3. 簿記初学者は前期開講の「簿記論A」を受講済みであること。
4. 理解を深めるためにも「簿記演習B」を同時に受講することが望ましい。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。
2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。
3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。
4. 本講義では、予習・復習で週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級	TAC株式会社(簿記検定講座)	TAC出版	2,160	9784813277934
	自由記載	前期簿記論Aと同じテキストを使用する。			
参考書	自由記載				

【その他】

電卓は10桁以上のものを持参すること。(関数電卓不可)
スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。

授業科目名	簿記演習 A		サブタイトル		授業番号	SM234
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 講義形式の授業だけでは、簿記の能力を身につけることは難しい。企業で生じる各種の取引を適切に処理するためには、繰り返しの演習が必要である。簿記論 A の同時受講を前提として、日商簿記 3 級レベルを目標に各テーマごとの問題演習及び解説をしていく。						
【到達目標】 実践的な問題演習により小規模な株式会社における簿記の知識を身につけ、日商簿記 3 級レベルの実力を習得することが目標である。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の全ての項目を含んでいる。						
【授業計画】						
第1回：日常の手続き 1 第2回：日常の手続き 2 第3回：商品売買 1 第4回：商品売買 2 第5回：商品売買 3 第6回：小テスト（1） 第7回：現金・預金 1 第8回：現金・預金 2 第9回：手形取引 第10回：その他期中取引 1 第11回：その他期中取引 2 第12回：小テスト（2） 第13回：貸倒れ 第14回：固定資産 第15回：総合問題（まとめ）						
【授業計画 備考2】 小テストを 2 回実施する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。
2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。
3. 「簿記論A」を同時に受講すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。
2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。
3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。
4. 本講義では、予習・復習で週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.9.0	TAC簿記検定講座	TAC出版	1,620	9784813277989
	自由記 載	簿記論Aで用いるテキストも持参すること。			
参考書	自由記 載				

【その他】

電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可）
スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。

授業科目名	簿記演習 B		サブタイトル		授業番号	SM334
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
簿記演習 B では日商簿記検定3級レベルの問題演習を中心に授業を進める。 同時に開講する簿記論 B の講義で学んだ内容を確実なものにしていく。						
【到達目標】						
実践的な問題演習により小規模な株式会社における簿記処理能力を身につけ、日商簿記3級レベルの実力を修得する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の全ての項目を含んでいる。						
【授業計画】						
第1回：仕訳の復習 第2回：仕訳帳・総勘定元帳 第3回：商品有高帳 1 第4回：商品有高帳 2 第5回：小テスト（1） 第6回：試算表 1 第7回：試算表 2 第8回：試算表 3 第9回：精算表 1 第10回：精算表 2 第11回：精算表 3 第12回：小テスト（2） 第13回：貸借対照表・損益計算書 第14回：伝票・仕訳日計表 第15回：総合問題演習						
【授業計画 備考2】						
小テストを2回実施する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	日商簿記検定または全経簿記検定を受験した場合、評価に加点する。（平成31年5月～11月に受験したものに限り。）					

【受講の心得】

1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。
2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。
3. 簿記初学者は前期開講の「簿記論 A」を受講済みであること。
4. 「簿記論 B」を同時に受講すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。
2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。
3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。
4. 本講義では、予習・復習で週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト	自由記載	前期の簿記演習Aで使用した問題集を使用する。
参考書	自由記載	前期の簿記論 A で使用したテキストを参考書とする。

【その他】

電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可）
スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。

授業科目名	簿記演習C		サブタイトル		授業番号	SM335
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
【到達目標】 実践的な問題演習により小規模な株式会社における簿記処理能力を身につけ、日商簿記3級に合格できる実力を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回－第5回 仕訳問題対策 第6回－第10回 帳簿・勘定記入問題対策 第11回 小テスト(1) 第12回－第17回 試算表対策 第18回－第22回 伝票会計対策 第23回－第27回 精算表対策 第28回 小テスト(2) 第29回 総合問題演習 第30回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	日商簿記検定または全経簿記検定を受験した場合、評価に加点する。(平成31年5月～11月に受験したものに限り。)					
【受講の心得】 1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。 3. 簿記初学者は「簿記論A」及び「簿記論B」を受講済みであること。						
【授業外学修】 1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。 4. 本講義では、予習・復習で週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	2019年度版 日商簿記3級 網羅型完全予想問題集		TAC簿記検定講座	TAC出版	1, 296	
	自由記載					

参考書

自由記載

簿記論 A で使用したテキストを参考書とする。

授業科目名	パソコン会計		サブタイトル		授業番号	SM336
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】</p> <p>簿記の学習では仕訳帳や総勘定元帳，財務諸表の作成とその記帳方法について学んできた。しかし，企業実態として大部分の企業は，仕訳など日常の処理をコンピュータにより行っている。本講義では，会計処理（主に仕訳）をパソコンの会計ソフトを用いて入力（実行）する手法や手続処理を学び，財務諸表の作成についての演習を進める。</p> <p>実際の「弥生会計ソフト」を利用するので演習中心の授業となるが，会計の流れを企業全体の業務の中で捉える観点から，部分的に講義形式の授業も含める。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>企業で実際に利用されている代表的な弥生会計ソフトを用いて演習を進めることにより，実務に即した会計処理能力を身につける。独力でパソコン入力および財務諸表の出力ができるようになることが目標である。</p> <p>本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，「知識・理解」「技能」項目を含む。</p> <p>◆知識・理解の領域 財務諸表に記載される勘定項目と，記載する際に従うべき簿記処理ルールを学ぶ。会計学の基礎的内容を理解し，正確かつ簡潔に説明することができる。知識・理解があるため，ソフト入力の仕方が理解できる。</p> <p>◆技能の領域 財務諸表に記載される項目の金額を決定するために，練習問題を解き，入力し，財務諸表を作成する。その過程から会計学の本質を習得していく。自分の考えを，会计学（財務分析の領域）の知に照らして企画に表現することができる。技能を有することにより，誤記入等の問題も自ら発見する能力を育む。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：講義概要，弥生会計操作ガイド（スタートアップガイド）</p> <p>第2回：企業活動と会計処理（1）</p> <p>第3回：企業活動と会計処理（2）</p> <p>第4回：会計ソフトの操作（1）</p> <p>第5回：会計ソフトの操作（2）</p> <p>第6回：企業の業務と会計処理（現金預金）</p> <p>第7回：企業の業務と会計処理（仕入）</p> <p>第8回：企業の業務と会計処理（売上）</p> <p>第9回：企業の業務と会計処理（経費）</p> <p>第10回：企業の業務と会計処理（その他債権・債務）</p> <p>第11回：企業の業務と会計処理（給与）</p> <p>第12回：企業の業務と会計処理（税金）</p> <p>第13回：会計データ入力処理と集計</p> <p>第14回：会計情報の活用</p> <p>第15回：月次決算</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	授業の取り組みとして，意欲的な授業態度，発表・討議への参加，予復習の状況等			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	60%	定期試験			

その他

但し、授業に3分の2以上出席しなければ定期試験は受験できない。

自由記載

なお、弥生検定を中心とし、(1)弥生会計・弥生検定、(2)日本商工会議所主催 電子会計実務検定試験、(3)全国経理教育協会主催 コンピュータ会計能力検定試験の受験を推奨（9月・3月）し、合格者には加算点を与える。

【授業外学修】

本講義では、時間外学習時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学習を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	平成31年度版コンピュータ会計 初級 テキスト・問題集	弥生(株)	実教出版	2000	978-4-407-34816-3

自由記載

参考書

自由記載

授業科目名 **ビジネス実務総論**

サブタイトル

授業番号 SB211

担当教員名 佐藤 由美子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け、グループプレゼンテーション等を通じてビジネスの総合的な知識を高め、論理的思考にて判断できる力を養う。

【到達目標】

「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では、組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識、およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識を習得しながらキャリア形成を考えていく。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ビジネス実務の捉え方・定義，学習とは

第2回：個人業務とマネジメント

第3回：協働業務とマネジメント

第4回：ビジネス実務を支える業務の基本

第5回：マーケティングとビジネス実務I

第6回：マーケティングとビジネス実務II

第7回：マーケティングとビジネス実務III

第8回：会計学の基礎とケーススタディ

第9回：業務マネジメントを推進する実務知識

第10回：サービス実務の4つの基本

第11回：プロジェクトマネジメントI

第12回：プロジェクトマネジメントII

第13回：プロジェクトマネジメントIII

第14回：ビジネスワーカーのキャリアチェック

第15回：発表準備・発表

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	知識修得に積極的であるかチェック
	レポート	30%	要点の把握と応用力をチェック
	小テスト	30%	理解度の確認チェック
	定期試験		
	その他 自由記載	20%	グループプレゼンテーションの内容と貢献度

【受講の心得】

受講前に教科書を読み、理解して授業に臨むこと。

発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない）

ただし私語厳禁。

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、あらかじめ整理を行う。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。
 - 3) 随時確認小テストをするため、特にテキストをしっかりと理解すること。
- 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ビジネス実務総論改訂版		森脇道子編著	実教出版	2268	978-4-407-32262-0
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	PMプロジェクトマネジメント改訂4版		中嶋秀隆	日本能率協会マネジメントセンター	2376	978-4-8207-4583-9
	自由記載					

授業科目名 **ビジネス実務演習 A** サブタイトル

授業番号 SB212

担当教員名 佐藤 由美子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

社会人として必要なビジネスの知識やスキル（企画・計画の立案，コミュニケーション，情報処理，プレゼンテーション等）を，講義と演習を通して学ぶ。

演習は，ロールプレイなどの体験型学習やグループに分かれてディスカッションや発表を行う。

【到達目標】

(1)ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。

(2)演習時に，企画の立案やコミュニケーションの実践，プレゼンテーションの実施等，指定された手順に沿って，行えるようになること。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈思考・問題解決能力〉，〈技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：キャリアと仕事へのアプローチ

第2回：会社活動の基本

第3回：話し方と聴き方のポイント

第4回：ビジネス活動I

第5回：ビジネス活動II

第6回：グループ演習

第7回：会議の基本

第8回：企画とプレゼンテーションI

第9回：企画とプレゼンテーションII

第10回：企画とプレゼンテーションIII

第11回：コミュニケーション技法I

第12回：コミュニケーション技法II

第13回：チームワークと人のネットワークI

第14回：チームワークと人のネットワークII

第15回：問題解決能力・S W O T分析

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート		
	小テスト	40%	講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）
	定期試験	40%	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）
	その他 自由記載		

【受講の心得】

発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない）。

ただし私語は厳禁。

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容の整理を行う。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。
 - 3) 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容に、週1時間以上の授業外学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	2018年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト	一般財団法人職業教育「キャリア教育財団」	日本能率協会マネジメントセンター	2160	978-4-8207-5946-1
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **ビジネス実務演習B** サブタイトル

授業番号 SB312

担当教員名 佐藤 由美子

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

社会人として必要なビジネスの知識やスキル（コミュニケーション、情報処理、プレゼンテーション等）を、講義と演習を通して学ぶ。

演習は、グループに分かれてワークショップ、ディベート、ディスカッションや発表を行う。

【到達目標】

(1)ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。

(2)演習時に、コミュニケーションの実践、プレゼンテーションの実施等、指定された手順に沿って行えるようになること。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：仕事の進め方I

第2回：仕事の進め方II

第3回：仕事の進め方III（コミュニケーション手法）

第4回：ビジネス文書の基本

第5回：情報収集と統計I

第6回：情報収集と統計II

第7回：情報収集と統計III（時事・社会）

第8回：発表準備・発表

第9回：会社の数字I

第10回：会社の数字II（組織・業務基本）

第11回：ビジネスの法律・税金知識I

第12回：ビジネスの法律・税金知識II

第13回：産業と経済の基礎知識I

第14回：産業と経済の基礎知識II（ビジネス常識）

第15回：産業と経済の基礎知識III ～演習～

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
	レポート		講義内容の理解度と自分の言葉による論理的な説明を評価する。
	小テスト	30%	講義内容の理解度を判断する。
	定期試験	30%	
	その他	20%	グループ演習、ワークショップ
	自由記載		

【受講の心得】

発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない）

私語は厳禁。

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ内容の整理を行う。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。
 - 3) 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		2019年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト		一般財団法人職業教育キャリア教育財団	日本能率協会マネジメントセンター	2160
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
		2019年度ビジネス能力検定ジョブパス2級公式試験問題集		日本能率協会マネジメントセンター	JMAM	1620
	自由記載					

授業科目名 **地域創生学**

サブタイトル

授業番号 SB313

担当教員名 佐藤 由美子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

日本は世界においても類を見ない速さで高齢化社会となった。その結果起こる東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした様々な地域創生への取り組みについて、またその前提となる地域の現状の把握方法や人口減少社会に特徴的な現象、地域の活性化策などについて事例を交えて学習する授業である。

【到達目標】

本科目は、身近なところで起こっている人口減少を含めた社会の種々の縮小現象について、その具体的な姿と対応策について事例を通して認識を深める。また、地域の現状を把握するためのデータ分析の基礎知識、および国の地域政策の枠組みを理解する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉及び〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：授業の概要および地域創生の社会的背景

第2回：少子高齢化の現状と予測

第3回：R E S A Sの操作編

第4回：R E S A Sの活用編

第5回：地方創生事業の事例（1）

第6回：地方創生事業の事例（2）

第7回：地方創生事業の事例（3）

第8回：地方創生事業の事例（4）

第9回：戦略から学ぶ

第10回：自治体政策から学ぶ

第11回：フィールドワーク（1）

第12回：フィールドワーク（2）

第13回：フィールドワーク（3）

第14回：発表

第15回：ディベート

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	出席回数および、授業中の質問に対する回答。
	レポート	30%	授業内容に関係したテーマに関するレポートの構成力、説明・表現力、データ収集力。
	小テスト	20%	授業内容の理解の程度を毎回小テストで計る。
	定期試験		
	その他 自由記載	30%	フィールドワーク取り組みへの積極性で計る。

【受講の心得】

授業では適宜資料を配布するが、それは自前で資料から意味を理解・解釈し、説明する態度を養うためである。

【授業外学修】

授業中に紹介する用語，概念についてインターネットから利用できる関連情報および参考文献などを参照して，理解を深める。授業中に紹介する次回の授業で取り上げる主なトピックスについて，事前に調べておく。以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ソトコト3 地域と関わるローカルプロジェクト 自由記載	ソトコト編集部	木楽舎	823	雑誌 05801-03
参考書	自由記載	授業のなかで適宜紹介する。			

授業科目名 **キャリアプランニング**

サブタイトル

授業番号 SB214

担当教員名 福森 護 佐藤 由美子

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

就職活動のスタート時期に合わせ、情報提供と共に具体的な準備と行動について学ぶ。また本講座では、社会人として必要な常識やマナー、また人生設計を行う上で必要とされる基礎知識や能力の習得も目標とし、自分にあったキャリアプランニングができるように支援する。

【到達目標】

「なりたい自分」に向け、目標を設定し、トライ＆エラーの実践から「力」をつける。
 就活スイッチを入れ、「自立」と「挑戦」の気持ちを持って、行動に移す。
 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：キャリアプランニングの考え方
- 第2回：就活スタートに向けて
- 第3回：就活サイトの活用とセミナー利用法
- 第4回：内定までの3つの障害とその対策
- 第5回：エントリーシート記入のポイント
- 第6回：自己紹介を自己PRに変える！
- 第7回：印象力アップのポイント ※（担当外部講師）
- 第8回：セルフコントロール ※（担当外部講師）
- 第9回：企業分析データの見方
- 第10回：一般常識力のアップ
- 第11回：面接パワーアップ(1)（グループ面接）
- 第12回：面接パワーアップ(2)（個人面接）
- 第13回：面接時マナー総復習 ※（担当外部講師）
- 第14回：総まとめ(1)
- 第15回：総まとめ(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【授業外学修】

毎回の授業で得た知識を就職活動に活用し、実践する。
 以上のことに、毎週4時間以上の授業外学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する。
--------	------	--------------

参考書

自由記載

適宜指示する。

授業科目名	インターンシップ		サブタイトル		授業番号	SB215
担当教員名	福森 護 佐藤 由美子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	通年			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 就業体験を通して、社会人としての心構え、社会常識、ビジネスマナーなどを身に付け、現代社会における経済活動や企業の仕組みについての理解を深める。						
【到達目標】 約40時間の就業体験を実施し、その体験を通して、職業人意識の向上や企業への理解を深めることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 インターンシップの考え方 第2回 ビジネスマナー 1 第3回 ビジネスマナー 2 第4回 職業心理 第5回 企業研究 第6回～25回 職業体験実習 第26回 プレゼンテーションの方法 第27回 実習報告1（グループまたは個別に相互報告・プレゼンテーションを行う） 第28回 実習報告2 第29回 仕事の意味と目的 第30回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。			
	レポート	70%	インターンシップ報告書の提出を行う。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載	報告書ならびに報告会での発表100%					
【授業外学修】 インターンシップにより体験した内容を、日々の生活や就職活動に活用し、実践する。 以上の内容に、毎週1時間以上の授業外学修を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	授業の中で指示する予定である。				
参考書	自由記載					

授業科目名	プレゼンテーション 概論		サブタイトル		授業番号	SB121
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>昨今、商談、会議等の場において自ら主張を行い、また効果的に相手を説得することが求められている。このような場面において、効果的かつ効率的なプレゼンスを行うための技法として、プレゼンテーションの技術が着目されているところである。</p> <p>本講義では、まずプレゼンテーションの目的を明らかにし、その活用を紹介する。さらに、プレゼンテーションの多様な技法を紹介し、その基本的考え方を学んでいく。また、必要に応じて簡単なプレゼンテーションを実践することで、知識の定着を図る。</p>						
【到達目標】						
<p>講義全体を通して、プレゼンテーションの意義、目的、手法等プレゼンテーションの基本的な考え方を理解し、シチュエーションに応じた効果的な方法を選択・実践するための基本的な知識を身につけることを目標とする。</p> <p>また、本科目はプレゼンテーション実務士の資格認定を受けるための必修科目であり、実務的レベルの知識を習得するものとする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：プレゼンテーションの重要性 第2回：プレゼンテーションの計画 第3回：プレゼンテーションの構成 第4回：プレゼンテーションの内容と展開 第5回：準備 第6回：リハーサルとリスクマネジメント 第7回：プレゼンターの役割 第8回：プレゼンターの説得力とは 第9回：視覚化と効果 第10回：視覚化の方法 第11回：視覚化と文字情報 第12回：話す技術 第13回：専門性と専門用語 第14回：聞き手に対する配慮 第15回：ツールの利用</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	5%	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。			
	レポート					
	小テスト	25%	講義内容の理解度を評価する。			
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

不明点等があれば積極的に質問し、理解を深めるような態度で授業に臨むこと。

【授業外学修】

事前学習については特に要しない。

ただし、各回の講義に関し、それぞれ関連性があることが多いことから、講義終了後学んだ知識を確認し、十分な事後学習を行い、次回以降の講義に備えておくこと。

週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間

使用テキスト	自由記載	特に定めず、適宜資料を配布する。
参考書	自由記載	参考図書については、必要の都度、講義中に周知する。

授業科目名 **プレゼンテーション** サブタイトル 授業番号 SB222
演習 A

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科 単位数 2単位
開講年次 2年 開講期 前期
必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

Microsoft社製プレゼンテーションソフトPowerPointの基本操作から実務で役立つ活用法を中心に演習を行う。またプレゼンテーションを行う際の特性と留意点、魅せる資料作り等についても学習する。
なお、本科目は「プレゼンテーション実務士」（全国大学実務教育協会認定資格）の必修科目である。

【到達目標】

コンピュータなどの情報機器が持つ特性を利用し、いかに効果的なプレゼンテーションを行うか、その考え方や技法の習得をめざし、またより高度で実践的な情報リテラシーの習得をめざす。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：PowerPointの基本操作とスライドの作成
- 第2回：プレゼンテーションの目的・構成・実施と表現技法について
- 第3回：視覚資料作成のポイント
- 第4回：図形、画像の挿入と書式設定
- 第5回：表とグラフの挿入
- 第6回：SmartArt、メディアの挿入
- 第7回：特殊効果の設定
- 第8回：配付資料の作成とスライドショーの設定
- 第9回：スライド共通デザインを設定
- 第10回：他人の作ったプレゼンを読み解き、学ぶ
- 第11回：プレゼンテーション課題(事前調査・構成案)
- 第12回：プレゼンテーション課題(作成)
- 第13回：プレゼンテーション課題(リハーサル)
- 第14回：課題発表(1)
- 第15回：課題発表(2)、まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	期末に課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

情報機器の活用法を中心に扱うため、「プレゼンテーション概論」，「プレゼンテーション演習 B」のうち、どれかを履修していることが望ましい。また演習科目であるため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し自習しておくこと。さらに授業のみでの習得は難しいことから、授業後の復習が非常に重要である。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	MOS Microsoft Power Point2016 対策テキスト & 問題集		FOM出版	2,200円 +税	978-4- 86510- 322-9
	自由記載				
参考書	自由記載	『よくわかる自信がつくプレゼンテーション』, FOM出版			

授業科目名	プレゼンテーション 演習B		サブタイトル		授業番号	SB322
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>プレゼンテーション概論で学んだ理論・知識を基本とし、課題を実践することでそれらの知識を具体的な技術として身に着ける。</p> <p>講義の中では、ストーリー展開やビジュアル化の方法について、プレゼンテーションを必要とする場面ごとに適切な方法を考え、効率的な伝達方法を検討してみる。また、数値データについては簡単な加工を行い、さらに分析を行うことで効果的な訴求方法を試みる。</p> <p>プレゼンテーション資料の作成に関し、シチュエーションに即した表現方法・視覚化・文字表現等を踏まえ、効果的なレイアウトについても考える。</p> <p>基本的な方法としては、課題ごとにプレゼンテーション資料の作成を通じ、知識と技法を確認しながら、プレゼンテーションの技術を定着させるものとする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>情報伝達が必要となる様々な場面を想定し、それぞれの場面において適切かつ効果的なプレゼンテーションの技法を習得していく。日常生活を含め、様々な場面で適切なプレゼンテーションの技法を使用できるようになることを目標とする。</p> <p>本科目はプレゼンテーション実務士資格の選択必修科目であり、最終的にビジネスの実務において基本的なコミュニケーションが図れようにする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：プレゼンテーションとは何か</p> <p>第2回：自己の棚卸（タナオロシ）と自己アピールの方法</p> <p>第3回：口頭による説明とそのポイント</p> <p>第4回：文字データの表現方法</p> <p>第5回：メールによるコミュニケーション方法</p> <p>第6回：レジュメの作成</p> <p>第7回：議事録の作成</p> <p>第8回：報告の作成とそのポイント</p> <p>第9回：表とグラフ（数値データの扱い方）</p> <p>第10回：数値データの加工</p> <p>第11回：数値の分析とビジュアル化の基礎</p> <p>第12回：客観的データとプレゼンターの主観</p> <p>第13回：ビジュアルを含んだ報告の作成</p> <p>第14回：企画・提案の作成</p> <p>第15回：パワーポイントによる表現</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。			
	レポート	10%	課題を作成する場合は、説明内容に即して的確に完成していること。			
	小テスト					

定期試験 75% 最終的な理解度を評価する。
その他
自由記載

【受講の心得】

事前にプレゼンテーションの概要について確認しておくこと。事後学習（復習）については必ず行い、授業で得た知識や技術を身につけるよう心がけること。

【授業外学修】

プレゼンテーション概論履修者は、あらかじめ概論で述べた内容を確認しておくこと。
また、プレゼンテーション概論を履修していないものに関しては、授業毎に指示するプレゼンテーションの項目について次回授業までに確認しておくこと。
週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間

使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布し、使用する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **対人関係の心理学**

サブタイトル

授業番号 SP211

担当教員名 福森 護

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

社会で生きていくためには、人との関わりを避けることはできない。職場では、上司・同僚との関わりは大切であり、場合によっては大きなストレスを引き起こすこともある。また、友人・恋人・家族などの対人関係を円滑に保つことも大切なことであり、できるだけトラブルは避けたいものである。本講義では、心理学の理論的な視点から、さまざまな対人関係について考察する。

【到達目標】

対人関係の社会心理学的な諸問題について理解することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：対人関係の定義と課題

第2回：他者の存在と自己

第3回：対人認知

第4回：対人魅力

第5回：帰属過程

第6回：態度と態度変容

第7回：説得的コミュニケーションと対人関係

第8回：恋愛の心理学

第9回：しぐさや口癖の心理学的解釈

第10回：ストレスとサポート

第11回：援助行動

第12回：職場・組織における対人関係、リーダーシップ

第13回：集団における対人関係、社会的影響過程

第14回：メディア・インターネットを介したコミュニケーション

第15回：良好な対人関係のために

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、板書により授業を進める。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **魅力の心理学**

サブタイトル

授業番号 SP212

担当教員名 福森 護

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

なぜあの人に魅力的なのだろうか。どうすれば魅力的な人になれるのだろうか。なぜあのお店の商品は魅力的なのだろうか。なぜあの場所にもう一度行きたくなるのだろうか。などなど、”魅力”は日常生活の大きなテーマと言えます。その魅力について、心理学的に分析し、解釈します。

【到達目標】

さまざまな対象の魅力について社会心理学的な視点で理解することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：知覚と認知の心理学
- 第2回：対人魅力の規定要因
- 第3回：ファッションと魅力
- 第4回：化粧と魅力
- 第5回：態度と魅力
- 第6回：異性間の魅力（恋愛と魅力）
- 第7回：対人関係の深さの段階と魅力の関係
- 第8回：モノの魅力
- 第9回：魅力的な広告とは（広告の心理学）
- 第10回：場所の魅力（観光の心理学）
- 第11回：言葉と魅力（キャッチコピーの心理学）
- 第12回：魅力的なお店とは？－飲食店の場合－（フードアナリシス）
- 第13回：魅力的なお店とは？－アパレルの場合－
- 第14回：イメージと魅力
- 第15回：魅力的な人になるために

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【授業外学修】

- 1) 予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。
 - 2) 復習として，学んだ内容の整理を行う。
 - 3) 発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。
- 以上の内容に対して，週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

自由記載

テキストは使用せず，板書により授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考書

自由記載

授業科目名 **心の健康の心理学** サブタイトル 授業番号 SP221

担当教員名 虫明 修

対象学部・学科 単位数 2単位

開講年次 2年 開講期 前期

必修・選択 選択 授業形態 講義

【授業の概要】

本授業では、心の健康について、さまざまな場面やライフサイクルにおけるストレスやそのマネジメント、心の病、心理療法などの心理学的側面から取り上げる。心の健康に関する基本的知識だけでなく、受講者自身が自己理解を深め、ストレスの対処能力を身に付ける機会とする。

【到達目標】

1. 心の健康に関する基本的な知識を修得する。
2. 自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：メンタルヘルスとは
- 第2回：様々なストレスと危機
- 第3回：学校におけるストレス
- 第4回：職場におけるストレス
- 第5回：家庭におけるストレス
- 第6回：摂食障害
- 第7回：抑うつ障害、睡眠障害
- 第8回：不安障害（社交不安障害、パニック障害）
- 第9回：強迫性障害、心的外傷およびストレス因関連障害
- 第10回：統合失調症
- 第11回：依存症
- 第12回：発達障害、小児期の主な問題行動・症状
- 第13回：心理療法・カウンセリング(1)
精神分析からみた自己理解
- 第14回：心理療法・カウンセリング(2)
認知行動療法からみた自己理解
- 第15回：心の健康を向上させるために

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	授業全体の理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。
 - 3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。
- 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、プリントを配布し、授業を進める。
参考書	自由記載	

授業科目名	経済の心理学		サブタイトル		授業番号	SP231
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>現在の経済学の主流である伝統的経済学は、「自己の利益の最大化」を目指し、そのために「最も合理的な」選択をするということを人間の行動の原則としている。このような伝統的経済学の理論をもとに私たちの経済活動を判断し、経済政策を立案してきた。</p> <p>しかしながら、人は必ずしも合理的な行動をするとは限らない。従って、伝統的経済理論は現実にある経済現象をすべて説明できるとは言えないとの批判があった。ここで、近年、心理学と融合した新しい経済学が注目されるに至った。本講義においては、伝統的経済理論では説明できない経済現象を対象として、新しい経済学である行動経済学の考え方を紹介する。</p> <p>授業内容の内容としては、理論的な内容ではなく私たちの日常生活で経験することを中心に事例を検証するものとする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>伝統的経済学ではこれまで説明できなかった経済現象を人間心理の面等、新たな考え方により理解できるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：行動経済学とは 第2回：無意識のシステムと意識下のシステム（1） 第3回：無意識のシステムと意識下のシステム（2） 第4回：お金がたまらないのはなぜか（1） 第5回：お金がたまらないのはなぜか（2） 第6回：目先の誘惑に勝てないのはなぜか（1） 第7回：目先の誘惑に勝てないのはなぜか（2） 第8回：なぜ成功できないのか（1） 第9回：なぜ成功できないのか（2） 第10回：賢い選択ができないのはなぜか（1） 第11回：賢い選択ができないのはなぜか（2） 第12回：ゲーム理論 第13回：ゲーム理論と行動経済学 第14回：行動経済学を生かす 第15回：行動経済学と政策</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	15%	質問や授業参加等意欲的な態度を評価する。			
	レポート					
	小テスト	25%	単元毎に小テストを実施し、理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

予習として講義に先立ち該当する部分を読んでおくこと。

事後学修を必ず行い、理解の定着を図ること。

【授業外学修】

予習として週当たり2時間以上、復習として週当たり2時間以上学習すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	知識ゼロからの行動経済学入門	川西諭	幻冬舎	1300	978-4-344-90312-8
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	産業・ビジネスの心理学		サブタイトル		授業番号	SP232
担当教員名	福森 護 閻 琳					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 人はなぜ働くのか、優れたリーダーとはどんな特性を持っているのか、良い職場環境を作るために何をしたらよいのか、ハラスメントや過労死がなぜ起こるのか、効果的な広告とは、なぜ衝動買いをしてしまうのか、なぜ騙されて買ってしまうのかなど、働く場面における人間行動を心理学的視点からアプローチする。						
【到達目標】 1. 職場や組織における人間行動を理解する。 2. 消費者の心理や行動を理解する。 3. 産業やビジネスにおける人間行動について、自ら考え、分析することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：産業・ビジネスの心理学とは 第2回：組織とは 第3回：仕事への動機付け 第4回：ワークモチベーションの理論とアプローチ 第5回：職場の人間関係とコミュニケーション 第6回：職場でのチームとリーダーシップ 第7回：ハラスメントと過労死 第8回：ストレスへの対処と予防 第9回：人事評価、人事処遇 第10回：職業適性と人材育成 第11回：マーケティングの心理 第12回：マーケティングの新展開 第13回：ブランド選択の心理 第14回：口コミ、インターネットと消費者行動 第15回：職場で成功するために						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	期末にレポート課題を課す。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、板書により授業を進める。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名	情報処理論		サブタイトル		授業番号	SC111
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】 本授業では、パソコンのハードウェア、ソフトウェアに関する基礎知識、ならびにネットワーク関連、マルチメディア関連、情報セキュリティなどについての基本的な知識について説明する。 ITパスポート試験の「テクノロジ系」分野を念頭において授業を進める。もちろん基本情報技術者試験にも深く関わる内容である。						
【到達目標】 現代の情報化社会におけるICT利用に関する基本的な知識を修得し、それらを他人にも説明できることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：数と表現 予習：2・8・10・16進数について調べる</p> <p>第2回：基数変換 予習：2・8・10・16進数の基数変換について調べる</p> <p>第3回：符号付き2進数，2進数の加減算 予習：符号付き2進数(1・2の補数)，2進数の加減算について調べる</p> <p>第4回：情報量の単位とデジタル化 予習：ビットとバイトおよび単位(KB, MB, GB, TB, PB), 文字・音・画像のデジタル化について調べる</p> <p>第5回：ハードウェアの仕組み1 (CPU, メモリ, 記録媒体) 予習：CPU, メモリ, 記録媒体(HDD, CD, DVD, Blu-ray)の仕組みを調べる</p> <p>第6回：ハードウェアの仕組み2 (入出力装置, コンピュータの種類) 予習：入出力装置, インタフェース, コンピュータの種類を調べる</p> <p>第7回：情報システムと性能・信頼性 (集中・分散処理, 稼働率, RAID, TCOなど) 予習：情報システムの処理形態・構成, 性能・信頼性, RAID, TCOについて調べる</p> <p>第8回：ソフトウェアの仕組み1 (OS, ドライバ, ファイル管理) 予習：OSの種類・特徴, デバイスドライバの役割, Windowsのファイル・フォルダについて調べる</p> <p>第9回：ソフトウェアの仕組み2 (バックアップ, アプリケーションソフト, Webブラウザ) 予習：バックアップ方法の種類, アプリケーションソフトの種類, Webブラウザの役割, 検索エンジンについて調べる</p> <p>第10回：ヒューマンインタフェース 予習：GUI・CUI, 画面・帳票設計, ユニバーサルデザインについて調べる</p> <p>第11回：マルチメディア 予習：ファイル形式, 圧縮・伸張, 色, ペイント・ドロー系ソフト, 様々なマルチメディア技術について調べる</p> <p>第12回：データベース 予習：関係データベース, DBMS, テーブル設計, データ操作, トランザクションについて調べる</p> <p>第13回：ネットワークとインターネット 予習：LAN・WAN, LANの規格, プロトコル, IPアドレス・ドメイン名・DNSの関係, WWW・電子メールの仕組みと使い方, ISPの役割を調べる</p> <p>第14回：セキュリティ(脅威と脆弱性, 人的・物理的対策) 予習：脅威と脆弱性, サイバー犯罪の事例, マルウェア, セキュリティ対策の方法を調べる</p> <p>第15回：著作権, スマートフォン・タブレットの普及 予習：著作権, BYOD, 公衆無線LANについて調べる</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	10%	情報通信技術の仕組み・活用・留意点を正確に分かりやすく説明できているかによって評価する。希望によりレポートを返却する。
小テスト	50%	テキスト・過去問題CDの内容が正しく理解できているかによって評価する。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

情報関連の授業の基礎となる重要な授業であるため，興味を持って受講していただきたい。

ITパスポート試験は全ての社会人向けの「ITを利活用するための共通的基础知識」を問う資格であり，近年では就職活動の為に学生が取得するケースも増えている。本講義をきっかけに資格取得を目指してもらいたい。

【授業外学修】

予習は授業計画に記述した内容を行っておくこと。

復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題CDの問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。また，小テストで出来なかった問題は解けるように理解しておくこと。

予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる 2019年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-374-8
自由記載	このテキストは，2年間にわたって複数の授業(「プログラミング概論」，「コンピュータ科学」，「通信ネットワーク論」など)で使用する予定なので，この授業が終わっても保管しておくこと。				
参考書	自由記載	授業の中で適宜指示する。			

授業科目名 **情報処理演習**

サブタイトル

授業番号 SC112

担当教員名 福森 護

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

【授業の概要】

本授業では、パソコンの基本操作、主としてマルチメディア関連のソフトウェアの基本的な利用技術について演習を行う。具体的には、Photoshop、Flash、Premiere、Illustrator、Metasequoiaなどのソフトウェアを使用して授業を進めていく予定である。

【到達目標】

フォトレタッチ、アニメーション、映像編集、3Dグラフィックスなどのソフトウェアの基本操作を修得することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：Windowsの基本操作

第2回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎1（画像ファイルの種類、ファイルの取り込み、レイヤー）

第3回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎2（色相、彩度、明るさ、コントラスト）

第4回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎3（レベル補正、トーンカーブ）

第5回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎4（フィルタ）

第6回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎5（画像の合成）

第7回：アニメーション制作の基礎1（animatorの基本操作）

第8回：アニメーション制作の基礎2（円盤を飛ばす）

第9回：アニメーション制作の基礎3（人を動かす）

第10回：Metasequoiaによる3Dグラフィックスの基礎1（湯呑の制作）

第11回：Metasequoiaによる3Dグラフィックスの基礎2（簡単な車の制作）

第12回：Metasequoiaによる3Dグラフィックスの基礎3（帽子、ハイヒールの制作）

第13回：Premiereによる映像編集の基礎1（基本操作、構成表）

第14回：Premiereによる映像編集の基礎1（カット、トランジション）

第15回：Premiereによる映像編集の基礎2（BGM、エフェクト）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	授業中の課題
	自由記載		

【受講の心得】

初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが、ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。

以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、WEB教材を活用して授業を進める予定である。また、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。

授業科目名	情報数学		サブタイトル		授業番号	SC213
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 表計算、プログラミング、データベース、統計などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。特に、ものごとの関係を表現する1つである関数という概念について学ぶ。						
【到達目標】 情報分野を学ぶ上で必要とされる数学的記号の理解と基礎的な計算力を習得することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：数とは？ 第2回：文字と式，グラフ（1） 第3回：文字と式，グラフ（2） 第4回：数列を考える（1） 第5回：数列を考える（2） 第6回：方程式 第7回：ベクトルと行列 第8回：関数 第9回：確率（1） 第10回：確率（2） 第11回：推移行列と固有ベクトル（1） 第12回：推移行列と固有ベクトル（2） 第13回：微分 第14回：積分 第15回：多変数関数						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	授業中に数回の小テストを行う。			
	定期試験	50%	期末に試験を行う。			
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。						
【授業外学修】 毎週4時間以上，予習・復習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	別途指示する。				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

はたらく数学	篠崎菜穂子	日本実業 出版	1400	978-4- 534- 05286-5
文系でもわかる電気数学	山下明	翔泳社	2400	978-4- 79811- 4218-0
自由記載				

授業科目名	コンピュータ科学		サブタイトル		授業番号	SC214
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 システム開発のプロセスやテスト手法，ソフトウェア開発のプロセスや開発手法，プロジェクトマネジメントのプロセスや手法，情報システムの運用を管理するITサービスマネジメントやサービスサポートの基本的な役割や構成，システム環境整備の考え方，システム監査の基本的な知識などについて説明する。 ITパスポート試験の「マネジメント系」分野を中心に授業を進める。もちろん基本情報技術者試験にも関わる内容である。						
【到達目標】 システム開発やプロジェクトマネジメントのプロセスに関する基礎的な用語・概念などを理解する。また，コンピュータやネットワーク，オフィスツールなどを使って，業務環境の整備を考えるための基本的な知識と技能を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：システム開発技術(要件定義，システム設計) 第2回：システム開発技術(開発，テスト) 第3回：システム開発技術(システムの導入，システムの運用，システムの外部委託，見積り) 第4回：ソフトウェア開発管理技術 第5回：開発技術の問題演習 第6回：プロジェクトマネジメント(スコープ，タイム) 第7回：プロジェクトマネジメント(コスト他) 第8回：プロジェクトマネジメントの問題演習 第9回：サービスマネジメント 第10回：サービスマネジメント(システム監査) 第11回：サービスマネジメント問題演習 第12回：システム戦略(情報システム戦略，業務プロセス) 第13回：システム戦略(ソリューションビジネス) 第14回：システム戦略(システム企画) 第15回：システム戦略問題演習						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	70%	各分野の理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

1. 情報フィールド、情報処理ユニットの科目であり、同ユニットの開講科目である「情報処理論」・「情報処理演習」・「情報数学」を履修し理解している事が望ましい。
2. 学習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、教科書の問題演習(CD-ROMを含む)および小テストで間違えた問題の再確認を行う。
 3. 発展学修として、情報処理技術者試験の対策を行う。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかるマスター 2019年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-374-8

自由記載 必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが、ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。

参考書	自由記載
-----	------

授業科目名 **通信ネットワーク論** サブタイトル

授業番号 SC315

担当教員名 古谷 俊爾

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

通信ネットワークの仕組みから特にインターネット（TCP/IP）に関する総合的な基礎知識を得られるよう解説する。「情報処理技術者試験」および「NTTコミュニケーションズインターネット検定 .com Master ADVANCE ★」のインターネット技術分野を念頭に置いて、動作確認の為に一部演習も取り入れながら授業を進める。

【到達目標】

インターネットの様々なサービスとWWW・e-mailの仕組み、情報セキュリティを知り、説明できるようになることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：ネットワークの形態(LANとWAN, インターネット)

第2回：有線LANと無線LAN

第3回：中継装置(スイッチ, ルータ)

第4回：通信プロトコル

第5回：IPプロトコル

第6回：ルーティング

第7回：ドメイン名とDNS

第8回：インターネットサービス(WWW, 電子メールなど)

第9回：通信サービス(ISPとの接続)

第10回：情報資産と情報セキュリティ, 情報セキュリティ管理

第11回：情報セキュリティ対策(人的対策, 技術的対策)

第12回：情報セキュリティ対策(物理的対策, 暗号化技術1)

第13回：情報セキュリティ対策(暗号化技術2, 認証技術)

第14回：新しい技術や手法(IoT)

第15回：新しい技術や手法(AI, ビッグデータ)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	60%	授業内容が正しく理解できているか, 分かりやすく説明できているかによって評価する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

1. 情報フィールド, 情報処理ユニットの科目であり, 同ユニットの開講科目である「情報処理論」・「情報処理演習」・「情報数学」・「コンピュータ科学」を履修し理解している事が望ましい。
2. 理解を深める為に一部演習も含める予定である。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、教科書の問題演習(CD-ROMを含む)および小テストで間違えた問題の再確認を行う。
3. 発展学修として、資格試験の対策を行うか自ら課題を見つけて考察を行う。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかるマスター 2019年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-374-8
自由記載	必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが、ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。				
参考書	自由記載	『情報通信白書 for Kids』 (http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/) , 総務省 『初歩からのネットワーク』, 森川 恵 著, 実教出版 『インターネット検定 .com Master ADVANCE 公式テキスト』, NTTコミュニケーションズ, NTT出版 『絶対わかる!新・ネットワーク超入門』, 日経ネットワーク, 日経BP			

授業科目名	文書処理演習		サブタイトル		授業番号	SC121
担当教員名	佐藤 由美子					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
【授業の概要】 <p>広く普及している文書処理ソフト「Microsoft Word」の基本的な使用方法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習として日本商工会議所PC検定模擬試験用の問題に取り組む。</p>						
【到達目標】 <p>文書処理ソフト「Microsoft Word 2016」の活用のためのスキルを身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：文字入力の基本 第2回：ビジネス文書 第3回：ビジネス文書のライティング技術I 第4回：ビジネス文書のライティング技術II 第5回：電子メールのライティング技術I 第6回：図解技術 第7回：ビジネス文書の管理 第8回：表のあるビジネス文書の作成 第9回：図形のあるビジネス文書の作成 第10回：総合演習 1（模擬試験） 第11回：総合演習 1（模擬試験の解答と解説） 第12回：総合演習 2（模擬試験） 第13回：総合演習 2（模擬試験の解答と解説） 第14回：総合演習 3（模擬試験） 第15回：総合演習 3（模擬試験の解答と解説）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	60%	授業内容が正しく理解できているかによって評価する。			
	定期試験					
	その他					
自由記載	日本商工会議所PC検定合格者は評価に加える。					
【受講の心得】 <p>ビジネス実務必須分野であるため実技・知識ともに理解できるまで学習すること。</p>						
【授業外学修】 <p>1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。 3 正しい指使いでタッチタイピングの練習を行う。目標は10分間に1000タッチとする。 4 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	

日商PC検定試験文書作成3級公式テキスト&
問題集 FOM

FOM 2,000円 978-4-
+税 86510-
318-2

自由記載 補助教材のみ希望

参考書

自由記載 授業で適宜紹介する。

授業科目名 **ビジネスコンピューティングA** サブタイトル 授業番号 SC122

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科 単位数 1単位
開講年次 1年 開講期 前期
必修・選択 必修 授業形態 演習

【授業の概要】

広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2016」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習としてMOS Excel 2016模擬試験用の問題に取り組む。なお、本科目は「上級情報処理士」（全国大学実務教育協会認定資格）の必修科目である。

【到達目標】

表計算ソフト「Microsoft Excel 2016」による基本的な情報処理のスキルを身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：データの入力
- 第2回：表の作成
- 第3回：レイアウトの設定
- 第4回：テーブルの作成
- 第5回：数式や関数（データ集計）
- 第6回：数式や関数（条件付きの計算を実行）
- 第7回：数式や関数（書式設定・文字列の変更）
- 第8回：グラフの作成
- 第9回：オブジェクトの作成
- 第10回：データベースの利用
- 第11回：総合演習 1（模擬試験）
- 第12回：総合演習 2（模擬試験）
- 第13回：総合演習 3（模擬試験）
- 第14回：総合演習 4（模擬試験）
- 第15回：総合演習 5（模擬試験）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	60%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		MOS Excel合格者は評価に加える。

【受講の心得】

情報フィールド> オフィス利用技術ユニットの導入にあたる科目であるので今後の為にしっかり理解できるまで学習すること。

また、情報フィールド> データ分析ユニットおよび経営／ビジネスフィールド> 医療事務ユニットにも関係して複数の資格に関連していることも頭に入れておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。
 - 3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	MOS Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問題集	FOM	FOM	2,000円 +税	978-4-86510-317-5
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **ビジネスコンピューティングB**

サブタイトル

授業番号 SC222

担当教員名 藤本 宏美

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2016」の活用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。データベースや統計処理などの関数の使用やマクロ/VBAのコーディングを含む。総合演習としてMOS Excel 2016模擬試験用の問題にも取り組む。

【到達目標】

広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2016」のビジネスで活用できる実践的なスキルを習得することを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉・〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：関数の基本
- 第2回：関数の活用1（請求書の作成）
- 第3回：関数の活用2（売上データの集計）
- 第4回：関数の活用3（住所録の作成）
- 第5回：関数の活用4（統計処理）
- 第6回：関数の活用5（賃金計算）
- 第7回：関数の活用6（旅費伝票の作成）
- 第8回：関数の活用7（様々な関数の利用）
- 第9回：マクロの編集・作成
- 第10回：ピボットテーブルの作成と管理
- 第11回：総合演習1
- 第12回：総合演習2
- 第13回：総合演習3
- 第14回：総合演習4
- 第15回：総合演習5

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	60%	各回の主要なポイントの理解を評価する。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		MOS Excel合格者は評価に加える。

【受講の心得】

情報フィールド> オフィス利用技術ユニットの科目であり、同ユニットの1年前期科目である「文書処理演習」と「ビジネスコンピューティングA」の内容が理解できていることを前提に授業を行う。
また、情報フィールド> データ分析ユニットにも関係して資格に関連していることも頭に入れておくこと。

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 - 2 復習として、授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。
 - 3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。
- 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる Excel 2016/2013 ビジネス活用編 関数テクニック	FOM	FOM	2, 300円 +税	978-4- 86510- 300-7
	MOS Microsoft Excel 2016 対策テキスト& 問 題集	FOM	FOM	2, 000円 +税	978-4- 86510- 317-5
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	Excelクイックマスター2016応用編		ウイネット	2000円 +税	978-4- 87284- 766-6
	自由記載				

授業科目名	データベース演習		サブタイトル		授業番号	SC223
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>データベースソフトウェアは、大量のデータを蓄積し必要に応じてデータを抽出したり集計したりできる機能を有しており、企業活動におけるデータ管理の中核的役割を果たしている。</p> <p>本科目では、データベースソフトウェア初心者を対象として、テーブル、クエリ、フォーム、レポート、リレーションシップ機能を中心に基本操作から応用操作まで演習する。データベースソフトウェアはリレーショナルデータベースのMicrosoft Accessを使用する。</p>						
【到達目標】						
<p>企業におけるリレーショナルデータベースの活用方法を知り、Accessデータベースを作成・活用できるようになることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：Accessの基礎知識 予・復習：第1章</p> <p>第2回：データベースの設計と作成 予・復習：第2章</p> <p>第3回：テーブルの作成とデータの格納1（商品マスター） 予・復習：第3章Step3まで</p> <p>第4回：テーブルの作成とデータの格納2（得意先マスター，売上データ） 予・復習：第3章</p> <p>第5回：リレーションシップ 予・復習：第4章</p> <p>第6回：クエリによるデータの加工1 予・復習：第5章</p> <p>第7回：クエリによるデータの加工2（問題演習） 予・復習：第5章</p> <p>第8回：フォームによるデータ入力1（商品マスター，得意先マスター） 予・復習：第6章Step4まで</p> <p>第9回：フォームによるデータ入力2（売上データ，担当者マスター） 予・復習：第6章</p> <p>第10回：クエリによるデータの抽出と集計1 予・復習：第7章</p> <p>第11回：クエリによるデータの抽出と集計2（問題演習） 予・復習：第7章</p> <p>第12回：レポートによるデータの印刷1（商品マスター，得意先マスター） 予・復習：第8章Step4まで</p> <p>第13回：レポートによるデータの印刷2（宛名ラベル，売上一覧表） 予・復習：第8章</p> <p>第14回：ナビゲーションフォーム，オブジェクトの依存関係，テンプレートの利用 予・復習：第9章</p> <p>第15回：問題演習 予・復習：総合問題</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			

授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10%	指定時間内に指示したAccessの主要機能を実現できるかを評価する。
定期試験		
その他	40%	オリジナルデータベース制作により主要オブジェクト(テーブル，クエリ，フォーム，レポート)を正しく理解・活用し，ドキュメントも整備できるかによって評価する。
自由記載		

【受講の心得】

1. 対象はAccess初心者を想定している。
2. 情報フィールド，オフィス利用技術ユニットの科目であり，同ユニットの開講科目である「文書処理演習」および「ビジネスコンピューティングA・B」を履修し理解している事が望ましい。当該科目を履修していなくとも相応のスキルがあれば問題ない。
3. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWebページ参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行うので注意すること。

【授業外学修】

1. 予習として次回の授業内容にあたるテキストを読んでおくこと。
 2. 複数回授業の始めに前回までの授業の内容に関する小テスト(Access実技)を行うので，復習して理解をしておくこと。
 3. 小テストで完答できなかった問題は，次回までに完答して指定された方法で提出すること。
 4. 最終課題としてオリジナルデータベースおよびドキュメントを提出してもらう。
- 以上の内容に必要な時間の目安は，各人の理解度によるが週当たり1時間である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかる Microsoft Access 2016 基礎	FOM	FOM出版	2160	978-4-86510-293-2
自由記載	バージョン等変更の可能性あり。情報処理論で使用した「よくわかるマスター 2019年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」テキストを活用する予定であり，使用時は授業で指示する。				
参考書	自由記載				

授業科目名	プログラミング概論		サブタイトル		授業番号	SC131
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 プログラミングは、現代の社会で必要なスキルである「アイデアを形にする能力」や「複雑な問題に立ち向かう方策を自分で考え、それを実際に試して期待どおりの結果にならないければ何度でもやり直して問題を解決する能力」を身につけることができる為、将来の職業と関係無く学ぶことが推奨されている。本科目はプログラミング入門と位置づけプログラミングの概念を講義と演習をとおして明らかにする。ビジュアルプログラミング言語（命令ブロックをドラッグ&ドロップといった簡単な操作だけでプログラミングが可能な言語）であるGoogle BlocklyとMIT Scratchを使用してゲーム制作も題材に取り入れながら学ぶ。						
【到達目標】 プログラミングの概念の根幹である「実現したいことを処理のステップに分けること」が可能になり、自分のアイデアをプログラミングで実現することができるようになることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：プログラミング概説，はじめてのビジュアルプログラミング言語(Blockly Games) 予習：Blockly Gamesについて様々なWebサイト記事を参照，復習：Blockly Games 第2回：Blockly Games(迷路)で処理のステップを学ぶ 予・復習：Blockly Games 第3回：Scratch概説（サイトとプログラミング環境，作品公開について） 第4回：Scratch:キーボード操作，アニメーション，繰り返し，条件分岐 第5回：Scratch:変数，乱数，マルチスレッド，メッセージ，イベントの理解 第6回：Scratch:効果音とBGM，画像の効果を学ぶ 第7回：Scratch:今までの知識を活用したシューティングゲームの制作 第8回：Scratch:自ら学ぶ為に必要なこと（他人のコードを読み解き利用する） 第9回：Scratch:オリジナル作品制作1 第10回：Scratch:オリジナル作品制作2 第11回：基礎理論:データ構造 第12回：基礎理論:流れ図，基本構造(順次構造，選択構造，繰り返し構造) 第13回：基礎理論:代表的なアルゴリズム 第14回：基礎理論:プログラミング・プログラム言語 第15回：基礎理論：問題演習						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	10%	基礎理論が理解できているかによって評価する。			
	定期試験					
	その他	50%	作品制作（学んだ内容が十分に活かしているか，作品のドキュメントがきちんと整備されているか）			
	自由記載					

【受講の心得】

1. 情報フィールド、プログラミングユニットの入門レベル科目であるが、当然ながら十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。
2. プログラミングに関わる授業全般に言えるが、解答を待つ・写すでは得るものはほとんど無く受講する意味が無い。自らアイデアを練り自ら問題に立ち向かう姿勢が要求される。
3. 学習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 予習として授業にかかわる内容（資料が必要な場合は事前に配布する）をプログラミング環境で実際にさわってみて疑問点を明らかにする。
2. 復習として授業で扱った内容を参考資料を見ずにプログラミングできるようにする。
3. 発展学修として、インターネット上の公開されている作品・チュートリアルを参照して技法を学び、それらを活用して自分のアイデアでプログラムを作る。
4. オリジナル作品の制作時期は予・復習をその制作にあてる。
5. 基礎理論の予習は該当する部分のテキストを読み疑問点を明らかにし、復習はテキスト内容の理解と問題演習とする。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	よくわかるマスター 2019年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-374-8

Google BlocklyとMIT Scratchについては、適宜資料配布やWebサイト紹介を行う。基礎理論自由記載論については、必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが、ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。

参考書	自由記載
-----	------

授業科目名	プログラミング演習		サブタイトル		授業番号	SC232
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
Javaは、インターネットとの親和性が高くプラットフォームに依存しないオブジェクト指向言語であり、マイコン制御から大規模システムまで世界中で利用されている人気の高いプログラミング言語のひとつである。本科目では、Javaプログラミングを初めて経験する学生を対象に、文字ベースの簡単なゲーム制作も題材に取り入れながら、Javaプログラミングの基礎を演習する。						
【到達目標】						
Java言語を使用して簡単な文字ベースのプログラムを自ら作成できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：Java言語概説とPleiades環境構築，初めてのJavaプログラミング。 予習・復習：第1, 2章。</p> <p>第2回：文字の表示 予習・復習：第3章。</p> <p>第3回：変数と型 予習・復習：第4章。</p> <p>第4回：演算(演算子の種類，優先順位，型変換) 予習・復習：第5章。</p> <p>第5回：演算の問題演習 予習・復習：第5章。</p> <p>第6回：条件文(if, switch) 予習・復習：第6章。</p> <p>第7回：条件文の問題演習 予習・復習：第6章。</p> <p>第8回：繰り返し文(for, while) 予習・復習：第7章。</p> <p>第9回：繰り返し文の問題演習1 予習・復習：第7章。</p> <p>第10回：繰り返し文の問題演習2 予習・復習：第7章。</p> <p>第11回：配列 予習・復習：第8章。</p> <p>第12回：配列の問題演習1 予習・復習：第8章。</p> <p>第13回：配列の問題演習2 予習・復習：第8章。</p> <p>第14回：メソッド 予習・復習：第9章。</p> <p>第15回：メソッドの問題演習 予習・復習：第9章。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。			

レポート		
小テスト	50%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

1. 「プログラミング概論」(1年前期)の内容を理解している事を前提に授業を進める。
2. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 授業計画の予習で示したテキスト範囲を必ず一読し、疑問点を明らかにしておくこと。
2. 授業計画の復習で示したテキスト範囲を理解し、授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもPleiades環境でプログラミングできるようにしておくこと（個人差はあるが目安は各回につき1時間である）。
3. 複数回の授業で前回までの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学習しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに動作させソースプログラムと動作結果を指定した方法で提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	アクティブラーニングで学ぶ Javaプログラミングの基礎1	大野 澄雄	コロナ社	2160	978-4-339-02486-9
	自由記載				
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	新・解きながら学ぶJava	柴田望洋	SBクリエイティブ	2592	978-4797390506
	自由記載				

授業科目名	アルゴリズムとデータ構造	サブタイトル		授業番号	SC333
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>本科目はプログラミングに必要とされる代表的なアルゴリズムとデータ構造を説明する。アルゴリズムおよびデータ構造の重要性を認識すると共に、しくみを理解し効率のよいプログラム設計ができるよう演習も交え授業を進める。プログラム言語はJavaを使用するので、Java言語の習熟にもつながる。</p>					
【到達目標】					
<p>代表的なデータ構造とアルゴリズムについて知り、高速で効率の良い方法でプログラムを設計できるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：条件分岐を用いた基本的なアルゴリズム 予・復習 第1, 14章</p> <p>第2回：繰り返しを用いた基本的なアルゴリズム 予・復習 第1章</p> <p>第3回：基本的なデータ構造（配列） 予・復習 第1章</p> <p>第4回：基本的なデータ構造（クラス） 予・復習 第2章</p> <p>第5回：クラスの機能 予・復習 第3章</p> <p>第6回：クラス変数とクラスメソッド 予・復習 第4章</p> <p>第7回：クラスライブラリの利用 予・復習 第5, 6章</p> <p>第8回：オブジェクト型変数 予・復習 第7, 8章</p> <p>第9回：継承 予・復習 第9章</p> <p>第10回：線形探索 予・復習 線形探索をWebで調査・実現</p> <p>第11回：スタック 予・復習 スタックをWebで調査・実現</p> <p>第12回：キュー 予・復習 キューをWebで調査・実現</p> <p>第13回：バブルソート 予・復習 ソートアルゴリズムをWebで調査・実現</p> <p>第14回：クイックソート 予・復習 クイックソートをWebで調査・実現</p> <p>第15回：問題演習 復習 問題演習で扱った内容</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		

授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。
レポート		
小テスト	50%	提示した問題に対して時間内に効率的に動作するプログラムを作成できること。
定期試験		
その他		
自由記載		

【受講の心得】

1. 応用レベルの科目であるので、自発的な学習活動が必要である。当然であるが十分な授業外学習がなされていることを前提に授業を進める。
2. 情報フィールド、プログラミングユニットの科目であり、同ユニットの開講科目である「プログラミング概論」、（「情報数学」）、および「Javaプログラミング演習」を履修し理解している事が望ましい。当該科目を履修していなくとも相応のスキルがあれば問題ない。
3. 学習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 授業計画の予習で示した範囲・内容を熟読あるいは調査し、例題を入力・動作確認しておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。
2. 授業計画の復習で示した範囲・内容を理解し、授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもPleiades環境でプログラミングできるようにしておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。
3. 複数回の授業で前回までの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学習しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに動作させソースプログラムと動作結果を指定した方法で提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	アクティブラーニングで学ぶ Javaプログラミングの基礎2	大野 澄雄	コロナ社	2300	987-4-339-02487-6
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	アプリ開発演習		サブタイトル		授業番号	SC334
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科				単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 モバイル端末（スマートフォンやタブレット）の普及によりコンピュータを普通に持ち歩く時代になった。それらの端末で動くソフトウェアはアプリと呼ばれ親しまれている。本授業は、簡単なアプリを実際に作成する演習を行い、モバイル端末を独自のアプリでより自由に活用できる礎（いしずえ）を築く。						
【到達目標】 簡単なモバイル端末アプリを自ら作成できることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 Androidのアプリ開発を予定しているが目まぐるしく変化する分野であるので対象OSが変更になる可能性もある。以下は授業計画の概略である。詳細および予復習内容については第1回の授業で指示する。						
第1回：Androidアプリ開発概説 第2回：開発環境の準備 第3回：はじめてのAndroidアプリ開発 第4回：文字の表示(TextViewウィジェット), レイアウト 第5回：クリックイベントの処理(Buttonウィジェット) 第6回：文字・数値の入力(EditTextウィジェット) 第7回：問題演習（文字・数値の入力を活用） 第8回：画像の表示(ImageViewウィジェット) 第9回：問題演習（画像を活用） 第10回：Toastの活用 第11回：入力ウィジェット（チェックボックス, ラジオボタン） 第12回：その他の入力ウィジェット 第13回：総合演習（アプリの一例） 第14回：オリジナルアプリ制作・発表準備 第15回：オリジナルアプリ発表						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度, 提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするアプリを作成できること。		
	定期試験					
	その他		30%	作品制作（学んだ内容が十分に活かしているか, ドキュメント・発表内容）		
自由記載						

【受講の心得】

1. 「情報」フィールドの「プログラミング」および「アプリ開発」ユニット全科目の内容を理解している事（同時開講の「SQL演習」は同時履修）を前提に授業を進める。
2. 授業ではPC上の仮想Android端末で動作を確認するので、Android端末所持は必須ではない。
3. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、授業で扱った内容を理解し参考資料を見ずにプログラミングできるようにしておく（授業内で数回、前回までの授業内容に関する小テストを行うので、過去の授業で扱った内容も忘れないよう学習しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに動作させファイルを指定した方法で提出してもらう）。
 3. 最後にオリジナルアプリを作り発表してもらうので、その制作と発表準備をおこなう。
- 以上の内容に必要な時間の目安は、各人の理解度によるが週当たり1時間である。

使用テキスト	自由記載	目まぐるしく変化する分野なので、履修登録時に指示する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	はじめてのAndroidアプリ開発 第2版 Android Studio 2対応	山田祥寛	秀和システム	3456	978-4798048536
	Androidプログラミングバイブル SDK7/6/5/4 対応	布留川 英一	ソシム	3672	978-4802610872
	自由記載				

授業科目名	SQL演習	サブタイトル		授業番号	SC335
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
SQL (Structured Query Language) は, ANSI (アメリカ規格協会) やISO (国際標準化機構) が規格化しているリレーショナルデータベースの定義・操作を行う為の言語である。直接データベースを操作する時に使えることはもちろん, 特にプログラムでデータ保管を考慮する時にSQLは必須知識である。本科目では, SQLの基礎から, プログラミングでのSQL利用まで幅広く演習する。					
【到達目標】					
SQLについて知りデータベースを操れること, WebアプリケーションにおいてSQLを活用できることを目標とする。なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解>, <思考・問題解決能力>および<技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
Webアプリ制作言語・ツールは, 時流の変化に応じて変更する。					

第1回：SQL概説

復習：SQLとは何かをWebで調べる。

第2回：データの取得（SELECT文の基本）

復習：授業で扱ったSELECT文の基本を理解する。

第3回：行の絞り込み（SELECT文WHERE）

復習：授業で扱ったSELECT文のWHEREを理解する。

第4回：並べ替え（SELECT文ORDER BY）

復習：授業で扱ったSELECT文のORDER BYを理解する。

第5回：集計とグループ化（SELECT文集計関数とGROUP BY・HAVING）

復習：授業で扱ったSELECT文のGROUP BY・HAVINGを理解する。

第6回：パターンマッチング（LIKE）

復習：授業で扱ったパターンマッチングを理解する。

第7回：重複行の削除・データの追加（DISTINCT・INSERT）

復習：授業で扱ったSQLを理解する。

第8回：データの削除と変更（DELETE・UPDATE）

復習：授業で扱ったデータの削除と変更のSQLを理解する。

第9回：複数表への問い合わせ・別名のつけかた

復習：複数表の結合と別名（エイリアス）のSQLを理解する。 ※（担当）

第10回：副問い合わせ

復習：副問い合わせのSQLを理解する。

第11回：テーブル設計（正規化）

復習：正規化を調べ理解する。

第12回：テーブル設計の演習問題

復習：演習問題を復習しておく。 ※（担当）

第13回：Webアプリ制作（Webサーバサイドプログラミングと環境）

復習：サーバサイドプログラミングをWebで調べる。動作環境が自分で作成できるようにしておく。

第14回：Webアプリ制作（HTML入力フォームページの作成）

復習：入力フォームのあるWebページを自分で作成できるようにしておく。

第15回：Webアプリ制作（データ登録と表示）

復習：プログラムでデータ登録・表示が出来るようにしておく。

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。
	レポート		

	小テスト	50%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするSQL・HTML・プログラムを作成できること。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
<p>1. 十分な授業外学習がなされていることを前提に授業を進める。</p> <p>2. 情報フィールド、アプリ開発ユニットの科目である。「ウェブデザインA」・「データベース演習」・「ウェブプログラミング演習」およびプログラミングユニットの全科目を履修し理解している事が望ましい。当該科目を履修していなくとも相応のスキルがあれば問題ない。</p> <p>3. 学習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。</p>						
【授業外学修】						
<p>1. 予習は授業で指示したWebサイトあるいはプリントの該当範囲を一読しておくこと。</p> <p>2. 授業計画の復習で示した内容を行っておくこと。何も参照しなくてもできるまでしっかり復習しておくこと（個人差はあるが目安は各回につき1時間である）。</p> <p>3. 複数回の授業でそれまでの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学習しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに動作させソースプログラムと動作結果を指定した方法で提出すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	資料を配布またはWeb等で参照できるようにする。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	スッキリわかる SQL 入門		中山 清喬ほか	インプレスジャパン	2800	978-4844333937
	自由記載	参考サイト：SQL攻略, SQLZOO				

授業科目名 **デジタルフォト**

サブタイトル

授業番号 SW111

担当教員名 福森 護

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本授業では、デジタルカメラのメカニズムや撮影テクニックの基礎について学習する。具体的には、露出・構図・ホワイトバランス・ISO感度などや、デジタル写真のファイル形式やファイルの圧縮技術などについても学習する。また、デジタル写真の加工についても学ぶ。

【到達目標】

デジタルカメラの基礎知識の習得、また写真撮影のスキルアップを目標とする。デジタル写真を通して、個々の持つ個性や感性を磨くことができればと思っている。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：デジタルカメラのしくみ、レンズのメカニズム

第2回：絞り・シャッタースピード・露出

第3回：ホワイトバランス・ISO感度

第4回：測光方式

第5回：ファイル形式

第6回：構図・焦点距離

第7回：ラチチュード・露出設定

第8回：風景写真の撮影技法

第9回：ポートレート・スナップ写真の撮影技法

第10回：接写写真の撮影技法

第11回：フォトショップを用いた写真の補正

第12回：フォトショップを用いた写真の合成

第13回：撮影実践練習

第14回：ドローンによる写真撮影

第15回：スタビライザー、ストロボの使い方

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	50%	毎回の授業中の課題により評価を行う。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	作品を提出する。
	自由記載		

【受講の心得】

写真に関する特別な知識や技術は必要ないが、本授業を通して少しでもデジタルカメラに対して興味を持ってもらえればと思っている。また本授業は講義科目ではあるが、写真撮影の演習も取り入れて授業を進めていく予定である。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。

3) 最終的な作品制作のために日々の生活において撮影の実践を行う。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	授業の中で別途指示する。また必要に応じてWEBで教材を提供する予定である。
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。

授業科目名 **デジタルフォト演習** サブタイトル

授業番号 SW312

担当教員名 福森 護 高瀬 智司

対象学部・学科 単位数 1単位
開講年次 1年 開講期 前期
必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

本授業では、撮影テクニックの実践を9月に集中講義で行う。第一日目はデジタル写真の撮影テクニックの基礎知識について学び、第二日目は学外でロケを行う。そして第三日目に実際に撮影した写真の鑑賞ならびに批評を行って、全員で優秀作品を選出する。

【到達目標】

デジタルカメラのやや高度な撮影テクニックの習得を目標とする。また、デジタル写真を正しく見る目を養うことを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：デジタルカメラのメカニズムなど
- 第2回：レンズ・ストロボの使い方
- 第3回：測光・露出
- 第4回：ホワイトバランス、感度、AEロック
- 第5回：風景写真・人物写真の撮影テクニック
- 第6回：学外における写真撮影の実践1（スナップ写真の撮影）
- 第7回：学外における写真撮影の実践2（建物写真の撮影）
- 第8回：学外における写真撮影の実践3（倉敷美観地区における風景写真の撮影）
- 第9回：学外における写真撮影の実践4（倉敷美観地区における風景写真の撮影）
- 第10回：学外における写真撮影の実践5（倉敷美観地区における風景写真の撮影）
- 第11回：デジタル写真のレタッチ1（トリミング、ヒストグラム、トーンカーブほか）
- 第12回：デジタル写真のレタッチ2（色調補正、合成写真ほか）
- 第13回：作品事例発表ならびに作品研究1
- 第14回：作品事例発表ならびに作品研究2
- 第15回：作品事例発表ならびに作品研究3

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	70%	毎回の授業中の課題により評価を行う。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	30%	ベストショットの写真の提出
	自由記載		

【受講の心得】

本授業は3日間の集中講義である。また学外ロケも行う予定である。高いモチベーションで写真撮影に取り組んで頂きたい。

【授業外学修】

一日5コマで3日間の集中講義である。毎日5時間以上の予習・復習を行うこと。

使用テキスト 自由記載 テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

参考書

自由記載

授業の中で適宜紹介する。

授業科目名 **情報メディア論**

サブタイトル

授業番号 SW113

担当教員名 福森 護

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

現在、ソーシャルメディアの台頭によって新聞・出版・放送といったメディアは構造改革を迫られている。メディアの現状と未来について考察するため様々なメディアについて、登場した順を追って、誕生の経緯や社会的役割などを講義する。さらに、代表的なメディア理論についても、その時代背景や内容、意味を講義する。各時代に「メディア」がもたらした社会変容や、社会における「メディア」の役割や意味について理解することが目的である。

【到達目標】

メディアについての原理的な把握、近代とメディアの関係、メディアと現実の構成の問題などの論点について分析する。

本講義では、メディアの特性およびメディアが伝える情報の内容を正しく理解するため、メディアとコミュニケーション理論の基礎を学ぶとともに、具体例を通じて各自のメディア・リテラシー（メディアの理解力）を高めていくことを目的とする。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：メディアの種類と歴史

第2回：メディア環境の進化

第3回：メディアの心理

第4回：ソーシャルネットワークについて

第5回：CMC、モバイルコミュニケーション

第6回：インターネット社会の功罪

第7回：テレビの歴史、テレビ番組の制作技法

第8回：動画コンテンツの種類・目的、制作技法

第9回：3Dグラフィックス技法、ドローン映像の効果

第10回：ヒューマンインターフェース、ロボットの最新事情

第11回：ブランドとメディア

第12回：ウェブ広告、テレビCM、雑誌広告とマーケティング

第13回：動画とマーケティング

第14回：マスコミ、世論、報道

第15回：メディアの今後の展望

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート	60%	期末にレポート課題を課す。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

インターネット社会においてメディアとの関わり方は変化しつつあります。現代の社会状況やメディア全般に少しでも興味を持っていただきたい。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、情報収集し、考察を行う。

以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、板書により授業を進める。また、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名 **映像制作演習 A**

サブタイトル

授業番号 SW214

担当教員名 福森 護 藤原 美佳

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

テレビ番組の制作を通して、企画、構成、撮影、編集、サウンドなど映像制作に必要な知識・技術の基礎について学ぶ。編集は、Adobe Premiere Pro CCを用いて演習を行う。また、授業で制作した作品を実際にテレビで放送する。

【到達目標】

動画撮影のテクニックならびにAdobe Premiere Pro CCを用いた動画編集の基本的スキルの習得を目指す。

また、番組制作の企画・構成やシナリオ作成についての基礎知識の習得を目指す。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：テレビ番組の制作についての基本的な考え方

第2回：制作の流れ

第3回：企画立案および構成表の作成方法

第4回：撮影の方法 1（カメラ位置、構図など）

第5回：撮影の方法 2（カメラワーク、ホワイトバランスなど）

第6回：音声（ガンマイク、外部マイク）

第7回：ロケ（事前取材、ディレクション、カットなど）

第8回：Adobe Premiere Pro CCによる編集 1（カット、トランジション、エフェクトなど）

第9回：Adobe Premiere Pro CCによる編集 2（テロップ、BGM、効果音など）

第10回：ナレーション

第11回：番組制作の実際 1（企画立案、構成表の作成）

第12回：番組制作の実際 2（取材、撮影）

第13回：番組制作の実際 3（編集）

第14回：番組制作の実際 4（ナレーション、BGM、効果音）

第15回：番組制作の実際 5（プレビュー）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	50%	個人またはグループで制作した作品を提出する。
	自由記載		

【受講の心得】

テレビ番組制作について興味を持って、楽しみながら取り組んでください。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。

以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	授業の中で適宜指示をする。

授業科目名 **映像制作演習B**

サブタイトル

授業番号 SW314

担当教員名 福森 護 藤原 美佳

対象学部・学科

単位数 1単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

Youtuberの疑似体験を通して、構成、撮影、編集、シナリオ、サウンドなど映像制作に必要な知識・技術の応用的な技法について学ぶ。

なお、受講者の目的に応じて、グループに分けて、授業を進める予定である。

【到達目標】

高度な撮影技法およびAdobe Premiereを用いた高度な編集技法を学修する。

Youtuberの手順を理解し、YouTube向けの作品制作を行う。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：映像のクオリティを高めるために

第2回：YouTube向けのテーマ・シナリオ作り

第3回：YouTube向けの撮影方法1（カメラでの撮影）

第4回：YouTube向けの撮影方法2（スマホでの撮影）

第5回：YouTubeのアカウント取得とチャンネル設定

第6回：YouTube向けの編集1（パソコンソフトを使用した編集）

第7回：YouTube向けの編集2（スマホアプリを使用した編集）

第8回：YouTubeへのアップロード方法

第9回：YouTubeのチャンネル登録および再生回数増加のテクニック

第10回：動画の収益化の方法

第11回：作品制作の実践1（企画、構成）

第12回：作品制作の実践2（撮影）

第13回：作品制作の実践3（編集）

第14回：作品制作の実践4（アップロード）

第15回：作品制作の実践5（集客）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験		
	その他	60%	作品を提出する。
	自由記載		

【受講の心得】

映像制作について興味を持って、楽しみながら取り組んでください。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。

以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	自由記載	授業の中で適宜指示をする。

授業科目名 **コンピュータグラフィックス**

サブタイトル

授業番号 SW221

担当教員名 橋 真由美

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

本講座では、モデリング、レンダリングなどの2次元および3次元画像生成の基礎知識や、コンピュータアニメーション技術、画像合成などのコンピュータグラフィックス技術について学習する。
また、授業の内容にはCG検定の対策が含まれる。

【到達目標】

「イラストレータ」「フォトショップ」等のソフトを使い、コンピュータ上でデザインし、レイアウトを行う。
限られたスペースの中でどれだけ自分の感性が表現できるかがポイントとなる。
最終的にはデジタル画像を表現するテクニックについて修得することを目標とする。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：ガイダンス「コンピュータ・グラフィックスとは」
- 第2回：2次元グラフィックスの基礎<1>
- 第3回：2次元グラフィックスの基礎<2>
- 第4回：3次元グラフィックスの基礎<1>
- 第5回：3次元グラフィックスの基礎<2>
- 第6回：「イラストレータ」「フォトショップ」の基本操作
- 第7回：制作<1>
- 第8回：コンピュータアニメーション<1>
- 第9回：コンピュータアニメーション<2>
- 第10回：制作<2>
- 第11回：制作<3>
- 第12回：バーチャルリアリティ<1>
- 第13回：バーチャルリアリティ<2>
- 第14回：知的所有権について
- 第15回：制作4> とまとめ

【授業計画 備考2】

技術の修得を確認するために、制作時間を設ける。徐々に制作課題のレベルを上げていく。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度、予習・復習の状況によって評価する。
	レポート	80%	授業中の課題および最終課題（制作）で、計画的に制作に取り組んでいるか、作品づくりで技術の修得と理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

デザイン、ホームページ制作に興味のある学生。

【授業外学修】

- 1.予習として、授業計画に示した内容についてインターネット等で幅広い知識を得ておく。
 - 2.復習として、授業中に出題する課題を行う。
 - 3.最終課題提示後はその制作を行う。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要なものはプリントして配布する。
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介していく。

授業科目名	マルチメディア演習 A		サブタイトル		授業番号	SW222
担当教員名	福森 護 古谷 俊爾					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>本授業では、デジタル画像の加工技術、アニメーション制作、3Dグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。</p> <p>また、Photoshopクリエイター検定スタンダードおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。</p>						
【到達目標】						
<p>デジタル画像、アニメーション、3Dグラフィックスなどの演習を通して、マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより、マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：Photoshop演習1：Photoshopの基本操作 ※（担当古谷）</p> <p>第2回：Photoshop演習2：選択範囲の作成、画像の移動と変形 ※（担当古谷）</p> <p>第3回：Photoshop演習3：カラーモードと色調補正、ペイント(ペイント系のツール) ※（担当古谷）</p> <p>第4回：Photoshop演習4：ペイント(レタッチ系のツール、ペイント系のコマンド) ※（担当古谷）</p> <p>第5回：Photoshop演習5：レイヤー操作 ※（担当古谷）</p> <p>第6回：Photoshop演習6：パスとシェイプ、テキスト(入力と編集) ※（担当古谷）</p> <p>第7回：Photoshop演習7：テキスト(文字の加工)、フィルター ※（担当古谷）</p> <p>第8回：Photoshop演習8：画像の入出力 ※（担当古谷）</p> <p>第9回：Photoshop演習9：Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード模擬問題1 ※（担当古谷）</p> <p>第10回：Photoshop演習10：Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード模擬問題2 ※（担当古谷）</p> <p>第11回：3Dモデリング1：やや高度な車の制作 ※（担当福森）</p> <p>第12回：3Dモデリング2：人の顔の制作1 ※（担当福森）</p> <p>第13回：3Dモデリング3：人の顔の制作2 ※（担当福森）</p> <p>第14回：MMD入門1：基本操作 ※（担当福森）</p> <p>第15回：MMD入門2：作品制作 ※（担当福森）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	70%	授業中の課題、小テスト、作品など			
	定期試験					

その他

自由記載

【受講の心得】

初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが、ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。

【授業外学修】

- 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。
 - 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。
 - 3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。
- 以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	PhotoshopクイックマスターCC	ウイネット	ウイネット	2600	987-4-87284-819-9
	自由記載	古谷はテキストを使用する。福森はテキストは使用せず、パワーポイントを使用して授業を進める予定である。また、必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。			

授業科目名 **マルチメディア演習** サブタイトル 授業番号 SW322
B

担当教員名 福森 護 古谷 俊爾

対象学部・学科 単位数 1単位
開講年次 2年 開講期 後期
必修・選択 選択 授業形態 演習

【授業の概要】

本授業では、マルチメディア演習Aで学んだ基礎知識を用いて、さらに高度な技術について学び、実践的な作品制作を行う。

また、Photoshopクリエイター検定エキスパートおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。

【到達目標】

デジタル画像、アニメーション、3Dグラフィックスなどのやや高度な応用的な技術の習得を目標とする。また作品制作を通して、実践的なスキルアップを目指す。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：Photoshop演習1：フォトレタッチ ※（担当古谷）
- 第2回：Photoshop演習2：ロゴデザイン ※（担当古谷）
- 第3回：Photoshop演習3：カード&ステーションナリー ※（担当古谷）
- 第4回：Photoshop演習4：フォトコラージュ ※（担当古谷）
- 第5回：Photoshop演習5：Webサイトのデザイン ※（担当古谷）
- 第6回：Photoshop演習6：Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート模擬問題1 ※（担当古谷）
- 第7回：Photoshop演習7：Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート模擬問題2 ※（担当古谷）
- 第8回：Animate演習1：描くための手法 ※（担当古谷）
- 第9回：Animate演習2：動かすための手法 ※（担当古谷）
- 第10回：Animate演習3：制御するための手法 ※（担当古谷）
- 第11回：3Dモデリング1：人体を作る1（髪の毛） ※（担当福森）
- 第12回：3Dモデリング2：人体を作る2（手） ※（担当福森）
- 第13回：3Dモデリング3：人体を作る3（服装） ※（担当福森）
- 第14回：MMDの実践1：作品制作1 ※（担当福森）
- 第15回：MMDの実践2：作品制作2 ※（担当福森）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート	70%	授業中の課題，レポート，作品
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

実践的で、ある程度高いレベルが要求されるが、興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。

【授業外学修】

1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。

2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。

3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。

以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	PhotoshopクイックマスターCC	ウイネット	ウイネット	2600	987-4-87284-819-9
	自由記載	古谷はテキストを使用する。福森はテキストは使用せず、パワーポイントを使用して授業を進める予定である。また、必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。			

授業科目名 **音響メディア論**

サブタイトル

授業番号 SW131

担当教員名 河田 健二

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

音を記録・保存する技術は近年高度な発達を見せている。この授業ではそのような記録・保存媒体としてのデジタル機器やその周辺機器について解説する。また、広い意味では楽器や声も音響メディアと言える。最近のデジタル楽器だけでなく、その発展過程の様々な機器や、楽器も含めて、その魅力や特徴について解説する。

【到達目標】

音響機器・楽器について幅広く知識を持ってもらうことを到達目標とする。なお、本科目はティプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。

【授業計画】

第1回：「音響」について

第2回：各種メディアについての概要

第3回：記録・保存媒体としての機器・メディア1

第4回：記録・保存媒体としての機器・メディア2

第5回：記録・保存媒体としての機器・メディア3

第6回：記録・保存媒体としての機器・メディア4

第7回：記録・保存媒体としての機器・メディア5

第8回：PAについて1

第9回：PAについて2

第10回：PAについて3

第11回：楽器について1

第12回：楽器について2

第13回：楽器について3

第14回：声・声楽について

第15回：その他、音響に関することと全体のまとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	熱心な受講態度。
	レポート	50%	レポートのテーマに対して調べた内容を自分の言葉で表現できていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
	小テスト	40%	それぞれの分野毎に理解度を確認する。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

扱うジャンルの幅が広いので、思考を柔軟にして受講すること。

【授業外学修】

新しい知識が多いと思うので、授業内で解説したことが定着するように復習することが大切である。以上の内容について週4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト 自由記載 なし

参考書

自由記載

必要に応じて授業内で紹介する。また、必要に応じて資料を配布する。

授業科目名 **コンピュータミュージック**

サブタイトル

授業番号 SW232

担当教員名 河田 健二

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

かつて曲を作ることは限られた一部の人のためのものであった。現在ではコンピュータを使用することで、誰でも気軽に曲を作り楽しむことが出来るようになった。この授業ではコンピュータ上で音楽を作成することを学習する。具体的にはSinger song writerおよびボーカロイドの2種類のソフトウェアを使用し音楽を作成する。とは言え必要最小限の音楽的知識は必要であるので、音楽の知識（音楽理論）についても毎回少しずつ解説する。

【到達目標】

自分の力で何らかの楽曲を作成出来ることを到達目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈技能〉の習得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：音（音楽）と楽譜の関係・楽譜の基礎知識
- 第2回：使用するソフトウェアについての基礎知識
- 第3回：Singer song writerを使用した音楽作成 1・音楽理論の解説 1
- 第4回：Singer song writerを使用した音楽作成 2・音楽理論の解説 2
- 第5回：Singer song writerを使用した音楽作成 3・音楽理論の解説 3
- 第6回：Singer song writerを使用した音楽作成 4・音楽理論の解説 4
- 第7回：Singer song writerを使用した音楽作成 5・音楽理論の解説 5
- 第8回：Singer song writerを使用した音楽作成 6・音楽理論の解説 6
- 第9回：ボーカロイドを使用した音楽作成 1・音楽理論の解説 7
- 第10回：ボーカロイドを使用した音楽作成 2・音楽理論の解説 8
- 第11回：ボーカロイドを使用した音楽作成 3・音楽理論の解説 9
- 第12回：ボーカロイドを使用した音楽作成 4・音楽理論の解説 10
- 第13回：Singer song writerとボーカロイドのデータ連結 1
- 第14回：Singer song writerとボーカロイドのデータ連結 2
- 第15回：完成した作品の試演会

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度		
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	50%	音楽理論の理解度を評価する。
	その他	50%	作品提出とし、提出された作品の完成度について評価する。
	自由記載		

【受講の心得】

毎回の積み重ねで演習を行うため遅刻・欠席をしないよう気をつけること。やむを得ず遅刻・欠席をした場合は担当教員に聞くなどし、抜けている箇所がないよう努力すること。

【授業外学修】

授業で配布する楽曲を、指定する範囲までを次回の授業までに完了させること。また、自由課題については授業外での学習（入力・編集作業）が多くなるため多くの時間を必要とする。以上の内容について週4時間以上の学修を行うこと。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	大人のための音楽ワークテキスト	株式会社ヤマハミュージックメディア	株式会社 ヤマハミュージックメディア	1,100円 +税	4-636- 80155-5

自由記載

参考書

自由記載

必要に応じて授業内で紹介する。また、打ち込みの素材となる楽曲を配布する。

授業科目名	ウェブデザインA	サブタイトル		授業番号	SW141
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>ウェブサイトは様々な技術によって成り立っており、表現や機能に至るまでこれらの技術によって実現され進化を続けている。本科目では、ウェブサイト制作の基礎知識およびウェブページ作成に必要なマークアップ言語であるHTMLやウェブページのスタイルを決めるCSSについて演習を交えながら説明する。</p>					
【到達目標】					
<p>次に掲げる内容を目標とする。</p> <p>1.ウェブページの作成方法、ウェブサイト構築に関するインターネットの利用技術について説明できる。</p> <p>2.ウェブデザイン実務を理解し、マークアップ言語「HTML」やウェブページのスタイルを決める「CSS」を用いて、見栄えのよいレイアウトを設定することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：ウェブデザイン概論 予・復習：ウェブデザイン・ウェブデザイナーの仕事についてウェブ等で調べる</p> <p>第2回：ウェブサイト・制作の基礎知識（ウェブサイト・ページの構成、ページを構成するファイル、作成手順） 予・復習：第1章</p> <p>第3回：HTMLの基礎（HTML5の特徴、HTMLの記述法、文字コード、トップページのHTML作成） 予・復習：第2章</p> <p>第4回：CSSの基礎1（CSSの記述法、セレクター、外部CSSファイルの読み込み） 予・復習：第3章-1～3</p> <p>第5回：CSSの基礎2（トップページのCSS作成） 予・復習：第3章-4</p> <p>第6回：サブページの作成1（各ページ共通部分の作成、メイン領域の作成） 予・復習：第4章-1～4</p> <p>第7回：サブページの作成2（箇条書き、画像） 予・復習：第4章-5～9</p> <p>第8回：テーブルとそのスタイル 予・復習：第5章</p> <p>第9回：フォーム 予・復習：第6章</p> <p>第10回：例題演習1 予・復習：テキストのサンプル問題(問題1～2)</p> <p>第11回：例題演習2 予・復習：テキストのサンプル問題(問題3～5)</p> <p>第12回：実技演習1（仕様に従いWebサイトを完成させる） 予・復習：テキスト全体の総復習、完成できなかったWebサイト制作</p> <p>第13回：実技演習2（仕様に従いWebサイトを完成させる） 予・復習：テキスト全体の総復習、完成できなかったWebサイト制作</p> <p>第14回：実技演習3（仕様に従いWebサイトを完成させる） 予・復習：テキスト全体の総復習、完成できなかったWebサイト制作</p> <p>第15回：ウェブサイト運営と著作権 予・復習：ウェブサイト運営および著作権についてウェブ等で調べる</p>					

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
	レポート		
	小テスト	60%	ウェブページの作成方法およびウェブサイト構築に関するインターネットの利用技術が理解できているか。指示どおりWebサイトが制作できるか。
	定期試験		
	その他		
	自由記載		第15回の授業終了までに「Webクリエイター能力認定試験」資格を取得した場合は評価に加える。

【受講の心得】

1. 「ウェブデザイン実務士」資格の必修科目である。ウェブデザインやウェブに関するプログラミングの基礎知識になるので、これらの関連科目を履修予定があれば必ず履修すること。
2. 「Webクリエイター能力認定試験 スタンダード」資格の出題範囲も念頭においているので、積極的に受験することを強くすすめる。
3. 授業ではコーディングにDreamweaverを用いる予定である。他の演習室や自宅では無料で使えるVisualStudio Code, BracketsやATOMといったエディタもおすすめする。
4. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 授業計画の予習で示したテキストの範囲を熟読し，不明点を明確にしておくこと。
 2. 授業計画の復習で示したテキストの範囲を理解し，テキストを参照しなくても説明できるようにしておくこと。学んだ技術を使った簡単なサイトを自分で作成してみるのも効果的である。
 3. 発展学習として「Webクリエイター能力認定試験 スタンダード」資格取得対策をする。
- 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応スタンダード 公式テキスト	FOM出版	FOM出版	2500	978-4-86510-191-1
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **ウェブデザインB**

サブタイトル

授業番号 SW242

担当教員名 脇坂 基徳

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorを使用し、Webサイトのデザイン制作を効率よく進めるための実践を行う。

なお、本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため、「ウェブデザイン実務士」の取得および、実務可能なスキル取得を目指す。

【到達目標】

Adobe Photoshop, Adobe Illustratorを使ったデザイン、特にWebサイトデザインの際に各々がクオリティの高いデザインを作るための効率の向上を目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：Photoshopの基本設定
- 第2回：トップページデザインラフの制作 その1
- 第3回：トップページデザインラフの制作 その2
- 第4回：ワイヤーフレームの制作 その1
- 第5回：ワイヤーフレームの制作 その2
- 第6回：デザイン起こし技術習得 その1
- 第7回：デザイン起こし技術習得 その2
- 第8回：デザイン起こし技術習得 その3
- 第9回：デザイン起こし技術習得 その4
- 第10回：デザイン起こし技術習得 その5
- 第11回：デザイン起こし技術習得 その6
- 第12回：デザイン起こし技術習得 その7
- 第13回：デザイン起こし技術習得 その8
- 第14回：デザイン起こし技術習得 その9
- 第15回：最終課題の提出・まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。
	レポート	70%	授業課題，および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

制作物の工程や結果を意識し、それを実現するための手段を考えながら受講すること。

【授業外学修】

デザインは知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。
そのため、授業開始前までに2時間程度、授業終了後に2時間程度、
各々が時間をとってWebデザインのアーカイブサイトを閲覧し、
Webサイトデザインの予備知識を得ること。

使用テキスト	自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」 (http://webcre8tor.com/)
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介していく。

授業科目名	ウェブプログラミング演習	サブタイトル		授業番号	SW243
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
ウェブページ上で動きのある画面を作り出すJavaScriptなどのウェブページ上のスクリプト言語などを使って行う動的表現の実現方法と、プログラムを作成するスキルを活用して多彩な機能をウェブページ上で実現する実践演習によって学ぶ。					
【到達目標】					
JavaScriptなどを使って動的表現の実現方法を理解し、プログラムを作成するスキルを活用して多彩な機能をウェブページ上で実現できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉および〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
<p>第1回：Webプログラミング概説，WebブラウザとWebサーバ，HTMLとプログラムの関係 予習：サーバサイドプログラミング，クライアントサイドプログラミングについてWebで調べておくこと</p> <p>第2回：HTMLによるWebページの作成 予・復習：Chapter2(2-1～2-5)</p> <p>第3回：CSSの書き方 予・復習：Chapter2(2-6～2-8)</p> <p>第4回：JavaScript：演算子，変数，比較と条件式(if) 予・復習：Chapter3(3-1～3-3-3)</p> <p>第5回：JavaScript：比較と条件式(switch，三項演算子) 予・復習：Chapter3(3-3-4～3-3-5)</p> <p>第6回：JavaScript：配列と繰り返し 予・復習：Chapter3(3-4)</p> <p>第7回：JavaScript：関数，デバッグ 予・復習：Chapter3(3-5～3-6)</p> <p>第8回：JavaScript：HTMLとCSSの操作，DOM 予・復習：Chapter3(3-7-1～3-7-5)</p> <p>第9回：JavaScript：タイマー，組み込みオブジェクト(Date，Math) 予・復習：Chapter3(3-7-6～3-8-2)</p> <p>第10回：JavaScript：組み込みオブジェクト(Array，String) 予・復習：Chapter3(3-8-3～3-8-4)</p> <p>第11回：JavaScript：イベント 予・復習：Chapter3(3-10)</p> <p>第12回：JavaScript：Canvas(図形の描画) 予・復習：Chapter4(4-1～4-2-4)</p> <p>第13回：JavaScript：Canvas(画像，回転) 予・復習：Chapter4(4-2-5～4-3)</p> <p>第14回：ライブラリの利用1 予・復習：jQueryについて調べる</p> <p>第15回：ライブラリの利用2 予・復習：Bootstrapについて調べる</p>					

【授業計画 備考2】

JavaScriptを中心に学ぶ事は変えないが，変化がはやい分野なので必要に応じてテキストと授業計画を変更する。変更する場合は履修登録時および第1回目の授業で連絡する。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。
	レポート		
	小テスト	50%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。
	定期試験		
	その他 自由記載		

【受講の心得】

1. メディアフィールド，ウェブデザインユニットの科目であり，同ユニットの開講科目である「ウェブデザインA」を履修し理解している事を前提に授業を進める。当該科目を履修していなくとも相応のスキルがあれば問題ない。
2. 学習に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。

【授業外学修】

1. 授業計画の予習で示したテキスト範囲を必ず熟読し，例題(SAMPLE)を入力・動作確認しておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。
2. 授業計画の復習で示したテキスト範囲を理解し，授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。
3. 複数回の授業でそれまでの授業内容に関する小テストを行うので，授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学習しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに動作させソースプログラムと動作結果を指定した方法で提出すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	ゲームで学ぶJavaScript入門	田中賢一郎	インプレス	978-4-8443-3978-6	
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名 **ウェブデザイン演習** サブタイトル

授業番号 SW344

担当教員名 脇坂 基徳

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

【授業の概要】

Webサイト制作のために必須であるHTML・CSSコーディングの実践を行う。
中でもマークアップ言語として最も新しいHTML5の知識を学び、実際にWebサイトの構築を行う。
なお、本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため、
「ウェブデザイン実務士」の取得および、実務可能なスキル取得を目指す。

【到達目標】

HTML・CSSのコーディングを実務レベルで習得することを目標とする。
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。

【授業計画】

- 第1回：ウェブデザインの基礎知識の解説。
第2回：ウェブサイトが表示される仕組み、各言語の役割、デザインにおけるルールなどの解説。
第3回：HTMLタグを使う意味、使用頻度の高いHTMLタグの解説。
第4回：HTMLコーディングによる基本ファイルの作成。
第5回：CSSの基本的な考え方と記述方法の習得、CSSリセットの記述。
第6回：<header></header>から<footer></footer>の役割について解説。
第7回：「ブロック」「入れ子」「インライン要素」「ブロック要素」について解説。
第8回：CSSへページ全体の指定、idとclassのCSSでの記述や画像アセットに関して解説。
第9回：<header></header>・<nav></nav>のコーディング、marginやpaddingの解説。
第10回：<footer></footer>のコーディング、jQueryを使用したスライドショーの解説・実装。
第11回：<article></article>・<div id="main"></main>・<aside></aside>のコーディング、jQueryを使用した画像のポップアップ機能の解説・実装。
第12回：Web動画埋め込みの解説・実装。
第13回：スクロールアニメーションの解説・実装。
第14回：モバイル端末への表示最適化の手法「レスポンシブWebデザイン」について解説・実装。
第15回：レスポンシブWebデザインでのメニュー実装。講義のまとめ。

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、課題提出の状況によって評価する。
	レポート	70%	授業課題、および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。
	小テスト		
	定期試験		
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

制作物の工程や結果を意識し、それを実現するための手段を考えながら受講すること。

【授業外学修】

HTML・CSSは記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。
そのため、授業開始前までに2時間程度、授業終了後に2時間程度、
各々が時間をとってHTMLタグのまとめサイトを閲覧し、
Webサイトコーディングの予備知識を得ること。

使用テキスト	自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」 (http://webcre8tor.com/)
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介していく。

授業科目名	ゼミナールA		サブタイトル		授業番号	SS411
担当教員名	福森 護 宋 娘沃 河田 健二 古谷 俊爾 佐藤 由美子 板野 敬吾 藤本 宏美					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】						
ゼミナールは、教員の専門領域を参考に、学生自身が教員を選び、所属した教員のもとで指導を受けながら研究を行うものである。1年次の後期にゼミのしおりを配布し、希望調査を行う。 ゼミの内容は教員によって異なるため、ゼミ決定までに十分に希望教員とコミュニケーションをとり、納得した上で、ゼミナールを選択することが望ましい。 ゼミナールを通して、専門的な学修はもちろん、個別の指導や助言を受けることで、社会に貢献できる人材となるべく知・情・意の全てにおいて成長することを目的とする。						
【到達目標】						
大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果を総合的実践の場で活用することができるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉・〈思考・問題解決能力〉・〈技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 自由記載】						
第1回 各ゼミでのオリエンテーション 第2回～13回 ゼミ担当教員の指導による学修・研究 第14回～15回 研究成果報告会						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	卒業研究または作品により評価を行う。			
	自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は、論文形式だけではなく、作品でも良いこととする。				
【授業外学修】						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 最終的な卒業研究として、自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	適宜指示する。				
参考書	自由記載	適宜指示する。				

授業科目名	ゼミナールB		サブタイトル		授業番号	SS412
担当教員名	福森 護 宋 娘沃 河田 健二 古谷 俊爾 佐藤 由美子 板野 敬吾 藤本 宏美					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】 ゼミナールAに引き続き、同一ゼミ担当教員のもとで、さらに研究を深める。 原則として、ゼミナールAと同一の担当教員とするが、特別な事情がある場合は、十分に相談をしたうえで、変更を みとめる場合がある。						
【到達目標】 自ら課題を設定し、専門的な学修を通して、課題解決を行うことができること、また、課題解決のプロセスにおい て、自分の能力の問題に気づき、能力を高める行動ができることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉・〈思考・問題解決能力〉・〈 技能〉および〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 自由記載】 第1回～第13回 各ゼミの担当教員の指導のもとでの学修・研究 第14回～第15回 ゼミナールの研究成果発表会						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの 姿勢／態度	50%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	卒業研究または作品により評価を行う。			
	自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は、論文形式だけではなく、作品でも良いこととする。				
【授業外学修】 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしてお く。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 最終的な卒業研究として、自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	適宜指示する。				
参考書	自由記載	適宜指示する。				

授業科目名	生活と医学		サブタイトル		授業番号	SB131
担当教員名	川上 道子					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>医療管理秘書士や医療事務，社会福祉主事として資格を持って就職した際に必要になる，専門的な知識を身につける。</p> <p>また，社会人として生活する上で役立つ医学の基礎的な知識・事柄を学ぶ。</p> <p>今後変化することが予想される，日本の医療・介護・福祉の制度について，最新情報を得ることにより将来を考える授業にしたい。</p>						
【到達目標】						
<p>1. 生活と医学の関係が理解できる。</p> <p>2. 人間の生活行動が理解でき，自分や家族の生活と関連づけて考えることができる。</p> <p>3. 代表的な疾病や障害が理解できる。</p> <p>4. 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：生活と医学の関係について 医学の歴史</p> <p>第2回：人間の身体の構造と仕組み</p> <p>第3回：生命維持の仕組み 循環器系の理解と病気</p> <p>第4回：人間の生活行動としての「動くこと」に関連した病気や障害（運動器系・脳神経系）</p> <p>第5回：人間の生活行動としての「食べること」に関連した病気や障害（消化管の機能・摂食）</p> <p>第6回：人間の生活行動としての「息をすること」に関連した病気や障害（呼吸器の機能）</p> <p>第7回：人間の生活行動としての「トイレに行くこと」に関連した病気や障害（腎・泌尿器系・直腸の病気や障害）</p> <p>第8回：人間の生活行動としての「話す・聞くこと」に関連した病気や障害（言語障害・コミュニケーション障害）</p> <p>第9回：人間の生活行動としての「眠ること」に関連した病気や障害（睡眠障害・薬物療法）</p> <p>第10回：人間の生活行動としての「お風呂に入ること」に関連した病気や障害（清潔行動・お洒落の意義）</p> <p>第11回：人間の生活行動としての「子どもを産むこと」に関連した病気や障害（STD・不妊症治療等）</p> <p>第12回：よくある病気の検査や治療・・・急性期を中心に</p> <p>第13回：よくある病気の検査や治療・・・慢性期を中心に（リハビリテーション）</p> <p>第14回：これから増える病気の検査や治療・・・認知症・がん</p> <p>第15回：これから増える病気の検査や治療・・・生活習慣病（糖尿病・高血圧等）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度，出席状況，質問内容によって評価する。			
	レポート	20%	授業中に出した課題の提出状況，内容によって評価する。			
	小テスト	10%	リアクションペーパーへの記載内容によって評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

事前・事後学修を十分に行い、分からないことは積極的に質問すること。

【授業外学修】

授業中に出す課題に積極的に取り組む。

毎回の授業に対して、予習・復習を行う。

以上の学修を、1週当たり4時間以上行う。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ぜんぶわかる人体解剖図	坂井健雄・橋本尚嗣 著	成美堂出版	1900円 + 税	978-4-415-30619-3 C2047
使用テキスト	看護につなげる形態機能学	菱沼典子	メヂカルフレンド社	2400円 + 税	978-4-8392-1499-9 C3047
自由記載	1. 厚生労働省認定教科書『医療保険事務 協会 総合生活学科で注文予定	医学一般』, 財団法人	日本病院管理教育		
参考書	自由記載	必要に応じ提示する。			

授業科目名 **診療報酬請求事務**

サブタイトル

授業番号 SB232

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

医療事務の業務内容、わが国の医療保険制度、診療報酬請求事務に関する基礎知識、診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。

【到達目標】

- ・ 医療事務職員の業務内容、医療保険制度を理解できる。
- ・ 診療報酬制度の仕組みが理解できる。
- ・ 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：医療事務の紹介 外来業務

第2回：入退院業務(1)

第3回：入退院業務(2)

第4回：医療保険制度と診療報酬体系について

第5回：初診料(1) 基礎知識

第6回：初診料(2) 算定・レセプト記載

第7回：再診料(1) 基礎知識

第8回：再診料(2) 算定・レセプト記載

第9回：医学管理料

第10回：在宅医療料

第11回：投薬料(1) 基礎知識

第12回：投薬料(2) 算定・レセプト記載

第13回：注射料

第14回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成(1)

第15回：診療報酬明細書（外来レセプト）の作成(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習	一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,592 (税込)	なし
	医科診療報酬点数表	一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,160 (税込)	なし
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	診療点数早見表(医学通信社)			

授業科目名 **医療管理事務総論**

サブタイトル

授業番号 SB233

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

医療の歴史，医療機関で働く職員の職種とその仕事内容，医療の法律，医療保険について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。2年次に行われる医療事務関係の資格試験に焦点をあてた内容を中心に授業を展開する。

【到達目標】

- ・ 医療の歴史，医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。
- ・ 医療に関係する法律を理解できる。
- ・ 医療保険制度について理解できる。

なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：医療の歴史

第2回：病院の基本を知る(1)病院組織

第3回：病院の基本を知る(2)病院と診療所

第4回：病院の基本を知る(3)医療連携

第5回：医療機関の職種(1)医師

第6回：医療機関の職種(2)看護師

第7回：医療機関の職種(3)コメディカル

第8回：医療機関の職種(4)事務

第9回：医療秘書教養

第10回：医師法

第11回：医療法

第12回：健康保険

第13回：さまざまな医療制度

第14回：DPC・出来高と包括(1)

第15回：DPC・出来高と包括(2) 院外薬局

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。
2. 復習として、講義資料にある問題を復習する。
3. 医療に関わる新聞記事を読む。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	オールカラー図解 病院のすべてがわかる!	コンパッソ税理士 法人	ナツメ社	1, 728 (税 込)	978- 4816363474
	メディカルシステム論	一般社団法人 医 療教育協会	一般社団 法人 医 療教育協 会	2, 160 (税 込)	なし
	自由記載 講義資料				
参考書	自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企 画) よくわかる 図解 病院の学習書 (ロギカ書房)			

授業科目名 **医療秘書学**

サブタイトル

授業番号 SB234

担当教員名 仁宮 崇

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

【授業の概要】

秘書業務を通して社会人として必要なビジネスマナー・接遇について学ぶ。医療秘書、医療コンシェルジュの仕事内容、心構え、患者サービスについて、テキストやDVD教材を用いて理解する。

【到達目標】

- ・社会人としてのビジネスマナー・接遇を学び、秘書検定2級程度の知識を身に付ける。
 - ・医療秘書、コンシェルジュの業務内容を理解できる。
 - ・医療機関で働く上で必要な接遇知識、医療安全に関わるコミュニケーションについて理解できる。
- 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：医療秘書の業務内容 医療秘書に必要とされる資質(1)

第2回：医療秘書に必要とされる資質(2)

第3回：医療秘書の職務知識

第4回：医療事務の就職活動に関する講義 ※（担当 外部講師）

第5回：ビジネスマナー(1)

第6回：ビジネスマナー(2)

第7回：ビジネスマナー(3)

第8回：ビジネスマナー(4)

第9回：医療コンシェルジュ

第10回：医療機関職員の接遇・マナー(1)

第11回：医療機関職員の接遇・マナー(2)

第12回：医療機関職員の接遇・マナー(3)

第13回：コミュニケーション能力と医療安全

第14回：医療秘書に必要な技能(1)

第15回：医療秘書に必要な技能(2)

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
	レポート		
	小テスト		
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		試験は持込不可である。

【受講の心得】

仕事をする上でのビジネスマナー、接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶、行動を心がけること。秘書検定に関心のある学生は、11月と2月に行われる秘書検定3級、2級の試験を受験すること。すでに秘書検定2級に合格している学生は、知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず、医療機関の就職試験にも出題されることがあるため、就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。

【授業外学修】

1. テキスト、講義資料を読み、問題を復習する。
 2. 会話の中で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を意識して正しく使用する。
- 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白 いほど受かる本	佐藤 一明	KADOKAWA/ 中経出版	1, 512 (税 込)	978- 4046041029
	自由記 載	講義資料			
参考書	自由記 載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会） 秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会） マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ） 秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社） 秘書検定準1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会） 秘書検定1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会） 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21) 医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社） ホスピタルコンシェルジュの事例紹介（DVD：金田病院提供）			

【その他】

特別講義の日程調整の関係で、講義の順番が変わることがある。

授業科目名 **社会の理解**

サブタイトル

授業番号 KB201

担当教員名 松井 圭三

対象学部・学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 講義

【授業の概要】

授業の目的とねらいは、個人が自立した生活を営むことを理解するため、個人、家族、近隣、地域社会は何かについて理解し、公私の援助体系を学習することである。

授業終了時の達成目標は、家族概念と変遷、地域概念と変遷を踏まえ、社会保障制度体系について学ぶ。社会保険、生活保護、社会福祉等のサービスや民間、NPOの概念、サービスの体系について理解を深める。

【到達目標】

- ・福祉現場で、社会福祉、社会保障制度が実際に利用できる臨床能力を修得する。
- ・介護福祉士の国家試験に合格できる知識を修得する。

なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた〈知識・理解〉の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：家族概念と変容

第2回：家族の課題

第3回：地域の概念と変容

第4回：地域の課題

第5回：少子高齢化の現状と課題

第6回：介護保険制度I

第7回：介護保険制度II

第8回：高齢者医療制度

第9回：公的年金制度

第10回：障害者自立支援法とは

第11回：保健、福祉施策の概要

第12回：生活保護制度

第13回：民間とNPO

第14回：その他の公私のサービス

第15回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。
	その他		レポートの提出期限を遵守する。
	自由記載		

【受講の心得】

本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。

- ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・他教科と連動して考える力、専門的な知識が求められます。
- ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。
- ・国家試験対策も含めて授業を展開します。

【授業外学修】

- ・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる章節を読み、疑問点を明らかにする。
- ・復習として、課題のレポートを書く。
- ・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。

本授業では、時間外学習時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学習が必要である。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	社会の理解	小澤温他	メジカル フレンド 社	3100円	978-4- 8392- 3163-7
	21世紀の介護保険政策集	松井圭三ほか	大学教育 出版社	1800円	978-4- 88730- 839-8
自由記載	自由記載				
参考書	自由記載	随時紹介します。			

授業科目名	介護の基本A		サブタイトル		授業番号	KC201
担当教員名	宇野 保子 下田 裕恵 中田 利幸					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】 「介護の基本」は、介護領域の基盤となる教科である。介護実践は、介護を必要とする人を「生活する人」として受け止め、一人ひとりの利用者の生き方や生活習慣など「その人らしさ（個別性）」を大切にすることを学ぶことが必要である。本講義では、「尊厳の保持」、「自立支援」、「自律支援」という新しい介護の考えかたを理解するとともに、「その人らしい生活」を捉えるための生活支援方法を学習する。						
【到達目標】 介護を必要とする人の「生活」の基本理解として、次の衣食住の各分野からの目標を設定している。 (1)調理するという生活の基本を理解する。 (2)身だしなみ・化粧・着る・装うという生活の基本を理解する。 (3)利用者の生活を住環境の視点で考えることができる能力を養う。 本教科は、ディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力>の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回～5回 調理するという生活の基本 下田 裕恵 1) 食事の意義と目的 2) 栄養に関する基礎知識（調理する事の目的） 3) ライフステージに合わせた配慮（調理する事の身体への影響） 4) 病気の方への対応（調理するという生活支援の視点） 5) アセスメントと目標設定						
第6回～10回 「身だしなみ・化粧」及び「着る・装う」という生活の基本 宇野 保子 6) 「身だしなみ・化粧」の意義 7) 「身だしなみ・化粧」の目的 8) 「身だしなみ・化粧」という生活支援の視点 9) 「着る・装う」の意義と目的 10) 「着る・装う」という生活支援の視点						
第11回～15回 生活を支える「すまい・環境」の基本 中田 利幸 11) 生活を支える「すまい・環境」の意義 12) 生活を支える「すまい・環境」の目的 13) 生活を支える「すまい・環境」ところ 14) 生活を支える「すまい・環境」とからだ 15) 生活を支える「すまい・環境」の目的援助の視点						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					

第1回から第5回（下田）の評価について：

授業への取り組みの姿勢（40%） 意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。

レポート（40%） 糖尿病，高血圧，腎症等調理をする上で必要な知識が正確であるかを確認するために行う。

小テスト（20%） 授業内の食に関する重要な項目を評価する。

第6回から第10回（宇野）の評価について：

自由記載 授業への取り組みの姿勢（30%） 受講態度とフィードバックカードの取り組みを評価する。

定期試験（70%） 基礎知識の理解度を評価する

第11回から第15回（中田）の評価について：

授業への取り組みの姿勢(20%) 受講態度，討論への参加の状況により評価する

定期試験（80%） 主要なポイントの理解度により評価する。

各担当者が，独立して評価し，評定平均を最終評価とする。

【受講の心得】

介護福祉士講座全集のテキストから，各時間に指定された巻を持参し，授業終了後は，要点を整理して理解を深める。

【授業外学修】

学んだ内容を踏まえて，施設実習ができるように，1週間に4時間以上の復習を心がける。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	最新介護福祉全書3介護の基本	西村洋子	メジカル フレンド 社	3800	978-4- 8392- 3164-4
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	介護の基本B	サブタイトル		授業番号	KC202
担当教員名	名定 慎也				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>わが国の「介護」における社会的状況はめまぐるしく変化している。そのなかで介護福祉士は、多様、複雑、高度な問題を解決できる専門職としての役割を期待されていることを理解する。また、高齢者に対する「尊厳の保持」、「自立支援」、「自律支援」という考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。さらに、介護概念の理解、倫理的問題を理解するための学習とする。</p> <p>本講義では、介護福祉士の歴史的背景と、現在の役割を理解するとともに、「介護」に関する考えをまとめ伝える、人の考えを聞きまとめることにより、自身の介護観の構築と他者の考えを理解できる力量がつくことを目標とする。そのためには、人間の尊厳の保持・自立支援について理解を深め、誰もが人間としての尊厳が守られ、生活者として主体的に生きていくための基盤となる「介護観」を育む学習を行う。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>介護を取り巻く状況・介護問題の背景について学び、介護福祉士の担う社会的役割について理解する。 ノーマライゼーションやICFの考え方を学び、その理念に基づいた生活支援を考えることができる。 人間の尊厳と自律・自立について学び、利用者の主体性の尊重・選択意志決定の方法を理解する。 介護に必要なケアマネジメント力や介護サービスについて理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回：私たちの生活理解
- 第2回：生活時間から見た生活
- 第3回：ライフステージからみた生活
- 第4回：自立に向けた生活支援とは
- 第5回：介護を必要とする人の理解
- 第6回：生活障害のとらえ方
- 第7回：介護の歴史
- 第8回：介護問題の背景
- 第9回：介護福祉士を取り巻く状況
- 第10回：介護福祉士の役割と機能
- 第11回：介護福祉の普及
- 第12回：介護福祉の対象
- 第13回：介護を必要とする人の歴史的背景
- 第14回：介護を必要とする人とのコミュニケーション
- 第15回：回想法を用いたコミュニケーション
- 第16回：介護福祉の定義
- 第17回：ノーマライゼーションの考え方
- 第18回：介護福祉と関連領域
- 第19回：リハビリテーションの考え方と実際
- 第20回：諸外国における介護福祉
- 第21回：諸外国の介護福祉と比較し日本の介護福祉について考える
- 第22回：介護福祉の原則
- 第23回：介護における日常生活支援の基本
- 第24回：介護職が行う生活支援
- 第25回：生活支援ニーズを見出す個別ケア
- 第26回：ICFの考え方と活用方法
- 第27回：人間の尊厳と介護の関係
- 第28回：介護福祉援助展開における対人援助の方法と技術
- 第29回：日常生活と社会生活の能力維持・拡大への支援
- 第30回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する
	小テスト		
	定期試験	60%	授業内容を理解できているか評価する
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で120時間とする。週8時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護の基本 3	西村洋子	メヂカル フレンド 社	3800円 +税	978-4- 8392- 3118-47
	自由記載	介護福祉士養成テキスト その都度、授業資料・参考資料を配布します。			
参考書	自由記載	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2020」中央法規出版（6月頃発行）「NIE介護の基本演習」大学教育出版			

授業科目名	介護の基本C	サブタイトル		授業番号	KC203
担当教員名	名定 慎也				
対象学部・学科		単位数	4単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>利用者の尊厳の保持・自立支援を目指した介護を展開できる知識技術を学習し、利用者や家族の生活の安全を守るための基礎的な力を養う授業とする。</p> <p>尊厳を支える介護と介護を必要とする人の理解について、生活支援技術や総合演習、介護実習と関連させながら学ぶ。</p> <p>多様な介護福祉サービスを学び、その中で多職種協働・連携やケアマネジメントなどのしくみを踏まえた介護展開について学習する。</p> <p>介護福祉士としての介護観を構築するために、介護の基本・生活支援技術に関連づけ、多様な介護場面で「その人らしい」生活を守るために必要な基礎的な力を培い応用力を高め、さらに倫理的問題を理解するための学習とする。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>「その人らしい」生活を支えるために、包括的な日常生活支援について理解する。</p> <p>尊厳を支える介護を多角的に理解し、介護を必要とする人を多角的な視点から理解できる力を養う。</p> <p>職業倫理について学習し、尊厳を支える介護福祉について理解する。</p> <p>介護に必要なケアマネジメント力や介護サービスについて理解できる。</p> <p>安全に対する観察・予測・分析する力を身につけ緊急時の対応と役割を認識することができる。</p> <p>多職種連携の重要性・協働について理解することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：包括的日常生活支援とは
- 第2回：人間の多様性・複雑性の理解
- 第3回：自立を支える身体的生活支援
- 第4回：自立を支える精神的生活支援
- 第5回：自立を支える文化的・社会的生活支援
- 第6回：自立を支える生活環境の整備
- 第7回：介護の専門性と倫理
- 第8回：介護職に求められる職業倫理
- 第9回：介護の倫理的問題
- 第10回：介護保険制度における介護福祉サービス
- 第11回：高齢者の在宅における介護福祉
- 第12回：障害者総合支援法における介護福祉サービス
- 第13回：障害者の在宅における介護福祉
- 第14回：障害者の施設における介護福祉
- 第15回：介護福祉における多職種連携
- 第16回：協働職種の機能と役割
- 第17回：チームケアとネットワークング
- 第18回：地域連携の意義と目的
- 第19回：地域連携の実際
- 第20回：介護における安全の意義と目的
- 第21回：生活の保証とリスクマネジメント
- 第22回：在宅における安全対策
- 第23回：施設における安全対策
- 第24回：地域における安全対策
- 第25回：感染症の予防と管理
- 第26回：介護従事者の健康問題
- 第27回：からだところの健康管理
- 第28回：労働安全対策
- 第29回：これからの介護福祉に関する諸課題
- 第30回：まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する
	小テスト		
	定期試験	60%	授業内容を理解ができているか評価する
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で120時間とする。週8時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護の基本 3	西村洋子	メヂカル フレンド 社	3800円+ 税	978-4- 8392- 3118-7
	自由記載	介護福祉士養成テキスト その都度、授業資料・参考資料を配布します。			
参考書	自由記載	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2020」中央法規出版（6月頃発行）「NIE介護の基本演習」大学教育出版			

授業科目名	介護の基本D		サブタイトル		授業番号	KC204
担当教員名	中野 ひとみ 松井 圭三 名定 慎也					
対象学部・学科				単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
【授業の概要】						
<p>本講義は、利用者の「尊厳の保持」、「自立支援」、「自律支援」を目指した介護を展開するため、利用者や家族の生活の安全を守るための基礎的な力を養う。</p> <p>また、その基盤となる介護従事者の安全に関する理論・知識を生活支援技術や総合演習、介護実習と関連させながら学んでいく。また、介護福祉士として他職種との連携やケアマネジメントなどのしくみを踏まえた介護が展開できる能力を養う。</p>						
【到達目標】						
<p>介護に必要なケアマネジメント力や介護サービスについて理解できる。</p> <p>安全に対する観察・予測・分析する力を身につけ緊急時の対応と役割を認識することができる。</p> <p>他職種連携の重要性・協働について理解することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：人間と生活 ※（担当（松井））</p> <p>第2回：介護福祉士を取り巻く状況（介護の歴史・介護問題・役割・機能） ※（担当（松井））</p> <p>第3回：介護福祉の概念（介護の対象・定義・関連領域）・諸外国における介護福祉 ※（担当（松井））</p> <p>第4回：まとめ（国家試験対策） ※（担当（松井））</p> <p>第5回：介護福祉の基本原則（対人援助の方法と技術） ※（担当（名定））</p> <p>第6回：介護における日常生活の基本(1) ※（担当（名定））</p> <p>第7回：介護における日常生活の基本(2)・生活経営と管理 ※（担当（名定））</p> <p>第8回：まとめ（国家試験対策） ※（担当（名定））</p> <p>第9回：介護福祉の倫理 ※（担当（中野））</p> <p>第10回：介護福祉の活動の場 ※（担当（中野））</p> <p>第11回：介護サービスの提供のしくみ（他職種・地域連携） ※（担当（中野））</p> <p>第12回：介護における安全の確保とリスクマネジメント（リスクマネジメント・在宅・施設内事故の安全対策） ※（担当（中野））</p> <p>第13回：感染症の予防と管理・介護従事者の健康と安全（健康問題・健康管理・こころの健康） ※（担当（中野））</p> <p>第14回：労働安全対策・介護福祉に関する諸問題・まとめ（国家試験対策） ※（担当（中野））</p> <p>第15回：まとめ（国家試験対策） ※（担当【中野】）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%				

その他

自由記載 受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。

【受講の心得】

本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。

- ・ 予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・ 他教科との連動して考える力，専門的知識と技術が応用力が求められます。
- ・ 自ら考える姿勢で講義に臨んでください。
- ・ 国家試験対策も含めて講義を展開します。

【授業外学修】

1. 予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。
2. 復習として，課題のレポートを書く。
3. 発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護の基本 3	西村洋子	メヂカル フレンド 社	3800円 +税	978-4- 8392- 3164-4

自由記載 介護福祉士養成テキスト

参考書

自由記載

授業科目名	コミュニケーション 技術I		サブタイトル		授業番号	KC205
担当教員名	名定 慎也 松井 みさ 土田 豊					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割を学び、また、保育士養成課程で学んだ表現方法を、高齢者や障害者とのコミュニケーション技術として研究的に取り組み、健康な日常生活を送るために欠かせない音楽活動や運動を通してアクティビティケアのプランニングをする。後期の介護過程における支援計画につなげる学習を行う。</p>						
【到達目標】						
<p>介護におけるコミュニケーション技術の意義、目的、役割について理解する。 音楽を通してのコミュニケーションを学び、実習や介護の現場で実践ができる。 レクリエーション活動を通してのコミュニケーションを学び、実習や介護の現場で実践ができる。 介護場面を想定したレクリエーションのプランニングができ、記録に基づいたロールプレイができる。 年齢や身体の不調状況等を考慮したレクリエーション計画を立案・実践することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：介護におけるコミュニケーション技術について ※（担当名定） 第2回：コミュニケーションが深まる自己紹介をしよう ※（担当土田担当） 第3回：コミュニケーションゲームを体験しよう ※（担当土田担当） 第4回：お散歩に行こう ※（担当土田担当） 第5回：在宅レク、座位でのレクを体験しよう ※（担当土田担当） 第6回：コミュニケーションで何？ ※（担当土田担当） 第7回：レク指導をしてみよう(1) ※（担当土田担当） 第8回：レク指導をしてみよう(2) ※（担当土田担当） 第9回：ロールプレイ(1) 在宅系 認知症と音楽について ※（担当松井み担当） 第10回：ロールプレイ(2) 通所系・施設系 音楽とコミュニケーション ※（担当松井み担当） 第11回：音楽とコミュニケーション 童謡・小学唱歌・懐メロ・民謡・歌謡曲等を用いたコミュニケーション(1) ※（担当松井み担当） 第12回：童謡・小学唱歌・懐メロ・民謡・歌謡曲等を用いたコミュニケーション(2) ※（担当松井み担当） 第13回：簡易楽器（ミュージックベル・鈴・タンバリン等）を用いたコミュニケーション(1) ※（担当松井み担当） 第14回：簡易楽器（ミュージックベル・鈴・タンバリン等）を用いたコミュニケーション(2) ※（担当松井み担当） 第15回：高齢者や障害者への音楽療法の実際 ※（担当松井み担当）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	状況に応じたレクリエーション計画書が立案できるか評価する			
	小テスト					
	定期試験					

その他 60% レクリエーション計画書に沿った実践を評価する
自由記載

【受講の心得】

- ・本科目は主に演習形式で行い、グループ発表や個別発表など実践を多く取り入れるので積極的に取り組んでください。
- ・コミュニケーションのツールとしてレクリエーションや音楽を活用します。高齢者向けのレクリエーション・音楽を調べておいてください。

【授業外学修】

1. 授業で学んだことを復習し、また自己学習により発展させてください。
2. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
3. グループ課題や個別課題は提出日・発表日を考え、計画的に取り組み期限を厳守してください。
4. 授業や実習で活用するための高齢者向けレクリエーションのネタ帳を作成してください。
5. 授業や実習で活用するための高齢者の好む音楽集を作成してください。ピアノも弾けるように練習してください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布する
参考書	自由記載	介護福祉士養成テキスト

授業科目名	コミュニケーション 技術II		サブタイトル		授業番号	KC301
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
【授業の概要】 保育士養成課程で学んだ対人援助技術を踏まえて、介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力・記録方法を身につける。						
【到達目標】 専門職としてのコミュニケーションの意義・目的・役割について理解する。 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションについて理解する。 感覚機能、運動機能、認知・知覚機能障害が低下している利用者を理解し、それに応じたコミュニケーション技法を習得する。 介護におけるチームのコミュニケーションを学び、情報の共有化ができる力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：介護におけるコミュニケーションとは 第2回：他者理解と自己理解 第3回：利用者の感情表現を引き出すコミュニケーション 第4回：相談・助言・指導の技法 第5回：利用者・家族とのコミュニケーション 第6回：ケアの場面から考えるコミュニケーション方法(1) 第7回：ケアの場面から考えるコミュニケーション方法(2) 第8回：認知症の利用者とのコミュニケーション 第9回：身体障害・視覚障害・聴覚障害のある人とのコミュニケーション 第10回：言語障害・高次機能障害・精神障害のある人とのコミュニケーション 第11回：知的障害・発達障害・難病のある人とのコミュニケーション 第12回：介護におけるチームのコミュニケーション 第13回：記録による情報の共有化 第14回：報告・連絡・相談 第15回：会議による情報の共有化						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができていないか評価する			
	小テスト					
	定期試験	60%	授業内容が理解できているか評価する			
	その他					
自由記載						

【受講の心得】

- ・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。
- ・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で30時間とする。週2時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	コミュニケーション技術 4	松井奈美	メヂカル フレンド 社	1900円+ 税	978-4- 8392- 3193-4

自由記載 介護福祉士養成テキスト その都度、授業資料・参考資料を配布します。

参考書

自由記載

授業科目名	生活支援技術A		サブタイトル		授業番号	KC206
担当教員名	下田 裕恵					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	実習		
<p>【授業の概要】</p> <p>「生活支援技術」では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことをねらいとする。できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。</p> <p>本講義では、「介護の基本A」と連動し障がいのある人や高齢者の食についての技術・知識を学び、利用者や家族の生活の質の維持・向上を目的とした生活支援ができるようになることについて学ぶ。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)対象となる人の生活の状況を整理し、優先順位を考えて調理することができる。</p> <p>(2)安全な「食」とは何かを理解し、誤嚥、衛生面に配慮した支援が提供できる。</p> <p>(3)家事の介助を必要とする人に、適切な介助とは何かを自分の言葉で説明できる。</p> <p>(4)個々の必要性に合わせた調理技術を習得し、個人の状態に合わせて応用できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解>の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：調理器具，調理科学の必要性</p> <p>第2回：食品衛生の基礎，調味料・食材について</p> <p>第3回：調理の基本，食品の管理（カリウム制限食の考え方と実践）</p> <p>第4回：調理支援の方法と留意点（嚥下困難食の基本）</p> <p>第5回：調理上の注意点（エネルギー制限食の考え方(1)）</p> <p>第6回：調理時間の節約（エネルギー制限食の考え方(2)）</p> <p>第7回：調味料の使い方（減塩食）</p> <p>第8回：ゲル化剤の使い方（咀嚼困難食の基本）</p> <p>第9回：高齢者に不足しがちな栄養素（大豆・大豆製品を使った食事）</p> <p>第10回：誤嚥について（注意が必要な食事）</p> <p>第11回：食欲不振時の食事（エネルギー・水分補給食）</p> <p>第12回：行事食（ソフト食）</p> <p>第13回：美しい料理とは（ソフト食）</p> <p>第14回：訪問時の実践(1)</p> <p>第15回：訪問時の実践(2)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	説明を正しく理解し、実習を通して調理技術と介護食の知識が身に付いているかを評価する。			
	レポート	30%	講義と実習を通して生まれた課題，疑問が整理でき，解決策が述べられていること。			
	小テスト	40%	授業を通じて身に付けた調理に関する知識，技術を確認する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

福祉の現場で即戦力となる意識を常に持ち、授業には積極的に参加し、レポートも一つの書類と考え、丁寧に書き提出すること。

使用テキスト	自由記載	毎回、プリント、レシピを配布する。
参考書	自由記載	

授業科目名	生活支援技術B		サブタイトル		授業番号	KC207
担当教員名	宇野 保子 中田 利幸					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>「生活支援技術」では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることの重要性を学ぶ。また、生活の楽しさや生活の支障の解決についても、ともに分かち合うことをねらいとする。</p> <p>本講義では、できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し計画的に提供することを理解する。</p> <p>次に障害のある人や高齢者の居住環境や身だしなみ・装いという具体的な生活支援の過程で、どのようにニーズを発見していくか、どのようにそれを具現化し「その人らしい」生活支援ができるかについても学習する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>介護を必要とする人の「生活支援」の基礎理解として、衣環境と住環境の分野から次のような目標を設定している。</p> <p>(1)対象となる人の生活の状況を整理し、ニーズの優先順位を考えることができる。</p> <p>(2)ICFの視点にもとづいて、身支度についての意義と目的を説明できる。</p> <p>(3)自立に向けた居住環境の形成に向けて、具体的な環境整備の進め方を理解する。</p> <p>(4)介護福祉士として利用者の生活と住環境の視点で考えることができる能力を養う。</p> <p>本教科は、ディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の習得に寄与する。</p>						
<p>【授業計画】</p>						
<p>第1回～7回 「身だしなみ・化粧」という生活の支援 宇野保子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「身だしなみ・化粧」への配慮 2) ICFに基づいたアセスメント（身だしなみ・化粧） 3) 支援の方法と留意点 4) 5) 「着る」ことへの配慮、「装う」ことへの配慮 6) ICFに基づいたアセスメント（着る・装う） 7) 支援の方法と留意点 <p>第8回～15回 生活を支える「すまい・環境」の支援 中田利幸</p> <ol style="list-style-type: none"> 8) 住生活（平面計画・間取りの考え方） 9) 平面計画に使用される記号の理解と書き方を学ぶ 10) 平面計画と類型とその特徴を理解する 11) 住宅環境と施設理解について学ぶ。 12) 住宅改修の概要について。（介護保険による住宅改修） 13) 高齢者・障害者と住居 14) ICFに基づいたアセスメント 15) 図面の把握と作図による高齢者、障がい者への配慮について学ぶ。 						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					

第1回から第7回（宇野）の評価について：

- 授業の取り組みへの姿勢/態度： 10% 受講態度，発問への対応などを評価する。
レポート： 20% 課題の取り組みに対する思考過程と表現力を評価する。
提出作品： 40% 計画的な取り組みと，作品の完成度を評価する。
発表： 30% 内容，発表態度，訴求力などを評価する。

自由記載

第8回から第15回（中田）の評価について：

- 授業の取り組みへの姿勢/態度： 20% 受講態度，討論への参加の状況により評価する
レポート： 40% 指定した項目についてまとめ，その考察を記述し，内容を評価する。
提出作品： 40% 与えられたテーマについて，図面上に表現し，具体的な理解度を評価する。

各担当者が，独立して評価し，平均を最終評価とする。

【受講の心得】

指定されたテキストを持参し，実習の準備をして授業にのぞむ。

【授業外学修】

テキストの要点整理，章末の確認テストなどの復習に取り組む。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉全書5 生活支援技術I	川井太加子	メジカルフレンド社	2900円+税	978-4-8392-3153-8
使用テキスト	最新介護福祉全書6 生活支援技術II	川井太加子	メジカルフレンド社	2600円+税	978-4-8392-3154-5
	最新介護福祉全書別巻4障害別生活支援技術	谷口敏代 中村裕子	メジカルフレンド社	3100円+税	978-4-8392-3155-2
	自由記載				
参考書	自由記載				

授業科目名	生活支援技術C	サブタイトル		授業番号	KC208
担当教員名	名定 慎也				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>「生活支援技術」では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことをねらいとする。できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>(1)人間関係に必要なコミュニケーションを理解する。 (2)安全で気兼ねなく移動できる支援方法を習得する。 (3)個々にあった移動支援について説明できるようになる。 (4)食事の意義と目的を理解し、利用者の状態・状況に応じた食事の支援ができる。 (5)食後の口腔ケアについて理解し、口腔ケアができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

- 第1回：人間関係形成の意義と目的
- 第2回：高齢、障害、認知症から生じる生活課題
- 第3回：尊厳・プライバシー・生活歴・習慣への配慮
- 第4回：介護に必要な人間関係の形成（利用者・家族）
- 第5回：多職種との連携・協働
- 第6回：ICFに基づいたアセスメント
- 第7回：移動の意義と目的
移動・移乗のための道具・用具
- 第8回：身体動作の基本（ボディメカニクス）
- 第9回：座位・立位・移乗の介護の基本的理解
- 第10回：安全な「歩行」を支える介護
- 第11回：安全な「杖歩行」を支える介護
- 第12回：車いすでの移動を支える介護(1)
- 第13回：車いすでの移動を支える介護(2)（校内実習）
- 第14回：車いすでの移動を支える介護(3)（学外実習）
- 第15回：安楽な姿勢と体位
- 第16回：体位変換の介助(1)
- 第17回：体位変換の介助(2)
- 第18回：ストレッチャーへの移乗介助
- 第19回：ストレッチャーでの移送介助
- 第20回：移動用リフトの介助
- 第21回：移動の介護における他職種の役割と協働
- 第22回：食事の意義と目的
- 第23回：食事における生活支援技術(1)（自立）
- 第24回：食事における生活支援技術(2)（一部介助）
- 第25回：食事における生活支援技術(3)（全介助）
- 第26回：口腔ケアの意義と目的
- 第27回：状態に応じた口腔ケア
- 第28回：食事の介護における他職種の役割と協働
- 第29回：生活支援技術の理論まとめ（コミュニケーション・移動・食事）
- 第30回：生活支援技術の実技まとめ（コミュニケーション・移動・食事）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
	レポート	10%	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。
	小テスト	10%	車椅子や身体部位の名称等の小テストにて評価します
	定期試験	60%	授業の内容が理解できているか評価する
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- ・本科目は主に演習形式で行い、各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び、実習室での実習で技術を習得していきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。
- ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち、緊張感を持って取り組んでください。
- ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し、利用者の尊厳の保持し、自立支援ができるようにしましょう。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
 3. 実技は「1回見た、1回した」だけでは身につけません。実習で実際に利用者支援をする際、不安のないようにしっかり練習してください。
 4. 実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく、根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかりと守ってください。
- 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。
本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	生活支援技術I 5	川井太加子	メチカル フレンド 社	2900円+ 税	978-4- 8392- 3153-8
	生活支援技術II 6	川井太加子	メチカル フレンド 社	2600円+ 税	978-4- 8392- 3154-5
	自由記載 介護福祉士養成テキスト				

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	人間の理解 1	橋本正明	メチカル フレンド 社	2000円+ 税	978-4- 8392- 3188-0
	自由記載				

【その他】

実習日は実習服、室内シューズを持参してください。

頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。

授業科目名	生活支援技術D	サブタイトル		授業番号	KC209
担当教員名	中野ひとみ 原田 眞澄				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>本講義では、介護実習の体験を踏まえて、利用者及び家族等の生活を支援することを目的としている。利用者及び家族の尊厳や生活リズムといったノーマライゼーションの実現に向けての生活マネジメントを行い、対象となる生活者のQOLの向上に向けた支援を学習する。</p> <p>地域生活を営むうえでの制度を理解し、他職種との連携・協働などについても学習していく。「生活支援技術」に必要な人体の構造や機能を理解しあらゆる介護場面において、共通する基本的な介護の知識・技術・態度を習得し、それらを統合して適切に実施できることをねらいとする。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者支援の基礎的な知識・技術について理解することができる。 ・ 障害の概念、障害福祉の理念について理解し、介護支援の基本的視点について説明することができる。 ・ 障害を起こす原因となる疾患と症状を理解し、どのような視点から介護をすればよいかについて理解する。 ・ 障害が人にどのような精神的影響を与えるかを理解し、日常生活への影響とアセスメントの基本的視点を学ぶ。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

第1回：障害児・者の生活支援の基本 目的と意義(日常生活や医療的配慮が必要となる支援者への対応(1))	※ (担当(中野))
第2回：障害児・者の生活支援の基本 観察・評価・理解の視点(日常生活や医療的配慮が必要となる支援者への対応(2))	※ (担当(中野))
第3回：障害児・者の生活支援の実践のあり方と介護福祉士の業務範囲(1) (日常生活や医療的配慮が必要となる支援者への対応(3))	※ (担当(中野))
第4回：障害児・者の生活支援の実践のあり方と介護福祉士の業務範囲(2) (日常生活や医療的配慮が必要となる支援者への対応(4))	※ (担当(中野))
第5回：視覚障害者のある人の生活支援の基本(1) (外部講師からの支援方法の実際)	※ (担当(中野))
第6回：視覚障害者のある人の生活支援の基本(2) (外部講師からの支援方法の実際)	※ (担当(中野))
第7回：内部障害(1) (内部障害の定義と動向)	※ (担当(原田))
第8回：名部障害(2) (心臓の機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第9回：内部障害(3) (呼吸器の機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第10回：内部障害(4) (腎臓の機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第11回：内部障害(5) (排泄器官(膀胱・直腸)の機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第12回：内部障害(6) (小腸の機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第13回：内部障害(7) (肝臓の機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第14回：内部障害(8) (ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害のある人)	※ (担当(原田))
第15回：発達障害・高次機能障害・精神障害への理解・支援方法 グループワーク(1)－(1)文献検索	※ (担当(中野))
第16回：発達障害・高次機能障害・精神障害への理解・支援方法 グループワーク(1)－(2)文献検索	※ (担当(中野))
第17回：発達障害・高次機能障害・精神障害への理解・支援方法 グループワーク(2)－(1)レジュメ・パワーポイント作成	※ (担当(中野))
第18回：発達障害・高次機能障害・精神障害への理解・支援方法 グループワーク(2)－(2)レジュメ・パワーポイント作成	※ (担当(中野))
第19回：発達障害・高次機能障害・精神障害への理解・支援方法 グループワーク(3)－(1)発表	※ (担当(中野))
第20回：発達障害・高次機能障害・精神障害への理解・支援方法 グループワーク(3)－(2)発表	※ (担当(中野))

- 第21回：視覚・聴覚・言語障害・運動麻痺・難病・内部
障害への理解・支援方法 ※（担当(中野)）
グループワーク(1)－(1)文献検索
- 第22回：視覚・聴覚・言語障害・運動麻痺・難病・内部
障害への理解・支援方法 ※（担当(中野)）
グループワーク(1)－(2)文献検索
- 第23回：視覚・聴覚・言語障害・運動麻痺・難病・内部
障害への理解・支援方法 ※（担当(中野)）
グループワーク(2)－(1)レジュメ・パワーポイント作成
- 第24回：視覚・聴覚・言語障害・運動麻痺・難病・内部
障害への理解・支援方法 ※（担当(中野)）
グループワーク(2)－(2)レジュメ・パワーポイント作成
- 第25回：視覚・聴覚・言語障害・運動麻痺・難病・内部
障害への理解・支援方法 ※（担当(中野)）
グループワーク(3)－(1)発表
- 第26回：視覚・聴覚・言語障害・運動麻痺・難病・内部
障害への理解・支援方法 ※（担当(中野)）
グループワーク(3)－(2)発表
- 第27回：各障害・疾患まとめ（1）（国家試験対策） ※（担当(中野)）
- 第28回：各障害・支援方法等まとめ（2）（国家試験対
策） ※（担当(中野)）
- 第29回：各障害・他職種連携・家族への支援等まとめ
（3）（国家試験対策） ※（担当(中野)）
- 第30回：各障害・各法との関連等まとめ（4）（国家試験
対策） ※（担当(中野)）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの 姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によ って評価する。
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		受講態度，課題提出，定期試験およびグループでの課題への取り組み方・発表，リアク ションペーパーを参考に総合的に評価する。

【受講の心得】

本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。
テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。

- ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。
- ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・他教科と連動して学習すること。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開します。

介護福祉士養成課程としてまとめの学習となります。自ら考え問題点を抽出しそれに応じた支援方法の展開まで実
施していきます。

講義を聴講するだけでなく科学的に思考する力を養うためには何事にも積極的に臨むこと。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	障害者別生活支援技術 4	谷口敏代	メヂカル フレンド 社	3100円 +税	978-4- 8392- 3155-2
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 『障害形態別生活支援技術』			
参考書	自由記載				

授業科目名	生活支援技術E	サブタイトル		授業番号	KC210
担当教員名	名定 慎也				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】</p> <p>「生活支援技術」では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることが重要である。生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことをねらいとし、できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを学ぶ。</p> <p>介護実践は、利用者個人の尊厳を保持しながら、利用者が主体的に生活できるよう支援することであり、気持ちの上で独りにしない、存在を認めてくれる人がいる、直接何かをしてくれる人がいるなど、喜びを感じてもらえる環境づくりをすることが大切である。利用者が生活の中で求めている幸せとは何かを的確に捉える力と、個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援について学ぶ。</p>					
<p>【到達目標】</p> <p>(1)睡眠の重要性とリズム、利用者の特徴を理解することができる。</p> <p>(2)個別に応じたベッドメイキングができる</p> <p>(3)身支度について意義と目的を説明でき、整容の支援ができる。</p> <p>(4)利用者の状態・状況に応じた着脱支援ができる。</p> <p>(5)排泄の意義、メカニズムなどについて理解し、観察の視点を身につける。</p> <p>(6)入浴の意義と目的を理解し、清潔保持の重要性を説明できる。</p> <p>(7)必要な福祉用具、福祉機器を活用し、利用者の状態や状況に応じた入浴の支援ができる。</p> <p>(8)必要な福祉用具を選択・活用し、障害に応じた排泄支援ができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

- 第1回：生活支援技術を学ぶにあたって
- 第2回：生活支援技術とは
基本となる生活援助技術
- 第3回：環境を整える生活支援技術
- 第4回：睡眠の意義と目的
- 第5回：安眠の介助の基本的理解
- 第6回：ベッドメイキング(1)
- 第7回：ベッドメイキング(2)
- 第8回：一人で行うベッドメイキング
- 第9回：身じたくの介護(1)
- 第10回：身じたくの介護(2)
- 第11回：衣服の着脱介助（自立支援）
- 第12回：衣服の着脱介助（一部介助）
- 第13回：衣服の着脱介助（全介助）
- 第14回：浴衣の着脱介助
- 第15回：排泄の意義と目的
- 第16回：排泄における生活支援技術(1)（トイレでの排泄）
- 第17回：排泄における生活支援技術(2)（ポータブルトイレでの排泄）
- 第18回：排泄における生活支援技術(3)（陰部洗浄）
- 第19回：排泄における生活支援技術(4)（おむつ交換）
- 第20回：排泄における生活支援技術(4)（尿器・差し込み便器を使用した介助）
- 第21回：入浴・清潔保持における生活支援技術(1)（一般浴槽での介助）
- 第22回：入浴・清潔保持における生活支援技術(2)（一般浴槽での介助）
- 第23回：入浴・清潔保持における生活支援技術(3)（特殊浴槽での介助）
- 第24回：入浴・清潔保持における生活支援技術(4)（特殊浴槽での介助）
- 第25回：入浴・清潔保持における生活支援技術(5)（ベッド上での清拭・洗髪介助）
- 第26回：入浴・清潔保持における生活支援技術(6)（ベッド上での清拭・洗髪介助）
- 第27回：入浴・清潔保持における生活支援技術(7)（ベッド上での清拭・洗髪介助）
- 第28回：実技試験
- 第29回：生活支援技術の理論まとめ（睡眠・身じたく・排泄・入浴）
- 第30回：生活支援技術の実技まとめ（睡眠・身じたく・排泄・入浴）

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
	レポート	10%	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。
	小テスト	20%	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験）
	定期試験	60%	授業の内容が理解できているか評価する
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- ・本科目は主に演習形式で行い、各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び、実習室での実習で技術を習得していきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。
- ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち、緊張感を持って取り組んでください。
- ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し、利用者の尊厳の保持し、自立支援ができるようにしましょう。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
 2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
 3. 実技は「1回見た、1回した」だけでは身につけません。実習で実際に利用者支援をする際、不安のないようにしっかり練習してください。
 4. 実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく、根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかりと守ってください。
- 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。
本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	生活支援技術I 5	川井太加子	メヂカル フレンド 社	2900円+ 税	978-4- 8392- 3153-8
	生活支援技術II 6	川井太加子	メヂカル フレンド 社	2600円+ 税	978-4- 8392- 3154-5
参考書	自由記載 介護福祉士養成テキスト				
	自由記載				
<p>【その他】 実習日は実習服，室内シューズを持参してください。 頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。</p>					

授業科目名	生活支援技術F		サブタイトル		授業番号	KC211
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】</p> <p>利用者及び家族の尊厳や生活リズムといったあたりまえの生活を送ることができる、ノーマライゼーションの実現に向けての生活マネジメントを行い、対象となる生活者のQOLの向上に向けた支援を学習する。また、地域生活を営むうえでの制度を理解し、多職種との連携・協働などについても学習していく。</p> <p>介護福祉士が高齢者や障害者、家族への支援をするためには、個々人の尊厳に根ざした「その人らしい生活」を理解しておく必要がある。しかし、学生がもっている生活観や生活背景と高齢者・障害者の生活観は大きく異なる。したがって、介護実習を踏まえた上で、日常生活を営む上で無意識的に行う「起きる」、「移動する」、「食事をとる」、「身支度をする」、「入浴する」、「排泄する」といった一連の活動をみながら、その人らしい「生活環境」を学習する。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>(1)生活を支える生活経営を理解する。 (2)地域生活を営むうえで必要な法律・制度を理解し、個別の対応ができる能力を養う。 (3)地域で生活する障害者・高齢者の特性を理解し、その人らしい生活を支える技術を養う。 (4)ユニバーサルデザインやバリアフリーについて理解を深め、自分たちで住み良い環境整備の工夫ができる (5)福祉用具について理解を深め、対象者の自立支援や介護者の安全・安楽につながる福祉用具を選択し活用できる (6)終末期介護に携わる者としての基本的姿勢を理解し、利用者・家族に対し個別の対応ができる能力を養う。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>の修得に貢献する。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：生活を支える生活経営への配慮(1)（家計管理） 第2回：生活を支える生活経営への配慮(2)（消費者保護） 第3回：住み慣れた地域で生活するための当事者・家族の視点 第4回：高齢者向け住宅系サービス・障害者向け住宅系サービス 第5回：在宅生活支援の実際 第6回：生活支援支援技術と福祉用具の活用 第7回：対象者に応じた環境整備(1)（自分たちでできる住宅環境整備・住宅改修） 第8回：対象者に応じた環境整備(2)（自分たちでできる住宅環境整備・住宅改修） 第9回：ユニバーサルデザイン・バリアフリーについて 第10回：福祉用具・自助具の作成(1) 第11回：福祉用具・自助具の作成(2) 第12回：福祉用具・自助具のプレゼンテーション 第13回：終末期ケアと終末期の介護（1） 第14回：終末期ケアと終末期の介護（2） 第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができていないか評価する。			
	小テスト					
定期試験		60%	授業内容が理解できているか評価する。			

その他

自由記載

【受講の心得】

- ・本科目は、グループ討議や生活支援技術、福祉用具の作成など演習形式で進めていきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・住み良い環境の工夫や福祉用具の作成及び活用等実践的な授業を行うので、日頃から「あたりまえの生活環境とは」について考えておいてください。
- ・介護福祉士は利用者の終末期に携わる専門職であることを自覚し、利用者の尊厳を常に意識できるようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
5. 福祉用具の作成・住環境整備の工夫等授業内だけでは終わらないものについて、積極的に自己学習を進めましょう。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	生活支援技術II 6	川井太加子	メヂカルフレンド社	2600円+税	978-4-8392-3154-5
	生活支援技術I 5	川井太加子	メヂカルフレンド社	2900円+税	978-4-8392-3153-8
	自由記載 介護福祉士養成テキスト				

参考書

自由記載

授業科目名	介護過程A		サブタイトル		授業番号	KC212
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本講義では、介護福祉における介護過程の意義と目的を理解し、基本となる考え方を学習する。他の教科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開、介護計画を立案したうえで適切なサービスの提供ができる能力を養う。</p> <p>介護過程の意義を理解し、介護現場で展開できる力を身につける。</p>						
【到達目標】						
<p>介護過程の意義を理解し、介護実践に結びつけることができる。</p> <p>介護課程の実践に必要な知識を修得し、対象者の情報集・分析を行いニーズに沿った介護過程の計画を立案することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：介護過程とはなにか（目的・人を理解する）</p> <p>第2回：介護過程の構成要素・意義</p> <p>第3回：介護過程におけるニーズ(1)（介護福祉士の役割）</p> <p>第4回：介護過程におけるニーズ(2)（生活上のニーズ・ニーズをめぐる理論）</p> <p>第5回：介護過程におけるニーズ(4)（ニーズをとらえる7つの視点）</p> <p>第6回：介護過程におけるニーズ(5)（介護過程とICFとの関係）</p> <p>第7回：介護過程のアセスメント（1）（アセスメント・情報収集(1)）</p> <p>第8回：介護過程のアセスメント（2）（アセスメント・情報収集(2)）</p> <p>第9回：介護過程のアセスメント(3)（ニーズの明確化・優先順位の検討(1)）</p> <p>第10回：介護過程のアセスメント(4)（ニーズの明確化・優先順位の検討(2)）</p> <p>第11回：事例を用いた介護過程の展開(1)-1（情報収集・アセスメント・実施計画）グループワーク</p> <p>第12回：事例を用いた介護過程の展開(1)-2（発表）グループワーク</p> <p>第13回：事例を用いた介護過程の展開(2)-1（情報収集・アセスメント・実施計画）グループワーク</p> <p>第14回：事例を用いた介護過程の展開(2)-2（発表）グループワーク</p> <p>第15回：まとめ（国家試験対策）・総合学習</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。					

【受講の心得】

本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。

テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。

- ・ 予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・ 他教科との連動して考える力、専門的知識と技術が応用力が求められます。
- ・ 自ら考える姿勢で講義に臨んでください。
- ・ 国家試験対策も含めて講義を展開します。

実習を含めて、必ず必要となる知識ですので、しっかり習得していきましょう。

難解な言葉が多くありますが、わからないことは調べるなどして学修を進めていくことが必要です。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を4H/週以上学修すること。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護過程 7	石野育子	メヂカル フレンド 社	3000円 +税	978-4- 8392- 3194-1
参考書	自由記載	介護福祉士養成講座 介護過程			

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	介護過程B	サブタイトル		授業番号	KC213
担当教員名	名定 慎也				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
<p>【授業の概要】 他の教科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案して適切なサービスの提供ができる能力を養う。 介護過程の実践的展開の準備として、介護現場を想定した事例や介護実践の場での事例をもとに展開する。</p>					
<p>【到達目標】 各事例に対するアセスメント・生活課題の抽出・介護計画の立案を行い、介護過程の展開について発表ができる。 介護に必要なケアマネジメント力や介護サービスについて学び、介護計画に沿ってロールプレイ・評価することができる。 多職種連携の重要性・協働について理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>					
<p>【授業計画】</p>					

第1回：オリエンテーション（介護過程Bのスケジュール，介護過程A・Cとの関連）
第2回：介護保険施設での介護過程の展開方法（実習に向けて）
第3回：事例の紹介・アセスメント
第4回：情報収集の方法
第5回：情報収集の実際(1)（フェイスシートの記入）
第6回：情報収集の実際(2)（情報収集シート(1)～(2)の記入）
第7回：情報収集の実際(3)（情報収集シート(3)～(4)の記入）
第8回：情報収集の実際(4)（情報収集シート(5)～(6)の記入）
第9回：情報収集の実際(5)（情報収集シート(7)～(8)の記入）
第10回：アセスメント・生活課題の明確化
第11回：アセスメント(1)（アセスメントシート(1)の記入）
第12回：アセスメント(2)（アセスメントシート(1)の記入）
第13回：アセスメント(3)（アセスメントシート(2)の記入）
第14回：アセスメント(4)（アセスメントシート(2)の記入）
第15回：アセスメント(5)（アセスメントシート(3)の記入）
第16回：アセスメント(6)（アセスメントシート(3)の記入）
第17回：アセスメント(7)（アセスメントシート(4)の記入）
第18回：アセスメント(8)（アセスメントシート(4)の記入）
第19回：アセスメント(9)（アセスメントシート(5)の記入）
第20回：アセスメント(10)（アセスメントシート(5)の記入）
第21回：アセスメント(11)（アセスメントシート(6)の記入）
第22回：アセスメント(12)（アセスメントシート(6)の記入）
第23回：アセスメント(13)（アセスメントシート(7)の記入）
第24回：アセスメント(14)（アセスメントシート(7)の記入）
第25回：全体像の把握(1)（全体像のアセスメントシート(1)の記入）
第26回：全体像の把握(2)（全体像のアセスメントシート(1)の記入）
第27回：全体像の把握(3)（日常生活の様子を記入）
第28回：全体像の把握(4)（シークエンスの記入）
第29回：生活課題の明確化(1)
第30回：生活課題の明確化(2)
第31回：生活課題の明確化(3)
第32回：生活課題の明確化(4)
第33回：課題の整理・優先順位の決定(1)
第34回：課題の整理・優先順位の決定(2)
第35回：介護計画の立案(1)（目標の設定）
第36回：介護計画の立案(2)（具体的援助内容の記入(1)）
第37回：介護計画の立案(3)（具体的援助内容の記入(2)）
第38回：介護計画の立案(4)（具体的援助内容の記入(3)）
第39回：介護計画の立案(5)（具体的援助内容の記入(4)）
第40回：プロセスレコード
第41回：発表・ロールプレイの準備(1)
第42回：発表・ロールプレイの準備(2)
第43回：発表・ロールプレイ(1)
第44回：発表・ロールプレイ(2)
第45回：介護計画の評価・まとめ

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・グループワークの参加状況，予・復習状況を評価する。
	レポート	30%	介護過程の展開で作成した資料を評価する
	小テスト		
	定期試験		
	その他	40%	利用者に応じた介護計画の立案・実践をロールプレイ・発表で評価する
	自由記載		

【受講の心得】

本科目は実習形式をとり，グループワークで進めていきます。

実習IIではひとりで介護過程を展開していくので，この集中講座のグループワークでしっかり記入方法，介護過程の展開技法を習得してください。

テキストの事例を基に介護過程を展開していくため，スケジュールを確認し遅れているグループは適宜時間外学習をし，期限を守るようにしてください。

積極的に発言し，グループワークを円滑にしてください。

疑問点は必ず質問し，解決して進めてください。

他教科で学んだことを統合し，専門的知識と技術の応用力を求めています。

自分のグループ内の役割を意識しチームビルディングを図ってください。

【授業外学修】

1. 予習として，教科書をしっかり読んで，利用者に応じた介護計画の立案に努めてください。

2. 復習として，介護過程の資料を見直し，根拠を考え，的確な資料作りをしてください。

3. この講義は，事例に応じた介護過程の展開を考え，介護計画書を作成します。精度の高い資料の作成は授業時間だけでは完成しません。しっかり授業外学習を行ってください。

4. 介護計画書は思いだけで作るのではなく，エビデンスが必要です。他の教科の教科書や参考書から，事実に基づいた記述を心がけてください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で120時間とする。約3週間の集中講座になるためスケジュールを確認しながら進めてください。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護過程 7	石野育子	メチカル フレンド 社	3000円+ 税	978-4- 8392- 3194-1

自由記載 介護福祉士養成テキスト

参考書

自由記載

授業科目名	介護過程C		サブタイトル		授業番号	KC214
担当教員名	名定 慎也 中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>介護過程を展開し、介護計画を立案して適切なサービスを提供するためには、ケアマネジメント過程の中で、さまざまな職種によるチームアプローチが必要なことを学ぶ。</p> <p>多職種間で共有できる事例を紹介できるために、自分の担当した事例を研究し発表できる能力を養う。</p> <p>介護実習IIで担当した利用者への介護過程を展開した事例を研究的にまとめ発表するまでのプロセスを指導する。基本的には講義形式だが、個別指導を含む。</p>						
【到達目標】						
<p>介護実習IIで担当した利用者のケアを介護過程の展開の中で検討し、事例研究論文として、誌上発表をすることができる。</p> <p>介護に必要なケアマネジメントや介護サービス、介護計画の実践で学んだことを、記録することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：介護過程の展開・・・実践的理解と理論化へ向けて</p> <p>第2回：介護過程の実際・・・事例研究の進め方について</p> <p>第3回：介護過程の実際・・・論文査読～過去の論文集から自分の研究テーマを探る</p> <p>第4回：介護過程の実際・・・文献検索～先行研究から自分の研究テーマを探る</p> <p>第5回：介護過程の実際・・・介護実習における研究テーマの決定（仮）</p> <p>第6回：介護過程の実際・・・研究テーマの決定 文献検索</p> <p>第7回：介護過程の実際・・・介護実習における介護過程の整理</p> <p>第8回：介護過程の実際・・・介護実習における介護過程の整理</p> <p>第9回：介護過程の実際・・・介護実習における介護過程の整理</p> <p>第10回：介護過程の実際・・・論文作成(1)</p> <p>第11回：介護過程の実際・・・論文作成(2)</p> <p>第12回：介護過程の実際・・・論文作成(3)</p> <p>第13回：介護過程の実際・・・論文作成(4)</p> <p>第14回：論文集の編集</p> <p>第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的に研究に取り組めたか、提出状況、指導教員との質疑応答等を評価する			
	レポート	30%	エビデンスを基に研究で明らかになったことを事例研究論文で述べているか評価する			
	小テスト					
	定期試験	50%	介護過程の展開、ICFと介護計画の関連について理解の程度を評価する			
	その他					
	自由記載					

【受講の心得】

専攻科介護福祉専攻という課程は、1年間で介護福祉士という専門職に求められる様々な能力を身につけなければなりません。

1年間で学ぶ、専門的知識・技術を用いて介護過程に沿った実践を行い、評価することで、自己を振り返り、新たな課題を発見することになります。

したがって、事例研究論文の作成は特に重要で、1年間の集大成になると言えるものです。

常に問題意識を持って、探究する楽しさを感じ意欲的に取り組んでください。

【授業外学修】

1. この科目は事例研究論文の完成が目標です。

2. 自分が取り組む研究に関連する先行研究及び参考文献をたくさん読んでください。

3. 授業内にも論文の作成時間、担当教員の指導時間を設けますが、時間内では不十分です。担当教員としっかり打ち合わせをし学習時間、論文作成時間をしっかり確保してください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で120時間とする。週8時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護総合演習 8	能田茂代	メヂカル フレンド 社	3100円+ 税	978-4- 8392- 3195-8
	介護過程 7	石野育子	メヂカル フレンド 社	3000円+ 税	978-4- 8392
	自由記載 介護福祉養成テキスト				
参考書	自由記載	専攻科修了研究 その他授業の中で参考図書を紹介します			

授業科目名	介護総合演習I	サブタイトル		授業番号	KC215
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 中野 ひとみ				
対象学部・学科		単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 介護実習がスムーズに展開できるようにオリエンテーションを行い、各実習の目的が達成できるようにする。 事前学習と事後のまとめを効果的に行うことによって、学習を深化させる。 介護実習前の生活支援技術の確認や施設等の事前打ち合わせから実習後の報告会まで、実習に必要な知識や技術、 介護過程の展開能力等、習得のための総合的な学習とする。 介護総合演習については、介護実習I Part 1・Part 2 と組み合わせての学習とする。</p>					
<p>【到達目標】 標記の介護実習目標が達成できるように、実習の進め方について理解し、介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につける。 また、実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設・事業所の特徴や機能・役割が理解できる。 2) 高齢者や障害のある人の様々な生活の場において、個別ケアの必要性を理解し、生活支援の方法が理解できる。 3) 良い介護関係が築けるように、利用者・家族とのコミュニケーションのあり方が理解できる。 4) 多職種協働や関係機関との連携を通じ、チームアプローチの方法を学び、チームの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。 5) 尊厳を支える専門職としての価値・倫理観を養う。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					

第1回：介護福祉士に求められるもの 「介護総合演習」「介護実習」のねらいと展開	※（担当名定）
第2回：介護実習の枠組みと全体像 介護実習の展開過程と課題	※（担当名定）
第3回：実習の準備と基礎知識 実習施設等の理解 介護実習I Part 1 に向けて	※（担当名定）
第4回：介護実習I Part 1 のまとめ	※（担当松井，中野，名定）
第5回：実習計画と実習記録の書き方 介護実習I Part 2 に向けて	※（担当名定）
第6回：在宅系サービスの理解	※（担当名定）
第7回：実習に活かす生活支援技術・・・コミュニケーションの実際	※（担当名定）
第8回：実習に活かす生活支援技術・・・福祉レクリエーションの実際	※（担当名定）
第9回：実習に活かす生活支援技術・・・介護倫理が問われる場面，実習で困った時の対処方法	※（担当名定）
第10回：介護過程の展開について	※（担当名定）
第11回：実習における指導と相談の場（スーパービジョンについて）	※（担当名定）
第12回：自己課題の達成と課題(1) －KJ法によるディスカッション－	※（担当名定）
第13回：自己課題の達成と課題(2) －KJ法によるディスカッション－	※（担当名定）
第14回：実習のまとめと評価 －実習体験を客観的・科学的に学習する－	※（担当松井，中野，名定）
第15回：まとめ	※（担当名定）

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
	レポート	30%	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。
	小テスト		
	定期試験	50%	学内学習と介護現場での学びを統合し，介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。
	その他 自由記載		

【受講の心得】

- ・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・実習をスムーズに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。

【授業外学修】

1. 実習をスムーズに展開できるように必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。
2. 自分が行く実習先の情報を、資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。
3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
5. 実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で30時間とする。週2時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護総合演習 8	能田茂代	メヂカル フレンド 社	3100円+ 税	978-4- 8392- 3195-8
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き			

参考書

自由記載

授業科目名	介護総合演習II		サブタイトル		授業番号	KC302
担当教員名	名定 慎也 中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
<p>【授業の概要】</p> <p>介護実習がスムーズに展開できるようにオリエンテーションを行い、各実習の目的が達成できるようにする。事前学習と事後のまとめを効果的に行うことによって、学習を深化させる。介護実習前の生活支援技術の確認や施設等の事前打ち合わせから実習後の報告会まで、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について、総合的な学習とする。介護総合演習については、介護実習I Part 3・介護実習IIと組み合わせての学習とする。</p>						
<p>【到達目標】</p> <p>標記の介護実習目標が達成できるように、実習の進め方について理解し、介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につける。</p> <p>また、介護過程の展開（アセスメント、介護計画の立案・評価）など記録の書き方を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設・事業所の特徴や機能・役割が理解できる。 2) 高齢者や障害のある人の様々な生活の場において、個別ケアの必要性を理解し、生活支援の方法が理解できる。 3) 良い介護関係が築けるように、利用者・家族とのコミュニケーションのあり方が理解できる。 4) 利用者の介護過程の展開、及び、具体的な介護サービスの提供の基本となる方法が理解できる。 5) 多職種協働や関係機関との連携を通じ、チームアプローチの方法を学び、チームの一員としての介護福祉士の役割が理解できる。 6) 尊厳を支える専門職としての価値・倫理観を養う。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：「介護総合演習II」の具体的展開について ※（担当名定）</p> <p>第2回：目的意識の明確化 ※（担当名定）</p> <p>第3回：接遇 在宅 介護実習I Part 3の準備 ※（担当名定）</p> <p>第4回：専門職としての自覚の確認 ※（担当名定）</p> <p>第5回：就職へ向けての方向付け ※（担当名定）</p> <p>第6回：介護実習I part3のまとめ ※（担当中野，名定）</p> <p>第7回：介護実習IIの具体的展開 ※（担当名定）</p> <p>第8回：介護実習IIへの準備 ※（担当名定）</p> <p>第9回：介護過程の展開へ向けての準備 ※（担当名定）</p> <p>第10回：介護過程の展開スケジュール ※（担当名定）</p> <p>第11回：介護計画の目標設定と具体的援助計画について ※（担当名定）</p> <p>第12回：多職種協働とチームアプローチ ※（担当名定）</p> <p>第13回：事例研究・・・自己の介護観の確立へむけて ※（担当名定）</p> <p>第14回：介護に関する知識の確認 ※（担当名定）</p> <p>第15回：まとめ ※（担当名定）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予習・復習を評価する。			
	レポート	30%	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題、実習のまとめ等提出物と発表を評価する。			

小テスト

定期試験

50%

学内学習と介護現場での学びを統合し、介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。

その他

自由記載

【受講の心得】

- ・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・実習をスムーズに進めるための、専門的知識と技術の定着を図れるように、意欲的に取り組んでください。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および、実習に臨める姿勢作りを心がけてください。

【授業外学修】

1. 実習をスムーズに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。
2. 自分が行く実習先の情報を、資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。
3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
5. 実習で活用できるレクリエーションや回想法など準備して置いてください。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で30時間とする。週2時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護総合演習 8	能田茂代	メヂカル フレンド 社	3100円+ 税	978-4- 8392- 3195-8

自由記載 介護福祉士養成テキスト 介護実習の手引き

参考書

自由記載

授業科目名	介護実習I	サブタイトル		授業番号	KC216
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 中野 ひとみ				
対象学部・学科		単位数	3単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
<p>【授業の概要】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、在宅を中心に様々な生活の場における個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践や生活支援技術を確認する。また、障害者総合支援法や介護保険制度の理解につなげ、多職種協働や関係機関との連携を通じて介護福祉士の役割について学習する。 介護実習IはPart 1・2・3の3回に分けて行う。</p>					
<p>【到達目標】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、在宅を中心に様々な生活の場における個別ケアを理解し、利用者・利用者家族とのコミュニケーションの実践や生活支援技術を確認する。また、障害者総合支援法や介護保険制度の理解につなげ、多職種協働や関係機関との連携を通じて介護福祉士の役割について理解する。 介護実習I Part 1, Part 2, Part 3 の各々の課題を達成することができる。</p>					
<p>【Part 1】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育士養成課程での学習と関連させながら、法制度（障害者総合支援法）を理解することができる。 (2) 障害のある成人から老年移行期の利用者の生活を理解することができる。 (3) 多様なニーズを見出し、個性のある利用者の生活像・障害像を理解することができる。 (4) 障害の特性に応じたコミュニケーション方法を知ることができる。 					
<p>【Part 2】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 在宅を基盤とした比較的自立度の高い高齢者の生活を理解することが出来る。 (2) 生活支援における介護サービスの必要性を学び、介護保険制度や基本的な生活支援技術を理解することができる。 (3) 利用者とのコミュニケーションを図ることができる。 (4) 利用者の個性を尊重した自立支援の方法を理解することができる。 (5) 福祉用具や福祉機器の活用方法を身に付ける。 (6) 介護職の業務の流れを理解し、介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 					
<p>【Part 3】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 在宅における利用者・家族の日常生活を理解することができる。 (2) 利用者・家族との円滑なコミュニケーションのとり方の基本を身につける。 (3) 法制度に踏まえたケアマネジメントにおける介護サービスの実際を体験的に理解することができる。 (4) 在宅を支えるチームケアの一員として行動し、多職種の役割を理解する。 (5) 利用者ができるだけなじみのある環境で日常生活を送れるよう介護過程を展開し、個別ケアの実践を学ぶことができる。 (6) 根拠に基づいた介護実践を、的確に記録・記述することができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>【Part 1】・・・障害者支援施設（このしま荘） 4月第3週に半日（5時間）、上記施設を見学実習する。</p>					
<p>【Part 2】・・・通所介護施設・通所リハビリテーション・グループホーム・小規模多機能施設 6月第3～4週に10日間（80時間）、上記施設において見学・一部参加実習をする。</p>					
<p>【Part 3】・・・訪問介護事業所 10月の第1週に3日間（24時間）、上記施設で在宅を中心としたケアマネジメントにおける介護サービスを体験実習する。（Part 2での学習をさらに深化させる）</p>					

種別	割合	評価規準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20%	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	30%	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。
評価の方法		
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者 25・教員 25）%	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。
自由記載		

【受講の心得】

実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。

- (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。
- (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。
- (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。
- (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。
- (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。
- (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。

【授業外学修】

1. 介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかりと読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。
2. 毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学習し準備してください。
3. レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。
4. 実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学習等自己管理を怠らないようにしてください。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護総合演習 8	能田茂代	メチカル フレンド 社	3100円+ 税	978-4- 8392- 3195-8
自由記載	介護福祉士養成テキスト 介護実習の手引き				
参考書	自由記載				

【その他】

実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。

授業科目名	介護実習Ⅱ		サブタイトル		授業番号	KC303
担当教員名	名定 慎也 中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	5単位			
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	実習		
【授業の概要】 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、対象者の課題を明確にする。そして、介護計画の作成、実施後の評価まで行い、介護過程を展開する。 他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。						
【到達目標】 「介護実習Ⅰ」・「介護過程」での学習をもとに、施設で生活する担当利用者の介護を実践することができる。 (1) 施設で生活する利用者の個別ニーズを介護過程で的確に捉えることができる。 (2) 根拠に基づいたアセスメントができ、個別ケアの必要性を理解することができる。 (3) 利用者の潜在能力を引き出し、活動・発揮させることで自立支援を促すことができる。 (4) 利用者本位の介護サービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチを理解することができる。 (5) 介護実践の評価を適切に行い、利用者の尊厳を追求できる。 (6) 人権擁護・職業倫理を身に付け、自らの介護観を確立することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉、〈思考・問題解決能力〉、〈技能〉、〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
実習施設・・・介護老人福祉施設・介護老人保健施設 11月の第2週～第5週にかけて19日間（152時間）担当利用者を受け持ち、介護過程を用いた介護を展開する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	実習への意欲、積極性、誠実性、立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。			
	レポート	30%	実習記録が丁寧に記述し、根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。特に介護過程の展開内容の記録に重点を置いて評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50（実習担当者25・教員25）%	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。			
自由記載						

【受講の心得】

実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限）の遵守を念頭において実習に望んでください。

- (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い、施設長をはじめ職員の指導を受け、施設の方針を妨げないようにすること。
- (2) 疑問に感じたこと、不明なことは必ず質問し、現状を理解した上で判断・行動すること。
- (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから、常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。
- (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。
- (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。
- (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。

【授業外学修】

1. 介護保険施設での実習となるため、実習に必要なテキストをしっかりと読んで、介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。
2. 毎日、実習記録を帰宅後に作成し、1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学習し準備してください。
3. 介護過程の展開内容（記録物）は非常に枚数も多いので、毎日、情報を整理し、計画的に作成してください。
4. レクリエーションや回想法など積極的に活用し、信頼関係の構築、利用者理解が深められるように準備をしてください。
5. 実習期間は時間を計画的に使い、体力の回復・健康、学習等自己管理を怠らないようにしてください。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	介護総合演習 8	能田茂代	メヂカルフレンド社	3100円+税	978-4-8392-3195-8
	自由記載	介護福祉士養成テキスト			
	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
参考書	介護過程 7	石野育子	メヂカルフレンド社	3000円+税	978-4-8392-3194-1
	自由記載				

授業科目名	発達と老化の理解		サブタイトル		授業番号	KD201
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本講義では、保育士養成課程で学んだ内容を基礎として人間の発達課題を理解する。老年期における心理的変化や身体機能の変化の特徴を理解する。発達の見点から老化を理解し、老化に関する心身機能の変化と特徴および代表的な疾患に関する基礎的知識を習得する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴うこころとからだの変化と日常生活及び高齢者の健康、医療との連携について理解する。 ・人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち、説明できる。 ・老年期の発達課題や心理を理解し、対象者に応じた介護実践の場で応用できる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：人間の成長と発達・ライフサイクル 第2回：発達理論・形態的成長 第3回：老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活 第4回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点 第5回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(1)-(1)生活習慣病 第6回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(1)-(2)生活習慣病 第7回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(2)骨・関節系の病気，歯・口腔の病気 第8回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(3)眼の病気。耳の病気 第9回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(4)皮膚の病気，呼吸器の病気 第10回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(5)腎・泌尿器の病気 第11回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(6)消化器系疾患，循環器系疾患 第12回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(7)神経疾患，感染症 第13回：保健医療チームとの連携(1)保健医療職とのチームケアの必要性 第14回：保健医療チームとの連携(2)保健医療職との連携のポイントについて理解 第15回：保健医療チームとの連携(3)保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。					

【受講の心得】

本講義は講義形式を中心として進めていきます。

テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。

- ・ 予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・ 高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	発達と老化の理解 9	林榮史他	メヂカル フレンド 社	2400円 +税	978-4- 8392- 3196-5
	自由記載 介護福祉士養成テキスト				

参考書

自由記載

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	認知症の理解I		サブタイトル		授業番号	KD202
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
<p>本講義では認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。</p> <p>認知症ケアの歴史から認知症を取り巻く状況を理解し、医学的側面から見た認知症の基礎となる知識を身につける。</p> <p>認知症の人のその治療やケアについて理解を深めるとともに、予防と生活に及ぼす影響について修得する。</p> <p>認知症の人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。</p> <p>また認知症に伴うこころとからだの変化が日常生活に及ぼす影響について事例をもとにロールプレイを行う。</p>						
【到達目標】						
<p>認知症の人の体験，認知症を取り巻く環境，認知症の人の医学，行動，心理，認知症の人の生活について理解する。</p> <p>認知症をもつ人と家族の体験を学ぶことにより，自分で考え支援する方法論を見出すことができる。</p> <p>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：認知症とはなにか，認知症の人の介護，認知症ケアの理念と視点</p> <p>第2回：認知症の支援である本人本位の視点とはどのようなものか</p> <p>第3回：認知症ケアの歴史，認知症の人の体験とはどのようなものか</p> <p>第4回：認知症の原因となる脳のしくみ・病変（脳のしくみ）</p> <p>第5回：認知症と老化の関係（認知症と他の状態との鑑別，うつやせん妄）</p> <p>第6回：認知症の症状（中核症状・周辺症状）</p> <p>第7回：認知症の主な原因疾患(1)（アルツハイマー型認知症）</p> <p>第8回：認知症の主な原因疾患(2)（脳血管性認知症）</p> <p>第9回：認知症の主な原因疾患(3)（レビー小体型・前頭側頭型認知症）</p> <p>第10回：認知症の主な原因疾患(4)（その他の認知症）</p> <p>第11回：認知症の治療方法・予防</p> <p>第12回：認知症の人の行動・心理症状 グループワーク(1)-(1)</p> <p>第13回：認知症の人の家族を支えるとは（家族の心理的支援と介護力）グループワーク発表(1)-(2)</p> <p>第14回：認知機能の変化が生活に及ぼす影響 グループワーク(2)-(1)</p> <p>第15回：認知症の人の環境の理解，生活を続けるとは・まとめ グループワーク発表(2)-(2)</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。					

【受講の心得】

本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。
テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。
・ 予習と授業中の積極的な発言を求めます。
・ 認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読むこと。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	認知症の理解と介護 10	中村裕子	メヂカル フレンド 社	2100円 +税	978-4- 8392- 3197-2

自由記載 介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材 認知症研修テキスト

参考書

自由記載

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	認知症の理解II		サブタイトル		授業番号	KD301
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】 本講義では認知症に関する基礎的知識をもとに、認知症ケアを具体的に学ぶ。 認知症の方への支援だけでなく家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 介護実習IIでの実践と関連づけながら、基本的な考え方を身につける。 ケアマネジメントの視点で介護が展開できるように、具体的な事例に対して、認知症の家族への支援や権利を守るための取り組みについて考察する。						
【到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症のケアの歴史、現状や課題を具体的に述べることができる。 ・ 認知症の人の症状に応じた対応や介護実践での方法論を考えることができる。 ・ 認知症の人の家族への支援および地域へのサポート体制を説明出来る。 ・ 介護過程の展開が出来る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：認知症の人に対する介護過程の展開の基本(1) (情報収集・分析・課題の抽出) 第2回：認知症の人に対する介護過程の展開の基本(2) (目標設定・実践内容) 第3回：認知症の人の生活支援技術と実践のポイント 第4回：認知症の人の生活の場と介護(1) 第5回：認知症の人の生活の場と介護(2) 第6回：連携と協働（地域におけるサポート体制・チームアプローチ） 第7回：家族への支援(1)（家族が認知症を受容する過程） 第8回：家族への支援(2)（家族の介護力評価・レスパイトケア） 第9回：対人援助職としての自己理解・自己覚知・他者理解(1)（外部講師） 第10回：対人援助職としての自己理解・自己覚知・他者理解(2)（外部講師） 第11回：認知症の人の生活支援技術 事例(1)グループワーク 第12回：認知症の人の生活支援技術 事例(2)グループワーク 第13回：認知症の人の生活支援技術 事例(3)グループワーク 第14回：認知症の人の生活支援技術 事例(4)グループワーク 第15回：認知症ケアのまとめ 総合学習						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。					

【受講の心得】

本講義は講義形式をグループ討議で進めていきます。

テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。

- ・ 予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・ 認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。
- ・ 認知症の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

以上の内容を4H/週以上学修すること。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	認知症の理解と介護 10	中村裕子	メヂカル フレンド 社	2100円 +税	978-4- 8392- 3197-2

自由記載 介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材 認知症研修テキスト

参考書

自由記載

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	障害の理解		サブタイトル		授業番号	KD203
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<p>【授業の概要】 本講義では、保育士養成課程で学んだ（障害児保育・施設実習等）を踏まえて、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 障害のある人だけではなく、その家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 障害の基礎的理解、障害と医学的側面の基礎的知識を身につける。 リハビリテーションの概念を理解し、様々な場面におけるリハビリテーションの必要性が理解できる。</p>						
<p>【到達目標】 ・ 障害者支援の基礎的な知識・技術について理解し、各障害に合わせた介護の留意点ができる ・ 障害者福祉の理念について理解し、介護の基本的視点について説明することができる。 ・ 障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明出来る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
第1回：障害の基本的理解(1)（概要・基本的な考え方・自己概念） 第2回：障害の基本的理解(2)（ICFの理解） 第3回：障害者福祉の基本的理念(1)（ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン） 第4回：障害者福祉の基本的理念(2)（様々な障壁） 第5回：障害者の権利条約（制度の概要・関連制度） 第6回：障害のある人の基本的視点(1)（援助の原則・権利擁護） 第7回：障害のある人の基本的視点(2)（医学モデルと社会モデル・エンパワメント） 第8回：障害の理解(1)（肢体不自由） 第9回：障害の理解(2)（内部障害(1)） 第10回：障害の理解(3)（内部障害(2)） 第11回：障害の理解(4)（視覚・聴覚・言語障害） 第12回：障害の理解(5)（発達障害） 第13回：障害の理解(6)（精神障害・高次脳機能障害） 第14回：障害の理解(7)（難病・その他の障害） 第15回：連携と協働・家族への支援・まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート		10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。				

【受講の心得】

本講義は講義形式を中心として進めていきます。

テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。

- ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。
- ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・障害者の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	障害の理解	谷口敏代	メヂカル フレンド 社	3100円 +税	978-4- 8392- 3198-9
	自由記載 介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材				
参考書	自由記載				

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	こころとからだのしくみI		サブタイトル		授業番号	KD204
担当教員名	福田 久也					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、人体の構造や疾患について学ぶ。						
【到達目標】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解し、利用者によく見られる代表的な疾患について理解し、保健医療対策を学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
【授業計画】						
<p>第1回：健康とは何か からだのしくみ、からだの形と臓器、部位の名称</p> <p>第2回：実際に人体の組織病理を見る授業のため、現代医学教育博物館にて課外授業</p> <p>第3回：人体の正常構造と機能 呼吸のしくみ</p> <p>第4回：人体の正常構造と機能 循環のしくみ</p> <p>第5回：呼吸、体温、脈拍、血圧について（バイタルサイン）</p> <p>第6回：生命に直結した病気 呼吸器系 循環器系</p> <p>第7回：食事に関連した病気 消化器系 代謝 内分泌系 糖尿病</p> <p>第8回：生活習慣病 血管の病気</p> <p>第9回：悪性腫瘍の総論、各論 排泄に関連した病気 泌尿器系 腎炎 尿路感染症 前立腺肥大症 前立腺癌 排泄に関連した症状 失禁 排尿困難 腎不全 透析</p> <p>第10回：入浴に関連した病気 高血圧症 生活習慣病</p> <p>第11回：感染症、食中毒 入浴に関連した病気 皮膚疾患 褥瘡</p> <p>第12回：睡眠に関連した病気 精神疾患 認知症 ストレス性疾患 神経疾患</p> <p>第13回：移動に関連した病気 骨折 関節リウマチ パーキンソン病</p> <p>第14回：移動に関連した病気 脳血管障害</p> <p>第15回：死にゆく人に関連した病気 医学の発達 最近の医療（超音波）</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度、発表、への参加、予復習の状況によって評価。			
	レポート	15%	課外授業の理解、復習。			
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載						

【授業外学修】

- 1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。
- 2 復習として、課題のレポートを書く。
- 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。

以上、の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト	自由記載	『最新介護福祉 こころとからだのしくみ』, メヂカルフレンド社 『最新介護福祉 別巻 医学一般』, メヂカルフレンド社
参考書	自由記載	

授業科目名	こころとからだのしくみII		サブタイトル		授業番号	KD302
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科		単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本講義では、介護福祉士として対象者の生活支援の根拠となる人体の構造やこころのしくみについて理解する。介護福祉士として利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容を理解する。介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる基本的事項を理解する。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> 生活支援に必要なからだこころのしくみについて理解する。 機能低下、障害によってもたらされる、こころとからだの変化を述べることが出来る。 こころとからだの機能低下、障害が生活に及ぼす影響について説明できる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：こころとからだの基礎（(1)人間の基本的欲求(2)生命の維持・恒常性・バイタルサイン(3)人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域）</p> <p>第2回：移動に関連したこころとからだのしくみ(1)（移動行為の生理的意味・重心の移動・バランスなど）</p> <p>第3回：移動に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移動に及ぼす影響）</p> <p>第4回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1)（身じたくの行為の生理的意味・爪、毛髪、口腔の清潔など）</p> <p>第5回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移身じたくに及ぼす影響）</p> <p>第6回：食事に関連したこころとからだのしくみ(1)（栄養素・水分量・食べることの生理的意味など）</p> <p>第7回：食事に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が食事に及ぼす影響）</p> <p>第8回：入浴に関連したこころとからだのしくみ(1)（清潔が保てない人の心理・清潔保持）</p> <p>第9回：入浴に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響）</p> <p>第10回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(1)（排泄のメカニズム・排泄障害の種類）</p> <p>第11回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響）</p> <p>第12回：睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1)（睡眠とは何か・睡眠障害）</p> <p>第13回：睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響）</p> <p>第14回：終末期に関連したこころとからだのしくみ(1)（死について・からだの変化）</p> <p>第15回：終末期に関連したこころとからだのしくみ(2)（死に対するこころの理解・家族支援）</p> <p>医療職との連携・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。					

【受講の心得】

本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）を進めていきます。
テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。

- ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。
- ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
- ・自分のこころとからだに関連させながら学んでください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	こころとからだのしくみ 12	小板橋喜久代	メヂカル フレンド 社	3200円 +税	978-4- 8392- 3199-6

自由記載 介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材

参考書

自由記載

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	医療的ケアI	サブタイトル		授業番号	KD201
担当教員名	中野 ひとみ				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<p>【授業の概要】</p> <p>本講義では医療を必要とする人の安全と生活を守るための基礎的知識を修得する。 「人間と社会」, 「保健医療制度とチーム医療」, 「安全な療養生活」, 「清潔保持と感染」, 「健康状態の保持」について学ぶ。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護福祉士としての倫理的配慮ができ, 必要な喀痰吸引, 経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することが出来る。 ・ 介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために, 必要な基本的知識を身につけることが出来る。 ・ 喀痰吸引, 経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援をい行うことが出来る。 <p>なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>【授業計画 備考】</p> <p>本講義は厚生労働省の規定による基本研修によるものであり, 講義時間50時間以上で構成されている。 授業計画 (34回)</p>					

- 第1回：人間と社会（個人の尊厳・医療と介護の倫理・個人情報と守秘義務）
- 第2回：人間と社会（医療的ケアを受ける利用者の対応・介護，看護の立場・生活支援）
- 第3回：保健医療制度とチーム医療医療（保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律）
- 第4回：保健医療制度とチーム医療医療（喀痰吸引と経管栄養についての介護の連携）
- 第5回：安全な療養生活（喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネジメント）
- 第6回：安全な療養生活（ヒヤリハットとアクシデント・救急蘇生）
- 第7回：安全な療養生活（救急蘇生）
- 第8回：清潔保持と感染予防（標準予防策・手洗い・うがい・手指消毒等）
- 第9回：清潔保持と感染予防（職員の感染予防対策・生活環境）
- 第10回：清潔保持と感染予防（医療廃棄物）
- 第11回：健康状態の把握（平常時の健康状態の把握・健康の観察法と平常時の違い）
- 第12回：健康状態の把握（バイタルサインとその見方）
- 第13回：健康状態の把握（バイタルサインとその方法）
- 第14回：健康状態の把握（急変時の把握とその対応・準備）
- 第15回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（(1)呼吸のしくみとはたらき）
- 第16回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（(2)呼吸のしくみとはたらき）
- 第17回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（喀痰吸引とは）
- 第18回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（人工呼吸器と吸引）
- 第19回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（子どもの吸引）
- 第20回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（利用者や家族の気持ち）
- 第21回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（呼吸器系の感染と予防）
- 第22回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（実施手順と留意点）
- 第23回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（喀痰吸引に伴うケア）
- 第24回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（(1)消化器系のしくみとはたらき）
- 第25回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（(2)消化器系のしくみとはたらき）
- 第26回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（経管栄養とは）
- 第27回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（注入する内容についての知識）
- 第28回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（実施するうえでの留意点）
- 第29回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（子どもの経管栄養）
- 第30回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（緊急時の対応）
- 第31回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（実施手順の留意点）
- 第32回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（経管栄養に必要なケア）
- 第33回：喀痰吸引や経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応
- 第34回：急変・事故発生時の対応と報告・記録・まとめ
- 第35回：
- 第36回：
- 第37回：
- 第38回：
- 第39回：
- 第40回：
- 第41回：
- 第42回：
- 第43回：
- 第44回：
- 第45回：

	種別	割合	評価規準・その他備考
評価の方法	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，小テスト・定期試験共に9割以上を合格とする。

【受講の心得】

本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。
また，各单元ごとに小テストを実施します。
テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。
・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。
・予習と授業中の積極的な発言を求めます。

【授業外学修】

1. 予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。
2. 復習として，課題のレポートを書く。
3. 発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	医療的ケア 13	川井太加子	メヂカルフレンド社	2800円 +税	978-4-8392-3140-8
	自由記載	介護福祉士養成テキスト	医療的ケア		

参考書

自由記載

【その他】

その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。

授業科目名	医療的ケアII	サブタイトル		授業番号	KD302
担当教員名	中野ひとみ				
対象学部・学科		単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p>【授業の概要】 本講義は、介護福祉士がその業務として喀痰吸引等の行為を実施するために必要な基礎知識について修得する。喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得し実践できる。</p>					
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として医療的ケアである「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に基づき安全・適切に行うことができる。 ・医療的ケアを実施する手順・留意点を述べる事が出来る。 ・喀痰吸引を安全・適切に実施することが出来る。 ・経管栄養を安全・適切に実施することが出来る。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>【授業計画 備考】 本講義は、厚生労働省が規定する医療的ケアの基本研修であり省令で定める修得すべきすべての行為ごとの回数以上の演習を実施する。</p>					

- 第1回：喀痰吸引の演習の進め方・注意事項などオリエンテーション
- 第2回：喀痰吸引演習(1) (口腔)
- 第3回：喀痰吸引演習(2) (口腔)
- 第4回：喀痰吸引演習(3) (口腔)
- 第5回：喀痰吸引演習(4) (口腔)
- 第6回：喀痰吸引演習(5) (鼻腔)
- 第7回：喀痰吸引演習(6) (鼻腔)
- 第8回：喀痰吸引演習(7) (鼻腔)
- 第9回：喀痰吸引演習(8) (鼻腔)
- 第10回：喀痰吸引演習(9) (気管カニューレ)
- 第11回：喀痰吸引演習(10) (気管カニューレ)
- 第12回：喀痰吸引演習(11) (気管カニューレ)
- 第13回：喀痰吸引演習(12) (気管カニューレ)
- 第14回：喀痰吸引実技確認試験(1) (口腔)
- 第15回：喀痰吸引実技確認試験(2) (鼻腔)
- 第16回：喀痰吸引実技確認試験(3) (気管カニューレ)
- 第17回：経管栄養法の演習の進め方・注意事項などオリエンテーション
- 第18回：経管栄養法演習(1) (胃ろう)
- 第19回：経管栄養法演習(2) (胃ろう)
- 第20回：経管栄養法演習(3) (胃ろう)
- 第21回：経管栄養法演習(4) (胃ろう)
- 第22回：経管栄養法演習(5) (経鼻)
- 第23回：経管栄養法演習(6) (経鼻)
- 第24回：経管栄養法演習(7) (経鼻)
- 第25回：経管栄養法演習(8) (経鼻)
- 第26回：経管栄養法実技試験(1) (胃ろう)
- 第27回：経管栄養法実技試験(2) (経鼻)
- 第28回：経管栄養法実技試験(3) (胃ろう・経鼻)
- 第29回：緊急時の対応の仕方(1)講義およびDVD学習
- 第30回：緊急時の対応の仕方(2)AEDの実際・演習 まとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。
	その他		
	自由記載		受講態度、課題提出、実技試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお、大学評価により60点以上で単位認定とはなるが、厚生労働省の規定により、実技試験の8割以上を合格とする。 各单元ごとに技能修得判定を行う。なお、演習の修了が認められなかったものについては再度演習の課程を受講する必要がある。

【受講の心得】

本講義は実技演習をグループごとで進めていきます。

また、各單元ごとに小テストを実施します。

- ・テキストの授業該当部分を読み復習を行うこと。
- ・確実な実技の修得のため自己学習を行うこと。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。

2. 復習として、課題のレポートを書く。

3. 確実なる実技の修得に向けて練習を重ねること。

大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
使用テキスト	医療的ケア 13	川井太加子	メヂカル フレンド 社	2800円 +税	978-4- 8392- 3140-8
	自由記載 介護福祉士養成テキスト	医療的ケア			
参考書	自由記載				